

国見町 历史文化 基本构想



令和2年3月
福島県国見町

国見町歴史文化基本構想

令和 2 年 3 月

福島県国見町

序

豊かな自然に恵まれた国見町は、古来より交通の要衝にあり、奥州街道・羽州街道と3つの宿場町を中心ににぎわいを見せていました。現在も東北新幹線、J R東北本線、東北自動車道、国道4号が束になって南北に縦断する交通の便に恵まれた地であります。

本町を代表する国指定史跡「阿津賀志山防塁」は、文治5（1189）年の奥州合戦に際し、奥州藤原氏4代泰衡が、源頼朝率いる鎌倉軍を迎え撃つために、長さ約3.2kmにわたり築造した長大な防御施設で、奥州合戦最大の激戦地となりました。藤原氏の滅亡後、この地は鎌倉・室町時代を通じて伊達氏が支配し、江戸時代以降は上杉氏や松平氏などの支配を受け、幕府領として幕末を迎えました。

これまで、歴史を愛する先人たちの取り組みと努力により、町内には数多くの遺跡や建造物などのほか、各地域で古くから伝承されている祭礼など伝統的な活動が多く残されてきました。しかし、平成23年に発生した東日本大震災・東京電力福島第1原子力発電所事故により、人口減少・少子高齢化に拍車がかかり、これらを維持・継承することが困難になりつつありました。このため本町では、震災からの復旧・復興と町の再生に向けて、平成27年に『国見町歴史的風致維持向上計画』を策定し国の認定を受け、7つの歴史的風致を活かしたまちづくりを進めてきました。

更に、町内各地域に残されている歴史文化資源を総合的に調査・分析を行い、歴史・文化の特性や自然・環境から見る特徴などを明らかにするとともに、それらの周辺環境も含め総合的に保存・活用に取り組み、歴史や文化を活かしたまちづくりを進めていくための文化財行政のマスタープランとして、本構想を策定いたしました。

ふるさと国見への愛着と誇りを醸成しながらまちづくりを進めるために、先人たちが連綿と築き上げてきた歴史文化資源は、まちづくりの根幹を成すものと考えております。

今後とも、町民、地域、行政が歴史や文化に対する価値を共有し、手を携えて次代を担う子どもたちに継承していけるよう、歴史や文化を活かしたまちづくりを推進してまいりますので、皆様の一層のご理解とご協力をくださいますようお願い申し上げます。

最後に、本構想の策定にあたりご尽力を賜りました歴史文化基本構想策定委員の皆様、各種調査へご協力を賜りました町民の皆様、そしてご指導を賜りました文化庁、福島県教育委員会など、関係各位に深く感謝申し上げます。

令和2年3月

国見町長 太田 久雄



国見町歴史文化基本構想

目次

序	
例言	
第1章 歴史文化基本構想の策定	
1 策定の背景と目的	7
2 構想の行政上の位置付け	9
3 策定の体制	14
4 策定の経過	15
第2章 国見町の概要	
1 位置と自然環境	18
2 社会環境	22
3 歴史環境	28
4 地域区分	34
第3章 歴史文化資源の把握	
1 歴史文化資源の定義と指定等の文化財の状況	36
2 歴史文化資源の総合的把握の方法	43
3 国見町の歴史文化資源	46
第4章 国見町の歴史文化の特徴	70
第5章 関連文化財群の考え方	
1 関連文化財群設定の方針及び考え方	73
2 国見町の関連文化財群	73
関連文化財群①（地勢と歴史）	
みちのくの交流のまち国見	77
関連文化財群②（風土と生業）	
人々を育み、生活を支えた国見の豊かな風土	88
関連文化財群③（資源と産業）	
太古の大地がもたらした国見の産業史	94
関連文化財群④（信仰）	
地域に根差した村々の祈り	98

第6章 歴史文化保存活用区域の考え方		
1	区域設定の考え方	107
2	国見町の歴史文化保存活用区域	109
第7章 歴史文化資源の保存・活用の基本の方針		
1	保存・活用に関する現状と課題	110
2	保存・活用の基本方針	114
3	保存・活用の具体的な取り組み	119
第8章 保存・活用を推進するための体制整備の方針		
1	住民主体の保存・活用体制の現状と課題	124
2	保存・活用体制の整備の方針	128
資料編 1 歴史文化資源の把握に関する情報源一覧表		
		130
資料編 2 歴史文化資源一覧表		
		134

例 言

- 1 本書は福島県伊達郡国見町が策定した『国見町歴史文化基本構想』及び歴史文化資源の基礎調査成果をまとめた報告書である。
- 2 本構想は、国見町まちづくり交流課が事務局となり、国見町歴史文化基本構想策定委員会（委員長：柳原敏昭）による審議・建議を受け、令和2（2020）年3月2日に策定した。
- 3 本構想の策定事業は、平成30（2018）年度文化遺産総合活用推進事業（歴史文化基本構想策定支援事業）・平成31（2019）年度地域文化財総合活用推進事業（文化財保存活用地域計画等作成）の採択を受けて、文化庁より文化芸術振興費補助金の交付を受けて実施した。
- 4 本構想の策定にかかる業務のうち、歴史文化資源の基礎調査や報告書の編集等に関する補助業務を株式会社グリーンシグマに委託した。
- 5 巻末には、本文の理解を助けるために、歴史文化資源の一覧表を掲載した。策定事業の中で把握することができた資源をまとめたものであり、今後確実に資源が増えていくことを想定した暫定的な一覧表であることをあらかじめご了承ください。
- 6 年号は「和暦（西暦）」にて表記を行った。なお、平成31（2019）年4月1日から令和2（2020）年3月31日の期間を示す年度について、本文では「令和元年度」の表記で統一した。また、既往の計画書や推計書等から平成31（2019）年以降の年号・年度を引用する場合、該当する「令和」の年号・年度を表記した。
- 7 本構想は、公的機関より指定・登録された文化財だけでなく、民話や伝承・食・人・出来事など未指定・未登録の有形・無形の文化財なども含め対象とし、それらを「歴史文化資源」と呼ぶこととする。詳細は第3章1節に明記する。
- 8 本構想で用いる本町の地域区分は、昭和29（1954）年に行われた合併以前の町村を母体とする5地区に大別し、「藤田地区」「小坂地区」「森江野地区」「大木戸地区」「西大枝地区」と呼ぶ。更に細別する必要がある場合には、明治22（1889）年に行われた合併以前の旧16か村の範囲・呼称を用いる。詳細は第2章4節に明記する。

第1章 歴史文化基本構想の策定

1 策定の背景と目的

(1) これまでの文化財保存・活用の取り組み

本町は、奥羽山脈と阿武隈山地に挟まれ、阿武隈川水系により形成された福島盆地の北縁部に位置し、盆地特有の気候と自然が生み出す大地の恵みにより原始・古代から人々の営みが連続と続けられてきた。文治5（1189）年に藤原泰衡^{やすひら}が源頼朝率いる鎌倉軍を迎え撃つため築かせた阿津賀志山防塁^{あつかしやまぼうい}（国指定史跡）や、江戸時代以後にぎわいを見せた奥州街道・羽州街道の宿場、また各地で受け継がれる信仰や祭礼など、往時を偲ばせる遺跡や建造物、この地で培われてきた人々の知恵や文化などが現在でも多数残されている。

本町の文化財保存及び活用に関する活動は、住民を主体として取り組まれてきたことに特徴がある。戦中戦後の開発に伴う文化財の滅失を危惧し、歴史の愛護・保護意識を高めた町民によって、昭和31（1956）年、町内文化財の保護・顕彰を目的とした「国見町文化財保護観光協会」が設立された。この協会の設立により、顕彰活動や文化財保存に向けた活動が行われ、町への働きかけにより、昭和44（1969）年に国見町文化財保護条例が制定された。以後、本町は町の貴重な文化財を積極的に町の文化財に指定し、保存及び活用に努めてきた。翌年の昭和45（1970）年には、町内各地区に文化財保存会が結成され、地域単位での取り組みも始まる。同年、町では町史編さん事業を開始し、多くの住民協力者により歴史文化に関わる膨大な情報が集められた。

上記の活動が広がる中、昭和46（1971）年には、「国見町郷土史研究会」が発足する。

東北自動車道の建設（昭和44〔1969〕～50〔1975〕年）や伊達西部ほ場整備事業（昭和50〔1975〕～60〔1985〕年）に際し、阿津賀志山防塁の開発が計画されると、発掘調査への協力、町や県に対する要望活動、保存運動などが精力的に行われ、昭和56（1981）年に阿津賀志山防塁が国史跡として指定される原動力となった。現在も続く我が郷土に関する調査研究活動は更に深化し、会報として発行する『郷土の研究』は平成31（2019）年3月で第49号を数える。

平成20（2008）年には、国見町郷土史研究会の有志を中心として「国見町文化財ボランティア」が組織され、20人を超える会員が、来町者への文化財案内や町の観光づくり事業への



写真 1-1 阿津賀志山防塁



写真 1-2 文化財保護・顕彰活動
(阿津賀志山防塁石柱建立)



写真 1-3 祭礼の伝承活動
(内谷春日神社太々神楽・子ども神楽教室)



写真 1-4 道の駅国見あつかしの郷

協力など積極的な活動を行っている。

また、近年の行政の取り組みとしては、平成27（2015）年に『国見町歴史的風致維持向上計画』を策定し、国の認定を受けた。「阿津賀志山の合戦と顕彰・教育活動にみる歴史的風致」をはじめとする、町の維持向上すべき7つの歴史的風致を掲げ、この地に住む私たちが、この町の「誇り」を再び取り戻し、その思いを共有できるよう、歴史を活かしたまちづくりに取り組んでいる。この取り組みの一つとして整備した「道の駅国見あつかしの郷」は平成29（2017）年5月にオープンし、まさに現代版の宿駅となり町内外との新たな交流を生み出している。当該施設を本町の歴史文化の情報発信・周遊の拠点として、歴史文化資源の活用を図り、更なる取り組みを推し進めているところである。

（2）策定の背景と必要性

これまで、町の歴史を愛する先人たちの取り組みと努力により、多くの歴史文化資源が守られ、現代に受け継がれてきた。また、『国見町歴史的風致維持向上計画』の策定にかかる取り組みや、策定以降の歴史まちづくり事業の実施により、歴史文化の保存・継承や、「歴史のまち国見」としての町民の意識が向上し、本町が持つ歴史的価値に関する町外への周知・啓蒙は着実に図られてきている。

しかしながら、我々を取り巻く社会環境の変化は、速度を増して進行している。平成23（2011）年に発生した東日本大震災・東京電力福島第1原子力発電所の事故から9年が経過し、本町は復旧・復興から創生へと歩みを進めているが、この震災が変化の加速度に与えた影響は少なくない。価値観や生活の多様化はもとより、人口減少・少子高齢化は本町の喫緊の課題であり、各地域に息づいてきた信仰や祭礼・習慣などを継承・継続することが容易でなくなりつつある。また、『国見町歴史的風致維持向上計画』において掲げた7つの歴史的風致以外に、保存・活用していくべき歴史文化資源について、それらの全体を把握し、価値を理解し、明らかにするところまで至っていないのが現状である。

「歴史のまち国見」として町民の意識が高まり、町外へも根付き始めた今、後世へ伝えていくべき我々の営みや本町の歴史を改めて紐解き、その価値を見直し、よりよい状態で引き継いでいく仕組みづくりが必要となっている。

（3）策定の目的

本構想の策定は、町内に存在する歴史文化資源を総合的に把握し、その価値を顕在化して、本町における歴史文化の特徴を明らかにするとともに、それらの周辺環境も含め総合的に保存・活用していく方針を定めることを目的とする。また、本町の既存上位・関連計画や施策と連携を図り、この地でこれまで培われてきた人々の知恵、文化、歴史を受け継ぎ、未来へ伝えていくための地域づくり、まちづくりに資するものとする。

（4）期待される効果

本構想を策定することにより、以下のような効果が想定される。

- ① 各地域が持つ歴史文化資源を改めて認識し、その価値を理解することにより、町民の文化財保護意識が高まり、郷土への誇りと愛着が生まれる。
- ② 各地域の特性や新たな魅力を見出し、それらを資源として観光や商工業等に活かすことにより、その価値が高まり、町内外の交流が拡大する。
- ③ 地域活動や教育現場、町事業等において本構想を活用し、歴史文化資源の価値について普及を図ることにより、次世代への継承がなされる。

2 構想の行政上の位置付け

(1) 行政上の位置付け

本構想は本町の最上位計画にあたる『第5次国見町振興計画（後期計画）』の基本目標・政策・施策を推進し、まちづくり関連計画となる『国見町まち・ひと・しごと創生総合戦略』の理念や目標を実現するために位置付けられた具体的な取り組みと連動する。また、先に策定された『国見町歴史的風致維持向上計画』及び策定が進む『国見町歴史的景観保存計画』（仮称）と連携し、歴史まちづくり・文化財保護・景観行政を推進する構想であり、文化財保護行政のマスタープランとして位置付けるものである。本構想及び『国見町歴史的風致維持向上計画』の下には、現在『阿津賀志山防塁整備基本計画』を策定して取り組んでおり、今後も必要に応じて事業実施に関わる実施計画を策定する。

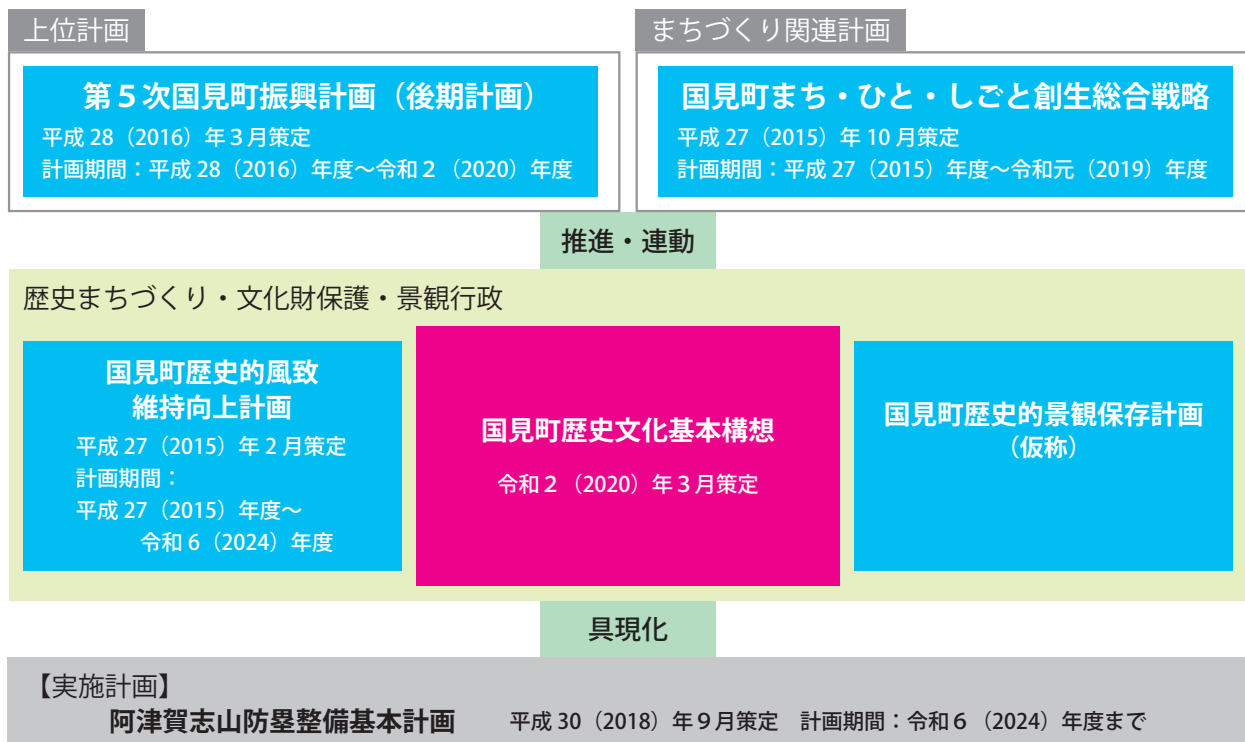


図 1-1 歴史文化基本構想の位置付け

(2) 上位・まちづくり関連計画

『第5次国見町振興計画（後期計画）』

『第5次国見町振興計画（後期計画）』は、本町のまちづくりの基本理念及び将来像を定め、平成28（2016）年度から令和2（2020）年度までの5年間を計画期間とし、平成28（2016）年3月に策定したものである。

本計画は5つの基本目標、3つの政策、30の施策で構成され、このうち、基本目標として「地域の資源を活かし、自然と調和したまち」や「地域の資源を受け継ぎ、心豊かな人を育むまち」などを掲げ、本町の恵まれた自然環境や、国見の風土で醸成された「文化や風習、人柄、自然、食文化、歴史的な建造物」などの地域資源は次世代へ受け継ぐべきものとし、魅力ある居住環境の形成や郷土を支える人材育成をめざすとしている。

以下に、本計画における歴史文化資源の保存と活用に関する主要施策の抜粋を掲載する。

『第5次国見町振興計画（後期計画）』

政策Ⅰ．地域資源を活かしたまち

施策4 地域の資源を活かした魅力ある景観の形成

自然景観事業（耕作放棄地の再生） 地域農業再生協議会と連携し、耕作放棄地解消のための再生への支援を行い、休耕田の活用など農業の多目的機能を維持・発展により、農村の景観形成を図ります。

町並み景観事業（藤田宿・小坂宿・貝田宿） 景観条例の整備により、宿場町であった町並み景観の維持や再現により、国見町らしい町並み景観形成を図ります。

歴史的景観事業（歴史的建造物の保全・整備） 奥山家住宅や旧佐藤家住宅をはじめ、石蔵、養蚕住宅など歴史的価値のある建造物の保全と活用を進め、地域資源の価値の向上を図ります。

施策9 国見町の特産品の開発と振興

地域の食づくり・食の伝承事業 郷土料理や地元食材を活用した料理のレシピづくりを進め、食と生活文化を後世に伝えるとともに、新たな名産品づくりや農産物加工品等の加工施設を整備し、先人から受け継がれた知恵と手わざを活かしたしごとづくりを推進します。

施策10 国見町の資源を活かした観光振興

歴史を活かしたまちづくり推進事業 町内にある数多くの文化財について、保存に留まらず、活用への転換を図り、情緒あふれる良好な景観の形成、環境資源や教育活動の場としての活用など、地域のたからものを磨き上げていきます。

地域資源を活かした観光創出事業 歴史を活かしたツーリズム、農業を活かしたグリーンツーリズム、藤田総合病院と連携したヘルスツーリズムなどの周遊型体験観光プログラムを開発し、また地域間連携により都市農村交流を図ります。

文化観光物産交流事業 近隣市町村や他地域との交流（岐阜県池田町、北海道ニセコ町、岩手県平泉町など）により、人・文化・観光物産の地域間交流の拡大を図ります。

施策11 歴史や文化財の保護と活用

歴史まるごと博物館事業 町全体が博物館、町民一人ひとりが学芸員となり、町民も町外の人たちも国見町の豊かな自然・歴史文化を実感できるエコミュージアムづくりを推進します。

伝統芸能・無形民俗文化財伝承事業 内谷春日神社太々神楽や鹿島神社例大祭をはじめとする伝統芸能・無形民俗文化財の後継者を育成支援し、伝統文化の継承と文化を通じた世代間交流を図ります。

阿津賀志山防塁整備事業 貴重な文化遺産を後世に伝え残していくため、国史跡「阿津賀志山防塁」の史跡整備と保存に向けた取り組みを進め、保護と活用を図ります。

『国見町まち・ひと・しごと創生総合戦略』

『国見町まち・ひと・しごと創生総合戦略』は、本町の人口減少を克服し、地域の活性化を推進する施策・取り組みを進めることを目的とし、平成27（2015）年度から令和元（2019）年度までの5年間を計画期間として、平成27（2015）年10月に策定したものである。

本総合戦略は、4つの基本目標、8つの重点プロジェクト、31の具体的施策で構成されている。基本

目標の1つとして「町の魅力を活かした歴史文化観光・農業観光による地域交流づくり」を掲げ、めざすべき姿を「一度来たら好きになる国見町」と定め、以下4点の推進を目標としている。

- 国見のたからもの（文化や風習、人柄、自然、食文化、歴史的な建造物まで、恵まれた国見の風土から醸成されたもの）の未来への継承
 - 国見町で暮らしていることに誇りを持ち、この町で生活することの豊かさを一人ひとりが感じられるまちづくり
 - 豊かな自然と長い歴史の中で生まれた伝統文化や農業の体験やまち巡りなど着地型観光・滞在型観光「めぐりの町」
 - 国見町に縁のある方、国見町のファンの方など、縁のつながりと人のつながりの拡大
- 以下に、当該基本目標における重点プロジェクトと具体的施策（事業）の抜粋を掲載する。

『国見町まち・ひと・しごと創生総合戦略』

基本目標Ⅱ. 「町の魅力を活かした歴史文化観光・農業観光による地域交流づくり」

歴史まちづくりプロジェクト

①歴史を活かしたまちづくり推進事業

歴史まちづくりの普及啓発と調査研究を進め、歴史的建造物の修繕などの職人学校や伝統的技術の継承・復活に向けた取り組み、子どもから大人までの歴史文化の案内ボランティアガイド講座などの人材育成に組み込み、歴史コンテンツの利活用拡大を図ります。

町内にある数多くの文化財について、「保存」に留まらず、環境整備により「活用」への転換を図り、情緒あふれる良好な景観の形成、観光資源や教育活動の場としての活用など、地域のたからものを磨き上げていきます。

②歴史まるごと博物館事業

町全体が博物館、住民一人ひとりが学芸員となり、地域の住民も町外の人たちも国見町の豊かな自然・歴史文化を実感できるエコミュージアムづくりを推進します。

モデル地区を中心に、文化活動を行う団体、企業、NPO、ボランティア等と連携しながら、歴史文化を学び、村々の祈りや生活文化、現在の産業や人々に触れ、訪問者が地域を巡り体験できるプログラムづくりを進めます。

③伝統芸能・無形民俗文化財伝承事業

内谷春日神社太々神楽をはじめとする伝統芸能の後継者を育成し、伝統文化の継承と文化を通じた世代間交流を図ります。

保護継承団体と連携した映像による記録保存や、体験教室の開催や伝統芸能の披露の機会を増やすなど、地域の子どもたちに自分の住む地域の歴史や祭礼、伝統芸能に関わる機会を創出します。

④歴まちあるきガイドアプリ事業

ICTの活用により、まちあるきのコンテンツを製作し、今と昔の国見町を伝え、1000年のまちの情報発信を図ります。

国見町の魅力を十分に体感してもらうために、ガイドブックに加え、モバイル機器を活用した周遊観光の実現に向けて、子どもからお年寄りまで楽しめる周遊コースの設定と観光客向けWi-Fiなどの環境整備を進めていきます。

体験観光プロジェクト

①地域資源を活かした観光創出事業

旅行会社とのタイアップにより、歴まちを活かした歴史ツーリズム、農業を活かしたグリーンツーリズム、藤田総合病院と連携したヘルスツーリズムなどによる体験型観光プログラムを実施し、都市農村交流を図ります。

歴史的建造物や石造建築物、史跡などの町の歴史文化を情報発信するガイダンス施設や機能の充実、果樹ガーデンや野菜ガーデンなどの農業体験施設の整備など、見て、触れて、感じることができる観光を創出していきます。

周遊観光バスや電気自動車等の導入により、観光客の利便性を向上し、まちあるき観光を推進していきます。

(3) 歴史まちづくりに関する計画

『国見町歴史的風致維持向上計画』

『国見町歴史的風致維持向上計画』は、歴史を活かしたまちづくりを推進し、国見町固有の歴史的風致の維持及び向上を図るため、平成27(2015)年度から令和6(2024)年度までの10年間を計画期間として策定し、平成27(2015)年2月に国の認定を受けたものである。

前述の上位計画に基づき施策の推進を図ることで、この地に住む私たちが、この町の「誇り」を再び取り戻し、私たちがその思いを共有できるような「まちづくり」に資するものとしている。

本計画では、7つの維持向上すべき歴史的風致を設定し、維持向上に関する方針を定めている。

また、歴史的風致の継続的な維持向上に向けて、文化財の保存・活用の方針と重点区域の設定、区域内での歴史的風致維持向上施設の整備に関する事業と全町的な保存・活用に関わるソフト事業について定めたものである。

表 1-1 国見町の維持向上すべき歴史的風致

1.	阿津賀志山の合戦と顕彰・教育活動にみる歴史的風致
2.	旧奥州街道藤田宿における歴史的風致
	(1) 旧藤田宿の町並み
	(2) 鹿島神社例大祭にみる歴史的風致
(3)	在郷町の市にみる歴史的風致
3.	旧奥州街道貝田宿にみる歴史的風致
4.	石蔵と石工技術にみる歴史的風致
5.	光明寺集落の水利用にかかわる歴史的風致
6.	内谷春日神社の祭礼にみる歴史的風致
7.	鳥取福源寺観音講にみる歴史的風致

表 1-2 国見町の歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

1 阿津賀志山防塁の保存・活用に関する事業	5 歴史的風致に対する意識向上と情報発信に関する事業
(1) 阿津賀志山防塁史跡整備事業	(9) 国見町歴史文化読本作成事業
(2) 阿津賀志山防塁史跡アクセス道改修事業	(10) 歴史を活かしたまちづくり推進事業
(3) 阿津賀志山防塁歴史公園整備事業	(11) 情報発信拠点整備事業
2 伝統を反映した人々の活動に関する事業	(12) 文化財保存ガイダンス施設整備事業
(4) 無形民俗文化財活動支援事業	(13) 案内ボランティア育成事業
3 歴史的建造物に関する事業	(14) 周遊性向上検討・案内板設置事業
(5) 歴史的町並み調査事業	6 歴史文化遺産の総合的な把握に関する事業
(6) 国見石保存・活用調査事業	(15) 地域の文化遺産の総合的な把握のための調査事業
4 歴史的建造物・遺産を取り巻く環境に関する事業	
(7) 町道美装化・無電柱化整備事業	
(8) 奥山家住宅周辺公園整備事業	

国見町の維持向上すべき歴史的風致

計画期間
平成27年度(2015)～平成36年度(2024)

国見町は、古代より陸上・河川交通の要衝であり、複数の峠が存在する境界の地でもありました。この地勢的特徴を反映し、遠藤朝と奥州藤原氏の勢力の激戦が文治5年(1189)に戦いを繰り広げた古戦場の「阿津賀志山防壁」(国史跡)が現在に守り伝えられています。また、江戸時代以降の町場が所在し、かつての資源産業の隆盛を反映した農村集落とともに歴史的景観を形成しています。豊かな自然と一体となった伝統的な祭礼や信仰・生業に伴う活動が継かれ、国見町独自の建造物や営みが地域の人々により継々と受け継がれていることで、本町独自の歴史的風致が醸し出されています。

① 阿津賀志山の合戦と 顕彰・教育活動にみる歴史的風致

阿津賀志山とともに本町のシンボルである「阿津賀志山防壁」は、合戦が行われてから800年経ち、人々により守られてきました。現在も顕彰・教育活動が行われ、町民が共有する誇りと町の歴史性を感じる場所となっています。

■ 顕彰・教育活動(案内活動)

② 旧奥州街道藤田宿における歴史的風致

旧藤田宿では、山車と神輿が数多くぶつかる、もみ合いを特徴とする「鹿嶋神社大祭」と、江戸時代に行われた六両市の名残をとどめる「農業市」「だるま市」が現在も行われています。町並みの歴史と伝統を反映した活動が多くの人々により受け継がれています。

■ 鹿嶋神社大祭(みみい) ■ 農業市 ■ 観音堂 ■ 秋葉神社例大祭

③ 旧奥州街道貝田宿にみる歴史的風致

宿場の名残と明治・大正期の歴史を色濃く町並みに残す貝田宿では、祭礼や鹿嶋寺の観音講などが貝田の歴史を反映し、人々の絆を深める活動として行われています。

■ 観音堂 ■ 秋葉神社例大祭

④ 石蔵と石工技術にみる歴史的風致

国見石が産出する本町の特徴的な産業である石材業は、大正・昭和の歴史的な石蔵とともに守られています。石工技術により町内一円に建築された石蔵が、本町を特徴づける固有の景観となり残されています。

■ 現在も使われている石材加工工場

⑤ 光明寺集落の水利利用にかかわる歴史的風致

光明寺集落では、清らかな湧水が伝統的な水利利用と信仰に結びついています。湧水と信仰に伴う活動により清浄な空間が作り出され、現在も歴史的な寺社が残る聖域を形成しています。

■ 湧水を利用した水場

⑥ 内谷春日神社の祭礼にみる歴史的風致

内谷春日神社では、祭礼で奉納される太々神楽が明治15年(1882)より地区の人々の協力により継承されています。社に響く太鼓と笛の音色が、地区の伝統芸能と祭礼のにぎわいを伝えています。

■ 内谷春日神社太々神楽

⑦ 鳥取福源寺観音講にみる歴史的風致

鳥取集落では、福源寺地蔵観音堂を観音講の人々が守り、巡礼者へのもてなしや法会が行われています。観音信仰が地域に根付き、鳥取集落の人々により活動が継がれてきています。

■ 福源寺観音堂の天舟祭

国見町の重点区域における事業概要

重点区域の名称 国見町歴史的風致維持向上区域
重点区域の面積 1,115ha

【国見町全域】

- 国見町歴史文化読本作成事業
- 周遊性向上検討・案内板設置事業
- 案内ボランティア育成事業
- 地域の文化遺産の総合的な把握のための調査事業
- 歴史を活かしたまちづくり推進事業
- 国見石保存・活用調査事業
- 無形民俗文化財活動支援事業

阿津賀志山防壁史跡整備事業

- 阿津賀志山防壁史跡アクセス道改修事業
- 阿津賀志山防壁歴史公園整備事業

文化財保存ガイドンス施設整備事業

- 町道美化・無電柱化整備事業
- 奥山家住宅周辺公園整備事業
- 情報発信拠点整備事業

○情報発信拠点整備事業

来町する人々が、歴史文化遺産に関する情報を容易に入手できる、エンタランスの機能をもつ「鎮の駅」の整備を行う。

● 10/9オープン「鎮の駅」国見まつりの駅

○案内ボランティア育成事業

町の歴史や人々の伝統的な活動や町並みと現在の国見町について語ることができる人材の育成を図る。

● 案内ボランティアの様子

○無形民俗文化財活動支援事業

祭礼や神楽等の伝統芸能の活動内容の把握と映像による記録作成など、写真調査とともに、用具の修繕や活動の支援を行う。

● 内谷春日神社太々神楽

○阿津賀志山防壁史跡整備事業

阿津賀志山防壁の発掘調査・史跡の復原整備とともに、下二重堀・国道4号北側地区周辺に便益施設・ガイドンス施設を行う歴史公園の整備、アクセス性向上のため町道改良を行う。

● 駐車場・遊歩道の整備(イメージ)

○歴史を活かしたまちづくり推進事業

歴史を活かしたまちづくりや町並み・景観の維持・向上に関して住民向けの講演会、ワークショップ、シンポジウムを開催する。

● 歴史まちづくりワークショップ

○地域の文化遺産の総合的な把握のための調査事業

本町における多様な文化遺産の総合的な把握に向けて、基礎的な調査・研究による情報の蓄積を行い、「歴史文化基本構想」の策定を目指す。

● 調査活動各調査員の様子

○周遊性向上検討・案内板設置事業

来町する観光客が、本町の点在する文化財を効率よく、かつ楽しみながら観光できるより良いレートを検討するとともに、周遊案内板の設置を行う。

● 周遊マップの作成

● 周遊ツアーの実施

図 1-2 国見町歴史的風致維持向上計画の概要

3 策定の体制

(1) 策定の体制

本構想の策定にあたり、有識者からなる「国見町歴史文化基本構想策定委員会」（以下「策定委員会」という。）を設置した。

また、策定委員会と並行して、「歴史まちづくり庁内検討委員会」（歴史まちづくりプロジェクトチーム、以下「庁内検討委員会」という。）において、庁内検討を行った。

策定委員会と庁内検討委員会は、いずれも事務局をまちづくり交流課歴史まちづくり推進室に置くこととした。

① 歴史文化基本構想策定委員会

本構想の策定においては、歴史文化資源の把握や関連文化財群の設定等に関して可能な限り多くの専門分野から広く意見を求める必要があり、また、今後の保存・活用の考え方やそのための体制整備に関する指導・助言を得るため、文化財・景観・文化行政に精通した学識経験者や郷土史・祭礼に関する地元識者・歴史的建造物所有者、行政関係機関で構成される策定委員会を設置した。

なお、策定委員は国見町歴史的風致維持向上計画との関連性と一貫性のある検討の必要性を考慮し、国見町歴史的風致維持向上計画協議会委員を兼務する形とした。

表 1-3 「国見町歴史文化基本構想策定委員会」の構成

	No.	氏名	分野	所属	備考
学識経験者	1	柳原 敏昭	歴史科学・日本史学	東北大学大学院文学研究科教授	◎委員長
	2	杉本 洋文	建築学・都市計画・建築計画	東海大学工学部特任教授	○副委員長
	3	羽生 修二	西洋建築	東海大学名誉教授	
	4	若林 繁	仏像・美術史	元東京家政大学教授	
	5	平井 太郎	地域社会学	弘前大学大学院准教授	
	6	知野 泰明	土木史・景観工学	日本大学工学部准教授	
	7	懸田 弘訓	民俗芸能	元福島県文化財保護審議会副会長	
	8	仲田 茂司	考古学・造園	有限会社仲田種苗園代表取締役	
歴史的建造物 識者・所有者	9	齋藤 隆夫	歴史的建造物の保存・修復	福島県建築安全機構専務理事	
	10	奥山 トキ子	国登録文化財所有者	奥山合名会社代表社員	
郷土史・民俗に 関する地元識者	11	中村 洋平	郷土史	国見町郷土史研究会会長	
	12	黒田 加津臣	無形民俗文化財保存団体	国見伝統文化保存会会長	
	13	佐藤 清二	無形民俗文化財保存団体	春日神社太々神楽保存会会長	
行政	14	青木 隆直	行政・まちづくり	福島県土木部まちづくり推進課長	
	15	鈴木 俊明	行政・文化財保護	福島県教育庁文化財課長	
	16	外川 泰司	行政・建築・都市整備	福島県県北建設事務所 主幹兼企画管理部長	
	17	佐藤 弘利	行政	国見町副町長	

② 歴史まちづくり庁内検討委員会

(歴史まちづくりプロジェクトチーム)

庁内関係各課が持つ関連計画や現在進行中の取り組みの中から歴史文化資源や関連文化財群の設定に有用な情報を収集し、歴史まちづくりに向けた事業の連携を検討するため、国見町歴史的風致維持向上計画の進行管理を行う庁内検討委員会において、本構想の策定に向けた検討と情報共有を行った。

表1-4 「歴史まちづくり庁内検討委員会(歴史まちづくりプロジェクトチーム)」の構成

所属
まちづくり交流課
企画情報課
建設課

4 策定の経過

5か年の策定期間中、最初の2年間は歴史的建造物悉皆調査を実施、3年目は策定に必要な基礎資料作成を行い、文献調査・アンケート方式による情報収集によって歴史文化資源の把握を進めた。4年目からは計画策定の実作業を進め、計画素案については、策定委員会を4回、庁内検討委員会を5回開催し、内容の検討・精査を行った。また、策定作業と並行して、町民向けの講演会の開催や、町民・各種団体への聞き取り調査・意見交換等を行い、歴史文化資源の所在・実態等に関する情報の充実を図った。

(1) 平成27(2015)年度、平成28(2016)年度

① 調査

町内全地区に現存する社寺建築及び民家・近代建築・近代化遺産(以下「民家等」という。)のうち建築後50年を経たもの等を対象とし、歴史的建造物悉皆調査を実施した。外観からの目視、聞き取りにより、物件の所在、建築年代、構造形式等を記録し、伝統的形式を持つ社寺74件(209棟)、本町特有の石造建築物や産業発展の歴史につながる地域の特色が現れている民家等1,207件(1,963棟)について第一次調査台帳として整理することで、保存と活用を図る必要がある建造物の把握を行った。

また、地域の歴史文化資源の総合的な把握を行うため、平成28(2016)年度から平成30(2018)年度の3年間、計60回にわたり、長年本町の歴史資料の研究・収集に努めてきた菊池利雄氏から聞き取り調査を実施し、資料の把握作業を行った。

② 講演会

平成27(2015)年度に行った歴史的建造物悉皆調査の成果について、住民への周知を図るため、平成27(2015)年8月30日に「国見町寺社建造物調査中間報告会『国見町の社寺や堂について』」を開催した。同報告会では、調査の委託業者である株式会社グリーンシグマの山崎完一氏が、本町固有の特徴ある社寺建築物について、「住んでいる人は、普段見慣れているので何とも感じないかもしれないが、外から来た者にとって



写真 1-5 建造物悉皆調査



写真 1-6 菊池利雄氏聞き取り調査



写真 1-7 平成27(2015)年度講演会

は大変珍しいものである。」また、一連の歴史的建造物調査について、「文化財という敷居が高いと思われがちだが、あるものを再発見する『お宝さがしプロジェクト』である。」と講演した。来場者からも講演で取り上げた神社に関するエピソードの紹介や今後の調査に期待する等の意見が出された。

(2) 平成 29 (2017) 年度

① 調査

本構想の策定に必要な基礎資料作成として、本町の歴史文化について記述された重要な文献 98 点（国見町史、郷土誌、文化財調査報告書等）及び関連資料の調査を実施し、歴史文化資源情報の抽出を行った。また、地域に潜在している歴史文化資源を把握するため、一般世帯（町内全戸）に対し、アンケート方式による歴史文化資源の情報収集を実施した。

調査で得られた歴史文化資源 5,424 件は一覧表として分類ごとに整理・精査し、この中から地域にとって重要視すべきもの、特徴的なものについて選択し、文化財カルテ 709 件を作成した。また、カルテに記載された文化財を分類別に図示した文化財分布図を作成した。

② 講演会

歴史文化基本構想の策定に向け、住民への周知及び町の歴史文化資源に対する意識の向上を図るため、平成 29 (2017) 年 10 月 14 日に「地域の文化遺産を活かした歴史まちづくりに向けて～あまり知られていないけれども、実はすごい国見の話」と題し、第 9 回国見町歴史まちづくりシンポジウムを開催した。

これまで町が調査をしてきた歴史的建造物や伝統文化、自然や暮らしについて講演を行うとともに、本町が持つ地域資源を再発見し、「歴史文化基本構想」への住民の関わり方等についてディスカッションを行った。文化財をはじめとした地域資源や町の取り組みについて周知が図られ、歴史を活かしたまちづくりへの住民意識向上と合意形成が推進された。



写真 1-8 平成 29 (2017) 年度講演会

表 1-5 平成 29 (2017) 年度講演会
講師等

氏名 (所属等)
結城登美雄氏 (民俗研究家)
平井太郎氏 (弘前大学大学院地域社会研究科准教授)
村上佳代氏 (文化庁文化財調査官)
梅嶋修氏 (株式会社グリーンシグマ)

(3) 平成 30 (2018) 年度

① 策定委員会

・第 1 回策定委員会

国見町歴史文化基本構想策定委員会として 17 名の委員を選定し、平成 30 (2018) 年 4 月 1 日に設置した。同年 5 月 25 日に第 1 回策定委員会を開催し、委嘱状交付、事業趣旨及び年次計画、これまでの事業成果、平成 30 (2018) 年度の取り組みについて報告を行い、ストーリー（素案）に関する意見交換を行った。

委員からは、ストーリーの精査をはじめ、明治の産業・養蚕を裏付ける器具・用具等に関する所在確認や保存の必要性等が指摘された。

・第 2 回策定委員会

平成 31 (2019) 年 2 月 19 日に第 2 回策定委員会を開催し、計画策定の進捗状況を報告するとともに、構想の骨子案について検討を行った。



写真 1-9 第 1 回策定委員会

第5章の各関連文化財群（ストーリー）の内容については、ワークショップ形式による意見交換を行い、委員からは、各ストーリーの方向性や表現の仕方、肉付けすべきエピソード等について意見が出された。

② 調査

平成29（2017）年度に実施した情報収集の補足に加え、関連文化財群の設定、歴史文化資源の保存・活用の方針を検討する材料として、町内聞き取り調査を計12回実施した。文献から得られない情報を収集するとともに、既知の歴史文化資源を含めた記録（写真・動画撮影等）の実施を含むものとした。個人及び団体への聞き取り調査のほか、11月30日には町民ワークショップ「歴史文化基本構想の策定に向けて～後世に伝えたい、残したい、私たちの営み～」を実施し、グループワークによる情報の収集と普及啓発を行った。



写真 1-10 聞き取り調査の様子
（平成30〔2018〕年度）

（4）令和元（2019）年度

① 策定委員会

・第3回策定委員会

令和元（2019）年11月1日に第3回策定委員会を開催し、文化庁協議等の経過報告と骨子案の内容についての修正検討に関する意見交換を行った。

委員からは、関連文化財群（ストーリー）に関する考え方における具体的な保存・活用に関する方針と体制について指摘された。

・第4回策定委員会

令和元（2019）年12月25日に第4回策定委員会を開催し、パブリックコメント等の経過報告と骨子案の内容についての修正検討に関する意見交換を行った。

委員からは、正確でわかりやすい文章表現・図表への修正、誤字脱字について指摘された。なお、会議終了後、本構想について策定委員会委員長より町長に建議が行われた。



写真 1-11 町民ワークショップの様子
（平成30〔2018〕年度）



写真 1-12 聞き取り調査の様子
（令和元〔2019〕年度）

② 調査

これまでの調査を補完する目的で、歴史文化資源に関する補足調査を3回実施し、構想に反映させた。

③ パブリックコメント

国見町歴史文化基本構想（骨子案）に対する意見や情報を町民等から募集するために、パブリックコメントを実施した。

本構想（骨子案）の公表は国見町まちづくり交流課・町ホームページ等で行い、意見の募集期間は令和元（2019）年11月25日から12月9日までとした。

期間中、本構想（骨子案）の記載内容に寄せられた意見については、町の考え方について回答を整理し、本構想（骨子案）の公表と同じ方法で公開を行った。

第2章 国見町の概要

1 位置と自然環境

(1) 位置

本町は、福島県の中通り地方の北端に位置し、町域は東西9.5km、南北7.4kmで、面積は37.95km²となっている。北は宮城県白石市、東は阿武隈川を挟んで伊達市、南は桑折町と隣接する。県都福島市までは約16.5kmの距離にあり、仙台市、山形市、郡山市にはそれぞれ60km圏内である。町内に残る「大木戸」の地名が示すように、白河関と並び、陸奥国を貫く東山道（奥大道）の関門の地として重要な役割を果たしてきた。現在も東北新幹線、JR東北本線、東北自動車道、国道4号などが縦走り、交通の要衝となっている。

(2) 地勢

本町は、奥羽山脈と阿武隈山地に挟まれ阿武隈川水系により形成された福島盆地（信達盆地）の北縁部に位置し、白河から福島にかけて盆地が連なる中通り地方の北端を形成している。

町の北部には標高600～700mの山塊が連なり、南には阿武隈川が流れる。その間には、山麓付近の丘陵地形、標高60～70mの台地状の平坦面、阿武隈川沿いの下位段丘には自然堤防による微高地の多様な地形が広がる。それらの地形を縦貫するように、阿武隈川に向かって小河川が流れ、流路には小さな谷の地形や河岸段丘が形成されている。

阿津賀志山から町北東部の貝田地区周辺にかけては、山々が東西両側から迫り、広々とした平野部から僅かな平地地形へと転換する。

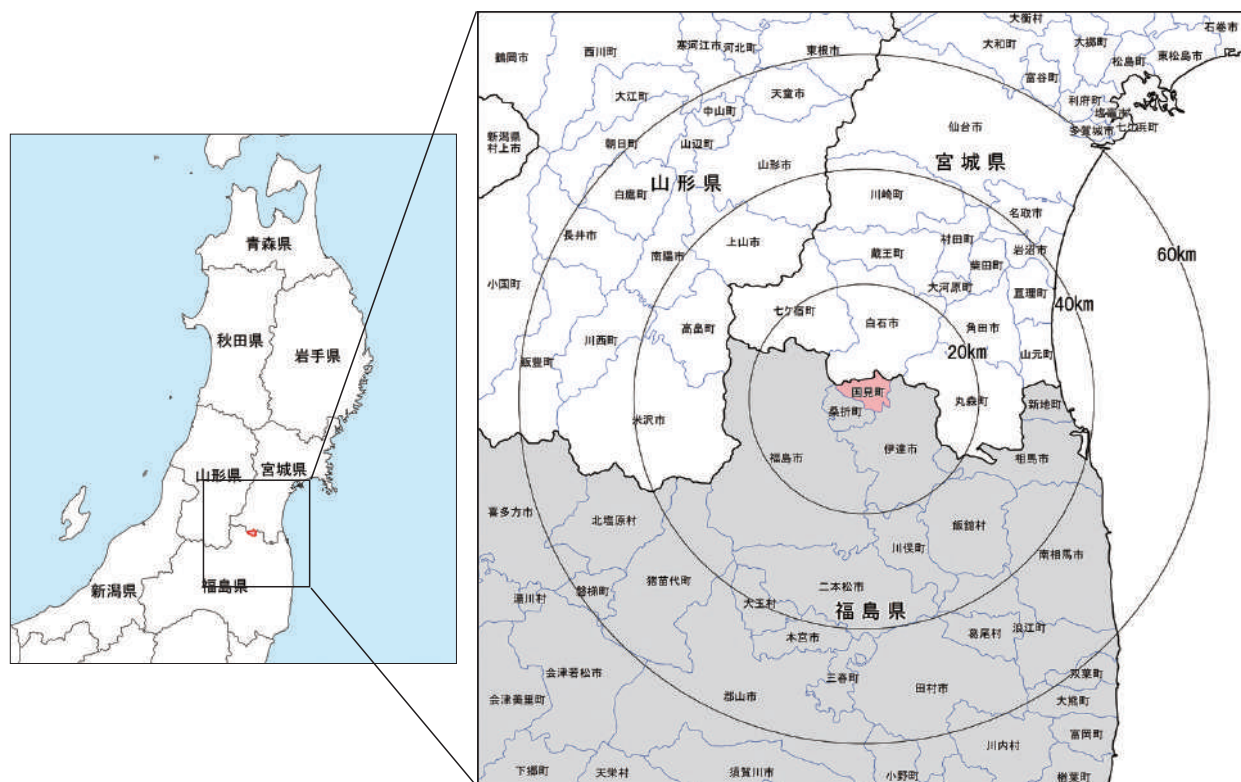


図 2-1 国見町の位置

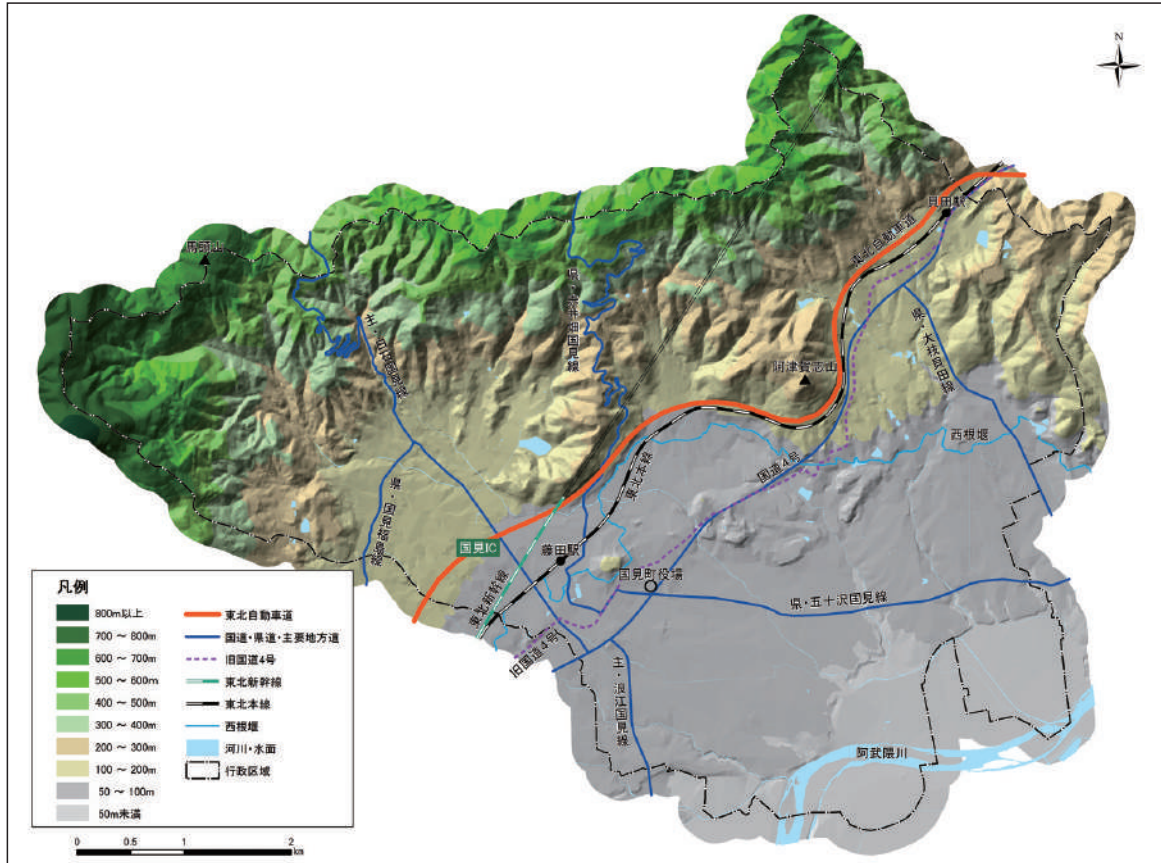


図 2-2 国見町地勢図

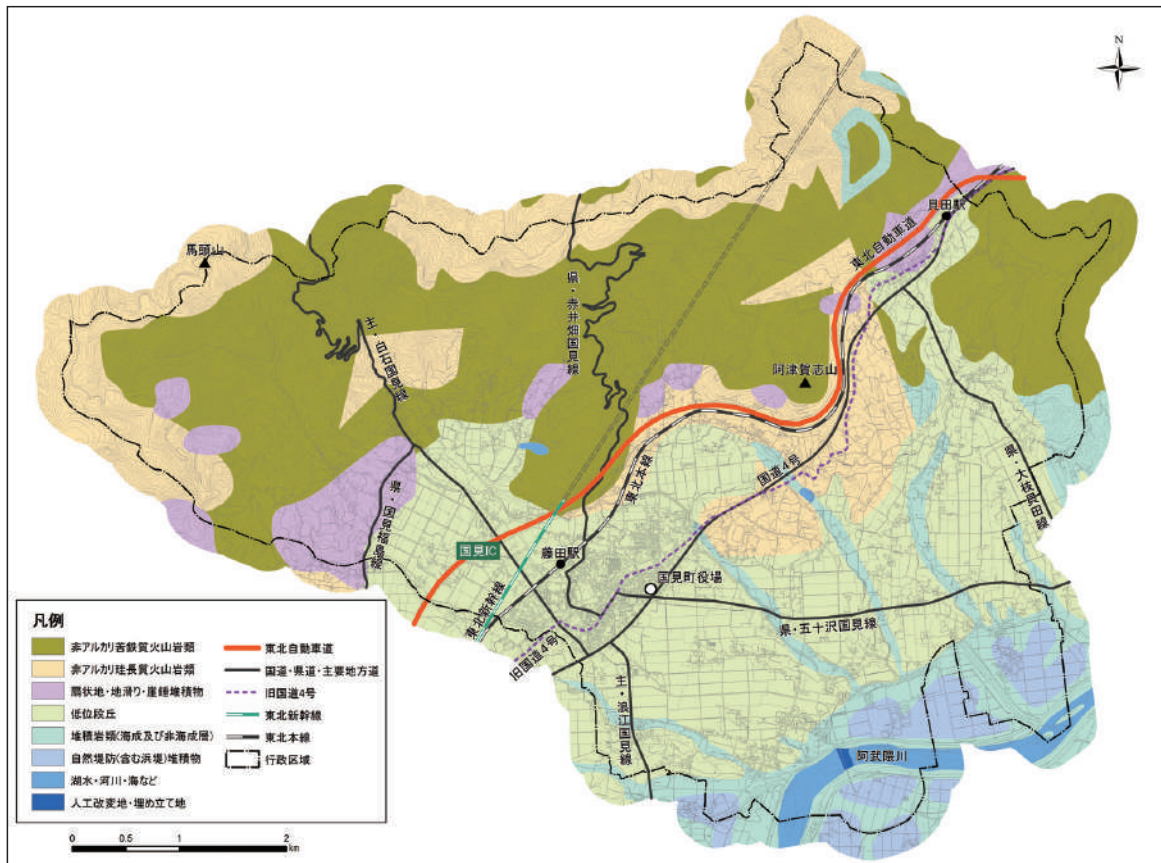


図 2-3 国見町地質図

本町内に位置する。

上記の自然水系のほか、町内には福島市北部から桑折町・国見町を経て伊達市に至る農業用水路の西根堰が流れる。江戸時代初期に掘削されたもので、現在も維持管理が行われ本町の農業を支えている。

(5) 気候

東西に広い福島県は、会津地方、中通り地方、浜通り地方に区分され、気候も異なる。会津地方は寒さが厳しく豪雪地帯となるが、浜通り地方は冬でも雪はあまり降らず比較的暖かい。中通り地方は南北に長いため、地域により寒暖差があり阿武隈川の西に位置する地区は雪が降りやすい。

本町は中通り地方の最北端に位置し、内陸性気候の特徴が混じった太平洋側気候である。年間平均気温は13.4℃で、7月から8月の夏期は、最高気温37℃前後まで上がり、湿

表 2-1 年間平均気温 (単位:℃)

年間積算雨量 (単位:mm)

【出典:国見町気象観測システム】

年	平均気温	積算雨量
平成 26 (2014) 年	12.7	1275.5
平成 27 (2015) 年	13.7	865.0
平成 28 (2016) 年	13.8	853.5
平成 29 (2017) 年	13.0	853.5
平成 30 (2018) 年	13.9	657.0
平均	13.4	900.9

月	平均気温	平均最高気温	平均最低気温
1月	1.7	11.9	-6.1
2月	2.3	15.3	-5.8
3月	6.3	21.9	-3.8
4月	12.3	27.9	0.4
5月	18.3	32.4	6.3
6月	20.9	33.2	11.5
7月	25.4	37.1	17.3
8月	24.9	37.5	15.9
9月	20.8	32.8	11.4
10月	15.2	28.2	4.6
11月	9.2	21.7	-1.7
12月	4.0	16.0	-4.7

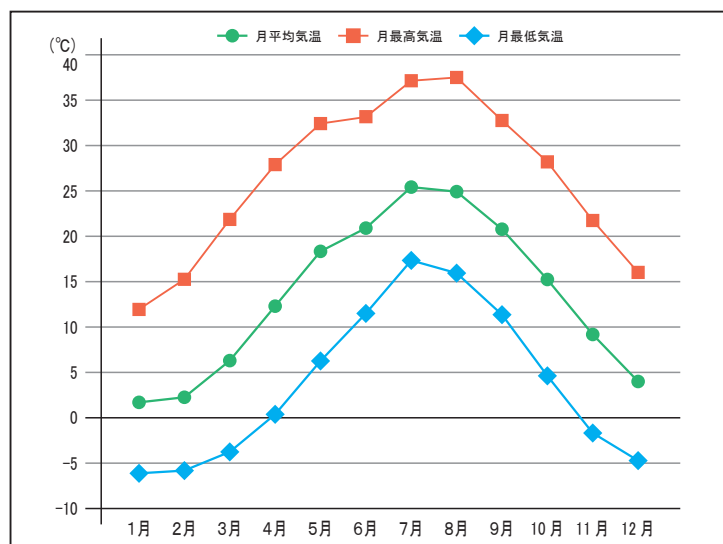


表 2-2・図 2-5 月別平均気温・平均最高気温・平均最低気温 (単位:℃) 【出典:国見町気象観測システム】

月	平均最大雨量	平均積算雨量
1月	18.8	41.0
2月	13.5	25.2
3月	17.8	67.8
4月	26.5	72.6
5月	21.4	50.0
6月	36.0	85.2
7月	33.4	92.3
8月	48.9	171.8
9月	36.4	133.3
10月	33.1	89.4
11月	16.3	42.1
12月	15.6	44.7

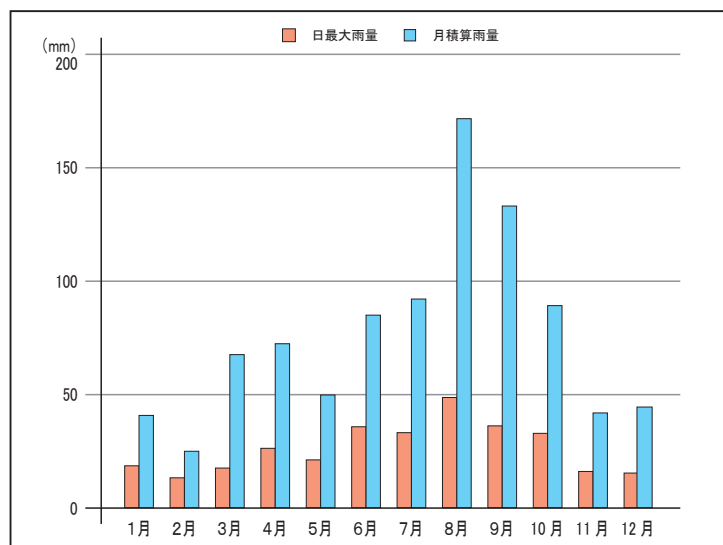


表 2-3・図 2-6 月別平均降水量・平均積算雨量 (単位:mm) 【出典:国見町気象観測システム】

※統計期間は平成 26 (2014) 年~平成 30 (2018) 年とする。

度も高く盆地特有の蒸し暑さが続く。一方で、12月から2月には氷点下6℃前後まで気温が下がり、降雪も中通り南部と比べると多いほうである。年間降雨量は900mm程度で少ない。

(6) 植物

福島県の森林区は大きく、①海岸平野の浜通り低地、②阿武隈山地、③阿武隈川流域の中通り低地、④奥羽山脈（奥羽中央分水山地）、⑤会津盆地、⑥会津山地の6つに分けられ、本町は③及び④の低地帯～山地帯（標高約600～700m）に属する。

本町の大半が属する中通り低地は、本来、土壌が排水の良い砂礫質で、気候が降水量の少ない内陸性気候であるため、乾燥した貧栄養土で占められており、アカマツ林が発達した。アカマツ林は阿武隈川流域の沖積平野の代表的な自然林と考えられるが、現在、その占有面積は少なく、農耕地（特に果樹園）に利用されている。また、奥羽山脈の山地帯では、気候的な極相として日本海側のチシマザサ型のブナ林、地形的な極相としてヒノキ等の針葉樹林が発達した。現在は山地帯まで人為的な活動による影響を受け、ブナ林の伐採が進んだ跡地は雑木林や植林地となっており、スギ・アカマツ（国見町の木）・カラマツなどが発達している。

名木には、樹齢が500年を超えるとされる深山神社の大榎^{かや}大藤があり、町の天然記念物に指定されている。榎・藤は、この地方では山野に自生したり、観賞用に庭樹として植栽されているが、榎の老木群生地は少なくなってきた。また、「福島県緑の文化財」として、「お寺のイチョウ」（石母田龍雲寺）「観月台の大スギ」「国見神社の森」「深山神社の大カヤ」「深山神社の大フジ」の名称で5件が登録されている。

(7) 動物

山間部の自然性が比較的高い地域では、ニホンカモシカ（国特別天然記念物）、ツキノワグマなどの大型ほ乳類やニホンザルなどが生息し、モリアオガエルなどの両生類も確認されている。

田畑や雑木林、人工林などが立地環境に応じて混在する里地・里山の地域から都市部、河川・湖沼にかけては、冬季に飛来するカモ・ハクチョウ類などの渡り鳥が特徴的な鳥類であるほか、ウゲイス（国見町の鳥）・カワセミ・カッコウ・コサギなどが生息している。

町内には、鳥獣保護区「阿津賀志山」（56ha）が設定され、身近な鳥獣の生息域を守る取り組みがなされている一方、ツキノワグマ・ニホンザル・イノシシ等の野生鳥獣による食害などの被害も深刻となっており、多様な生態系を維持するための取り組みも行われている。

2 社会環境

(1) 人口・世帯数

本町の人口は平成27（2015）年10月1日時点で9,512人となっている。昭和60（1985）年以後人口は減少を続け、30年間で2,498人が減少するとともに、1万人を下回ることとなった。世帯数は同じ期間で418世帯増加しており、1世帯あたり平均で4.2人から2.9人に減少し、核家族化の傾向が顕著となっている。年齢階層別人口では、15歳未満の年少人口は平成27（2015）年で10.0%、昭和60（1985）年と比較すると約半分となり、年齢65歳以上の老年人口は倍増しており、少子高齢化が深刻な問題となっている。

また、平成27（2015）年に策定した『国見町人口ビジョン』によると、毎年約120人程度減少し、令和22（2040）年には約6,300人になると予測されている。このような人口の減少と急速な少子高齢

化は、福祉や医療のみならず、生活文化の継承にも深刻な影響を及ぼすものと想定される。

表 2-4 地区別地域・人口及び世帯（単位：人・世帯）

【出典：国勢調査】

年次	世帯数	人口総数	小坂		藤田		森江野		大木戸		西大枝	
			世帯	人口	世帯	人口	世帯	人口	世帯	人口	世帯	人口
昭和 55 年	2,803	12,050	434	1,840	1,291	5,183	513	2,419	373	1,745	192	863
昭和 60 年	2,873	12,010	443	1,855	1,364	5,294	506	2,336	369	1,657	191	868
平成 2 年	2,944	11,888	449	1,822	1,416	5,190	520	2,409	367	1,614	192	853
平成 7 年	3,103	11,736	479	1,817	1,566	5,439	514	2,190	359	1,491	185	799
平成 12 年	3,141	11,198	487	1,789	1,620	5,317	501	1,999	353	1,362	180	731
平成 17 年	3,212	10,692	569	1,903	1,606	4,910	508	1,891	351	1,302	178	686
平成 22 年	3,204	10,086	622	1,933	1,670	4,911	396	1,420	336	1,181	180	641
平成 27 年	3,291	9,512	616	1,902	1,695	4,606	475	1,369	332	1,067	173	568

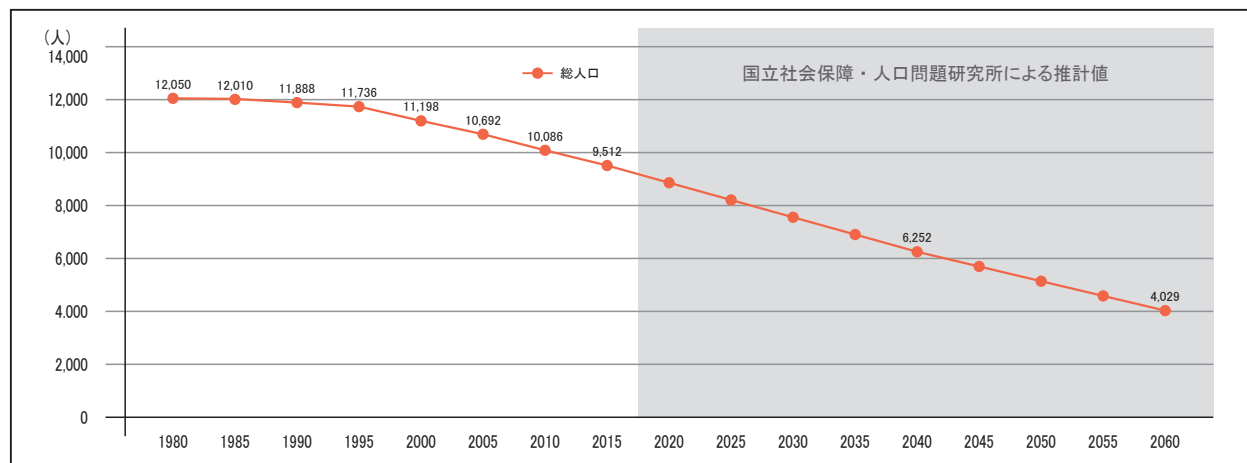


図 2-7 国見町の総人口の推移（単位：人）

【出典：国見町人口ビジョン】

年次	0~14 歳		15~64 歳		65 歳以上	
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比
昭和 55 年	2,642	21.9	7,834	65.0	1,574	13.1
昭和 60 年	2,531	21.1	7,724	64.3	1,755	14.6
平成 2 年	2,167	18.2	7,656	64.4	2,065	17.4
平成 7 年	1,795	15.3	7,497	63.9	2,444	20.8
平成 12 年	1,534	13.7	6,978	62.3	2,686	24.0
平成 17 年	1,344	12.6	6,451	61.2	2,807	26.3
平成 22 年	1,181	11.7	5,853	58.0	3,052	30.3
平成 27 年	953	10.0	5,117	53.9	3,425	36.1

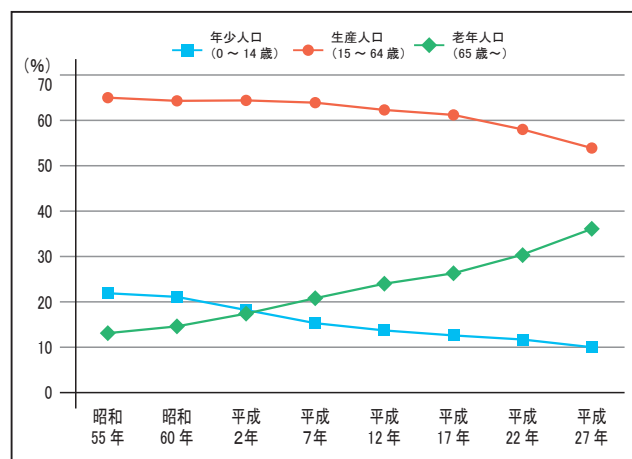


表 2-5・図 2-8 年齢別人口の推移（単位：人・%）

【出典：国勢調査】

(2) 交通

本町は、古代から陸上交通の要衝となってきた。現在も東北新幹線、JR 東北本線、東北自動車道、国道 4 号が折り重なるように南北に縦断し、宮城県七ヶ宿町へ抜ける主要地方道白石国見線が東西に横断している。



図 2-9 国見町の主な交通網

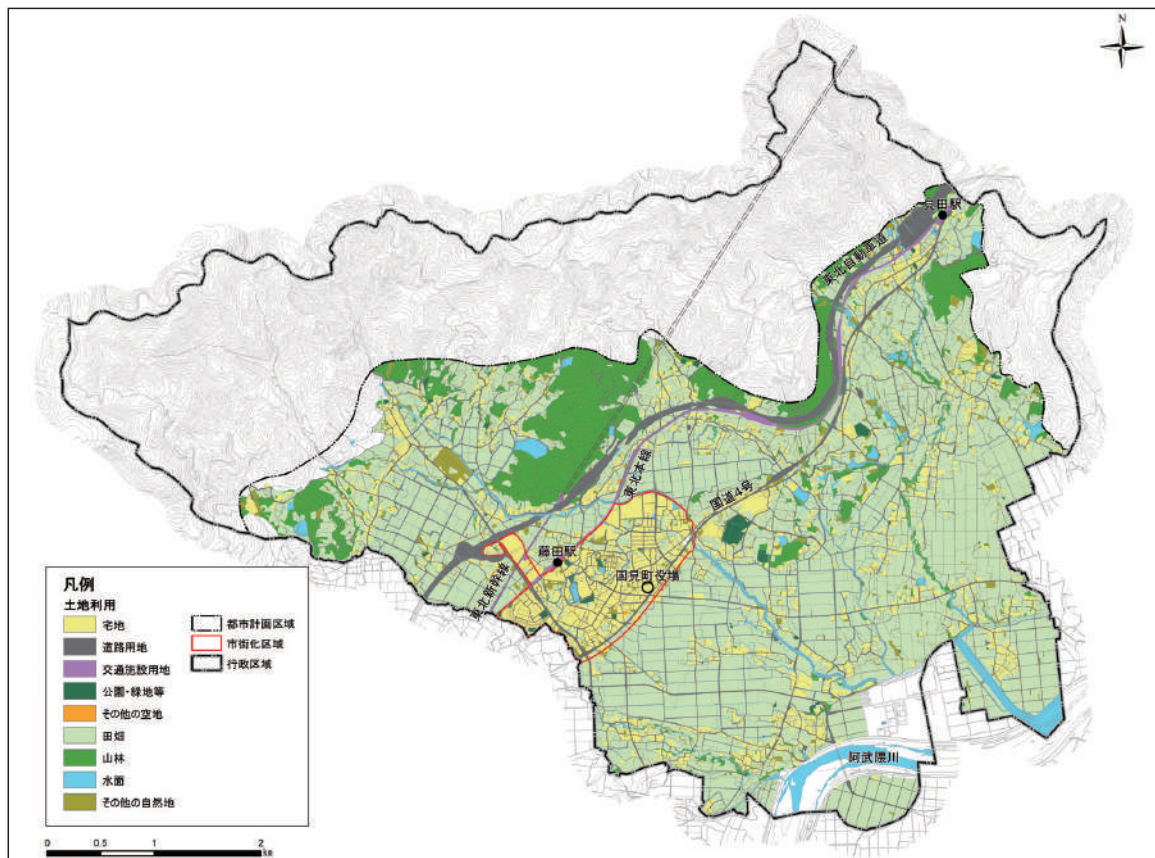


図 2-10 土地利用状況 【出典：都市計画基礎調査より】

国道は南北に国道4号が通り、福島市・白石市まではそれぞれ約16.5km、車で30分程度である。また、東北自動車道には国見インターチェンジと国見サービスエリアが整備されており、これは本町の位置が福島市と白石市及び郡山市と仙台市のほぼ中間に位置するためである。郡山市・仙台市まではそれぞれ約60km、東北自動車道経由で1時間程度である。県道は、主要地方道白石国見線、主要地方道浪江国見線、五十沢国見線、赤井畑国見線、大枝貝田線がある。

鉄道は、JR東北本線が南北に通り、藤田駅・貝田駅が存在する。藤田駅から福島駅までは約18分、郡山駅・仙台駅まではそれぞれ約1時間となっており、通勤・通学の重要な駅となっている。貝田駅は無人駅であるが、大木戸地区など周辺の人々が利用している。

(3) 土地利用

本町全域の7割が県北都市計画区域に指定されており、区域区分に基づいた土地利用の誘導が行われている。宅地は全体の7%程度で、市街化区域内に集中して分布しており、市街化区域以外では、山林や田畑など、自然豊かな土地利用が大部分を占めている。

(4) 産業

① 産業構造

総人口の減少に伴い、産業構造別就業者数の総数も減少傾向にある。昭和60(1985)年以後、平成2(1990)年の6,517人をピークに、平成12(2000)年まで6,000人前半を維持していたが、平成27(2015)年は4,784人まで減少している。

第一次産業の就業者数は昭和60(1985)年に1,873人となっていたが、以後減少を続け、平成27(2015)年は796人となって、半数以下にまで落ち込んでいる。

第二次産業の就業者数は昭和60(1985)年以後、平成2(1990)年の2,430人をピークに、平成12(2000)年まで2,000人前半を維持していたが、平成17(2005)年の統計で急激に数を減らし、平成27(2015)年は1,302人まで減少している。

第三次産業の就業者数は昭和60(1985)年に2,311人であったが、平成17(2005)年に2,846人となるまで増加を辿り、以後、平成27(2015)年は2,660人まで減少している。

構成比を見てみると、昭和60(1985)年は各産業が3割前後の構成比となっていたが、上記の就業者数の増減を経て、平成27(2015)年は、第一次産業が16.7%、第二次産業が27.2%、第三次産業が55.6%となっている。第一次、第二次産業の就業者減少が顕著であり、この結果、第三次産業は微増ながらも構成比が50%を超える結果となっている。

表 2-6 産業別就業者数

【出典：国勢調査】

年次	総数		第一次産業		第二次産業		第三次産業		分類不能産業	
	人	構成比(%)	人	構成比(%)	人	構成比(%)	人	構成比(%)	人	構成比(%)
昭和60年	6,365	100.0	1,873	29.4	2,179	34.2	2,311	36.3	2	0.1
平成2年	6,517	100.0	1,565	24.0	2,430	37.3	2,504	38.4	18	0.3
平成7年	6,317	100.0	1,224	19.4	2,385	37.7	2,703	42.8	5	0.1
平成12年	6,011	100.0	1,124	18.7	2,136	35.5	2,747	45.7	4	0.1
平成17年	5,487	100.0	1,060	19.3	1,579	28.8	2,846	51.8	2	0.1
平成22年	4,914	100.0	877	17.9	1,376	28.0	2,621	53.3	40	0.8
平成27年	4,784	100.0	796	16.7	1,302	27.2	2,660	55.6	26	0.5

② 農業

本町の産業は、古くから農業が基幹産業である。主な平地には水田が広がる。ほとんどの農家が米の生産を行っており、現在の主な作付け銘柄はコシヒカリである。県下でも良質な米であるため、種もみとして生産する農家も多い。

また、養蚕業も盛んに行われていた。福島県伊達郡の養蚕業は奈良・平安時代に始まったと伝えられ、室町時代には伊達氏が上洛した際に絹織物を公家達に献上したとの記録が残る。江戸時代になると、養蚕・製糸業が発達し、良質な生糸は京都などへ供給され、西陣織等の原材料となった。その後、蚕種の生産も盛んになり、安永3（1774）年には幕府より「奥州蚕種本場^{おうしゅうさんたねほんば}」の称号が伊達郡内の村々に与えられ、本町では徳江・川内がその称号を得た。養蚕業は伊達郡の代表的な産業となり明治・大正期も発展してきた。しかし、蚕の飼育の難しさに加え、生糸価格の乱高下、化学繊維の開発等による値段の下落等、常に大きなリスクが伴う養蚕業から、新たな生業への転換を求めようになった。



写真 2-1 半澤果樹園のサクランボ

そのような中で、明治後半から昭和初期にかけて、現在に続く果樹生産地への転換が図られていく。

大木戸の半澤果樹園は、明治 20（1887）年代終わりから開墾して十数 ha もの広さを持つ大規模な果

【国見町の特産品】	
	<p>米 本町は昔から米作りが盛んで、阿武隈川流域の肥沃な粘質土壌から、8世紀頃には東北有数の条里制による水田が整備された。現在でも県下有数の種場（採種ほ場）として、良質な種もみを生産している。作付されている品種は、コシヒカリが多い。秋の収穫時期になると稲穂が垂れた田園風景が一面に広がり、黄金色に輝く。</p>
	<p>桃 盆地特有の寒暖差が大きな気候は、国見特産の桃をおいしく育てる。今人気の「あかつき」は福島の果樹試験場（農業総合センター果樹研究所）で生まれ、とてもジューシーで果肉はやわらかく、香り高い風味を誇る。本町を代表する逸品となっている。</p>
	<p>あんぼ柿 一つ一つ丹念に皮を剥き、独自の技術で乾燥させると甘み豊かな干し柿（あんぼ柿）ができる。本町では大粒の渋柿、蜂屋柿がよく使われ、あめ色の果肉は、ゼリーのような食感で、自然の甘さは、大地と太陽の恵みを感じさせる絶品である。</p>
	<p>サクランボ 厳しい冬を越した果樹は、春一斉に花を咲かせる。そして、果物シーズンの幕開けを告げるのがサクランボである。本町は、山形県東根市より栽培方法を導入以来、サクランボの産地である。主力品種の「佐藤錦」は手間をかけ、雨風をさえぎり、丹念に生産している。大地の恵みと太陽の力をたっぷりと受け、独自の光沢を放ち「紅いルビー」と称される。</p>

樹園を経営し、サクランボを生産した。大正期に最盛期を迎え、東京・大阪の大都市へ出荷された。その後、同果樹園による生産規模は縮小するが、同時期に福島市で始まった桃・リンゴなどの生産も導入され、徐々に果樹栽培への転換が図られていく。

昭和初期にはあんぼ柿の製造が始まった。あんぼ柿はこの地方の菓子類の一つとして作られてきた干し柿で、皮を剥いた渋柿を寒風の中、天日に干し、冬期間の保存食として食べられていた。当地方の養蚕住宅は広く、風通しも良好に造られていたことから、あんぼ柿作りに適していた。昭和初期に、保存・品質性を高める^{いおうくんじょう}硫黄燻蒸あんぼ柿（干し柿）製法が確立し、本町でも盛んに製造されるようになった。硫黄燻蒸をしたあんぼ柿（干し柿）は、これまでの干し柿とは違い、ゼリーのような食感であり、見た目もあめ色が美しく商品価値が高い。ここに全国へ出荷できる産業へと変遷した。

加えて、昭和30（1955）年代後半には、桃を作付けする農家が増加した。本町の地質は、桃栽培に適しており、多くの農家で桃を栽培するようになり、現在では全国9位、県内3位の出荷量を誇る。「あかつき」が主力品種である。

③ 商工業

平成15（2003）年製造業の事業所数は29事業所であったが、平成23（2011）年には19事業所となった。精密機械製造や繊維工業などがあったが、産業の縮小・海外への進出などにより減少した。卸売業も平成3（1991）年は23事業所だったのが、平成24（2012）年には9事業所に減少している。また、町内の商店も平成3（1991）年は167店だったのが、平成24（2012）年には83店にまで減少している。

その主な要因は、店主の高齢化や大型のショッピングモール・スーパーマーケットが近隣市町に出店したことによる来客数の減少によるものである。

④ 観光

本町は豊かな自然に囲まれ、全国でも有数の果物の産地である。春には、町内中心部にある観月台公園の桜が満開となり、また平地、丘陵地を問わず桃をはじめ果樹の花が咲き乱れ、奥羽山脈の緑のコントラストと相まみえ、町内一円は桃源郷となる。本町のシンボルである阿津賀志山頂上からは福島盆地を一望することができ、眼下に広がる田園風景は、春を映す鏡のような水面、夏の緑、秋の黄金色へと日々変化する。9月23日は「くにみの日」として町全体が義経まつり一色となり、源義経ゆかりのこの町は多くの観光客でにぎわう。

表 2-7 商工業事業所数

年次	工業	年次	卸売業	小売業
平成15年	29	平成3年	23	167
平成16年	28	平成6年	15	159
平成17年	26	平成9年	14	148
平成18年	25	平成14年	10	140
平成19年	26	平成19年	10	124
平成20年	25	平成24年	9	83
平成21年	24			
平成22年	23			
平成23年	19			
平成24年	23			
平成25年	20			
平成26年	21			

【出典】
工業：
平成26（2014）年工業統計調査結果報告書
商業：
商業統計調査、経済センサス-活動調査



写真 2-2 観月台の桜



写真 2-3 桃の花



写真 2-4 阿津賀志山頂からの眺望



写真 2-5 義経まつり

3 歴史環境

(1) 歴史背景

① 原始

本町には、旧石器時代の遺跡として、光明寺地区の県境丘陵裾の段丘に所在する滝沢遺跡があり、昭和45（1970）年の道路工事でローム層中から東山型ナイフが出土している。

縄文時代の遺跡は、標高50～100mの台地上に分布し、町内には32遺跡存在する。縄文時代前期は中山遺跡（高城地区）・上野台遺跡（森山地区）で石器・土器・住居跡が確認されている。中期になると遺跡の規模は大きくなり数も増加する。特に岩淵遺跡（高城地区）では、全国的にも最大級の複式炉を持つ竪穴式住居を含む集落跡が確認されている。

弥生時代の遺跡は仏供田遺跡（徳江地区）で集落跡が調査され、堰下遺跡（泉田地区）で蛤刃石斧等が発見されているが、遺跡数も少なく不明確なものが多い。しかし、鉄器文化が徐々に伝わることに伴い、農作業の効率が向上し、現在にまで及ぶ稲作農業の第一歩を踏み出したと推察できる。

② 古代

古墳時代になると農耕生産は更に発展し、階層の分化を促した。町内には塚野目古墳群・森山古墳群など、富を蓄えた豪族達が築いた5～7世紀頃の古墳が、副葬品とともに数多く残っている。また、森山第四号墳の石室石材に凝灰岩が使用されており、当時から石材の採石加工が行われていたことが確認できる。

古代の本地方は、陸奥国信夫郡に属し、伊達郷と呼ばれていた。東北地方でも有数の規模を持つ条里制による開田が平野部で進められ、大木戸窯跡群では、須恵器が焼かれていた。奈良・平安時代になると重弁蓮華文軒丸瓦・じゅうべんれんげもんのきまるがわら・せんかいかもんのきまるがわら旋回花文軒丸瓦・れんげもんのきまるがわら蓮華文軒丸瓦を出土する徳江廃寺が創建され、平安時代には山居遺跡（高城地区）で製鉄が行われていた。

10世紀になると伊達郷ほか2郷は信夫郡から分離し、伊達郡が設置され、平安時代末には平泉藤原氏の支配下に置かれた。この時期に造営された堰下古墳（泉田地区）の経塚からは、すはまそうちようきよう洲浜双鳥鏡が出土するなど、12世紀後半におけるすぐれた工芸品が伝わっている。

【奥州合戦と阿津賀志山防塁】

文治5（1189）年7月、源頼朝は28万4千騎といわれる軍勢を頼朝率いる「大手軍」、太平洋沿岸を進む「東海道軍」、日本海側から攻め込む「北陸道軍」の3隊に分け、平泉に向けて進撃を開始した。



写真 2-6 岩淵遺跡（町指定史跡）



写真 2-7 蛤刃石斧（堰下遺跡出土）



写真 2-8 円筒・朝顔形埴輪
（塚野目第一号墳出土）



写真 2-9 洲浜双鳥鏡（堰下古墳経塚出土）

大手軍は白河の関を越え、8月7日伊達郡の藤田宿へ着陣した。

藤原秀衡^{ひでひら}亡き後、その跡を継いだ泰衡^{やすひら}は、既に頼朝の弟義経を衣川館にて自刃させており、恭順の態度を示していた。

しかし頼朝の大動員の報に接した泰衡は、鎌倉軍の侵攻を阻止すべく、阿津賀志山に堅固な防塁を築き、迎撃の態勢をとった。この二重の堀が現在も一部残っている阿津賀志山防塁である。『吾妻鏡』には

「阿津賀志山に城壁を築き要害を固む、国見の宿と彼の山との中間に、俄に口五丈の堀を構え、逢隈河^{あぶくまがわ}の流れを堰入れ柵とし、異母兄西木戸太郎国衡を以て大將軍と為す」と記載がある。

と記載がある。

阿津賀志山防塁は、阿津賀志山の中腹からほぼ滑川に沿って、当時の阿武隈川岸に達する約3.2kmにわたって構築されていた。この防塁の構築に動員された人夫は、延べ人数で約25万人と見積もられている。

『吾妻鏡』によれば阿津賀志山の戦いは8月8日から始まり、鎌倉軍は僅か3日間でこれを制した。鎌倉軍の別動隊が大きく迂回して奥州軍の後陣を奇襲したため、奥州軍は混乱をきたし、態勢を立て直せないまま敗北を喫した。

阿津賀志山陣の総大将であった藤原国衡^{くにひら}は和田義盛・畠山重忠らに討ち取られた。その後、泰衡は、夷狄嶋^{えぞがしま}（北海道）に向けて逃亡したが、途中で家臣に殺害され奥州藤原氏は滅亡した。

これにより藤原氏の奥州支配は終わりを告げる。

③ 中世（伊達氏支配の確立へ）

奥州藤原氏の平泉政権滅亡後、頼朝は多くの有力御家人を地頭として任命し、郡庄の行政事務を行わせた。奥州合戦に功のあった藤原朝宗^{ともむね}（常陸入道念西）の一族も、伊達郡を与えられて本領の常陸国から移り、伊達氏と称し地頭として支配を行った。以後、戦国時代まで伊達氏は居城を、現在の桑折町・伊達市梁川町などに移動させながら、支配を固めていくこととなる。

豊かな湧水があった光明寺・森山・泉田・内谷地区などでは、水路やため池などのかんがい施設が整備され生産の基盤が強化されていった。また光明寺地区では、伊達五山の一つとして光明寺が建立されるなど、伊達氏の庇護のもと寺院の整備が行われた。

以後も多少の変動があったものの伊達氏の支配が続いていたが、中世末期となると、天文の乱（1542～1548）など伊達氏内部や領主間の争いが続き、伊達氏は本拠地を伊達郡から米沢へ移すこととなる。

伊達輝宗・政宗の時期になると、相馬氏との抗争が絶えず、宮城県伊具地方がその戦場となった。米沢方面に通じる小坂峠と、奥州街道が所在し、更には伊具方面にも連絡できる本町域は、交通上・軍事上の重要性を増していった。天正17（1589）年、政宗は相馬氏との抗争に勝利し、福島県会津地方の蘆名氏^{あしな}を大敗させ、南奥羽の覇権を確立したが、天正18（1590）年、豊臣政権による「奥羽仕置」が実施され、中世の終焉を迎える。

④ 近世

豊臣秀吉の「奥羽仕置」の結果、伊達郡は新しい領主蒲生氏郷の所領として編入された。その後、慶長3（1598）年に上杉景勝へと領主が移り、検地や街道・宿場の整備が進められる。寛文4（1664）年に幕府直轄領（天領）となり、伊奈半左衛門・国領半兵衛などの代官による支配を受けることになる。



写真 2-10 阿津賀志山防塁（国指定史跡）
阿津賀志山防塁から東を望む。現代においても、土塁と空堀が原型をとどめている。日本三大防塁の一つ。



写真 2-11 西大枝深山神社廻米絵馬
(町指定有形民俗文化財)



写真 2-12 元禄 11 (1698) 年貝田村絵図
(県庁文書 1983「若松城地関係其の他」より)
※福島県歴史資料館寄託



写真 2-13
天保年間 (1830~1844) 藤田村絵図



写真 2-14 小坂村絵図 (江戸時代後期)
(「小坂区有文書」より)
※福島県歴史資料館寄託

その後本町では、本多家（福島藩）・松平家（桑折藩・篠塚藩）・佐渡奉行（幕府領）・仙台藩預・木下家（足守藩）などと領主が変遷し、幕府領として幕末を迎える。

江戸時代の本町域では、2つの街道と阿武隈川の舟運による物流の活況や半田銀山の操業、養蚕業の勃興、西根堰の開削による農業の伸長により発展する。しかし、伊達郡一円支配から領域が村ごとに細分化され、天明年間（1781～1789）の大飢饉などにより農民層の分化が進む。また、寛延2（1749）年の農民一揆や慶応2（1866）年の世直し一揆など幕藩体制を大きく揺るがす大規模な騒動も発生した。

【街道・宿の成立】

江戸時代の幹線道路である奥州街道は、江戸から陸奥三厩^{むつみんまや}（青森県）まで続き、陸奥・松前諸大名の参勤交代の主要街道として、宿場町の整備が行われた。

伊達・信夫両郡には12の宿駅が置かれた。主要宿駅には本陣・脇本陣が設置された。また、名主・組頭・百姓代の村役人のほかに、宿役人として年寄・検断・問屋が置かれた。奥州街道を登るのは松前・八戸南部・盛岡南部・一関田村・仙台伊達の諸大名であり、桑折宿において、七ヶ宿を通る出羽・津軽の大名十三家がこれと合流する。

本町域には、奥州街道貝田宿・藤田宿、羽州街道小坂宿があった。

藤田宿は、大名や公用役人の宿泊は少なく、一般の庶民や公用ではない武士が宿泊する旅籠が並び立ち、商人・農民の憩いの場所でもあった。享和4（1804）年頃には、藤田宿の旅籠・揚屋には多くの飯盛女を抱え、桑折宿や近郷からの者が投宿したと考えられている。明治10（1877）年頃には、旅籠16戸、料理屋11戸があり、大いににぎわい、毎月1の付く日と6の付く日に市が立った（六斎市）。

貝田宿と小坂宿は、ともに峠を隔てて仙台藩領に接する境界の宿場であったことから、小規模な宿場であるものの口留番所が置かれ取り締まりが行われていた。口留番所付近の道は鍵型に折れ曲がり、町尻に寺院が整備されるなどの特徴を持つ。小坂宿では、小坂峠を背後に持つことから、旅人の旅籠や険しい峠道を上るための牛宿などが軒を並べた。同宿は参勤交代の大名達も休息に用いた。

⑤ 近代

明治維新後の本町域は、中村藩民政取締桑折県・南部白石藩の支配となるが、廃藩置県によって福島県の管轄となる。

近代国家が成立する過程にあって、本町域においても目まぐるしいまでの制度変化に、住民は大きな戸惑いを感じていたと考えられる。まず明治4（1871）～9（1876）年頃までに地租の改正が行われた。それぞれの村で実測調査が行われ、さながら明治の総検地といった状況であった。

明治22（1889）年、市制・町村制の施行により小坂村・藤田村・森江野村・大木戸村・大枝村が成立し、これに伴って村議会議員が選出され村議会が誕生した。

一方で、実際の本町域の農村部の生活は、明治20（1887）年代の小作地率が35%超に達していることから、この時点で小作化が相当進んでいたと思われる。その後、大正5（1916）年まで更に小作化が進んでいる。

表 2-8 国見町小作地率表（国見町史より）

年代	自作地	小作地	小作地率
明治 26（1893）年	7,799 反	4,307 反	35.6%
明治 35（1902）年	8,792 反	5,963 反	40.4%
明治 43（1910）年	9,167 反	6,159 反	40.1%
大正 5（1916）年	8,912 反	7,218 反	44.7%

※明治30（1897）年代は開墾が進んだ時期であることを勘案すると、小作地率自体が変わらないように見えるが、実態は小作地自体多くなっており、小作化が進んでいる。

【石蔵の普及】

本町には、「国見石」と呼ばれる凝灰岩が広範囲に分布・露出し、古くから採石を行ってきた。これらは、石工により加工され様々な用途で使用された。

大正から昭和初期に、豪農・豪商による石蔵建築材として使用されたが、戦後、昭和30（1955）～40（1965）年代に採石が盛んに行われ、石蔵が一般にまで普及し町内の全域で建築されるようになった。現在も町内には多種多様な石蔵や石造建築物が多く残る。



写真 2-15 旧小坂村産業組合石蔵
（国登録有形文化財）

【豪商の誕生（奥山家）】

明治期に本町域において豪商が生まれた。藤田の宿場で初代奥山忠左衛門は奥山呉服店を創業、東京から仕入れた呉服類を手広く販売、売り上げを伸ばした。明治4（1871）年1月の藤田村内の売上では第2位の実績を残している。

2代目忠左衛門は呉服店を更に拡張、同時に農地を広く取得し、金融業も始めた。

3代目忠左衛門は、土地の取得を更に拡大、同時に貸家業を始めた。また、奥山合名会社を設立し、金融業を更に拡大、北海道の胆振地方鶴川村の山林を買収する。更に日本鉄道会社奥州線藤田駅（現：JR 藤田駅）と第百七銀行藤田支店の誘致に尽力するなど奥山家は3代目で隆盛を極めた。



写真 2-16 奥山家住宅 主屋・洋館
（国登録有形文化財）

⑥ 現代

農村地域を形成する本町にとって、戦後の農地改革は重要な出来事であった。戦前の地主的土地所有制は解体され、自作農を主体とする農業へと変革されていった。各町村は、戦前の農業会にかわる農業協同組合を設立して、農地改革の成果を維持・発展させていった。更に、農家は戦後日本の経済復興とその成長に対応するために、二・三男の都市部への移住や兼業化を進めることによって、その所得を増大させるとともに、果樹経営や野菜の栽培に力を注いだため、やがて本町は、これまでの米と養蚕に加え、果樹と野菜を供給する近郊農業の町へと変貌を遂げた。

昭和 28 (1953) 年 9 月には、町村合併のモデル地区として県の指定を受け、翌 29 (1954) 年、県下にさきがけて、藤田町・小坂村・森江野村・大木戸村・大枝村の 1 町 4 村が合併し国見町が誕生した。

昭和 30 (1955) 年代の高度成長期には、新国道 4 号が開通し、仙台・福島間の東北本線電化が完了した。農業では、農業基本法が制定され、構造改革事業が進められ、本町では水稻・養蚕・果樹を基幹作物と定めた。

昭和 40 (1965) 年代に入ると、小坂峠自動車道が開通し、藤田総合病院が完成した。昭和 50 (1975) 年代には東北自動車道・東北新幹線の開通を迎え、更に、国見インターチェンジの開設により、首都圏との時間的距離が著しく短縮され、経済交流の活発化、特に農産物などの流通拡大が期待された。

(2) 国見町に関わる主な人物

① 大野東人 (奈良時代 ?~742 年頃) 貴族

奈良時代の貴族。壬申の乱で活躍した果安の子、和銅 7 (714) 年、迎新羅使として初めて記録に登場する。神亀元 (724) 年、陸奥国に多賀城を築く。国見町鹿島神社の縁起によると、「奈良のころ陸奥の国の蝦夷征伐のため東征を行い、守護神として常陸鹿島明神を勧請し藤田宿に来る。当時阿津賀志山周辺の蝦夷人に対し藤田源宗山にて館や柵を築き蝦夷攻略の本拠とした」とある。

天平 12 (740) 年に都へ戻り、翌年平城京留守役に任命されるが、天平 14 (742) 年に没する。

② 藤原泰衡 (1155 若しくは 1165~1189 年) 武将

奥州藤原氏、3 代秀衡の子。異母兄に国衡。

源頼朝からの要請に屈し、平泉に逃れていた義経を自害へと追い込む。その後、頼朝が奥州合戦の兵を起こすと、阿津賀志山から阿武隈川に至る全長約 3.2km の防塁を築き頼朝軍を迎え撃ったが、3 日間の戦闘で陥落した。泰衡は国分原鞭楯の本陣 (現：仙台市) を退き、以後散発的な戦闘を行うが、平泉を放棄し、現在の秋田県大館市付近まで敗走の後、家臣の裏切りに遭い殺害される。

③ 伊達朝宗 (鎌倉時代 ?~1199 年) 武将

『吾妻鏡』によれば、文治 5 (1189) 年の奥州合戦に際して石那坂の戦い (福島市) で息子の為宗・為重・資綱・為家とともに奥州藤原氏の配下佐藤庄司を討ち取り、武功を立てた。

これにより、源頼朝より伊達郡を賜る。朝宗は、これまでの



写真 2-17 藤原泰衡
(源義経公東下り絵巻「平泉入り」より)
※中尊寺所蔵



写真 2-18 伊達朝宗像
※仙台市博物館所蔵

伊佐、あるいは中村の姓を改め、以後伊達を称することになった。これが伊達氏の始まりとなる。

④ 松尾芭蕉（1644～1694年）俳人

元禄2（1689）年3月に弟子の曾良を伴い、『おくのほそ道』の旅に出る。同年6月7日に白河の関より福島域に入り、本町には同月17日から19日頃に到着。

同じ東北でも直轄地や譜代大名の領地であった福島域から宮城域（外様大名仙台伊達藩）へ入ることは、本格的な「みちのく入り」の感を持ったことだろう。

『おくのほそ道』には、

「^{きりよへんど}驛旅辺土の行脚、^{しゃしんむじょう}捨身無常の観念、道路にしなん、
是天の命なりと、^{いささか}気力聊とり直し、^{みち}路縦横に踏で伊
達の大木戸をこす」

と記されている。

⑤ 奥山忠左衛門（3代目忠左衛門）（1859～1929年）

豪商・政治家

旧梁川村（現：伊達市）にて生まれる。明治10（1877）年に2代目奥山忠左衛門の養子となり一人娘イシと結婚する。奥山家は代々呉服屋や貸地業を営んでいたが、3代目より貸家業、金融業など事業を拡大、県下有数の豪商となる。

大正10（1921）年には、旧藤田宿の中心にある自宅敷地に純和風の主屋と荘厳な洋館を建築した。

その間、県会議員や藤田町長などを歴任、藤田駅の誘致や銀行の建設に奔走し、本町の近代化・発展に尽くした。

⑥ 菅野喜三郎（1873～1958年）政治家

旧小坂村内谷の床屋の末子で、内谷村の村長を務めた父末吉と五十沢村の旧家から嫁いできた母トラの長男として明治6（1873）年8月22日に生まれた。

日清、日露戦争ともに仙台歩兵第4連隊で後方勤務し、復員後は小坂村村会議員、内谷区長、村助役、伊達郡会議員、公立福島病院議員を歴任、大正12（1923）年9月に県会議員となる。また、名誉職参事補充員に選任される。地元の養蚕業の振興に生涯をささげた。

⑦ 伊藤柳太郎（1877～1949年）石工職人

旧藤田村石工職人中野政造の次男として生まれる。幼い頃から石工職人の父の手伝いをして石工技術を身につける。成人すると大工の家柄である伊藤家に養子として入り、大工技術を習



写真 2-19 松尾芭蕉と曾良
※米倉兌作「奥の細道 伊達の大木戸」より
※伊達市梁川美術館所蔵



写真 2-20 奥山忠左衛門肖像画



写真 2-21 菅野喜三郎



写真 2-22 伊藤柳太郎肖像画

得する。その後、栃木県宇都宮市大谷の石工から最新の技術を学んだ。

大正6（1917）年には、旧森江野村の自宅敷地に本町内で国見石を使用した第1号となる石蔵を建築し、石蔵建築の先駆となる。今なお町内には国見石使用の蔵が多数ある。

4 地域区分

（1）明治時代以降の合併の経過

本町における基礎的な地域区分は「大字」であり、江戸時代の村落を踏襲している場合が多い。村落を基底とする大字は、歴史文化資源の基本的情報であり、保存・活用においても重要となる。ここでは、本構想における地域区分に関わり、明治時代以降の沿革を整理する。

明治初期は、江戸時代の16か村がそのまま継承されるが、東大窪と西大窪の両村は、明治9（1876）年に村名を阿津賀志山防塁に由来する「大木戸村」「高城村」と改称し、現在の地名につながる。

その後、明治22（1889）年市制・町村制の施行に伴う旧村の合併が行われ、泉田・小坂・鳥取・内谷村は「小坂村」、藤田・山崎・石母田村は「藤田村」、森山・徳江・塚野目村は「森江野村」、大木戸・高城・貝田・光明寺村は「大木戸村」、東大枝・西大枝・川内村は「大枝村」として発足した。

大正4（1915）年、藤田村は町制を施行して「藤田町」となった。昭和29（1954）年の町村合併促進法によって藤田・小坂・森江野・大木戸・大枝の町村は、合併して「国見町」となるが、旧大枝村大字東大枝の梁川町（現：伊達市）編入が住民投票で決定し、7月6日に編入に伴う境界の一部を変更し現在に至る。

なお国見とは、古来より国見山・国見峠などと称され、現在の阿津賀志山の周辺を指し、旧藤田町、旧森江野村、旧大木戸村にまたがり地名が存在した。『吾妻鏡』にも「伊達郡阿津賀志山辺国見駅」という記述がある。また、国見とは「栄えゆく国を眺める」という意味から、昭和29（1954）年の町村合併の際、現在の町名に採用された。

（2）本構想で用いる地域区分

本町の地域区分は上記の合併経過にしたがうもので、まずは昭和29（1954）年に行われた合併以前の町村を母体とする5地区に大別される。すなわち、旧藤田町域を「藤田地区」、旧小坂村域を「小坂地区」、旧森江野村域を「森江野地区」、旧大木戸村域を「大木戸地区」、旧大枝村域から東大枝を除いた西大枝・川内の範囲を「西大枝地区」と呼ぶ。更に細別する必要がある場合には、明治22（1889）年に行われた合併以前の旧16か村の範囲・呼称を用いる。

江戸時代	明治9年 (1876) 大木戸・高城 村名変更	明治22年 (1889) 4月1日 合併	大正4年 (1914) 1月6日 藤田町制施行	昭和29年 (1954) 3月31日合併 7月6日境界の一部変更	現在							
藤田村		藤田村	藤田町	国見町	国見町							
山崎村												
石母田村												
小坂村		小坂村	国見町			国見町						
内谷村												
鳥取村												
泉田村												
森山村		森江野村					国見町	国見町				
徳江村												
塚野目村												
東大窪村	大木戸村	大木戸村							国見町	国見町		
西大窪村	高城村											
光明寺村												
貝田村												
西大枝村												
川内村		大枝村									国見町	国見町
東大枝村												

図 2-11 国見町にいたる町・村の沿革



※ () 内の村名は明治9 (1876) 年から明治22 (1889) 年までの村分けを示す

図 2-12 昭和29 (1954) 年合併前の旧町村位置図

第3章 歴史文化資源の把握

1 歴史文化資源の定義と指定等の文化財の状況

(1) 歴史文化資源の定義

本構想は、文化財の指定・未指定（登録・未登録）に関わらず、地域の特性や魅力をあらわすものを幅広く対象とし、周辺環境を含めた把握により、総合的に保存・活用していくことを目的とするものである。このため、本構想では、公的機関により歴史・文化的価値が高いと認められ、指定・登録された文化財（以下「指定等文化財」という）だけでなく、地域の各要素として存在する未指定・未登録の有形・無形の文化財、更に民話や伝承・食・人・出来事なども含め対象とし、それらを「歴史文化資源」と呼ぶこととする。地域が守り伝えてきた身近な物事の多くは、この歴史文化資源に含まれ、地域の特性や魅力をあらわすものである。

また、周辺環境を含めた把握のためには、個々の歴史文化資源だけでなく、周辺の自然環境や景観、守り伝えるための人々の活動や技術、関連し合う歴史文化資源の情報について、一体的に把握することが必要である。

本章においては、分類ごとに本町の歴史文化資源の状況などを概観するが、その分類にあたっては、「国見町歴史文化資源分類表」（表 3-1）を用いる。

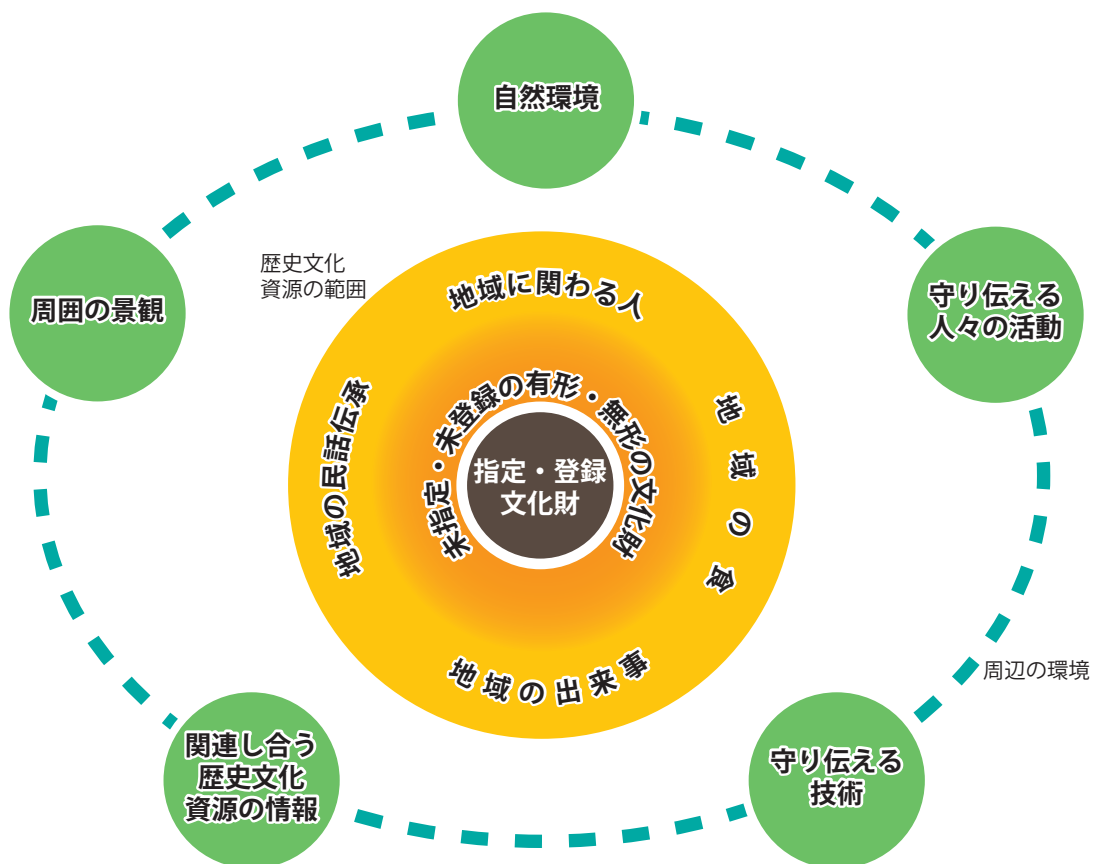


図 3-1 歴史文化資源の範囲と周辺環境の概念図

表 3-1 国見町歴史文化資源 分類表

分類	種別	区分	略称	主な対象
有形文化財	建造物		建	社寺、城郭、住宅、公共施設、橋梁、石塔、鳥居
	美術 工芸品	絵画	絵	障壁画、仏画、水墨画、大和絵、近世絵画、近代絵画、中国・朝鮮絵画
		彫刻	彫	仏像、神像、仮面、近代彫刻、中国・朝鮮彫刻
		工芸品	工	金工、漆工、染色、陶磁、石造品、甲冑、刀剣
		書跡	書	名家筆跡、和歌、短冊、法帖
		典籍	典	和書、洋書、仏典、漢籍
		古文書	古	日記、記録、絵図、系図、金石文、木簡
		考古資料	考	土器、石器、骨角器、土製品、石製品、金属製品
歴史資料	歴	歴史上重要な事象、人物に関する遺品、記念碑		
無形文化財	芸能		芸能	音楽、舞踊、演劇、雅楽、能楽、歌舞伎、人形浄瑠璃、邦楽
	工芸技術		工技	陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、手漉和紙
民俗文化財	有形の 民俗文化財	衣食住	有民①	衣服、装身具、飲食用具、光熱用具、家具調度、住居
		生産・生業	有民②	農具、漁猟具、工匠用具、紡織用具、作業場
		交通・運輸	有民③	運搬具、舟車、飛脚用具、関所
		交易	有民④	計算具、計量具、看板、鑑札、店舗
		社会生活	有民⑤	贈答用具、警防用具、刑罰用具、若者宿、娯楽
		信仰	有民⑥	祭祀具、法会具、奉納物、偶像類、呪術用具、社祠
		民俗知識	有民⑦	暦類、卜占用具、医療具、教育施設
		民俗芸能	有民⑧	衣装、道具、楽器、面、人形、玩具、舞台
		人の一生	有民⑨	産育道具、冠婚葬祭用具、産屋
		年中行事	有民⑩	正月用具、節供用具、盆用具
	無形の 民俗文化財	風俗慣習	風慣	生活文化、年中行事、祭礼、食文化、信仰
		民俗芸能	民芸	神事芸能、民謡、唄
		民俗技術	民技	生産、生業
		口頭伝承	口伝	民話、伝承、伝説、地名
記念物	遺跡	集落・古墳	遺①	貝塚、集落跡、古墳
		政治・支配	遺②	都城跡、国郡庁跡、城跡、官公庁、戦跡、陣屋跡
		祭祀・信仰	遺③	社寺跡、祭祀場跡
		教育・文化	遺④	学校、研究施設、文化施設
		社会・生活	遺⑤	医療・福祉施設、生活関連施設
		経済・生産	遺⑥	交通・通信施設、治山・治水施設、生産施設、街道
		墳墓・碑	遺⑦	墳墓、碑
		由緒地	遺⑧	旧宅、園地
		外国	遺⑨	外国・外国人に関する遺跡
	名勝地	公園・庭園	名①	公園、庭園
		橋梁・築堤	名②	橋梁、築堤
		花樹・花草	名③	花樹、花草、紅葉、緑樹などの叢生する場所
		鳥獣・魚虫	名④	鳥獣、魚虫など棲息する場所
		岩石・洞穴	名⑤	岩石、洞穴
		峡谷・瀑布	名⑥	峡谷、瀑布、溪流、深淵
		湖沼・湿原	名⑦	湖沼、湿原、浮島、湧泉
		砂丘・砂嘴	名⑧	砂丘、砂嘴、海浜、島嶼
		火山・温泉	名⑨	火山、温泉
		山岳・丘陵	名⑩	山岳、丘陵、高原、平原、河川
		展望地点	名⑪	展望地点
	動物・植物・ 地質鉱物 (天然記念物)	動物	動	日本特有の動物、棲息地
		植物	植	名木、巨樹、老樹、並木、社叢、高山植物帯
		地質鉱物	地	岩石、鉱物、化石、地層、洞穴、火山活動、湧水

分類	種別	区分	略称	主な対象
	文化的景観		文景	棚田、宿場町、温泉街、用水
	伝統的建造物群		伝建	宿場町、城下町、農漁村
	文化財の保存技術		保技	文化財の保存に必要な材料や用具の生産製作、修理・修復の技術等
その他	人物		人	国見町に関わる主要な人物
	出来事		出	国見町で起きた主要な出来事
	その他		他	上記への分類が難しい物事

(2) 指定等文化財の状況

文化財保護法（昭和 25〔1950〕年法律第 214 号）、福島県文化財保護条例（昭和 45〔1970〕年県条例第 43 号）、国見町文化財保護条例（昭和 44〔1969〕年町条例 21 号・昭和 51〔1976〕年町条例 8 号）の規定に基づき指定・登録された町内の指定等文化財の状況を確認する。

① 文化財指定等の状況

ア) 指定文化財

本町に所在する指定文化財の件数（令和元〔2019〕年 12 月現在）は国 2 件、県 2 件、町 31 件、合計 35 件である。内訳は、有形文化財が 9 件、民俗文化財が 9 件、記念物が 17 件である。

本町における指定文化財は、旧史蹟名勝天然紀念物保存法（大正 8〔1919〕年法律第 44 号）の規定により昭和 10（1935）年に指定された国指定史蹟「石母田供養石塔」（文化財保護法施行後も史蹟として指定継承）をはじめとする。その後の各法令制定に伴い、指定文化財の拡充が図られてきた。特に、町指定文化財は条例制定直後から町内委員を中心とした取り組みが行われるなど、積極的な指定が行われてきた。

【有形文化財】

有形文化財の内訳は県指定 1 件、町指定 8 件、合計 9 件で、種別の内訳は、建造物 5 件、美術工芸品 4 件（彫刻 3 件、古文書 1 件）である。建造物は、町内の建造物において最も古い江戸時代中期の農家住宅（1 件）、江戸時代から明治期にかけての特徴的な寺社建築（3 件）及び近代化を支えた鉄道遺産（1 件）が指定されている。美術工芸品は、地域の仏教文化を表す仏像彫刻（3 件）と戦国期伊達氏当主からの書状であり町内唯一の中世文書（1 件）が指定されている。

【無形文化財】

無形文化財の指定はない。

【民俗文化財】

民俗文化財は 9 件全てが町指定であり、種別の内訳は、有形民俗文化財が 7 件、無形民俗文化財が 2 件となっている。有形民俗文化財はいずれも江戸時代から明治期の信仰に関わり、舟運や開業直後の鉄道の情景を描いた絵馬（2 件）、俳諧・算額に関わる奉額（4 件）、巡礼信仰を反映した石造画像碑群（1 件）が当時の民衆に関わる生業・文化・信仰と歴史的な事象を端的にあらわすものとして指定されている。無形民俗文化財は、神社祭礼に関するもので、特徴的な山車の巡行と宿場町であった歴史的背景を残す祭礼（1 件）と氏子を中心として奉納される町内唯一の神楽（1 件）である。

【記念物】

記念物の内訳は国指定 2 件、県指定 1 件、町指定 14 件、合計 17 件である。種別の内訳は、史蹟 15 件、天然記念物 2 件である。史蹟の中でも、阿津賀志山防塁は本町を代表する文化財であり、鎌倉幕府成立に関わる奥州合戦で、最大の戦いが行われた防塁跡である。我が国の歴史に欠かすことのできない史蹟

であることから、昭和 56（1981）年に全長の約 1/3 が国史跡に指定され、その後も継続して追加指定が行われている。このほか、政治・支配に関わる史跡として、伊達氏とその家臣による支配をあらわす中世城跡（3件）がある。また、縄文時代の集落跡（1件）、福島県内でも有数の古墳群が存在する本町の古墳文化を代表する古墳（4件）、経済・生産に関わる窯業・鉱業・街道の跡（4件）、鎌倉時代の仏教文化を伝える石碑（1件）、本町の近代学校教育発祥の地である旧跡（1件）が地域性をあらし学的価値の認められる史跡として指定されている。

天然記念物は、植物では樹齢 500 年以上の御神木として守られてきた地域の名木（1件）、地質鉱物では豊富な水量から集落形成の根源となり信仰の対象ともなった湧水（1件）が指定されている。

なお、国特別天然記念物カモシカは、本町でも生息を確認しているが、地域を定めず指定されており指定等文化財の一覧からは除外している。

イ) 登録文化財

本町に所在する登録文化財の件数（令和元〔2019〕年 12 月現在）は 3 件であり、全て有形文化財（建造物）である。地域の近代化に貢献した名望家が大正期に建設した近代和風建築及び洋風建築の 2 件、町内の石材資源（国見石）を用いた最大規模の石造建築 1 件であり、国土の歴史的景観に寄与し、造形の規範となっている等の理由から登録された。

ウ) その他

選定となる文化的景観・伝統的建造物群・保存技術、選択となる記録作成等の措置を講ずべき無形文化財・記録作成の措置を講ずべき無形の民俗文化財に該当するものは現在のところ存在しない。

表 3-2 国見町指定等文化財 分類別集計表

指定						登録		
分類／種別／区分		国	県	町	計	分類／種別		国
有形文化財	建造物			1	4	5	登録有形文化財	
	美術 工芸品	彫刻			3	3	建造物	3
		古文書			1	1	合計	
	小計			1	8	9		
民俗文化財	有形民俗文化財				7	7		
	無形民俗文化財				2	2		
	小計				9	9		
記念物	史跡		2	1	12	15		
	天然記念物				2	2		
	小計		2	1	14	17		
合計		2	2	31	35			

② 指定等文化財の時代別の状況

ア) 指定文化財

本町に所在する指定文化財を主たる時代（制作・築造・使用の年代）別で整理すると、近世が10件と最も多く、以降は、中世が8件、近代が7件、古代が6件、原始が1件と続く。本町の指定文化財は、原始がやや少なく、古代から近代までは偏りなく存在しているといえる。

イ) 登録文化財

登録文化財も同様に整理すると、3件全てが近代の建造物である。多種多様かつ大量の文化財を後世に継承するため、緩やかな規制により幅広く保護する制度の趣旨から、近代以降の文化財を中心とした登録状況となっており、現時点で近世以前の登録物件はない。

③ 指定等文化財の地区別の状況

指定等文化財の所在地について、町内各地区の内訳は次のとおりである。

大木戸地区は、総数の約3分の1に相当する13件が所在する。これは大木戸地区に、本町を代表する文化財である阿津賀志山防塁をはじめとした歴史や伝統を伝える文化財が集中していることを示している。以降は、小坂地区に9件、藤田地区に8件、森江野地区に8件、西大枝地区に3件と続く。

全体の傾向としては、人々の動きが活発であった街道沿いに指定等文化財が集中している状況が読み取れる。一方、阿武隈川沿いの森江野地区・西大枝地区においても古墳文化や養蚕業・舟運の隆盛を反映した指定等文化財が所在する。西大枝地区は区域が狭く、旧村における中心部が隣接する伊達市に属しているため件数が少ないものの、概ね町内全域に分布している。

表 3-3 国見町指定等文化財 時代別集計表

分類／種別		原始	古代	中世	近世	近代	その他	計	
有形文化財	建造物				3	2 (3)		5 (3)	9 (3)
	美術工芸品			4				4	
民俗文化財	有形民俗文化財				4	3		7	9
	無形民俗文化財					1	1	2	
記念物	史跡	1	6	4	3	1		15	17
	天然記念物						2	2	
計		1	6	8	10	7 (3)	3	35 (3)	

※その他は年代が定まらないもの。通常の数値は指定文化財、()内の数値は登録文化財の件数を示す。

表 3-4 国見町指定等文化財 地区別集計表

	藤田	大木戸	小坂	森江野	西大枝
国指定	2	1		1	1
県指定	1			1	
町指定	3	12	8	6	2
国登録	2		1		
計	8	13	9	8	3

※所在が複数地区にまたがる阿津賀志山防塁は各地区で計上していることから、総数が指定等文化財と合致しない。

表 3-5 国見町指定等文化財一覧

指別	No.	分類/種別	名称	指定・登録年月日	所在地	備考
国指定	1	史跡	石母田供養石塔	S.10.6.7	石母田字中ノ内	徳治3(1308)年
	2	史跡	阿津賀志山防塁	S.56.3.14 (追加指定) H.28.3.1 H.30.10.15	大木戸、石母田、 西大枝	文治5(1189)年
県指定	3	重要文化財 (建造物)	旧佐藤家住宅	S.47.4.7	藤田字観月台	近世 (江戸中期)
	4	史跡	塚野目第一号墳	S.59.3.23	塚野目字前畑	古代 (古墳中期)
町指定	5	有形文化財 (建造物)	沼田神社本殿彫刻	S.58.3.3	徳江字沼田	弘化年間
	6	有形文化財 (建造物)	東大窪八幡神社	H.5.10.1	高城字前	近世
	7	有形文化財 (建造物)	貝田姥神沢旧鉄道レンガ橋	H.25.10.30	貝田字寺脇	明治20(1887)年
	8	有形文化財 (建造物)	福源寺地藏庵観音堂	H.30.3.13	鳥取字鳥取	明治8(1875)年
	9	有形文化財 (美術工芸品)	三常院 木造阿弥陀三尊仏立像	S.60.3.15	光明寺字鹿野	16世紀(室町)
	10	有形文化財 (美術工芸品)	安養寺 一木造薬師如来坐像	H.5.10.1	高城字北	中世 (南北朝～室町初期)
	11	有形文化財 (美術工芸品)	福聚寺 木造虚空蔵菩薩坐像	H.5.10.1	光明寺字沼	中世 (15世紀前半)
	12	有形文化財 (美術工芸品)	伊達晴宗判物、 伊達政宗書状	S.60.3.15	小坂字小坂	天文18(1549)年 文禄4(1595)年
	13	有形民俗文化財	西大枝深山神社の廻米絵馬	S.58.3.3	西大枝字宮ノ内	慶応元(1865)年
	14	有形民俗文化財	阿津賀志山三十三観音 八十八大師画像碑群	S.44.6.30	大木戸字 阿津加志山	近世 (江戸末期)
	15	有形民俗文化財	沼田神社 再建遷宮祝俳諧歌奉額	H.5.10.1	徳江字沼田	明治31(1898)年
	16	有形民俗文化財	沼田神社南藤堂武俊 七十齡賀寿俳諧歌奉額	H.5.10.1	徳江字沼田	明治19(1886)年
	17	有形民俗文化財	国見神社宝楽俳諧奉額	H.5.10.1	高城字国見	近世
	18	有形民俗文化財	国見神社奉納算額	H.5.10.1	高城字国見	文久2(1862)年
	19	有形民俗文化財	観音寺観音堂汽車絵馬	H.5.10.1	徳江字団扇	明治25(1892)年
	20	無形民俗文化財	内谷春日神社太々神楽	S.60.3.15	内谷字館脇	明治15(1882)年
	21	無形民俗文化財	鹿島神社例大祭	H.26.12.15	藤田字北	
	22	史跡	堰下古墳	S.48.3.10	泉田字堰下	古代 (古墳中期)
	23	史跡	大木戸竊跡	S.48.3.10	大木戸字中野窪	古代 (8世紀前半)
	24	史跡	岩淵遺跡	S.51.2.26	高城字岩淵	原始 (縄文中期)
	25	史跡	森山第四号墳	S.60.3.15	森山字上野薬師	古代 (古墳終末期)
	26	史跡	半田銀山二階平坑口跡	S.60.3.15	泉田字二階平	嘉永7(1854)年
	27	史跡	旧奥州道中国見峠長坂跡	S.60.3.15	大木戸字長坂	近世

指別	No.	分類/種別	名称	指定・登録年月日	所在地	備考
町指定	28	史跡	石母田城跡	S.60.3.15	石母田字館ノ内	中世
	29	史跡	泉田小学校跡	H.5.10.1	泉田字立町	明治6（1873）年
	30	史跡	藤田城跡	H.5.10.1	山崎字宮館	中世
	31	史跡	旧羽州街道小坂峠道跡	H.5.10.1	鳥取字峠下	近世
	32	史跡	王壇古墳	H.5.10.1	西大枝字王壇	古代 (古墳終末期)
	33	史跡	塚野目城跡	H.25.10.30	塚野目字館前	中世
	34	天然記念物	深山神社の大樫大藤	S.49.3.1	鳥取字深山	樹齢500年以上
	35	天然記念物	御瀧神社の湧水	H.5.10.1	光明寺字滝沢	
国登録	36	登録有形文化財 (建造物)	奥山家住宅主屋	H.10.4.21	藤田字北	大正10（1921）年
	37	登録有形文化財 (建造物)	奥山家住宅洋館	H.10.4.21	藤田字北	大正10（1921）年
	38	登録有形文化財 (建造物)	旧小坂村産業組合石蔵	H.28.8.1	内谷字西堂	昭和16（1941）年

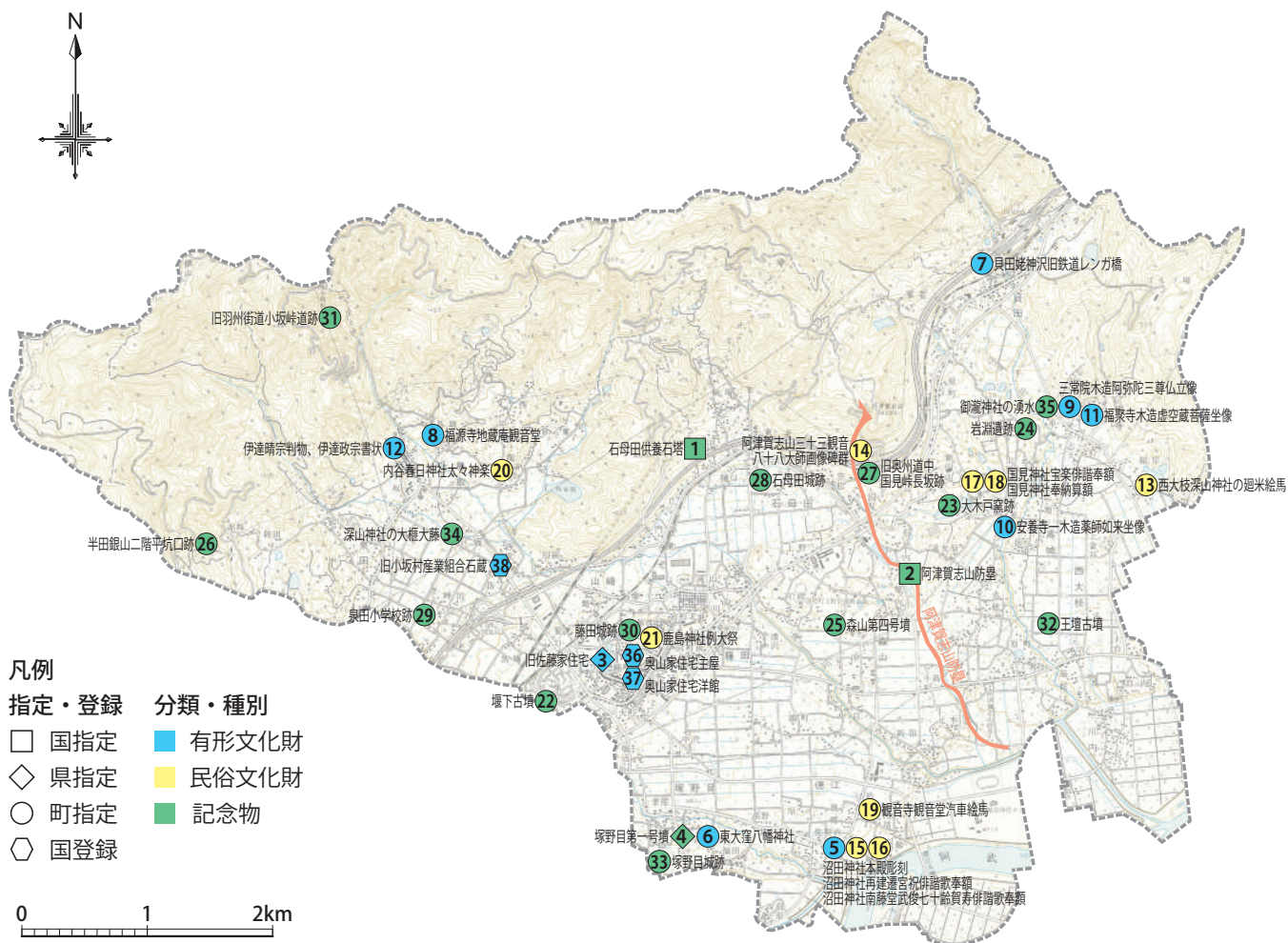


図 3-2 国見町内指定文化財の分布状況

2 歴史文化資源の総合的把握の方法

本構想の策定にあたっては、既述のとおり、指定・未指定（登録・未登録）に関わらず、町内に存在する歴史文化資源を総合的に把握し、その価値や特徴を明らかにするとともに、それらの周辺環境も含め、保存・活用について検討をしていく必要がある。そのため、これまで文化財として認知してきた指定等文化財に加えて、地域住民に古くから親しまれ、身近な地域の宝として家庭や集落で大切に保存・継承されてきた物事についても明らかにする必要がある。また、個々の歴史文化資源が置かれている自然環境、周囲の景観、資源の保存・伝承を支えている人々の活動、その維持・継承のために必要となる技術や材料、関連する文献や伝承などについて、同時に把握をしていく必要がある。

本構想の策定にあたり、これらについて、次のような方法で所在や内容の把握を進めることとする。

(1) 歴史文化資源に関する基礎資料の整理

本町の歴史文化資源を把握するための文献や既往の調査等の基礎資料について、以下のとおり①から⑤に分類し、整理する。なお、具体的な文献名については、主要なものを巻末の資料編1に掲載した。

① 自治体史

『国見町史』の編さんは、町村合併20周年記念事業の一つとして開始し、昭和48（1973）年に第2巻（原始・古代・中世・近世資料）、第4巻（現代・村誌・民俗資料）、昭和50（1975）年に第3巻（近代資料）、昭和52（1977）年に第1巻（通史・民俗）を発行した。

第1巻（通史・民俗）では、通史と民俗に関する記述、第2巻（原始・古代・中世・近世資料）では、旧石器時代から平安時代の考古資料の図録、大化前代から明治4（1871）年廃藩置県までの史料の翻刻と解説、第3巻（近代資料）では、明治4（1871）年廃藩置県から昭和20（1945）年までの近代資料の翻刻と解説、第4巻（現代・村誌・民俗資料）では、昭和20（1945）年から昭和50（1975）年代前半までの通史、旧村史の翻刻、民俗に関する記述をまとめている。

昭和の町村合併以前の旧5町村については自治体史が発行されていない。ただし、明治45（1912）年・昭和7（1932）年の福島県訓令により国民教育及び地方経営の緊要から調査及び編さんが求められた『郷土誌』の草稿が旧5村全て現存しており、この内容を歴史文化資源の把握に用いることとする。なお、明治22（1889）年以前の旧17村に対応する村史は、『国見町史 第4巻』（現代・村誌・民俗資料）に掲載している。

本町の自治体史の記載内容を歴史文化資源分類表（表3-1）と比較すると、古文書・考古資料・歴史資料・民俗・史跡に偏重している傾向があり、上記以外の歴史文化資源については、自治体史以外からの情報収集によって補完する必要がある。

② 文化財総合調査・悉皆調査

県内に所在する文化財の所在を悉皆的に調査したもので、福島県教育委員会・福島大学等が実施した文化財基礎調査報告書を中心とする（一部、財団法人による委託調査、社団法人による調査研究が含まれる）。総合調査・悉皆調査は、文化財の種別ごとではなく、更なる種別内の特定の区分に限定して実施されており、1970年代から現在に至るまで、消失危機に伴う記録保存、文化財分野の拡大に伴う全体把握など、様々な目的に伴い調査と報告書の発行が行われてきた。この調査成果については、各市町村において文化財指定を行う際など、基礎情報として活用されるものである。調査対象の分野は多岐にわたるが、指定等文化財又はこれに準じる価値評価の高い物が掲載される傾向にあり、歴史文化資源の

総合的把握には、より広く情報を収集することとする。

福島大学行政政策学類・阿部浩一氏による『福島県における歴史資料保全と地域 総合資料学の構築に関する研究』（2012～2016年度科学研究費挑戦的萌芽研究課題番号 24650584）は、地域に眠る古文書の所在確認の必要性から、町史編さん時の古文書類を中心として再把握と一部追加調査を行い、まとめている。

③ 文化財調査報告書

本町が実施した文化財調査報告書、又は本町が企画・発行を行った文化財の解説書である。

『国見町文化財調査報告書』（国見町教育委員会、昭和47〔1972〕年第1集刊行）は、町内の埋蔵文化財及び建造物等の調査報告書であり、令和2（2020）年3月に第32集を刊行している。

『ふるさとの文化財 一菊池利雄先生『広報くにみ』文化財寄稿集一』（国見町教育委員会、平成24〔2012〕年）は、長年本町の文化財保護に尽力された菊池利雄氏と国見町史編さん室が『広報くにみ』に寄稿した記事を中心に再録したものである。町の広報という性格上、同書に掲載した歴史文化資源は町民の認知度が高いものが多い。

『国見町埋蔵文化財地図』（国見町教育委員会、平成27〔2015〕年）は、本町に所在する埋蔵文化財包蔵地（遺跡）を一覧表と地図で示したものである。

『国見町歴史的風致維持向上計画』（国見町、平成27〔2015〕年）は、本町が今後保存・活用すべき7つの歴史的風致とその構成要素について解説し、それらの維持向上に関する方針を定めたものであり、歴史文化基本構想との整合性を図るべきものである。



写真 3-1 『ふるさとの文化財』

④ 地域誌・記念誌

国見町郷土史研究会が発行する『郷土の研究』が該当する。昭和48（1973）年の第1号発行以来、年1回の発行を基本とし、平成31（2019）年3月に第49号を刊行している。

当初は指定等文化財の調査・解説を中心としたが、現在までに調査記録や研究会の活動報告など、内容は多岐にわたり、地域に存在する歴史文化資源を広く把握する上で貴重な情報源となる。

このほか、国見町教育委員会が、町内に伝承される民話の翻刻集として、『国見の民話』（昭和60〔1985〕年）、『続・国見の民話』（平成2〔1990〕年）を発行している。

⑤ その他（普及書・ガイドブック等）

本町が発行した『国見町食卓図鑑 2016』『国見町食卓図鑑 2016 PART2』が該当する。本町における食文化の記録集として発行されたもので、町民から寄せられた家庭料理・行事食・



写真 3-2 『郷土の研究』



写真 3-3 『国見町食卓図鑑 2016』

郷土食のレシピ、本町で収穫される食材、家庭に伝わる年中行事などについてまとめている。

このほか、国見町公民館や国見町郷土史研究会が開催した「歴史教室」「歴史講演会」などの配付資料が確認される。

(2) 歴史文化資源把握のための調査の実施

(1) の基礎資料の整理を踏まえ、下記調査により歴史文化資源の把握を行う。

① 歴史的建造物悉皆調査の実施

本町ではこれまで、文化財保護法をはじめとして、県並びに町の文化財保護条例に基づく指定を行い、歴史的建造物の保存・活用に取り組んできたが、町内に存在する歴史的建造物全てを把握するための既往の調査がなく、今後、保存と活用を図る必要がある建造物を把握するため、平成 27（2015）年度・平成 28（2016）年度の 2 か年にわたり、歴史的建造物悉皆調査を実施した。

調査では、町内全地区に現存する社寺建築及び民家・近代建築・近代化遺産（以下「民家等」という。）のうち建築後 50 年を経たもの等を対象とした。外観からの目視、聞き取りにより、物件の所在、建築年代、構造形式等を記録し、伝統的形式を持つ社寺 74 件（209 棟）、本町特有の石造建築物や産業発展の歴史につながる地域の特色が現れている民家等 1,207 件（1,963 棟）について第一次調査台帳として整理を行った。

② 文化財悉皆調査の実施

平成 26（2014）年度・平成 27（2015）年度の 2 か年にわたり町内全域の祭礼の悉皆調査を実施し、基礎資料を作成した。調査では、地域住民に対する聞き取り、写真撮影を実施し関連する歴史文化資源の収集・整理を行った。

平成 29（2017）年度には、本町の歴史文化について記述された重要な文献 98 点（国見町史、郷土誌、文化財調査報告書等）及び関連資料の調査を実施し、歴史文化資源情報の抽出を行った。調査では、既往の基礎資料及び建造物悉皆調査結果を情報源とし、対象は文化財分類やテーマ等で絞ることなく、町の歴史や文化に関連する情報をくまなく取り上げた。

また、同年にはアンケート方式による歴史文化資源の情報収集を実施した。当該アンケート調査は文献調査では把握し難い地域に潜在する歴史文化資源を把握するため、町内全 3,291 世帯を対象とし、内容を町民の生活文化（生活民具・生業用具・祭礼行事・風俗慣習・冠婚葬祭・通過儀礼・屋号・家印など）に絞って実施した。

これらの調査で得られた歴史文化資源 5,424 件は一覧表として分類ごとに整理・精査し、この中から地域にとって重要視すべきもの、特徴的なものについて選択し、文化財カルテ 709 件を作成した。また、カルテに記載された文化財を分類別に図示した文化財分布図を作成した。

③ 聞き取り調査

平成 29（2017）年度に実施した情報収集の補足に加え、関連文化財群の設定、歴史文化資源の保存・活用の方針を検討する材料として、町内聞き取り調査を実施した。

主に美術工芸品や講及び信仰、養蚕に関わる実態等について個別に聞き取りを行う形式で実施し、また、各地区の歴史文化資源との関わりや、後世に伝えたい活動等をテーマに集団型の聞き取り調査及び住民ワークショップを実施した。文献から得られない情報を収集するとともに、既知の歴史文化資源を含めた記録（写真・動画撮影等）の実施を含むものとした。

④郷土史家菊池利雄氏所蔵資料調査

地域の歴史文化資源の総合的な把握を行うため、平成28(2016)年度から平成30(2018)年度の3年間、計60回にわたり、長年本町の歴史資料の研究・収集に努めてきた菊池利雄氏から聞き取り調査を実施し、資料の把握作業を行った。研究論考・論文・成果物について資料は2,000点以上に及び、歴史地理・文献史学・民俗学・地学など、幅広い研究フィールドと本町に関わる様々な視点からの研究業績について整理を進めた。

3 国見町の歴史文化資源

本項では、前記の「歴史文化資源の総合的な把握の方法」に基づいて把握した歴史文化資源の概況を分類ごとにまとめる。なお、地区ごとの内訳は表3-6～3-10を参照とする。また、以下書籍名は副題を割愛する。

(1) 有形文化財

① 建造物

建造物は平成27(2015)年度から同28(2016)年度に実施した『国見町歴史的建造物悉皆調査』の成果を精査し、計861件を把握した。

同調査によって、町内全域の建造物の把握は一応の成果が出たが、今後はこの調査成果を積極的な保存・活用に向けて有効に利用すべき段階にある。

ア) 社寺・仏堂

『国見町歴史的建造物悉皆調査』において、現存する社寺・仏堂建築(境内付属屋含む)について計76件(217棟)を把握した。

各集落に所在する社寺・仏堂建築は、景観形成において重要な役割を担っており、また、社寺が司る信仰や祭礼の場として地域との密接な関係を持つことから、重要な位置を占めるものである。

既往の総合調査・悉皆調査においては、『福島県の建造物』(福島県教育委員会、昭和49〔1974〕年)の第一次調査一覧表に、泉秀寺(泉田字立町)・沼田神社(徳江字沼田)・御瀧神社(光明寺字滝沢)・八幡神社(高城字前)など、22件(25棟)の記載があった。いずれも第二次調査の実施対象とはなっていない。

表3-6 国見町の歴史文化資源(有形文化財)

分類	種別	区分	藤田	小坂	大木戸	西大枝	森江野	その他	合計
有形文化財	建造物		228	157	210	92	174		861
	美術工芸品	絵画	33	7	6		16	14	76
		彫刻	38	19	15	6	22		100
		工芸品			10	3	1	8	22
		書跡	27	8	4		8	29	76
		典籍	4				2	1	7
		古文書	3,992	1,794	1,463	1,726	1,126	223	10,324
		考古資料	4	8	19	5	13	9	58
	歴史資料	40	24	19	9	14	55	161	
合計			4,366	2,017	1,746	1,841	1,376	339	11,685

※その他は地域が定まらないもの。

いないが、各建築の備考欄には、沿革や建築年代に関する記述があり貴重な記録といえる。『福島県の近世社寺建築』（福島県教育委員会、昭和56〔1981〕年）には、安養寺本堂（高城字北）が第二次調査対象物件として、解説及び図版が掲載され一定の評価を受けている。

指定文化財として保護されている社寺・仏堂建築は、沼田神社本殿彫刻（町指定有形文化財、徳江字沼田）・東大窪八幡神社（町指定有形文化財、高城字前）・福源寺地藏庵観音堂（町指定有形文化財、鳥取字鳥取）の3件である。

沼田神社本殿彫刻は、弘化年間（1845～1848）頃に伊達郡高成田村（現：伊達市保原町）の仏師長谷川雲橋・雲谷親子によって制作されたものと伝わる。

東大窪八幡神社は、前九年の役（1051～1062）で功のあった源頼義・義家父子の末孫義高が創建したと伝わる。覆堂内に建つ本殿で、彫刻は素朴だが一間社流造の建築様式は貴重である。

福源寺地藏庵観音堂は明治8（1875）年に建築された土蔵造の仏堂で、堂内には明治9（1876）年の天井絵があり、正面板戸には「山口村 棟梁宇源次」の墨書が確認できる。

『国見町歴史的建造物悉皆調査』においては、龍雲禅寺薬師堂（石母田字芹沢）・最禅寺本堂（貝田字寺脇）・愛宕神社社殿（石母田字盗人返）・泉秀寺山門及び弁天堂（泉田字立町）・西堂薬師堂（内谷字岩下）・観音寺観音堂及び鐘楼（徳江字団扇）・西松寺観音堂（西大枝字古館）などが近世に遡る建築と判断された。また、地域の特徴的建築形式として国見石などによる石造の社寺・仏堂建築も確認されている。

このほか、調査成果には、建築年代や工匠が明確なもの、伝統的な社寺建築の様式を保つものなど、指定文化財・登録有形文化財としての要件を満たすものが認められ、これらは今後の積極的な保存・活用に努める必要がある。一方、『国見町歴史的建造物悉皆調査』は外観からの調査によるものであるため、覆屋内にある神社本殿や各建物の内部調査も必要である。

イ) 民家（農家・町家・近代和風建築など）

『国見町歴史的建造物悉皆調査』において、現存する民家（付属屋含む）について計742件（1,432棟）を把握した。

既往の総合調査・悉皆調査においては、『福島県の建造物』（福島県教育委員会、昭和49〔1974〕年）の第一次調査一覧表に、旧佐藤家住宅（県指定重要文化財、藤田字観月台）1件が掲載されている。『福島県の民家』（福島県教育委員会、昭和54〔1979〕年）には、旧佐藤家住宅のほか、江戸時代中期から後期に建築された2件の民家が第二次・第三次調査対象物件として、解説及び図版が掲載され一定の評価を受けている。『福島県の近代和風建築』（福島県教育委員会、平成10〔1998〕年）には、奥山家住宅（国登録有形文化財、藤田字北）をはじめとする明治時代から昭和時代初期に建築された住宅7件と藤田駅の計8件が掲載されている（藤田駅は近代化遺産に分類した）。

指定文化財として保護されている民家は、上記の旧佐藤家住宅のみである。江戸時代中期における中



写真 3-4 安養寺本堂



写真 3-5 沼田神社本殿彫刻



写真 3-6 福源寺地藏庵観音堂

流農家の典型的な住居で、昭和 47（1972）年の東北自動車道工事に伴い町に寄贈され、小坂字木八丁にあったものを藤田の観月台公園敷地内に移築、その後、観月台文化センターの整備に伴い現在地に再移築した。

国登録有形文化財として保存・活用されている民家には、奥山家住宅がある。奥山家住宅は天保年間（1831～1845）に当地で呉服店を興し、明治時代から昭和時代初期にかけて金融業・不動産業等を営んだ3代目・奥山忠左衛門が、奥山家の迎賓館として大正 10（1921）年に建築したものである。設計は大内設計（福島市）の大内官平、棟梁は阿部佐七によるもので、純和風の主屋と、高い積石の土台・タイル張りの外壁・八角の塔屋を持つルネサンス様式の洋館で構成される。

『国見町歴史的建造物悉皆調査』においては、64 棟の茅葺民家を把握した（主屋のほか、納屋・木小屋など付属屋を含む）。多くは金属板等を被覆するもの、少なからず改造を受けたものである。

また、主屋には、あづま造り（又は兜造り）と呼ばれる福島県北部における養蚕農家の代表的な屋根形式を持つものが確認された。また、近代になり養蚕業が隆盛すると、広くて高い二階及び大屋根を持ち、大棟に気抜きを設け、通風と採光を確保するために二階柱間装置の全開放を可能とする、養蚕に特化した民家形式が増加し、同様の民家は昭和戦後期（昭和 30〔1955〕年代後半）の養蚕衰退期まで続く傾向が見られた。

付属屋には納屋、土蔵、石蔵、門・塀、^{もみ} 糶蔵、風呂・便所などが確認された。

土蔵は明治時代までは、外壁が中塗り仕上げ、大正時代から昭和時代初期にかけて外壁を漆喰で塗り込めるものへと変遷していく傾向にあると考えられた。大正時代以降は^{なまこ}海鼠壁等による重厚な意匠・装飾も確認できるが、一方では石蔵の普及に伴い、土蔵の全体数は減る傾向にあったと考えられる。

石蔵は町内全域に分布が見られる地域を代表する建築形式であり、総体として保存・活用に取り組むべきものである。特筆すべき石蔵として有限会社伊藤石材が所有する石蔵（森山字中ノ目）が挙げられる。大正 6（1917）年に石工職人・伊藤柳太郎自らが自宅敷地に建築したもので、大木戸地区で採掘した国見石を使用した、本町における石蔵建築の第 1 号であることが明らかとなっている。

大規模農家は門・塀を持つものがあり、屋敷の格式をうかがうことができる。中～大規模農家では糶蔵が散見された。糶蔵は現状で物置としての使用がほとんどであるが、農業と密接な関係にある付属屋である。近世の墨書が確認されたものや、近隣から移築したものなど、様々な歴史背景を持つものが存在する。風呂・便所は主屋側に付属する場合と、別棟で建つ場合がある。腰部を石張り、正面軒をせがい造とするなど、やや質の高い形式で建てる事例が多く確認された。

このほか、建築年代は比較的新しいが、別棟の蚕室やあんぼ柿の干場は本町の生業と深い関わりのある建築であり、地域の景観形成における特徴的な建築といえる。

民家の変遷は地域の生業・生産活動と密接な関係にあり、地域の歴史と人々の生活を如実に示すものとして貴重であるが、その変遷をより明確にするためには、建築年代の精査や間取り・構造などの内部



写真 3-7 旧佐藤家住宅



写真 3-8 奥山家住宅



写真 3-9 伊藤石材石蔵

を含めた建築調査の蓄積と類型化が必要不可欠である。

ウ) その他 (近代建築・近代化遺産など)

『国見町歴史的建造物悉皆調査』において、現存する近代建築・近代化遺産などについて計 43 件を把握した。

既往の総合調査・悉皆調査においては、『日本近代建築総覧』(日本建築学会、昭和 58 [1983] 年)に、奥山家住宅・大木戸小学校(大木戸字霞原)・藤田駅(山崎字北町田)の 3 件が掲載されている。なお、大木戸小学校は昭和 2 (1927) 年建築の木造校舎、藤田駅は昭和 9 (1934) 年建築の駅舎として掲載されたものだが、いずれも建て替えに伴い現存しない。

『福島県の近代化遺産』(財団法人福島県文化振興事業団、平成 22 [2010] 年)には、奥山家住宅・藤田駅・旧小坂村産業組合石蔵(内谷字西堂)の建築 3 件に加え、貝田姥神沢旧鉄道レンガ橋(貝田字寺脇)・半田銀山二階平坑口跡(泉田字二階平)・観月台沼(藤田字観月台)・高低几号標(藤田字堤下)の土木構造物 4 件、計 7 件が掲載されている。

指定文化財として保護されている建造物は、貝田姥神沢旧鉄道レンガ橋(町指定有形文化財)と半田銀山二階平坑口跡(町指定史跡)の 2 件である。

貝田姥神沢旧鉄道レンガ橋は、明治 20 (1887) 年から大正 9 (1920) 年まで鉄道(現:JR 東北本線)が敷設されていた名残を残すレンガ造の橋梁(現在は町道の一部)であり、重厚な造りとアーチ構造による近代化遺産である。

半田銀山二階平坑口跡は町指定史跡となっているため(4)記念物・①遺跡を参照とする。

国登録有形文化財として保存・活用されている建造物には、旧小坂村産業組合石蔵がある。政府供出米を保管するため建てられた木骨石造の倉庫で、壁体を国見石による石積とし、小屋組はキングポストトラスとする。内部は土間の一室で壁に依摺丸太を付している。本町に数多く残る石造建築物のうち最大規模で地域の特色を良く示すものである。

『国見町歴史的建造物悉皆調査』においては、このほか旧稚蚕飼育所(森江野字辻西)や、鉄骨造の火の見櫓が特徴的な建造物として挙げられる。旧稚蚕飼育所は昭和 40 (1965) 年代の建築とされる。養蚕業における生産システムの集中化を担った施設の一つであり、本町における養蚕の歴史の変遷を示す建造物である。鉄骨造の火の見櫓は、各大字に少なくとも 1 か所ずつ設置した計画性がうかがえ、昭和 30 (1955) 年代の年号を持つものが確認されている。

これらは、地域の近代化と密接な関係にあり、比較的近い過去を示す物証として地域特性を探る上で欠かせない存在である。

② 美術工芸品

美術工芸品は全体で計 10,824 件を把握した。

いずれも、街道を中心とした文化交流によって本町にもたらされた貴重な歴史文化資源といえる。既往の所在調査が比較的豊富な分野であるが、一方で個人所有の事例も多く、実態の全体把握が困難であ



写真 3-10 貝田姥神沢旧鉄道レンガ橋

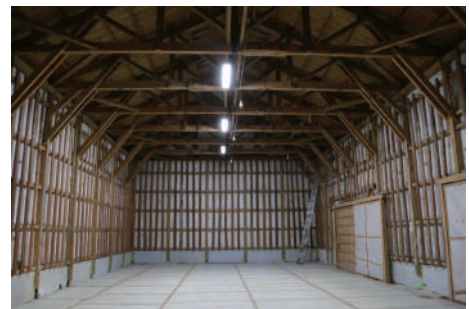


写真 3-11 旧小坂村産業組合石蔵 (内部)



写真 3-12 火の見櫓 (山崎字館東)

り、個別に情報を収集する活動が必要といえる。

以下、区分ごとに内訳と歴史文化資源の概況を示す。

ア) 絵画

絵画は計 76 件を把握した。

内容は仏画・掛幅画が大半で、このほかに襖絵・肖像画・水墨画・絵巻物・屏風絵など多岐にわたる。

特筆すべきものとしては、福島県を代表する画人として、写山楼画塾を開き門人から大家を輩出した谷文晁（1763～1841）、県北に適山派の画人を多く生んだ南画家・熊坂適山（1796～1864）、適山の門人である菅原白龍（1833～1898）、西大枝深山神社の廻米絵馬（町指定有形民俗文化財）を描いた絵師・佐藤名平（雅号：佐州）が残した掛幅画など 4 件が挙げられる。

また、『福島県の絵画・書跡』（福島県教育委員会、昭和 51〔1976〕年）には 57 件掲載されているが、本町を出自とする著名な画人については詳細な報告はなく、また、仏画も近世を遡るものは報告されていない。作者に葛飾北斎、坂本龍馬等の氏名も見られるが、一覧表の性格上、真贋や本町に伝来した経緯などは不明である。

イ) 彫刻

彫刻は計 100 件を把握した。

大多数が仏像・頂相^{ちんぞう}であり、このうち、仏像 3 件については町の指定有形文化財としている。

『福島県の彫刻』（福島県教育委員会、昭和 50〔1975〕年）には、第一次調査対象として仏像・頂相 91 件が掲載されている。このうち、三常院（光明寺字鹿野）木造阿弥陀三尊仏立像、安養寺（高城字北）一木造薬師如来坐像は、第二次・第三次調査対象として若干の解説が加えられている。

三常院木造阿弥陀三尊仏立像（町指定有形文化財）は、16 世紀の制作と考えられる阿弥陀如来・観音菩薩・勢至菩薩の三尊立像である。元文 2（1732）年に会津若松城下の仏師により補修されたとの記録が中尊の胎内に納められた『御再興略縁起』に記されている。同縁起には、慈覚大師の作とされ、「三常院が焼失した際には自ら飛び出す」、「突然後光が輝きわたった」などの伝承が伝わり、長く地域の信仰を集める仏像である。

安養寺一木造薬師如来坐像（町指定有形文化財）は南北朝時代から室町時代初期の制作と考えられ、日光・月光菩薩像が伴う。宝永 7（1710）年に東大窪・西大窪村（現在の大木戸・高城地区）の住民により修繕されたとの記録が残る。安養寺の縁起によれば、慈覚大師の作と伝わり、元和 8（1622）年に安養寺が開山される前に存在していた「大光寺」（高城字山居）の本尊であったとされる。

福聚寺（光明寺字沼）木造虚空蔵菩薩坐像（町指定有形文化財）は、15 世紀前半の制作と考えられる寄木造、錆漆地の仏像である。繊細な表情に、衣文の彫出は浅くなっているが、胸部にはうねるような衣文表現が見られる。福聚寺は、伊達五山の一つである「光明寺」の塔頭で、伊達氏初代当主朝宗の夫人の墓を守る寺として続いたと伝わる。



写真 3-13 三常院木造阿弥陀三尊仏立像



写真 3-14 安養寺一木造薬師如来坐像



写真 3-15 福聚寺木造虚空蔵菩薩坐像

彫刻は全体として制作年代が明らかでないものが多数であった。当時の世相や信仰を図り知る上で、この解明は今後の歴史文化資源の把握に必要不可欠である。

ウ) 工芸品

工芸品は計 22 件を把握した。

このうち、『福島県の金工品』（福島県教育委員会、昭和 48〔1973〕年）には、社寺又は個人が所有する灯籠・銅鏡・刀剣など金属工芸品 12 件が掲載されている。金工品について一定数の歴史資源が確認されたのは、隣接する梁川町の鍛冶・鋳物師が信達地方に名が知られた職種の一つであったことに関連し、一部は梁川町から街道を通じて本町へ伝わってきた可能性も推測される。

漆工品に関する調査報告として、『福島県の漆工品』（福島県教育委員会、昭和 58〔1983〕年）が発行されるが、本町所在の漆工品は掲載がない。

このほか、『郷土の研究』（国見町郷土史研究会）には、町文化祭の展示品目録が掲載され、この中に個人所有の工芸品が多く含まれている。

工芸品全体として個人の私有財産が多く、所在の把握が難しい。また、特定の分野ごとに調査が行われており、一部の分野（染色・陶磁・石造品など）は歴史文化資源の確認に至らず、今後の調査を要する。

エ) 書跡・典籍

書跡・典籍は計 83 件を把握した。

屏風・書簡・和歌・石碑・額などに記される書跡が多く確認された。

明治維新後に鹿島神社（藤田字北）の宮司を務めた国学者・書道家の菅山月（本名・菅野利平、1804～1880）の書跡について、『郷土の研究 第 24 号』（国見町郷土史研究会）の特集には 24 件が掲載されている。また、『福島県の絵画・書跡』（福島県教育委員会、昭和 51〔1976〕年）には 27 件の書跡が掲載されている。作者に佐久間象山、勝海舟、山岡鉄舟などの氏名も見られるが、一覧表の性格上、真贋や本町に伝来した経緯などは不明である。

このほか、奉額や石塔等、信仰に関する筆跡も多く、鹿島神社には旧藤田宿で呉服業を営んでいた 2 代目奥山忠左衛門が、東京日本橋長谷川次郎左衛門の斡旋で、有栖川宮熾仁親王に嘆願して御染筆してもらったという「鹿島神社」「医薬神社」の奉額が残されている。

オ) 古文書

古文書は計 10,324 件を把握した。

主要な古文書は『国見町史』において翻刻・解説が充実している。町史編さんに関わる基本史料として古代から現代に至るまで、重要な物を中心に、かつ、政治支配・戦争・村町の状況・土地・年貢・人口・産業・商業・交通・訴願・寺社・教育・文化等の各分野を網羅的に把握できるよう掲載に努めている。

本町の古文書は、明治 22（1889）年に行われた合併以前の旧 16 か村を受け継ぐ区が所有する区有文書に多くの古文書が存在していることが特徴である。このほか旧名主や豪商・豪農

の有力な家だけでなく中堅農家などの家々が残してきた諸家文書、多くの公的文書が残されてきた県庁文書・国見町役場文書が存在し、本町が歩んできた多くの歴史を直接的に語る資料として貴重である。

特筆すべき古文書には、伊達晴宗判物・伊達政宗書状があり、町指定文化財（美術工芸品）となっている。戦国期における伊達氏の動向を伝える貴重な史料であり、町内唯一の中世文書とされる。

近世文書は、上杉・本多・松平・伊達預かり・木下・幕領と領主が変遷した本町の領主・代官に関わる文書のほか、村況、土地、年貢、村方文書、産業、交通、文化、一揆・戊辰戦争などの多様な資料が

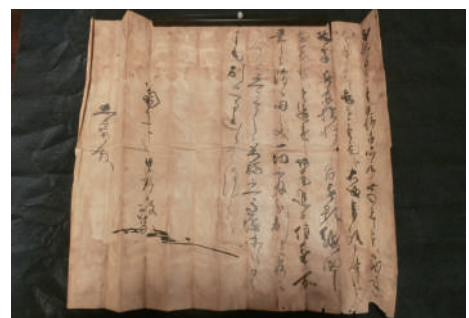


写真 3-16 伊達政宗書状

残されている。領主の交替時の「村明細帳（村差出帳）」、幕府の諸国巡検使が来訪した際の「後巡検案内帳」が、当時の村々の状況を残している。また、上杉藩領時代に行われた万治2（1659）年の検地（万治の縄）による「御蔵給人定納帳」、その後の幕領時代の代官国領半兵衛によって行われた、寛文11（1671）年から延宝2（1674）年にかけての総検地による各村の「検地帳」が確認され、「皆済目録」「年貢割付状」とともに江戸時代を通じた土地・年貢の状況を如実に表している。「宗門人別帳」、村役人などが記した村方文書も多くが残され、「御用書留帳」などに諸役や村内に関わる記録が多く残されているほか、農業に関わる割水（分水・水掛り・番水など）・ため池や林業に関わる資料・入会地に関わる資料も多い。また、各寺社の縁起文書には、周辺地域の歴史文化資源に関わる記述も残り、地域の歴史を伝える重要な資料となっている。文化に関わる資料としては、義経の腰掛松が名木として多くの旅人や文化人に知られていたことから関連する文書が残されている。

近代文書は、明治初期の戸長役場及び旧16か村の行政文書や、昭和29（1954）年に行われた合併以前の旧5町村の行政文書・議会議事録などが区有文書・県町所有文書の中に残されている。江戸時代以降盛んであった養蚕業に関わる資料や商工業に関わる資料については、諸家文書に残されており、奥山忠雄家文書など本町の近代化に貢献した名望家の文書には、鉄道・銀行などの誘致に関わる資料が確認される。

カ) 考古資料

考古資料は計58件を把握した。

石器・土器が大多数で、このほかに装身具（玉・環・耳飾り）、副葬品（埴輪・刀）、祭祀用具（鏡・石製模造品）、鉄滓（製鉄遺跡）、瓦（寺院跡）が散見される。多くは遺跡からの出土品であり、『国見町史』に図録として掲載されている。発掘調査に伴う出土品は行政が所蔵・管理しており、町が主体となって発掘調査を行った遺跡の出土品は、国見町文化財センター「あつかし歴史館」において一部公開を行っている。

出土品はその遺跡の性格を裏付けるものとして、また、本町における人類の生活の歴史を示すものとして貴重であるが、汎庸な出土品の詳細は遺跡との関連性に鑑み（4）記念物・①遺跡を参照とする。

なお、美術工芸品としての造形美の観点から特筆すべきものとしては、^{すはまそうちようきょう}洲浜双鳥鏡（堰下古墳）、円筒埴輪（塚野目第一号墳）、^{わらびて}蕨手刀（大木戸古墳群）、石製模造品（反畑遺跡、矢ノ目遺跡、塚野目第11号墳、堰下古墳など）などが挙げられる。古墳時代の遺跡に関する出土品が多く、本町における当時の祭祀を示し、被葬者（豪族）の権威を象徴するものとして貴重な存在である。

キ) 歴史資料

歴史資料は計161件を把握した。

対象が広い概念で捉えることができるため、体系的な所在調査が行われることはなかったといえる。既知のものとして、歴史的出来事や人物の功績に対する記念碑・顕彰碑が多数確認され、このほかに句碑・歌碑・道標などがあり、『国見町史』などに掲載が確認される。

厚樫山故戦将士碑は阿津賀志山の戦いの記念顕彰碑であり、明治18（1885）年に合戦から700年を記念して建立されたものである。義経腰掛の松の碑は寛政12（1800）年10月、

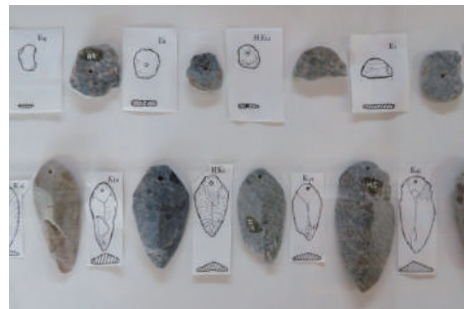


写真 3-17 石造模造品（反畑遺跡出土品）



写真 3-18 義経腰掛の松の碑

桑折代官の岸本彌三郎（源一成）が松の伝承について撰文し、松の長寿を詠んだ和歌を添え、碑文を弘前藩右筆の星野六蔵尚賢と見られる随古堂素閑が揮毫したものであり、奥州街道の名所として今日まで伝わっている。芭蕉記念碑は昭和42（1967）年に旧奥州街道脇に建立されたもので、『おくのほそ道』において詠んだ伊達の大木戸に因んだ記念碑である。いずれも土地の歴史性を示す一助として認知されている。

ため池（観月台ため池、太田ため池、雨沼、内谷沼など）・水源開削（内谷大窪）・峠道開削（慶応新道）・河川及び堤防（滝川、阿武隈川、普蔵川）など土木工事（改修含む）の完成記念碑は、人々の生活向上の歴史を示すものとして貴重な存在といえる。

若くして半沢農園の経営にあたり、国見町初代町長として農村振興にあたり特に和牛改良に尽力した半沢殷保の頌徳碑、半沢殷保の曾祖父である半沢経山（経山道人）の筆塚、関流和算家である岡田盛正翁の碑など、地元有志の功績を後世に伝える顕彰碑も多く見受けられ、本町における人物史の把握に欠かせない存在といえる。

また、個人所有又は既往文献に掲載される古写真などもこの区分に属する。古写真はかつての町の景観を如実に示すものとして貴重であり、今後、収集を広めていく必要がある。

（2）無形文化財

① 芸能

既往文献に該当するものは見当たらない。音楽・舞踏・演劇・雅楽・能楽・歌舞伎・人形浄瑠璃・邦楽など、特定の地域や技能集団によって数代にわたって継承され、地域の歴史文化として認知されているものは把握できなかった。

② 工芸技術

『国見町史』より本町で行われていた可能性のある織物・紙漉きに関する工芸技術について、計3件を把握したが、いずれも中世の技術であり、現在までに伝承が途絶えていると考えられる。『福島県の伝統工芸技術』（福島県教育委員会、昭和56〔1981〕年）にも本町の工芸技術は掲載がない。よって本町における工芸技術は把握されなかった。

（3）民俗文化財

① 有形の民俗文化財

有形の民俗文化財は計592件を把握した。

『国見町史』（第1巻〔通史・民俗〕、第4巻〔現代・村誌・民俗資料〕）の記述を中心とするが、『郷土の研究』に掲載された特集記事や、町文化祭の展示品目録の中に有形の民俗文化財に属する歴史文化資源が数多く含まれている。また、町民アンケートによる情報提供も多く寄せられた。

有形の民俗文化財は、人々の生活推移を理解するための民俗資料であり、各時代や地域ごとの特徴を明確にするためには、可能な限り時代・区分・地域の偏りなく、より多くの事例を必要とする分野である。現代までに急速な生活環境の変化で失われた資料も多くある中、町民アンケートによると、自宅倉庫などに現在使用していない民俗資料が保管されている事例も散見される。

以下、区分ごとに内訳と歴史文化資源の概況を示す。

ア) 衣食住

衣食住に分類した有形の民俗文化財は計228件を把握した。

衣服については、種類・用途・性別・年齢・季節・状況に応じ、また方言による呼称も含めて数多く

確認された。中でも、生業と衣服の関係性については、『国見町史』（第1巻〔通史・民俗〕）によりうかがうことができる。養蚕業が盛んだった本町は女子労働に依存することが非常に多く、水稲主作地よりも女子の作業用衣服の発達が遅れており、養蚕業の全盛期を迎えた大正時代中期頃、山形県地方から製糸工女とともにモンペが流入し、取り入れられるようになったという。男子の衣服は洋装が普及するまで、シッポに股引が普通で、桑株の多い枝の茂った畑の中を耕すのに便利な形であったという。

生活用具も様々で、食器・石臼・盥^{たらい}・洗濯板・手動ミシン・火熨斗^{ひのし}（アイロン）・裁縫用具・髪結い道具（櫛^{くし}・簪^{かんざし}）・蚊帳・番傘・矢立（携帯用筆記用具）・印籠・喫煙具（キセル・さし〔キセル入〕）などが確認された。また、『郷土の歴史』に掲載された町文化祭の展示品目録より、照明器具（燭台・行灯^{あんどん}・ランプ）や暖房器具（火鉢^{あんか}・行火^{やぐら}・櫓こたつ・火消壺）について多種多様なものが挙げられている。暖房器具が多く寄せられた点は、東北地方としての特徴と考えられる。

地元で産出していた国見石製のカマドや火鉢も本町特有の歴史文化資源として特筆すべきものである。国見石は耐火性に優れた凝灰岩で、上記の用途に適した材料である。

あづま造りと呼ばれる民家の屋根形式は、福島県北部における養蚕農家の代表的な特徴である。旧来は茅葺によるものであったが、時代の変化に伴い、茅葺屋根の維持が困難になっていることから、町内には金属板で覆われたものが散見される。

イ) 生産・生業

生産・生業に分類した有形の民俗文化財は計 49 件を把握した。



写真 3-19 国見石製のカマド



写真 3-20 あづま造りの民家

表 3-7 国見町の歴史文化資源（民俗文化財）

分類	種別	区分	藤田	小坂	大木戸	西大枝	森江野	その他	合計
民俗文化財	有形の民俗文化財	衣食住	6	18	6	10	14	174	228
		生産・生業	10	8		4	3	24	49
		交通・運輸	1	4		2		20	27
		交易	6		1	1		20	28
		社会生活	5	2	4		1	35	47
		信仰	59	19	26	9	32	30	175
		民俗知識	3	1	1			12	17
		民俗芸能		3				7	10
		人の一生						7	7
		年中行事	1			1		3	5
	無形の民俗文化財	風俗慣習	45	48	27	20	24	148	312
		民俗芸能	3	23	3	4	5	20	58
		民俗技術		3	6	2	3	23	37
口頭伝承		67	41	63	46	73	51	341	
合計			206	170	137	99	155	574	1,341

※その他は地域が定まらないもの。

農具・養蚕道具・製糸用具・石工道具など、本町を代表する産業に用いた民具を中心に把握した。

農具には、^{くわ}鋤・^{すき}鋤（馬耕・代掻き）・あお・^こ粗通し・千歯扱き・万石通し・脱穀機・^{とうみ}唐箕・^み箕など、養蚕道具には、はけご・めかご・すいのう・わらだ・^{まぶし}簇・火箸・桑取機、製糸用具には、糸取器・糸繰機・糸返し機、石工道具には、ホッキリツル・矢・サシパ・ツルメ・メッポが挙げられる。

このほか、茅葺屋根の屋根葺き道具一式は、一帯の民家が茅葺であったことを示すものであり、建造物との関連性からも貴重な資源といえる。

今回把握した資源は、生産・生業に用いる道具の一部である。今後は民具の収集・研究を含めた生産・生業の全体把握が必要である。

ウ) 交通・運輸

交通・運輸に分類した有形の民俗文化財は計 27 件を把握した。

荷物の大きさ・重量・種類・運搬方法に適した多種多様な運搬具を把握した。運搬方法で分類すると、背負う運搬具として、背負い籠・タコミノ・やせうま・背みの・になわ・にんぼり・しよいこ・しよいふご・タンガラ、担ぐ運搬具として、ぼて・もっこ・荷ない棒・^{てんびん}天秤棒、人馬によって引く運搬具として、大八車（荷車・リヤカー）・そり・馬車・きんま（木馬）などが挙げられる。形状や呼称が様々で、今後、より多くの保存・記録が必要となる。

なお、本町を象徴する阿津賀志山は、別名「タンガラ山」と呼ばれた。農作業用の背負い籠として用いられた「タンガラ」は、背負ったまま籠に物を入れられるよう口が広く深いつくりとなっているもので、一方に長い山麓を持ち丸い山頂の山容を持つ阿津賀志山が「タンガラ」を地面に伏せたような状態に似ていることに由来する。阿津賀志山は人々が農作業を行う合間に眺める山として田園風景にとけこみ、親しみとともに守られてきた。

エ) 交易

交易に分類した有形の民俗文化財は計 28 件を把握した。

宿札・番所札・通行手形など交通の要衝としての歴史を示す道具や、商家の看板・計量具・計算具が散見され、交易を通じた町の発展をうかがうことができる。

商家の看板には、一心堂薬局・奥山呉服店のものが挙げられる。一心堂薬局は藤田宿で太物商いを営んだ商家・二文字屋から分家した初代・秦喜平治が明治 35（1902）年に二文字屋薬局を開業し、5 年後に一心堂薬店と改称したものである。奥山呉服店は、藤田宿の商家・奥山家の創業によるもので、天保年間（1830～1844）に当地で呉服店を興し明治時代から昭和時代初期にかけては金融業・不動産業等も営んだ。いずれも、本町を代表する豪商であり、往時の藤田宿の発展を示す資源の一つである。

計量具には重量や計量品の形によって様々な形状がある。米などの重量を計る天秤ばかりや計量に用



写真 3-21 唐箕



写真 3-22 タンガラ



写真 3-23 奥山呉服店看板

いる一斗（一升）枿とかき棒、農産物の重量を計る竿ばかり、繭等の重量を計る糸ばかり・携帯竿ばかりなどが挙げられる。稲作・畑作・養蚕に関する計量具で、いずれも本町の生産と交易の特徴をよく示すものである。

オ) 社会生活

社会生活に分類した有形の民俗文化財は計 47 件を把握した。

娯楽用具が中心で、ラジオ・蓄音機・遠眼鏡（双眼鏡）・蛇腹式カメラ・オープンリールテープレコーダーが挙げられる。いずれも近代以降のもので、当時の町民の豊かな暮らしを伝えるものである。

また、学校・教育に関する資料（卒業証書・卒業文集・通知表）、徴兵に関する戦争資料（軍服・軍靴・制帽・肩章）、感謝状・表彰状などが挙げられる。

カ) 信仰

信仰に分類した有形の民俗文化財は計 175 件を把握した。

絵馬をはじめとする奉納物が大多数を占める。『福島県の絵馬』（福島県教育委員会、昭和 52〔1977〕年）や『郷土の研究』における絵馬・奉額の先行調査があり、町内各所で様々な祈願（観音信仰・ネズミ除け・婦女祈願など）を行った絵馬・奉額等の現存が確認された。このうち、8 件が『福島県の絵馬』に掲載されるもので、6 件を町の有形民俗文化財に指定している。

西大枝深山神社の廻米絵馬（町指定有形民俗文化財）は幕領時代、西大枝村名主・佐藤浅次郎が廻米船の安全を祈願し、画家・佐州（佐藤名平）に描かせたもので、荒浜港（現：宮城県亘理町）で年貢米を積み替えている作業情景を描くものである。

観音寺観音堂汽車絵馬（町指定有形民俗文化財）は明治 25（1892）年、徳江タケが汽車の図柄の刺繍絵馬を奉納したものである。いずれも本町の歴史に関係する当時の情景を示すもので、貴重な存在である。

阿津賀志山の麓に所在する阿津賀志山三十三観音八十八大師画像碑群（町指定有形民俗文化財）は、弘化 3（1846）年に伊達郡二之袋村（現：伊達市梁川町）の源右衛門の発願で設けられたものである。地元産の自然石に大師像と観音像が線刻され、四国八十八箇所と西国三十三箇所などをあらい、地域の篤い信仰を示している。

このほか、集落を中心に構成される講が建立した石塔など、本町の信仰に関する歴史文化資源は多岐にわたり、町内各所に散見される。

キ) 民俗知識

民俗知識に分類した有形の民俗文化財は計 17 件を把握した。

昭和戦前・戦後期の教科書類や郷土読本が数多く、当時の教育内容や社会・世相を示す資料として価値を有する。

家相図の作成も確認された。家相図は土地や家の間取りなどの有様と、住人の運勢をみる占術であるが、当時の建造物の間取りを示すことから、建築資料の一部としても有用な存在である。

ク) 民俗芸能

民俗芸能に分類した有形の民俗文化財は計 10 件を把握した。



写真 3-24 観音寺観音堂汽車絵馬



写真 3-25 阿津賀志山三十三観音八十八大師画像碑群

特筆すべきものとして、内谷春日神社太々神楽（町指定無形民俗文化財）に用いる神楽面が挙げられる。明治15（1882）年以来使用されるもので、ひょっここ・日本武尊・大国主命・八幡大神・天手力雄命・天鈿女・白狐・猿田彦・春日神・言代・素戔鳴尊・翁がある。祭礼に欠かせない貴重な道具の一つとして、神楽との一体的な保護が必要である。

このほか、玩具（かるた・コマ・ケンダマ・オハジキ・スキー用具）がいくつか確認された。伊達名勝いろはがるたは、昭和26（1951）年、作詞・蓬田英助、補作・平林有尚（保原町助役）、後藤万七（森江野村公民館長）によるもので、各読み札は伊達地方の名勝地を都都逸で表すものである。本町の名勝地も読み札に採用されており、作成当時における本町の歴史文化に対する認識を垣間見ることができる。

ケ) 人の一生

人の一生に分類した有形の民俗文化財は計7件を把握した。

婚礼・産育の祝事に関する資料（結納樽・婚礼衣装〔打掛・丸帯〕・祝産着）などが挙げられる。

コ) 年中行事

年中行事に分類した有形の民俗文化財は計5件を把握した。

行事用具として、雛人形・端午の節句飾り・盆用具や、祝事で餅を搗く際に使用する木臼・杵、花見用の御馳走入れが挙げられる。本町では、毎年8月13・14・15日のお盆に仏壇に提灯をぶら下げる。家によっては新たに簡易の仏壇盆棚を設ける所もある。

行事用具は各家固有のものであり、制作年代や意匠だけでなく、家族の歴史や記憶が込められているものとして今後の記録に努めたい。

② 無形の民俗文化財

無形の民俗文化財は計748件を把握した。

原則として、『国見町史』（第1巻〔通史・民俗〕、第4巻〔現代・村誌・民俗資料〕）の記述を中心に把握した。また、食文化の記録集として発行した『国見町食卓図鑑』（国見町、平成28〔2016〕年）は行事食・郷土食との関連から、家庭に伝わる年中行事について整理が行われており、当文献からも多く把握した。町民アンケートによる情報提供も多く寄せられた。無形の民俗文化財に関する既往調査の情報整理は現代において実施されているものか判断することが困難な反面、町民アンケートでは実施の確認が可能である点において有益な情報が得られた。

以下、区分ごとに内訳と歴史文化資源の概況を示す。

ア) 風俗慣習

風俗慣習に分類した無形の民俗文化財は計312件を把握した。

祭礼：『福島県の祭礼』（福島県教育委員会、昭和55〔1980〕年）及び『福島県の祭り・行事』（福島県教育委員会、平成17〔2005〕年）には、神社祭礼・仏像の御開帳・奉納花火大会・市・講など28件の主要な祭礼行事が掲載されている。このほか『国見町史』などの既往文献もあわせると、多種多様な祭礼を確認でき、また、各神社では年間に複数の祭礼を執り行うこともあるため、祭礼の数は膨大で



写真 3-26 内谷春日神社太々神楽神楽面（ひょっここ面）



写真 3-27 雛人形（奥山家所蔵）

あったことがうかがえる。

特筆すべきものとしては、鹿島神社例大祭（町指定無形民俗文化財）が挙げられる。本町を代表する秋祭りで、露店がひしめく中を神輿や山車が練り歩き、大勢の人でにぎわう。各祭礼においては、特徴的な信仰儀礼も執り行われるが、詳細は次項の信仰において述べることにする。

藤田の商店街で行われる暮市（だるま市）も祭礼の一つであり、町民に馴染み深い。江戸時代の六斎市に起源を持ち、現在まで連綿と続いてきた。だるまは毎年買い替え、徐々に大きくしていくことが慣習とされている。

信仰：各集落で執り行われる神社・仏堂の祭礼においては、特徴的な信仰儀礼が存在する。

沼田神社（徳江字沼田）は夜風除け・ネズミ除けの信仰があり、養蚕上族の頃、本殿の御幣束と拳大の玉石を拝借し、上族室に置けばネズミが近づかないという信仰があった。

小牛田山神社（森山字東新田）は安産の神様を祀り、お産が近い婦人が神社に奉納されている枕を1つ拝借し、お産がすめば2つにして返す慣習がある。

御瀧神社（光明寺字滝沢）は豊富な湧水が御神体であることから、水源とされる大滝・小滝を信仰し、祭礼の一週間前に地域の共同清掃作業として「滝普請」が行われている。

小坂の子育て地蔵尊（小坂字カニ坂）では、地蔵に新しい着物を着せて、木製の箱車に乗せ、小坂地区を子どもたちにひかせる。以前は半田、桑折、藤田まで遊行したという。また、子どもが病床に伏せると、小坂の地蔵を拝借し自宅に持ち帰ったという。

町内には集落ごとに庚申講・二十三夜講・観音講・古峯原講・おふくでん講・太子講・念仏講・えびす講・山の神講・羽山講・雷神講など多数の講が組まれたことが明らかである。このうち、庚申講・二十三夜講・おふくでん講、念仏講等については、現在も一部の地区で継承され、時代の変化に合わせてその目的や形態を変えながら継続しているものが確認されている。

特筆すべきものとして、福源寺地蔵庵観音堂の観音講が挙げられる。信達三十三観音霊場の第21番札所として、観音講の活動が江戸時代から継承されており、巡礼者に対する御朱印の押印と野菜・山菜などを用いたもてなしがお茶場で執り行われるほか、御詠歌・念仏・清掃などの活動が現在に伝えられている。なお、福源寺地蔵庵観音堂は明治8（1875）年の建築とされ、町指定有形文化財（建造物）としている。

年中行事：『福島県の年中行事』（福島県教育委員会、昭和58〔1983〕年）には、本町で行われる12件の年中行事が掲載されている。正月（小正月）・盆・節句・大晦日など生活に関する行事、農始め・早苗振りなど生業に関する行事について、実施の期間・場所・継続状況・行事内容などが記録されている。一見すると一般的な行事も多いが、『国見町史』などのほかの既往文献をあわせみると、現代までに伝承が途絶えている行事、地域的な特徴を含む行事も含めて、各年中行事の子細にまで記述が及び膨大な数となる。



写真 3-28 鹿島神社例大祭



写真 3-29 滝普請



写真 3-30 福源寺地蔵庵観音堂の観音講
(お茶場のもてなし)

生活に関する行事は、正月・小正月に行われる松送り・ドンド焼き・かせどり・鳥追い・三日とろろ・団子さし・稲穂飾り、大晦日から元日に行われる若水汲みなどが挙げられる。

生業に関する行事は正月明けに行う農始めの儀礼、田植え終了の祝いである早苗振り・まんが洗い（農機具清掃）、農作物収穫後の虫供養などが挙げられる。

ハレの食：ハレの食とは、年中行事や祭礼・講、結婚や出産などが行われる特別な日（ハレの日）に食べられる料理をさし、『国見町史』をはじめとして数多くの記述が見られる。

正月の七草粥・小豆粥、桃の節句の赤飯・菱餅・甘酒、端午の節句の笹巻（ちまき）、彼岸のおはぎ・ぼたもち、十五夜（豆名月）・十三夜（芋名月）の枝豆・里芋などは、年中行事の行事食として一般的なものといえる。

盆は家によって新たに簡易の盆棚を設ける所もあり、蓮の葉（又は里芋の葉）の上になすやささぎ、米、砂糖醤油のすいとんなどの料理を供える。盆の食事は各家庭によって様々だが、精進料理が多く、ぼたもち、混ぜご飯、そうめん等を食べるといように、地域的な特徴を残すハレの食も残されている。

特筆すべきは、ごぼうごはん、豆腐ごはんなど、かわりごはんの文化である。一碗で多くの食材や栄養が摂られ、祝事から仏事まで幅広く活躍するご馳走として地域に愛されている。

生活文化：本町を含む阿武隈川西岸の村々は、農業用水を西根堰に頼っていた。かんがいを一定の秩序で行うため、かんがい面積に応じ、上流から一定の時間水を入れ、順次下流に送り、それ以外の時間はかんがいを控える決まりがあった。この水源の管理として、各村からは水番（みずばん）と呼ばれる見張りが立ったとされる。また、水田に水を引く前には、用水路・排水路の清掃（江はらい）・草刈も一斉に行われた。

畑地で生産される野菜等の農作物は多種多様で、保存食として加工する技術や郷土食も地域の人々に根強く伝承されている。これら保存食は農作業時の食事にも活用され、自給自足を支える生活文化の一つといえる。

イ) 民俗芸能

民俗芸能に分類した無形の民俗文化財は計58件を把握した。

神事芸能：県内の主要な民俗芸能の調査報告として、『福島県の民俗芸能』（福島県教育委員会）が昭和58（1983）年と平成3（1991）年の2回発行されており、いずれも本町からは内谷春日神社太々神楽（町指定無形民俗文化財）1件が掲載されている。

内谷春日神社太々神楽は明治15（1882）年に三春地方より伝承された出雲系神楽であり、同年9月19日に第1回奉納が行われた。伝承当時は、秋の例大祭に3日間通して奉納された記録も残っており、他町村の神社の祭礼に招かれるほど洗練された舞であったと語り継がれている。戦中戦後に奉納が中断された時期があったが、昭和57（1982）年に太々神楽保存会が設立され、古老楽人の熱心な指導と若い楽人の献身的な努力により、演目数26座を保存継承している。



写真 3-31 盆棚に供える料理



写真 3-32 豆腐ごはん



写真 3-33 内谷春日神社太々神楽

民謡：『福島県の民謡』（福島県教育委員会、昭和 56〔1981〕年）には、町内に伝承される民謡（田植唄・もんき搦唄・土突き唄・馬方節・伊達さんさ・大津絵・新築祝い唄・盆踊り唄・新町節・なべとぎ唄・飴売り唄・もみどり唄）が掲載されている。新町節は、半田銀山とともに栄えた桑折の遊郭街の唄、そして瀬上の花街の歌として広まったものである。

このほかにも『国見町史』や『郷土誌』からは、様々な民謡・俗謡・わらべうた・子守歌・まりつき歌など、当時の世相を示す資源を把握した。

ウ) 民俗技術

民俗技術に分類した無形の民俗文化財は計 37 件を把握した。

県内の主要な民俗技術の調査報告として、『福島県の民俗技術』（福島県教育委員会、平成 20〔2008〕年）が発行されているが、本町における技術・保持者の掲載はない。一方、『国見町史』を中心として、農産・養蚕・製糸・製織・石工・竹細工・あんぼ柿製造・炭焼きなど、本町で行われた主要産業に関する技術を把握した。このうち、養蚕・製糸・製織・竹細工・炭焼きは、町内では途絶えた状態にあり、現代まで伝承された産業でも機械化に取って代わった技術も多い。



写真 3-34 あんぼ柿作り

江戸時代の本町は竹林が多く伊達郡屈指であったという。光明寺から貝田にかけては「貝田の障子」と呼ばれるほどであった。また、藤田村には「御竹守」がいたことが記録にある。明治時代以降、国策として養蚕業が興隆し、本町の農地は桑畑としての需要が高まったが、これに伴い、養蚕に関する信仰や養蚕用具生産に必要な竹林の発達と竹細工の生産にも力が注がれたことを示している。

養蚕業の衰退後、昭和時代初期から、生業を果樹生産へと変換することで人々は生活を維持し、現在は果樹やあんぼ柿等の加工品を町の特産として成長させた。あんぼ柿製造は現在も手作業による部分が多く、繁忙期には町の至る場所に建つ干場で無数のあんぼ柿が干され、初冬の寒々とした風景の中、鮮やかな色彩が美しく、本町の風物詩となっている。

エ) 口頭伝承

口頭伝承に分類した無形の民俗文化財は計 341 件を把握した。

県内の主要な口頭伝承の調査報告として、『福島県の昔話と伝説』（福島県教育委員会、昭和 61〔1986〕年）が発行されているが、本町に伝承される昔話・伝説の掲載はない。一方、『国見の民話』（国見町教育委員会、昭和 60〔1985〕年）には 108 件、『続・国見の民話』（国見町教育委員会、平成 2〔1990〕年）には 146 件の主要な民話が掲載されている。このほか、『国見町史』にも口碑・伝説・迷信・地名の由来などの記述がまとめられている。

義経・弁慶に関する伝承として、藤原秀衡を頼り源義経が金売吉次とともに平泉へ下向する際に腰を掛けたとされる義経の腰掛松、弁慶が石に足跡（くぼみ）を付けて墨をすったとされる弁慶の硯石、弁慶が踵すずりいしで地面を強く踏んで湧き出たと伝わる踵清水かかどがあり、いずれも自然的名勝地と関連付けられるものである。史実を示す史料はなく、後年の創作と考えられるが、本



写真 3-35 義経の腰掛松



写真 3-36 弁慶の硯石

町における阿津賀志山防塁や平安時代末期の世相を背景に生み出された伝承と考えられる。

このほかにも、自然環境（山・川・沼）・社寺・街道など町内の名所に関連する口頭伝承があり、物語の舞台と関連付けて活用することで、価値の向上を図る必要がある。

（４）記念物

① 遺跡

遺跡は計 375 件を把握した。

埋蔵文化財包蔵地は、これまでの分布・試掘・発掘調査の結果から概況を把握することが容易である。

一方、遺跡の概念は埋蔵文化財だけに留まらず、発掘調査の実施を伴わない歴史文化資源については、今後、可能な限り抽出に努める必要がある。

以下、区分ごとに内訳と歴史文化資源の概況を示す。

ア) 集落・古墳

集落・古墳に分類した遺跡は計 52 件を把握した。



写真 3-37 岩淵遺跡（復元建物内部）

表 3-8 国見町の歴史文化資源（記念物）

分類	種別	区分	藤田	小坂	大木戸	西大枝	森江野	その他	合計	
記念物	遺跡	集落・古墳	10	8	13	6	13	2	52	375
		政治・支配	15	14	15	12	12	10	78	
		祭祀・信仰	10	9	10		4	2	35	
		教育・文化	8	5	16	8	4	4	45	
		社会・生活	14	6	3	3	2	5	33	
		経済・生産	29	22	25	9	12	12	109	
		墳墓・碑	10	4	2	2	3		21	
		由緒地	2						2	
		外国							0	
	名勝地	公園・庭園	1	1					2	57
		橋梁・築堤							0	
		花樹・花草							0	
		鳥獣・魚虫							0	
		岩石・洞穴	1	1	4			1	7	
		峡谷・瀑布			1				1	
		湖沼・湿原	3	1			9		13	
		砂丘・砂嘴							0	
		火山・温泉							0	
		山岳・丘陵	7	2	6	2		16	33	
	展望地点			1				1		
動物・植物・ 地質鉱物 (天然記念物)	動物				1		1	2	39	
	植物	5	1	1	1		1	9		
	地質鉱物	10	3	5		1	9	28		
合計			125	77	102	44	60	63	471	

※その他は地域が定まらないもの。

本町における人類生存の痕跡は、滝沢遺跡の出土品などから旧石器時代に遡る。縄文時代になると遺跡の数は増加し、岩淵遺跡（町指定史跡）・川原遺跡など台地上に分布を見せている。紀元前3世紀頃には、この地方にも稲作を伴った農耕社会である弥生時代を迎え、石包丁や大型蛤刃石斧^{はまぐりばせき}を出土する山田遺跡・割田遺跡などが知られる。農耕生産によってもたらされた貧富の差は階層の分化を促し、3世紀半ばには地域を支配する豪族が出現し、古墳時代となる。町内には塚野目第一号墳（県指定史跡）を主墳とする塚野目古墳群や堰下古墳（町指定史跡）・森山第四号墳（町指定史跡）、王壇古墳（町指定史跡）などがあり、県下有数の古墳地帯をなしている。



写真 3-38 森山第四号墳

8世紀頃には古代律令国家の土地制度と深い関係を持つ条里制による開田が徳江・塚野目などの平野部で進められた。東北地方でも有数の規模を持つ条里制遺構も確認されているが、現存するのは山崎条里遺構のみである。

イ) 政治・支配

政治・支配に分類した遺跡は計78件を把握した。

このうち、『福島県の寺院跡・城館跡』には城館跡16件、『福島県の中世城館跡』には城館跡42件が掲載されている（一部重複あり）。決して広くはない町域に対し、多数の城館跡が確認されており、本町が古くから交通・軍事上の要衝であったことを示している。

このうち、藤田城跡・石母田城跡・塚野目城跡は本町を代表する中世城館跡であり、いずれも町指定史跡としている。

藤田城跡は奥州合戦時における源頼朝の本営と伝わる場所で、以後、伊達氏の一族藤田氏の居城となった。南北朝期に南朝方の重要な拠点となった城であり、北朝軍の総攻撃にあい霊山城とともに落城した。石母田城跡は伊達氏譜代の家臣石母田氏の拠った複郭式の平城である。城跡の各所に土塁や水堀が良好に残され、往時の城郭景観を留めている。塚野目城跡の沿革は明確ではないが、単郭単濠式の城跡が土塁・堀から明瞭にわかる。南北朝期の伝承も残されている。



写真 3-39 石母田城跡

また、阿津賀志山防塁（国指定史跡）は、文治5（1189）年に源頼朝率いる鎌倉軍を迎え撃つため藤原泰衡の奥州軍が阿津賀志山中腹から阿武隈川に向けて約3.2kmにわたって築いた堀と土塁からなる要塞施設であり、本町における歴史文化資源の中心的存在である。奥州合戦の大勢を決した阿津賀志山の戦いは『吾妻鏡』に記されるなど、現代まで伝承され、平泉政権の終焉と鎌倉幕府による武士政権確立を示す重要な史跡の一つである。



写真 3-40 阿津賀志山防塁
（発掘調査現場見学会）

ウ) 祭祀・信仰

祭祀・信仰に分類した遺跡は計35件を把握した。

このうち、『福島県の寺院跡・城館跡』（福島県教育委員会、昭和46〔1971〕年）には、寺院・仏堂跡13件が掲載されている。地域の支配者層の帰依・庇護などによって開かれたが、焼失・移転・廃寺などによって現存しない寺院の跡地であり、土塁・礎石などの出土を伴うものもある。また、同書では

以下4件の寺院跡について「重要」と位置付けている。

徳江廃寺跡は古代の寺院跡で、じゅうべんれんげものきまるがわら重弁蓮華文軒丸瓦・せんかいかもんのきまるがわら旋回花文軒丸瓦・れんげものきまるがわら蓮華文軒丸瓦などが出土する。伊達郡の建郡以前に陸奥国府と関連を持って建設された後、郡衙に伴う郡寺の性格を持つようになったと推定されている。松音寺跡は伊達家12代・伊達成宗の菩提寺で、「伊達兵部少輔成宗之墓」と刻まれた墓がある。正玄堂跡は古瓦などの出土から、平安時代における瓦葺の仏堂であったと想定されている。大正寺跡は中世に天台宗寺院があったとされる。

エ) 教育・文化

教育・文化に分類した遺跡は計45件を把握した。

このうち、『国見町史』からは、近世の寺子屋に関する記述や、近代の学校跡地を中心とした歴史文化資源を把握した。

学制以前の教育の担い手は、藩学・私塾・郷学及び寺小屋であったが、本町域は江戸時代の大半が幕領であった関係で藩学がなく、私塾・郷学も存在しなかった。昭和7(1932)年編さんの各村『郷土誌』には、藤田・小坂・森江野については寺小屋に関する具体的記述は見られないが、大木戸には8件、大枝には5件の寺小屋があったことが示されている。なお、福島県における寺子屋は明治10(1877)年頃までにはほぼ姿を消したといわれている。

泉田小学校跡(町指定史跡)は、泉秀寺を仮校舎として本町最初の小学校が開設された場所である。なお、仮校舎となった本堂は明治20(1887)年に焼失したが、山門は火災を免れ現存している。

オ) 社会・生活

社会・生活に分類した遺跡は計33件を把握した。

『国見町史』より、旧村役場・郵便局・駐在所・病院・保育所・公民館など公的施設の建設地や、簡易水道・堤防改修など社会生活の向上に向けたインフラ整備に関する遺跡について把握した。

カ) 経済・生産

経済・生産に分類した遺跡は計109件を把握した。

古代の遺跡としては、製鉄遺跡(山居製鉄遺跡・雷神山遺跡)や窯跡(山居瓦窯跡・大木戸窯跡〔町指定史跡〕・遠光原山窯跡)を把握した。本町における経済・生産活動の歴史を垣間みることができる。

西根堰やため池などのかんがい施設は、農業と密接な関係にある歴史文化資源である。西根堰は福島市北部から桑折町・国見町を経て伊達市梁川町に至る農業用水路である。江戸時代初期に掘削されたもので、現在も維持管理が行われ本町の農業を支えている。

養蚕が盛んな本町では自家座繰りが行われたが、明治40(1907)年頃から機械製糸が盛んになり従業員が100人を越える機械製糸工場が建設された。

半田銀山二階平坑口跡(町指定史跡)は、日本三大銀山の一つといわれた半田銀山の一部であり、桑折町・国見町内で現存する数少ない坑口跡として貴重である。



写真3-41 徳江廃寺跡出土瓦



写真3-42 泉田小学校跡(泉秀寺)



写真3-43 西根堰

国見石の主要な採石場は12か所あり、全て露天掘りで行われた。はじめは、石の名称を小坂石・西堂石・山崎石・石母田石・国見石など産地別の名で呼んでいたが、昭和15（1940）年に国見石と総称するようになった。

『歴史の道調査報告書 奥州道中』及び『歴史の道調査報告書 羽州街道』（いずれも福島県教育委員会、昭和58〔1983〕年）では、両街道沿いに所在する各要素（口留番所・一里塚・茶屋跡など）が整理されている。また、道路元標や高低几号標など、土地・道路に関する標識も貴重な存在である。旧奥州街道には、松尾芭蕉が『おくのほそ道』で名文とされる「^{いささか}気力聊かとり直し、路縦横に踏んで、伊達の太木戸をこす」と書き記した旧奥州道中国見峠長坂跡（町指定史跡）がある。また、旧羽州街道小坂峠道跡（町指定史跡）は出羽諸大名の参勤交代、御城米の輸送に利用された道跡である。山中を分け入る街道であり、民話の舞台としてもその地名が散見される。

本町域を流れる阿武隈川には橋がなく、徳江船場の渡舟に頼っていた。また、江戸への御城米の輸送を目的とした徳江河岸や水路の整備改修が、江戸の豪商渡辺友以・川村瑞賢などによって進められ、鉄道・陸上輸送が発達する明治時代初期まで続いたという。

キ) 墳墓・碑

墳墓・碑に分類した遺跡は計21件を把握した。

町内各所に所在する墓石・慰霊碑・供養塔・石碑・記念碑が中心で、『福島県の石造文化財』（福島県教育委員会、昭和47〔1972〕年）からは、5件の石塔・五輪塔・石碑を把握した。

古くから評価の高い物として石母田供養石塔（国指定史跡）が挙げられる。徳治3（1308）年に僧智瑄が、先祖の追善供養に建立した板碑で、梵字と功德文が刻まれている。銘文は元の帰化僧寧一山の筆跡で、鎌倉時代における禅密合一の思想を表現した特異なものである。地元では俗に蒙古の碑と呼ばれ、周辺は古刹満福寺の跡といわれている。

光明寺五輪塔は福聚寺境内にあり、伊達氏初代当主朝宗夫人の墓と伝わる。また、伊達氏12代伊達成宗墓には、「伊達兵部少輔成宗之墓」と刻まれた墓碑がある。成宗は晩年梁川城から小坂の小屋館に隠居し、近くの寺家の地に菩提寺・五峯山松音寺を建立したといわれている。いずれも、地域一帯の支配者に関連する墓所・墓碑として本町を特徴付けるものである。

ク) 由緒地

由緒地に分類した遺跡は計2件を把握した。

藤田ホテル観月楼（観月旅館ともいう。）は、大正4（1915）年1月10日に町制施行の祝賀会が開かれた記念性の高い場所であるが、建物は現存しない。



写真 3-44 国見石採石場



写真 3-45 旧羽州街道小坂峠道跡



写真 3-46 石母田供養石塔



写真 3-47 伊達成宗墓

ケ) 外国

外国・外国人に関する遺跡に該当するものは把握できなかった。

② 名勝地

名勝地は計 57 件を把握した。

名勝地に関する体系的な既往調査は確認できず、『国見町史』や『郷土の歴史』の記述によるところが大きい。特に人文的名勝地についてはその把握が困難な状況である。社寺・個人の庭園については優れた作例、自然的名勝地については芸術上又は観賞上の価値評価などの把握に向けた調査が急務である。

以下、区分ごとに内訳と歴史文化資源の概況を示す。なお、歴史文化資源を把握できなかった区分（橋梁・築堤、花樹・花草、鳥獣・魚虫、砂丘・砂嘴、火山・温泉）については記述を割愛した。

ア) 公園・庭園

公園・庭園に分類した名勝地は計 2 件を把握した。

町民の認知が高い名勝地として、観月台公園が挙げられる。公園には、観月台ため池、はなみ橋（つきみ橋）があり、桜の名所としても知られ、風情ある景色を堪能することができる。また、沼には美しい娘をとらえて沼の中に沈めた大蛇の伝説があり、退治した大蛇の頭と尾を埋めた場所に植えたとされるスギが「観月台の大スギ」（福島県緑の文化財）として残る。



写真 3-48 観月台公園

イ) 岩石・洞穴

岩石・洞穴に分類した名勝地は計 7 件を把握した。

本町の地質を特徴付ける凝灰岩や堆積岩が創り出した景観が特筆される。

貝田地区には、「ざらむき」と呼ばれる、荒い堆積岩が風化により丸みを帯びた岩肌となった岩山の地形が存在する。浸食により開口した洞穴（四ツ穴）とともに、大蛇伝説が伝わる景勝地である。



写真 3-49 四ツ穴（ざらむき）

国見町・桑折町町有北山組合が一部を所有し、町内に登山口がある萬歳楽山（宮城県白石市）には、地の底まで続いている

といわれる岩があり、地震があってもびくとも動かないと伝わる。地震がくると、萬歳楽の岩のようにゆれませぬようにと念じて「まんぜろく、まんぜろく」と唱えるようになったという。

ウ) 峡谷・瀑布

峡谷・瀑布に分類した名勝地は計 1 件を把握した。

貝田地区には不動滝と呼ばれる高さ 10 m 余の岩間から落下する瀑布があった。

エ) 湖沼・湿原

湖沼・湿原に分類した名勝地は計 13 件を把握した。

その多くは、町内には古くからかんがい水路に利用した湧水（大清水・清水内湧泉・西畑湧水・囲石湧水・沼田湧水・桜木立湧水など）である。

硯石山の麓には弁慶が踵で地面を強く踏んで湧き出たと伝わる踵清水がある。

オ) 山岳・丘陵

山岳・丘陵に分類した名勝地は計 33 件を把握した。

硯石山は江戸時代の紀行文にも記され、頼朝が平家追討の軍を起こしたと聞いた義経が、急ぎ上国せ

んとしてここに至り、弁慶が山頂の硯の形に凹む石（弁慶の硯石）で墨をすり、馳せ集まる軍兵の名簿を記したと伝えられ、義経・弁慶の伝説と結び付く場所として鑑賞上の価値を有している。

町の南を流れる阿武隈川は『吾妻鏡』にも「^{あぶくまがわ}逢隈河」と記載される河川で、台地状の地形・低地の氾濫原など本町の地勢を語る上で欠かせない歴史文化資源の一つである。町域にあたる流域面積は全体から見ると大きくはないが、徳江船場・徳江河岸・西大枝深山神社の廻米絵馬（町指定有形民俗文化財）の存在からは、本町の歴史との密接な関係が確認できる。

力) 展望地点

展望地点に分類した名勝地は計1件を把握した。

阿津賀志山は、標高が小さい割に低地に向かって突出した位置と丸みを帯びた山頂、緩やかな山麓斜面と相まって際立った山谷を呈している。国見山・経塚山など、軍事拠点や信仰の対象としての別称も持ち、阿津賀志山防塁（国指定史跡）との関連から、一体的な景観の保存に取り組む必要がある。また、山頂の展望台からの風景は、町域を一望できる優れた景観であり、本町の町名の由来の一つでもある「栄えゆく国を眺める」という意味を体現できる場所として重要である。

このほか、前述の硯石山や小坂峠も美しい四季の景観や眺望の良い景勝地として町民から高く認知されている。

③ 動物・植物・地質鉱物（天然記念物）

動物・植物・地質鉱物（天然記念物）は全体で計39件を把握した。

『郷土史』の「第二章 郷土ノ自然地理」には「第六節 天産ノ分布」が設けられ、動物・植物・鉱物の分布状況について述べている。当時の自然環境を示す貴重な資料であるが、天然記念物として生息・現存などを把握するためには自然環境調査が必要である。

以下、区分ごとに内訳と歴史文化資源の概況を示す。

ア) 動物

国の特別天然記念物であるカモシカの棲息が確認されている。また、希少動物について1件（^{かわうそ}獺）を把握した。ただし、文献調査からの記述であり、現在の生息を示すものではない。なお、民話・伝承には狐・牛・猫・鷲をはじめ様々な動物が登場するが、必ずしも生息の事実を示すものではないため、歴史文化資源の把握とは切り離して考える必要がある。

イ) 植物

植物は9件を把握した。既往調査に掲載される名木を中心としたものである。

深山神社の大樫大藤（町指定天然記念物、福島県緑の文化財）は、幹周り4m、葉張り15m、樹齢500年以上の大樹である。義経の腰掛松は源義経が腰を下ろしたという伝説がある。江戸時代の紀行文



写真 3-50 硯石山



写真 3-51 阿津賀志山



写真 3-52 カモシカ

や文学作品・絵図にたびたび登場し、街道を行き来する人々が愛でた笠松であった。焼失、枯死などで代替わりし、現在は3代目の松となっている。

中尊寺蓮は、藤原泰衡の首桶に納められていた蓮の種を蘇らせたものである。平成21(2009)年に岩手県の中尊寺より株を譲り受け、地域の方々により大切に栽培されてきた。

このほか、町内には種まき桜と呼ばれる桜の大樹がいくつか存在し、農事暦・自然暦として、田畑の仕事を行う時期の目安に用いられてきた。

ウ) 地質鉱物

地質鉱物は28件を把握した。

光明寺は御瀧神社の湧水・阿弥陀垂水^{あみだらすい}など、生活・信仰の源となる湧水が豊富な地区である。伊達氏が地頭としてこの地を支配した折に、湧水を抱える湯沢(光明寺の旧集落名)の地に光明寺を建立し、この地を支配し経営した。水の確保が農地の基盤であったためと考えられる。御瀧神社の湧水は、住民の憩いの場であり、また豊富な水量は昔から生活用水や水田のかがいに利用されてきた。阿弥陀垂水は、三常院の御堂本尊の下から湧き出る水で、眼病や皮膚病に効果があるという言い伝えがある。

凝灰岩の露頭から採石した国見石は建築材料として大正から昭和初期に流通した。町内には国見石の採石場や石蔵が現在も多く残されている。

滝川の中流域(滝川橋付近)には凝灰岩の岩盤層を河川が浸食して形成された小規模な渓谷が存在する。岩盤には水流と砂や円礫^{えんれき}の作用により円形の穴(甌穴^{おうけつ})が創り出され、固有の渓谷景観となっている。

(5) 文化的景観

文化財保護法では、文化的景観を「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景勝地で我が国民の生活又は生業の理解のために欠くことのできないもの」として定義し、文化財の一つとしている。

本町では、これまで文化的景観に関する本格的な調査研究は行われていない。そのため、本構想では前述の「景勝地」という場所・区域が特定されるものだけでなく、地域の自然・風土と人々の営み、そ



写真 3-53 深山神社の大榎大藤



写真 3-54 御瀧神社の湧水



写真 3-55 滝川甌穴群

表 3-9 国見町の歴史文化資源(選定文化財)

分類	種別	区分	藤田	小坂	大木戸	西大枝	森江野	その他	合計
	文化的景観		3	4	4	2	3		16
	伝統的建造物群保存地区								0
	文化財の保存技術								0

※その他は地域が定まらないもの。

の成り立ちと変化の歴史、時間の積み重ねによる地域らしさを表す景観について取り扱う。

文化的景観に該当するものは本町を構成する旧村単位である16地域全てで確認したことから、16件を把握した。

まず、江戸時代に整備された奥州街道・羽州街道とともに発展した旧宿場町である、藤田・小坂・貝田の文化的景観を確認した。藤田は、周辺の農村につながる大小の様々な道が伸び、物資が集散する地域の中核的な宿場町として発展する。町並みは変化しつつも、町割り・水路や街道跡は残り、寺社や歴史的建造物を残す。小坂は羽州街道小坂峠の麓にある宿場として、貝田は奥州街道の宿場として整備され、どちらも山間に存在し、仙台藩領との境に位置する口留番所が置かれた。山々と近く、斜面地形に合わせた石積みや地割りを残し、農林業を生業とする人々の暮らしがあった。貝田では、明治期の鉄道開通に伴う大火の困難を乗り越えるために防火を意識した建造物が残るなど、変化の歴史を色濃く残しながらも、宿場町としての面影を残している。

このほか、山間から平野部にかけての農村集落である、泉田・鳥取・内谷・山崎・石母田・大木戸・高城・光明寺・森山・徳江・塚野目・西大枝・川内の文化的景観を確認した。山間では林業や鉱業とも関わりながら、平野部では大小の街道沿いに、阿武隈川に近い低地部では自然堤防などの微高地に集落が形成された。養蚕業から果樹生産へ農業が転換してきた歴史を残す農家住宅や、国見石を用いた石蔵、冬から春先にかけて山々から吹き降ろす風をよけるための屋敷林を集落の家々に見ることができる。周辺の農地には、農業用水の不足を補うためのため池やかんがい用水路がめぐらされている。集落の中心地には、寺社が存在し信仰の場として長く守られてきた。更に、古くから水害に見舞われながらも、阿武隈川とともに歩んできた川内や徳江、豊富な御瀧神社の湧水により形成された光明寺の水利用、半田銀山の歴史と関わる泉田などの特徴が存在する。

長い時間をかけて自然に働きかけ、本町の土地に合った生活や生業を探し出し、町並みや集落と周辺の農地や里山が形成されてきた。それらが、恵みとともに様々な制限や困難を与えてきた、福島盆地の山並みや阿武隈川などの河川といった自然・風土とともに一体となって、本町固有の文化的景観となっている。

(6) 伝統的建造物群

本町では、戦後の高度経済成長を背景とした都市整備の進展により、歴史的建造物が徐々に姿を消していった。とりわけ国道4号・東北自動車道・東北新幹線など交通網整備による影響も大きいと考えられ、古くから交通の要衝として栄えた町の発展の結果ともいえる。また、平成23(2011)年の東日本大震災も建造物の滅失や外観維持に影響を与えている。

平成27(2015)年から同28(2016)年に実施した『国見町歴史的建造物悉皆調査』の成果では、伝統的建造物の現存は一定数確認できるが、伝統的な建造物群として認識できる地区を確認することは



写真 3-56 藤田宿



写真 3-57 小坂宿



写真 3-58 光明寺集落の水利用

難しい状況であった。

(7) 文化財の保存技術

本町において、文化財の保存のために欠くことのできない伝統的な技術又は技能を確認することは難しい。福島県内の伝統的技術・技能をまとめた『福島県の緒職』（福島県教育委員会、昭和62〔1987〕年）にも、本町における技術・技能の掲載はない。

ただし、旧小坂村産業組合石蔵が国登録有形文化財となった現在、国見石の特徴を知る地元の石工技術が今後貴重なものとなるため、記録の作成や伝承者の養成等が必要になる。



写真 3-59 石工技術

(8) その他

既存の文化財分類では、人物の来訪・功績や歴史的出来事を示す物や場所を文化財として扱うことになるが、本構想では人物や出来事自体を歴史文化資源の一つとして捉え、本町に関わる主要な人物や出来事について、別途把握を行った。

ア) 人物

本町に関わる主要な人物について84件を把握した。

古代から近世に至っては、大野東人・藤原泰衡・伊達朝宗など地域の支配者層が挙げられ、近世以降は松尾芭蕉など文化人（俳人・学者など）や奥山忠左衛門など地域の功労者（政治家・豪商など）を把握した。また、栃木県宇都宮市大谷で技術を学び本町内の国見石を使用した石蔵建築を多く手掛けた伊藤柳太郎、藤田町出身の二等飛行士である大野資などを把握した。

イ) 出来事

本町における歴史上重要な出来事について43件を把握した。

江戸時代末期の伊達騒動（一揆・打ち壊し）、明治6（1873）年の郵便制度開始、明治20（1887）年の鉄道開通・鉄道に起因する貝田の火災・大正9（1920）年の鉄道の移設、大正元（1912）年の電話開通など、本町の歴史そのものに関する各記述がまとめられた。

表 3-10 国見町の歴史文化資源（その他）

分類	種別	区分	藤田	小坂	大木戸	西大枝	森江野	その他	合計
	人物		40	9	8	6	9	12	84
	出来事		19	2	6	1	1	14	43
	その他		6					11	17

※その他は地域が定まらないもの。

第4章 国見町の歴史文化の特徴

第2章・第3章までの記述を基に、本町における時代や地域を特徴付けていると考えられるキーワードを抽出した(表4-1)。これらは、後述する関連文化財群の設定につながっていく視点であり、本町の歴史文化の特徴として位置付けられる。

以下にキーワードから導き出される本町の歴史文化の特徴について説明を加える。

表4-1 国見町を特徴付けるキーワード

盆地地形	戦跡・城館跡	境界	街道・交通
宿場	稲作	養蚕	果樹栽培
地域社会	信仰	近代化	国見石(石材産業)

(1) 盆地地形と街道・交通に関する歴史文化

本町は奥羽山脈と阿武隈山地に挟まれ、阿武隈川水系により形成された福島盆地の北縁部に位置する。宮城県境近くに位置する阿津賀志山は、本町の盆地景観において特筆すべき山である。見る方向により山容が変化する特徴があり、「タンガラ山」「丸山」などの別名を持つ。また、古代から信仰の対象であったことをうかがわせる「経塚山」の名も残る。福島盆地を一望できる山頂の眺めから「国見山」とも呼称され、町名の由来にもなっていることから山及び関連する歴史文化に対する町民の認知・理解は深い。



写真4-1 阿津賀志山の山容

山麓と阿武隈川の間広がる平野部には古くから街道・宿場が設けられ、周辺各地(福島・仙台・山形方面)との間で、政治・経済・文化の様々な面において多様な交流・伝播が生まれた。江戸時代に参勤交代や物資輸送のため奥州街道・羽州街道が整備されたことで本町一带は交通上の重要性を増し、藤田・貝田・小坂における各宿場の発展につながった。

一方で、町の北東部には(奥州街道)国見峠と山麓の地狭部地形、北西部には(羽州街道)小坂峠の険しい山道があり、いずれも各街道における難所として認知されてきた。これに伴い、本町は古くから国境(支配領域の境界)・街道の関所として強く意識されるとともに、松尾芭蕉の『おくのほそ道』に代表される紀行文や民話等に登場する舞台となっている。

また、一帯には阿武隈川を利用した水運が設けられ、江戸へ納める御城米(年貢米)は、徳江の川港(津出場)からも廻米された。

明治20(1887)年には本町に鉄道が敷設された。レンガ橋の建設を伴う鉄道敷設は本町における近代化の嚆矢であったとともに、歴史文化や近代技術の交易・交流の促進を担った。近代化は本町全体に繁栄をもたらすとともに、町を代表する近代建築を有する奥山家などの豪商を生み出す基盤ともなった。

本町はこのような街道・宿場・交通の発展を示す遺跡・遺構や、街道によってもたらされた文物の集積・交流を特徴として有する。現代においても、鉄道・国道・高速道・新幹線が貫通する交通の集約地であり、地形と交通がもたらす歴史文化が密接な関係にあり続けている。

(2) 政治と軍事に関する歴史文化

本町は北部を奥羽山脈によって隔てられた福島盆地の縁辺部という地形的特徴により、古代に国造が置かれた北端域であり、郡寺の性格を持ったと考えられる古代寺院や地域一帯に権力を持った豪族の古墳などの存在が明らかとなっている。

平安時代末期には奥州藤原氏が支配領域の南端と意識した地域であり、「文治五年奥州合戦」（阿津賀志山の戦い）に源頼朝を迎え討つため「阿津賀志山防塁」が築かれた。奥州合戦の大勢を決したこの戦いは『吾妻鏡』に記されるなど、現代まで約1000年にわたり伝承されてきた。同史跡は国の文化財指定を受け、本町の歴史まちづくりにおける中心的存在として町民に認知されるとともに、関連した義経・弁慶・藤原氏に関する遺跡・伝説なども歴史文化として伝承されてきた。

中世から近世初期にかけて、当地は伊達・上杉氏によって比較的安定的な統治が行われたが、政治的・軍事的な要衝地としての位置付けは続き、一族・家臣団に関する歴史資料や城館跡・戦跡などが伝わっている。



写真 4-2 阿津賀志山防塁

(3) 農村社会に関する歴史文化

本町における狩猟・採取生活の痕跡は縄文時代前期に遡り、やがて阿武隈川沿いに古墳を造営する稲作集団へと変化した。古代には、東北地方でも有数の規模を持つ条里制水田や、農作に従事したと考えられる集落の存在が明らかとなっている。12世紀末に伊達氏が入部すると、一族・家臣団による農村支配が400年間続き、江戸時代には天領として幕府の財源となる米の生産と廻米を支えるなど、農村社会に関する長い歴史文化が存在する。

一方、農作地においては、古くから水田を支えるかんがい用水の確保が課題としてあり、ため池や水源開削に関する遺跡・歴史資料が存在する。中でも江戸時代初期に完成したかんがい用水（西根堰）は、現在も本町の農業を支える貴重な土木遺産である。

また、地域では古来より、農家の副業として養蚕業が盛んに行われた。その始まりは古く奈良・平安時代に遡り、近代には国策として養蚕業が興隆した。太平洋戦争による戦災や化学繊維の開発に押され衰退を辿ることとなったが、現在もあづま造と呼ばれる県北地方の特徴的な養蚕農家が現存し、養蚕に関する道具・風習・信仰なども伝承される。

養蚕業の衰退後、桑畑は果樹栽培（リンゴ・桃・柿など）、阿武隈川近くの畑は野菜類の栽培へと変化し、本町の主要産業へと成長を遂げるとともに文化的景観を形成している。



写真 4-3 農地の風景
(田畑と果樹園が混在する)

(4) 地質を反映した産業に関する歴史文化

本町の北西部にそびえる標高600～700mの山並みは、安山岩質集塊岩と凝灰岩で構成され、山麓斜面から平地への傾斜地では、堆積物が分厚い地層を形成する扇状地などと、凝灰岩類が露出している箇所が存在する。本町では、この地質から凝灰岩が採石され、その歴史は古墳時代の石室石材に使用が確認されている。近代になると、耐火性に優れた凝灰岩は「国見石」と呼ばれ、建築材料として流通した。石材加工は当初手作業によるものであったが、採石・加工の機械化に伴って爆発的に普及し、多数の石

蔵や石造建築物を有する町並みが形成された。

半田銀山においても、その採掘に近代技術が発揮された。半田銀山の採掘は桑折町を主体としたものであったが、日本三大銀山の1つである半田銀山の運営は、隣接する本町にも利益と歴史文化をもたらした。

本町の主要産業である農業に対しても近代化の波が押し寄せている。前述のとおり、ため池や用水路の整備に近代の土木技術が十分に発揮されたほか、主たる副業であった養蚕業にも近代的な技術と管理方法が導入され、生産と収入の安定化が図られた。

(5) 地域社会と信仰に関する歴史文化

本町の行政区分は昭和29(1954)年の町村合併以前の町村区分に準じるものである。現在もこの旧村単位は集落単位によって地域社会が構築され、時代・世代を越えた歴史文化が脈々と伝承されている。

地域社会における歴史文化は信仰を基盤とするものが多く、各集落では、春に五穀豊穡を祈り、秋に収穫を祝う祭礼等が執り行われ、早ばつの際には雨乞いを行い、農作物や蚕の出来を占い、絵馬等を奉納して各種祈願を行うなど、様々な信仰儀礼が行われてきた。これらは、生活・生業と信仰の密接な関係性をうかがわせると同時に地域ごとの多様性を示している。

また、各集落では講と呼ばれる団体が生まれ、信仰・経済・社会的な人々のつながりを通して地域社会における相互扶助の役割を担った。町内の各所には様々な講中碑が確認されており、その活動が広く多岐にわたったことを示している。講の活動は全体として数を大きく減らしたが、時代に応じた運営方法へと形を変えながら現在まで継続してきた地域もあり、本町における地域社会の維持に対して一役を担ってきた。

なお、かつては各家・各集落で行われた風俗慣習・年中行事なども数多く存在したが、現代に至るまで失われているものも多くある。

これら地域社会における信仰及び相互扶助の力は、本町における人々の営みの歴史そのものであり、今後、本町の歴史的風致を維持するにあたって欠かせない要素の一つである。



写真 4-4 国見石の採石跡



写真 4-5 鹿島神社例大祭（神事の様子）

第5章 関連文化財群の考え方

1 関連文化財群設定の方針及び考え方

本構想における「関連文化財群」とは、地域に存在する歴史文化資源（文化財等）を、指定・未指定（登録・未登録）、有形・無形等、既存の区分に関わらず、歴史的・地域的関連性に基づいて一定のまとまりとして幅広く捉えたものとする。

関連する複数の歴史文化資源（文化財等）を、本町の歴史文化の特徴から導き出されるストーリーに沿ってまとめることで、関連文化財群及び個別の歴史文化資源の魅力を一体的かつ相乗的に高めるとともに、より魅力的でわかりやすい形で価値を伝え、総合的な保存・活用につなげていく。

以下では、個々の歴史文化資源を結び付ける関連性を説明するものを「ストーリー」、ストーリーに沿って集められた歴史文化資源のまとまりを「関連文化財群」、関連文化財群を構成する各々の歴史文化資源を「構成資源」という概念で整理を行った。

2 国見町の関連文化財群

以下に本町の歴史文化の特徴を踏まえて考察した4つの関連文化財群を提示する。ストーリー及び関連文化財群の設定にあたっては、以下の点に留意した。

- ① 各ストーリーのタイトルは「主題」と「副題」で構成し、ストーリーの概要がタイトルからも伝わるよう努めた。
- ② 関連文化財群の構成資源は、関連性の説明の方法・内容によって膨大な数量となるため、本構想内でのストーリーの概要に合わせた代表的なものを掲載し、各構成資源の解説を加えた。
- ③ 構成資源には多様な価値を持つものもあるが、資源が属するストーリーとの関連性がより明瞭になるよう努めた。
- ④ 複数のストーリーに関連する資源については、解説文が重複しないよう工夫した。

構成資源の選定にあたっては、可能な限り以下の点に留意した。

- ⑤ 1つのストーリーに対して、時代・地域・種類の異なる多種多様な歴史文化資源を結び付け、本町が持つ魅力の発見につながるよう留意した。
- ⑥ 調査研究によって一定の価値が把握されており、ストーリーとの関連性が解説できるものを選択した。
- ⑦ 各関連文化財群には、中心的存在となりえる指定等文化財を含むこととした。

上記に伴い、本構想に未掲載の歴史文化資源でも、今後ストーリーとの関連性を見いだせるものは積極的な保存・活用に向けて、関連文化財群の構成資源として捉えていくこととする。

第4章「国見町の歴史文化の特徴」で明らかとした5つの特徴から、4つのストーリーを導き出す。関連文化財群①（地勢と歴史）「（1）盆地地形と街道・交通に関する歴史文化」と「（2）政治と軍事に関する歴史文化」は、境界の地であるとともに要衝の地であった本町が、更に交流の地へと発展する過程における様々な特徴を示している。本町が持つ最大の特徴であるとともに、現在も感じる雄大な盆地の自然や今につながる人々の営みと密接に関係している。

国見町の歴史文化の特徴
(1) 盆地地形と街道・交通に関する歴史文化
(2) 政治と軍事に関する歴史文化
(3) 農村社会に関する歴史文化
(4) 地質を反映した産業に関する歴史文化
(5) 地域社会と信仰に関する歴史文化

これら歴史文化の特徴から、本町の「地勢と歴史」を特徴付けるストーリーとして、『みちのくの交流のまち国見』を導き出し、43の歴史文化資源を構成資源として結び付け、関連文化財群①とした。

関連文化財群②（風土と生業）^{なりわい}「（3）農村社会に関する歴史文化」は、本町の豊かな風土を背景に営まれた農業・生業に関する歴史文化の特徴である。農業は、地質や地形・水利・日照・気候などの農地をとりまく風土により育まれてきた。国見の人々は、用水路を引き、ため池を作るなどかんがい施設を充実させ、水はけのよい丘陵地や砂地には桑や果樹などその場所に適した作物を栽培するなど、風土を尊重しながら自然に働きかけてきた。農作業に関わる信仰や慣習を知恵として持ちながら、長い時間をかけてつくりあげてきた生業であり、多くの関連する歴史文化資源を残している。

これら歴史文化の特徴から、本町の「風土と生業」を特徴付けるストーリーとして、『人々を育み、生活を支えた国見の豊かな風土』を導き出し、19の歴史文化資源を構成資源として結び付け、関連文化財群②とした。

関連文化財群③（資源と産業）「（4）地質を反映した産業に関する歴史文化」は、本町の地質・資源に

表 5-1 ストーリーと主な構成資源の概要

関連文化財群①（地勢と歴史）		
主題／副題	みちのくの交流のまち国見	－阿津賀志山と新旧交通網がもたらした歴史・文化交流－
概要	国見町は古来福島盆地北縁の山並みが障壁となり、境界の地として阿津賀志山防壁に象徴される奥州合戦という時代の転換点となる出来事が刻まれた。また、交通路の整備・物流の発展に伴い、交通の要衝としての側面が高まり、各宿場に繁栄をもたらした。境界の地である国見町は、同時に交流の地として発展してきた。	
主な構成資源	地政学的な特徴と新旧の運輸・交通網がもたらした歴史文化資源	
関連文化財群②（風土と生業）		
主題／副題	人々を育み、生活を支えた国見の豊かな風土	－国見の自然がもたらす恵み－
概要	国見町の豊かな自然を先人達が、その多大な努力により、肥沃な大地へと変え、米・桑・果実などの恵みがもたらされてきた。国見町の豊かな風土が、生活を支え、農作物を実直に育て、寛容で勤勉な人間性を育ててきた。	
主な構成資源	農耕・養蚕を中心とした生業に関連する歴史文化資源	
関連文化財群③（資源と産業）		
主題／副題	太古の大地がもたらした国見の産業史	－窯業・鉱業・国見石の産業－
概要	太古に形成された国見の大地・地質は、後世になって窯業（粘土層）、鉱業（銀鉱脈）、石材産業（凝灰岩）など、様々な産業を興すきっかけとなり、町の発展につながった。	
主な構成資源	本町にもたらされた地下資源とこれを利用した産業に関連する歴史文化資源	
関連文化財群④（信仰）		
主題／副題	地域に根差した村々の祈り	－信仰を中心とした地域文化の伝承－
概要	国見町では、生業である農業・養蚕業に関係する信仰を中心とした地域文化が、時代・世代を越えて現在まで伝承されている。我々がこの国見の風土と密接な関係にある証であり、今なお地域コミュニティの源泉として住民の支え合いを生んでいる。	
主な構成資源	人々の信仰と信仰がもたらした文化に関連する歴史文化資源	

より発展した各種産業に関する歴史文化の特徴である。丘陵地から山々にかけて露出する凝灰岩を石材資源として活用した「国見石」の石材産業、河川により流域に堆積した凝灰岩由来の粘土層を陶土として用いた窯業生産、隣接する半田銀山（桑折町）の関連坑口を持つ本町の鉱業など、地質と関連しながら一時代を築いた産業史は、その面影を伝える歴史文化資源を残している。

これら歴史文化の特徴から、本町の「資源と産業」を特徴付けるストーリーとして、『太古の大地がもたらした国見の産業史』を導き出し、10の歴史文化資源を構成資源として結び付け、関連文化財群③とした。

関連文化財群④（信仰）「(5)地域社会と信仰に関する歴史文化」は、前述の「地勢と歴史」「風土と生業」「資源と産業」に特徴付けられながら営みを続けた人々により、守り伝えられてきた信仰に関する歴史文化の特徴である。江戸時代から続く、16の旧村単位で様々な祭礼が行われており、更に小さなコミュニティによる講や家々の祈りが続けられている。

これら歴史文化の特徴から、本町の「信仰」を特徴付けるストーリーとして、『地域に根差した村々の祈り』を導き出し、33の歴史文化資源を構成資源として結び付け、関連文化財群④とした。

本町の人々は、この地勢・風土とともに歴史を重ね、時代とともに交通や生業を発展させ、多くの困難を祖先や自然を含めた神仏へ祈りを捧げながら乗り越え、歴史文化を生み出してきた。この4つのストーリーが、本町の「国見らしさ」を表徴するものであり、今後守り伝えていくべき関連文化財群である。

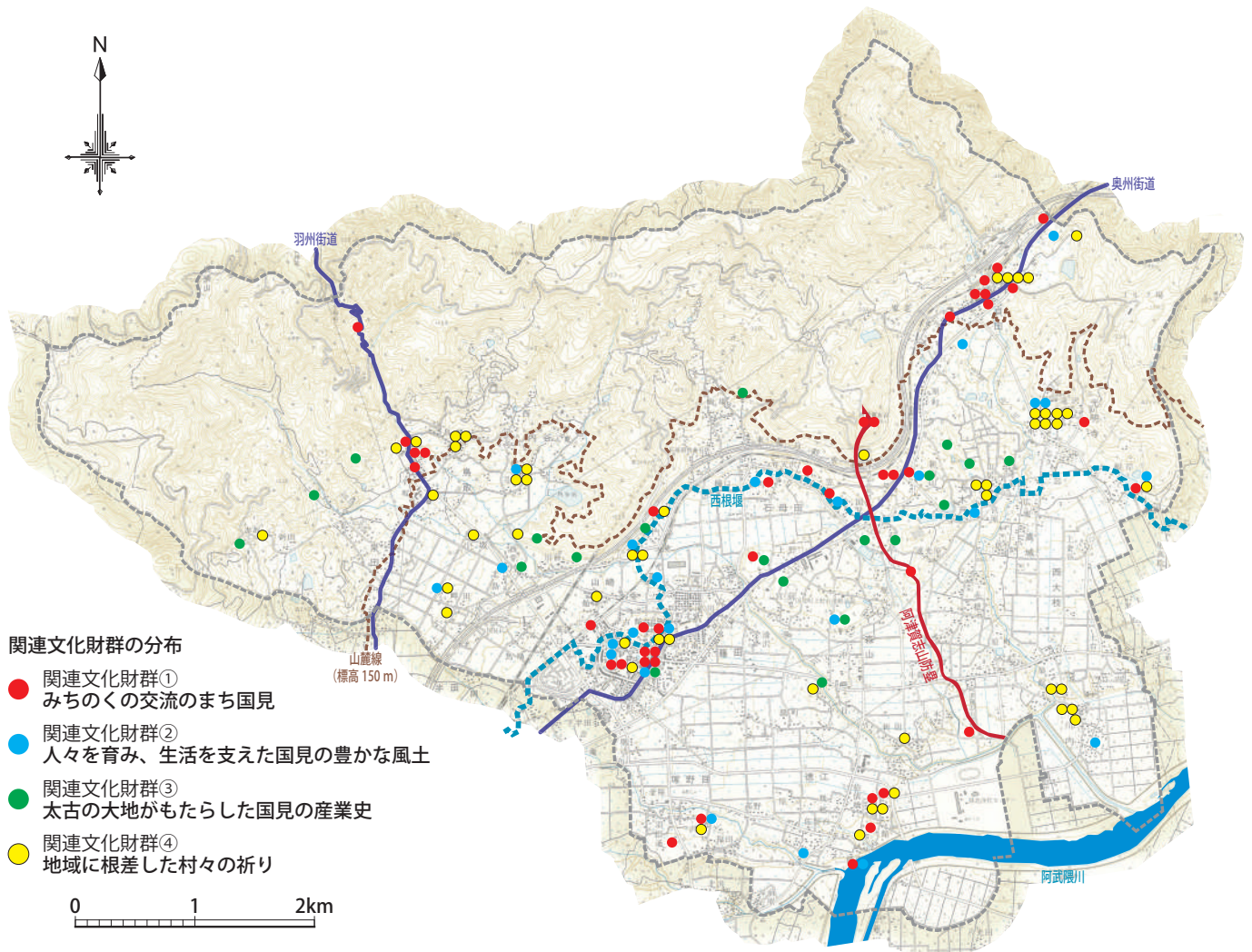


図 5-1 関連文化財群を構成する歴史文化資源の分布状況

	(1) 盆地地形と街道・交通に関する歴史文化		(2) 政治と軍事に関する歴史文化		(3) 農村社会に関する歴史文化		(4) 地質を反映した産業に関する歴史文化		(5) 地域社会と信仰に関する歴史文化	
	街道・交通	宿場 (歴史文化・景観)	境界 (政治・支配)	戦跡・城館跡 (戦勝祈願等を含む)	農耕(稲作・畑作・果樹栽培・かんがい)	養蚕	産業	国見石 (石材産業)	信仰	地域社会
縄文					石包丁・蛤刃石斧					
弥生										
古墳			●塚野目第一号墳 ●森山第四号墳							
飛鳥										
奈良			徳江廃寺跡 鹿島神社		山崎条里遺構		●大木戸窯跡			
平安	関連文化財群① (地勢と歴史) みちのくの 交流のまち 国見		下紐の関跡 (石母田弁天神社) 三吉神社	●阿津賀志山防壁 ●藤田城跡 (源宗山) 観音寺 経ヶ岡	関連文化財群② (風土と生業) 人々を育み、 生活を支えた 国見の 豊かな風土		山居製鉄遺跡	関連文化財群③ (資源と産業) 太古の大地が もたらした 国見の産業史		光明寺三合院 (阿弥陀堂)
鎌倉			福聚寺・ 伊達朝宗夫人墓	●塚野目城跡						
室町			●伊達晴宗判物・ 伊達政宗書状	●石母田城跡	雨乞い				●三合院木造 阿弥陀三尊仏立像	
安土桃山		貝田宿 最禅寺								
江戸	硯石山 (弁慶の硯石・ 鍾清水) 義経の腰掛松 ●旧奥州道中 国見峠長坂跡 ●旧羽州街道 小坂峠道跡	藤田宿 だるま市 小坂宿 松蔵寺	徳江小口留番所跡 小坂口留番所跡 貝田口留番所跡		観月台ため池 西根堰 ●旧佐藤家住宅 蔵 (土蔵・石蔵・枳蔵)	養蚕住宅	●半田銀山 二階平坑口跡		●阿津賀志三十三 観音八十八大師 画像碑群 観音信仰 (観音霊場) 最禅寺観音堂 観音寺観音堂 西堂業師堂 小牛田山神社 絵馬	観音講 庚申講 二十三夜講
	徳江河岸 ●西大枝深山神社 の廻米絵馬					養蚕絵馬				
近代	芭蕉記念碑 (伊達の太木戸) 旧藤田駅 ●貝田姥神沢 旧鉄道レンガ橋 奥山忠雄家文書	農業市 佐藤家住宅 (佐野屋) 松田家住宅主屋 ●奥山家住宅 主屋・洋館 松田家住宅石蔵		厚樫山古戦将士碑	あんぼ柿・干場 桃 長ごぼう、 長にんじん		国見石(採石場) 石蔵・石造建築物 石工道具 伊藤家住宅石蔵 ●旧小坂村 産業組合石蔵	●内谷春日神社 太々神楽 ●福源寺地藏庵 観音堂 オンメサマ	おふくでん講 (御福年講)	
	●観音寺観音堂 汽車絵馬							関連文化財群④ (信仰) 地域に根差した 村々の祈り		
現代				義経まつり 中尊寺蓮						
その他	大境(御境) 阿津賀志山				●御瀧神社の湧水 さなぶり 種まき桜			●鹿島神社例大祭 水雲神社祭礼 秋葉神社祭礼 蔵島神社祭礼 内谷春日神社祭礼 八幡神社祭礼 滝普請 阿弥陀垂水 小坂子育て地藏 農耕儀礼・信仰 豊蚕信仰	盆欄に供える料理 大千寺念仏講・ 沼供養	

※●は指定等の文化財を示す。「その他」は年代が定まらないもの。

図 5-2 国見町の歴史文化の特徴と関連文化財群の構成

関連文化財群①（地勢と歴史）

みちのくの交流のまち国見

—阿津賀志山と新旧交通網がもたらした歴史・文化交流—

対象地域：全域

ストーリーの概要

本町は米沢盆地（日本海側）・仙台平野（太平洋側）・関東平野の三方向へ通じる街道の結節点であり、古来多くの人々や文物が交流する要衝の地であると同時に、福島盆地北縁の山並みが障壁となる境界の地となってきた。

古代、この地は国造制が敷かれた北端部であり、蝦夷勢力と大和朝廷勢力圏の境界ともなった。12世紀末には、奥州合戦最大の激戦である「阿津賀志山の戦い」（文治5〔1189〕年）の舞台となる。奥州藤原氏は事実上この地を支配領域の南端とし、境界となる地峡部の入口にそびえる阿津賀志山から阿武隈川にかけて、鎌倉軍の進軍を遮る阿津賀志山防塁を築いた。この戦いは鎌倉方の勝利を決定付け、源頼朝による全国統一、公家から武家への政権の大転換をもたらした。

その後、この地は約400年間にわたり伊達氏とその家臣により統治され、街道の整備と農村整備が進められた。街道・峠の要所には城館が置かれ、南北朝～戦国期には様々な勢力がせめぎ合いを繰り返す一方、各地の集落に寺院が開かれるなど文化の交流も盛んであった。

江戸時代には、奥州街道・羽州街道と御城米等を江戸まで運んだ阿武隈川舟運の整備がなされ、参勤交代・物資輸送の大動脈へと発達した。藤田・貝田・小坂には宿場が置かれ、定期市でにぎわい、仙台藩との境界地であった貝田・小坂宿は関所としての機能も有した。奥州街道国見峠を通った松尾芭蕉は「伊達の大木戸」と記し、石母田の名松は「義経の腰掛松」として旅の名所となり、人々の往来と文物の交流は飛躍的に広がっていった。

近代以降、鉄道や道路網の整備により交通上の重要度を増すとともに、町並みの近代化が進む。貝田姥神沢旧鉄道レンガ橋などの近代土木技術を用いた構造物が建築され、明治20（1887）年鉄道が敷設された。奥山忠左衛門等の尽力により明治35（1902）年に藤田駅が開業し、金融機関も開業するなど町並みが整備され、商業地へと発達した。昭和30（1955）年代以降は国道及び県道等の新設・改良整備が進み、昭和50（1975）年の東北自動車道と国見インターチェンジの開通により、本町は首都圏と短時間で結ばれ、流通の起点としての役割が増大することとなった。

平成29（2017）年、国道4号沿いに整備された「道の駅国見あつかしの郷」は、まさに現代の宿場としての役割を果たすとともに、本町の交流・連携の拠点として機能する。そして、本町は通過点から目的地への変遷を遂げようとしている。

かつて本町は福島盆地北縁の山並みが障壁となり、阿津賀志山防塁に象徴される奥州合戦をはじめ時代の転換点となる出来事を刻む境界の地となってきた。しかし、人々は交通網を発達させ、多くの文物、あらゆる文化が往来・集散する交流の場へと町を変えてきた。県境に生きる我々の意識の根底に、阿津賀志山とその歴史は深く根付いている。阿津賀志山は、これからも“栄えゆく国を眺める町”の象徴として、多くの来訪者の指標となり、新たな交流を生み出していこう。

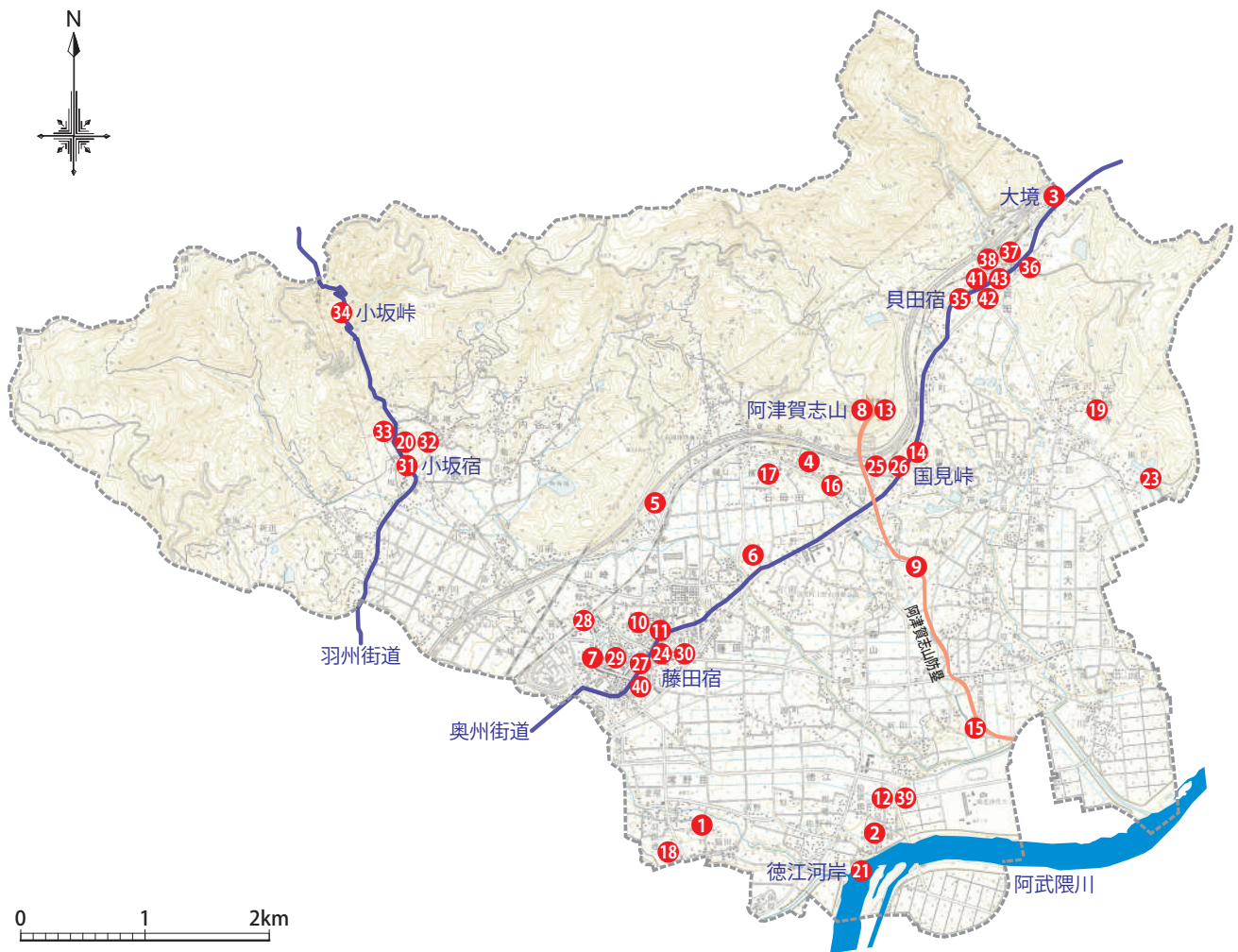


図 5-3 関連文化財群①（地勢と歴史） 構成資源分布図

表 5-2 関連文化財群①（地勢と歴史） 構成資源一覧

No.	資源名	主な年代	No.	資源名	主な年代
1	塚野目第一号墳	古墳	18	塚野目城跡	鎌倉・室町
2	徳江廃寺跡	奈良・平安	19	福聚寺・伊達朝宗夫人墓	鎌倉
3	大境（御境）	—	20	伊達晴宗判物・伊達政宗書状	室町・安土桃山
4	下紐の関跡（石母田弁天神社）	古代	21	徳江河岸	江戸
5	三吉神社	古代	22	徳江小口留番所跡	江戸
6	硯石山（弁慶の硯石・踵清水）	—	23	西大枝深山神社の廻米絵馬	江戸
7	義経まつり	平成	24	藤田宿	江戸
8	阿津賀志山	—	25	旧奥州道中国見峠長坂跡	江戸
9	阿津賀志山防塁	平安	26	芭蕉記念碑（伊達の大木戸）	昭和
10	藤田城跡（源宗山）	平安～室町	27	奥山家住宅主屋・洋館	大正
11	鹿島神社	奈良	28	旧藤田駅	明治
12	観音寺	平安	29	農業市	昭和
13	経ヶ岡	—	30	だるま市	江戸
14	厚樫山故戦将士碑	明治	31	小坂宿	江戸
15	中尊寺蓮	—	32	小坂口留番所跡	江戸
16	義経の腰掛松	江戸	33	松蔵寺	江戸
17	石母田城跡	室町			

※ 「No.」欄を網掛けした資源は所在が広域にわたる、所在地が不明、所蔵が町内に無いなどの理由から地図上に示していない。

No.	資源名	主な年代
34	旧羽州街道小坂峠道跡	江戸
35	貝田宿	安土桃山
36	貝田口留番所跡	江戸
37	最禅寺	安土桃山
38	貝田姥神沢旧鉄道レンガ橋	明治

No.	資源名	主な年代
39	観音寺観音堂汽車絵馬	明治
40	奥山忠雄家文書	大正・昭和
41	佐藤家住宅（佐野屋）	大正
42	松田家住宅主屋	大正
43	松田家住宅石蔵	昭和

関連文化財群①（地勢と歴史） 主な構成資源



① 塚野目第一号墳

県指定史跡

塚野目第一号墳は、塚野目古墳群の主墳で「八幡塚古墳」とも呼称される。古墳時代中期後半（5世紀中～後葉）に築造された前方後円墳で、主軸長さ72m、後円部直径53m、高さ6mの墳丘には葺石がふかれ、前方部が短い特徴を持つ。周りには幅7～8m、深さ1.5mの溝が巡らされ、多量の円筒埴輪と朝顔形埴輪が出土している。主軸長さ72mは中通り最大の古墳であり、古墳時代中期の古墳としては東北部において抜き出た規模と内容を持つ。古墳時代より経済的基盤を持ち、要衝の地として重要視された場所であることが想定される。



② 徳江廃寺跡

徳江廃寺跡は奈良・平安時代初期の寺院跡で、重弁蓮華文軒丸瓦・旋回花文軒丸瓦・蓮華文軒丸瓦などが出土する。

重弁蓮華文軒丸瓦は多賀城（宮城県多賀城市）Ⅱ期の瓦、旋回花文軒丸瓦は腰浜廃寺跡（福島市）から出土した瓦と同じ形式のものである。蓮華文軒丸瓦は西原廃寺跡（福島市）、山居遺跡、正玄堂遺跡（いずれも本町内）から出土している。

伊達郡の郡制施行以前に国府と関連を持ちながら建設された後、郡衙に伴う郡寺の性格を持つようになったと推定されている。平安時代末期の火災によって焼失するまで存在した形跡がある。



③ 大境（御境）

本町の北に接する宮城県白石市越河との県境には、両県にわたり伸びる断層帯により造り出された切通状の谷底平地が通り、この細い谷を古代の東山道・中世の奥大道・近世の奥州街道と各時代の幹線道路が峠道（大境又は御境）とした。現在も、大動脈国道4号・東北自動車道・JR東北本線の全てが通過する要所となっている。

旧仙台領の地誌である『奥州仙台領遠見記』（宝暦11〔1761〕年）では、「伊達郡貝田村御境江戸への往還なり」と記され、幕府領と仙台藩領の境目の様子を伝えている。



④ 下紐の関跡（石母田弁天神社）

古代の東山道には阿津賀志山を横断する、蝦夷勢力と大和朝廷勢力圏の境界として下紐の関が置かれていたといわれ、阿津賀志山の南麓、石母田字弁天沢にある弁天神社はその伝承地の一つである。この関にまつわる伝えとして、「用明天皇が蝦夷征伐に下向された時、伴われた妃の玉世姫がこの地で産気づかれ下紐を解き皇子を産み落とされた」などの話が残されている。「下紐」とは万葉集などの恋歌に多く現れ、「固く結ぶ」にかかる言葉で、この関の守りの固さにみわたたものと解される。

関連文化財群①（地勢と歴史） 主な構成資源



⑤ 三吉神社

石母田字大清水に所在する三吉神社は里宮で、湧き出した清水（霊水）の恩恵に感謝し、水神を祀ったのが創始であると伝わる。奥宮は石母田字西畑地内に石祠があり、弥都波能売神や三吉大神、坂上田村麻呂を祭神とし、古代蝦夷との合戦のために北上した將軍たちが、蝦夷の領域に足を踏み入れる前にこの地で勧請あるいは戦勝祈願したとの由緒を持つ。明治時代初期に秋田の太平三吉神社よりあらためて分霊した。武神、水神、作神として、また火難除け、安全、安産、合格祈願などの篤い信仰を得ている。



⑥ 硯石山（弁慶の硯石・踵清水）

硯石山は国見石を主体とする独立丘陵で、義経・弁慶主従にまつわる伝説が残る。

頂部にある弁慶の硯石は、義経が軍勢を集めた際、弁慶が山の頂上にある硯の形に凹む石で墨をすり、集まった軍兵の名簿を記したと伝わり、100日の早ばつでも枯れない水を湛えるという。麓の踵清水は、弁慶が足を強く踏んだところ、清水が湧き出したという伝説がある。

慶応4（1868）年の戊辰戦争の際、仙台藩の命令で近辺の農民が動員され、砲台場を築いた戦跡でもある。



⑦ 義経まつり

平成元（1989）年に実施した「あつかし山奥州合戦 800 年祭」の記念事業として「義経まつり武者行列」が始まった。その後、「義経まつり」は、平成8（1996）年度から3年間、「商工振興活性化事業」として県と町の補助を受けて実施し、以後、町のイベントとして定着している。東日本大震災の影響により、一時従来どおりの開催ができなくなったが、第18回（平成25〔2013〕年度）からは、「復興・絆」くにみの日事業として、町民の「心の元気」を取り戻す事業として毎年開催されている。



⑧ 阿津賀志山

阿津賀志山（厚樫山）は、福島県と宮城県の間境に位置する標高289 mの山であり、見る方向により山容が変化する特徴から「タンガラ山」「丸山」などの別名を持つ。古代から信仰の対象であったことをうかがわせる「経塚山」の名も残る。福島盆地を一望できる山頂の眺めから「国見山」とも呼称され、現在の町名にも関連している。

町民は阿津賀志山のある景観に親しみ、町のシンボルとなっている。



⑨ 阿津賀志山防塁

国指定史跡

文治5（1189）年奥州合戦において、奥州藤原氏が事実上支配領域の南端と意識し、北上する源頼朝率いる鎌倉軍を迎え討つために築いた二重の堀と三重の土塁からなる要塞施設である。両軍数万の軍勢による阿津賀志山の合戦は奥州合戦の大勢を決したことから、平泉政権の終焉と鎌倉幕府による武士政権確立を示す重要な史跡である。

当時の基幹交通路である奥大道（陸上交通）と阿武隈川（河川交通）の両方を強く意識して築かれており、交通路を遮断し要塞を構える当時の戦術を現在に伝える唯一最大の遺跡である。

関連文化財群①（地勢と歴史） 主な構成資源



ふじたじょうあと げんぞうやま
 ⑩ 藤田城跡（源宗山） 町指定史跡

源宗山は、旧奥州街道藤田宿の背後に位置する独立丘陵である。文治5（1189）年阿津賀志山の戦いにおいて、鎌倉方の軍勢が藤田宿に到着した際に、源頼朝が本陣を置いたと伝わり、「源氏の宗家がよった山」に由来する地名といわれている。南北朝時代には南朝方の伊達行宗（第7代）配下の藤田城として、靈山城とともに南北朝争乱の舞台となり、貞和3（1347）年に北朝軍の総攻撃によって落城した。



かしまじんじや
 ⑪ 鹿島神社

鹿島神社（藤田字北）は旧奥州街道藤田宿に所在する。8世紀頃に現在より300mほど北に創建されたと伝わるが、享保10（1725）年に現在の地に遷座し、医薬神社（江戸時代には「明けの薬師」と呼ばれた）とともに祀られた。現在の社殿は明治14（1881）年、街道沿いの石垣と一緒に改修された。三吉神社同様、古代蝦夷との合戦に向かう將軍達が勧請した伝説や、源頼朝の戦勝祈願、藤田地名の縁起の伝説などが残されている。



かんのんじ
 ⑫ 観音寺

観音寺は徳江字中ノ内に所在する真言宗寺院である。寺の縁起によると、天長3（826）年に空海が開基したと伝わり、文治5（1189）年阿津賀志山の戦いに関する伝承が残る。「烏帽子に白鳥を置いた徳江観音の社人が頼朝方の三浦義村を案内し頼朝方を勝利に導いたため、三百貫文の社寺地を寄進された」（『徳江観音寺縁起』、慶長7〔1962〕年）境内には享保3（1718）年建築の観音堂・鐘樓が建ち、伊達秩父準三十四観音の第30番札所として信仰を集める。



きょう おか
 ⑬ 経ヶ岡

『吾妻鏡』より、経ヶ岡は文治5（1189）年石那坂の合戦で敗死した佐藤基治一族の首級をさらした場所とされる。現在、阿津賀志山の東麓、旧奥州街道国見峠周辺に経ヶ岡の地名が残されており、近くに阿津賀志山三十三観音八十八大師画像群碑、厚樫山故戦将士碑などが建てられている。地名から経塚が営まれた可能性も指摘されている。



あつかしやま せんしょうしひ
 ⑭ 厚樫山故戦将士碑

厚樫山故戦将士碑は、明治18（1885）年に信夫・伊達両郡を直轄した信夫郡長・柴山景綱及び信夫郡書記・徳江末晴、藤田村ほか八か村戸長・成沢英和、大木戸村豪農・半澤与一郎らの地元有志により建立されたものである。文治5（1189）年阿津賀志山の合戦から700年を記念し、戦没した鎌倉・奥州両軍将士への鎮魂、『吾妻鏡』によった阿津賀志山の合戦の経緯、遺跡の保護について記している。碑文は柴山景綱の撰、書並びに篆額は逐堂高橋周によるものである。

関連文化財群①（地勢と歴史） 主な構成資源



ちゅうぞんじはす
15 中尊寺蓮

平泉中尊寺・金色堂に伝わる藤原泰衡（第4代当主）の首桶に納められていた蓮の種から開花したもので「中尊寺蓮」と呼ばれる。

本町には、奥州藤原氏が築いた国指定史跡「阿津賀志山防塁」があり、平泉とゆかりのある町として平成21（2009）年4月に中尊寺から株を譲り受け、地域の方々により大切に栽培されている。

7月中旬～8月が見頃で、濃い緑の中に鮮やかなピンクの花がいくつも見られる。



よしつね こしかけまつ
16 義経の腰掛松

「義経の腰掛松」の名称は、平治の乱（1159）の後、牛若丸（源義経）が、奥州の商人金売り吉次に伴われて平泉の藤原秀衡をたよって東下りをした折、路傍の幼松に腰をかけて一休みした故事に由来する。江戸時代中期頃より、奥州街道の名所として知られるようになり、数々の紀行文等に取り上げられた。

現在の松は枯死した2代目松の接木により育成した3代目となる。傍には寛政12（1800）年10月に桑折代官の岸本彌三郎（源一成）によって撰文された「義経腰掛の松」の石碑が建てられている。



いしもだじょうあと
17 石母田城跡

町指定史跡

石母田城跡は伊達氏譜代の家臣・石母田氏の拠った本郭・二ノ郭・三ノ郭からなる複郭式の平城である。内堀・丸堀・外堀と呼ばれる水濠が巡らされ、侍屋敷を内包する総構えの城郭の特徴を持つ。

戦国期の伊達氏内乱時にはしばしば主君を迎える城館となっている。天正18（1590）年の奥羽仕置により廃城となった。

城跡の各所に土塁や水堀が遺され、往時の城郭景観を留めており、本町における典型的な中世の城館跡とされる。



つかのめじょうあと
18 塚野目城跡

町指定史跡

塚野目城跡は阿武隈川と普蔵川、矢ノ目川の間舌状台地上に立地する。東西にやや長い略長方形の単濠単郭式の平城である。

塚野目城の沿革は明確ではないが、南北朝時代の城主は北畠親房の子息・正教であったとの伝承が残り、霊山とともに戦乱があったと伝わる。

町内の城館の中では保存状況が良好で、「おしのさん」に代表される雨乞い伝説の舞台として地域に語り継がれる存在である。

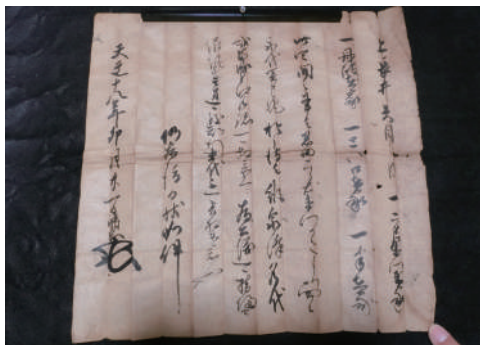


ふくじゆじ だてともむねふじんはか
19 福聚寺・伊達朝宗夫人墓

光明寺字沼に所在する福聚寺には、文治5（1189）年阿津賀志山の合戦の功績により、伊達郡を与えられた伊達氏初代当主朝宗の夫人の墓が建立されている。周辺は、夫人の菩提寺として存在した光明寺（伊達五山の一つ）を中心に整備され、伊達氏の庇護を受けて栄えた。

現在の五輪塔は文政4（1821）年に仙台藩によって再建されたもので、赤瀧石の囲いの中に、再建前の五輪塔の一部と、伊達氏の家紋である縦三ツ引の明り窓のある萬年塔とともに保存されている。

関連文化財群①（地勢と歴史） 主な構成資源



だて はるむねはんもつ だてまさむねしよじょう
 ⑳ 伊達晴宗判物・伊達政宗書状 町指定有形文化財

伊達晴宗判物・伊達政宗書状は、羽州街道小坂宿の旧口留番所富塚家に伝わるもので、町内唯一の中世文書である。

晴宗判物は天文 18（1550）年に富塚家の所領を没収して、小梁川大炊に与えた所領の宛行状、政宗書状は天正 15（1587）年に伊達成実に宛てたもので、いずれも戦国期における伊達氏の動向を伝える貴重な史料である。



とくえ かし
 ㉑ 徳江河岸

寛文 4（1664）年、上杉藩の半知削封により本町が幕府領となった以降、国見一带の年貢米は「御城米」と呼ばれ、江戸に廻米されるようになった。幕府は江戸の豪商・渡辺友以、河村瑞賢等に廻米を請け負わせ、阿武隈川によって河口の荒浜港（現：宮城県亘理町）まで運ぶ必要性から、危険な峡谷部などの難所について川除普請を行い、運航の安全を図るとともに、沿岸各地に津出しを行う河岸を設置した。河岸は明治時代の鉄道輸送開始とともに使命を終え、跡地は阿武隈川の流路が当時より北へ寄ったため河道となっている。

写真：阿武隈川舟運図 ※福島市資料展示室所蔵



とくえ こくちどめぼんしよあと
 ㉒ 徳江小口留番所跡

江戸時代、阿武隈川には御城米の津出しが行われた徳江河岸や、対岸の梁川・保原などの村々への渡船場があり、川舟を利用した商業荷物の移送が多かった。これらの留物の監視にあたるため、徳江には小口留番所が設置された。創設時期は明確ではないが、幕末期に及んでいる。番所役には徳江字佐野台の実沢家が当たった。



にしおおえだしんざんじんじや かいまい え ま
 ㉓ 西大枝深山神社の廻米絵馬 町指定有形民俗文化財

上杉藩の削封で国見が幕府領となった寛文 4（1664）年以降、年貢米（御城米）は阿武隈川の舟運によって河口の荒浜港（現：宮城県亘理町）へ運ばれ、海船に積み替えて江戸へ廻送された。

当該絵馬は、幕末期の西大枝の名主・佐藤浅次郎が、荒浜港に出役して、御城米の積替え作業の監督にあたった際の光景を、同村の画家・佐州（佐藤名平）に描かせ、村の鎮守である深山神社（西大枝字宮ノ内）に奉納させたものである。江戸時代の阿武隈川舟運の状況について知る上で数少ない貴重な史料である。



ふじたじゆく
 ㉔ 藤田宿

藤田宿は『吾妻鏡』の文治 5（1189）年 8 月 10 日の条に、源頼朝が阿津賀志山の戦いに本営を置いたとするのが初見である。

近世には奥州街道の宿場としての整備が進められ、諸大名の参勤交代や商人・旅人でにぎわいをみせた。半田銀山採掘の本格化、養蚕業の隆盛に伴い、隣接する桑折宿が郡内の中心的役割を担うと、藤田宿は周辺の農村集落の中心として物産が集散する在郷町として発達した。一と六の付く日には六斎市が立ち、農業・養蚕業の生産物を交換する場所として農村集落との関係を強めた。

関連文化財群①（地勢と歴史） 主な構成資源



きゅうおうしゅうどうちゅうくにみとうげながさかあと
25 旧奥州道中国見峠長坂跡 町指定史跡

奥州街道の険阻な山坂として著名な国見峠は、軍事・交通上の要衝に位置する。

近世には仙台・一関・盛岡・八戸・松前藩の諸侯が、参勤交代に通った道であり、松尾芭蕉も『おくのほそ道』で「路縦横に踏んで、伊達の大木戸を越す」と旅の辛さを記している。

戊辰戦争の際には軍事道路として重要な役割を果たしたが、明治10（1877）年代になると急な坂道が馬車の通行に適さなくなり、山麓に新道が開かれるとともに、峠越えの街道が廃されて使命を終えた。



ばしょうきねんひ だて おおきど
26 芭蕉記念碑（伊達の大木戸）

松尾芭蕉は元禄2（1689）年旧暦の3月に弟子の曾良を伴い、『おくのほそ道』の旅に出る。同年4月20日に白河の関より福島域に入り、本町には5月3日に到着した。

碑文にある「路縦横に踏んで、伊達の大木戸を越す」の一節は奥州街道最大の難所として知られた国見峠の急な長坂の経験から記した物であろう。峠には茶屋が2軒あったといわれ、その近くには昭和43（1968）年に建立された芭蕉の記念碑が立つ。



おくやまけじゅうたくしゅおく ようかん
27 奥山家住宅主屋・洋館 国登録有形文化財

奥山家は天保年間（1830～1844）に藤田宿で穀屋・呉服屋として伸長し、明治時代から昭和時代初期にかけて金融業・不動産業等の事業で大成した。3代目・忠左衛門は、政治家・事業家として、本町及び伊達郡の近代化に大きな役割を果たした。

奥山家住宅は同家の迎賓館として、大正10（1921）年に設計・大内官平（福島市大内設計）、棟梁・阿部佐七により建築された。純和風の主屋とルネサンス様式をベースとした洋館からなり、奥山家の功績を伝える場所となっている。



きゅうふじたえき
28 旧藤田駅

現 JR 東北本線の前身となる日本鉄道会社の奥州線は明治24（1891）年に上野―青森間が全通、明治42（1909）年国有化に伴い現在の東北本線の名称が用いられた。

藤田駅は日本鉄道会社の時代、明治33（1900）年開業で、当時は貨物取扱駅であったとされる。近年まで昭和9（1934）年建築の木造平屋建の駅舎が使用されていたが、老朽化に伴い新駅舎への建替えが行われた（平成31〔2019〕年）。



のうぎょういち
29 農業市

農業市は毎年5月5日、観月台ため池周辺を会場として開催される。本町商工会主催で昭和33（1958）年から続くもので、近隣市町村から多くの人で終日にぎわい、町の年中行事として定着している。会場では、植木・盆栽・青果物・苗木・農業用具・日用品などが販売され、定期市（六斎市）の名残を垣間見ることができる。

農業市の起源は明らかではないが、江戸時代に現在の福島市宮代の山王社で行われた「農市」が各地に広まったという伝承があり、以前は神社や寺院で行われたことが推測される。

関連文化財群①（地勢と歴史） 主な構成資源

③⑩ だるま市^{いち}

旧藤田宿の街道沿いでは、年末恒例の行事として「だるま市」が開催される。正月のお供え物や縁起物のだるまが市に並び、それらを買求める多くの人々にぎわう。

だるま市は江戸時代の「六斎市」に起源を持ち、後に12月29日に歳の市として現在まで続いてきたと推測される。

市では大小様々なだるまが売られ、毎年大きめのだるまに買い替えていく風習が残されている。年明け1月7日には鹿島神社境内でどんど焼きが行われ、古いだるまはここで丁寧に供養される。

③⑪ 小坂宿^{こさかじゆく}

小坂宿は小坂峠の入口にあって、羽州街道最初の宿駅である。

羽州街道を挟み、両側に50軒前後短冊状の屋敷割が行われ、北が高く、南が低い地形から屋敷地は階段状に造成されている。

宿南端にはかつて一里塚が築かれたが、現存しない。宿北端の高台には松蔵寺と村の鎮守・稲荷神社が祀られており、高台の手前を東へ桁形に折れた所には、口留番所の木戸が構えられていた。

③⑫ 小坂口留番所跡^{こさかくちどめばんしよあと}

小坂宿は近世において、小坂峠の登り口・羽州街道最初の宿駅として栄えた。寛永15(1640)年に上杉藩が街道警護(特に仙台領との国境)を行う番所として、原七右衛門を守役とする小坂口留番所を設置した。当地が幕府領となった寛文4(1664)年以降、口留番所の役人は二人扶持を給され、留物の領外持ち出し、不審な女や手負者、物品や馬等の監視取締りにあたった。

番所は小坂宿を貫通する街道を北へ直進し、松蔵寺の手前を東に曲がったところにあり、木戸が構えられたとされる。

写真：小坂村絵図(「小坂区有文書」より) ※福島県歴史資料館寄託

③⑬ 松蔵寺^{しょうぞうじ}

松蔵寺(小坂字上泉川)は旧羽州街道小坂宿に所在する曹洞宗寺院で、宿の北端において町並みを見下ろす高台に所在する。

本堂は棟札から昭和43(1968)年の建築とされる。本堂西側には昭和13(1938)年に改築を受けた三間四方の観音堂(写真)が所在し、信達三十三観音の第20番札所として信仰を集めた。

境内西側に位置する稲荷神社とあわせ、旧小坂宿の景観形成に大きく寄与している。

③⑭ 旧羽州街道小坂峠道跡^{きゆうしゅうしゅうかいどうこさかとうげみちあと}

町指定史跡

羽州街道随一の難所といわれた小坂峠は、本町と宮城県白石市との境に位置し、南北朝争乱期以降は伊達郡と出羽国置賜地方を結ぶ、伊達氏にとっての軍事・経済上の重要な街道であった。

小坂峠道は、お産の苦しみにほどに辛いことから「産坂」の異名もある。つづら折りの急傾斜の坂道は、近世において出羽国諸大名の参勤交代や御城米の輸送等に利用された。旧道東側には慶応2(1866)年に開削した新道(慶応新道)があるが、現在の峠越えの道路は昭和47(1972)年に完成した主要地方道白石国見線である。

関連文化財群①（地勢と歴史） 主な構成資源



かいだじゆく
35 貝田宿

貝田宿は奥州街道の宿駅である。天正年間（1573～1591）伊達政宗によって開かれたと伝わり、本格的な整備をみるのは参勤交代や伝馬制度の充実をみた上杉藩領の時代であったとされる。

町は街道を挟んで両側に短冊形の屋敷割が行われており、町頭と町尻の比高差が大きく、屋敷地は石垣で階段状に区分される。

行楽や社寺参り等、長旅の宿泊地、商品荷物の継立場としてにぎわい、旅籠屋（角屋・吉野家）、銭湯屋、納豆屋など、現在も宿町時代の屋号を持つ家が多く残されている。



かいだくちどめぼんしよあと
36 貝田口留番所跡

奥州街道の貝田宿は、奥羽の大藩である仙台藩領と境を接しており、軍事・交通上の要衝の地に立地したため、口留番所が置かれていた。

貝田口留番所が設置された年代は明らかではないが、江戸時代初期、上杉支配下の時期には家中の侍が番士の任に着き、幕府領となった寛文4（1664）年以降は岡田家が世襲ご番所役を務めた。

口留番所役の職務としては、領内の産物が他領に流出することの監視や、旅人の監視取締があった。



さいぜんじ
37 最禅寺

最禅寺（貝田字寺脇）は旧奥州街道貝田宿治いに所在する、天正16（1588）年又は寛永3（1626）年の開山と伝わる曹洞宗寺院である。

本堂は桁行7間半・梁間6間、寄棟造の建物で、明和2（1765）年建築と伝わり、貝田地区で現存する最古の建造物である。

旧奥州街道が大きくカーブする町尻に位置し、旧口留番所の近隣に位置する当該寺院は、旧貝田宿の町並み景観に大きく寄与する建物である。



かいだうぼがみざわきゆうてつどう ぼし
38 貝田姥神沢旧鉄道レンガ橋

町指定有形文化財

牛沢川（貝田付近の上流部では「姥神沢」と呼ばれる）に架かる貝田姥神沢旧鉄道レンガ橋は、明治20（1887）年の黒磯一塩釜間開業当初の旧鉄道橋で、大正9（1920）年まで使用されていた。

橋の構造はレンガ積アーチ構造で、長さ7.7m、幅10.4m、高さ5.8mを測り、町並みに近接して鉄道が往来していた当時の様子を伝えている。

現在は町道となっている当時の鉄道路線跡とともに明治時代の鉄道遺産である。



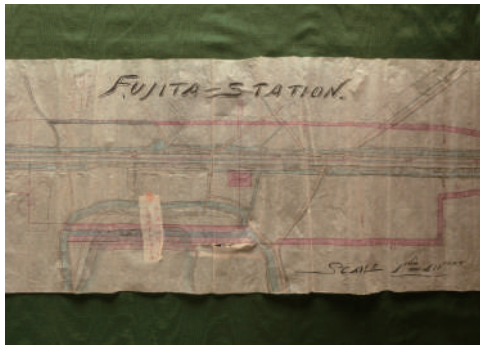
かんのんじ かのんのどう きしやえ ま
39 観音寺観音堂汽車絵馬

町指定有形民俗文化財

明治20（1887）年、本町に鉄道（現：JR東北本線）が敷設され、近代化を象徴する蒸気機関車が往来することとなった。観音寺観音堂には、徳江字団扇の徳江タケが明治25（1892）年に汽車の図柄に刺繍を施した絵馬が奉納されている。

この鉄道は当初、福島以北の地域は阿武隈川沿いに、保原・梁川から宮城県へ向かう計画になっていたが、当時養蚕業の本場であったこの地域の人たちが汽車の煙で桑の葉が黒くなることを嫌って反対し、桑折・藤田・白石を経由する旧奥州街道沿いに変更されたという。

関連文化財群①（地勢と歴史） 主な構成資源



おくやまただ お け もんじよ
 40 奥山忠雄家文書

旧藤田町の奥山家は、伊達地方有数の商家・名望家であった。明治・大正期の『伊達郡統計書』にも奥山合名会社の名称で常に有力者として登場し、特に3代目・忠左衛門（1859～1928）は藤田駅や第七百七銀行の誘致に尽力するなど本町の近代化に貢献した。

奥山家には、藤田駅誘致にかかる関係資料や奥山合名会社経営に関する資料、また大正～昭和初期頃の町政及び町内会、戦中の軍への倉庫提供等の関係資料等が保存されている。（左写真は藤田駅設計図、明治30〔1897〕年）



さとうけじゆうたく さの や
 41 佐藤家住宅（佐野屋）

佐藤家住宅は、旧貝田宿の中央に位置し、「佐野屋」の屋号を持つ。江戸時代には旅籠を営み、隣接する「得利屋」が脇本陣、佐野屋は本陣であったと伝わる。

主屋は大正15（1926）年に宮城県白石市越河五賀より移築された養蚕住宅である。屋根は妻面に窓が作られた入母屋造とし、養蚕に必要な広い作業空間と採光を確保した屋根裏を有する。屋内には床下に火鉢を設置し、屋根の棟には気抜きとともに、温室飼育のための装置が備えられている。



まつだけじゆうたくしゅおく
 42 松田家住宅主屋

松田家住宅主屋は旧貝田宿に所在する、大正4（1909）年に建築された木造二階建の養蚕住宅である。旧住宅が明治時代に焼失したため、伊達市梁川町粟野から移築したものと伝わる。

屋根は入母屋造瓦葺で、大棟には気抜きが造り付けられている。また、壁は軒裏まで丁寧に塗り込まれた大壁造となっている。一部の壁は漆喰塗り、二階部分には鉄板雨戸が取り付けられ、防火の機能を持つ屋敷林とともに、隣接地からの延焼を防ぐ工夫がされている。



まつだけじゆうたくいしぐら
 43 松田家住宅石蔵

松田家住宅石蔵は旧貝田宿に所在し、昭和6（1931）年に主屋とともに建築された。国見石を用いた蔵で、街道に面する石蔵と味噌蔵の2棟が現存する。

石造二階建の蔵は、重厚な鉄扉が耐火性に優れる国見石とともに防火の機能を持ち、壁面の手彫りによるツルメ掘仕上げと、寄棟造の屋根が特徴である。

石造平屋建の味噌蔵は、小規模ながら正面にアーチ形のレリーフを持ち、内部はヴォールト天井が架けられている。

関連文化財群②（風土と生業）

人々を育み、生活を支えた国見の豊かな風土

—国見の自然がもたらす恵み—

対象地域：全域

ストーリーの概要

奥羽山脈と阿武隈山地に挟まれた福島盆地特有の気候をもつ本町は、気温の日較差・年較差が大きく、比較的雨量も少ない特徴をもつ。また、町面積のおよそ三分の二を占める丘陵地から平野部には、南を流れる阿武隈川に向けて山間からいくつもの小河川が小さな谷を刻む。平野部は凝灰岩質由来の粘土層が広く分布し、阿武隈川沿岸には水はけの良い土壌が存在する。

こうした国見の気候・地形・地質が、現在の基幹産業である農業の高い生産性と品質につながり、様々な恵みをもたらしている。しかし、この風土を肥沃な大地に変え、現在の国見の農業に発展させたものは、先人達の多大な努力であり、その営みを反映した様々な歴史文化資源と周辺の田畑・里山を含めた景観により本町固有の文化的景観が形成されてきた。

本町の農業は沢水・湧水を用いて始まったと考えられ、御瀧神社の豊富な湧水は太古から光明寺集落の人々を支え、現在も流域の農地へ供給されている。古代には、県内有数の古墳群を造営する稲作集団が現れ、8世紀頃には、平野部において条里制による開田が進められた。

このように、豊かな水資源を持ち、古くから稲作による農業が行われてきた本町では、かんがい施設の整備による農地の拡大が進められる。12世紀末に伊達氏が入部すると、一族・家臣団による農村支配のもと、水路やため池などの整備が進められた。江戸時代に入り、上杉藩領時代には、摺上川（福島市）から取水する大規模な農業用水路である西根堰が開削され、多くの土地に水が供給されることにより開田が進み、飛躍的に農業生産力が高まった。その後は主に幕府の直轄領となり、国見の米は幕府領の年貢である御城米として、阿武隈川の舟運をへて江戸へと廻漕され、幕府財政を支えた。

また、丘陵地や、小河川の河原地を農地に変える養蚕奨励策も進められた。特に阿武隈川氾濫原の水はけの良い砂質土壌が桑栽培に適したことから、養蚕業は拡大し興盛した。宝暦～天明年間（1751～1789）には伊達地方の蚕種生産は関東先進地を超えるまでになり、優良蚕種の販路は関東にまで拡大した。安永年間（1772～1781）には産地偽装の不良蚕種流通の防止策として、伊達地方の39か村（本町では川内村、徳江村が含まれる）が幕府より「奥州蚕種本場^{おうしゅうさんたねほんば}」の称号を得た。これはひとえに良桑の育成、蚕種の改良、養蚕技術の向上など、先人のたゆまぬ努力の賜物である。

明治時代以降も基幹産業である水稲栽培と養蚕・蚕種業は継続されたが、生糸価格の乱高下が繰り返され次第に養蚕業からの転換が図られるようになる。様々な試みの中で、町民は丘陵地や平野部の桑畑を果樹園（りんご・桃・柿）に、阿武隈川沿岸を野菜畑へと転換させた。寒暖差の大きい気候は果樹栽培に適し、やわらかく肥沃な土壌は栄養豊富な根菜類の源となった。また風通しが良く広い養蚕住宅は、あんぽ柿製造に活用された。

本町域に暮らす人々は、古くから農業・養蚕業を生業とし、自然とともに暮らし、他方で克服しながら、その恵みを楽しんできた。全国に誇る本町の農産物の品質の良さは、自然条件のみならず、代々この土地を愛し、この土地に暮らし、努力を惜しまず、実直に農業と向き合う人々の手により生み出されたものである。

国見の豊かな風土は、人々の生業と生活を支え、寛容で勤勉な人間性を育んできた。国見の人々は、いつの時代も、変化する社会環境と真摯に向き合いながら、豊かな故郷を育んでいく。



図 5-4 関連文化財群②（風土と生業） 構成資源分布図

表 5-3 関連文化財群②（風土と生業） 構成資源一覧

No.	資源名	主な年代	No.	資源名	主な年代
1	石包丁・蛤刃石斧	弥生	11	徳江河岸	江戸
2	山崎条里遺構	奈良	12	西大枝深山神社の廻米絵馬	江戸
3	森山第四号墳	古墳	13	養蚕絵馬	江戸・明治
4	御瀧神社の湧水	—	14	養蚕住宅	江戸～昭和
5	観月台ため池	江戸	15	旧佐藤家住宅	江戸
6	西根堰	江戸	16	蔵（土蔵・石蔵・靱蔵）	江戸～昭和
7	雨乞い	—	17	あんぼ柿・干場	昭和
8	種まき桜	—	18	桃	昭和
9	さなぶり	—	19	長ごぼう、長にんじん	昭和
10	農業市	昭和			

※ 「No.」欄を網掛けした資源は所在が広域にわたる、所在地が不明、所蔵が町内に無いなどの理由から地図上に示していない。

関連文化財群②（風土と生業） 主な構成資源



いしぼうちょう はまぐりばせきふ
① 石包丁・蛤刃石斧

本町における弥生時代の遺跡は不明瞭なものが多いが、ぶつくでん 仏供田遺跡（徳江）、堰下遺跡（泉田）、割田遺跡（石母田）、山田遺跡（光明寺）などから石包丁や蛤刃石斧が出土している。

その後、鉄器文化が徐々に地方へ伝わることに伴い、農作業の効率化が向上し、現在の稲作農業の第一歩を踏み出したと推察できる。



やまざきじょうりいこう
② 山崎条里遺構

本町では8世紀頃に古代律令国家の土地制度と深い関係を持つ条里制による開田が徳江・塚野目などの平野部で進められた。伊達郡西部地域（国見町・桑折町及び伊達市・福島市の一部）には、東北地方でも有数の規模を持つ条里制遺構が存在したが、昭和50（1975）年代のは場整備でほとんどが姿を消している。

山崎条里遺構はこの事業の対象地外にあったことから、条里制の地割景観が良く残されている。



もりやまだいよんごうふん
③ 森山第四号墳

町指定史跡

森山の条里水田遺構を見下ろす森山丘陵（上野原）の南斜面に、円墳4基からなる森山古墳群があり、このうち、第四号墳は町の指定史跡となっている。

森山古墳群の小規模円墳群は古墳時代後期のもので、地方の官吏や有力農民の家族墓的な性格を持つものとされる。本町域において農民の階層分化が進み、円墳の被葬者となるような有力農民の出現を物語るものである。昭和49（1974）年、古墳内部見学のため覆屋を設置して便宜を図っている。



おんたきじんじや ゆうすい
④ 御瀧神社の湧水

町指定天然記念物

御瀧神社境内に湧き出る水は四季を通して水量が豊富で、地域の生活用水や水田のかんがい用水として広く利用されている。

御瀧神社が所在する光明寺集落はこの湧水を中心に集落が形成されており、南には牛沢川による扇状地が続き、古くから湧水を利用した水田地帯が広がっている。

湧水池と水路は住民の共同作業により日常的な維持・管理が行われ清潔に保たれている。



かんげつだい いけ
⑤ 観月台ため池

観月台ため池は、天保年間（1831～1845）の「藤田村絵図」に描かれており、藤田宿及びその周辺の農業用水路への供給源となっていた。また、明治時代初期の絵図では4つのため池が確認できる。

昭和35（1960）～44（1969）年の県営かんがい排水事業で上流に農業用ダム建設及び用水路の改修が行われ、かんがい用水貯留から水量調整用ため池へとその性格を変えている。

ため池周辺は、明治時代以降、旅館やカフェでにぎわい、大正時代には桜・松が植えられ、現在は5月の農業市や8月の盆踊りが開かれるなど住民の憩いの場となっている。

関連文化財群②（風土と生業） 主な構成資源

⑥ 西根堰 にしね ぜき

西根堰は寛永10（1633）年に完成した全長約28kmの農業用水路である。標高差僅か50mという高い土木水準で設計され、福島市（飯坂）・桑折町・国見町を経て伊達市五十沢に至り、当時の29か村水田900町歩を潤した。西根堰の完成により、既往のかんがい水が達せず荒廃していた下流地の水田が復旧され、西根堰に置き換えられたかんがい水を上流地で使用することで開田も進められた。

西根堰は現在も一帯の稲作を支えている現役の施設であり、平成22（2010）年度には、土木学会選奨土木遺産に認定された。

⑦ 雨乞い あまご

本町の農業は用水の確保・供給が深刻な課題であった。古くは河川・湧水・ため池等で用水を確保・供給し、近世になると西根堰の整備に至るが、それでも干ばつに瀕することもあり、住民は信仰の力「雨乞い」に頼ったと考えられる。

八幡神社（塚野目）・貴船神社（泉田）・愛宕神社・滝口神社（いずれも石母田・国見神社境内）・雷神社（小坂・徳江）・水雲神社（貝田・山崎）などの神社に雨乞いの記録や伝承があり、「おしのさん」や「雷神様」に代表される雨乞いの民話も細かい内容の差異はあるが数多く残されている。

⑧ 種まき桜 たねまき さくら

かつて町内には種まき桜と呼ばれる桜の大樹が点在していた。

つぼみが色づくときをまくなど、農事暦・自然暦の目安として、田畑の仕事をを行う時期に用いられてきた。

現在確認されるものは、貝田字杉ノ内のエドヒガン系の大木で、濃い花弁の色が長く楽しめる一本桜や、大木戸字宮原及び長泉寺（山崎字寺前）墓地の切株からの枝桜と僅かになっている。



⑨ さなぶり

「さなぶり」は田植え終了の祝いで、最後の田植えの時、水口に今植えた苗と苗との間に、苗を7株（9株や12株の地域もある）植える。これを一同で拝んだ後、株を抜いて束ねて水洗いし「おまさま」に供える。最後の苗を神棚まんながに供える地域もある。夕食には馬、大神宮様、また、供えた苗や馬鋤にお神酒をあげ、皆で拝んでお神酒をいただいてごちそうを食べる。7月1日を「大きなぶり」と称して餅をつき、この日までに田植えを終わらせるのが慣習とされていた。現在も簡略化された方法にて行っている家庭もある。

⑩ 農業市 のうぎょういち

農業市は毎年5月5日、観月台ため池周辺を会場として開催される。本町商工会主催で昭和33（1958）年から続くもので、近隣市町村から多くの人で終日にぎわい、町の年中行事として定着している。会場では、植木・盆栽・青果物・苗木・農業用具・日用品などが販売され、定期市（六斎市）の名残を見ることができる。

観月台ため池を含む周辺の豊かな自然環境や農作物への感謝と思いは、農業市がこの場所で連綿と続いてきたことを物語っている。

関連文化財群②（風土と生業） 主な構成資源



⑪ 徳江河岸^{とくえかし}

本町が幕府領となった寛文4（1664）年以降、国見一帯の年貢米は「御城米」と呼ばれ、江戸に廻米されることになった。徳江河岸は、幕府への年貢米（御城米）廻米のために必要な阿武隈川舟運の整備に伴い設置された河岸の1つであり、主に森山・東大窪（大木戸）・藤田・塚野目・徳江村の御城米の津出しが行われた。

村絵図等によると、河岸には積荷を行う船着場、御城米を一時保管する寄倉、河岸守宅等があり、寄倉は洪水の危険を避けるため、船着場から離れた高所に置かれる場合もあったようである。

写真：阿武隈川舟運図 ※福島市資料展示室所蔵



⑫ 西大枝深山神社の廻米絵馬^{にしおおえだしんざんじんじや かいまい え ま}

町指定有形民俗文化財

幕府領となって以降、信達地方の御城米は福島・桑折・徳江・東大枝などの阿武隈川の河岸から河口の荒浜港（現：宮城県亘理町）へと運ばれ、寒風沢港（現：宮城県塩釜市）を經由し海船に積替え、江戸浅草の幕府倉庫へと運ばれた。この廻米絵馬は、幕末期における西大枝の名主・佐藤浅次郎が荒浜港での大船への積替え作業の監督にあたったときの光景を、同村の画家・佐州（佐藤名平）に描かせたものであり、廻米の安全を祈って村の鎮守である深山神社（西大枝字宮ノ内）に奉納された。江戸時代の阿武隈川における廻米や舟運の状況を知る上で、数少ない貴重な史料となっている。



⑬ 養蚕絵馬^{ようさん え ま}

町内の各神社には豊蚕を祈って奉納された絵馬が散見される。光明寺御瀧神社の「養蚕図絵馬」（文久3〔1863〕年）、内容春日神社の「養蚕掃立図絵馬」（明治19〔1886〕年）が代表例として挙げられる。いずれも母娘が養蚕に励む様子を描くものである。

このほか、光明寺御瀧神社の「鼠除大蛇図絵馬」（明治43〔1910〕年）、「松と大蛇図絵馬」（奉納年不明）、藤田鹿島神社の「松に大蛇の絵」（奉納年不明）などはいずれも蚕の大敵の鼠を捕まえる蛇を描くもので、養蚕上族の際に鼠除けとして奉納されたものである。



⑭ 養蚕住宅^{ようさんじゆうたく}

養蚕は農家の伝統的な副業として居宅の一部を利用して行われ、農村経済を支える柱として発展した。養蚕住宅は、住居と蚕室を兼用した構造と、養蚕業の発展にしたがい改良された歴史を持つ。

蚕は湿気や暑さ・寒さに弱く、養蚕には採光・通風・保温の確保が必要不可欠である。このため本町の養蚕住宅では、蚕室を広く取り、かつ採光を確保する「あづま造」と呼ばれる屋根形式が普及した。また、換気を目的とした屋根頂部の気抜き設置、開口部を広く取ることによる通気性の確保、床下等に暖房用の炉を設置するなどの工夫も見られる。なお、養蚕住宅は時代がくだるとともに、二階が高くなり、茅葺は瓦葺・金属板葺に変わっていった。



信達地方における蚕室の特徴は、住居兼用の足場式二階である。本格的な二階蚕室を設けず、ナカノマ・ザシキに床から7尺位の高さで4寸角位の梁を前中後3か所にわたし、その上に厚さ1寸程度の足場板を臨時に張る。この方法は一階の炭火で二階まで暖められ、一・二階の上り下りが便利という利点があった。当初は中二階、後に普通の高さの足場式二階へと変化したという。

なお、畳敷のナカノマ・ザシキが蚕室化したため、囲炉裏は板張りのカッテに設けられ、家人は同室で食事をとることとなった。

関連文化財群②（風土と生業） 主な構成資源



15 旧佐藤家住宅

県指定重要文化財

旧佐藤家住宅は江戸時代中期の県北地方における本百姓の標準的な住居である。小坂字木八丁に所在したもので、昭和47（1972）年に現在地（藤田字観月台）へ移転復原された。

外観は間口七間、奥行三間、寄棟造茅葺で、間取りは入口からドマ、ナカノマ、ザンキ・ナンドと並ぶ三間取のつくりとなっている。東北地方の農家らしい簡素で素朴な形式を示す。また、ドマに立つ大黒柱や曲木を用いた梁、三方大壁の手法や出入口の大戸など、養蚕業が本格化する前の古い建築様式が残されている。



16 蔵（土蔵・石蔵・硯蔵）

農村地域における蔵は養蚕道具・桑葉の保管等に使用され、主屋とともにかつて養蚕業が隆盛したことを伝えている。

明治時代までは土蔵造によって蔵が建てられたが、大正時代以降、地元石工・伊藤柳太郎による石蔵建築技術の修得や養蚕業の発展に伴い石蔵が普及し、現在でも500棟を超える石蔵があり、本町固有の歴史的景観を形成している。

また、凶作の年に備えて米を硯のままで貯蔵する硯蔵も数多く存在し、農家の屋敷構えや農村集落全体の景観を形成する特徴的な建物といえる。



17 あんぼ柿・干場

干柿は伊達地方において明治時代より菓子類の一つとして製造されてきたが、昭和初期以降、硫黄燻蒸による製造方法が確立すると、見た目も美しく商品価値の高いあんぼ柿が本町でも盛んに製造されるようになった。10月に入ると、原料となる蜂屋柿・平種柿が町内をオレンジ色に彩り、11～12月の繁忙期には各地で無数のあんぼ柿が干される光景が、町の風物詩となっている。町内に散在する干場は本町の生業と深く関わるもので、蚕室を転用するものも存在するなど、地域固有の景観を形成する特徴的な建物といえる。



18 桃

町内では戦後、桑栽培から果樹栽培へと転換する農家が増えたが、昭和30（1955）年代後半から特に桃を作付けする農家が増加した。福島盆地の肥沃な土地に恵まれ、比較的寒暖差のある気候と、夏の日照時間の長さが甘くて色づきの良い桃を育てる。町内の農家は品質の良い桃を生産するため栽培技術の向上に励み、現在では全国1位（町村の部）の出荷量を誇る。30種類以上の品種が栽培され、7月から10月上旬頃まで収穫されている。



19 長ごぼう、長にんじん

阿武隈川沿岸には肥沃な土壌を持つ畑が広がり、ごぼう、にんじん、里芋、長芋等の根菜類の栽培が盛んである。特に川内地区で栽培される長ごぼう、長にんじんは、栄養豊富でやわらかい土の中で1mもの長さに育ち、野菜本来の甘味や旨味の強さが特徴である。

高速道路等の輸送手段が発達する昭和40（1965）年代以前は、生産者が籠に背負い列車に乗って仙台圏へも出荷し（鉄道行商人と呼ばれた）、「川内ごぼう・川内にんじん」の名が定着していた。町内では、いか人参や煮物などの郷土料理に好んで使われている。

関連文化財群③（資源と産業）

太古の大地がもたらした国見の産業史

― 窯業・鋳業・国見石の産業 ―

対象地域：全域

ストーリーの概要

本町の北部一帯に連なる山々の地質は、主に新第三紀の火山活動を起源とする安山岩質集塊岩と凝灰岩で構成され、安山岩質層の中に貫入する流紋岩質の火山砕屑岩の中には金・銀鋳床を胚胎している。山麓斜面から平地への傾斜地では、堆積物が分厚い地層を形成する扇状地や、凝灰岩類が露出する箇所が存在し、特に凝灰岩層は町内を縦断する東北自動車道の両側に広がりをもっている。平野部では、阿武隈川及び同水系の小河川により、堆積岩類と低位段丘・自然堤防が形成され、堆積層には風化した凝灰岩類に由来する粘土層が広く分布している。これら太古に形成された国見の大地・地質は、後世に勃興する様々な産業の源となった。

古代には粘土層が土器の材料として使用され、奈良・平安時代の窯跡として大木戸窯跡群（須恵器）、遠光原山窯跡（須恵器）、山居瓦窯跡（瓦）が確認されている。瓦や什器類は、律令制に伴い置かれた郡衙等の関連施設や徳江廃寺などで使用されたと考えられる。当時の人々にとっては、新しい時代の到来を体感させる産業の出現であった。

近世になると、桑折町の鋳床を採掘の中心とする半田銀山が本格稼働する。宝暦年間（1751～1764）までは山師の請負による稼行がなされ、享保年間（1716～1736）には小坂村の三郎兵衛や後に小坂村に移り住む野村勘右衛門が、元文年間（1736～1741）には森山村の佐久間六右衛門などが事業にあたった。宝暦6（1756）年以降は幕府の直営となり、日本三大銀山の一つとして幕府の財政を支えた。幕末から明治にかけての民営稼行時には、その初期に本町に所縁の深い早田伝之助が稼行し、小坂村の二階平坑口が盛んに利用されるようになる。以後、五代友厚の再興から昭和期の採掘まで、二階平坑口は半田銀山の主要な坑口の一つであった。また銀山の本格稼働に伴い、小坂村は鋳山を支える材木や鍛冶炭の供給地の一つとなった。町内域には遠方より鋳夫や技術者が集まり、鍛冶・醸造などの産業も栄え、代官所が置かれた桑折宿だけでなく、藤田宿にも多くの人や物、文化が集まりにぎやかさを増した。

凝灰岩の露出した場所からは石材が採掘され、耐火性に優れたその「国見石」は江戸時代以降、建築資材やかまど・囲炉裏等の材料として広く流通した。大正期には栃木県大谷石の石工技術を学んだ伊藤柳太郎を中心に石蔵建築が町内で始まり、柳太郎は旧小坂村産業組合石蔵に見られる建築技術の革新をもたらすと同時に、福島市の旧通信省電気試験所福島出張所や宮城県蔵王町の郷蔵など町外の石造建築にも携わった。昭和40（1965）～50（1975）年代の盛期には町内に20軒ほどの石を取り扱う店があり、石工たちは県中・県南地域まで石蔵の建設に出向いたことが知られている。町民の国見石への愛着に支えられ、今でも町内に500棟以上の石蔵や石造建築物が現存し、本町固有の歴史的な景観を形成するとともに、石工の高い建築・石材加工技術を今に伝えている。

これら窯業・鋳業・国見石の歴史は太古の大地が源となり、本町の発展を支えた。現在継続する産業はないものの、産業史を反映した国見特有の景観・歴史文化を形成している。

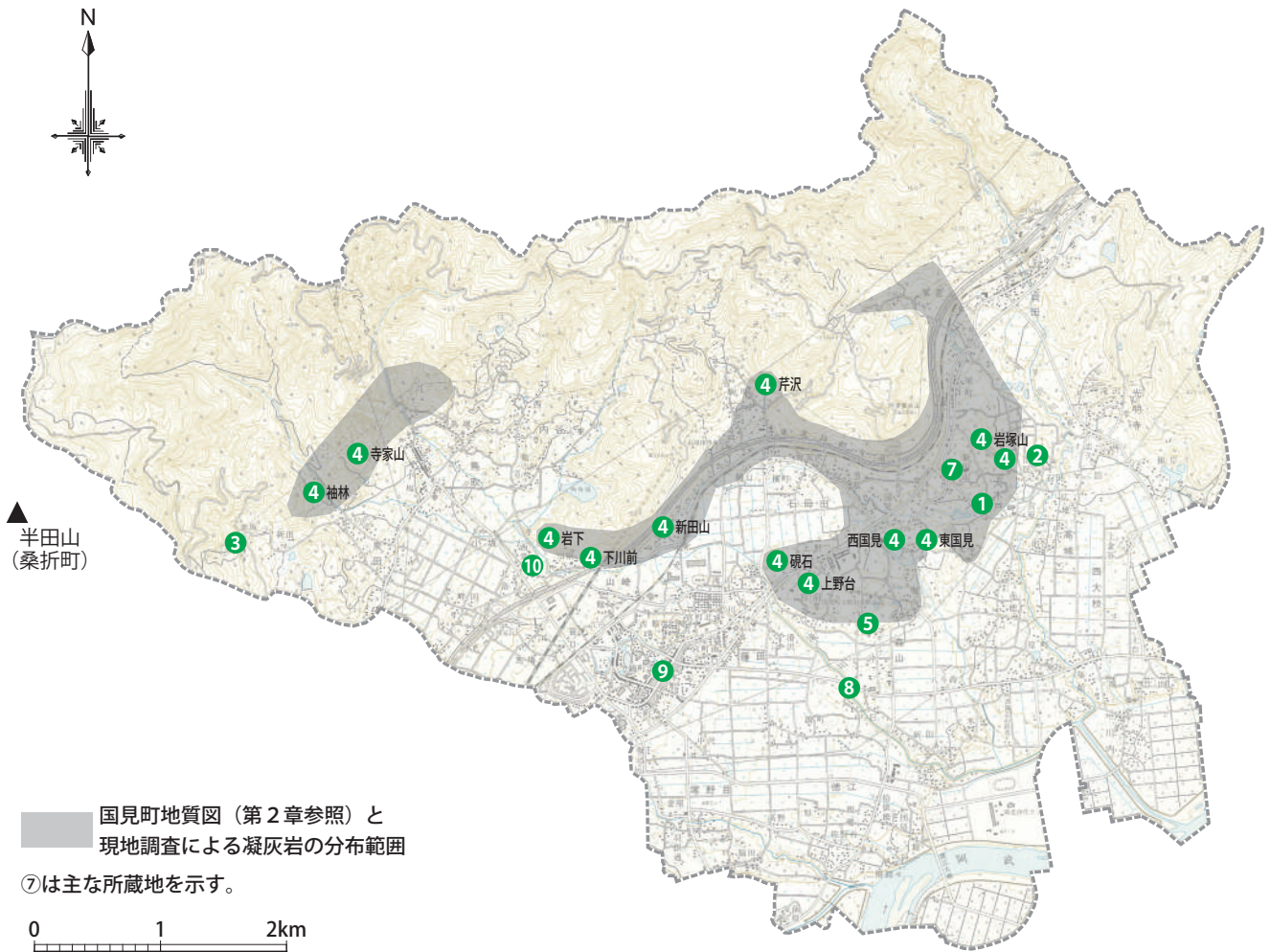


図 5-5 関連文化財群③ (資源と産業) 構成資源分布図

表 5-4 関連文化財群③ (資源と産業) 構成資源一覧

No.	資源名	主な年代
1	大木戸窯跡	奈良・平安
2	山居製鉄遺跡	平安
3	半田銀山二階平坑口跡	江戸～昭和
4	国見石 (採石場)	大正・昭和
5	森山第四号墳	古墳
6	石蔵・石造建築物	大正・昭和
7	石工道具	大正・昭和
8	伊藤家住宅石蔵	大正
9	奥山家住宅主屋・洋館	大正
10	旧小坂村産業組合石蔵	昭和

※「No.」欄を網掛けした資源は所在が広域にわたる、所在地が不明、所蔵が町内に無いなどの理由から地図上に示していない。

関連文化財群③（資源と産業） 主な構成資源



① 大木戸窯跡 町指定史跡

大木戸窯跡は8～9世紀（奈良～平安時代初頭）にかけて、須恵器の生産が行われた遺跡である。須恵器は焼物に適した粘土、豊富な燃料、河岸段丘などの斜面を利用した登り窯と呼ばれる竈窯が必要となるが、当該遺跡の立地条件は、これらの要件を満たしている。

高度な工芸技術を伴った当該遺跡の須恵器生産は、東北地方でも早い時期のもので、本町を中心として展開された伊達郡西部の古墳群や大規模な条里制遺構とともに、地域の古代史を解明する上での貴重な遺構である。



② 山居製鉄遺跡 町指定史跡

山居製鉄遺跡は、製鉄を行ったタタラ遺跡で、炉跡が検出されるとともに、鑪の口や鉄滓が多数発見され、これらに混じって土師器が数点と竈穴住居跡1棟が確認されている。共伴した土器によると10世紀頃のものだと判断されている。

鉄は人類の生活にとって欠くことのできない材料となり、古代の製鉄技術は発達を遂げた。武具のほかに鋤・鎌などの農具の需要が多くなると山居遺跡のような製鉄遺跡が山間の溪流の流れる地域に数多く分布するようになった。



③ 半田銀山二階平坑口跡 町指定史跡

半田銀山の本格的開発は、上杉景勝領有の慶長年間（1596～1615）以降で、後に松平桑折藩や佐渡奉行所・桑折代官所の支配下に置かれた。天保年間（1830～1844）には、新鉱脈の発見によって大量の灰吹銀を産出し、石見・生野銀山とともに、日本三大銀山に数えられた。明治時代以降は民間所有となり近代化が進められたが、昭和25（1950）年に産出量の減少から休山となっている。

二階平舗は嘉永7（1854）年の開坑とされ、現在、桑折町・国見町を通じ、半田銀山跡に現存する数少ない坑口跡の一つである。



④ 国見石（採石場） 町指定史跡

国見石は本町で採掘される凝灰岩である。火に強く、柔らかく加工しやすいのが特徴で、建築の外壁をはじめ、かまどや囲炉裏の敷石等にも使用される。

当初、石の名称を小坂石・西堂石・山崎石・石母田石・国見石など産地別の名で呼んでいたが、昭和15（1940）年に国見石と総称するようになった。主要な採石場は、昭和30（1955）～40（1965）年代の全盛期に12か所あり、全て露天掘りで行われた。町内には最盛期に20軒ほどの石材店があったが、現在は5軒が創業を続ける。



⑤ 森山第四号墳 町指定史跡

森山の条里水田遺構を見下ろした洪積台地を見下ろす森山丘陵（上野原）の南斜面に、円墳4基からなる森山古墳群があり、このうち、第四号墳は町の指定史跡となっている。

森山第四号墳は直径18m、高さ3.25mの円墳で、銀環・直刀・琥珀玉等が出土している。6～7世紀頃（古墳時代後期）のものである。

墳丘中央部に胴張り型の横穴式石室が検出されており、この玄門部を構成する袖石・榦石及び閉塞石には国見石の切石が用いられている。

関連文化財群③（資源と産業） 主な構成資源



⑥ 石蔵・石造建築物

本町には石蔵や石造建築物が市街地・農村部を問わず広く分布する。耐火、防湿、室内気温の一定化、冬～春季に吹く「半田おろし」と呼ばれる地域特有の季節風に対する防風などの効果から重用された。

本町の石蔵は大正時代から昭和戦前期は養蚕業の隆盛、豪農・豪商による米の備蓄に対応する形で、その数を増やすとともに大型化が図られた。戦後は農地解放や好景気に伴い一般に普及し、昭和40（1965）年代から石蔵の建築はピークを迎えた。なお、国見石は表面の加工方法で採掘や建築年代を推定することができる。



⑦ 石工道具

国見石は採石時の規格が主に2種類あり、奥行1尺（30cm）、横3尺（90cm）、高さ5寸（15cm）又は7寸（21cm）で切り出しが行われた。

採石は墨壺により縦・横の線引きから始まる。縦面と横面は「ホッキリツル」で溝を深め、石をおこすために、15cm程度の間隔で矢を入れる。これで石を割り「サシパ」などで不要な部分をだまかに削る。表面は「ツルメ掘仕上げ」で斜め模様を規則的に入れることで建物のトーンをつくり出している。



⑧ 伊藤家住宅石蔵

伊藤柳太郎は、石工職人である中野家の次男として明治10（1877）年に生まれた。幼少より石工の技術を身に付け、成人すると大工棟梁の家柄である伊藤家の養子となる。その後、栃木県宇都宮市大谷から石工を招き、石造建築の技術を修行した。

柳太郎は大木戸地区で採掘した国見石を使用し、大正6（1917）年、森山地区の自宅敷地に石造二階建の蔵を建築した。これが、本町における国見石を使用した石蔵建築の第1号となる。



⑨ 奥山家住宅主屋・洋館

国登録有形文化財

奥山家住宅は、本町の近代化に貢献した3代目奥山忠左衛門により、同家の迎賓館として大正10（1921）年に建てられた。純和風の主屋とルネサンス様式をベースとした洋館からなる。洋館の構造は木骨石造で内部に国見石が使用され、外壁はタイル張りとなっている。東日本大震災において一部損壊し、外壁のタイルがはがれた箇所において、内部の国見石の積み上げ状況が確認された。また、当該住宅の建築には、本町の石造建築の先駆けである伊藤柳太郎が携わっている。



⑩ 旧小坂村産業組合石蔵

国登録有形文化財

小坂村産業組合は、昭和15（1940）年に行われた米穀配給統制により、政府供出米の提供や管理のために設立された。同石蔵は穀蔵として米や麦等を貯蔵するため、昭和16（1941）年に建築された。町内で現存する最大級の石蔵である。

国見石による石積を壁体とし、外壁にはバットレス（控え壁）を設ける。内部の軸組・小屋組は木造で、小屋組はキングポストトラスを採用し、両端を挟み方杖で補強する。大規模建築を可能とするため考慮された構法であり、大変希少である。施工には本町の石蔵建築の先駆けである伊藤柳太郎ほか多数の石工が携わった。

関連文化財群④（信仰）

地域に根差した村々の祈り
—信仰を中心とした地域文化の伝承—

対象地域：全域

ストーリーの概要

本町には、江戸時代から続く16の村々に多様な信仰を中心とした地域文化が伝承されている。

旧村社をはじめとする町内各地の神社は、住民の協力活動により大切に維持管理され、祭礼等の活動は今なお受け継がれている。

貝田地区、川内地区ではかつて火災や水害に見舞われ、共同で身を守ってきた歴史がある。貝田地区の秋葉神社、水雲神社の祭礼は住民の「^{やど}宿」という制度により守られてきた。今でもお囃子や子ども神輿の巡行を介して親戚や地域と交流し、地元の習わしを伝えている。

川内地区の巖島神社の春の例大祭では、「あつかし太鼓保存会」により戦後途絶えていた山車の巡行を平成4（1992）年に復活させた。地区の女性たちは心を込めて郷土食を準備し、^{なほらい}直会の際に皆が一堂に会して味わう。除災、安全への願いとともに、地区住民の絆の強さ、共同の力を両地区の祭礼に見ることができる。

内谷地区の春日神社では、春の例大祭に明治時代から伝わる太々神楽が奉納される。神楽は無病息災、五穀豊穡を願い、神様の心を和ませるものとされる。同神楽保存会の楽人たちの熱心な指導により、若い楽人たちへその思いが脈々と受け継がれている。

藤田地区の鹿島神社例大祭は子どもを含めた氏子、若連、国見伝統文化保存会等の組織により約1か月の準備期間を経て執り行われる。勇ましいかけ声とともに激しくぶつかる神輿と山車が秋の旧藤田宿をにぎわせ、町の歴史的風致の維持・伝承にあたっている。

光明寺地区は、御瀧神社の湧水を中心に形成された集落である。現在も地区において水場や水路の維持管理を行い、水への信仰・祭礼の活動が継承され、世代を越えて貴重な歴史的風致・文化的景観を守っている。

観音信仰は町内各地で行われており、鳥取地区の信達三十三観音霊場福源寺地蔵庵観音堂における観音講の御詠歌の唱和や御堂の清掃活動、巡礼者へのもてなしにも昔の姿が残されている。また、全町的な信仰として阿津賀志山は古くから信仰の山とされてきた。江戸時代後期には三十三観音八八大師画像碑群が建てられ、現在も当時の資料が町内各地に存在する。

「^{こう}講」と呼ばれる集団の活動は町内各地で昔から盛んであり、宗教や信仰上の目的を有するもののほか、経済的動機や社会的動機を持つもの等その種類は多岐にわたる。念仏講、庚申講、二十三夜講、おふくでん講等、現在も時代の変化に合わせてその目的や形態を変えながら継続しているものもあり、地域のつながりを醸成している。

このほか、かつて豊蚕を祈った絵馬や祈祷を行った道具、雨乞い信仰の民話などは今も大切に伝わり、農業に伴う農耕儀礼、子宝や安産を願う習わしなど、我々が営んできた祭礼や民間信仰が、多様に継承されている。

時代や世代を越えて伝承されてきた信仰や祈りによる地域の文化は、人々がこの国見の風土と密接な関係にある証である。今なお地域コミュニティの源泉・紐帯として住民の協働・連帯感・支え合いを生んでいるこれらは、未来へ伝えていかなければならない重要な歴史文化資源である。

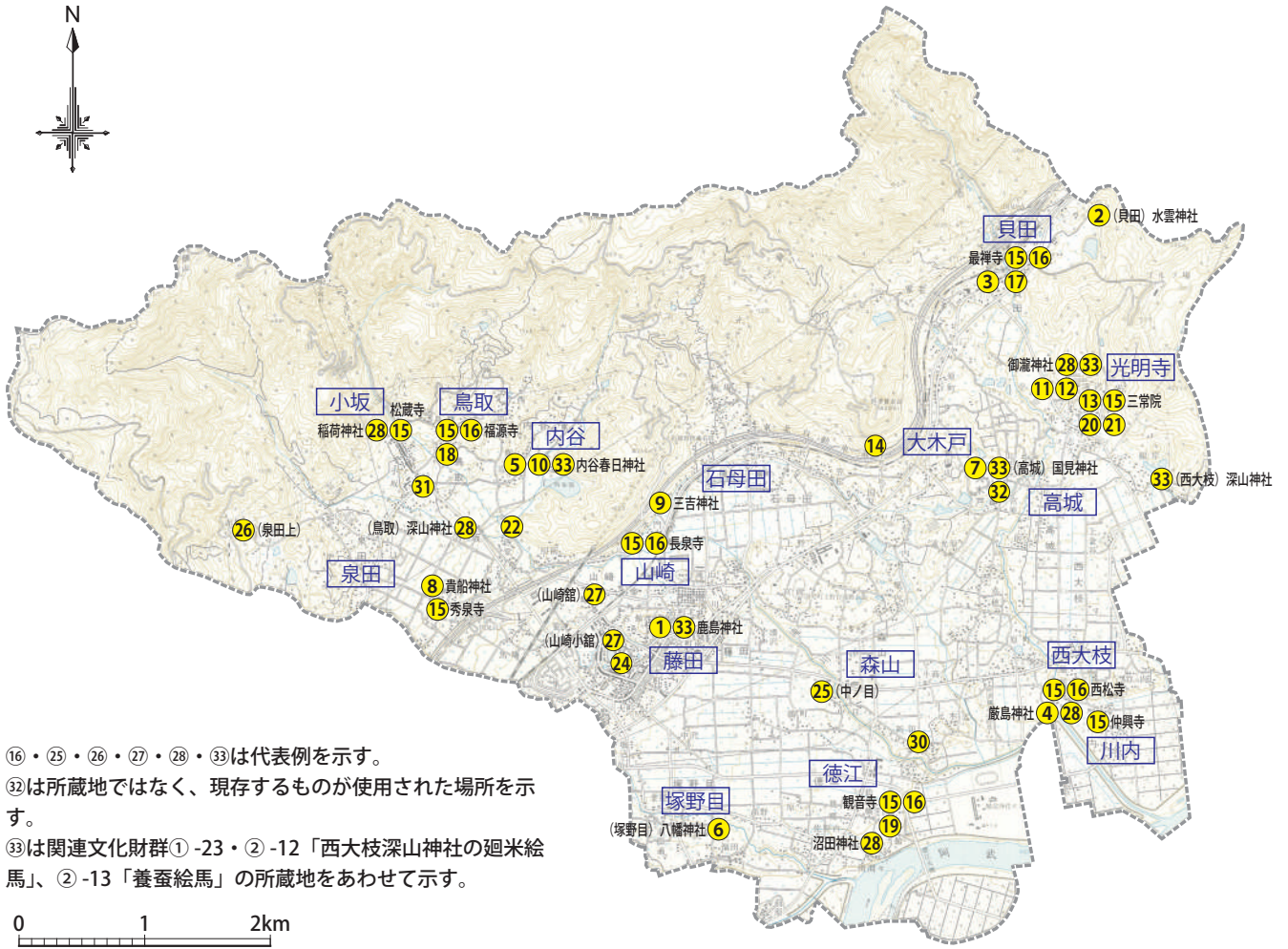


図 5-6 関連文化財群④（信仰）構成資源分布図

表 5-5 関連文化財群④（信仰）構成資源一覧

No.	資源名	主な年代	No.	資源名	主な年代
1	鹿島神社例大祭	室町	17	最禅寺観音堂	江戸
2	水雲神社祭礼	—	18	福源寺地蔵庵観音堂	明治
3	秋葉神社祭礼	—	19	観音寺観音堂	江戸
4	巖島神社祭礼	—	20	光明寺三常院（阿弥陀堂）	平安
5	内谷春日神社祭礼	—	21	三常院木造阿弥陀三尊仏立像	平安
6	八幡神社祭礼	—	22	西堂薬師堂	江戸
7	（高城）国見神社祭礼	—	23	盆棚に供える料理	—
8	貴船神社祭礼	—	24	大千寺念仏講・沼供養	—
9	三吉神社祭礼	—	25	庚申講	—
10	内谷春日神社太々神楽	明治	26	二十三夜講	—
11	御瀧神社の湧水	—	27	おふくでん講（御福年講）	明治
12	滝普請	—	28	豊蚕信仰	—
13	阿弥陀垂水	—	29	農耕儀礼・信仰	—
14	阿津賀志山三十三観音 八十八大師画像碑群	江戸	30	小牛田山神社	江戸
15	観音信仰（観音霊場）	江戸	31	小坂子育て地蔵	—
16	観音講	江戸	32	オシンメサマ	明治
			33	絵馬	江戸・明治

※ 「No.」欄を網掛けした資源は所在が広域にわたる、所在地が不明、所蔵が町内に無いなどの理由から地図上に示していない。

関連文化財群④（信仰） 主な構成資源



① かしまじんじやさいい 鹿島神社例大祭 町指定無形民俗文化財

鹿島神社例大祭は、旧奥州街道藤田宿を中心に毎年10月の第4金曜日と土曜日の2日間と前夜祭が執り行われる。
 約1か月前から運営等の準備、山車の組立・修繕、お囃子・太鼓の稽古にかかり、1週間前になると幣束が町内に掲げられる。
 例大祭当日の昼は神輿と山車4台がお囃子とともに町内を練り歩き、御旅所では稚児舞や剣の舞などの神事が行われる。最終日の夜は、山車と山車が神輿を挟んでぶつかる「もみ合い」が還御まで繰り返され、沿道は多くの人々にぎわう。



② すいうんじんじやさいい 水雲神社祭礼

旧貝田村の村社である水雲神社では、毎年10月中旬の日曜日に祭礼が行われる。貝田地区の祭礼は神社会・町内会に加え、「宿」と呼ばれる10軒の家主が中心になって運営される。宿は1年交代による輪番制で、中でも「大宿」の家がそのとりまとめを行う。
 かつては祭礼の前日に「大宿」の家に祭神（御神体）を移し、神職とともに一晩泊め、当日に大宿の人々が御神体を背負い、幟を持つ宿の人々と渡御する神事が行われた。御神体は、大宿以外の宿まわり、家内安全・息災や子孫繁栄を祈った。



③ あきはじんじやさいい 秋葉神社祭礼

貝田地区に所在する秋葉神社は、文政10（1827）年に現在地へ遷座された。毎年4月中旬の日曜日に祭礼が行われ、大火が続いた貝田の火伏の神・「鎮火守護」として家内安全と五穀豊穡が願われる。
 祭礼では、神職による祝詞の後、子ども山車の巡行が行われる（かつては大人によって山車が運行された）。お囃子は地元子ども会を中心とした貝田子ども太鼓同好会によって受け継がれている。



④ いつくしまじんじやさいい 巖島神社祭礼

旧川内村の村社である巖島神社では毎年4月に、水害もなく平穏で豊穡な年になることを祈願し、春の例大祭が行われる。平成元（1989）年に「あつかし太鼓保存会」を結成し、戦後途絶えていた山車やお囃子を平成4（1992）年に復活させ、現在も地区の子どもたちが大切に受け継いでいる。直会では地区の女性たちが準備した川内ごぼうの煮物や豆腐ごはんなどの郷土食が振る舞われ、参加者が一堂に会して味わう。かつて阿武隈川の洪水から身を守るために培われた人々の結束の強さが継承されている。



⑤ うちやかすがじんじやさいい 内谷春日神社祭礼

旧内谷村の村社である春日神社では、毎年4月に春の例大祭が行われ、無病息災、五穀豊穡を願い、神楽殿において太々神楽が奉納される。また4年に一度、2日間にわたる神輿渡御が行われ、子どもたちと一緒に山車も地区内を練り歩く。

関連文化財群④（信仰） 主な構成資源


はちまんじんじやさいれい
 ⑥ 八幡神社祭礼

旧塚野目村の村社である八幡神社では、毎年4月に春の例大祭が行われる。いくさ神として信仰され、戦争中は戦勝祈願のために八幡様めぐりでにぎわった。また、干ばつ時に降雨を祈願する雨乞いが昭和59（1982）年まで行われており、水の神様としても地区住民の信仰を集めている。


たかぎ くにみじんじやさいれい
 ⑦（高城）国見神社祭礼

高城地区に所在する国見神社は、毎年4月と11月に例大祭が行われる。中世には大窪村の村社であり、その後、旧大木戸村、旧高城村の村社となった。4年に1度、11月の例大祭には神輿渡御が行われ、現在の大木戸、山根、高城地区からそれぞれ山車が出され地区内を巡行する。


きふねじんじやさいれい
 ⑧ 貴船神社祭礼

旧泉田村の村社である貴船神社では、毎年4月に春の例大祭が行われる。4年に一度、神輿渡御が行われ、山車も地区内を練り歩く。江戸時代に京都の貴船神社の御分霊を勧請した、二柱の神を祀る神社であり、水の神として地区の信仰を集めている。


みよしじんじやさいれい
 ⑨ 三吉神社祭礼

石母田地区に所在する三吉神社は、毎年4月と11月に祭礼が行われる。春季大祭は五穀豊穡を祈願し、秋季例祭は収穫に感謝する。神前での剣舞、神楽殿で日本舞踊などが奉納され、来場者にお神酒等のおふるまいを行う。清水（霊水）が湧き出て、水神をお祀りしたのが創始であると伝えられている。


うちやかすがじんじやだいかぐら
 ⑩ 内谷春日神社太々神楽

町指定無形民俗文化財

内谷春日神社に伝わる太々神楽は三春地方から伝来した出雲系神楽で、明治15（1882）年の秋季例祭で初めて披露された。

戦中戦後の社会情勢の変化や後継者不足によって中断された時期があったが、氏子一同の消滅を惜しみ復活を望む声が強くなり、昭和57（1982）年に太々神楽保存会が設立された。

現在、古老楽人の熱心な指導と若い楽人の献身的な努力により舞数26座を保存継承し、毎年4月第3日曜日に伝統ある神楽が奉納されている。

関連文化財群④（信仰） 主な構成資源



⑪ おんたきじんじや ゆうすい 御瀧神社の湧水 町指定天然記念物

御瀧神社の縁起は不明であるが、江戸時代には「稻荷大明神」と呼ばれ、集落の根源である水を祀り五穀豊穡を願う神社として古くから存在していた。

湧水は古くから湧き、下流域の山田遺跡からは縄文時代の生活の跡が発見されており、今でも約21haの水田のかんがい用水として使われている。「大滝」「小滝」と呼ばれる境内の神池には大きな梵天（幣束）が祀られており、豊かな稲のみのりを水神に祈った古い信仰の形を伝えている。



⑫ たきぶしん 滝普請

御瀧神社の湧水は、光明寺集落の生活・恵み・祈りの源であり、集落の人々によって大切に維持・管理が行われ、利用されてきた。

毎年4月の御瀧神社祭礼の1週間前には、「大滝」「小滝」と呼ばれる境内の神池の水を抜き、周辺水路とともに掃除を行って清めた後、神池に梵天（幣束）を立てる滝普請を行う。年に1度の滝普請に地元町内会を中心に多くの住民が携わる。



⑬ あみだらすい 阿弥陀垂水

御瀧神社の湧水池である「小滝」に隣接する三常院阿弥陀堂では本尊の下に湧き出る水を「阿弥陀垂水」と呼んでいる。眼病や皮膚病に効果があるという言い伝えがある。

定期的に水場の清掃・管理が行われ、阿弥陀垂水の利益を求める人々の利用にこたえている。



⑭ あつかしやまさんじゆうさんかんのんはちじゆうはちだいがぞうひんぐん 阿津賀志山三十三観音八十八大師画像碑群 町指定有形民俗文化財

嘉永6（1852）年頃、伊達郡二野袋村（現：伊達市梁川町）の行者・佛源（属名源右エ門）の発願により、坂東三十三観音、四国八十八大師、西国三十三観音の画像を安置するため、阿津賀志山東麓、奥州街道国見峠周辺一帯の地に大師堂と草庵を建立した（大師堂と草庵は現存しない）。

画像碑群は佛源の資金集めのため、信達両郡の村々をめぐる助成奉加を呼びかけ、その恩恵として一石に一体ずつの尊像を線刻し大師堂の周辺地に建てたものである。なお、画像碑群のほか、大師像・趣意を刻んだ版木類・幟などが現存する。



⑮ かんのんしんこう かのんれいじょう 観音信仰（観音霊場）

福島盆地における観音信仰は、豊蚕の願いと結び付き、江戸時代後期以降の養蚕業の勃興とともに発展してきた。本町には、観音霊場巡りの寺院が9か所存在し、観音信仰が広く残されている。

- 信達三十三観音 : 小坂松蔵寺（第20番）、鳥取福源寺（第21番）
- 伊達秩父準三十四観音 : 光明寺三常院（第16番）、徳江観音寺（第30番）、
貝田最禅寺（第31番）、西大枝西松寺（第32番）、
川内仲興寺（第33番）
- 信達坂東三十三観音 : 泉田泉秀寺（第27番、第28番）、
山崎長泉寺（第29番）

関連文化財群④（信仰） 主な構成資源



かんのんこう
⑩ 観音講

観音菩薩を安置する寺院では、地域住民によって念仏・御詠歌・御堂の清掃活動などを行う観音講（又は梅花講）が結成された。本町内で現在も行われている代表例として福源寺（鳥取）・最禪寺（貝田）・長泉寺（山崎）・観音寺（徳江）、西松寺（西大枝）がある。

特に福源寺観音講（現在は「観音様を守る会」）では、念仏・御詠歌・清掃活動のほか、巡礼者に対して隣接する公民館（かつては「お茶場」と呼称）にて、御朱印の押印とともに野菜・山菜などを用いたもてなしを行っており、かつての活動を色濃く残している。また、西松寺梅花講では、告別式で死者との別れを惜しむ御詠歌をあげている。



さいぜんじ かんのおんどう
⑪ 最禪寺観音堂

最禪寺は旧奥州街道貝田宿沿いに所在する曹洞宗寺院である。

本堂内には柿葺の小さな観音堂が安置されており、伊達郡秩父準三十四観音の第31番札所として信仰を集めるとともに、貝田の人々によって観音講が組織されている。観音講では30名程の講衆が春と秋の彼岸時に観音堂前に集まり、読経・御詠歌を上げる。

子育て観音としても信仰され、子どもの健やかな成長を願う木製の人形（木ぼっくり）が子どものいる家庭に貸し出される。講中の人々は、人形の衣装や頭巾を手作業で作って奉納している。



ふくげんじ じ ぞうあんかんのんどう
⑫ 福源寺地藏庵観音堂

町指定有形文化財

鳥取字鳥取に所在する福源寺地藏庵観音堂は、信達三十三観音霊場の第21番札所である。江戸時代から観音講の活動が行われ、現在も観音堂を管理する集落の人々がお茶場で巡礼者を温かく迎え入れる「お接待」の風習が残されている。

現在の観音堂は明治8（1875）年に再建されたもので、土蔵造の本体に四面庇と向拝が付く。内部には、明治9（1876）年に描かれた花や鳳凰の天井絵が描かれ、透かし彫りの彫刻などの装飾が施されている。正面板戸の裏には「山口村 棟梁右源次」の墨書が確認できる。



かんのんじ かんのおんどう
⑬ 観音寺観音堂

徳江字中ノ内に所在する観音寺は、真言宗豊山派の古刹である。

観音堂は聖観音菩薩を本尊とし、脇侍に毘沙門天立像、不動明王立像を配置した仏堂である。本尊の制作年は不明だが、渡来佛の趣がある。秘仏として30年に1度の開帳を行っている。

建物は棟札より享保3（1718）年の建築と明らかである。外観は二手先組物、二軒平行繁垂木を用いる形式の整った仏堂であり、町内随一の規模である。

地域住民による観音講が組織されており、現在も観音様に御詠歌をお供えし、地域の安全や家族の安心を祈る。



こうみょうじさんじょういん あみだどう
⑭ 光明寺三常院（阿弥陀堂）

光明寺字鹿野に所在する三常院は、貞観元（859）年、堯養により高寺山（現在の御堂背後の山）に創建され、元慶年間（877～885）に焼失し現在地に移されたと伝わる。現在の阿弥陀堂は文政2（1737）年の再建とされ、本尊及び脇侍である木造阿弥陀三尊仏立像（町指定有形文化財）を安置する。

江戸時代には、住職が御瀧神社の湧水（大滝・小滝）の管理を担うとともに、伊達秩父準三十三観音の巡礼地（第16番札所）としてなど人々の信仰を集めていた。

関連文化財群④（信仰） 主な構成資源



⑲ さんじょういんもくぞうあみださんぞんぶつりゅうぞう 三常院木造阿弥陀三尊仏立像 町指定有形文化財

三常院木造阿弥陀三尊仏立像（町指定有形文化財）は、16世紀の制作と考えられる阿弥陀如来・観音菩薩・勢至菩薩の三尊立像である。元文2（1732）年に会津若松城下の仏師により補修されたとの記録が中尊の胎内に納められた『御再興略縁起』に記されている。同縁起には、平安時代末期の制作とされ、慈覚大師の作と伝わる。「三常院が野火で焼失した際には自ら飛び出す」、「突然後光が輝きわたった」などの伝承が伝わり、長く地域の信仰を集める仏像である。三尊とも背面に焼痕が残り、伝承との関係性をうかがえる。



⑳ さやどうやくしどう 西堂薬師堂

内谷地区に所在する西堂薬師堂は、薬師瑠璃光如来を本尊とした仏堂である。薬師如来は瑠璃光を以て衆生の病苦を救うとされ、無明の病を直す法薬を与える医薬の仏として信仰を集めた。

地元では当該薬師堂はこの地に落ち着くまで、伊達家の守護神として勧請されていたと伝わる。現在の建物は三間四方宝形造で、安政年間（1854～1860）の移築とされる。

地域では、とりわけ耳目の病を癒すといわれ、信者が奉納した穴あき石が建物に数多く掛けられている。



㉑ ぼんだな そな りょうり 盆棚に供える料理

盆（毎年8月13～15日）は家によって仏壇に提灯を下げ、新たに簡易の仏壇盆棚を設ける所もあり、蓮の葉（又は里芋の葉）の上になすやささぎ、洗米、砂糖醤油のすいとんなどの料理を供え、柳の枝のはしを準備する。

14日の朝は仏壇と同じ供え物を食す。盆の食事は各家庭によって様々だが、精進料理が多く、ぼたもち、混ぜご飯、そうめん等を食するというように、各地域・各家庭の特徴を有した年中行事と行事食が残されている。



㉒ だいせんじねんぶつこう ぬまくょう 大千寺念仏講・沼供養

旧藤田宿に所在する大千寺では、春と秋の彼岸に念仏講が行われている。

平成5（1993）年まで観月台ため池の「沼供養」でも念仏講が行われていた。「富溜池水死者之精」と書かれた塔婆をため池周辺に建てて、住職の読経と鐘の音に合わせて「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えながら観月台公園を一周することで、沼で亡くなった人たちの供養を行っていた。

現在は、平成8（1996）年に結成された大千寺感動会婦人部が毎年2回本堂で念仏と鐘の音に合わせて数珠をまわしている。



㉓ こうしんこう 庚申講

庚申講は道教に基づく民間信仰で、体内に住む三戸の虫が庚申の日の夜、寝ている間に天に登って天帝に悪事を報告することを防ぐため、徹夜でお籠りをする行事である。それがいつしか養蚕の神として信仰されるようになり、町内の寺社の境内には庚申塔の建っていない所はない程に信仰された。森山地区の中ノ目集落では、現在も4軒の講中により活動が続いており、毎年最初の庚申の日の晩に宿主宅に集まり、神棚を拝み会食を行っている。徹夜はせず、午後8時半頃には終了する。

関連文化財群④（信仰） 主な構成資源



にじゅうさん や こう
②6 二十三夜講

二十三夜講はお産や蚕の神様といわれ、正月・五月・九月に女性だけが集まり月の出を拝んだり、男性が新しいわらだを1枚編み団子などを備えたり、各地区で様々な形式で行われていた。泉田上町内会では、「二十三夜様」や「山夜様」と呼び元来1月23日に女性のみが集会所に集まり、半田銀山で働く夫の無事と産婦の安産を祈願して、妻たちが夜通し飲食し満月を拝んだ。

昭和30（1955）年頃からは宿泊することはなくなり、現在は昼に集まって会食や歌などを楽しむ。会食では玉子酒を振る舞い、余った料理は子どもが生まれる人に持ち帰ってもらう。



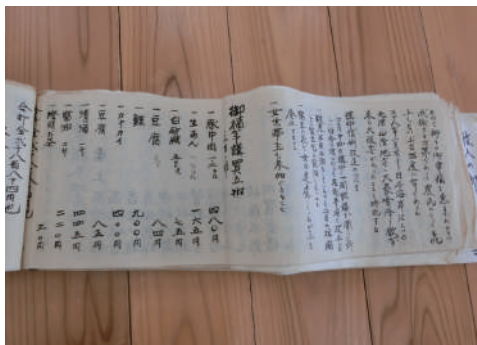
こう おふくねんこう
②7 おふくでん講（御福年講）

おふくでん講は、かつて1月24日の夕刻に宿主宅に集まり、泊まりがけで行われ、翌日入浴などして身を清めた後、数種類の餅や料理を作って食べ、にぎやかに談笑するという女人禁制の講であり、町内各地で盛んに行われていた。

藤田地区の山崎館町内会及び山崎小館町内会では、「御福年講」という名称で現在も継続している。

山崎館町内会では、「おがみ講」という愛称で呼ばれ、明治22（1889）年からの記録帳が残る。山の神を祀り、各戸の男性1名が参加し宿の持ち回りにより行われていたが、社会情勢の変化により、昭和38（1963）年から名称を「館屋敷御福年講親睦会」に改め、宿主宅への宿泊はせず、女性の参加も可能とした。現在は毎年1月最後の日曜日の昼に山崎公民館にて会食を行っている。

山崎小館町内会においても、明治23（1890）年から実施していたことがわかる「御福年講中台帳 小館熊野前屋敷」が残り、昭和38（1963）年に山崎館町内会同様の講中慣例の改正がなされた。また平成8（1996）年からは、宿の持ち回り制を廃止して広く参加を募り、水雲神社（山崎字宮前）において開催する町内会の新年会に移行した。平成18（2006）年からは場所を飲食店に移し、毎年1月末又は2月初めの日曜日の昼に開催している。



ほうさんしんこう
②8 豊蚕信仰

旧来の養蚕は不安定な産業であり、蚕は「運虫」「神の虫」として扱われ、江戸時代後期以降に学問的研究が進んでも養蚕家は神仏に豊蚕を祈った。

豊凶・桑の過不足・各種方位などについて、法印・巫女・「オンメサマ」による祈禱を行ったほか、深山神社（鳥取）・沼田神社（徳江）・八幡神社（小坂・稲荷神社）・巖島神社（川内）・御瀧神社（光明寺）などには夜風除け・ネズミ除けの信仰があり、幣束などを持ち帰り、被害に備えた。



のうこう ぎらい しんこう
②9 農耕儀礼・信仰

農村地域では、農耕神を祀る習俗として様々な儀礼を行った。

年頭の鳥追いやどんど焼きなど左義長の行事は予祝祭の性格を持つ。水口祭みなくちまつりにおいては、水口に桃や山吹の枝を挿し、水口ごうを立て、焼米をまいて拝んだという。田植え前後には田の神の迎え・送りを行い、稲刈り終了後はさなぶりやびっきの餅の行事が行われる。虫供養も農耕儀礼の一つといえる。早ばつの際は雨乞いの力に頼った。農耕に関する禁忌習俗も数多く存在する。これらの形態は地域によって様々であるが、農家経営が難しい今日、農業とともにその多くは失われつつある。

関連文化財群④（信仰） 主な構成資源



こごたやまじんじゅ
③⑩ 小牛田山神社

森山字東新田に所在する小牛田山神社は、江戸時代後期に森山の百姓・石川義兵衛が度重なる妻の難産を除こうと、仙台領遠田郡小牛田山神社まで月参りを数年行い、神社別当から分霊の許可を得たもので、信心の末に安産に至ったと伝わる。社殿は義兵衛の私塾の塾生らが資材・労力を提供し建設されたもので、文化年間（1804～1818）の勧請と伝わる。安産の神様を祀り、お産が近い婦人が神社に奉納されている枕を1つ拝借し、お産がすめば2つにして返す慣習がある。枕は赤・白2色があり、男子が欲しい人は白、女子が欲しい人は赤を借りるという。



こさかこそだじぞう
③⑪ 小坂子育て地蔵

小坂の子育て地蔵（小坂字カニ坂）は、子どもの重病を癒していただいたお礼に、親が手彫りのお地蔵様1軀を彫って納めて以来、全部で16軀に増えたという。

旧暦の9月15・16日に行われる祭礼の際は、地蔵に新しい着物を着せて木製の箱車に乗せ、小坂地区を子どもたちにひかせる風習がある。以前は半田・桑折・藤田まで遊行したという。また、子どもが病床に伏せると、小坂の地蔵尊を拝借し自宅に持ち帰る風習もあった。信仰圏は全国に及ぶが、祭礼前日までには必ず返って来るという。



③⑫ オシンメサマ

オシンメサマは主に東北地方で信仰される家の神で、蚕の神、農業の神などとされている。巫女などがこのご神体を両手にとって打ち振り、神を憑依させ、病や縁談、蚕や農作物の出来などのお告げをしていた。

町内では高城地区にて昭和20（1945）年代頃までこのような霊媒が行われていたと考えられ、明治時代から伝わるご神体を所有する家では、現在でも神様として大切に保管している。



えま
③⑬ 絵馬

庶民信仰の多岐複雑さは、旧来の信仰絵馬のほかに、多種多様な画題を生みだした。

本町では、生業祈願として舟運の安全を願った廻米絵馬、豊蚕を願った養蚕絵馬・鼠除け絵馬などが散見される。県北地方は文芸の盛行した地帯で、本町には（高城）国見神社宝楽俳諧奉額（町指定有形民俗文化財）に代表される発句歌額が多い。また、福島県は著名な和算家を輩出しており、本町には（高城）国見神社奉納算額（町指定有形民俗文化財）が確認され、一特色をなしている。

第6章 歴史文化保存活用区域の考え方

1 区域設定の考え方

歴史文化保存活用区域とは、歴史文化資源が顕著に集中し、それらと一体となって価値を形成する周辺環境も含めて、文化的な空間を創出するための計画区域として定めることが望ましい区域を指す。ただし、歴史文化保存活用区域は対象とする歴史文化資源や周辺環境の捉え方などにより、様々な区域を設定することが可能である。本構想においては、以下の考え方に基づき区域の設定を行う。

(1) 歴史文化資源の分布特徴

本町の歴史文化資源の分布状況を各関連文化財群の構成資源から見ると、以下の特徴が確認できる。

- 分布特徴1 平地・微高地に広く分布するだけでなく、町域の北部約 1/3 を占める山間地域にも存在する
- 分布特徴2 街道沿い及び宿場に集中して分布する
- 分布特徴3 奥羽山脈の山麓・阿武隈川に沿って数多く分布する
- 分布特徴4 町内全ての集落（旧宿場町及び農村集落）に分布する

本町は北部に奥羽山脈が控え、南部に阿武隈川が流れていることから、人々は古代より険しい山間地と大河に挟まれた平地・微高地に居住してきた。集落の多くは、山麓や阿武隈川沿いに分布し、人々は農耕を中心とした生業を営み、生業と密接に関わる信仰が継承されてきた。また、山麓沿いや山地の適地を縫うように街道が通り、舟運のための河岸が阿武隈川沿いに整備された。このように交通・運輸の手段を設けることで周辺地域との交流が深まり、その結節点となった宿場や街道沿いに歴史文化が醸成されてきた。

上記のとおり歴史文化資源の分布の特徴は、いずれもこのような地勢・地形的な条件に起因するもので、町域の北部約 1/3 を占める山間地域にも、人々の生業・信仰や交通・運輸に関わる歴史文化資源が存在する。各関連文化財群の構成資源をはじめとする歴史文化資源は町内に広く所在し、本町における歴史文化の形成と深く関わるものと考えられる。

(2) 関連文化財群と周辺環境の関係性

本町が設定した関連文化財群の中には、盆地地形や農村風景など、地質・地勢、自然風景、文化的景観を価値の背景に持つ歴史文化資源があり、歴史文化資源と一体的な価値を形成する周辺環境は広範囲にわたっている。

関連文化財群①（地勢と歴史）は、福島盆地の地狭部という地勢の特徴を基盤にその歴史的・文化的価値が語られる必要があり、その中心的文化財である阿津賀志山防塁が歴史的景観を想起させるためには、奥羽山脈と阿武隈川、その間に形成された平地・微高地など、歴史風土を特徴付けている地勢全体を保全していかなければならない。

関連文化財群②（風土と生業）は、主に町面積の大半を占める農村地域の歴史的・文化的景観について価値を見いだすものである。水稻・野菜・果樹の耕作地、ため池・かんがい用水路、養蚕民家や信仰対象である社寺などで構成される本町の農村地域は、生活・生業の場所だけでなく歴史文化的な農村景

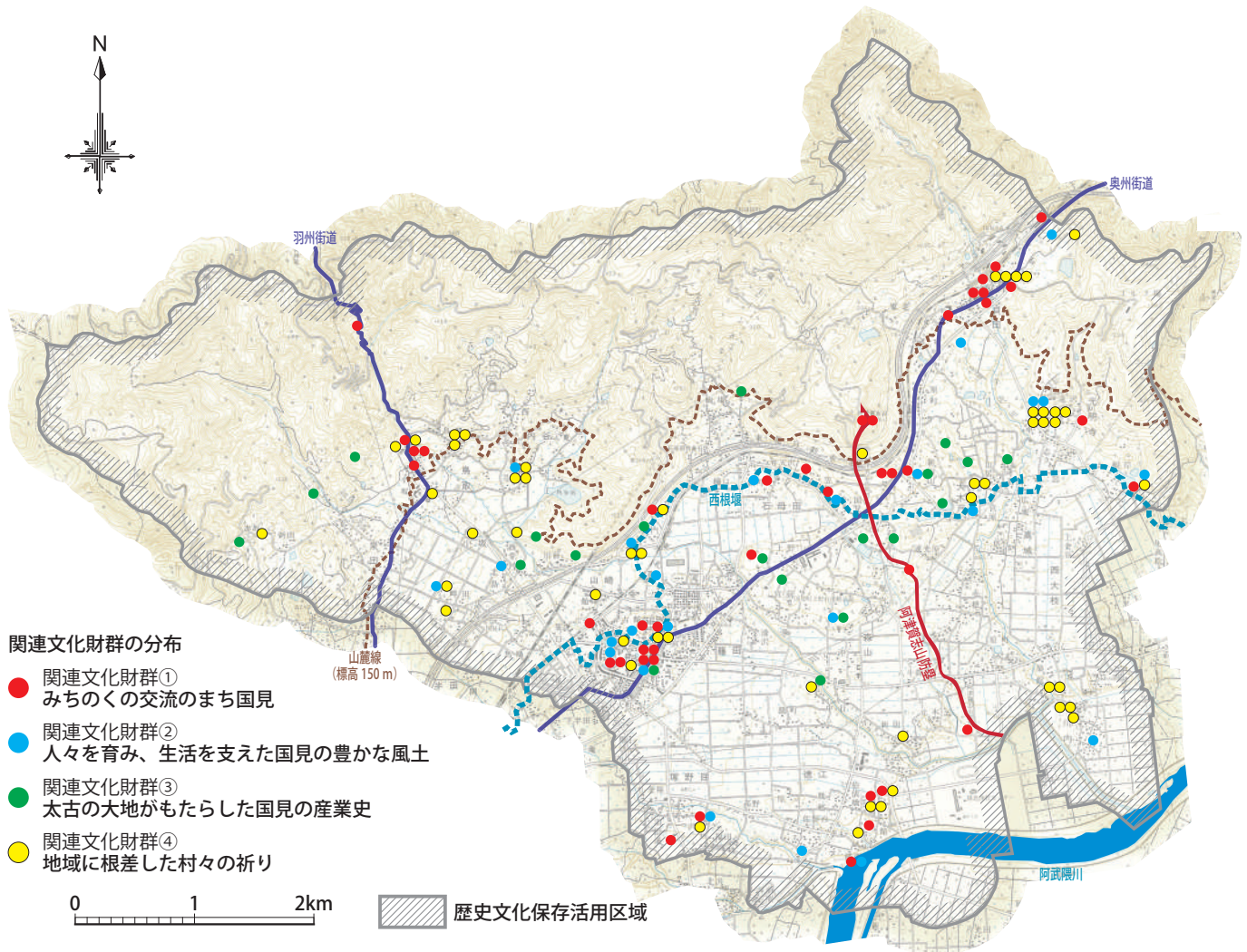


図 6-1 歴史文化保存活用区域と関連文化財群を構成する歴史文化資源の分布状況

観としての価値をあわせ持つものである。

関連文化財群③（資源と産業）は、地下資源の産出を可能とした地質や国見石の採掘場、石蔵の分布などが価値評価の基盤となるものである。通常では目にすることができない地質や地下資源についても評価の目を向けており、また一方で、町全域に広く現存・分布することが明らかとなっている。

関連文化財群④（信仰）は、村・集落単位における多種多様な信仰・地域文化の伝承に焦点をあてたものである。信仰・地域文化の背景には、実施に至った要因・出来事、伝承に必要な周辺環境などが存在し、人々の生活（住まい・生業地・里山など）を広範囲に捉える必要がある。

以上のことから、本町の関連文化財群と一体的に価値を形成する周辺環境の範囲は広く、町域全体を周辺環境とすることができる。

（3）歴史的風致維持向上計画重点区域との関係

本町では、平成 27（2015）年に認定を受けた「国見町歴史的風致維持向上計画」において、下記のとおり、重点区域「国見町歴史的風致維持向上区域」を設定し、積極的に歴史文化資源の保存・活用の施策を進めている。

一方、重点区域以外にも保存・活用すべき歴史文化資源とそれらの集中する地域が明らかとなっており、同区域を拡充した枠組みが必要である。

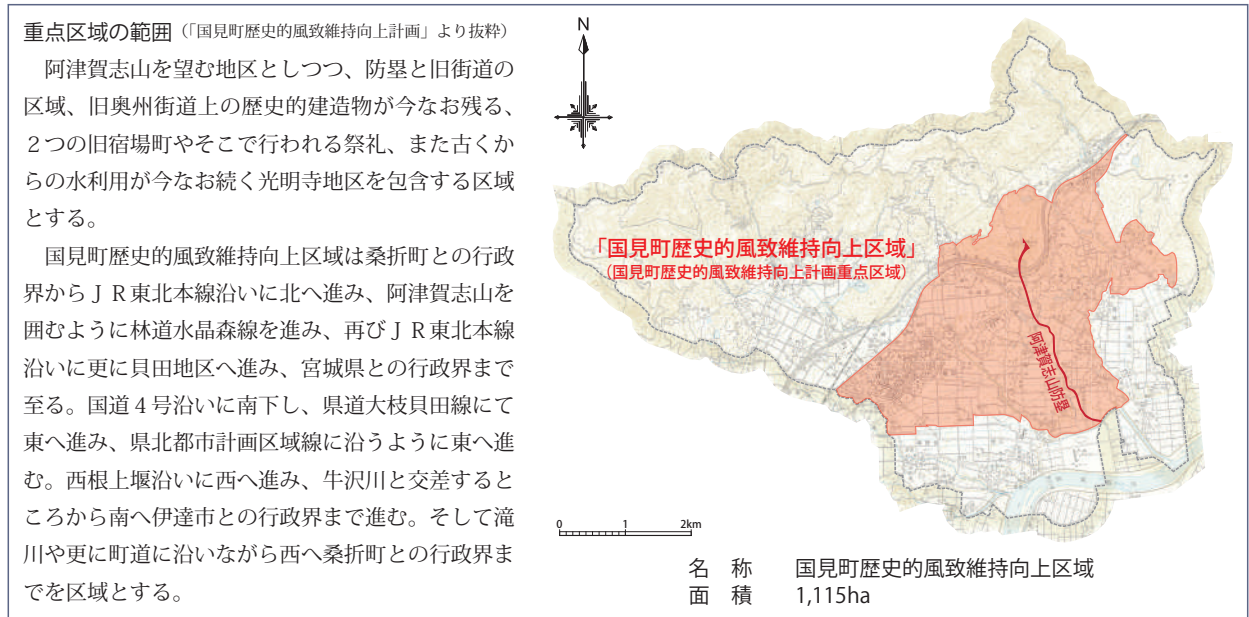


図 6-2 国見町歴史的風致維持向上計画重点区域「国見町歴史的風致維持向上区域」

2 国見町の歴史文化保存活用区域

前述の考え方に基づき、本町の歴史文化活用区域を設定する要素は以下のとおりである。

- 要素 1 各関連文化財群の構成資源をはじめとする歴史文化資源は町内に広く所在すること。
- 要素 2 関連文化財群と一体的に価値を形成する周辺環境は、町域全体であること。
- 要素 3 国見町歴史的風致維持向上計画における重点区域を拡充した枠組みが必要であること。

以上のことから、国見町歴史文化保存活用区域を町内全域に設定する。

【区域名称】 国見町歴史文化保存活用区域

【対象区域】 国見町全域 歴史文化保存活用区域の面積 37.95km²

本町の歴史文化基本構想で設定した関連文化財群は、歴史文化資源とその周辺環境が創出する歴史的景観を広域に捉える必要があることから、局所的な歴史文化保存活用区域の設定は行わず、町全域で歴史文化資源の保存・活用に向けた施策を展開し、文化的空間の創出をめざしていくものとする。

【区域内に所在する関連文化財群】

- 関連文化財群①（地勢と歴史）
 - みちのくの交流のまち国見 — 阿津賀志山と新旧交通網がもたらした歴史・文化交流 —
- 関連文化財群②（風土と生業）
 - 人々を育み、生活を支えた国見の豊かな風土 — 国見の自然がもたらす恵み —
- 関連文化財群③（資源と産業）
 - 太古の大地がもたらした国見の産業史 — 窯業・鉱業・国見石の産業 —
- 関連文化財群④（信仰）
 - 地域に根差した村々の祈り — 信仰を中心とした地域文化の伝承 —

第7章 歴史文化資源の保存・活用の基本的方針

第6章で国見町歴史文化保存活用区域の設定を行い、町全域をその区域と定めた。本章では、本町における歴史文化資源の現状と課題から保存・活用の基本方針を導き出し、基本方針から具体的な取り組み方針を定める。

1 保存・活用に関する現状と課題

歴史文化資源の保存・活用に対する基本方針を定めるに際し、歴史文化資源の現状と本町が抱える保存・活用に関する課題を以下に示す。

(1) 幅広い分野と多様な価値を持つ国見の歴史文化を把握するための課題

本町は、平成27(2015)年度から歴史的建造物悉皆調査事業及び歴史文化基本構想策定に向けた既存資料整理作業(郷土史家菊池利雄氏資料整理事業)、歴史文化資源情報の抽出作業などにより、継続的に歴史文化の総合的な把握を進めてきた。一方、国見町郷土史研究会は長年にわたって、住民が主体となり、地域の歴史文化を研究・調査している。

しかしながら、行政主体と研究会の調査では手法や基準に違いがあるため、歴史文化資源の総合的な調査は十分とはいえない。また、町内全域に共通の認識を定着させるような活動を地域の研究会や郷土史研究者と連携し発信していない。

このような現状から、幅広い分野と多様な価値を持つ本町の歴史文化を把握するための課題は、次の2点である。

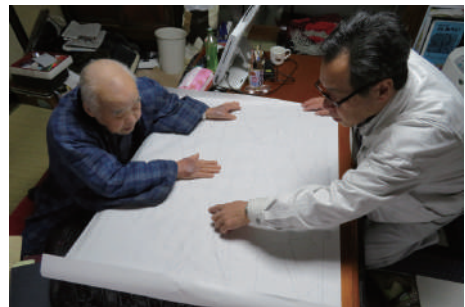


写真 7-1 既存資料整理作業
(郷土史家菊池利雄氏資料整理事業)

①	歴史文化資源の各分野間において調査歴・情報量に隔たりがある。また、歴史文化資源の相互関係・各ストーリー(関連文化財群)との関係性についても検証・整理が十分尽くされたとはいえず、現況把握も不十分である。
②	町民が身近に歴史文化資源が存在することを知らない、あるいは歴史文化資源として認知していない。把握された歴史文化資源の情報について、成果報告や公開が不足している。

(2) 歴史文化をより良い状態で後世へ継承するための課題

公有化された歴史文化資源は一部にすぎず、大多数が個人・地域等が所有し、これらに維持管理や保存・継承が委ねられている。

このような現状において、本町では有形の歴史文化資源の建造物を中心に修復が行われ、近年では県重要文化財「旧佐藤家住宅」の修復を行った。国登録有形文化財「奥山家住宅主屋・洋館」・町指定有形文化財「沼田神社本殿彫刻」・「東大窪八幡神社」においては、東日本大震災災害復旧事業を所有者が行い、町が技術的な助言と補助・手続きに関する支援を行った。

無形の歴史文化資源においては、「内谷春日神社太々神楽保存会」と町が連携し平成28(2016)年度から全町の子どもを対象とした神楽教室に取り組み、後継者の育成を支援し、また、平成27(2015)

年度から2年間、演目の復活事業、映像による記録事業を実施した。

更に、平成26(2014)年度に町指定史跡「岩淵遺跡」の修復再建整備事業、平成28(2016)年度に「義経の腰掛松」における古木保存施設と便益施設の整備を行い、平成30(2018)年度からは国指定史跡「阿津賀志山防塁」下二重堀地区における史跡・歴史公園の整備事業を進め、町所有の歴史文化資源を中心に整備・充実を行っている。

平成27(2015)～28(2016)年度に整備した国見町文化財センター「あつかし歴史館」は、歴史文化資源の収集・活用・発信を担う拠点として整備し、各種の取り組みを行っている。

また、全国で近年多発する災害や盗難・損壊事件に対する防減災・防犯対策に関しては、周知・啓発を広く行い、文化財パトロール及びモニタリングを行っている。町所有の歴史文化資源については、必要に応じて防犯・防火設備を設置するなど対策を講じている。

しかし、適切な管理・整備や保存状態の改良、後継者育成の仕組みづくりは歴史文化資源の一部に限定されている。また、近年の自然災害や異常気象、集落の過疎化による歴史文化資源の放置によって起こりうる損壊や盗難への対策も十分とはいえない。

このような現状から、歴史文化をより良い状態で後世へ継承するための課題は、次の4点である。



写真 7-2 義経の腰掛松
古木保存施設・便益施設整備



写真 7-3 内谷春日太々神楽演目指導

①	歴史文化資源の適切な維持管理・保存手法及び修復技術の適用が一部に限られている。
②	無形の歴史文化資源の継承を担う後継者育成が十分ではない。
③	阿津賀志山防塁など歴史文化資源の保存・活用を図るための施設整備が不足している。
④	近年多発する災害や損壊・盗難事件に対する防減災・防犯対策が十分ではない。

(3) 関連文化財群（ストーリー）をとおして国見らしさを発見・発信するための課題

個々の歴史文化資源の理解を深め、ストーリーを共有する関連文化財群を通して、国見らしさを発見・発信することは、個々の歴史文化資源の価値を相乗的に高め、保存と活用の意識を向上させるものである。このため、本町では歴史文化資源に対する案内ガイドや周遊ツアーなど観光振興との連携や周遊性を向上する事業を展開してきた。

また、歴史文化資源の案内ガイド事業については、本町の歴史文化資源の価値・魅力を共有するため、平成20(2008)年度に「国見町文化財ボランティア」制度を開始した。本町を



写真 7-4 文化財ボランティアの活動

訪れる団体等に対して現地での案内ガイドを実施し、平成30(2018)年度は48団体2,439人を受け入れている。このほか、多様な本町の魅力を発信するために、「旅づくり塾」(平成28〔2016〕年度)「くにみ案内人養成講座」(平成29〔2017〕年度~令和元〔2019〕年度)を開催し、周遊性の検討とともに歴史文化資源を含めた町の魅力について新たな視点でのガイド方法の検討を行っている。

本町の観光振興はグリーンツーリズムと歴史文化ツーリズムが中心となることから、歴史文化資源も重要なコンテンツとして位置付けられる。「くにみしゅらん」(平成26〔2014〕年度開始)・「くにみ周遊ツアー」(平成29〔2017〕年度開始)などの周遊観光ツアーにおいては、多くの参加者が魅力に共感し、保存に向けた意識を広く共有する機会を創出してきた。

しかし、本町の歴史文化資源の魅力を伝えるために不可欠な案内ガイドの担い手が減少しているため、多くの来町者が本町の魅力を十分に体感できる機会を創出できていない。

このような現状から、関連文化財群(ストーリー)を通して国見らしさを発見・発信するための課題は、次の3点である。



写真7-5 周遊観光ツアー「くにみしゅらん」

①	より多くの来訪者に対応する歴史文化資源の案内ガイドを担う人材が不足している。
②	より多く歴史文化資源の価値を共有する重要な手段として、継続した来訪機会(リピーター)の創出に向けた取り組みが不足している。
③	周遊性の向上と案内板の設置を進めているが、これまで整備された歴史文化施設と連動した活用が不足している。

(4) 歴史文化の価値を広く共有するための課題

町民はもとより、広く歴史文化の価値を共有するためには、正しく詳細な価値の普及・啓発に努め、対象となる資源への理解を深めることが重要である。

これまで歴史文化資源の価値をより多くの人が理解、共有できるように、次世代へ継承する担い手(所有者や地域住民)に対しては、誇りや愛着の意識を醸成する取り組みを行い、町外者に対しては、保存・継承・活用への理解と支援の契機となる取り組みを続けてきた。

町の広報やホームページ・SNSなど多様な媒体を活用した積極的な情報発信は、平成29(2017)年度から運用が開始された「国見町観光ポータルサイト」や毎月発行される「広報くにみ」における「歴まちさんぽ」において、町内外に定期的・継続的に行われている。

また、学習機会の創出と充実では、歴史まちづくりシンポジウムなどによる教育普及や学校教育と連携したふるさと学習「国見学」、生涯学習と連携した町民講座、住民団体の国見町郷



図7-1 広報くにみ・歴まちさんぽ

土史研究会と連携した公開研修講座を開催している。

平成 29（2017）年度に発足した「くにみ阿津賀志山防塁活用推進懇談会」は、阿津賀志山防塁の活用を推進し、保存継承に向けた担い手・理解者・支援（応援）者のネットワークの構築を担う住民組織である。阿津賀志山防塁の歴史性や隣接して栽培されている中尊寺蓮の美しさに共感し、整備が進む歴史公園の活用と関連する歴史文化資源との連携を考える人々からなり、活用に向けたワークショップやイベントを行っている。

しかし、情報の発信は限定的で一方的なものが多く、また、様々な学習会やイベントを開催しても参加者が固定化しているため、広域で各世代にわたって共有できる仕組みづくりが必要である。

このような現状から、歴史文化の価値を広く共有するための課題は、次の3点である。



写真 7-6 阿津賀志山防塁の活用
（ハスマつり）

①	より広域に、より多様な人々に届く、様々な媒体による積極的かつ継続的な情報発信が不足している。
②	普及・啓発の効果を波及させるために効果的なテーマや対象を絞らない多種多様な学習機会の提供が不足している。
③	保存継承に向けた担い手・理解者・支援（応援）者のネットワークの構築など、人と人をつなげる取り組みが不足している。

（5）一人ひとりが歴史文化の継承を担うための課題

歴史文化資源の保存・活用には、個人や地域の役割が大きく、広く歴史文化の継承を担う意識の醸成を図ることが求められている。

指定等文化財の所有者や保存継承団体への支援はもちろんのこと、歴史文化を活かしたまちづくり・地域づくりへの活動支援を行うことで、地域が主体となった保存・活用が図られている。「小坂まちづくりの会」「大木戸歴史むらづくりの会」は、歴史文化資源を活かした地域振興に取り組み、地域に存在する歴史文化資源への理解と保存意識を醸成し、持続的な地域の維持をめざしている。本町では、国見町まちづくり推進協議会を通じた助成により活動を支援している。

また、町内に存在する歴史文化資源の保存・活用、情報交換や連携を図るために、平成 26（2014）年度に「国見町歴史まちづくりフォーラム」が発足した。個々の指定等文化財や個別の地域だけではなく、担い手となる人々が町全体の歴史文化資源に対する保存継承についての議論を深め、活動を展開している。今後も地域の主体的な組織や団体を育成し、さらなる会員の確保と持続的な活動を維持していかなければならない。



写真 7-7 郷土史研究会方部研修
（平成 29〔2017〕年度小坂地区）



写真 7-8 （平成 29〔2017〕年）第9回
国見町歴史まちづくりシンポジウム

このような現状から、一人ひとりが歴史文化の継承を担うための課題は、次の2点である。

①	所有者等や地域の団体が実施する保存継承活動・歴史まちづくり活動に対して、行政との絶え間ない関係の構築及び継続した支援が十分ではない。
②	保存を担う全町的な保存継承活用団体による協議会の主体的な活動が不足している。

2 保存・活用の基本方針

本町が抱える保存・活用に関する課題を踏まえた、歴史文化資源の保存・活用に対する基本方針と具体的な取り組みに向けた考え方は、次のとおりである。

(1) 基本方針

かつて障壁となっていた福島盆地北縁の山並み。境界の地を象徴し、時代の転換点となる出来事が刻まれた阿津賀志山防塁。街道が整備され、ひと・ものの往来が盛んになり、繁栄した各宿場町。農作物を育て、生活基盤をつくり、寛容で勤勉な人間性を育ててきた国見の風土と自然。地域コミュニティの源として今も受け継がれている農業と信仰による地域文化。

これらの歴史文化資源とその周辺環境が一体となってつくり出す価値は、身近にあるがゆえに気づかないことが多い。「あたり前にあるもの」こそが国見ならではの「たからもの」とであると認識すべきである。

1000年以上もの時の流れの中で、この地で暮らす人々の、日々の営みから紡ぎ出された知恵や文化の積み重ねが、今の私たちが引き継いだ歴史であり文化である。加えて、この地の歴史文化を育んだ環境や景観も、当然に守り、次の時代に伝えるべきものである。そのためには、歴史文化資源の特徴を把握し、その価値を理解し、大切に思う「こころ」と「ひと」を育てるためのまちづくりが重要となる。

私たちは、この地に暮らした人たちの思いが込められた歴史文化資源に、今を生きる私たちの思いや願いを付け加えて、次の人たちに「つなげる」必要がある。郷土に誇りと愛着を持ち、国見らしさを引き継ぎ、つなげるために、次の5つを基本方針とする。

歴史文化資源の保存・活用を通して		
歴史文化資源の保存 に関わる基本方針	・過去と現在をつなげる	幅広い分野と多様な価値を持つ国見の歴史文化を把握する。
	・現在と未来をつなげる	歴史文化をより良い状態で後世へ継承する。
歴史文化資源の活用 に関わる基本方針	・資源と資源をつなげる	関連文化財群(ストーリー)を通して国見らしさを発見・発信する。
	・人と人をつなげる	歴史文化の価値を広く共有する。
	・人と資源をつなげる	一人ひとりが歴史文化資源の継承を担う。

幅広い分野と多様な価値を持つ国見の歴史文化を把握する〔過去と現在をつなげる〕及び、歴史文化をより良い状態で後世へ継承する〔現在と未来をつなげる〕の方針は、本構想における「歴史文化資源の保存」に関わる基本方針である。両方針は、現存する個々の資源だけではなく、ストーリーに沿った

関連文化財群を町の歴史文化を証明する一体的なものとして捉え、後世へ継承することを示す。有形の資源はそのものが現存する状態、無形の資源は技術や行為が存続する状態を基本とし、滅失・存亡の危機に瀕した資源については、記録による保存の対応を行う。また、これらをより高い価値を有した状態で後世へ継承するためには、歴史文化資源の価値を把握するための調査研究と記録保存、継承するための適正な保存管理と整備、継続的な利用・実施などの各種対応が必要となってくる。

関連文化財群（ストーリー）を通して国見らしさを発見・発信する〔資源と資源をつなげる〕、歴史文化の価値を広く共有する〔人と人をつなげる〕及び、町民一人ひとりが歴史文化の継承を担う〔人と資源をつなげる〕の方針は、本構想における「歴史文化資源の活用」に関わる基本方針である。これらの方針は、関連文化財群が紡ぐストーリーを通して明確となった歴史文化資源の価値や魅力を後世へ継承するための取り組みに活かすことを示す。

町に広く所在する多種多様な歴史文化資源を存続させるためには、歴史文化資源単体ではなく資源と資源をつないだ関連文化財群（ストーリー）を通して国見らしさを発見・発信し、その価値を広く共有することで、一人ひとりが歴史文化の継承を担う必要がある。また、国見らしさを発信し、価値を広く共有するためには観光振興や学校教育・生涯学習との連携も重要となる。究極的には、歴史文化資源が所在する地域の住民や団体が主体となる歴史まちづくりをめざす。

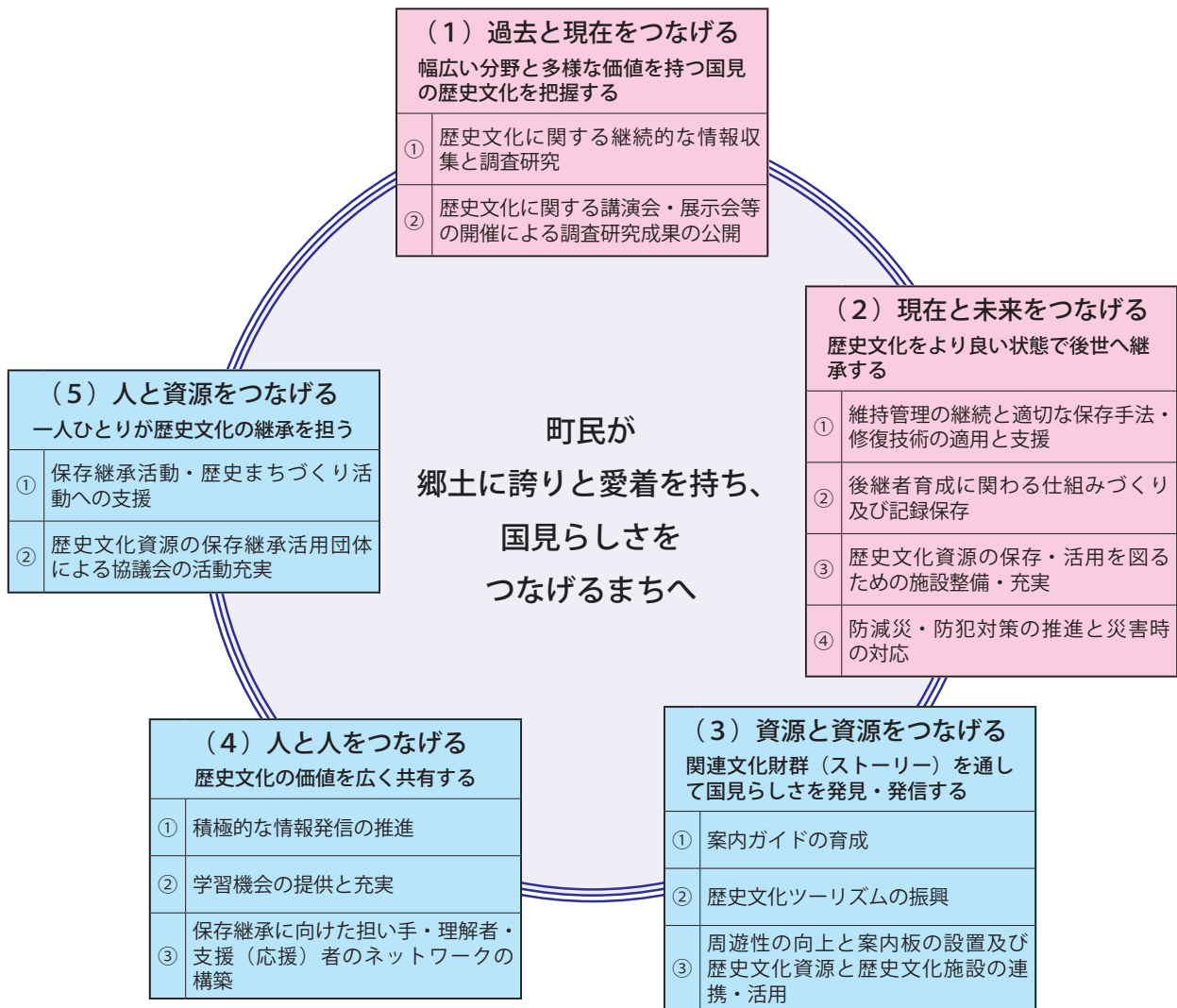


図 7-2 歴史文化資源の保存・活用に向けた基本方針と具体的な取り組み 全体像

なお、歴史文化資源の保存と活用は相互的、相乗的であることから、いずれかに偏ることなく一体として捉えるべきである。

(2) 具体的な取り組みに向けた考え方

上記基本方針のもと、具体的な取り組みに向けた基本的な考え方を整理する。

まず、本町は平成27(2015)年度から令和6(2024)年度までの10年間を計画期間とする「国見町歴史的風致維持向上計画」の認定を受け、文化財保護・歴史まちづくりに関わる取り組みを重点的に推進している。本構想においても、令和6(2024)年度までは同計画事業をアクションプランとして位置付け、引き続き事業を実施していく。

また、町内全域に設定した国見町歴史文化保存活用区域における「拠点となる施設」と、特に活用に関わる具体的な取り組みに向けて意識すべき「活用エリア」について整理を行い、事業を展開する際の基礎的な考えとする。

更に、本構想は同歴史的風致維持向上計画期間終了後の取り組みを見据えた考えを示すものとして、住民主体・住民連携の取り組みを主体とする方針について示す。

① 国見町歴史的風致維持向上計画期間における具体的な取り組みについて

国見町歴史的風致維持向上計画では、平成27(2015)年度から令和6(2024)年度までの期間において6項目の事業を実施している。これらの事業は、同計画の重点区域内における整備事業と町内全域を対象とする調査・教育普及事業からなり、本構想の文化財保存・活用の基本方針とも合致する取り組みである。

本構想においても、同計画事業をアクションプランとして位置付け、これまでの成果を活かした事業展開を行うため、一体的な取り組みを行う。

【国見町の歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項】

- 1 阿津賀志山防塁の保存・活用に関する事業
- 2 伝統を反映した人々の活動に関する事業
- 3 歴史的建造物に関する事業
- 4 歴史的建造物・遺産を取り巻く環境に関する事業
- 5 歴史的風致に対する意識向上と情報発信に関する事業
- 6 歴史文化資源の総合的な把握に関する事業

② 保存・活用に向けた拠点施設について

国見町歴史文化保存活用区域における各事業を展開するにあたり、以下の3施設を保存・活用の核となる拠点施設として位置付ける。具体的な取り組みは、3施設間の連携・連動を図り、更に周辺の歴史文化資源・公共施設等と積極的につなげることで周遊性を高め、全町的な展開をめざす。

本町の歴史文化資源の収蔵・研究とガイダンスを行う中核施設である国見町文化財センター「あつかし歴史館」は、文化財保護・歴史まちづくりに関わる拠点とする。同館は、国指定史跡「阿津賀志山防塁」の『同史跡整備計画』においても史跡のガイダンス施設と位置付けられ、展示・解説を行うとともに、地域に親しまれる歴史館をめざし、「あつかし歴史館サポーター」による住民参画の運営を展開している。また、地元住民団体と連携した「遊びと学びのミュージアム事業」を実施し、有形・無形の民俗文化財に関わる体験イベントを開催するなど、幅広い歴史文化を発信し、本構想においても、中心的役割を担

【拠点施設】

	<p>【国見町文化財センターあつかし歴史館】</p> <p>平成 24（2012）年に閉校となった旧大木戸小学校を改修し、平成 29（2017）年 1 月にオープン。これまでの発掘調査で出土した埋蔵文化財など多くの文化財の収蔵・研究及びガイダンスを行っている。町内の魅力的な景観や史跡・建造物、人々の営みや信仰・祭礼などの生活文化について発信し、また、かつての学び舎のように地域の人々が集う場所となることをめざし、展示及びイベント事業を展開している。</p>
	<p>【道の駅国見あつかしの郷】</p> <p>平成 29（2017）年 5 月オープン。滞在型まち巡りができる道の駅として宿泊施設を備え、農作物直売所、レストラン、カフェのほか、多目的ルーム、こども木育広場、歴史産業情報コーナー等がある。特徴のある大きな屋根は国指定史跡「阿津賀志山防塁」の曲線をイメージしている。</p>
	<p>【阿津賀志山防塁下二重堀地区歴史公園（仮称）】</p> <p>令和 2（2020）年着工、令和 3（2021）年オープン予定。国指定史跡「阿津賀志山防塁」下二重堀地区に建設予定の歴史公園。藤原泰衡が源頼朝率いる鎌倉軍を迎え撃つために造られた約 3.2km の防御施設と、約 800 年の眠りから覚めた「中尊寺蓮」が眼下に広がる雄大な景観を楽しめる。</p>

う施設である。

ひと・もの・ことについての交流、発見、発信ができる現代の宿駅として多くの来町者が訪れる「道の駅国見あつかしの郷」は、周遊性の起点となる拠点施設である。同施設では、本町の魅力を発信・提供し、来訪者が増加する夏には「国見町文化財ボランティア」による解説ブースを設置する「ご案内 week」を実施している。このため、本構想においては、歴史文化の価値を知る機会を創出する役割を果たす。

「阿津賀志山防塁下二重堀地区歴史公園（仮称）」は、その歴史性と長大なスケールを体感できる国指定史跡「阿津賀志山防塁」の下二重堀地区の特徴を活かし、現在整備が進められている。阿津賀志山防塁の価値を学び、周辺の地形と中尊寺蓮等の植生も活かした魅力的な史跡空間をめざし、長大な同史跡の中でも最初に来訪者を迎える拠点となる。町内の歴史文化資源のうち、最も充実した便益施設を持ち、前述の 2 施設と連携した周遊性の核となる。また、現在、地元住民有志で組織した「国見町中尊寺蓮育成会」による中尊寺蓮の栽培管理が行われているが、公園整備後も住民が参画した運営・活用が検討されており、本構想においても個別の歴史文化資源において住民連携で活用が図られる中心的な施設となる。

③ 活用エリアについて

本町の歴史文化資源は、その歴史文化の特徴から 5 つに分類することができる。そして、この 5 つは、4 つの関連文化財群（ストーリー）にまとめることができる。更に、それらが町域全体に広がり、重層

的に分布することから、様々な特徴・ストーリーを持つ歴史文化資源が互いに隣接し、あるいは重複している。これらの分布的特徴から、周遊性の検討や歴史文化ツーリズムなどの活用に関する具体的な取り組みに向けた基礎的な考え方として、以下の6つの活用エリアを設定する。

- ① 小坂峠から内谷春日神社、福源寺地蔵庵観音堂、旧小坂村産業組合石蔵などが所在する「羽州街道・小坂宿エリア」
- ② 奥山家住宅、鹿島神社など町域の中心に位置する「藤田宿エリア」
- ③ 阿津賀志山の麓から交通の要衝として町域を横断する「奥州街道エリア」
- ④ 貝田宿から貝田姥神沢旧鉄道レンガ橋、御瀧神社、岩淵遺跡などを有する「貝田宿・光明寺エリア」
- ⑤ 阿武隈川とともに営み、繁栄した「阿武隈川左岸エリア」
- ⑥ 歴史的な出来事が刻まれ、義経の腰掛松、弁慶の硯石など多くの伝承と資源が残り、中尊寺蓮が広がる「阿津賀志山防塁エリア」

これらの活用エリアと拠点施設を活かし、周遊性のある活用を図るとともに、事業の全町的な波及・展開をめざし、保存・活用事業全体の底上げ・強化を推進する。



図 7-3 拠点施設と活用エリアの分布

④ 住民主体・連携による保存・活用に向けた具体的な取り組みについて

歴史文化資源と地域社会は密接な関係にあり、資源の保存・活用には地域住民の理解と協力は不可欠である。これまでの指定等文化財に対する保護だけでなく、未指定・未登録の文化財も含めた有形・無形の歴史文化資源の保護は、住民主体及び住民連携による保存・活用が必須である。

町民が資源の価値を認知・享受し、保存・活用の活動に関わるための継続的な普及・啓発や体制づくりに対する支援が必要であり、国見町歴史的風致維持向上計画期間終了後の令和7（2025）年度以降においては、それらの住民組織や民間団体による積極的な保存・活用が展開されるよう取り組みを強化する。

地域で大切に受け継がれてきた歴史文化資源は、地域と町の「誇り」であり、大切に守り、伝え、継承していかなければならない。歴史文化資源の保存・活用に対する取り組みは、町民一人ひとりの保護意識を高め、誇りを取り戻し、更には集落・地域を維持・発展させていく原動力の一つである。そのためには、歴史文化資源が持つ特徴を把握し、その価値を理解し、大切に思う「こころ」と「ひと」を育て、歴史文化資源を活かしたまちづくりを住民主体・連携のもとに進めていく。

3 保存・活用の具体的な取り組み

前項までに示した保存・活用に関する課題・基本方針を踏まえ、本町の歴史文化資源に対して、今後必要となる保存・活用にかかる具体的な取り組みは、次のとおりである。

（1）過去と現在をつなげる

- ① 歴史文化に関する継続的な情報収集と調査研究
- ② 歴史文化に関する講演会・展示会等の開催による調査研究成果の公開

① 歴史文化に関する継続的な情報収集と調査研究

平成27（2015）年度から令和元（2019）年度に重点的に実施した「歴史文化遺産の総合的な把握のための調査事業」の成果をベースに、各分野間における調査歴・情報量の隔たりや相互関係・各ストーリー（関連文化財群）との関係性について検証・整理し、情報収集と調査研究を進める。また、歴史文化資源の継承状況に関する現況把握についてもあわせて行う。これらの事業は、地域の住民団体、国見町郷土史研究会と連携して実施を図る。

② 歴史文化に関する講演会・展示会等の開催による調査研究成果の公開

把握された歴史文化についての情報収集と調査研究の成果を報告するため、専門家を招聘して講演会・シンポジウムを開催するほか、国見町文化財センター「あつかし歴史館」での展示・公開を実施する。また、地域で積極的に活動している国見町郷土史研究会による活動成果発表・研修に対する支援を行い、住民主体による活動・発表の促進を図る。



図7-4 郷土史研究会のイベント案内

(2) 現在と未来をつなげる

- ① 維持管理の継続と適切な保存手法・修復技術の適用と支援
- ② 後継者育成に関わる仕組みづくり及び記録保存
- ③ 歴史文化資源の保存・活用を図るための施設整備・充実
- ④ 防減災・防犯対策の推進と災害時の対応



写真 7-9 旧佐藤家住宅茅葺替え工事

① 維持管理の継続と適切な保存手法・修復技術の適用と支援
 公有化された歴史文化資源については、維持管理の継続と適切な保存手法・修復技術の適用を積極的に推進する。

個人・地域等が所有する歴史文化資源については、情報収集による現状把握と所有者への助言を行い、適切な管理がなされるよう指導・支援する。

保存・修復に関わる事業に対しては、国・県・町及び民間の補助制度の活用を検討する。特に、歴史的建造物に関しては、本町における補助制度である、指定文化財を対象とする「国見町文化財保存事業補助金」、昭和 56（1981）年以前に建築した戸建住宅を対象とする「国見町木造住宅耐震改修等補助金」などを用いながら支援を行う。

② 後継者育成に関わる仕組みづくり及び記録保存

無形・有形の歴史文化資源ともに、継承を担う後継者育成の仕組みづくりは重要である。

無形民俗に関わる資源については、町無形民俗文化財「内谷春日神社太々神楽」の同保存会と町無形民俗文化財「鹿島神社例大祭」の国見伝統文化保存会が後継者育成に関わる具体的な取り組みを実施している。町では、補助による支援とともに、その内容を冊子にまとめた「マンガで読む国見町内谷太々神楽ものがたり」（平成 29〔2017〕年度）、「鹿島神社例大祭ハンドブック」（平成 27〔2015〕年度）を作成し、普及啓発に努めている。また、既に実施している町内全域の子どもを対象とした「子ども太々神楽体験教室」をはじめ、多くの子どもや若者が積極的・主体的に神楽や祭礼に参加できる活動を支援する。



図 7-5 マンガで読む国見町内谷太々神楽ものがたり

そのほかの歴史文化資源については、調査における現状把握を踏まえ、維持管理・保存継承を行う担い手や後継者となるべき人々に対し、普及啓発を行うことで意識向上を図り、持続的な維持管理と保存継承をめざす。

③ 歴史文化資源の保存・活用を図るための施設整備・充実

国指定史跡「阿津賀志山防塁」をはじめ、整備を必要とする歴史文化資源に対して、保存・活用を図るための施設整備・充実を図る。

平成 27(2015)年度から令和 6(2024)年度までを事業期間とする「阿津賀志山防塁第 I 期史跡整備事業」において、阿津賀志山防塁下二重堀地区と国道 4 号北側地区の史跡整備と周辺整備を行う。



図 7-6 鹿島神社例大祭ハンドブック

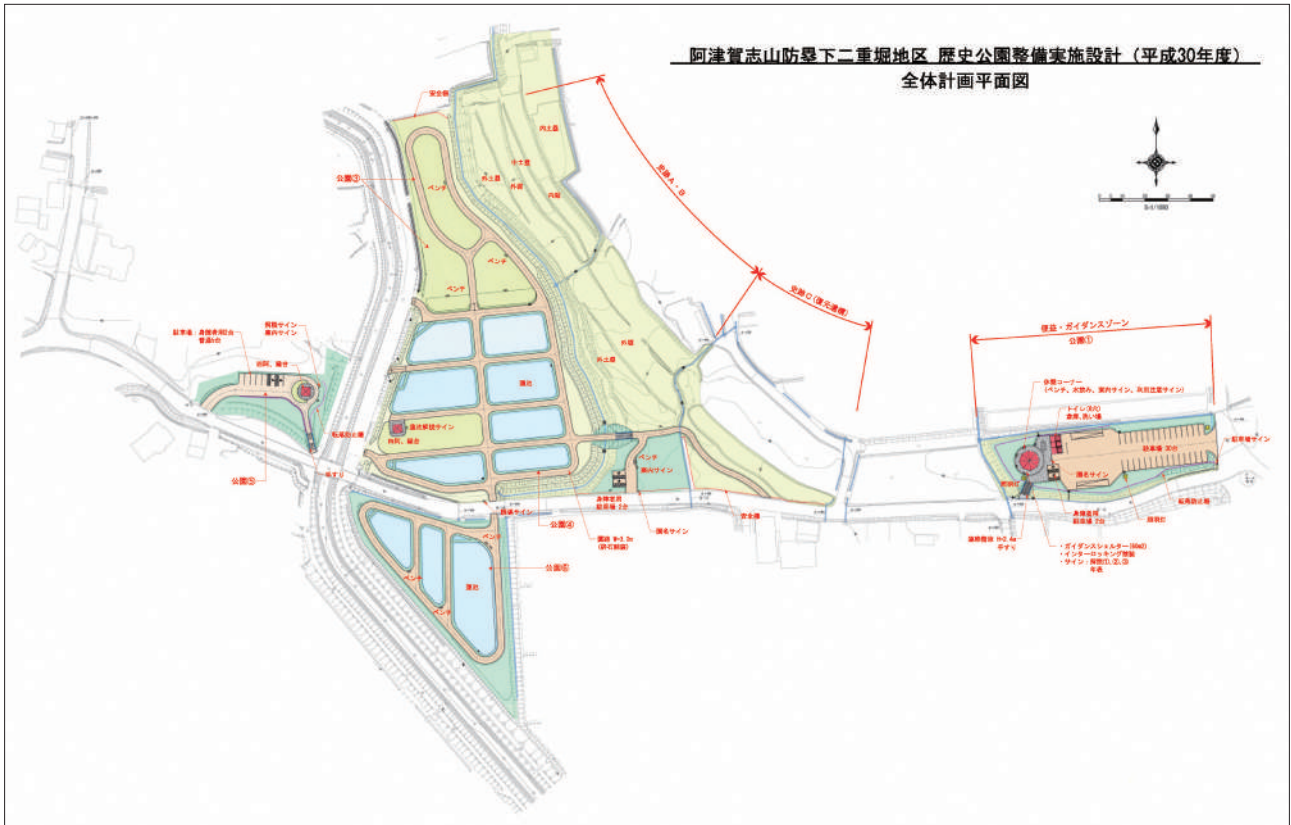


図 7-7 阿津賀志山防皇下二重地区歴史公園整備 全体計画平面図

④ 防減災・防犯対策の推進と災害時の対応

近年多発する自然災害、火災、損壊、盗難への防減災・防犯対策は、より幅広く、継続的な取り組みが必要となっている。ここでは予防的な防減災・防犯対策と災害時の対応について、『国見町地域防災計画』に即しながら整理する。

【防減災・防犯対策】

「文化財保護強化週間」（11/1～7）及び地元消防団と連携した「文化財防火デー」（1/26：町内5地区での歴史的建造物に対する消防訓練・町全体での防火運動）を実施し、火災予防体制の強化・防犯対策に関する普及啓発とともに、地域における個別訓練を実施している。

また、防減災・防犯設備等の整備強化活動として、文化財所有者・管理者に対し通報・警報装置・消火設備・防火設備の設置に努めるよう、周知・啓発を深めるとともに、県指定重要文化財「旧佐藤家住宅」や国見町文化財センター「あつかし歴史館」での適切な機器の更新・点検と訓練を実施する。

更に、伊達地方消防組合と町が連携した火災予防査察の実施や町・県文化財保護指導員・国見町文化財保護審議会委員・国見町文化財ボランティアなど関係者が連携した恒常的な「文化財パトロール」の実施による巡視を行うとともに、本構想策定において把握した歴史文化資源リストに基づき所在確認や現状把握を進め、災害発生時には歴史文化資源リストによって被害状況を迅速に把握する。



写真 7-10 文化財パトロール



写真 7-11 文化財防火デー

【災害時の対応】

災害発生時は、2次災害発生の危険性などを考慮しながら、指定文化財等の被害状況を迅速に把握し、県教育委員会等の関係機関に連絡するとともに、建造物については状況に応じて応急対応を行う。また、美術工芸品等の管理場所が被害を受けた場合は公共施設で一時保護する。

更に、被災した歴史文化資源の情報把握に努め、必要に応じて、災害発生後の歴史文化資源の保全に向け、町は国・県の関係機関と連携しながら、専門家の助言・支援の調整を図り、文化財レスキューを行う。



写真 7-12
東日本大震災時の文化財レスキュー活動
(ふくしま歴史資料保存ネットワークの
支援により実施)

(3) 資源と資源をつなげる

- ① 案内ガイドの育成
- ② 歴史文化ツーリズムの振興
- ③ 周遊性の向上と案内板の設置及び歴史文化資源と歴史文化施設の連携・活用

① 案内ガイドの育成

歴史文化資源の案内を担う「国見町文化財ボランティア事業」を推進し、同ボランティアの養成・研修を通じて、人材育成を行う。



写真 7-13 くにもみ周遊ツアー

② 歴史文化ツーリズムの振興

歴史文化ツーリズムは、価値感を共有するために有益な手段であることから、現在の「くにもみ周遊ツアー事業」における歴史文化資源の積極的な活用と多様な来訪機会の創出に向けた民間事業者等との連携を図る。



写真 7-14 案内板の設置

③ 周遊性の向上と案内板の設置及び歴史文化資源と歴史文化施設の連携・活用

町内の歴史文化資源は広範囲に点在する。来訪者が歴史文化資源をスムーズに、そして深く理解するためには、周遊の検討・案内板の設置が不可欠であることから、「周遊性向上検討・案内板設置事業」を進める。また、道の駅国見あつかしの郷、国見町文化財センター「あつかし歴史館」、国見町観月台文化センター、現在整備が進む「阿津賀志山防塁下二重堀地区歴史公園」(仮称)などの歴史文化施設との連携・連動した活用も図る。

(4) 人と人をつなげる

- ① 積極的な情報発信の推進
- ② 学習機会の提供と充実
- ③ 保存継承に向けた担い手・理解者・支援(応援)者のネットワークの構築

① 積極的な情報発信の推進

より広域に、より多様な人々に届くよう、様々な媒体による積極的な情報発信を継続的に行う。「広報くにみ」（毎月発行）、国見町 HP 及び観光ポータルサイト・SNS（随時更新）による情報発信にとどまらず、報道機関への投げ込みによる取材や町民や来訪者自らによる情報発信も促進する。

② 学習機会の提供と充実

テーマや対象を絞らず、多種多様な学習機会を創出するため、歴史まちづくりシンポジウムや公開活用事業による教育普及、学校教育と連携したふるさと学習「国見学」、生涯学習と連携した町民講座、住民団体の国見町郷土史研究会と連携した公開研修講座の開催を充実する。

③ 保存継承に向けた担い手・理解者・支援（応援）者のネットワークの構築

多種多様な普及・啓発、保存継承に向けた担い手・理解者・支援（応援）者の育成とネットワーク構築の取り組みを支援する。

未だ萌芽的な取り組みだが、阿津賀志山防塁の活用を推進するための住民組織「くにみ阿津賀志山防塁活用推進懇談会」の活動を支援しながら、めざすべきネットワークの形と保存・活用の担い手となる組織づくりを進める。

(5) 人と資源をつなげる

- ① 保存継承活動・歴史まちづくり活動への支援
- ② 歴史文化資源の保存継承活用団体による協議会の活動充実

① 保存継承活動・歴史まちづくり活動への支援

所有者等や地域の団体の保存継承活動・歴史まちづくり活動への支援は、行政と当事者間の相互理解と信頼関係が不可欠である。

これまでの文化財保護関係団体支援事業、無形民俗文化財活動支援事業、まちづくり関係の助成事業を引き続き行い、住民・団体・地域が主体となる活動を支援する。

② 歴史文化資源の保存継承活用団体による協議会の活動充実

保存継承活用団体が加盟する歴史まちづくりフォーラムの活動を充実させるため、加盟団体の拡充と総会・協議会の開催、具体的な取り組みに対する意見交換などを行い、全町的な取り組みに発展させる。



写真 7-15 民話の会による民話語り
(旧佐藤家住宅の活用)



写真 7-16 阿津賀志山防塁
活用推進懇談会の活動



写真 7-17 内谷春日神社太々神楽保存会



写真 7-18 国見町中尊寺蓮育成会

第8章 保存・活用を推進するための体制整備の方針

本町における歴史文化資源の保存・活用の活動は、住民を主体として取り組まれてきたことに特徴がある。本構想の目的である、この地で培われてきた人々の知恵、文化、歴史を受け継ぎ、未来へ伝えていくための地域づくりやまちづくりに資するためには、行政のみでは決して進めることはできず、地域等との連携・協力が必要である。文化財所有者等、地域住民・住民団体、町内小中学校、有識者・専門家・高等教育機関、行政機関等の現状と課題を整理し、保存・活用を推進するための体制整備について方針を定める。

1 住民主体の保存・活用体制の現状と課題

(1) 文化財所有者及び保存継承団体

歴史文化資源の維持管理や保存・活用については、所有者及び保存継承団体が主体的に実施している。

大正10（1921）年に迎賓館として建築された国登録有形文化財「奥山家住宅主屋・洋館」は、明治から昭和初期にかけて政治家・実業家として大成した奥山忠左衛門の遺志を受け継ぐ現当主が守り伝えている。町による一般公開や活用イベントに積極的に協力し、多くの来訪者に公開され、活用されている。

町指定無形民俗文化財「内谷春日神社太々神楽」は、明治14（1881）年に田村地方から伝承され、氏子達により継承されてきた。戦中・戦後に2度途絶えたものの、再び地域の思いから昭和57（1982）年に内谷春日神社太々神楽保存会が結成され、継承されている。

町指定天然記念物「御瀧神社の湧水」は、光明寺集落における信仰・生業と深く関わりながら、保存管理活動が行われている。毎年4月に清掃活動である「滝普請」が行われ、水場や水路の維持・管理を町内会が主体で行っている。この維持管理活動は、水に伴う信仰・祭礼の活動と一体で継承されており、地域の結びつきを深めることにつながっている。

個人所有の有形の資源、地域住民がこれまで継承してきた無形の資源、その保存と継承形態は様々である。しかし、少子高齢化・過疎化に伴う担い手の不足により、これまでのような保存・継承が困難となっている。内谷春日神社太々神楽では、そうした現状から内谷地区内に留まらず、町内全域を対象とした「子ども太々神楽体験教室」を開催することで人材の育成を図り、祭礼時だけでなく様々な催しなどを発表の機会とし、広く周知活用を行うことで、伝統芸能の継承を図っている。また、平成29（2017）年に発足した「くにみ阿津賀志山防塁活用推



写真 8-1 奥山家住宅の活用
(奥山家アフタヌーンティーパーティ)



写真 8-2 御瀧神社の滝普請



写真 8-3 内谷春日神社太々神楽
子ども太々神楽体験教室

進懇談会」は、阿津賀志山防塁の活用推進を目的とする住民団体である。防塁の価値に共感し、賛同する住民で構成され、より広範囲なネットワーク構築をめざし、保存継承に取り組んでいる。

価値ある地域の歴史文化資源を所有者・団体だけでなく地域全体で大切に守り、伝えていく意識を醸成し、住民自らが保存・活用の担い手となって、歴史文化資源を活かしたまちづくりへ主体的に参画する仕組みづくりが不可欠である。

(2) 地域住民・住民団体・NPO・民間企業

町内には、表 8-1 に示す住民・民間団体が存在し、活動している。

昭和 46（1971）年に発足した「国見町郷土史研究会」は、現在も続く機関誌の発行や展示・研修活動などを継続し、当町の歴史文化に関わる調査・研究及び教育普及活動の基礎を築いてきた。平成 20（2008）年に始まった「国見町文化財ボランティア」にも積極的に協力している。

平成 20（2008）年に岩手県平泉町中尊寺から「中尊寺蓮」が株分けされたことを受け、地元有志による「国見町中尊寺蓮育成会」が平成 25（2013）年に結成され、育成管理を続けている。国指定史跡「阿津賀志山防塁」とゆかりの深い蓮の育成を通して、防塁とともにその魅力を町内外へ発信している。

「小坂まちづくりの会」は、小坂地区に残る羽州街道をテー



図 8-1 文化財案内ガイドの案内



写真 8-4 まちあるきイベント

表 8-1 文化財の保存・活用に関わる民間団体・任意団体とその活動概要

民間団体・任意団体	主な活動エリア	主な活動の概要
国見町郷土史研究会	町全体	歴史調査・研究、会報誌発行
		歴史講演会・文化祭展示
		方部研修会・フィールドワークの開催
国見町文化財ボランティア	町全体	文化財案内ガイドの実施
国見町歴史まちづくりフォーラム	町全体	歴史まちづくりに対する実践的な研究・提言・啓発 シンポジウム、ワークショップ、研修会等の開催
国見伝統文化保存会	藤田地区	鹿島神社例大祭の保存・継承活動
大木戸歴史むらづくりの会	大木戸地区	あつかし歴史館イベント
明日へ。ビックツリー・イルミネーション実行委員会	町全体	町内及び阿津賀志山山頂のイルミネーション点灯と打上花火の開催
小坂まちづくりの会	小坂地区	ウォーキング大会等のイベント開催
内谷春日神社太々神楽保存会	内谷地区	内谷春日神社太々神楽の継承及び祭礼での奉納
		町内イベントにおける神楽公演
		子ども太々神楽教室
		太々神楽復活プロジェクト
国見町中尊寺蓮育成会	西大枝地区	中尊寺蓮の育成管理



写真 8-5 あつかし歴史館のイベント



写真 8-6 ふるさと学習「国見学」

マとしながら、地域の歴史文化資源と蕎麦作りによる催しを行い、地域の活性化を進めている。

平成 29(2017)年に結成された「大木戸歴史むらづくりの会」は、旧大木戸小学校が国見町文化財センター「あつかし歴史館」に改修されたことを契機として、歴史文化を活かした地域振興に取り組んでおり、同歴史館での催しも精力的に行っている。

少数ではあるが、上記のような団体組織はあるが、NPO 団体・民間企業との連携はない。町外の団体・企業へ担い手を広げる取り組みも必要である。

(3) 町内小中学校・生涯学習

町内の小中学校では、昭和 29(1954)年頃から阿津賀志山への遠足や地域学習で、阿津賀志山防塁について学んでいた。現在は、ふるさと学習である「国見学」として続けられている。阿津賀志山防塁をはじめとする町の歴史文化資源やその周辺環境を学ぶことで国見を知り、体験し、誇りに思い、守り、伝えることにつながる大きな役割を担っている。

また、生涯学習においても、町民の意識・教養を高め、歴史文化の理解を深める学習機会や情報を提供している。

表 8-2 歴史文化資源の活用と普及・啓発に関する取り組みの一例（平成 30〔2018〕年度実施事業）

タイトル	年月日	概要等
あつかし歴史館イベント	平成 30(2018)年 5月～ 平成 31(2019)年 2月	歴史と年中行事にまつわるイベント 4回述べ約 800人
奥山家公開（くにみしゅらん）	平成 30(2018)年 6月、12月	奥山家内部公開 2回延べ 26人
総合学習での国見学の取り組み	平成 30(2018)年 6月 29日	国見小学校 6年生史跡探検隊 71人
石工（ロック）フェス in 石蔵 2018	平成 30(2018)年 9月 16日	旧小坂村産業組合石蔵で体験型イベント 200人
奥山家一般公開（義経まつり）	平成 30(2018)年 9月 23日	奥山家住宅洋館を一般公開 746人来館
藤田宿まちあるき（義経まつり）	平成 30(2018)年 9月 23日	藤田宿のスポットをまちあるき 64人参加
くにみ周遊ツアー	平成 30(2018)年 8月 3日、5日、 11月 2日	庁内周遊ツアーの実施。3日間計 6回 94人
道の駅あつかしの郷から巡る 夏のご案内 Week	平成 30(2018)年 7月 28日～8月 12日	道の駅特別ブースで案内対応 計 7日間 約 400人
国見ホイスコーレ・短期プログラム	平成 30(2018)年 10月 6日～8日	古民家を活用した“人生の学校”づくりプロ ジェクト 21人
旧佐藤家住宅公開	平成 30(2018)年 11月 3日～4日	民話の会民話語り、内谷太々神楽公演
古民家体験教室	平成 30(2018)年 11月 10日	少年仲間づくり教室生ほか 37人
奥山家住宅クリスマスワーク ショップ	平成 30(2018)年 12月 17日	奥山家洋館クリスマスワークショップ 26人参加
かまど de ご飯（桜の聖母短大）	平成 31(2019)年 1月 26日	国見石のかまどでの炊飯実演 100食提供
文化財ボランティア案内件数	平成 30(2018)年度	48件 2,439人（平成 29年度 70件 2,902人）

(4) 有識者・専門家・高等教育機関

歴史文化資源の適切な保存と継承のためには、必要な知識や情報を提供するアドバイザーなどの有識者・専門家が必要であり、高等教育機関との連携も重要である。

国見町文化財保護審議会や国見町歴史的風致維持向上計画協議会、国見町阿津賀志山防塁調査・整備指導委員会などは、学識経験者や有識者を委員に委嘱し専門的指導やアドバイスを得ている。

また、保存・活用に関する事業を展開する際は、郡山女子大学、桜の聖母短期大学、福島大学と連携を図っている。

表 8-3 歴史文化資源の活用に関わる域学連携

連携教育機関	年度	概要等
郡山女子大学	平成 27(2015)年度～	国見石保存・活用調査
	平成 28(2016)年度～	石工（ロック）フェス in 石蔵
桜の聖母短期大学	平成 28(2016)年度	食育推進プロジェクト
福島大学	平成 29(2017)年度	町内歴史文化の基礎的調査 ・小坂歴史探訪 ・小坂まるごと博物館 ・大木戸まるごと博物館

(5) 行政機関

国・県・町の行政機関は、文化財保護法や条例に基づき保存・活用の施策を行ってきた。本町においては、国見町文化財保護条例の制定以降、指定等文化財の保存・活用に努めるとともに、「国見町歴史的風致維持向上計画」の認定を契機に歴史まちづくりの取り組みを加速した。「道の駅国見あつかしの郷」、国見町文化財センター「あつかし歴史館」、「阿津賀志山防塁下二重堀地区歴史公園（仮称）」の整備事業も同計画事業に位置付けられたものである。また、文化財所有者等、住民・地域団体に対し、活動支援を行っている。

一方、町が整備を行った歴史文化資源に関わる施設の運営・活用や各団体・所有者の活動を町全体の取り組みにつなげるための調整、更に外部の有識者や専門・関連機関との連携など、歴史文化を保存・活用するためにマネジメント機能を高める取り組みが課題である。



写真 8-7 くみみ縄文体験



写真 8-8 ロック 石工フェス（石切り体験）



写真 8-9 かまど de ご飯
（国見石のかまどでの炊飯実演）



写真 8-10 大木戸まるごと博物館



写真 8-11 国見ホイスコーレ

2 保存・活用体制の整備の方針

(1) 文化財所有者及び保存継承団体

所有者及び保存継承団体の保存継承形態は、歴史文化資源の来歴や地域の関わりによって多種多様であるが、持続的な維持管理と保存継承のためには、後継者や担い手の育成が重要である。

そのためには、歴史文化資源の価値や魅力に共感する理解者を増やすことが必要である。特に、伝統芸能などの無形民俗に関わる資源の場合は、後継者育成に向けた啓発や伝習の機会創出などこれまでの取り組みを継続し、保存継承を図る。

(2) 地域住民・住民団体・NPO・民間企業

地域共有の歴史文化を守ることは、地域のつながりを深めることになり、その活用は地域振興につながる。

「国見町郷土史研究会」による主体的な調査・研究や教育普及活動は、地域における歴史文化の発見・認知につながり、「小坂まちづくりの会」「大木戸歴史むらづくりの会」などの活動は、地域を盛り上げる取り組みにつながっている。地域全体で大切に守り、伝えていく意識の醸成、住民自らが保存・活用の担い手となって、歴史文化資源を活かしたまちづくりへ主体的に参画する仕組みが不可欠であり、主体的な取り組みを一層喚起する必要がある。今後もこれらの取り組みと活動の広がり支援しながら、住民主体・住民連携による保存・活用の推進を図る。

また、担い手を外に広げるために、町内外のNPO団体・民間企業への働きかけも進める。

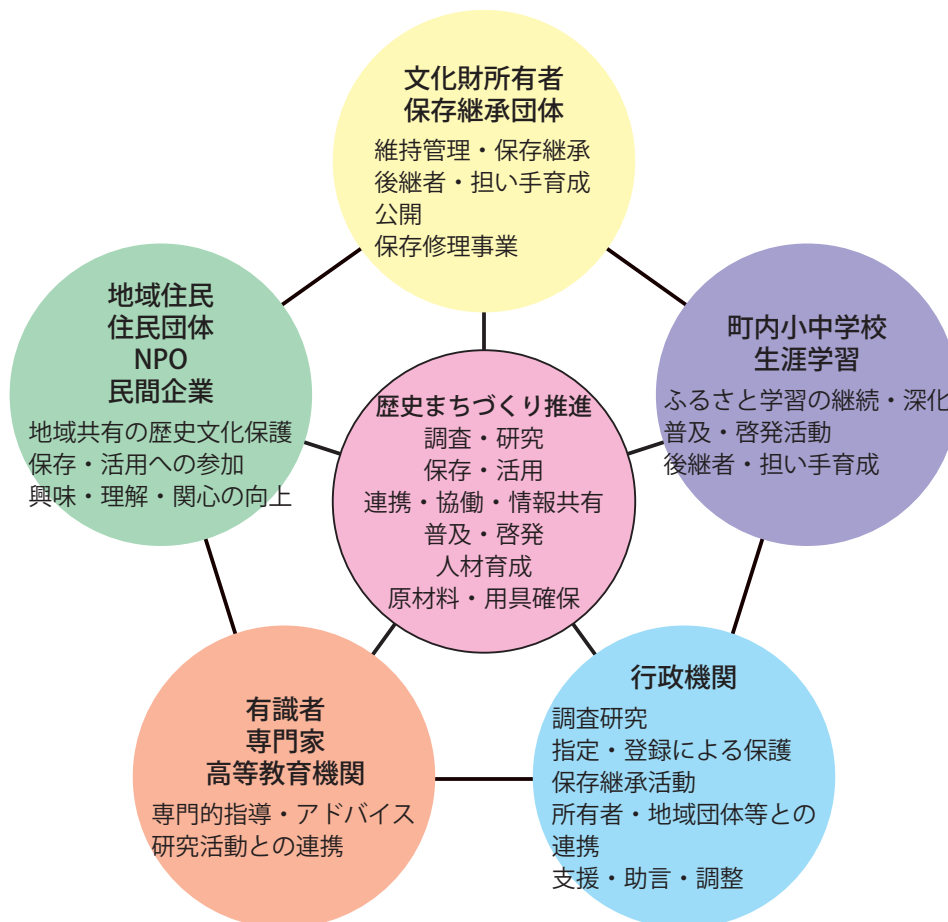


図 8-2 保存・活用推進のための体制イメージ

(3) 町内小中学校・生涯学習

小中学校のふるさと学習「国見学」の継続と学習内容の深化を図り、国見を知り、体験することで、国見町を誇りに思い、どのように守り、伝えるかを、子どもたちと一緒に考えることで、将来の担い手・後継者育成を図る。

また、地域に開かれたコミュニティスクールの取り組みや教員との連携体制の強化を図るとともに、生涯学習においても継続的に学習機会や情報を提供する。

(4) 有識者・専門家・高等教育機関

本町ならではの歴史文化資源の保存、活用策については、学識経験者・有識者からなる組織の専門的指導やアドバイスを得ながら取り組みを進める。また、個別の歴史文化資源における保存・整備に関する検討が必要な場合は、現地指導や有識者による委員会を設置し対応する。更に、高等教育機関とは、研究活動や学生の柔軟なアイデアと連携した取り組みを継続する。

(5) 行政機関

本構想の実現に向け、国・県の助言と支援を受け、住民団体と連携した歴史文化資源の把握に向けた調査研究、所有者・保存継承団体とともに進める保存継承、所有者等・地域団体と関わりながら多くの人々から価値と魅力を共感・共有いただける活用を推進し、観光振興や交流、地域の活性化に向けた歴史まちづくり各種事業に取り組む。

また、住民主体・住民連携による歴史文化の保存・活用に向け、所有者と保存継承団体・民間団体等で組織した「国見町歴史まちづくりフォーラム」が、平成26(2014)年に設立されている。町も参画しながら、課題解決のための情報交換、広く地域住民等の理解と協力を得るための情報発信と啓発に努め、住民主体・住民連携による歴史文化資源の保存継承・活用の取り組みを行ってきた。このフォーラムの活動をより広げ・活発化することで、町は支援・助言・調整を行うコーディネーターとしての役割を果たし、本町全域の保存・活用に向けた取り組みにつなげる。

資料編 1 歴史文化資源の把握に関する情報源一覧表

区分	番号	編著者	書籍名	発行者	発行年
① 文化財 総合調査 悉皆調査	①-1	福島県教育委員会	福島県指定文化財調査報告書	福島県教育委員会	1970
	①-2	福島県教育委員会	福島県の民家 (1 県北・会津)	福島県教育委員会	1970
	①-3	福島県教育委員会	福島県の寺院跡・城館跡 —文化財基礎調査報告書—	福島県教育委員会	1971
	①-4	福島県教育委員会	福島県の石造文化財	福島県教育委員会	1972
	①-5	福島県教育委員会	福島県の金工品	福島県教育委員会	1973
	①-6	福島県教育委員会	福島県の建造物 —文化財基礎調査報告書 4—	福島県教育委員会	1974
	①-7	福島県教育委員会	福島県の彫刻 —文化財基礎調査報告書 5—	福島県教育委員会	1975
	①-8	福島県教育委員会	福島県の絵画・書跡 —文化財基礎調査報告書—	福島県教育委員会	1976
	①-9	福島県教育委員会	福島県の絵馬 —文化財基礎調査報告書 7—	福島県教育委員会	1977
	①-10	福島県教育委員会	福島県の民家 —第 2 回緊急調査報告書・付前回分県中—	福島県教育委員会	1979
	①-11	福島県教育委員会	福島県の祭礼 —文化財基礎調査報告書—	福島県教育委員会	1980
	①-12	福島県教育委員会	福島県民俗分布図	福島県教育委員会	1980
	①-13	福島県教育委員会	福島県の伝統工芸技術 —文化財基礎調査報告書—	福島県教育委員会	1981
	①-14	福島県教育委員会	福島県の近世社寺建築 —近世社寺建築緊急調査報告書—	福島県教育委員会	1981
	①-15	福島県教育委員会	福島県の民謡 —民謡緊急調査報告書—	福島県教育委員会	1981
	①-16	福島県教育委員会	福島県の漆工品 —文化財基礎調査報告書—	福島県教育委員会	1983
	①-17	福島県教育委員会	歴史の道調査報告書 奥州道中	福島県教育委員会	1983
	①-18	福島県教育委員会	歴史の道調査報告書 羽州街道	福島県教育委員会	1983
	①-19	福島県教育委員会	福島県の年中行事	福島県教育委員会	1983
	①-20	福島県教育委員会	福島県の民俗芸能	福島県教育委員会	1983
	①-21	日本建築学会	日本近代建築総覧 各地に遺る明治大正昭和の建物	技報堂出版	1983
	①-22	福島県教育委員会	福島県の昔話と伝説	福島県教育委員会	1986
	①-23	福島県教育委員会	福島県の緒職	福島県教育委員会	1987
	①-24	福島県教育委員会	福島の中世城館跡	福島県教育委員会	1988
	①-25	福島県教育委員会	福島県の山岳信仰	福島県教育委員会	1989
	①-26	福島県教育委員会	福島県の田植踊	福島県教育委員会	1989
	①-27	福島県教育委員会	福島県の貝塚 —県内貝塚詳細分布調査報告—	福島県教育委員会	1991
	①-28	福島県教育委員会	福島県の民俗芸能 —福島県民俗芸能緊急調査報告書—	福島県教育委員会	1991
	①-29	福島県教育委員会	県内主要社寺調査報告書 (一)・(二)	福島県教育委員会	1994
	①-30	福島県教育委員会	福島県の近代和風建築 —福島県近代和風建築総合調査報告書—	福島県教育委員会	1998
	①-31	福島県教育委員会	福島県の祭り・行事 —福島県祭り・行事調査報告書—	福島県教育委員会	2005
	①-32	福島県教育委員会	福島県の民俗技術 —福島県民俗技術調査報告書—	福島県教育委員会	2008
	①-33	財団法人福島県 文化振興事業団	福島県の近代化遺産 福島県近代化遺産 (建造物等) 総合調査報告書	福島県教育委員会	2010
	①-34	福島大学 阿部浩一研究室	福島大学行政政策学類文化史・地域史演習活動報告書 2012 年度 国見町における歴史資料現況調査報告 1	福島大学 阿部浩一研究室	2013
	①-35	福島大学 阿部浩一研究室	福島大学行政政策学類文化史・地域史演習活動報告書 2013 年度 国見町における歴史資料現況調査報告 2	福島大学 阿部浩一研究室	2014
② 自治体史 市町村史	②-1	国見町	国見町史 第 1 巻 (通史・民俗)	国見町	1977
	②-2	国見町	国見町史 第 2 巻 (原始・古代・中世・近世資料)	国見町	1973
	②-3	国見町	国見町史 第 3 巻 (近代資料)	国見町	1975

区分	番号	編著者	書籍名	発行者	発行年	
② 自治体史 市町村史	②-4	国見町	国見町史 第4巻 (現代・村誌・民俗資料)	国見町	1973	
	②-5	国見町	国見町史資料所在目録 第1集	国見町	1974	
	②-6	国見町	国見町史資料所在目録 第2集	国見町	1975	
	②-7	国見町	国見町史資料叢書 第1集	国見町	1975	
	②-8	国見町	国見町史資料叢書 第2集	国見町	1975	
	②-9	国見町	国見町史資料叢書 第3集	国見町	1976	
	②-10	藤田町 ほか	郷土誌 (藤田)			
	②-11	大木戸村 ほか	郷土誌 (大木戸)			
	②-12	小坂村 ほか	郷土誌 (小坂)			
	②-13	森江野村 ほか	郷土誌 (森江野)			
	②-14	大枝村 ほか	郷土誌 (大枝)			
	②-15	仙台市	仙台市史 資料編 10 伊達政宗文書 1	仙台市	1994	
	③ 文化財 調査報告書	③-1	国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第1集 山田遺跡・堰下古墳・反畑祭祀遺跡発掘調査	国見町教育委員会	1972
		③-2	東北工業大学 建築史草野研究室	国見町文化財調査報告第2集 旧佐藤家住宅調査・移築復原工事報告書	国見町教育委員会	1973
		③-3	国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第3集 森山古墳群・大木戸古墳群・大木戸竈跡	国見町教育委員会	1974
③-4		福島大学考古学研究会	国見町文化財調査報告第4集 岩淵遺跡発掘調査	国見町教育委員会	1976	
③-5		国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第5集 徳江廃寺跡発掘調査	国見町教育委員会	1986	
③-6		国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第6集 藤田城跡発掘調査報告書	国見町教育委員会	1988	
③-7		国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第7集 徳江・小坂地区遺跡分布調査	国見町教育委員会	1990	
③-8		国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第8集 塚野目 12号墳調査報告	国見町教育委員会	1990	
③-9		国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第9集 阿津賀志山防塁保存管理計画報告書	国見町教育委員会	1994	
③-10		国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第10集 藤田城跡II	国見町教育委員会	1994	
③-11		国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第11集 山崎小館跡調査報告書	国見町教育委員会	1996	
③-12		国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第12集 東越館跡発掘調査報告書	国見町教育委員会	1998	
③-13		国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第13集 阿津賀志山防塁発掘調査報告書	国見町教育委員会	1999	
③-14		国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第14集 堰下古墳発掘調査報告書	国見町教育委員会	2002	
③-15		国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第15集 奥州道国見峠長坂跡・阿津賀志山防塁跡試掘調査報告書	国見町教育委員会	2005	
③-16		国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第16集 阿津賀志山防塁史跡指定調査概報1・他	国見町教育委員会	2009	
③-17		国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第17集 阿津賀志山防塁史跡指定調査概報2・他	国見町教育委員会	2010	
③-18		国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第18集 阿津賀志山防塁史跡指定調査概報3・他	国見町教育委員会	2011	
③-19		国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第19集 阿津賀志山防塁史跡指定調査概報4・他	国見町教育委員会	2012	
③-20		国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第20集 平成24年度町内遺跡試掘調査報告	国見町教育委員会	2013	
③-21		国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第21集 阿津賀志山防塁史跡指定調査概報5	国見町教育委員会	2013	
③-22		国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第22集 平成24・25年度震災復興に伴う町内遺跡調査報告	国見町教育委員会	2014	
③-23		国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第23集 阿津賀志山防塁史跡指定調査概報6	国見町教育委員会	2014	
③-24		国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第24集 阿津賀志山防塁史跡指定調査報告書	国見町教育委員会	2015	
③-25		国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第25集 平成25・26・27年度町内遺跡試掘調査報告書	国見町教育委員会	2016	
③-26		国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第26集 阿津賀志山防塁史跡整備調査概報1	国見町教育委員会	2016	
③-27		国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第27集 国見町内遺跡調査事業報告1	国見町教育委員会	2017	

区分	番号	編著者	書籍名	発行者	発行年
③ 文化財 調査報告書	③-28	国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第28集 阿津賀志山防塁史跡整備調査概報2	国見町教育委員会	2017
	③-29	国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第29集 阿津賀志山防塁史跡整備調査概報3ほか	国見町教育委員会	2018
	③-30	国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第30集 国見地区付加車線整備事業埋蔵文化財発掘調査報告書-阿津賀志山防塁-	国見町教育委員会	2019
	③-31	国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第31集 復興再生基盤整備事業員田地区関連遺跡調査報告 長障子遺跡	国見町教育委員会	2020
	③-32	国見町教育委員会	国見町文化財調査報告第32集 阿津賀志山防塁史跡整備調査概報4ほか	国見町教育委員会	2020
	③-33	国見町教育委員会 国見町郷土史研究会	阿津賀志山防塁関係論集	国見町教育委員会	1989
	③-34	国見町教育委員会	ふるさとの文化財 -菊池利雄先生『広報くにみ』文化財寄稿集-	国見町教育委員会	2012
	③-35	国見町教育委員会 生涯学習課	国見町埋蔵文化財地図	国見町教育委員会 生涯学習課	2015
	③-36	国見町	国見町歴史的風致維持向上計画	国見町	2015
	③-37	国見町	国見町歴史的建造物悉皆調査		2015 2016
	③-38	福島県文化センター	歴史資料館収蔵資料目録第22集 県内諸家寄託文書(18)	福島県文化センター	1993
	③-39	福島県文化センター	歴史資料館収蔵資料目録第24集 庄司家寄託文書I	福島県文化センター	1994
	③-40	福島県文化センター	歴史資料館収蔵資料目録第30集 県内諸家寄託文書(24)	福島県文化センター	1999
	③-41	福島県文化センター	福島県歴史資料館収蔵資料目録第31集 県内諸家寄託文書(25)	福島県文化センター	2000
	③-42	福島県文化振興事業団	福島県歴史資料館収蔵資料目録第36集 県内諸家寄託文書(30)	福島県文化振興事業団	2005
	③-43	福島県文化振興事業団	福島県歴史資料館収蔵資料目録第43集 県内諸家寄託文書(37)	福島県文化振興事業団	2012
	③-44	福島県文化振興財団	福島県歴史資料館収蔵資料目録第44集 県内諸家寄託文書(38)	福島県文化振興財団	2013
	③-45	福島県文化振興財団	福島県歴史資料館収蔵資料目録第48集 県内諸家寄託文書(42)	福島県文化振興財団	2017
	③-46	明治大学刑事博物館委員会	明治大学刑事博物館目録第39号	明治大学刑事博物館	1972
	④ 地域誌 記念誌	④-1	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第1号	国見町郷土史研究会 会長 早田盛
④-2		国見町郷土史研究会	郷土の研究 第2号	国見町郷土史研究会 会長 早田盛	1973
④-3		国見町郷土史研究会	郷土の研究 第3号	国見町郷土史研究会 会長 早田盛	1974
④-4		国見町郷土史研究会	郷土の研究 第4号	国見町郷土史研究会 会長 早田盛	1974
④-5		国見町郷土史研究会	郷土の研究 第5号	国見町郷土史研究会 会長 早田盛	1975
④-6		国見町郷土史研究会	郷土の研究 第6号	国見町郷土史研究会 副会長 佐藤善次郎	1976
④-7		国見町郷土史研究会	郷土の研究 第7号	国見町郷土史研究会 会長 佐藤善次郎	1976
④-8		国見町郷土史研究会 会長 佐藤善次郎	郷土の研究 第8号	国見町郷土史研究会 会長 佐藤善次郎	1977
④-9		国見町郷土史研究会 会長 佐藤善次郎	郷土の研究 第9号	国見町郷土史研究会 会長 佐藤善次郎	1978
④-10		国見町郷土史研究会 会長 佐久間直次	郷土の研究 第10号	国見町郷土史研究会 会長 佐久間直次	1979
④-11		国見町郷土史研究会 会長 佐久間直次	郷土の研究 第11号	国見町郷土史研究会 会長 佐久間直次	1980
④-12		国見町郷土史研究会 会長 佐久間直次	郷土の研究 第12号 (結成10周年記念特集)	国見町郷土史研究会 会長 佐久間直次	1981
④-13		国見町郷土史研究会 会長 佐久間直次	郷土の研究 第13号 (会員必携(月例会テキスト))	国見町郷土史研究会 会長 佐久間直次	1982
④-14		国見町郷土史研究会 会長 佐久間直次	郷土の研究 第14号	国見町郷土史研究会 会長 佐久間直次	1983
④-15		国見町郷土史研究会 会長 佐久間直次	郷土の研究 第15号 (国見町合併30周年記念号)	国見町郷土史研究会 会長 佐久間直次	1985
④-16		国見町郷土史研究会 会長 佐久間直次	郷土の研究 第16号	国見町郷土史研究会 会長 佐久間直次	1986
④-17		国見町郷土史研究会 会長 松浦芳蔵	郷土の研究 第17号	国見町郷土史研究会 会長 松浦芳蔵	1987
④-18		国見町郷土史研究会 会長 松浦芳蔵	郷土の研究 第18号	国見町郷土史研究会 会長 松浦芳蔵	1988
④-19		国見町郷土史研究会 会長 松浦芳蔵	郷土の研究 第19号	国見町郷土史研究会 会長 松浦芳蔵	1989
④-20		国見町郷土史研究会 会長 松浦芳蔵	郷土の研究 第20号	国見町郷土史研究会 会長 松浦芳蔵	1990

区分	番号	編著者	書籍名	発行者	発行年	
④	地域誌 記念誌	④-21	国見町郷土史研究会 会長 松浦芳蔵	郷土の研究 第 21 号	国見町郷土史研究会 会長 松浦芳蔵	1991
		④-22	国見町郷土史研究会 会長 松浦芳蔵	郷土の研究 第 22 号	国見町郷土史研究会 会長 松浦芳蔵	1992
		④-23	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 23 号	会長 松浦芳蔵	1993
		④-24	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 24 号	会長 松浦芳蔵	1994
		④-25	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 25 号	会長 松浦芳蔵	1995
		④-26	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 26 号 (戦後 50 年記念特集号)	会長 松浦芳蔵	1996
		④-27	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 27 号	会長 我孫子光夫	1997
		④-28	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 28 号	会長 我孫子光夫	1998
		④-29	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 29 号	会長 我孫子光夫	1999
		④-30	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 30 号 (第 30 号記念)	会長 我孫子光夫	2000
		④-31	国見町郷土史研究会	会報「郷土の研究」第 30 号別冊		2000
		④-32	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 31 号	会長 村上太一	2001
		④-33	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 32 号	会長 村上太一	2002
		④-34	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 33 号 (国見のいしづみ拓本習作展特集)	会長 村上太一	2003
		④-35	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 34 号	会長 赤坂正勝	2004
		④-36	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 35 号 (国見町村合併 50 周年記念号)	会長 赤坂正勝	2005
		④-37	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 36 号 (戦後 60 年記念号)	会長 赤坂正勝	2006
		④-38	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 37 号 (戦争展特集号)	会長 赤坂正勝	2007
		④-39	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 38 号	会長 赤坂正勝	2008
		④-40	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 39 号 (鹿島神社記特集号)	会長 小川恵見	2009
		④-41	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 40 号 (第 40 号記念)	会長 小川恵見	2010
		④-42	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 41 号	会長 小川恵見	2011
		④-43	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 42 号 (創立 40 周年記念号・3.11 東日本大震災特集)	会長 小川恵見	2012
		④-44	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 43 号 (小学校の思い出特集号)	会長 小川恵見	2013
		④-45	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 44 号 (伝えたい! 東日本大震災)	会長 小川恵見	2014
		④-46	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 45 号	会長 小川恵見	2015
		④-47	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 46 号	会長 佐藤榮壽	2016
		④-48	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 47 号	会長 佐藤榮壽	2017
		④-49	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 48 号 (国見町人物往来史特集)	会長 中村洋平	2018
		④-50	国見町郷土史研究会	郷土の研究 第 49 号	会長 中村洋平	2019
		④-51	国見町教育委員会	国見の民話	国見町教育委員会	1985
		④-52	国見町教育委員会	続国見の民話	国見町教育委員会	1990
⑤	その他 普及書 ガイドブック パンフレット	⑤-1	国見町企画情報課 総合政策室	国見町食卓図鑑 2016	国見町企画情報課 総合政策室	2016
		⑤-2	国見町企画情報課 総合政策室	国見町食卓図鑑 2016 PART2	国見町企画情報課 総合政策室	2016
⑥	アンケート	⑥	2017 年度 国見町まちづくり交流課実施			

資料編2 歴史文化資源一覧表

分類	種別	区分	略称	頁	
				(社寺)	(民家等)
有形文化財	建造物		建	(社寺)	135
				(民家等)	137
	美術工芸品	絵画	絵	157	
		彫刻	彫	159	
		工芸品	工	162	
		書跡	書	162	
		典籍	典	164	
		古文書	古	165	
		考古資料	考	170	
歴史資料	歴	171			
無形文化財	芸能		芸能	—	
	工芸技術		工技	—	
民俗文化財	有形の民俗文化財	衣食住	有民①	175	
		生産・生業	有民②	181	
		交通・運輸	有民③	182	
		交易	有民④	183	
		社会生活	有民⑤	184	
		信仰	有民⑥	185	
		民俗知識	有民⑦	190	
		民俗芸能	有民⑧	191	
		人の一生	有民⑨	191	
		年中行事	有民⑩	191	
	無形の民俗文化財	風俗慣習	風慣	191	
		民俗芸能	民芸	201	
		民俗技術	民技	202	
		口頭伝承	口伝	203	
記念物	遺跡	集落・古墳	遺①	212	
		政治・支配	遺②	214	
		祭祀・信仰	遺③	216	
		教育・文化	遺④	217	
		社会・生活	遺⑤	219	
		経済・生産	遺⑥	220	
		墳墓・碑	遺⑦	223	
		由緒地	遺⑧	223	
		外国	遺⑨	—	
	名勝地	公園・庭園	名①	223	
		橋梁・築堤	名②	—	
		花樹・花草	名③	—	
		鳥獣・魚虫	名④	—	
		岩石・洞穴	名⑤	224	
		峡谷・瀑布	名⑥	224	
		湖沼・湿原	名⑦	224	
		砂丘・砂嘴	名⑧	—	
		火山・温泉	名⑨	—	
		山岳・丘陵	名⑩	224	
展望地点	名⑪	225			
動物・植物・地質鉱物 (天然記念物)	動物	動	226		
	植物	植	226		
	地質鉱物	地	226		
文化的景観			文景	227	
伝統的建造物群			伝建	—	
文化財の保存技術			保技	—	
その他	人物	人	228		
	出来事	出	230		
	その他	他	231		

※頁欄の「—」は歴史文化資源の掲載が無いものを示す。

【有形文化財／建造物(社寺)】

※平成27(2015)年度から同28(2016)年度に実施した『国見町歴史的建造物調査』の成果を基に掲載。棟(建造物)単位ではなく、敷地単位での整理を行い、個別建造物については備考欄に記載。

整理番号	名称	所在地			時代	分類	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字				
建 1	三吉神社	藤田	石母田	大清水	大正～昭和初期	神社	①本殿、②幣殿、③拝殿、④機織神社、⑤手水舎、⑥御神楽殿、⑦水波神社 ①～⑥ 1900年代前期、⑦昭和戦前 近代期の神社として様式整う	藤田-01 1
建 2	龍雲禅寺	藤田	石母田	芹沢	江戸／昭和戦後	寺院	臨濟宗 ①本堂、②観音堂、③太子堂、④薬師堂 ① 1800年代中期、②③昭和戦後、④ 1700年代前期	藤田-01 2
建 3	愛宕神社	藤田	石母田	盗人返	江戸	神社	社殿 1700年代中期	藤田-01 3
建 4	国見神社	藤田	石母田	国見	大正～昭和初期	神社	旧村社 ①本殿、②幣殿、③拝殿、④収蔵庫、⑤小社殿 1900年代前期、近代の神社としてよく整っている	藤田-01 4
建 5	辨天神社	藤田	石母田	弁天沢	昭和～平成	神社	覆屋のみ、本殿未調査 覆屋の内부는シートで覆われており、確認不可能	藤田-01 5
建 6	金比羅神社	藤田	藤田	鶉町	大正～昭和初期	神社	①本殿、②幣・拝殿 1900年代前期	藤田-14 1
建 7	古峯神社	藤田	藤田	観月台	昭和戦後	神社	社殿(外壁石造) 三社合祀(虚空蔵尊、古峯社、巖島社)	藤田-14 2
建 8	聖徳太子神社	藤田	藤田	観月台	江戸／明治／昭和戦後	神社	①本殿、②覆屋、③富士神社 ① 1700年代後期以前、②昭和戦後、③ 1800年代後期	藤田-14 3
建 9	雷神社 (御霊神社)	藤田	藤田	滑沢	昭和戦後／昭和～平成	神社	①本殿、②拝殿 ①昭和～平成、②昭和戦後	藤田-14 4
建 10	大千寺	藤田	藤田	堤下	江戸／明治／昭和戦後	寺院	浄土宗 ①本堂、②秋葉三尺坊、③地藏堂、④りゆせん庵、⑤倉庫(石造、RC臥梁) ①平成5(1993)年6月、② 1900年頃、③昭和戦後、④ 1800年代中期以前、⑤昭和40年代、機械製材(横波目)	藤田-14 5
建 11	鹿島神社	藤田	藤田	北	明治／昭和初期／昭和戦後／平成	神社	①本殿(鹿島・医薬神社)、②幣殿、③拝殿、④竹駒稲荷神社、⑤神輿殿、⑥八幡神社、⑦外便所、⑧社務所 ①昭和45(1970)年、②③明治14(1881)年、④⑤昭和戦前、⑥昭和15(1940)年、⑦⑧平成	藤田-14 6
建 12	藤田不動尊	藤田	藤田	南	明治	仏堂	不動明王堂 1800年代後期	藤田-14 7
建 13	水雲神社	藤田	山崎	宮前	明治／大正／昭和戦後／平成	神社	旧村社 ①本殿、②幣殿、③拝殿、④忠霊庵(外壁石造)、⑤手水舎 ①大正13(1924)年(記録)、②③明治33(1900)年(記録・板書)、④昭和42(1967)年、⑤平成元(1989)年 近代神社建築として整っている	藤田-16 1
建 14	広宣教会	藤田	山崎	古館	大正～昭和初期／昭和戦後	寺院	日蓮宗 ①本堂、②土蔵、③井戸屋 ①② 1900年代前期、③昭和戦後	藤田-16 2
建 15	長泉寺	藤田	山崎	寺前	江戸／昭和戦後／平成	寺院	曹洞宗 ①本堂、②観音堂、③地藏堂、④鐘楼 ① 1800年代後期、②平成、③昭和戦後、④平成22(2010)年	藤田-16 3
建 16	三吉神社	藤田	山崎	荒沢	明治	神社	①社殿、②本殿 ① 1800年代後期、②未調査	藤田-16 4
建 17	篠葉澤稲荷神社 国見分社	藤田	山崎	上川前	昭和戦後	神社	①本殿、②幣殿、③拝殿 ①②③昭和55(1980)年	藤田-16 5
建 18	貴船神社	小坂	泉田	足洗	昭和戦後	神社	①本殿、②本殿覆屋、③幣殿、④拝殿 ①未調査、②③④昭和戦後	小坂-02 1
建 19	観音堂	小坂	泉田	川北	明治	仏堂	観音堂 土蔵造 1800年代後期、明治12(1879)年の年紀を記す拝所の木札有	小坂-02 2
建 20	弘法堂 (大師堂)	小坂	泉田	川南	昭和戦後	仏堂	弘法堂	小坂-02 3
建 21	胸懸観世音	小坂	泉田	北ノ内	大正～昭和初期	仏堂	戦勝と無事を祈る ①観音堂、木造モルタル塗り ① 1900年代前半	小坂-02 4
建 22	福満虚空蔵大菩薩	小坂	泉田	虚空蔵上	昭和戦後	仏堂	御堂 昭和60(1985)年(芳名録)	小坂-02 5
建 23	熊野神社	小坂	泉田	堰下		神社	石祠	小坂-02 6
建 24	泉秀寺	小坂	泉田	立町	江戸／明治／平成	寺院	曹洞宗 ①本堂、②山門、③鐘楼、④弁天堂(辨財尊天)、⑤庫裡 ①明治33(1900)年、②元治元(1864)年(八双金具)、③⑤平成、④ 1800年代中期	小坂-02 7
建 25	薬師堂 (西堂薬師)	小坂	内谷	岩下	江戸	仏堂	1700年代後半(和釘、明和2(1765)年庚申塔有) 内谷沼の水利権と交換したとの伝承あり(郷土史研究会報)	小坂-03 1
建 26	春日神社	小坂	内谷	錦脇	江戸／昭和初期／昭和戦後	神社	①本殿、②幣殿、③拝殿、④神楽殿、⑤神輿殿、⑥⑦⑧末社、⑨末社覆屋 ①②昭和8(1933)年、③昭和15(1940)年、④昭和59(1984)年、⑤⑥⑧昭和初期、⑦ 1800年代前半、⑨昭和戦後	小坂-03 2
建 27	自在院	小坂	内谷	錦脇	江戸／昭和戦後	寺院	真言宗 ①本堂、②山門、③袈裟掛地藏覆屋 ①昭和33(1958)年、大工：鶴田勇一、② 1800年代中期、③昭和64(1989)年	小坂-03 3
建 28	愛宕神社	小坂	内谷	錦脇	昭和戦後	神社	社殿 内部に昭和33(1958)年9月の札有	小坂-03 4
建 29	阿弥陀堂	小坂	内谷	西脇	昭和戦後	仏堂	御堂	小坂-03 5
建 30	雷神様	小坂	小坂	北畠	昭和戦後	神社	社殿、石造 昭和44(1969)年頃	小坂-08 1
建 31	松蔵寺	小坂	小坂	上泉川	昭和初期／昭和戦後	寺院	曹洞宗 ①本堂、②観音堂、③④庫裡 ①昭和43(1968)年、②昭和13(1938)年改築、棟札、③④昭和戦後	小坂-08 2
建 32	小坂子守地藏尊	小坂	小坂	台	昭和戦後	仏堂	御堂、子育てに関する信仰 昭和58(1983)年	小坂-08 3
建 33	稲荷神社	小坂	小坂	天上山	江戸／明治／昭和初期／昭和戦後／平成	神社	旧村社 ①本殿、②本殿覆屋、③幣殿、④拝殿、⑤愛宕神社、⑥古峯神社、⑦秋葉神社、⑧末社覆屋 ① 1800年代後半、②③④平成、⑤昭和3(1928)年改築、⑥ 1900年頃、⑦ 1700年代後期、⑧昭和戦後	小坂-08 4
建 34	深山神社	小坂	鳥取	深山	大正	神社	旧村社 ①本殿、②本殿覆屋、③幣殿、④拝殿 ①未調査、②③④大正13(1924)年(寄進芳名録)	小坂-12 1
建 35	福源寺	小坂	鳥取	鳥取	明治／昭和戦後／平成	寺院	曹洞宗 ①本堂、②地藏庵観音堂、町指定有形文化財「福源寺地藏庵観音堂」、土蔵造、③天神社 ①昭和戦後、②明治8(1811)年、③平成17(2005)年	小坂-12 2

整理 番号	名称	所在地			時代	分類	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
建 36	太子堂	大木戸	大木戸	赤穂	平成	仏堂	聖徳太子堂 平成6 (1994) 年4月10日落成	大木戸-04 6 (民家等)
建 37	稲荷神社	大木戸	大木戸	遠光 原山	昭和戦後	神社	①本殿 (石祠)、②本殿覆屋 ①不明、②昭和戦後	大木戸-04 2
建 38	小牛田神社	大木戸	大木戸	海道上	大正～昭和初期	神社	①本殿 (石祠)、②社殿 ①不明、②1900年代前期	大木戸-04 3
建 39	三嶋神社	大木戸	大木戸	宮原	江戸	神社	①三嶋神社本殿、②三嶋神社本殿覆屋、③成清大明神本殿、④成清大明神本殿 覆屋 ①②1800年代中期、③④1800年代後期	大木戸-04 4
建 40	秋葉神社	大木戸	貝田	立久根	明治/昭和～ 平成	神社	①社殿、②脇社 (金葉山神社) ①昭和・平成、②1900年前後	大木戸-05 1
建 41	最禅寺	大木戸	貝田	寺脇	江戸	寺院	曹洞宗 ①本堂 ①1700年代前期、町内有数の古さ	大木戸-05 2
建 42	竹駒稲荷	大木戸	貝田	寺脇	昭和戦後	神社	石祠、昭和45 (1970) 年	大木戸-05 26 (民家等)
建 43	水雲神社	大木戸	貝田	宮ノ腰	平成	神社	旧村社 ①本殿・幣殿 (本殿：石造)、②拝殿 ①②平成11 (1999) 年	大木戸-05 3
建 44	神社	大木戸	貝田	山ノ 神前		神社	石祠	大木戸-05 4
建 45	運男神社	大木戸	光明寺	運男	明治/昭和戦 後	神社	①本殿、②社殿 ①1900年前後、②昭和42 (1967) 年 (改築記念扁額)	大木戸-07 1
建 46	三常院	大木戸	光明寺	鹿野	江戸	仏堂	①阿弥陀堂 ①1800年頃 (和釘)	大木戸-07 2
建 47	御瀧神社	大木戸	光明寺	滝沢	昭和戦後	神社	①本殿 (石造)、②幣殿、③拝殿 ①②③昭和34 (1959) 年5月竣工	大木戸-07 3
建 48	薬師石仏	大木戸	光明寺	滝沢	昭和戦後	仏堂	昭和40年～50年頃	大木戸-07 4
建 49	御瀧水神	大木戸	光明寺	滝ノ下	明治	神社	①本殿 ①1800年代後期	大木戸-07 5
建 50	福聚寺	大木戸	光明寺	沼	江戸	寺院	臨済宗 ①本堂 ①江戸末期 (和釘)	大木戸-07 6
建 51	愛宕神社	大木戸	光明寺	松穂		神社	石祠	大木戸-07 7
建 52	国見神社	大木戸	高城	国見	大正～昭和初期/ 昭和戦後/平成	神社	旧村社 ①本殿覆屋、②幣殿、③拝殿、④神輿庫、⑤収蔵庫 (石造)、⑥手水 舎 ①②昭和戦後、③1900年代前期、④平成、⑤⑥昭和戦後	大木戸-04 1
建 53	安養寺	大木戸	高城	北	江戸/昭和戦 後	寺院	①本堂、②山門、③薬師堂、④井戸屋 ①1700年代後期以前 (和釘)、②③昭和57 (1982) 年、④昭和戦後	大木戸-09 1
建 54	東大窪八幡神社	大木戸	高城	前	江戸	神社	①本殿、町指定有形文化財「東大窪八幡神社」、②本殿覆屋	
建 55	稲荷社	西大枝	川内	沖	平成	神社		大枝-06 1
建 56	巖島神社	西大枝	川内	柳原	明治/昭和初期/ 昭和戦後	神社	旧村社、養蚕安全の神 ①本殿、②本殿覆屋、③拝殿 (元茅葺) ①1800年代後半、②昭和戦後、③昭和初期	大枝-06 2
建 57	仲興寺	西大枝	川内	柳原	昭和戦後	寺院	曹洞宗 ①本堂、②護持会会館、③付属屋、④外便所 ①昭和43 (1968) 年、②③④昭和戦後	大枝-06 3
建 58	熊野神社	西大枝	西大枝	窪	大正～昭和初期/ 昭和戦後	神社	①本殿、②本殿覆屋 (石造) ①1900年代前期 (水引虹梁裏墨書)、②昭和63 (1988) 年	大枝-13 1
建 59	西松寺	西大枝	西大枝	古館	江戸/昭和戦 後/平成	寺院	曹洞宗 ①本堂、②観音堂、③大道能化地藏、④檀信徒会館法岫庵、⑤庫裡、 ⑥住宅、⑦石蔵、⑧外便所 ①昭和54 (1969) 年、②1700年代後半 (移築、文化年間 (1804-1818) 修理)、 ③④⑥平成、⑤⑦⑧昭和戦後	大枝-13 2
建 60	水雲神社	西大枝	西大枝	水雲	昭和戦後/平 成	神社	①本殿、②本殿覆屋、③幣殿、④拝殿 ①昭和戦後、②③平成、④平成15 (2003) 年 (寄付芳名録)	大枝-13 3
建 61	熊野神社	西大枝	西大枝	築館	大正～昭和初期/ 平成	神社	①本殿、②本殿覆屋 ①1900年代前期、②平成	大枝-13 4
建 62	深山神社	西大枝	西大枝	宮ノ内	江戸/昭和戦 後	神社	旧村社 ①本殿、②本殿覆屋、③拝殿 ①1800年代中期 (和釘)、②昭和戦後、 ③昭和29 (1954) 年 (芳名録、棟梁：玉手廣)	大枝-13 5
建 63	五郎市神社	森江野	塚野目	金屋	昭和初期	神社	養蚕、お産の神 ①本殿、②本殿覆屋、③幣殿、④拝殿 ①③④昭和初期、②昭和10 (1935) 年 (竣工銘板)	森江野-10 1
建 64	正法寺	森江野	塚野目	前畑	昭和戦後	寺院	真言宗 ①本堂、②経蔵 ①昭和27 (1952) 年、②昭和戦後	森江野-10 2
建 65	八幡神社	森江野	塚野目	前畑	昭和初期	神社	旧村社 戦の神、戦争中は戦勝祈願のため八幡めぐりでにぎわった ①本殿、 ②幣殿、③拝殿 ①②③昭和3 (1928) 年 (基礎銘板)	森江野-10 3
建 66	観音寺	森江野	徳江	中ノ内	江戸/大正/ 昭和初期/昭 和戦後	寺院	真言宗、①本堂、元茅葺、②山門、③地藏堂、④石蔵、⑤庫裡、⑥便所、石造、 ⑦井戸屋、⑧観音堂、⑨鐘楼 ①②昭和初期 (扁額)、③大正13 (1924) 年 (棟札)、 ④⑤⑥⑦昭和戦後、⑧享保3 (1718) 年 (棟札、大工：新田長三郎)、⑨1700 年代後半 (町史、郷土史研究会報)	森江野-11 1・3
建 67	熊野神社	森江野	徳江	熊野	昭和初期	神社	①社殿 ①昭和3 (1928) 年、扁額	森江野-11 2
建 68	薬師堂	森江野	徳江	西	昭和初期	仏堂	屋根波型鉄板の波目が大きく古い	森江野-11 4
建 69	沼田神社	森江野	徳江	沼田	江戸/平成	神社	旧村社 ①本殿、町指定有形文化財「沼田神社本殿彫刻」、②本殿覆屋、③幣殿、 ④拝殿 ①弘化年間 (1844-1848)、1800年代中期、③平成 養蚕信仰、夜風 (ねずみ) 除けの玉石の借用	森江野-11 5
建 70	雷神社	森江野	徳江	雷神前	昭和戦後	神社	①本殿、②本殿覆屋 ①未調査、②昭和戦後	森江野-11 6
建 71	賢目地藏尊	森江野	森山	上鶯町	昭和戦後	仏堂	①地藏堂 ①昭和56 (1981) 年 (芳名録、古材転用)	森江野-15 1
建 72	御霊神社	森江野	森山	下上野	昭和戦後	神社	①石祠、②石祠覆屋 (石造) ①不明、②昭和戦後	森江野-15 2
建 73	長栄寺	森江野	森山	寺前	明治/昭和戦 後/平成	寺院	曹洞宗 ①本堂、②③④石蔵、⑤庫裡 ①明治28 (1895) 年改築、②昭和54 (1984) 年 (銘板)、③昭和戦後、④昭和56 (1981) 年 (銘板)、⑤平成	森江野-15 3

整理番号	名称	所在地			時代	分類	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字				
建 74	小牛田山神社	森江野	森山	東新田	明治	神社	①本殿、②幣殿、③拝殿 ①②③ 1900年前後、明治 22 (1889) 年 5 月火災、同年 11 月上棟改築	森江野-15 4
建 75	大山祇神社	森江野	森山	東上野	昭和戦後	神社	①石祠、②石祠覆屋 ①不明、②昭和 52 (1977) 年	森江野-15 5
建 76	神明神社	森江野	森山	上野台	江戸／大正～昭和初期／昭和戦後	神社	旧村社 ①本殿、②拝殿、③宝物殿 (石造) ④愛宕神社 (元茅葺)、⑤愛宕神社鐘楼堂、⑥末社 (石造) ① 1800 年代前半、②昭和 52 (1977) 年、③昭和初期、④ 1900 年代前半、⑤昭和 44 (1969) 年、⑥昭和 39 (1964) 年	森江野-15 6

※平成 27 (2015) 年度から同 28 (2016) 年度に実施した『国見町歴史的建造物調査』の成果を基に掲載。棟 (建造物) 単位ではなく、敷地単位での整理を行い、個別建造物については備考欄に記載。
※悉皆調査において「二次調査要」として保存及び活用の見込まれる視点から抽出。石造建造物は昭和 50 年以前の国見石使用の可能性のある建造物を掲載している。

【有形文化財／建造物(民家等)】

整理番号	名称	所在地			時代	分類	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字				
建 77	個人住宅	藤田	石母田	荒町	昭和戦後	農家	①主屋、②外便所 (石造) ①昭和 30 年代、②昭和 40 年代、腰蛇腹	藤田-01 1
建 78	個人住宅	藤田	石母田	荒町	昭和戦後	農家	石蔵、昭和 40 年代、RC 臥梁、軒蛇腹	藤田-01 3
建 79	不明	藤田	石母田	上野	大正～昭和初期	町家	主屋、大正～昭和初期	藤田-01 4
建 80	法人所有建造物	藤田	石母田	上野	昭和戦後	町家	①石蔵、②石蔵 (1 階石造・2 階木造) ①②昭和 40 年代 ① RC 臥梁、機械製材 (横山型) ②機械製材 (平)	藤田-01 5
建 81	個人住宅	藤田	石母田	上野	大正～昭和初期	町家	土蔵、大正～昭和初期	藤田-01 6
建 82	法人所有建造物	藤田	石母田	上野	昭和戦後	町家	主屋・石塀、昭和 40 年代、機械製材 (横波目)	藤田-01 8
建 83	個人住宅	藤田	石母田	上台	明治	養蚕農家	①主屋 (養蚕農家、元茅葺、あづま造、気抜き)、②納屋 ①②明治時代	藤田-01 10
建 84	個人住宅	藤田	石母田	上台	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①②昭和 40 年代、② RC 臥梁、機械製材 (横波目)	藤田-01 12
建 85	個人住宅	藤田	石母田	榎下	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋・石塀 (腰石造) ①昭和 30 年代、②昭和 40 年代	藤田-01 14
建 86	個人住宅	藤田	石母田	笠松	昭和戦後	農家	①石蔵、②石蔵・石塀 ①昭和 40 年代、RC 臥梁、機械加工 (1 階：横波目、2 階：丸鋸)、②昭和 50 年代、RC 臥梁	藤田-01 15
建 87	個人住宅	藤田	石母田	笠松	明治／昭和戦後	養蚕農家	①主屋 (養蚕農家、元茅葺、あづま造)、②納屋・外便所 (腰石造)、③石蔵 ①明治時代、②昭和 30 年代、ツルメ、③昭和 50 年代、RC 臥梁、機械製材 (平)、軒蛇腹	藤田-01 16
建 88	個人住宅	藤田	石母田	笠松	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①昭和 30 年代、②昭和 50 年代、RC 柱・臥梁、機械製材 (平)	藤田-01 17
建 89	不明	藤田	石母田	笠松	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①主屋、半切妻 (元あづま造か)、②納屋 (1 階石造・2 階木造) ①大正～昭和初期、②昭和戦後	藤田-01 18
建 90	個人住宅	藤田	石母田	上ノ山	明治	農家	①②土蔵、明治時代、軒塗り込め	藤田-01 19
建 91	個人住宅	藤田	石母田	上原	昭和戦後	農家	①主屋、②外便所 (腰石造)、③納屋、④石蔵 ①④昭和 40 年代、②③昭和 30 年代、 ④ RC 臥梁、機械製材 (横山型)、胴・軒蛇腹	藤田-01 22
建 92	個人住宅	藤田	石母田	上原	昭和戦後	農家	①納屋、②外便所 (腰石造)、③石蔵 ①②昭和 30 年代、②ツルメ、腰蛇腹、③機械製材 (横山型)、胴・軒蛇腹	藤田-01 23
建 93	個人住宅	藤田	石母田	唐松	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①主屋、②土蔵、③小屋 (腰石造) ①②大正～昭和初期、③昭和 30 年代、ツルメ	藤田-01 27
建 94	不明	藤田	石母田	国見	昭和戦後	近代化遺産	小屋 (石造)、昭和 40 年代、バットレス	藤田-01 30
建 95	個人住宅	藤田	石母田	国見前	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 ①②昭和 30 年代	藤田-01 32
建 96	個人住宅	藤田	石母田	国見前	昭和戦後	農家	①主屋 (石造)、②石蔵 ①昭和 50 年代、RC 柱・臥梁、機械製材 (横山型、丸鋸)、 ②昭和 30 年代、1 階：割肌、胴・軒蛇腹	藤田-01 33
建 97	個人住宅	藤田	石母田	国見山下	昭和戦後	農家	①主屋 (石造)、②③石蔵、④納屋 ①③昭和 40 年代、②④昭和 30 年代、①機械製材 (横山型)、②ツルメ、胴・軒蛇腹、 ③ RC 柱・臥梁、機械製材 (横山型)、軒蛇腹	藤田-01 35
建 98	個人住宅	藤田	石母田	国見山下	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵、③納屋 ①②③昭和 30 年代 ② RC 臥梁、ツルメ、胴・軒蛇腹	藤田-01 36
建 99	個人住宅	藤田	石母田	駒場	昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋 ①昭和 40 年代、RC 臥梁、機械製材 (横山型)、胴・軒蛇腹、②昭和 30 年代	藤田-01 38
建 100	個人住宅	藤田	石母田	駒場	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①昭和 30 年代、②昭和 50 年代、RC 臥梁、機械製材 (平)、軒蛇腹	藤田-01 39
建 101	個人住宅	藤田	石母田	駒場	昭和戦後	農家	石蔵、昭和 40 年代、機械製材 (横山型)、軒蛇腹	藤田-01 40
建 102	個人住宅	藤田	石母田	駒場山	昭和戦後	農家	小屋 (石造)、昭和 40 年代、機械製材 (腰：横波目、上部：平、丸鋸)	藤田-01 45
建 103	個人住宅	藤田	石母田	四斗蒔	昭和戦後	農家	石蔵、昭和 40 年代、RC 臥梁、機械製材 (横波目)	藤田-01 46
建 104	法人所有建造物	藤田	石母田	下原	昭和戦後	農家	①石蔵、②石塀 ①昭和 40 年代後半 (聞き取り)、RC 臥梁、機械製材 (平、丸鋸)、 ②昭和 40 年代、機械製材 (横山型)	藤田-01 48
建 105	個人住宅	藤田	石母田	下原	昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋 ①昭和 40 年代、RC 臥梁、機械製材 (横山型)、②昭和 30 年代、胴・軒蛇腹	藤田-01 50
建 106	個人住宅	藤田	石母田	下原	明治／大正～昭和初期	養蚕農家	①主屋 (養蚕農家、半切妻 (元あづま造か)、気抜き)、②土蔵、③薬医門、④ 外便所、⑤納屋、⑥裏土蔵 (海鼠壁)、⑦裏納屋 ①～④明治時代、⑤～⑦大正～昭和初期	藤田-01 51

整理 番号	名称	所在地			時代	分類	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
建 107	個人住宅	藤田	石母田	下原	大正～昭和初期	養蚕 農家	主屋（養蚕農家、元茅葺、あづま造、気抜き）、大正～昭和初期	藤田-01 52
建 108	個人住宅	藤田	石母田	硯石	昭和戦後	農家	①主屋、②外便所（腰石造）、③石蔵 ①昭和30年代、②昭和40年代、機械製材（横波目）③昭和50年代、RC臥梁、機械製材（平）	藤田-01 53
建 109	個人住宅	藤田	石母田	芹沢	昭和戦後	農家	主屋、昭和40年代	藤田-01 54
建 110	個人住宅	藤田	石母田	芹沢	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 ①昭和30年代、②大正～昭和初期	藤田-01 55
建 111	個人住宅	藤田	石母田	台	明治	農家	土蔵、明治時代、軒葺り込め	藤田-01 56
建 112	個人住宅	藤田	石母田	台	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵（離れ） ①昭和30年代、②昭和50年代、RC臥梁、機械製材（平）	藤田-01 57
建 113	個人住宅	藤田	石母田	台	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横波目）、胴・軒蛇腹	藤田-01 58
建 114	個人住宅	藤田	石母田	館ノ内	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②土蔵 ①昭和40年代、②大正～昭和初期	藤田-01 59
建 115	個人住宅	藤田	石母田	館ノ内	昭和戦後	農家	石蔵・石塀、昭和40年代	藤田-01 60
建 116	個人住宅	藤田	石母田	築山	大正～昭和初期	農家	①主屋、②③納屋 ①②③大正～昭和初期 ②元茅葺	藤田-01 62
建 117	個人住宅	藤田	石母田	樋口	昭和戦後	農家	石蔵・石塀、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横波目）、胴・軒蛇腹	藤田-01 63
建 118	個人住宅	藤田	石母田	樋口	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横波目）、軒蛇腹	藤田-01 64
建 119	個人住宅	藤田	石母田	樋口	大正～昭和初期 昭和戦後	養蚕 農家	①主屋（養蚕農家、気抜き（震災で落下した））、②納屋 ①大正～昭和初期、②昭和40年代	藤田-01 65
建 120	個人住宅	藤田	石母田	樋口	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横波目）、胴・軒蛇腹	藤田-01 66
建 121	個人住宅	藤田	石母田	樋口	昭和戦後	農家	①石蔵・石塀、②納屋 ①昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横波目）、胴・軒蛇腹、②昭和30年代	藤田-01 67
建 122	国見町消防団	藤田	石母田	樋口	昭和戦後	近代化 遺産	石蔵、昭和30年代、RC臥梁、ツルメ、胴・軒蛇腹	藤田-01 69
建 123	収蔵庫	藤田	石母田	樋口	昭和戦後	近代化 遺産	石蔵、昭和30年代、ツルメ、軒蛇腹	藤田-01 70
建 124	農協倉庫	藤田	石母田	樋口	大正～昭和初期	近代化 遺産	石蔵、大正～昭和初期、ツルメ、胴・軒蛇腹	藤田-01 71
建 125	火の見櫓	藤田	石母田	樋口	昭和戦後	近代化 遺産	火の見櫓、昭和30年代、鉄骨造	藤田-01 72
建 126	個人住宅	藤田	石母田	中ノ内	明治／昭和戦後	養蚕 農家	①納屋（旧主屋、養蚕農家、元茅葺、あづま造）、②納屋、③石蔵 ①明治時代、②昭和30年代、機械製材（横波目）、軒蛇腹、③昭和50年代、RC臥梁、機械製材（平）、胴・軒蛇腹	藤田-01 74
建 127	個人住宅	藤田	石母田	中ノ内	大正～昭和初期	農家	納屋（元主屋）	藤田-01 75
建 128	法人所有建造物	藤田	石母田	中ノ内	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①大正～昭和初期、②昭和50年代、機械製材（平）、軒蛇腹	藤田-01 76
建 129	個人住宅	藤田	石母田	中ノ内	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵、③外便所（腰石造） ①②③昭和40年代 ②RC臥梁、機械製材（横波目）、胴・軒蛇腹、③ツルメ、腰蛇腹	藤田-01 77
建 130	個人住宅	藤田	石母田	中ノ内	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①②昭和30年代 ②RC臥梁、機械製材（横山型）、軒蛇腹	藤田-01 78
建 131	個人住宅	藤田	石母田	中ノ内	大正～昭和初期	農家	①主屋（気抜き）、②納屋 ①②大正～昭和初期	藤田-01 79
建 132	個人住宅	藤田	石母田	中ノ内	昭和戦後	農家	主屋・石塀、昭和40年代、機械製材（横山型）	藤田-01 80
建 133	個人住宅	藤田	石母田	中ノ内	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②小屋 ①昭和30年代、②大正～昭和初期	藤田-01 81
建 134	個人住宅	藤田	石母田	蛭沢	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 ①昭和40年代、②昭和30年代	藤田-01 85
建 135	個人住宅	藤田	石母田	蛭沢	明治／昭和初期 昭和戦後	農家	①土蔵、②石蔵、③外便所（腰石造）、④石蔵・石塀 ①明治時代、和釘、②昭和21（1946）年（聞き取り）、ツルメ、胴・軒蛇腹、石工は吉田氏、③昭和40年代、機械製材（横山型）、腰蛇腹、④昭和40年代、機械製材（横波目、石塀は平）	藤田-01 86
建 136	個人住宅	藤田	石母田	藤ノ町	昭和戦後	農家	石蔵・石塀、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横波目）	藤田-01 87
建 137	個人住宅	藤田	石母田	弁天沢	大正～昭和初期	農家	土蔵、大正～昭和初期	藤田-01 88
建 138	個人住宅	藤田	石母田	弁天沢	昭和戦後	農家	①主屋、②板塀、③石蔵、④納屋 ①②③④昭和30年代 ③胴・軒蛇腹	藤田-01 89
建 139	個人住宅	藤田	石母田	弁天沢	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横波目）、軒蛇腹	藤田-01 90
建 140	個人住宅	藤田	石母田	弁天沢	大正～昭和初期	養蚕 農家	主屋（養蚕農家、気抜き）、大正～昭和初期	藤田-01 94
建 141	個人住宅	藤田	石母田	弁天沢	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①大正～昭和初期、②昭和40年代、機械製材（横波目）	藤田-01 95
建 142	個人住宅	藤田	石母田	細内	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横波目）、胴・軒蛇腹	藤田-01 96
建 143	個人住宅	藤田	石母田	細内	昭和戦後	農家	主屋、昭和30年代	藤田-01 97
建 144	橋	藤田	石母田	細内	昭和戦後	近代化 遺産	線路橋梁	藤田-01 98
建 145	個人住宅	藤田	石母田	薬師堂	昭和戦後	農家	①石蔵、②車庫（石造） ①昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横波目）、軒蛇腹、②昭和50年代、機械製材（丸鋸）	藤田-01 99

整理番号	名称	所在地			時代	分類	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字				
建 146	個人住宅	藤田	石母田	山田	昭和戦後	農家	①主屋(腰石造)、②納屋 ①②昭和40年代、①機械製材(横山型)	藤田-01 102
建 147	個人住宅	藤田	石母田	山田	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	藤田-01 104
建 148	個人住宅	藤田	石母田	山田	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 ①昭和40年代、②昭和30年代	藤田-01 106
建 149	個人住宅	藤田	石母田	山田	明治/大正~昭和初期	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、気抜き)、②納屋、③外便所(腰石造)、④納屋(腰石造)、⑤納屋、⑥茅置場 ①明治時代、②③④大正~昭和初期、④⑤昭和40年代 ③ツルメ、④機械製材(横山型)	藤田-01 107
建 150	個人住宅	藤田	石母田	横町	大正~昭和初期/昭和戦後	農家	①主屋、②土蔵、③納屋・塀 ①③昭和40年代、②大正~昭和初期	藤田-01 108
建 151	個人住宅	藤田	石母田	横町	大正~昭和初期	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、半切妻・元あづま造か、気抜き)、②門・石塀、③外便所、④土蔵 ①②③④大正~昭和初期	藤田-01 109
建 152	個人住宅	藤田	石母田	横町	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋、③干場 ①②③昭和40年代	藤田-01 110
建 153	個人住宅	藤田	石母田	横町	大正~昭和初期	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、半切妻造・元あづま造か、気抜き)、②③土蔵、④外便所 ①昭和11(1936)年(聞き取り)、②大正11(1922)年(聞き取り)、③昭和5(1930)年(聞き取り)、④大正~昭和初期	藤田-01 111
建 154	個人住宅	藤田	石母田	横向	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 ①昭和40年代、②昭和30年代	藤田-01 112
建 155	個人住宅	藤田	藤田	親月台	昭和戦後	農家	主屋、昭和30年代	藤田-14 8
建 156	個人住宅	藤田	藤田	親月台	昭和戦後	町家	倉庫(石造)、昭和40年代	藤田-14 9
建 157	旧佐藤家住宅	藤田	藤田	親月台	江戸	農家	福島県重要文化財「旧佐藤家住宅」 主屋、江戸時代中期	藤田-14 10
建 158	親月台ため池2号	藤田	藤田	親月台	江戸	近代化遺産	天保年間(1830-1844)以前のかんがい用ため池	藤田-14 11
建 159	不明	藤田	藤田	親月台	昭和戦後	町家	倉庫(石造)、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横波目)、軒蛇腹	藤田-14 12
建 160	法人所有建造物	藤田	藤田	北	昭和戦後	町家	主屋、昭和30年代、看板建築	藤田-14 13
建 161	法人所有建造物	藤田	藤田	北	大正~昭和初期	町家	①主屋・洋館・裏門、②石塀 ①②大正~昭和初期 ②ツルメ	藤田-14 14
建 162	法人所有建造物	藤田	藤田	北	昭和戦後	町家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横波目)、胴・軒蛇腹	藤田-14 17
建 163	個人住宅	藤田	藤田	北	大正~昭和初期/昭和戦後	町家	①主屋、②車庫・石塀 ①大正~昭和初期、②昭和50年代、機械製材(平)	藤田-14 19
建 164	個人住宅	藤田	藤田	北	昭和戦後	町家	石蔵、昭和40年代、機械製材(横波目)、胴・軒蛇腹	藤田-14 22
建 165	奥山家住宅	藤田	藤田	北	大正	町家	①国登録有形文化財「奥山家住宅主屋」、②国登録有形文化財「奥山家住宅洋館」 ①②大正10(1921)年建築	藤田-14 23
建 166	不明	藤田	藤田	北	昭和戦後	町家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横波目)	藤田-14 24
建 167	不明	藤田	藤田	北	昭和戦後	町家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横波目)、胴・軒蛇腹	藤田-14 25
建 168	個人住宅	藤田	藤田	北沖	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、胴・軒蛇腹	藤田-14 26
建 169	個人住宅	藤田	藤田	沢田	昭和戦後	農家	倉庫(石造)、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横波目)、軒蛇腹	藤田-14 28
建 170	個人住宅	藤田	藤田	三本木	大正~昭和初期/昭和戦後	農家	①納屋、②石蔵 ①昭和30年代、②大正~昭和初期、ツルメ、胴・軒蛇腹	藤田-14 33
建 171	個人住宅	藤田	藤田	太子堂	昭和戦後	町家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材	藤田-14 35
建 172	個人住宅	藤田	藤田	太子堂	昭和戦後	町家	①主屋、②石蔵 ①②昭和40年代、②RC臥梁、機械製材(横波目)	藤田-14 36
建 173	個人住宅	藤田	藤田	太子堂	大正~昭和初期	町家	主屋、大正~昭和初期	藤田-14 38
建 174	個人住宅	藤田	藤田	太子堂	大正~昭和初期	町家	石蔵、大正~昭和初期、ツルメ	藤田-14 43
建 175	不明	藤田	藤田	太子堂	大正~昭和初期	町家	主屋、大正~昭和初期	藤田-14 44
建 176	不明	藤田	藤田	太子堂	大正~昭和初期	町家	土蔵、大正~昭和初期	藤田-14 46
建 177	個人住宅	藤田	藤田	滝川	昭和戦後	農家	①主屋、②旧石蔵(破損)、③石蔵、④旧石蔵・干場 ①②昭和30年代、③昭和40年代、RC柱・臥梁、機械製材(平)、軒蛇腹、④昭和50年代	藤田-14 48
建 178	法人所有建造物	藤田	藤田	滝川	大正~昭和初期	農家	主屋、大正~昭和初期	藤田-14 49
建 179	瀧川橋	藤田	藤田	滝川	昭和戦後	近代化遺産	RC橋梁、昭和27(1952)年竣工	藤田-14 50
建 180	法人所有建造物	藤田	藤田	堤下	昭和戦後	町家	主屋、昭和30年代	藤田-14 51
建 181	法人所有建造物	藤田	藤田	堤下	大正~昭和初期/昭和戦後	町家	①納屋、②倉庫(石造)、①大正~昭和初期、②昭和30年代、ツルメ	藤田-14 52
建 182	法人所有建造物	藤田	藤田	堤下	昭和戦後	町家	①倉庫(石造)、②干場 ①②昭和40年代、機械製材(横波目)	藤田-14 54
建 183	法人所有建造物	藤田	藤田	堤下	大正~昭和初期	町家	主屋、大正~昭和初期	藤田-14 55
建 184	個人住宅	藤田	藤田	天王畑	昭和戦後	農家	①主屋(石造)、②石蔵 ①②昭和50年代、①RC臥梁、機械製材(平)、②機械製材(平)、胴・軒蛇腹	藤田-14 62

整理 番号	名称	所在地			時代	分類	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
建 185	個人住宅	藤田	藤田	天王畑	昭和戦後	町家	主屋、昭和30年代	藤田-14 64
建 186	不明	藤田	藤田	天王畑	昭和戦後	農家	納屋（石造）、昭和30年代、ツルメ	藤田-14 65
建 187	火の見櫓	藤田	藤田	天王畑	昭和戦後	近代化 遺産	火の見櫓、昭和30年代、鉄骨造	藤田-14 68
建 188	個人住宅	藤田	藤田	中沢	大正～昭和初期	町家	主屋、大正～昭和初期	藤田-14 69
建 189	法人所有建造物	藤田	藤田	中沢	大正～昭和初期	町家	納屋、大正～昭和初期、洋小屋組	藤田-14 71
建 190	不明	藤田	藤田	中沢	昭和戦後	町家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁	藤田-14 72
建 191	個人住宅	藤田	藤田	中沢	昭和戦後	町家	主屋（石造）、昭和40年代、機械製材（横波目）	藤田-14 73
建 192	個人住宅	藤田	藤田	中沢	昭和戦後	町家	石蔵、昭和40年代、機械製材（横波目）	藤田-14 74
建 193	個人住宅	藤田	藤田	中沢	大正～昭和初期	町家	土蔵、大正～昭和初期	藤田-14 75
建 194	法人所有建造物	藤田	藤田	中沢	昭和戦後	町家	①主屋（石造）、②石蔵 ①②昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横波目）、胴・軒蛇腹	藤田-14 77
建 195	個人住宅	藤田	藤田	中沢	昭和戦後	町家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横波目）、胴・軒蛇腹	藤田-14 79
建 196	個人住宅	藤田	藤田	中沢	昭和戦後	町家	石蔵、昭和40年代、機械製材（横波目）、胴・軒蛇腹	藤田-14 81
建 197	個人住宅	藤田	藤田	中沢	昭和戦後	町家	石蔵、昭和40年代、機械製材（横波目）、軒蛇腹	藤田-14 82
建 198	個人住宅	藤田	藤田	中沢	昭和戦後	町家	物置（石造）、昭和40年代、機械製材（横波目）	藤田-14 83
建 199	法人所有建造物	藤田	藤田	中沢	昭和戦後	町家	物置（石造）、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横波目）	藤田-14 84
建 200	個人住宅	藤田	藤田	日渡	大正～昭和初期	町家	主屋、大正～昭和初期	藤田-14 88
建 201	個人住宅	藤田	藤田	日渡	昭和戦後	町家	主屋（石造）、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横波目）	藤田-14 89
建 202	個人住宅	藤田	藤田	日渡	大正～昭和初期	農家	主屋、大正～昭和初期	藤田-14 90
建 203	個人住宅	藤田	藤田	日渡	大正～昭和初期	農家	主屋、昭和30年代	藤田-14 91
建 204	個人住宅	藤田	藤田	日渡	大正～昭和初期	町家	主屋、大正～昭和初期	藤田-14 94
建 205	名称なし	藤田	藤田	日渡	昭和戦後	町家	主屋（石蔵）、RC臥梁、昭和40年代、機械製材（横波目）	藤田-14 95
建 206	法人所有建造物	藤田	藤田	藤田	昭和戦後	町家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横波目）	藤田-14 97
建 207	火の見櫓	藤田	藤田	藤田	昭和戦後	近代化 遺産	火の見櫓、昭和30年代、鉄骨造	藤田-14 99
建 208	法人所有建造物	藤田	藤田	町尻	昭和戦後	町家	主屋、昭和30年代	藤田-14 106
建 209	個人住宅	藤田	藤田	町尻	大正～昭和初期	町家	主屋、大正～昭和初期	藤田-14 107
建 210	法人所有建造物	藤田	藤田	町尻	大正～昭和初期	町家	主屋、大正～昭和初期	藤田-14 108
建 211	個人住宅	藤田	藤田	町尻	大正～昭和初期	町家	主屋、大正～昭和初期	藤田-14 109
建 212	個人住宅	藤田	藤田	南	昭和戦後	町家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横波目）	藤田-14 114
建 213	個人住宅	藤田	藤田	南	大正～昭和初期 昭和戦後	町家	①離れ座敷、②車庫（石造） ①大正～昭和初期、②昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横波目）	藤田-14 115
建 214	法人所有建造物	藤田	藤田	南	大正～昭和初期	町家	主屋、大正～昭和初期	藤田-14 116
建 215	法人所有建造物	藤田	藤田	南	昭和戦後	町家	主屋、昭和30年代、看板建築	藤田-14 117
建 216	法人所有建造物	藤田	藤田	南	大正～昭和初期	町家	主屋、大正～昭和初期、元旅館	藤田-14 118
建 217	法人所有建造物	藤田	藤田	南	大正～昭和初期	町家	蔵・塀、大正～昭和初期、蔵は新材で覆われている	藤田-14 119
建 218	法人所有建造物	藤田	藤田	南	昭和戦後	町家	①主屋、②石蔵 ①昭和30年代、看板建築、②昭和50年代、RC柱・臥梁、機械製材（平）	藤田-14 122
建 219	個人住宅	藤田	藤田	南	昭和戦後	町家	倉庫（石造）、昭和40年代、機械製材（横波目）、軒蛇腹	藤田-14 125
建 220	法人所有建造物	藤田	藤田	南	昭和戦後	町家	主屋、昭和40年代、看板建築	藤田-14 126
建 221	法人所有建造物	藤田	藤田	南	大正～昭和初期	町家	土蔵、大正～昭和初期	藤田-14 127
建 222	法人所有建造物	藤田	藤田	南	大正～昭和初期	町家	主屋、大正～昭和初期、看板建築	藤田-14 128
建 223	法人所有建造物	藤田	藤田	南	昭和戦後	町家	主屋、昭和30年代、看板建築	藤田-14 129
建 224	法人所有建造物	藤田	藤田	南	昭和戦後	町家	主屋、昭和30年代、看板建築	藤田-14 130
建 225	個人住宅	藤田	藤田	南	昭和戦後	町家	主屋、昭和30年代	藤田-14 131

整理番号	名称	所在地			時代	分類	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字				
建 226	法人所有建造物	藤田	藤田	南	昭和戦後	町家	車庫（石造）、昭和40年代、機械製材（横波目）	藤田-14 132
建 227	個人住宅	藤田	藤田	南	大正～昭和初期	町家	主屋、大正～昭和初期、看板建築	藤田-14 133
建 228	不明	藤田	藤田	南	昭和戦後	町家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横波目）、胴・軒蛇腹	藤田-14 135
建 229	法人所有建造物	藤田	藤田	南	大正～昭和初期	町家	石蔵、大正～昭和初期、ツルメ、軒蛇腹	藤田-14 139
建 230	法人所有建造物	藤田	藤田	南	大正～昭和初期	町家	主屋、大正～昭和初期、洋風建築、元写真館	藤田-14 140
建 231	不明	藤田	藤田	南	大正～昭和初期	町家	主屋、大正～昭和初期	藤田-14 141
建 232	不明	藤田	藤田	南	大正～昭和初期	町家	主屋、大正～昭和初期	藤田-14 143
建 233	不明	藤田	藤田	南	大正～昭和初期	町家	石蔵、大正～昭和初期、ツルメ、軒蛇腹	藤田-14 144
建 234	個人住宅	藤田	藤田	南沖	大正～昭和初期	農家	石蔵、大正～昭和初期、ツルメ、胴・軒蛇腹	藤田-14 146
建 235	個人住宅	藤田	山崎	荒沢	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①②昭和40年代、機械製材（横波目）、②RC臥梁、機械製材（横波目）、胴・軒蛇腹	藤田-16 2
建 236	荒沢橋	藤田	山崎	荒沢	昭和戦後	近代化遺産	RC橋梁、昭和40年代	藤田-16 3
建 237	不明	藤田	山崎	一町田	大正～昭和初期	町家	主屋、大正～昭和初期	藤田-16 5
建 238	個人住宅	藤田	山崎	後柳	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①土蔵、②③納屋、④納屋（石造）、⑤石塀 ①大正～昭和初期、②昭和30年代、③④昭和40年代、⑤昭和50年代	藤田-16 6
建 239	滝川サイフォン	藤田	山崎	江下	昭和戦後	近代化遺産	自然河川と用水路の立体交差、サイフォン、昭和40年代	藤田-16 7
建 240	個人住宅	藤田	山崎	上川前	大正～昭和初期／昭和戦後	養蚕農家	①主屋（養蚕農家、元茅葺、気抜き）、②土蔵、③石蔵 ①②大正～昭和初期、③昭和40年代	藤田-16 8
建 241	個人住宅	藤田	山崎	上川前	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横波目）、軒蛇腹	藤田-16 9
建 242	個人住宅	藤田	山崎	上川前	昭和戦後	農家	①主屋、②③納屋、④薪小屋 ①④昭和30年代、②③昭和40年代	藤田-16 10
建 243	不明	藤田	山崎	北古館	昭和戦後	近代化遺産	小屋（石造）、RC臥梁、昭和40年代、機械製材（横波目）	藤田-16 13
建 244	個人住宅	藤田	山崎	北町田	昭和戦後	農家	主屋（腰石造）、昭和30年代、ツルメ	藤田-16 14
建 245	藤田駅跨線橋	藤田	山崎	北町田	昭和戦後	近代化遺産	跨線橋、昭和38（1960）年竣工	藤田-16 15
建 246	個人住宅	藤田	山崎	北町田	明治	農家	主屋、明治時代、外大壁、破損	藤田-16 16
建 247	橋	藤田	山崎	北町田	昭和戦後	近代化遺産	RC橋梁、昭和40年代、欄干残存	藤田-16 18
建 248	個人住宅	藤田	山崎	熊野前	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横波目）	藤田-16 19
建 249	個人住宅	藤田	山崎	熊野前	昭和戦後	農家	主屋、昭和40年代	藤田-16 20
建 250	個人住宅	藤田	山崎	熊野前	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①主屋、②納屋（下屋石造） ①大正～昭和初期、②昭和30年代、ツルメ	藤田-16 21
建 251	個人住宅	藤田	山崎	小館	昭和戦後	農家	①主屋（石造）、②石蔵 ①昭和50年代、RC柱・臥梁、機械製材（平）②昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横山型）	藤田-16 25
建 252	個人住宅	藤田	山崎	小館	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①昭和30年代、②昭和40年代、RC臥梁、胴・軒蛇腹	藤田-16 26
建 253	個人住宅	藤田	山崎	小館脇	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横波目）、軒蛇腹	藤田-16 27
建 254	個人住宅	藤田	山崎	小林	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、機械製材（横波目）、胴・軒蛇腹	藤田-16 29
建 255	個人住宅	藤田	山崎	下川前	明治／昭和戦後	農家	①土蔵、②納屋 ①明治時代、②昭和30年代	藤田-16 31
建 256	個人住宅	藤田	山崎	下川前	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①石蔵、②干場、③小屋（石造） ①②昭和50年代、①RC臥梁、機械製材、胴・軒蛇腹、③大正～昭和初期、ツルメ	藤田-16 32
建 257	個人住宅	藤田	山崎	沢田	大正～昭和初期	養蚕農家	主屋（養蚕農家、気抜き）、大正～昭和初期	藤田-16 34
建 258	個人住宅	藤田	山崎	水門	大正～昭和初期	養蚕農家	主屋（養蚕農家、元茅葺、あづま造、気抜き）、大正～昭和初期	藤田-16 36
建 259	個人住宅	藤田	山崎	水門	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①主屋、②③④納屋、⑤外便所 ①③⑤大正～昭和初期、②④昭和40年代	藤田-16 37
建 260	個人住宅	藤田	山崎	水門	明治／大正～昭和初期	農家	①主屋、②土蔵、③納屋 ①③大正～昭和初期、②明治時代	藤田-16 39
建 261	個人住宅	藤田	山崎	水門	大正～昭和初期	養蚕農家	①主屋（養蚕農家、気抜き）、②納屋 ①②大正～昭和初期	藤田-16 40
建 262	個人住宅	藤田	山崎	水門	明治／昭和戦後	農家	①主屋、②土蔵、③干場 ①昭和30年代、②明治時代、③昭和40年代	藤田-16 41
建 263	法人所有建造物	藤田	山崎	水門	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①主屋（元あづま造）、②外便所 ①大正～昭和初期、②昭和30年代	藤田-16 43
建 264	法人所有建造物	藤田	山崎	太子堂	大正～昭和初期	町家	①主屋、②門、③土蔵 ①②③大正～昭和初期	藤田-16 46
建 265	個人住宅	藤田	山崎	太子堂	大正～昭和初期／昭和戦後	町家	①石蔵、②納屋 ①大正～昭和初期、ツルメ、胴・軒蛇腹、②昭和30年代	藤田-16 47
建 266	個人住宅	藤田	山崎	太子堂	大正～昭和初期	町家	主屋、大正～昭和初期	藤田-16 51

整理 番号	名称	所在地			時代	分類	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
建 267	個人住宅	藤田	山崎	太子堂	昭和戦前	町家	①主屋、②門・塀 ①昭和10(1935)年(聞き取り)、②昭和30年代	藤田-16 52
建 268	法人所有建造物	藤田	山崎	太子堂	大正～昭和初期	町家	①主屋、②離れ座敷 ①②大正～昭和初期	藤田-16 54
建 269	名称なし	藤田	山崎	太子堂	大正～昭和初期	町家	主屋、大正～昭和初期	藤田-16 56
建 270	名称なし	藤田	山崎	太子堂	昭和戦後	町家	主屋、昭和30年代	藤田-16 57
建 271	法人所有建造物	藤田	山崎	滝山	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横波目)、胴・軒蛇腹	藤田-16 60
建 272	個人住宅	藤田	山崎	館	明治	養蚕農家	主屋(養蚕農家、元茅葺、あづま造、気抜き)、明治時代	藤田-16 62
建 273	個人住宅	藤田	山崎	館	明治	農家	土蔵、明治時代	藤田-16 64
建 274	個人住宅	藤田	山崎	館	昭和戦後	農家	主屋、昭和30年代	藤田-16 65
建 275	個人住宅	藤田	山崎	館	昭和戦後	農家	石蔵、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	藤田-16 66
建 276	山崎公民館	藤田	山崎	館東	昭和戦後	その他	集会所、昭和30年代	藤田-16 68
建 277	個人住宅	藤田	山崎	館東	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①昭和30年代、②昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横波目)、胴・軒蛇腹	藤田-16 69
建 278	火の見櫓	藤田	山崎	館東	昭和戦後	近代化遺産	火の見櫓、昭和30年代、鉄骨造	藤田-16 71
建 279	個人住宅	藤田	山崎	中川前	大正～昭和初期/昭和戦後	農家	①納屋(元茅葺)、②離れ、③外便所、④石蔵 ①大正～昭和初期、②昭和30年代、③④昭和40年代	藤田-16 72
建 280	個人住宅	藤田	山崎	中川前	明治/昭和戦後	農家	①②土蔵、③小屋(石造) ①②明治時代、②昭和40年代	藤田-16 73
建 281	個人住宅	藤田	山崎	中川前	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	藤田-16 74
建 282	法人所有建造物	藤田	山崎	東滝山	昭和戦後	町家	①主屋、②石蔵、③石塀、④車庫 ①②昭和30年代、③④昭和40年代	藤田-16 77
建 283	個人住宅	藤田	山崎	火渡	昭和戦後	農家	蔵・石塀、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横波目)	藤田-16 80
建 284	個人住宅	藤田	山崎	火渡	大正～昭和初期	養蚕農家	主屋(養蚕農家、あづま造、気抜き)、大正～昭和初期	藤田-16 81
建 285	個人住宅	藤田	山崎	深町	大正～昭和初期	農家	主屋、大正～昭和初期	藤田-16 82
建 286	不明	藤田	山崎	深町	大正～昭和初期	農家	主屋、大正～昭和初期	藤田-16 84
建 287	個人住宅	藤田	山崎	山畑	昭和戦後	農家	主屋、昭和30年代	藤田-16 87
建 288	個人住宅	小坂	泉田	足洗	大正～昭和初期/昭和戦後	養蚕農家	①旧主屋(養蚕農家、気抜き)、②石蔵、③納屋、④木小屋 ①昭和27(1952)～28(1953)年(聞き取り)、②昭和50年頃、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹、③昭和30年代、④大正～昭和初期、外大壁	小坂-02 1
建 289	個人住宅	小坂	泉田	石田後	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横鋸目)、胴・軒蛇腹	小坂-02 3
建 290	火の見櫓	小坂	泉田	石渡	昭和戦後	近代化遺産	火の見櫓、昭和30年代、鉄骨造	小坂-02 6
建 291	個人住宅	小坂	泉田	川北	明治/昭和戦後	農家	①②土蔵、③納屋(石造) ①明治時代、和釘、②明治時代、スレート葺、和釘、③昭和50年代、RC柱・臥梁、機械製材(平)	小坂-02 7
建 292	個人住宅	小坂	泉田	川北	明治	農家	土蔵、明治時代、和釘、以前はスレート葺(聞き取り)	小坂-02 10
建 293	個人住宅	小坂	泉田	川北	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①昭和40(1965)年(課税台帳)、②昭和35(1960)年(課税台帳)、ツルメ、胴・軒蛇腹	小坂-02 11
建 294	個人住宅	小坂	泉田	川南	昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋、③納屋(腰石造) ①昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹、②昭和40年代、③昭和30年代、機械製材(横山型)	小坂-02 15
建 295	個人住宅	小坂	泉田	川南	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	小坂-02 16
建 296	個人住宅	小坂	泉田	川南	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋(石造) ①昭和30年代、②昭和40年代、機械製材(平)	小坂-02 18
建 297	個人住宅	小坂	泉田	川南	明治	農家	土蔵、明治40(1907)年(課税台帳)	小坂-02 19
建 298	不明	小坂	泉田	川南	昭和戦後	農家	主屋、昭和30年代	小坂-02 20
建 299	個人住宅	小坂	泉田	北ノ内	大正～昭和初期	農家	土蔵、昭和13(1938)年(課税台帳)、蔵前石造、機械製材(平)	小坂-02 21
建 300	個人住宅	小坂	泉田	北ノ内	昭和戦後	農家	①②石蔵 ①昭和50年代、RC柱・臥梁、機械製材(横山型)、②昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	小坂-02 22
建 301	個人住宅	小坂	泉田	畔田	昭和戦後	農家	①石蔵、②外便所(石造) ①昭和42(1967)年(聞き取り)、RC臥梁、機械製材(横波目)、胴・軒蛇腹、②昭和50年代、機械製材(平)	小坂-02 24
建 302	個人住宅	小坂	泉田	畔田	大正～昭和初期	農家	①主屋、②土蔵 ①昭和40(1965)年(課税台帳)、②昭和8(1933)年(課税台帳)	小坂-02 25
建 303	個人住宅	小坂	泉田	畔田前	昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋、③小屋 ①昭和56(1981)年(聞き取り)、RC柱・臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹、②③昭和50年代、RC臥梁、機械製材(横山型)	小坂-02 26
建 304	個人住宅	小坂	泉田	源女	大正～昭和初期/昭和戦後	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、元茅葺、元あづま造、福島県の近代和風建築掲載)、②納屋、③風呂・便所 ①昭和4(1929)年(課税台帳)、③大正～昭和初期、②昭和40年代、RC臥梁、機械製材(平)	小坂-02 28
建 305	個人住宅	小坂	泉田	沢端	昭和戦後	農家	石蔵、昭和42(1967)年(聞き取り)、RC臥梁、機械製材(横鋸目)、軒蛇腹	小坂-02 30

整理 番号	名称	所在地			時代	分類	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
建 306	個人住宅	小坂	泉田	新田	明治／大正～昭和初期	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、元茅葺、あづま造)、②納屋(元茅葺) ①明治23(1890)年(課税台帳)、②大正～昭和初期、洋釘	小坂-02 32
建 307	個人住宅	小坂	泉田	新田	大正	農家	土蔵、大正11(1922)年(課税台帳)	小坂-02 33
建 308	個人住宅	小坂	泉田	新田	明治／昭和戦後	農家	①土蔵、②石蔵 ①明治時代、洋釘、②昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、 胴・軒蛇腹	小坂-02 34
建 309	個人住宅	小坂	泉田	平林	昭和戦後	農家	主屋、昭和30年代	小坂-02 35
建 310	個人住宅	小坂	泉田	平林	昭和戦後	農家	主屋、昭和30年代	小坂-02 36
建 311	個人住宅	小坂	泉田	平林	昭和戦後	農家	主屋、昭和40年代	小坂-02 38
建 312	不明	小坂	泉田	塚田	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(平)	小坂-02 42
建 313	泉田上公民館	小坂	泉田	堤尻	昭和戦後	その他	公民館、昭和30年代	小坂-02 43
建 314	個人住宅	小坂	泉田	堤尻	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①昭和30年代、②昭和40年代、RC臥梁、機械製材(平)、軒蛇腹	小坂-02 44
建 315	不明	小坂	泉田	堤尻	明治	養蚕農家	主屋(養蚕農家、元茅葺、あづま造、気抜き)、明治時代	小坂-02 46
建 316	個人住宅	小坂	泉田	寺ノ前	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(平)	小坂-02 50
建 317	個人住宅	小坂	泉田	寺ノ前	昭和戦後	農家	石蔵、昭和50年代、RC臥梁、機械製材(平)	小坂-02 51
建 318	個人住宅	小坂	泉田	寺ノ前	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋(1階石造・2階木造)、③小屋 ①昭和40年代、②昭和50年代、RC柱・臥梁、機械製材(横山型)、③昭和40年代、機械製材(横山型)	小坂-02 53
建 319	個人住宅	小坂	泉田	馬場	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 ①②昭和30年代	小坂-02 55
建 320	個人住宅	小坂	泉田	馬場	昭和戦後	農家	石蔵、RC臥梁、機械製材(平)	小坂-02 57
建 321	個人住宅	小坂	泉田	馬場	昭和戦後	農家	主屋、昭和30年代	小坂-02 59
建 322	個人住宅	小坂	泉田	普蔵	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横波目)、軒蛇腹	小坂-02 61
建 323	個人住宅	小坂	泉田	普蔵	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①納屋(1階石造・2階木造)、②碓蔵 ①昭和40年代、機械製材(横山型)、②大正～昭和初期	小坂-02 62
建 324	個人住宅	小坂	泉田	普蔵	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	小坂-02 64
建 325	個人住宅	小坂	泉田	普蔵	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(平)	小坂-02 66
建 326	個人住宅	小坂	泉田	普蔵	昭和初期	農家	納屋、昭和6(1931)年(課税台帳)	小坂-02 68
建 327	個人住宅	小坂	泉田	八島	昭和戦後	農家	①主屋(一階石造)、②石蔵 ①②昭和50年代(聞き取り) ①機械製材(平)、 ②RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	小坂-02 70
建 328	個人住宅	小坂	泉田	八島	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	小坂-02 72
建 329	個人住宅	小坂	内谷	桐木目	明治時代	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、元茅葺、あづま造、気抜き)、②納屋、③納屋(元茅葺)、 ①明治時代、②昭和30年代、③明治時代	小坂-03 2
建 330	個人住宅	小坂	内谷	西堂	明治	農家	土蔵、明治30(1897)年(課税台帳)	小坂-03 4
建 331	個人住宅	小坂	内谷	西堂	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①便所・小屋(元茅葺)、②小屋 ①大正～昭和初期、②昭和30年代、外大壁	小坂-03 5
建 332	個人住宅	小坂	内谷	西堂	明治	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、元茅葺、気抜き)、②土蔵 ①②明治元(1868)年(聞き取り)、②和釘	小坂-03 6
建 333	JAふくしま未来小坂支店	小坂	内谷	西堂	大正～昭和初期／昭和戦後	近代化遺産	①国登録有形文化財「旧小坂村産業組合石蔵」、②石蔵、③④倉庫 ①昭和16(1941)年、ツルメ、軒蛇腹、ハットレス、②昭和30年代、RC臥梁、 機械製材(横波目)、③④昭和30年代	小坂-03 7
建 334	不明	小坂	内谷	清上	明治	養蚕農家	主屋(養蚕農家、気抜き)、明治時代	小坂-03 9
建 335	個人住宅	小坂	内谷	清上	大正～昭和初期	農家	主屋、大正～昭和初期	小坂-03 10
建 336	個人住宅	小坂	内谷	清上	大正～昭和初期	農家	①主屋(気抜き)、②風呂・便所 ①昭和初期(聞き取り)、②大正～昭和初期	小坂-03 11
建 337	個人住宅	小坂	内谷	館	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①茅小屋(腰折屋根)、②③納屋(腰石造) ①大正～昭和初期、②昭和40年代、 機械製材(平)、③昭和30年代、機械製材(横山型)	小坂-03 13
建 338	火の見櫓	小坂	内谷	館	昭和戦後	近代化遺産	火の見櫓、昭和40年代、鉄骨造	小坂-03 15
建 339	個人住宅	小坂	内谷	館脇	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①納屋(1階石造・2階木造)、②離れ座敷(元茅葺) ①昭和30年代、機械製材(横山型)、②大正～昭和初期	小坂-03 17
建 340	個人住宅	小坂	内谷	館脇	昭和戦後	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、気抜き)、②納屋 ①昭和30年代、下手改造、②昭和30年代	小坂-03 18
建 341	個人住宅	小坂	内谷	館脇	大正～昭和初期／昭和戦後	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、気抜き)、②納屋 ①大正～昭和初期、②昭和30年代	小坂-03 19
建 342	個人住宅	小坂	内谷	館脇	大正～昭和初期	農家	①主屋(気抜き)、②納屋 ①②大正～昭和初期	小坂-03 20
建 343	個人住宅	小坂	内谷	西	明治／大正～昭和初期／昭和戦後	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、気抜き)、②土蔵、③納屋、④木小屋 ①明治時代(聞き取り)、②明治時代、③昭和30年代、④大正～昭和初期	小坂-03 23
建 344	個人住宅	小坂	内谷	西	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横波目)	小坂-03 25
建 345	個人住宅	小坂	内谷	西	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋(1階石造・2階木造)、③納屋 ①昭和30年代、②昭和50年代、RC柱・臥梁、 機械製材(横山型)、③昭和30年代	小坂-03 27

整理 番号	名称	所在地			時代	分類	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
建 346	個人住宅	小坂	内谷	西	明治／大正～昭和初期	養蚕農家	①主屋（養蚕農家、気抜き）、②納屋、③土蔵 ①②大正～昭和初期、③明治時代	小坂-03 28
建 347	個人住宅	小坂	内谷	西前	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①土蔵、②納屋 ①昭和30年代、RC臥梁、機械製材（横鋸目）、胴・軒蛇腹、 ②大正～昭和初期	小坂-03 31
建 348	個人住宅	小坂	内谷	西脇	昭和戦後	農家	土蔵、昭和30年代、RC臥梁、機械製材（横山型）、胴・軒蛇腹	小坂-03 32
建 349	個人住宅	小坂	内谷	西脇	昭和戦後	農家	主屋、昭和30年代	小坂-03 35
建 350	個人住宅	小坂	内谷	西脇	明治	農家	納屋（元茅葺）、明治時代	小坂-03 37
建 351	個人住宅	小坂	内谷	西脇	昭和戦後	農家	土蔵、昭和30年代、RC臥梁、機械製材（横鋸目）、軒蛇腹	小坂-03 38
建 352	個人住宅	小坂	内谷	西脇	昭和戦後	農家	土蔵、昭和30年代、RC臥梁、機械製材（横鋸目）、軒蛇腹	小坂-03 40
建 353	個人住宅	小坂	内谷	西脇	明治／大正～昭和初期	養蚕農家	①旧主屋（養蚕農家、元茅葺）、②便所 ①明治時代、②大正～昭和初期	小坂-03 42
建 354	火の見櫓	小坂	内谷	西脇	昭和戦後	近代化遺産	火の見櫓、昭和40年代、鉄骨造	小坂-03 43
建 355	個人住宅	小坂	内谷	東	明治／大正～昭和初期／昭和戦後	養蚕農家	①主屋（養蚕農家、元茅葺、あづま造、気抜き）、②納屋、③木小屋（元茅葺）、 ④旧家畜小屋（元茅葺） ①明治時代、②昭和30年代、③大正～昭和初期、洋釘、④大正～昭和初期（馬 柱棒痕跡）	小坂-03 46
建 356	内谷東公民館	小坂	内谷	東	昭和戦後	その他	公民館、昭和40年代	小坂-03 48
建 357	個人住宅	小坂	内谷	東	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 ①昭和40年代、②昭和30年代	小坂-03 49
建 358	個人住宅	小坂	内谷	東	大正～昭和初期	養蚕農家	①主屋（養蚕農家、気抜き）、②土蔵 ①②大正～昭和初期	小坂-03 50
建 359	不明	小坂	内谷	東	昭和戦後	農家	土蔵、昭和30年代、RC臥梁、機械製材（横山型）、軒蛇腹	小坂-03 51
建 360	個人住宅	小坂	内谷	東前	大正～昭和初期	農家	①主屋、②土蔵 ①大正～昭和初期	小坂-03 52
建 361	個人住宅	小坂	内谷	東脇	明治／大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①主屋、②土蔵（海鼠壁）、③納屋 ①大正～昭和初期、②明治時代、③昭和30年代	小坂-03 53
建 362	個人住宅	小坂	内谷	東脇	昭和戦後	農家	土蔵、昭和40年代、機械製材（平）	小坂-03 54
建 363	個人住宅	小坂	内谷	三ツ森	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 ①昭和40年代（聞き取り）、②昭和30年代	小坂-03 56
建 364	個人住宅	小坂	内谷	矢木沢	大正～昭和初期	農家	主屋、大正～昭和初期	小坂-03 58
建 365	個人住宅	小坂	内谷	矢木沢	明治／昭和戦後	養蚕農家	①主屋（養蚕農家、元茅葺、あづま造）、②納屋 ①昭和初期（聞き取り）、②昭和30年代	小坂-03 59
建 366	個人住宅	小坂	小坂	北窪	昭和戦後	町家	主屋（石造）、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横波目）	藤田-08 2
建 367	個人住宅	小坂	小坂	北窪	昭和戦後	町家	土蔵、昭和40年代、機械製材（平）、軒蛇腹	藤田-08 3
建 368	個人住宅	小坂	小坂	北窪	明治	農家	小屋（元茅葺、あづま造）、明治時代、明治36（1903）年生の祖母が嫁いだ時に 既にあった（聞き取り）	藤田-08 4
建 369	個人住宅	小坂	小坂	板橋	明治	農家	土蔵、明治時代、和釘	小坂-08 1
建 370	個人住宅	小坂	小坂	板橋	明治／大正～昭和初期	農家	①土蔵、②土蔵、③門 ①明治時代、和釘、元海鼠壁、3代前が建築（聞き取り）、 ②③大正～昭和初期	小坂-08 2
建 371	個人住宅	小坂	小坂	カニ坂	大正～昭和初期	養蚕農家	主屋（養蚕農家、元茅葺、あづま造、気抜き）、大正～昭和初期	小坂-08 4
建 372	個人住宅	小坂	小坂	カニ坂	昭和戦後	農家	土蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（平）	小坂-08 5
建 373	個人住宅	小坂	小坂	カニ坂	昭和戦後	農家	土蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（平）、軒蛇腹	小坂-08 9
建 374	個人住宅	小坂	小坂	川原	昭和戦後	農家	①②土蔵、③外便所（腰石造） ①②昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横山型） ①軒蛇腹、③昭和30年代、機械製材（横鋸目）、腰蛇腹	小坂-08 10
建 375	個人住宅	小坂	小坂	川原	昭和戦後	農家	①主屋、②土蔵 ①昭和40年代、②昭和40年代、RC臥梁、機械製材（平）	小坂-08 11
建 376	火の見櫓	小坂	小坂	川原	昭和戦後	近代化遺産	火の見櫓、昭和40年代、鉄骨造	小坂-08 12
建 377	個人住宅	小坂	小坂	北窪	昭和戦後	農家	土蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（平）、施工：蓬田石材店	小坂-08 13
建 378	個人住宅	小坂	小坂	北畠	昭和戦後	農家	①主屋、②土蔵 ①昭和40年代、②昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横山型）	小坂-08 14
建 379	個人住宅	小坂	小坂	北畠	昭和戦後	農家	土蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（平）	小坂-08 15
建 380	個人住宅	小坂	小坂	北畠	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 ①昭和40年代、②昭和30年代	小坂-08 16
建 381	個人住宅	小坂	小坂	北畠	昭和戦後	農家	①主屋、②土蔵 ①昭和40年代、②昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横山型）、軒蛇腹	小坂-08 17
建 382	個人住宅	小坂	小坂	北畠	昭和戦後	農家	土蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横山型）、胴・軒蛇腹	小坂-08 19
建 383	個人住宅	小坂	小坂	北畠	昭和戦後	農家	土蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横山型）、胴・軒蛇腹	小坂-08 21
建 384	法人所有建造物	小坂	小坂	北町裏	昭和戦後	農家	主屋、昭和40年代	小坂-08 22
建 385	個人住宅	小坂	小坂	木八丁	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①主屋（石造）、②土蔵 ①昭和50年代（聞き取り）、RC臥梁、機械製材（平）、 ②大正～昭和初期、機械製材（横山型）、胴・軒蛇腹	小坂-08 23

整理 番号	名称	所在地			時代	分類	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
建 386	個人住宅	小坂	小坂	小坂	大正～昭和初期	農家	①主屋、②③土蔵、④味噌蔵 ①②④大正～昭和初期、①昭和3(1928)年(聞き取り)、海鼠壁、垂木塗り込め	小坂-08 25
建 387	個人住宅	小坂	小坂	小坂	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(平)	小坂-08 26
建 388	個人住宅	小坂	小坂	小坂	明治	農家	土蔵、明治時代初期(聞き取り)、和釘	小坂-08 28
建 389	個人住宅	小坂	小坂	小坂	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(平)	小坂-08 30
建 390	個人住宅	小坂	小坂	小坂	明治/昭和初期	農家	①主屋、②土蔵 ①昭和15(1940)年、②明治時代	小坂-08 31
建 391	個人住宅	小坂	小坂	小坂	昭和戦後	農家	主屋(石造)、昭和40年代、機械製材(平)	小坂-08 32
建 392	個人住宅	小坂	小坂	小坂	明治/大正～昭和初期	農家	①門(薬医門)、②土蔵(海鼠壁)、③土蔵 ①②大正～昭和初期、③明治時代、和釘	小坂-08 34
建 393	個人住宅	小坂	小坂	小坂	昭和戦後	農家	主屋、昭和30年代、隅木(元茅葺か)	小坂-08 35
建 394	個人住宅	小坂	小坂	小坂	大正～昭和初期/昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①大正～昭和初期、②昭和50年代、RC柱・臥梁、機械製材(横山型)、軒蛇腹	小坂-08 36
建 395	個人住宅	小坂	小坂	小坂	明治/昭和戦後	農家	①②土蔵、③石蔵 ①②明治時代、和釘、③昭和40年代、RC臥梁、機械製材(平)	小坂-08 37
建 396	個人住宅	小坂	小坂	小坂	昭和戦後	農家	納屋、昭和38(1963)年・古材転用(聞き取り)	小坂-08 38
建 397	個人住宅	小坂	小坂	小坂	大正～昭和初期	農家	①主屋、②土蔵 ①②大正～昭和初期、海鼠壁	小坂-08 39
建 398	個人住宅	小坂	小坂	小坂	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(平)、軒蛇腹	小坂-08 40
建 399	個人住宅	小坂	小坂	小坂	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①昭和42(1967)年(聞き取り)、②昭和30年代、機械製材(横山型)	小坂-08 41
建 400	法人所有建造物	小坂	小坂	笹ノ口	昭和戦後	近代化遺産	工場、昭和30年代	小坂-08 44
建 401	不明	小坂	小坂	西町裏	明治/昭和戦後	農家	①主屋(元茅葺、気抜き)、②納屋 ①明治時代、和釘、外大壁、②昭和30年代	小坂-08 47
建 402	個人住宅	小坂	小坂	前	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)	小坂-08 48
建 403	個人住宅	小坂	小坂	前	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋(1階石造・2階木造)、③小屋(腰石造) ①②③昭和40年代、②RC臥梁、機械製材(平)、③機械製材(平)	小坂-08 49
建 404	個人住宅	小坂	小坂	町田	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(平)	小坂-08 50
建 405	個人住宅	小坂	小坂	宮五郎内	明治/大正～昭和初期	農家	①石蔵、②土蔵、③初蔵 ①昭和50年代、RC柱・臥梁、機械製材(平)、②明治10(1877)年(課税台帳)、和釘、③大正～昭和初期、手挽鋸	小坂-08 52
建 406	個人住宅	小坂	小坂	宮五郎内	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵、③納屋(腰石造) ①②③昭和40年代、②RC臥梁、機械製材(平)、軒蛇腹、③機械製材(横山型)、小坂から古材転用(聞き取り)	小坂-08 54
建 407	個人住宅	小坂	小坂	宮五郎内	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)	小坂-08 55
建 408	個人住宅	小坂	小坂	宮五郎内	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、機械製材(平)	小坂-08 56
建 409	個人住宅	小坂	鳥取	苅茨沢	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代(聞き取り)、機械製材(横鋸目)、胴・軒蛇腹	小坂-12 1
建 410	個人住宅	小坂	鳥取	宿ノ淀	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)	小坂-12 4
建 411	不明	小坂	鳥取	堰下	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 ①②昭和30年代	小坂-12 6
建 412	不明	小坂	鳥取	堰下	昭和戦後	農家	主屋、昭和30年代	小坂-12 10
建 413	不明	小坂	鳥取	大門	大正～昭和初期	農家	納屋(旧主屋)、大正～昭和初期	小坂-12 11
建 414	個人住宅	小坂	鳥取	大門	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	小坂-12 13
建 415	個人住宅	小坂	鳥取	大門	昭和戦後	農家	納屋、昭和40年代中期にはあった(聞き取り)	小坂-12 14
建 416	個人住宅	小坂	鳥取	高瀬	明治/昭和戦後	農家	①主屋(元茅葺、気抜き)、②納屋 ①明治時代、②昭和40年代	小坂-12 15
建 417	個人住宅	小坂	鳥取	高瀬	明治/大正～昭和初期	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、元茅葺、あづま造、気抜き)、②便所 ①明治時代、②大正～昭和初期	小坂-12 16
建 418	個人住宅	小坂	鳥取	高瀬前	大正～昭和初期/昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①大正～昭和初期、②昭和40年代、RC臥梁、機械製材(平)、胴・軒蛇腹	小坂-12 17
建 419	個人住宅	小坂	鳥取	高瀬前道下	昭和戦後	農家	主屋(石造)、昭和40年代、機械製材(横波目)	小坂-12 18
建 420	火の見櫓	小坂	鳥取	鳥取	昭和戦後	近代化遺産	火の見櫓、昭和40年代、鉄骨造	小坂-12 19
建 421	個人住宅	小坂	鳥取	中ノ町	昭和戦後	農家	主屋、昭和30年代、昭和30年代前半に建築(聞き取り)	小坂-12 22
建 422	個人住宅	小坂	鳥取	沼田下	昭和戦後	農家	主屋、昭和40年代	小坂-12 24
建 423	個人住宅	小坂	鳥取	沼田下	明治/大正～昭和初期/昭和戦後	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、元茅葺、あづま造、気抜き)、②石蔵、③外便所(石造) ①明治時代、②大正～昭和初期、ツルメ、軒蛇腹、③昭和30年代、機械製材(横鋸目)	小坂-12 25
建 424	個人住宅	小坂	鳥取	深田	昭和初期/昭和戦後	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、あづま造、気抜き)、②石蔵・牛舎、③石蔵、④牛舎、⑤堆肥小屋 ①昭和17(1942)年(聞き取り)、②昭和40年代、③④⑤昭和30年代、②機械製材(平)、③機械製材(横山型)、⑤機械製材(横山型)	小坂-12 26

整理 番号	名称	所在地			時代	分類	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
建 425	個人住宅	小坂	鳥取	山田	大正～昭和初期 昭和戦後	養蚕 農家	①主屋(養蚕農家、気抜き)、②納屋(石蔵併設)、③納屋、④石蔵、⑤小屋(石造) ①②大正～昭和初期、③⑤大正～昭和初期、④昭和50年代、②ツルメ、④RC臥梁、 機械製材(平)、軒蛇腹、⑤機械製材(横山型)	小坂-12 28
建 426	個人住宅	小坂	鳥取	山田	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(平)	小坂-12 30
建 427	個人住宅	大木戸	大木戸	赤穂	昭和戦後	農家	①納屋(1階石造・2階木造)、②石蔵 ①昭和30年代、機械製材(横鋸目)、 胴蛇腹、②昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	大木戸-04 1
建 428	個人住宅	大木戸	大木戸	赤穂	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横鋸目)、胴蛇腹、元は二階建か	大木戸-04 2
建 429	個人住宅	大木戸	大木戸	赤穂	昭和戦後	農家	①石蔵、②車庫 ①昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、②昭和50年代、機械製材(平)	大木戸-04 3
建 430	個人住宅	大木戸	大木戸	赤穂	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②外便所(腰石造)、③納屋、④粉蔵 ①昭和30年代、②昭和40年代、 機械製材(横山型、腰蛇腹)、③大正～昭和初期	大木戸-04 4
建 431	個人住宅	大木戸	大木戸	赤穂	大正～昭和初期	農家	主屋(気抜き)、大正～昭和初期	大木戸-04 5
建 432	個人住宅	大木戸	大木戸	明野原	昭和戦後	町家	主屋、昭和30年代	大木戸-04 7
建 433	個人住宅	大木戸	大木戸	岩塚	昭和戦後	農家	①石蔵、②渡り廊下・倉庫(石造) ①昭和50年代、RC柱・臥梁、機械製材、 ②昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横波目)	大木戸-04 8
建 434	不明	大木戸	大木戸	岩塚	昭和戦後	農家	小屋(石造)、昭和50年代、RC臥梁、機械製材(平)	大木戸-04 9
建 435	不明	大木戸	大木戸	岩塚	昭和戦後	農家	小屋(石造)、昭和40年代、機械製材(横鋸目)	大木戸-04 10
建 436	個人住宅	大木戸	大木戸	遠光 原山	大正～昭和初期 昭和戦後	養蚕 農家	①主屋(養蚕農家、元茅葺、あづま造、気抜き)、②納屋 ①大正～昭和初期、②昭和40年代	大木戸-04 12
建 437	個人住宅	大木戸	大木戸	遠光 原山	昭和戦後	農家	①主屋、②③納屋(1階石造・2階木造) ①昭和40年代、②③昭和50年代、RC柱・臥梁、機械製材(平)	大木戸-04 13
建 438	個人住宅	大木戸	大木戸	遠光 原山	明治/大正～ 昭和初期	農家	①主屋(元茅葺、気抜き)、②納屋(気抜き) ①明治時代、②大正～昭和初期	大木戸-04 14
建 439	個人住宅	大木戸	大木戸	遠光 原山	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋(1階石造・2階木造) ①昭和40年代、②昭和30年代、機械製材(横鋸目)	大木戸-04 15
建 440	不明	大木戸	大木戸	大橋	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②外便所(腰石造)、③干場(1階石造・2階木造) ①大正～昭和初期、②昭和40年代、機械製材(横山型)、腰蛇腹、③昭和30年代、 機械製材(横鋸目)、胴蛇腹	大木戸-04 16
建 441	個人住宅	大木戸	大木戸	海道上	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋(元茅葺、あづま造)、②納屋(1階石造・2階木造)、③外便所(腰石造) ①大正～昭和初期、②大正～昭和初期、機械製材(横波目)、③昭和30年代、 ツルメ、腰蛇腹	大木戸-04 19
建 442	法人所有建造物	大木戸	大木戸	海道上	大正～昭和初期 昭和戦前	農家	①主屋、②石蔵、③納屋 ①③昭和40年代、②大正～昭和初期、RC臥梁、軒蛇腹	大木戸-04 20
建 443	個人住宅	大木戸	大木戸	海道上	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①②昭和40年代、②RC臥梁、機械製材(横波目)、胴・軒蛇腹	大木戸-04 21
建 444	個人住宅	大木戸	大木戸	河原	昭和戦後	農家	主屋、昭和30年代	大木戸-04 22
建 445	個人住宅	大木戸	大木戸	国見山	昭和戦後	農家	①石蔵、②作業場(1階石造・2階木造)、③小屋(石造) ①昭和40年代、RC 臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹、②③昭和50年代、機械製材(平)	大木戸-04 23
建 446	個人住宅	大木戸	大木戸	国見山	昭和戦後	農家	①離れ(石造)、②作業場(1階石造・2階木造)、③車庫(石造)、④犬小屋(石造) ①②昭和50年代、RC柱・臥梁、機械製材(平)、③④昭和30年代、ツルメ	大木戸-04 24
建 447	個人住宅	大木戸	大木戸	熊久根	明治時代	農家	①主屋(気抜き)、②納屋、③小屋・井戸屋、④土蔵 ①元茅葺・明治3(1870) 年(聞き取り)、②昭和30年代、③明治時代、和釘、④明治時代	大木戸-04 26
建 448	個人住宅	大木戸	大木戸	孝徳	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①昭和40年代、②昭和30年代、ツルメ、胴・軒蛇腹	大木戸-04 29
建 449	個人住宅	大木戸	大木戸	耕ノ内	大正～昭和初期	農家	主屋、大正～昭和初期	大木戸-04 30
建 450	個人住宅	大木戸	大木戸	五反田	昭和戦後	農家	主屋、昭和40年代	大木戸-04 31
建 451	個人住宅	大木戸	大木戸	新田山	昭和戦後	農家	①石蔵、②干場 ①昭和30年代、ツルメ、胴・軒蛇腹、②昭和40年代	大木戸-04 32
建 452	個人住宅	大木戸	大木戸	新田山	大正～昭和初期	養蚕 農家	主屋(養蚕農家、元茅葺、あづま造)、大正～昭和初期	大木戸-04 33
建 453	個人住宅	大木戸	大木戸	新田山	昭和戦後	農家	①主屋、②干場 ①昭和30年代、②昭和40年代	大木戸-04 34
建 454	不明	大木戸	大木戸	新田山	大正～昭和初期	農家	石蔵、大正～昭和初期、ツルメ、胴・軒蛇腹	大木戸-04 35
建 455	消防小屋	大木戸	大木戸	新田	昭和戦後	近代化 遺産	①消防小屋、②火の見櫓 ①昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横波目)、②昭和40年代、鉄骨造	大木戸-04 36
建 456	不明	大木戸	大木戸	新田	大正～昭和初期	農家	主屋、大正～昭和初期	大木戸-04 39
建 457	個人住宅	大木戸	大木戸	高橋	昭和戦後	農家	主屋、昭和30年代	大木戸-04 41
建 458	個人住宅	大木戸	大木戸	館	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②井戸屋、③納屋、④干場(1階石造・2階木造) ①②③大正～昭和初期、④昭和30年代、ツルメ	大木戸-04 43
建 459	個人住宅	大木戸	大木戸	館	大正	農家	土蔵、大正7(1918)年(聞き取り)	大木戸-04 47
建 460	個人住宅	大木戸	大木戸	館	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①②納屋 ①大正～昭和初期、②昭和30年代	大木戸-04 48
建 461	個人住宅	大木戸	大木戸	手代田	昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋 ①昭和40年代、機械製材(横山型)、②昭和30年代	大木戸-04 49
建 462	不明	大木戸	大木戸	中野窪	昭和戦後	農家	小屋(石造)、昭和50年代、機械製材(平)	大木戸-04 51

整理 番号	名称	所在地			時代	分類	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
建 463	個人住宅	大木戸	大木戸	中ノ作	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①②昭和40年代、②機械製材(横鋸目)、胴蛇腹	大木戸-04 52
建 464	個人住宅	大木戸	大木戸	中穂	大正～昭和初期	養蚕農家	主屋(養蚕農家)、大正～昭和初期	大木戸-04 53
建 465	個人住宅	大木戸	大木戸	西原	大正～昭和初期	農家	①主屋、②納屋 ①②大正～昭和初期	大木戸-04 54
建 466	個人住宅	大木戸	大木戸	西原	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②外便所(腰石造) ①大正～昭和初期、②昭和30年代、ツルメ	大木戸-04 55
建 467	個人住宅	大木戸	大木戸	西原	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②納屋(1階石造・2階木造) ①大正～昭和初期、②昭和40年代、機械製材(横鋸目)、胴蛇腹	大木戸-04 56
建 468	個人住宅	大木戸	大木戸	幡門場	昭和戦後	農家	離れ(石造)・石堀、昭和40年代、機械製材(横山型) 元石工の自宅	大木戸-04 58
建 469	個人住宅	大木戸	大木戸	幡門場	昭和戦後期	農家	①主屋(石造)、②納屋、①昭和40年代、ツルメ、②昭和30年代	大木戸-04 59
建 470	個人住宅	大木戸	大木戸	馬場	昭和戦後	農家	①主屋(石造)、②石蔵 ①昭和40年代、RC臥梁、機械製材、②昭和50年代、機械製材(平)	大木戸-04 65
建 471	個人住宅	大木戸	大木戸	原町	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、ツルメ、胴・軒蛇腹	大木戸-04 66
建 472	個人住宅	大木戸	大木戸	原町	明治/大正～ 昭和初期	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、元茅葺、あづま造、気抜き)、②土蔵 ①大正～昭和初期、②明治時代	大木戸-04 67
建 473	個人住宅	大木戸	大木戸	原町	昭和戦後	農家	車庫(石造)、昭和30年代、ツルメ、軒蛇腹	大木戸-04 68
建 474	法人所有建造物	大木戸	大木戸	原町	昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋 ①昭和30年代、ツルメ、胴・軒蛇腹、②昭和30年代	大木戸-04 69
建 475	個人住宅	大木戸	大木戸	富士見平	明治/大正～ 昭和初期/昭和戦後	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、元茅葺、あづま造、気抜き)、②離れ(元茅葺、あづま造、気抜き)、③新座敷(石造)、④小屋(石造) ①大正～昭和初期、②明治時代、③昭和50年代、機械製材(平)、④昭和40年代、機械製材(横山型)	大木戸-04 70
建 476	個人住宅	大木戸	大木戸	富士見平	昭和戦後	農家	②主屋、②石蔵、③倉庫(石造) ①昭和30年代、②昭和40年代、RC臥梁、機械製材、胴・軒蛇腹、③④昭和50年代	大木戸-04 71
建 477	個人住宅	大木戸	大木戸	細藤	明治	農家	納屋(元茅葺、明治時代)	大木戸-04 72
建 478	不明	大木戸	大木戸	細藤	江戸	養蚕農家	主屋(養蚕農家、元茅葺、あづま造、気抜き)、江戸時代後期、破損大	大木戸-04 73
建 479	個人住宅	大木戸	大木戸	前	昭和戦後	農家	石蔵、昭和33(1958)～34(1959)年(聞き取り)、ツルメ	大木戸-04 74
建 480	個人住宅	大木戸	大木戸	前	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②納屋(腰石造)、③土蔵 ①③大正～昭和初期、②昭和30年代、機械製材(横鋸目)	大木戸-04 76
建 481	個人住宅	大木戸	大木戸	宮原山	大正～昭和初期	農家	旧主屋(気抜き)、大正～昭和初期	大木戸-04 78
建 482	法人所有建造物	大木戸	大木戸	宮原	大正～昭和初期 昭和戦後	近代化遺産	①②石蔵、③倉庫 ①大正～昭和初期、RC臥梁、ツルメ、軒蛇腹、②大正～昭和初期、ツルメ、軒蛇腹、パットレス、③昭和30年代、ツルメ	大木戸-04 79
建 483	個人住宅	大木戸	大木戸	宮原	明治	農家	門、明治22(1889)年(聞き取り)、業医門	大木戸-04 80
建 484	個人住宅	大木戸	大木戸	宮原	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①昭和30年代、②昭和50年代、RC柱・臥梁、機械製材(平)	大木戸-04 81
建 485	法人所有建造物	大木戸	大木戸	六角	明治/昭和戦後	農家	①主屋(気抜き)、②店舗(石蔵) ①明治時代、②昭和50年代、RC臥梁、機械製材(平)	大木戸-04 82
建 486	個人住宅	大木戸	大木戸	涌水	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①昭和30年代、②昭和40年代、機械製材(横鋸目)、胴・軒蛇腹	大木戸-04 84
建 487	個人住宅	大木戸	貝田	石畑	昭和戦後	農家	石蔵、昭和50年代、RC臥梁、機械製材(平)、胴・軒蛇腹	大木戸-05 1
建 488	個人住宅	大木戸	貝田	石畑	大正～昭和初期	養蚕農家	主屋(養蚕農家、気抜き)、大正～昭和初期、	大木戸-05 2
建 489	個人住宅	大木戸	貝田	切内	明治/昭和戦後	農家	①土蔵、②納屋(1階石造・2階木造) ①明治時代、②昭和40年代、機械製材(横山型)	大木戸-05 3
建 490	個人住宅	大木戸	貝田	切内	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵、③納屋 ①大正～昭和初期、②昭和50年代、RC柱・臥梁、機械製材(平)、軒蛇腹、③大正～昭和初期	大木戸-05 4
建 491	個人住宅	大木戸	貝田	切内	明治/大正～ 昭和初期	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、元あづま造、気抜き)、②③土蔵 ①明治時代、和釘、②明治時代、③大正～昭和初期	大木戸-05 5
建 492	個人住宅	大木戸	貝田	切内	昭和戦後	農家	主屋(石造)、昭和30年代、機械製材(平)	大木戸-05 6
建 493	個人住宅	大木戸	貝田	熊坂	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①昭和50年代、②昭和40年代、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	大木戸-05 8
建 494	個人住宅	大木戸	貝田	熊坂	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①昭和30年代、②昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	大木戸-05 9
建 495	個人住宅	大木戸	貝田	熊坂	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、機械製材(横山型)、軒蛇腹	大木戸-05 11
建 496	個人住宅	大木戸	貝田	熊坂	昭和戦後	農家	①石蔵、②風呂・外便所(腰石造)、③納屋 ①昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹、②昭和30年代、ツルメ、腰蛇腹、③昭和30年代	大木戸-05 12
建 497	個人住宅	大木戸	貝田	沢中	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①石蔵、②外便所、③土蔵 ①昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹、②昭和30年代、③大正～昭和初期	大木戸-05 13
建 498	個人住宅	大木戸	貝田	大師	昭和戦後	農家	石蔵・塀、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(平)、胴・軒蛇腹	大木戸-05 15
建 499	個人住宅	大木戸	貝田	滝山	昭和戦後	農家	主屋、昭和30年代	大木戸-05 16
建 500	個人住宅	大木戸	貝田	立久根	昭和戦後	農家	①石蔵、②干場 ①昭和40年代、RC臥梁、機械製材、胴・軒蛇腹、②昭和40年代	大木戸-05 17
建 501	個人住宅	大木戸	貝田	立久根	昭和戦後	農家	干場(1・2階石造・3階木造)、昭和40年代、RC臥梁、機械製材	大木戸-05 18
建 502	個人住宅	大木戸	貝田	立久根	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②外便所、③納屋、④石堀・車庫 ①②大正～昭和初期、③昭和30年代、④昭和40年代	大木戸-05 19

整理 番号	名称	所在地			時代	分類	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
建 503	個人住宅	大木戸	貝田	立久根	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、機械製材(横鋸目)、胴・軒蛇腹	大木戸-05 20
建 504	個人住宅	大木戸	貝田	立久根	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②外便所(腰石造)、③土蔵 ①②昭和30年代、③大正～昭和初期、②ツルメ、腰蛇腹	大木戸-05 21
建 505	個人住宅	大木戸	貝田	寺脇	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	大木戸-05 23
建 506	個人住宅	大木戸	貝田	寺脇	昭和戦後	農家	主屋、昭和40年代	大木戸-05 24
建 507	個人住宅	大木戸	貝田	寺脇	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	大木戸-05 25
建 508	個人住宅	大木戸	貝田	寺脇	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、RC臥梁、ツルメ、軒蛇腹	大木戸-05 27
建 509	個人住宅	大木戸	貝田	寺脇	昭和戦後	農家	主屋、昭和30年代	大木戸-05 28
建 510	個人住宅	大木戸	貝田	寺脇	昭和戦後	農家	①②石蔵 ①昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横目)、胴・軒蛇腹、②昭和 50年代、RC臥梁、機械製材(平)、軒蛇腹	大木戸-05 29
建 511	貝田姥神沢旧鉄道 レンガ橋	大木戸	貝田	寺脇	明治	近代化 遺産	町指定有形文化財「貝田姥神沢旧鉄道レンガ橋」、明治20(1800)年～大正期 まで鉄道(現:JR東北本線)が敷設されていた名残を残すレンガ橋	
建 512	個人住宅	大木戸	貝田	中ノ町	昭和戦後	農家	石蔵、RC臥梁、機械製材(横目)、胴・軒蛇腹、石造三階建	大木戸-05 31
建 513	個人住宅	大木戸	貝田	中ノ町	昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋 ①昭和50年代、RC臥梁、機械製材(平)、②昭和30年代	大木戸-05 33
建 514	個人住宅	大木戸	貝田	百枚 大沢	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、機械製材(横目)	大木戸-05 34
建 515	個人住宅	大木戸	貝田	百枚 大沢	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋(気抜き)、②納屋 ①大正～昭和初期、②昭和30年代	大木戸-05 35
建 516	個人住宅	大木戸	貝田	百枚 大沢	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②③納屋 ①大正～昭和初期、②大正～昭和初期、③昭和30年代	大木戸-05 36
建 517	個人住宅	大木戸	貝田	町後	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②土蔵、③納屋、④石蔵 ①②大正～昭和初期、③昭和30年代、④ 昭和50年代、機械製材(平)、胴・軒蛇腹、成瀬石	大木戸-05 38
建 518	個人住宅	大木戸	貝田	町後	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵、③納屋(腰石造)、④石蔵 ①②③昭和40年代、②RC臥梁、 機械製材(横目)、胴・軒蛇腹、③機械製材(横目)、④RC臥梁、機械製材(横目)	大木戸-05 39
建 519	法人所有建造物	大木戸	貝田	町裏	昭和戦後	町家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	大木戸-05 40
建 520	個人住宅	大木戸	貝田	町裏	昭和戦後	町家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横目)、胴蛇腹	大木戸-05 41
建 521	個人住宅	大木戸	貝田	町裏	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①昭和20年代には既にあった(聞き取り)、②昭和43(1968) -44(1969)年(聞き取り)、RC臥梁、機械製材(横山型)、軒蛇腹	大木戸-05 43
建 522	個人住宅	大木戸	貝田	町裏	明治/大正～昭和 初期/昭和戦後	農家	①主屋(半切妻・元あづま造か)、②土蔵、③小屋(石造) ①大正～昭和初期、②明治時代、外大壁、③昭和50年代、機械製材(平)	大木戸-05 44
建 523	個人住宅	大木戸	貝田	町裏	大正～昭和初期	町家	土蔵、大正～昭和初期	大木戸-05 45
建 524	個人住宅	大木戸	貝田	町裏	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①大正～昭和初期、②昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横目)	大木戸-05 46
建 525	個人住宅	大木戸	貝田	町裏	明治	農家	①②土蔵、①②明治時代	大木戸-05 48
建 526	個人住宅	大木戸	貝田	町裏	昭和戦後	農家	①主屋、②③納屋 ①②③昭和30年代	大木戸-05 49
建 527	貝田橋	大木戸	貝田	町裏	昭和初期	近代化 遺産	RC橋梁、昭和8(1933)年竣工	大木戸-05 50
建 528	個人住宅	大木戸	貝田	山/ 神前	大正～昭和初期	養蚕 農家	①主屋(養蚕農家、元茅葺、あづま造、気抜き)、②納屋 ①②大正～昭和初期	大木戸-05 51
建 529	個人住宅	大木戸	貝田	山/ 神前	大正～昭和初期	養蚕 農家	①主屋(養蚕農家、元茅葺、あづま造、気抜き)、②土蔵 ①大正15(1926)年(文書)、②大正～昭和初期	大木戸-05 53
建 530	個人住宅	大木戸	貝田	山/ 神前	明治	農家	土蔵、明治時代	大木戸-05 54
建 531	個人住宅	大木戸	貝田	山/ 神前	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横目)、胴・軒蛇腹	大木戸-05 55
建 532	個人住宅	大木戸	光明寺	沖	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 ①昭和40年代、②昭和30年代	大木戸-07 1
建 533	個人住宅	大木戸	光明寺	沖	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②納屋(1階石造・2階木造)、③小屋(腰石造) ①大正～昭和初期、②昭和30年代、ツルメ、胴蛇腹、③昭和30年代、ツルメ	大木戸-07 2
建 534	個人住宅	大木戸	光明寺	鹿野山	昭和戦後	農家	石蔵、昭和50年代、RC臥梁、機械製材、胴・軒蛇腹	大木戸-07 3
建 535	個人住宅	大木戸	光明寺	鹿野	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②土蔵(海鼠壁)、③④納屋、⑤干場 ①③④昭和30年代、②大正～昭和初期、⑤昭和40年代	大木戸-07 5
建 536	個人住宅	大木戸	光明寺	鹿野	昭和戦後	農家	主屋、昭和30年代	大木戸-07 6
建 537	個人住宅	大木戸	光明寺	鹿野	明治/昭和戦 後	農家	①土蔵、②納屋 ①明治時代、②昭和30年代	大木戸-07 7
建 538	個人住宅	大木戸	光明寺	鹿野	昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋 ①昭和40年代、RC臥梁、機械製材(平)、②昭和30年代	大木戸-07 8
建 539	不明	大木戸	光明寺	鹿野	昭和戦後	農家	主屋、昭和30年代	大木戸-07 9
建 540	個人住宅	大木戸	光明寺	蔵ノ内	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①土蔵、②納屋(1階石造・2階木造)、③納屋、④石塀 ①大正～昭和初期、 ②③④昭和40年代、②RC臥梁、機械製材(平)、④機械製材(横山型)	大木戸-07 10
建 541	個人住宅	大木戸	光明寺	車	昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋(1階石造・2階木造) ①昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横 鋸目)、胴・軒蛇腹、②昭和40年代、機械製材(横山型)、胴蛇腹	大木戸-07 11
建 542	個人住宅	大木戸	光明寺	車	大正～昭和初期	農家	土蔵、大正～昭和初期、下屋石造、ツルメ	大木戸-07 12
建 543	個人住宅	大木戸	光明寺	車	昭和戦後	農家	①主屋(1階石造・2階木造)、②石蔵 ①昭和40年代、機械製材(横目)、軒 蛇腹、②昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横目)、胴・軒蛇腹	大木戸-07 13

整理番号	名称	所在地			時代	分類	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字				
建 544	個人住宅	大木戸	光明寺	車	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 ①昭和40年代、②大正～昭和初期	大木戸-07 15
建 545	火の見櫓	大木戸	光明寺	桜町	昭和戦後	近代化遺産	火の見櫓、昭和30年代、鉄骨造	大木戸-07 16
建 546	個人住宅	大木戸	光明寺	志久	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①主屋、②土蔵、③納屋 ①昭和40年代、②大正～昭和初期、③昭和30年代	大木戸-07 17
建 547	個人住宅	大木戸	光明寺	志久	昭和戦後	農家	①土蔵、②③納屋 ①昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横目）、②③昭和30年代	大木戸-07 18
建 548	個人住宅	大木戸	光明寺	志久	昭和戦後	農家	①土蔵、②外便所（腰石造） ①昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横目）、②昭和30年代、ツルメ	大木戸-07 19
建 549	個人住宅	大木戸	光明寺	志久	大正～昭和初期	農家	①主屋、②納屋 ①②大正～昭和初期	大木戸-07 20
建 550	個人住宅	大木戸	光明寺	志久	昭和戦後	農家	主屋、昭和40年代	大木戸-07 22
建 551	個人住宅	大木戸	光明寺	志久	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①主屋（1階石造・2階木造）、②土蔵、③干場 ①昭和40年代、機械製材（横目）、②昭和30年代、③昭和40年代	大木戸-07 23
建 552	個人住宅	大木戸	光明寺	滝沢	昭和戦後	農家	①納屋、②③土蔵 ①昭和40年代、②昭和50年代（聞き取り）、RC柱・臥梁、 機械製材（平）、③昭和40年代、RC臥梁、機械製材、軒蛇腹	大木戸-07 25
建 553	個人住宅	大木戸	光明寺	滝沢	昭和戦後	農家	①土蔵、②納屋 ①昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横目）、②昭和30年代	大木戸-07 26
建 554	個人住宅	大木戸	光明寺	滝ノ下	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①主屋、②土蔵、③納屋 ①大正～昭和初期、②昭和40年代、RC臥梁、機械 製材（横目）、胴・軒蛇腹、③昭和40年代	大木戸-07 27
建 555	個人住宅	大木戸	光明寺	滝ノ下	明治	養蚕農家	主屋（養蚕農家、元茅葺、あづま造）、明治時代	大木戸-07 28
建 556	個人住宅	大木戸	光明寺	滝ノ下	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①主屋、②③土蔵、④納屋、⑤土蔵 ①大正～昭和初期、②昭和30年代、ツルメ、軒蛇腹、③昭和40年代、RC臥梁、 機械製材（横山型）、軒蛇腹、④⑤大正～昭和初期	大木戸-07 29
建 557	不明	大木戸	光明寺	滝ノ下	昭和戦後	農家	①②土蔵、③納屋（腰石造） ①昭和30年代、ツルメ、軒蛇腹、②昭和50年代、 RC柱・臥梁、機械製材（横山型）、③昭和30年代、ツルメ	大木戸-07 31
建 558	不明	大木戸	光明寺	滝ノ下	昭和戦後	農家	土蔵、昭和30年代、機械製材（横山型）、胴・軒蛇腹	大木戸-07 32
建 559	個人住宅	大木戸	光明寺	土井	昭和初期／昭和戦後	養蚕農家	①主屋（養蚕農家）、②納屋、③④干場 ①昭和11（1922）年（聞き取り）、②昭和30年代、③④昭和40年代	大木戸-07 33
建 560	個人住宅	大木戸	光明寺	土井	大正～昭和初期	農家	土蔵、大正～昭和初期	大木戸-07 34
建 561	個人住宅	大木戸	光明寺	土井	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①主屋、②土蔵、③納屋（1階石造・2階木造） ①昭和40年代、②大正～昭和初期、③昭和50年代、RC臥梁、機械製材（平）	大木戸-07 35
建 562	個人住宅	大木戸	光明寺	土井	昭和戦後	農家	①土蔵、②納屋 ①②昭和40年代、①RC臥梁、機械製材（横山型）、胴蛇腹	大木戸-07 36
建 563	個人住宅	大木戸	光明寺	土井	大正～昭和初期／昭和戦後	養蚕農家	①主屋（養蚕農家、気抜き）、②納屋 ①大正～昭和初期、②昭和30年代	大木戸-07 37
建 564	法人所有建造物	大木戸	光明寺	西ノ内	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 ①昭和50年代、②昭和32（1957）年（聞き取り）	大木戸-07 39
建 565	個人住宅	大木戸	光明寺	沼	大正～昭和初期／昭和戦後	養蚕農家	①主屋（養蚕農家、気抜き）、②③納屋 ①大正～昭和初期、②昭和30年代、③昭和40年代	大木戸-07 40
建 566	個人住宅	大木戸	光明寺	沼	昭和戦後	農家	倉庫（石造）、昭和40年代、機械製材（横山型）	大木戸-07 41
建 567	個人住宅	大木戸	光明寺	沼	昭和戦後	農家	主屋、昭和40年代	大木戸-07 42
建 568	個人住宅	大木戸	光明寺	沼	大正～昭和初期／昭和戦後	養蚕農家	①主屋（養蚕農家、気抜き）、②土蔵、③外便所（腰石造） ①大正～昭和初期、②昭和30年代、RC臥梁、機械製材（横目）、胴・軒蛇腹、 ③昭和30年代、ツルメ	大木戸-07 43
建 569	個人住宅	大木戸	光明寺	浜井場	昭和戦後	農家	①土蔵、②納屋 ①昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横目）、②昭和30年代	大木戸-07 45
建 570	個人住宅	大木戸	光明寺	山岸	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①土蔵、②納屋 ①大正～昭和初期、②昭和30年代	大木戸-07 47
建 571	個人住宅	大木戸	光明寺	山岸	明治／昭和戦後	農家	①主屋、②土蔵、③④納屋 ①③④昭和30年代、②明治時代	大木戸-07 48
建 572	個人住宅	大木戸	光明寺	山田	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 ①昭和40年代、②昭和30年代	大木戸-07 49
建 573	個人住宅	大木戸	光明寺	山田	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①納屋（1階石造・2階木造）、②土蔵、③石塀 ①昭和40年代、機械製材（横 山型）、胴蛇腹、②大正～昭和初期、③昭和40年代、機械製材（横山型）	大木戸-07 50
建 574	個人住宅	大木戸	光明寺	山田	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 ①昭和40年代、②昭和30年代	大木戸-07 51
建 575	個人住宅	大木戸	高城	石田	昭和戦後	農家	主屋、昭和40年代	大木戸-09 1
建 576	個人住宅	大木戸	高城	石田	昭和戦後	農家	①納屋、②土蔵 ①昭和30年代、②昭和50年代、RC臥梁、機械製材（平）、胴・軒蛇腹	大木戸-09 4
建 577	個人住宅	大木戸	高城	石田	大正～昭和初期	農家	①主屋、②納屋 ①②大正～昭和初期	大木戸-09 5
建 578	法人保有建造物	大木戸	高城	石田	昭和戦後	農家	土蔵、昭和30年代、機械製材（横目）、胴・軒蛇腹	大木戸-09 6
建 579	個人住宅	大木戸	高城	石田	昭和戦後期	農家	土蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横山型）、軒蛇腹	大木戸-09 7
建 580	不明	大木戸	高城	石田	大正～昭和初期	農家	主屋、大正～昭和初期	大木戸-09 8
建 581	不明	大木戸	高城	石田	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①主屋（気抜き）、②土蔵 ①大正～昭和初期、②昭和50年代、RC柱・臥梁、機械製材（平）	大木戸-09 9
建 582	不明	大木戸	高城	石田	大正～昭和初期	近代化遺産	石造アーチ橋、大正～昭和初期、上路RC被覆	大木戸-09 10

整理 番号	名称	所在地			時代	分類	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
建 583	個人住宅	大木戸	高城	家老	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵、③外便所（腰石造） ①昭和50年代、②昭和50年代、RC臥梁、機械製材（平）、軒蛇腹、③昭和30年代、ツルメ	大木戸-09 11
建 584	個人住宅	大木戸	高城	川崎	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 ①昭和40年代、②昭和45（1970）年（土間コン銘）	大木戸-09 13
建 585	個人住宅	大木戸	高城	北原	昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋 ①昭和40年代、機械製材（横鋸目）、②昭和30年代	大木戸-09 15
建 586	個人住宅	大木戸	高城	北	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①土蔵、②③納屋、④作業場（1階石造・2階木造） ①大正～昭和初期、②③昭和30年代、④昭和30年代、ツルメ	大木戸-09 17
建 587	法人所有建造物	大木戸	高城	古屋敷	昭和戦後	農家	主屋（石造）、昭和40年代、RC臥梁、機械製材	大木戸-09 18
建 588	個人住宅	大木戸	高城	古屋敷	大正～昭和初期	農家	①主屋（気抜き）、②外便所（腰石造） ①大正～昭和初期、腰蛇腹	大木戸-09 19
建 589	個人住宅	大木戸	高城	山居	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋（1階石造・2階木造） ①昭和40年代、②昭和50年代、RC柱・臥梁、機械製材	大木戸-09 20
建 590	個人住宅	大木戸	高城	山居	昭和戦後	農家	①納屋・干場、②小屋（石造） ①昭和30年代、②昭和30年代、ツルメ、軒蛇腹	大木戸-09 22
建 591	個人住宅	大木戸	高城	山居	昭和戦後	農家	①石蔵、②外便所（腰石造）、③納屋、④干場（1階石造・2階木造） ①昭和30年代、ツルメ、胴・軒蛇腹、②昭和30年代、ツルメ、腰蛇腹、③昭和40年代、④昭和40年代、機械製材（横鋸目）	大木戸-09 23
建 592	個人住宅	大木戸	高城	下家老	明治／大正～ 昭和初期	農家	①茅置場（元茅葺）、②外便所（腰石造）、③納屋 ①明治時代、②大正～昭和初期、ツルメ、③大正～昭和初期	大木戸-09 26
建 593	不明	大木戸	高城	下家老	大正～昭和初期	農家	主屋、大正～昭和初期	大木戸-09 28
建 594	個人住宅	大木戸	高城	田中	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①土蔵、②納屋、③納屋（1階石造・2階木造） ①②大正～昭和初期、③昭和40年代、機械製材（横山型）、胴蛇腹	大木戸-09 29
建 595	個人住宅	大木戸	高城	中山	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵、③干場（1階石造・2階木造）、④納屋 ①大正～昭和初期、②昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横目）、胴・軒蛇腹、 ③昭和50年代、RC柱・臥梁、機械製材（横目）、④昭和40年代	大木戸-09 30
建 596	個人住宅	大木戸	高城	西原	大正～昭和初期	農家	①旧主屋（気抜き）、②納屋 ①②大正～昭和初期	大木戸-09 32
建 597	個人住宅	大木戸	高城	旗鉾	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋、③外便所 ①②③昭和30年代、②洋小屋組	大木戸-09 33
建 598	個人住宅	大木戸	高城	原	昭和戦後	農家	①主屋（石造）、②納屋、③干場（1階石造・2階木造） ①昭和50年代、RC臥梁、 機械製材（平）、②昭和30年代、③昭和50年代、RC臥梁、機械製材	大木戸-09 34
建 599	個人住宅	大木戸	高城	弘前	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①土蔵、②納屋（腰石造）、③納屋 ①大正～昭和初期、②昭和30年代、ツルメ、③昭和30年代	大木戸-09 35
建 600	個人住宅	大木戸	高城	弘前	明治／大正～昭和 初期／昭和戦後	養蚕 農家	①主屋（養蚕農家、元茅葺、あづま造、気抜き）、②③④土蔵、⑤外便所（腰石造） ①明治時代、②③④大正～昭和初期、⑤昭和30年代、ツルメ	大木戸-09 36
建 601	個人住宅	大木戸	高城	弘前	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①②土蔵、③④納屋 ①②大正～昭和初期、③④昭和30年代	大木戸-09 37
建 602	個人住宅	大木戸	高城	広地	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵、③車庫（石造） ①昭和30年代、②③昭和40年代、②機械製材（横 鋸目）、胴・軒蛇腹、③機械製材（横山型）	大木戸-09 38
建 603	個人住宅	大木戸	高城	広地	大正～昭和初期 昭和戦後	養蚕 農家	①主屋（養蚕農家、元茅葺、あづま造、気抜き）、②納屋 ①大正～昭和初期、②昭和30年代	大木戸-09 39
建 604	個人住宅	大木戸	高城	広地	昭和戦後	農家	①②石蔵、③納屋 ①昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横山型）、胴・軒蛇腹、 ②昭和30年代、機械製材（横山型）、胴・軒蛇腹、③昭和40年代	大木戸-09 40
建 605	個人住宅	大木戸	高城	広地	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋、③干場、④外便所（腰石造） ①②昭和30年代、③昭和50年代、④昭和30年代、ツルメ、腰蛇腹	大木戸-09 42
建 606	個人住宅	大木戸	高城	広地	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 ①②昭和30年代	大木戸-09 43
建 607	個人住宅	大木戸	高城	広地	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②納屋、③納屋（腰石造） ①②大正～昭和初期、③昭和30年代、ツルメ	大木戸-09 45
建 608	個人住宅	大木戸	高城	前	昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋、③干場 ①昭和30年代、ツルメ、②③昭和40年代	大木戸-09 47
建 609	個人住宅	大木戸	高城	前	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①土蔵、②納屋（1階石造・2階木造）、③干場（1階石造・2階木造） ①大正～昭和初期、②昭和30年代、機械製材（横鋸目）、胴蛇腹、③昭和50年代、 RC柱・臥梁、機械製材（平）	大木戸-09 48
建 610	個人住宅	大木戸	高城	前	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②土蔵（海鼠壁）、③石蔵、④⑤小屋（石造） ①②大正～昭和初期、③昭和50年代、RC柱・臥梁、機械製材、胴・軒蛇腹、 ④⑤昭和30年代、ツルメ	大木戸-09 49
建 611	個人住宅	大木戸	高城	三川	昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋、③外便所（腰石造） ①②③昭和30年代、①RC臥梁、ツルメ、軒蛇腹、③ツルメ、腰蛇腹	大木戸-09 50
建 612	個人住宅	大木戸	高城	南畑	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋、②納屋、③車庫（腰石造） ①昭和30年代、②大正～昭和初期、③昭和30年代、ツルメ	大木戸-09 51
建 613	個人住宅	大木戸	高城	南畑	昭和戦後	農家	主屋、昭和30年代	大木戸-09 52
建 614	個人住宅	大木戸	高城	南畑	大正～昭和初期	農家	①主屋（気抜き）、②納屋 ①②大正～昭和初期	大木戸-09 53
建 615	個人住宅	大木戸	高城	南畑	大正～昭和初期 昭和戦後	農家	①主屋（気抜き）、②納屋、③石蔵 ①大正～昭和初期、③昭和50年代、RC柱・臥梁、機械製材（平）、軒蛇腹	大木戸-09 54
建 616	個人住宅	大木戸	高城	宮下	明治／大正～ 昭和初期	農家	①主屋、②茅置場（元茅葺） ①大正～昭和初期、②明治時代	大木戸-09 57
建 617	個人住宅	大木戸	高城	蓬田	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材（平）、胴・軒蛇腹	大木戸-09 58
建 618	個人住宅	西大枝	川内	内上	昭和戦後	農家	①石蔵、②外便所（腰石造） ①昭和40年代、機械製材（横鋸目）、②昭和30年代、ツルメ、腰蛇腹	大枝-06 1
建 619	不明	西大枝	川内	内上	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 ①昭和30年代、②昭和40年代	大枝-06 5

整理番号	名称	所在地			時代	分類	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字				
建 620	個人住宅	西大枝	川内	内上	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 (1階石造・2階木造)、③納屋 (腰石造) ①昭和36 (1964) 年 (聞き取り)、②昭和40年代、機械製材 (横山型)、胴蛇腹、 ③昭和30年代、②より古い (聞き取り)、ツルメ	大枝-06 7
建 621	個人住宅	西大枝	川内	内上	昭和初期/昭和戦後	農家	①主屋、②土蔵、③納屋 (1階石造・2階木造) ①昭和30年代、②昭和13 (1938) 年 (課税台帳)、③昭和50年代、機械製材 (平)	大枝-06 8
建 622	個人住宅	西大枝	川内	内上	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 (1階石造・2階木造)、③納屋 (腰石造) ①昭和36 (1961) 年 (聞き取り)、②昭和30年代、機械製材 (横目)、胴蛇腹、 施工: 寺島 (聞き取り)、③昭和40年代、機械製材 (平)	大枝-06 9
建 623	個人住宅	西大枝	川内	内上	昭和戦後	農家	主屋、昭和40年代	大枝-06 11
建 624	個人住宅	西大枝	川内	内上	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 ①昭和34 (1959) 年 (課税台帳)、②昭和28 (1953) 年 (課税台帳)	大枝-06 13
建 625	不明	西大枝	川内	内上	大正~昭和初期/昭和戦後	農家	①納屋 (元茅葺)、②納屋 (腰石造) ①大正~昭和初期、②昭和30年代、ツルメ	大枝-06 16
建 626	個人住宅	西大枝	川内	内上	昭和初期/昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋 (1階石造・2階木造) ①昭和30年代、RC 臥梁、機械製材 (横山型)、胴・軒蛇腹、②昭和10 (1935) ~20 (1945) 年頃 (聞き取り)、ツルメ、胴蛇腹	大枝-06 18
建 627	火の見櫓	西大枝	川内	内上	昭和戦後	近代化遺産	火の見櫓、昭和40年代、鉄骨造	大枝-06 19
建 628	個人住宅	西大枝	川内	沖	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋、③干場 ①昭和34 (1959) 年 (課税台帳)、②昭和40年代、③昭和30年代	大枝-06 20
建 629	個人住宅	西大枝	川内	沖	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①昭和30年代、②昭和50年代、RC 柱・臥梁、機械製材 (平)	大枝-06 24
建 630	個人住宅	西大枝	川内	沖	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①昭和40年代、②昭和30年代、機械製材 (横鋸目)、胴蛇腹	大枝-06 26
建 631	個人住宅	西大枝	川内	沖	大正~昭和初期/昭和戦後	養蚕農家	①主屋 (養蚕農家、気抜き)、②納屋 (1階石造・2階木造) ①昭和30年代、②昭和40年代、機械製材 (横鋸目)、胴蛇腹	大枝-06 27
建 632	個人住宅	西大枝	川内	沖	昭和初期/昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 (腰石造) ①昭和40年代 (聞き取り)、②昭和20年代 (聞き 取り)、ツルメ、古材で建築 (聞き取り)	大枝-06 30
建 633	個人住宅	西大枝	川内	小又	明治/昭和戦後	農家	①主屋 (茅葺)、②納屋 (1階石造・2階木造) ①明治時代、②昭和38 (1963) 年頃 (聞き取り)、機械製材 (横山型)、胴蛇腹	大枝-06 37
建 634	個人住宅	西大枝	川内	小又	大正~昭和初期	農家	石蔵、大正~昭和初期、機械製材 (横鋸目)、胴・軒蛇腹	大枝-06 38
建 635	個人住宅	西大枝	川内	小又	昭和初期/昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 (腰石造) ①昭和16 (1941) 年 (課税台帳)、②昭和40年代、機械製材 (平)	大枝-06 39
建 636	個人住宅	西大枝	川内	小又	昭和戦後	農家	主屋、昭和40年代	大枝-06 40
建 637	個人住宅	西大枝	川内	小又	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 (1階石造・2階木造) ①昭和30年代、②昭和40年代、機械製材 (横鋸目)	大枝-06 41
建 638	不明	西大枝	川内	小又	昭和戦後	農家	主屋、昭和40年代	大枝-06 42
建 639	個人住宅	西大枝	川内	三百地	昭和戦後	農家	①②納屋 ①昭和40年頃 (聞き取り)、元養蚕小屋、②昭和40年代	大枝-06 43
建 640	個人住宅	西大枝	川内	新割	昭和初期/昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 (腰石造) ①昭和3 (1928) 年 (聞き取り)、②昭和30年代、ツルメ	大枝-06 44
建 641	個人住宅	西大枝	川内	新割	昭和初期/昭和戦後	養蚕農家	①主屋 (養蚕農家、元茅葺、あづま造)、②納屋 (1階石造・2階木造) ①昭和10 (1935) 年 (課税台帳)、②昭和30年代、RC 臥梁、機械製材 (横山型)	大枝-06 46
建 642	個人住宅	西大枝	川内	西	大正~昭和初期/昭和戦後	農家	①主屋、②③納屋 ①昭和39 (1964) 年 (課税台帳)、②大正~昭和初期、元 養蚕小屋、③昭和30年代	大枝-06 47
建 643	川内集会所	西大枝	川内	西	昭和戦後	その他	集果場 (1階石造・2階木造)、昭和50年代、RC 臥梁、機械製材 (平)、パツ トレス	大枝-06 48
建 644	国見町消防団第4分団第2部倉庫	西大枝	川内	西	昭和戦後	近代化遺産	①消防倉庫 (1階石造・2階木造)、②詰所 ①昭和50年代、ツルメ・機械製材 (横 山型) 混在、車両大型化により増築 (聞き取り)、②昭和50年代、機械製材 (平)	大枝-06 49
建 645	不明	西大枝	川内	柳原	明治	養蚕農家	主屋 (養蚕農家、旧茅葺、あづま造、気抜き)、明治時代	大枝-06 53
建 646	個人住宅	西大枝	川内	六百地	昭和戦後	農家	主屋 (気抜き)、昭和31 (1956) 年 (課税台帳)	大枝-06 54
建 647	個人住宅	西大枝	西大枝	入ノ内	大正~昭和初期/昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋、③初蔵 ①昭和50年代、RC 柱・臥梁、機械製材 (平)、胴・ 軒蛇腹、②昭和50年代、③大正~昭和初期	大枝-13 2
建 648	個人住宅	西大枝	西大枝	牛沢	明治/大正/昭和戦後	養蚕農家	①主屋 (養蚕農家、元茅葺、あづま造)、②土蔵、③納屋 (腰石造) ①明治20 (1887) 年 (課税台帳)、②大正10 (1921) 年 (課税台帳)、③昭和 35 (1960) 年 (課税台帳)、ツルメ	大枝-13 6
建 649	個人住宅	西大枝	西大枝	牛沢	昭和初期/昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋 ①昭和36 (1961) 年 (課税台帳)、ツルメ、胴・軒蛇腹、② 昭和4 (1929) 年 (課税台帳)	大枝-13 7
建 650	個人住宅	西大枝	西大枝	牛沢	大正~昭和初期	農家	土蔵、大正~昭和初期	大枝-13 8
建 651	個人住宅	西大枝	西大枝	牛沢	大正~昭和初期	農家	主屋 (気抜き)、大正~昭和初期	大枝-13 9
建 652	個人住宅	西大枝	西大枝	牛沢	大正~昭和初期/昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 ①昭和40年代中期 (聞き取り)、②納屋、大正~昭和初期	大枝-13 10
建 653	個人住宅	西大枝	西大枝	牛沢	明治/昭和戦後	農家	①土蔵、②石蔵 ①明治33 (1900) 年 (聞き取り)、洋釘、②昭和50年代 (聞き 取り)、RC 臥梁、機械製材 (横山型)、胴蛇腹・軒蛇腹	大枝-13 11
建 654	個人住宅	西大枝	西大枝	上台	昭和戦後	農家	①納屋 (1階石造・2階木造)、②納屋 ①昭和40年代、機械製材 (横山型)、②昭和30年代	大枝-13 13
建 655	個人住宅	西大枝	西大枝	上台	昭和初期/昭和戦後	農家	①土蔵、②納屋 (1階石造・2階木造) ①昭和2 (1927) 年 (課税台帳)、②昭和30年代	大枝-13 15
建 656	個人住宅	西大枝	西大枝	上台	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵、③干場、④初蔵、⑤外便所、⑥納屋、⑦家畜小屋 ①③④⑤ ⑥⑦昭和30年代、②昭和30年代、RC 臥梁、機械製材 (横山型)、胴・軒蛇腹	大枝-13 17

整理 番号	名称	所在地			時代	分類	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
建 657	個人住宅	西大枝	西大枝	王壇前	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①主屋、②土蔵、③家畜小屋 ①昭和30年代、②③大正～昭和初期	大枝-13 18
建 658	火の見櫓	西大枝	西大枝	王壇前	昭和戦後期	近代化 遺産	火の見櫓、昭和40年代、鉄骨造	大枝-13 19
建 659	個人住宅	西大枝	西大枝	高松	昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋（腰石造） ①昭和30年代、機械製材（横鋸目）、胴・軒蛇腹、 ②昭和30年代、ツルメ、腰蛇腹	大枝-13 20
建 660	個人住宅	西大枝	西大枝	上金谷	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 ①昭和36（1961）年（聞き取り）、②昭和25（1950）～26（1951） 年、元煙草乾燥所（聞き取り）	大枝-13 25
建 661	個人住宅	西大枝	西大枝	京田	明治／大正～ 昭和初期／昭和 戦後	農家	①主屋（気抜き）、②土蔵、③納屋（1階石造・2階木造）、④外便所（腰石造） ①②大正～昭和初期、③昭和30年代、機械製材（横山型）、③大正～昭和初期、 ツルメ、腰蛇腹	大枝-13 30
建 662	不明	西大枝	西大枝	窪	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①昭和40年代、②昭和30年代、RC臥梁、機械製材（横山型）、胴・軒蛇腹	大枝-13 31
建 663	不明	西大枝	西大枝	窪	昭和戦後	農家	主屋、昭和30年代	大枝-13 32
建 664	不明	西大枝	西大枝	窪	大正～昭和初期	農家	①主屋（元茅葺）、②納屋（元茅葺） ①大正～昭和初期、下屋部分元茅葺、②大正～昭和初期	大枝-13 34
建 665	個人住宅	西大枝	西大枝	熊ノ堂	大正～昭和初期	農家	主屋（元茅葺）、大正～昭和初期、破損大	大枝-13 35
建 666	個人住宅	西大枝	西大枝	竹ノ内	大正～昭和初期	農家	土蔵、大正～昭和初期	大枝-13 39
建 667	個人住宅	西大枝	西大枝	竹ノ内	明治	農家	土蔵、明治元（1868）年（課税台帳）	大枝-13 41
建 668	個人住宅	西大枝	西大枝	竹ノ内	大正／昭和戦 後	農家	①土蔵、②納屋（1階石造・2階木造） ①大正12（1923）年（課税台帳、② 昭和30年代、機械製材（横鋸目）、胴蛇腹	大枝-13 42
建 669	個人住宅	西大枝	西大枝	築館	昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋（側面石造） ①昭和39年頃（聞き取り）、機械製材（横鋸目）、 胴蛇腹、②昭和47～48年頃（1972-73）（聞き取り）、機械製材（横山型）	大枝-13 43
建 670	個人住宅	西大枝	西大枝	築館	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、機械製材（横鋸目）、胴・軒蛇腹	大枝-13 45
建 671	個人住宅	西大枝	西大枝	築館	昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋（1階石造・2階木造） ①昭和30年代、機械製材（横山型）、胴・ 軒蛇腹、②昭和50年代、機械製材（横山型）	大枝-13 46
建 672	個人住宅	西大枝	西大枝	築館	大正／昭和戦 後	養蚕 農家	①主屋（養蚕農家、元茅葺、気抜き）、②土蔵（元蔵座敷）、③納屋 ①大正4（1915） 年（課税台帳）、②大正8（1919）年（課税台帳）、③昭和30年代	大枝-13 47
建 673	個人住宅	西大枝	西大枝	築館	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、機械製材（横山型）、胴・軒蛇腹	大枝-13 48
建 674	不明	西大枝	西大枝	築館	昭和戦後	農家	①主屋、②外便所 ①昭和39（1964）年（聞き取り）、②昭和30年代	大枝-13 49
建 675	個人住宅	西大枝	西大枝	堂ノ前	昭和初期／昭和 戦後	農家	①主屋、②土蔵 ①昭和26（1951）年（課税台帳）、②昭和12（1937）年（課税台帳）	大枝-13 51
建 676	不明	西大枝	西大枝	堂ノ前	昭和戦後	農家	主屋、昭和26（1951）年（課税台帳）	大枝-13 52
建 677	個人住宅	西大枝	西大枝	中屋敷	明治／大正～ 昭和初期／昭和 戦後	養蚕 農家	①主屋（養蚕農家、気抜き）、②石蔵、③納屋（元茅葺）、④納屋、⑤初蔵、⑥門（薬 医門） ①大正～昭和初期、②昭和43（1968）年（聞き取り）、RC臥梁、機械製材（横 山型）、胴・軒蛇腹、③明治時代、④昭和30年代、⑤⑥大正～昭和初期	大枝-13 54
建 678	個人住宅	西大枝	西大枝	中屋敷	明治	農家	土蔵、明治10（1877）年（課税台帳）	大枝-13 55
建 679	個人住宅	西大枝	西大枝	中屋敷	明治／大正～ 昭和初期	養蚕 農家	①主屋（養蚕農家、気抜き）、②土蔵 ①明治34（1901）年建築・昭和50年 代後半下手増築（聞き取り）、②大正～昭和初期	大枝-13 57
建 680	個人住宅	西大枝	西大枝	並柳	昭和戦後	養蚕 農家	①主屋（養蚕農家、気抜き）、②石蔵 ①昭和24（1949）年（課税台帳）、② 昭和30年代、RC臥梁、機械製材（横山型）、胴・軒蛇腹	大枝-13 58
建 681	個人住宅	西大枝	西大枝	並柳	昭和初期	農家	①主屋（気抜き）、②土蔵 ①②昭和11（1936）年（課税台帳）	大枝-13 59
建 682	個人住宅	西大枝	西大枝	並柳	大正～昭和初期 ／昭和戦後	農家	①納屋、②初蔵、③外便所（腰石造） ①昭和30年代、②大正～昭和初期、③昭和30年代、ツルメ、腰蛇腹	大枝-13 60
建 683	個人住宅	西大枝	西大枝	並柳	昭和戦後	農家	主屋、昭和40年代	大枝-13 61
建 684	個人住宅	西大枝	西大枝	並柳	昭和戦後	農家	石蔵、昭和53（1978）～54（1979）年頃（聞き取り）、RC臥梁、機械製材（横 山型）、胴・軒蛇腹	大枝-13 62
建 685	個人住宅	西大枝	西大枝	並柳	大正～昭和初期	農家	石蔵、大正～昭和初期、ツルメ、胴・軒蛇腹	大枝-13 63
建 686	個人住宅	西大枝	西大枝	西	大正～昭和初期 ／昭和戦後	農家	①主屋、②土蔵、③干場、④干場（1階石造・2階木造）、⑤旧家畜小屋（1階石造・ 2階木造） ①昭和36（1961）年（聞き取り）、②大正～昭和初期、③④⑤昭和 30年代、④主屋より新しい（聞き取り）、機械製材（横鋸目）、胴蛇腹、⑤機械 製材（横鋸目）、馬栓樫跡	大枝-13 64
建 687	個人住宅	西大枝	西大枝	西	大正～昭和初期 ／昭和戦後	農家	①干場（腰石造）、②納屋（腰石造）、③納屋（旧家畜小屋・茅小屋）、④旧木小屋・ 旧牛小屋、⑤外便所（腰石造） ①昭和40年代、機械製材（横山型）、②昭和30年代、ツルメ、洋小屋組、③ 昭和31（1956）年（棟札）、馬栓樫跡、④⑤大正～昭和初期、⑤ツルメ	大枝-13 65
建 688	個人住宅	西大枝	西大枝	根岸	大正～昭和初期 ／昭和戦後	農家	①主屋、②納屋（1階石造・2階木造） ①大正～昭和初期、②昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横山型）	大枝-13 66
建 689	個人住宅	西大枝	西大枝	根岸	明治／昭和戦 後	養蚕 農家	①主屋（養蚕農家、元茅葺、あづま造）、②石蔵 ①明治時代、②昭和30年代、 RC臥梁、機械製材（横山型）、胴・軒蛇腹	大枝-13 68
建 690	個人住宅	西大枝	西大枝	根岸	大正～昭和初期 ／昭和戦後	農家	①納屋（1階石造・2階木造）、②初蔵 ①昭和40年代、RC臥梁、機械製材（横山型）、②大正～昭和初期	大枝-13 69
建 691	個人住宅	西大枝	西大枝	原鍛冶	明治	農家	土蔵、明治時代、洋釘	大枝-13 71
建 692	個人住宅	西大枝	西大枝	原町	大正～昭和初期	養蚕 農家	①主屋（養蚕農家、気抜き）、②土蔵（海鼠壁） ①②大正～昭和初期	大枝-13 72
建 693	個人住宅	西大枝	西大枝	原町	大正～昭和初期	農家	①②土蔵、③門（薬医門） ①大正10（1921）年（課税台帳）、②③大正～昭和初期	大枝-13 73

整理 番号	名称	所在地			時代	分類	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
建 694	個人住宅	西大枝	西大枝	原町	明治/大正～昭和初期	農家	①主屋、②③④土蔵、⑤初蔵、⑥門(薬医門)、⑦脇門 ①明治30(1897)年(課税台帳)、「福島県の近代和風建築」掲載、②⑤明治時代、③明治4(1871)年(建具銘)、④⑥⑦大正～昭和初期	大枝-13 74
建 695	個人住宅	西大枝	西大枝	原町	大正～昭和初期/昭和戦後	農家	①主屋、②土蔵、③納屋 ①大正～昭和初期、②昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹、③昭和40年代	大枝-13 75
建 696	個人住宅	西大枝	西大枝	原町	明治/大正～昭和初期	農家	①②土蔵、③初蔵、④門(薬医門) ①明治41(1908)年(聞き取り)、②大正～昭和初期、洋小屋組、③大正～昭和初期、④明治時代、和釘	大枝-13 76
建 697	個人住宅	西大枝	西大枝	水口	昭和戦後	農家	主屋、昭和40年代	大枝-13 78
建 698	個人住宅	西大枝	西大枝	水口	昭和戦後	農家	主屋、昭和40年代	大枝-13 79
建 699	個人住宅	西大枝	西大枝	明泉	明治/昭和戦後	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、元茅葺、気抜き)、②土蔵 ①明治36(1903)年(課税台帳)、②昭和40年頃(聞き取り)、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	大枝-13 81
建 700	JAふくしま未来大枝支店	西大枝	西大枝	元寺西	昭和戦後	近代化遺産	福島青果卸売株式会社集荷場、昭和30年代、腰部石造、機械製材(横山型)	大枝-13 82
建 701	個人住宅	西大枝	西大枝	元寺西	明治	農家	土蔵、明治時代、2代前が建築、祖母が嫁いだ時に既にあった(聞き取り)	大枝-13 83
建 702	個人住宅	森江野	塚野目	金屋	大正～昭和初期	養蚕農家	①主屋(養蚕農家)、②畜舎 ①昭和6(1931)年(聞き取り)、②大正～昭和初期	森江野-10 6
建 703	火の見櫓	森江野	塚野目	金屋	昭和戦後	近代化遺産	火の見櫓、昭和40年代、鉄骨造	森江野-10 9
建 704	個人住宅	森江野	塚野目	沢	昭和戦後	農家	主屋、昭和43(1968)年(聞き取り)	森江野-10 14
建 705	個人住宅	森江野	塚野目	沢	昭和戦後	農家	①主屋、②土蔵 ①昭和25(1950)年(課税台帳)、②昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	森江野-10 16
建 706	個人住宅	森江野	塚野目	沢	明治	農家	納屋(元茅葺)、明治時代	森江野-10 17
建 707	個人住宅	森江野	塚野目	沢	明治/昭和戦後	農家	①土蔵、②小屋(石造) ①明治10(1877)年(課税台帳)、②昭和30年代、機械製材(横山型)	森江野-10 19
建 708	個人住宅	森江野	塚野目	正法寺	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	森江野-10 23
建 709	個人住宅	森江野	塚野目	正法寺	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹、アーチ窓、施工:菊地靖(当家先代)	森江野-10 26
建 710	個人住宅	森江野	塚野目	正法寺	昭和戦後	農家	納屋(1階石造・2階木造)、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、施工:菊地靖	森江野-10 27
建 711	個人住宅	森江野	塚野目	正法寺	大正～昭和初期/昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 ①大正～昭和初期、②昭和30年代	森江野-10 28
建 712	個人住宅	森江野	塚野目	林	明治時代/昭和戦後	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、気抜き)、②土蔵、③納屋 ①昭和38(1963)年(課税台帳)、②明治40(1907)年(課税台帳)、③昭和30年代	森江野-10 29
建 713	個人住宅	森江野	塚野目	福田	昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋(腰石造)、③納屋 ①昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、②昭和30年代、機械製材(横山型)、③昭和30年代	森江野-10 30
建 714	個人住宅	森江野	塚野目	福田	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)	森江野-10 31
建 715	個人住宅	森江野	塚野目	福田	明治/昭和戦後	農家	①主屋、②土蔵 ①昭和30年代、②明治30(1897)年(課税台帳)	森江野-10 32
建 716	個人住宅	森江野	塚野目	福田	昭和戦後	農家	納屋、昭和25(1950)年(聞き取り)、元養蚕小屋(聞き取り)	森江野-10 33
建 717	個人住宅	森江野	塚野目	福田	明治/昭和戦後	農家	①主屋(元茅葺、気抜き)、②土蔵、③風呂・便所(石造) ①明治元(1868)年(聞き取り)、②明治時代、洋釘、主屋を作った人の子どもが建築(聞き取り)、③昭和30年代、機械製材(横山型)	森江野-10 35
建 718	個人住宅	森江野	塚野目	福田	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 ①昭和42(1967)年(聞き取り)、②昭和26(1951)年(聞き取り)	森江野-10 37
建 719	個人住宅	森江野	塚野目	福田	明治	農家	土蔵、明治40(1907)年(課税台帳)	森江野-10 38
建 720	個人住宅	森江野	塚野目	前畑	明治	農家	主屋(元茅葺)、明治時代	森江野-10 39
建 721	個人住宅	森江野	塚野目	前畑	大正～昭和初期/昭和戦後	農家	①②納屋 ①昭和26(1951)年(課税台帳)、②大正～昭和初期	森江野-10 42
建 722	個人住宅	森江野	塚野目	前畑	昭和戦後	農家	①主屋、②小屋 ①②昭和47(1972)年(聞き取り)	森江野-10 43
建 723	個人住宅	森江野	塚野目	南寺田	大正～昭和初期	農家	主屋、大正～昭和初期	森江野-10 44
建 724	個人住宅	森江野	徳江	団扇	昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋、③木小屋、④初蔵 ①②③④昭和30年代、①RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	森江野-11 1
建 725	個人住宅	森江野	徳江	団扇	昭和戦後	農家	①石蔵、②小屋 ①昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹、②昭和21(1946)年(課税台帳)	森江野-11 2
建 726	個人住宅	森江野	徳江	団扇	昭和戦後	農家	離れ、昭和30年代	森江野-11 3
建 727	個人住宅	森江野	徳江	団扇	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	森江野-11 5
建 728	個人住宅	森江野	徳江	団扇	明治	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、気抜き)、②土蔵 ①明治38(1905)年(課税台帳)、②明治30(1897)年(課税台帳)	森江野-11 7
建 729	個人住宅	森江野	徳江	団扇	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)	森江野-11 8
建 730	個人住宅	森江野	徳江	親郷	昭和戦後	農家	納屋、昭和26(1951)年(課税台帳)	森江野-11 9
建 731	個人住宅	森江野	徳江	親郷	大正/昭和初期	農家	①石蔵、②納屋 ①昭和18(1943)年(課税台帳)、ツルメ、軒蛇腹、②大正13(1924)年(課税台帳)	森江野-11 10
建 732	個人住宅	森江野	徳江	親郷	昭和初期/昭和戦後	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、気抜き)、②石蔵 ①昭和元(1926)年(聞き取り)、②昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	森江野-11 11

整理 番号	名称	所在地			時代	分類	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
建 733	個人住宅	森江野	徳江	親郷	大正～昭和初期／昭和戦後	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、気抜き)、②③納屋、④井戸小屋 ①昭和35(1960)年(課税台帳)、②昭和30年代、③昭和40年代、④大正～昭和初期	森江野-1112
建 734	個人住宅	森江野	徳江	北久保	昭和戦後	農家	①石蔵、②農庫庫 ①昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹、②昭和30年代	森江野-1113
建 735	個人住宅	森江野	徳江	北小屋	昭和初期／昭和戦後	農家	①主屋、②納屋、①昭和10(1935)年(課税台帳)、②昭和30年代	森江野-1114
建 736	個人住宅	森江野	徳江	北畑	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	森江野-1117
建 737	個人住宅	森江野	徳江	北畑	大正～昭和初期／昭和戦後	養蚕農家	①主屋(養蚕農家)、②井戸小屋 ①昭和28(1953)年(課税台帳)、②大正～昭和初期	森江野-1118
建 738	個人住宅	森江野	徳江	熊野	昭和戦後	農家	納屋(1階石造・2階木造)、昭和27(1952)年(土間路、ツルメ、胴蛇腹)	森江野-1121
建 739	個人住宅	森江野	徳江	熊野	昭和戦後	農家	①主屋(石造)、②石蔵 ①石蔵より古い、機械製材(横山型)、②昭和未～平成初(聞き取り)、腰:ツルメ、外壁機械製材(平)	森江野-1122
建 740	個人住宅	森江野	徳江	熊野	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋(内部に石造米蔵)、③風呂・便所 ①昭和45(1970)年(聞き取り)、②昭和32(1957)年(錠札)、ツルメ、③昭和30年代	森江野-1123
建 741	個人住宅	森江野	徳江	佐野台	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代(聞き取り)、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴蛇腹・軒蛇腹	森江野-1124
建 742	個人住宅	森江野	徳江	佐野台	明治／大正～昭和初期	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、元茅葺、あづま造)、②納屋(元茅葺、あづま造)、③納屋(旧牛小屋) ①明治30(1897)年(課税台帳)、②明治時代、③大正～昭和初期	森江野-1126
建 743	個人住宅	森江野	徳江	佐野台	明治／大正～昭和初期	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、元茅葺、あづま造、気抜き)、②納屋、③初蔵 ①明治30(1897)年(課税台帳)、②昭和5(1930)年(課税台帳)、③大正～昭和初期	森江野-1127
建 744	個人住宅	森江野	徳江	佐野台	明治／昭和戦後	農家	①主屋(元茅葺、気抜き)、②納屋、③外便所(腰石造) ①明治時代、②昭和30年代、③昭和30年代、機械製材(平)、腰蛇腹	森江野-1128
建 745	個人住宅	森江野	徳江	佐野台	大正～昭和初期／昭和戦後	養蚕農家	①主屋(養蚕農家)、②納屋(腰石造)、③納屋、④外便所(腰石造) ①昭和30年代、森山から移築(聞き取り)、②④昭和30年代、ツルメ、③大正～昭和初期、④腰蛇腹	森江野-1129
建 746	個人住宅	森江野	徳江	佐野台	大正～昭和初期	農家	①土蔵、②石蔵 ①大正～昭和初期、②大正～昭和初期、ツルメ、軒蛇腹	森江野-1131
建 747	不明	森江野	徳江	佐野台	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、軒蛇腹	森江野-1132
建 748	個人住宅	森江野	徳江	拾俵橋	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋 ①昭和50年代、RC柱・臥梁、機械製材(平)、胴・軒蛇腹、②昭和27(1952)年(課税台帳)	森江野-1134
建 749	個人住宅	森江野	徳江	拾俵橋	昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋(1階石造・2階木造) ①昭和30年代、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹、②昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、元上葺(ジョウソク)小屋(聞き取り)	森江野-1138
建 750	個人住宅	森江野	徳江	拾俵橋	大正	農家	土蔵、大正12(1923)年(課税台帳)、米蔵(聞き取り)	森江野-1139
建 751	不明	森江野	徳江	拾俵橋	昭和初期／昭和戦後	農家	①主屋(元茅葺)、②木小屋(元茅葺)、③風呂・便所(腰石造) ①昭和17(1942)年(課税台帳)、②昭和12(1937)年(課税台帳)、③昭和29(1954)年(課税台帳)、ツルメ	森江野-1140
建 752	個人住宅	森江野	徳江	高田	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①養羊小屋、②納屋(元桑小屋)、③小屋(味噌・麹室) ①大正～昭和初期、元羊毛組合の建物(聞き取り)、洋小屋組、②昭和40年代、元桑桑(ジョウソク)小屋(聞き取り)、③大正～昭和初期	森江野-1141
建 753	個人住宅	森江野	徳江	館ヶ崎	大正～昭和初期	農家	①石蔵、②納屋 ①大正～昭和初期、ツルメ、胴・軒蛇腹、②大正～昭和初期	森江野-1146
建 754	個人住宅	森江野	徳江	館	昭和初期／昭和戦後	農家	①納屋、②納屋、③木小屋、④井戸小屋 ①昭和2(1927)年(課税台帳)、②③昭和30年代、④昭和40年代	森江野-1150
建 755	個人住宅	森江野	徳江	館	昭和戦後	農家	①納屋、②味噌蔵 ①昭和42(1967)年、施工:遠藤石材(聞き取り)、②昭和40年頃(聞き取り)	森江野-1153
建 756	個人住宅	森江野	徳江	館	昭和戦後	農家	①石蔵、②石蔵(味噌蔵) ①②昭和26(1951)年(聞き取り)、ツルメ、軒蛇腹	森江野-1154
建 757	個人住宅	森江野	徳江	館	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①土蔵、②石蔵 ①大正～昭和初期、②昭和38(1963)年(課税台帳)、機械製材(横山型)、軒蛇腹	森江野-1155
建 758	個人住宅	森江野	徳江	館	昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋 ①昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹、②昭和30年代、下屋初蔵(石造)、機械製材(横山型)	森江野-1156
建 759	個人住宅	森江野	徳江	中谷地田	昭和戦後	農家	石蔵、昭和45(1960)年(聞き取り)、RC臥梁、機械製材(横山型)、軒蛇腹、下屋初蔵(石造)、元二階建・地震で崩れた(聞き取り)	森江野-1158
建 760	JAふくしま未来森江野支店	森江野	徳江	中谷地田	昭和戦後	近代化遺産	①②石蔵 ①②昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)	森江野-1159
建 761	個人住宅	森江野	徳江	二階間々	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	森江野-1160
建 762	個人住宅	森江野	徳江	二階間々	昭和戦後	農家	主屋(石造)、昭和50年代、RC臥梁、機械製材(平)	森江野-1161
建 763	不明	森江野	徳江	二階間々	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	森江野-1162
建 764	個人住宅	森江野	徳江	西	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①主屋、②土蔵、③納屋 ①昭和40年代、②大正～昭和初期、③昭和28(1953)年(聞き取り)	森江野-1163
建 765	個人住宅	森江野	徳江	西	昭和戦後	農家	①主屋(石造)、②納屋 ①昭和40年代、RC臥梁、基礎:ツルメ、壁:機械製材(横山型)、②昭和30年代	森江野-1164
建 766	個人住宅	森江野	徳江	西	大正～昭和初期／昭和戦後	農家	①土蔵、②納屋(元豚小屋) ①大正～昭和初期、②昭和30年代	森江野-1165
建 767	個人住宅	森江野	徳江	西	明治／昭和戦後	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、元茅葺)、②石蔵 ①明治12(1879)年、昭和28(1953)年・平成10(1998)年瓦葺(聞き取り)、昭和28(1953)年(課税台帳)、②昭和41(1966)年(聞き取り)、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	森江野-1166
建 768	個人住宅	森江野	徳江	西	昭和初期／昭和戦後	農家	①土蔵、②納屋 ①昭和16(1941)年(聞き取り)、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹、②昭和30年頃(聞き取り)	森江野-1167

整理番号	名称	所在地			時代	分類	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字				
建 769	個人住宅	森江野	徳江	沼田	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、機械製材(平)、胴・軒蛇腹	森江野-1168
建 770	個人住宅	森江野	徳江	沼田	大正～昭和初期	農家	主屋(気抜き)、大正～昭和初期	森江野-1169
建 771	不明	森江野	徳江	破越清水	明治	養蚕農家	主屋(養蚕農家、元茅葺、あづま造)、明治時代、破損	森江野-1171
建 772	個人住宅	森江野	徳江	原	大正～昭和初期	農家	石蔵、大正～昭和初期、ツルメ、米蔵(聞き取り)	森江野-1172
建 773	法人所有建造物	森江野	徳江	原	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵、③納屋(腰石造)、④外便所(腰石造) ①昭和38(1963)年(聞き取り)、②昭和47(1972)年(聞き取り)、RC臥梁、機械製材(横山型)、③④昭和30年代、ツルメ、④腰蛇腹	森江野-1173
建 774	個人住宅	森江野	徳江	原	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①昭和27(1952)年(課税台帳)、②昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	森江野-1174
建 775	個人住宅	森江野	徳江	原	昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋 ①昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、②昭和40年代	森江野-1175
建 776	個人住宅	森江野	徳江	東	昭和戦後	農家	主屋、昭和40年代	森江野-1179
建 777	個人住宅	森江野	徳江	東	大正～昭和初期	農家	土蔵、大正～昭和初期	森江野-1180
建 778	火の見櫓	森江野	徳江	東	昭和戦後	近代化遺産	火の見櫓、昭和40年代、鉄骨造	森江野-1181
建 779	個人住宅	森江野	徳江	東原	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	森江野-1183
建 780	個人住宅	森江野	徳江	前原	大正～昭和初期	農家	①初蔵、②井戸小屋 ①②大正～昭和初期	森江野-1184
建 781	個人住宅	森江野	徳江	前原	大正～昭和初期/昭和戦後	農家	①主屋、②納屋、③井戸小屋 ①昭和30(1897)年(課税台帳)、②昭和30年代、③大正～昭和初期	森江野-1185
建 782	個人住宅	森江野	徳江	前原	明治/大正～昭和初期/昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵、③納屋(1階石造・2階木造)、④木小屋(旧主屋)、⑤井戸小屋 ①大正～昭和初期、②昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹、③昭和34(1959)年(土間コンクリ)、RC臥梁、機械製材(横山型)、養蚕小屋(聞き取り)、④明治時代、⑤大正～昭和初期	森江野-1186
建 783	個人住宅	森江野	徳江	山神	大正～昭和初期	農家	①主屋、②納屋 ①②大正～昭和初期	森江野-1187
建 784	個人住宅	森江野	徳江	山神	大正～昭和初期/昭和戦後	農家	①主屋(気抜き)、②納屋 ①大正～昭和初期、②昭和30年代	森江野-1188
建 785	個人住宅	森江野	徳江	雷神前	大正～昭和初期	農家	土蔵、大正～昭和初期	森江野-1191
建 786	町立くにみ幼稚園	森江野	森山	太田川	明治	その他	門柱、明治43(1910)年(銘)	森江野-152
建 787	個人住宅	森江野	森山	太田川	昭和戦後	農家	①小屋、②初蔵 ①②昭和30年代	森江野-153
建 788	個人住宅	森江野	森山	沖	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵、③納屋 ①昭和39(1964)年(課税台帳)、②昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹、③昭和30年代	森江野-154
建 789	個人住宅	森江野	森山	沖	明治/大正～昭和初期/昭和戦後	養蚕農家	①主屋、②土蔵、③石蔵、④蚕種小屋、⑤初蔵 ①明治時代、②④⑤大正～昭和初期、③昭和45(1970)年(聞き取り)、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	森江野-155
建 790	個人住宅	森江野	森山	沖	昭和戦後	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、気抜き)、②石蔵 ①昭和43(1968)年(聞き取り)、②昭和40年代、RC臥梁、機械製材(平)	森江野-156
建 791	個人住宅	森江野	森山	沖	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横鋸目)	森江野-157
建 792	個人住宅	森江野	森山	沖	大正	農家	主屋、大正14(1925)年(課税台帳)	森江野-158
建 793	個人住宅	森江野	森山	上鶴町	明治/大正～昭和初期/昭和戦後	農家	①主屋、②納屋、③初蔵、④小屋 ①大正10(1921)年(課税台帳)、②昭和35(1960)年(課税台帳)、③天保9(1838)年、安政2(1855)年の墨書、④大正～昭和初期	森江野-1511
建 794	個人住宅	森江野	森山	上鶴町	明治/大正～昭和初期/平成	農家	①主屋(元茅葺)、②土蔵、③干場(1階石造・2階木造)、④木小屋、⑤小屋 ①明治元(1868)年(聞き取り)、②明治25(1892)年(課税台帳)、③平成、RC柱・臥梁、機械製材(平)、④⑤大正～昭和初期	森江野-1512
建 795	個人住宅	森江野	森山	上鶴町	明治/大正～昭和初期/昭和戦後	農家	①土蔵、②石蔵、③小屋 ①明治10(1877)年(課税台帳)、和釘、②昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、③大正～昭和初期	森江野-1513
建 796	個人住宅	森江野	森山	上鶴町	明治	農家	門(薬医門)、明治時代、90年は経過している(聞き取り)	森江野-1514
建 797	個人住宅	森江野	森山	上元木	昭和初期	農家	納屋(元茅葺)、昭和20(1887)年頃(聞き取り)	森江野-1515
建 798	個人住宅	森江野	森山	行人壇	昭和戦後	農家	①納屋、②小屋(旧書斎) ①昭和24(1949)年(課税台帳)、②昭和34(1959)年(聞き取り)	森江野-1516
建 799	個人住宅	森江野	森山	沢田	昭和初期	農家	①主屋、②石蔵、③小屋 ①②③昭和7(1932)年に分家して建築(聞き取り)、①元二階建を平屋建に改造(聞き取り)、②ツルメ、胴・軒蛇腹	森江野-1518
建 800	個人住宅	森江野	森山	下鶴町	昭和初期/昭和戦後	農家	①主屋、②③納屋 ①昭和30年代、②昭和29(1954)年(課税台帳)、③昭和12(1937)年(課税台帳)	森江野-1519
建 801	個人住宅	森江野	森山	下鶴町	大正～昭和初期/昭和戦後	農家	①②石蔵、③風呂(腰石造)、④初蔵 ①②昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、③昭和30年代、ツルメ、④大正～昭和初期	森江野-1520
建 802	個人住宅	森江野	森山	滝東	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)	森江野-1524
建 803	個人住宅	森江野	森山	滝東	昭和戦後	農家	①主屋、②納屋(1階石造・2階木造) ①昭和31(1956)年(聞き取り)、②昭和44(1969)年(聞き取り)、RC臥梁、機械製材(横山型)	森江野-1526
建 804	個人住宅	森江野	森山	滝東	昭和戦後	農家	主屋(石造)、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴蛇腹	森江野-1527

整理 番号	名称	所在地			時代	分類	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
建 805	個人住宅	森江野	森山	館西	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、機械製材(横鋸目)、胴・軒蛇腹	森江野-15 28
建 806	個人住宅	森江野	森山	館西	昭和戦後	農家	①②石蔵、③外便所(石造) ①③昭和40年代(聞き取り)、②昭和32(1957)年(聞き取り)、①機械製材(横山型)、胴蛇腹、②ツルメ、③機械製材(横山型)	森江野-15 29
建 807	個人住宅	森江野	森山	館西	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)	森江野-15 30
建 808	個人住宅	森江野	森山	壇ノ前	大正～昭和初期/昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋、③初蔵、④車庫 ①昭和30年代、機械製材(横山型)、②大正～昭和初期、洋小屋組、③大正～昭和初期、④昭和50年代、RC臥梁、機械製材(横山型)	森江野-15 32
建 809	個人住宅	森江野	森山	壇ノ前	大正/昭和戦後	農家	①土蔵、②離れ ①大正15(1926)年(課税台帳)、②昭和40年代	森江野-15 33
建 810	個人住宅	森江野	森山	壇ノ前	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、軒蛇腹	森江野-15 34
建 811	旧稚蚕飼育所	森江野	森山	辻西	昭和戦後	近代化遺産		森江野-15 35
建 812	法人所有建造物	森江野	森山	辻西	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	森江野-15 36
建 813	火の見櫓	森江野	森山	辻西	昭和戦後	近代化遺産	火の見櫓、昭和40年代、鉄骨造	森江野-15 38
建 814	個人住宅	森江野	森山	寺前	昭和戦後/平成	農家	①納屋(1階石造・2階木造)、②石蔵、③干場 ①昭和30年代(聞き取り)、ツルメ、胴蛇腹、②平成、機械製材(横山型)、③昭和50年代、RC臥梁、機械製材(平)	森江野-15 40
建 815	個人住宅	森江野	森山	中島	昭和戦後	農家	①石蔵、②干場(1階石造・2階木造) ①昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、②昭和60(1985)年頃(聞き取り)、RC臥梁	森江野-15 41
建 816	個人住宅	森江野	森山	中島	昭和初期/昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵、③初蔵 ①昭和7(1932)年(課税台帳)、建築費:3800円(聞き取り)、②昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹、③昭和40年代、機械製材(横山型)	森江野-15 42
建 817	法人所有建造物	森江野	森山	中ノ目	大正～昭和初期	農家	石蔵、大正6(1917)年、ツルメ、国見最初の石蔵・建築費:570円(梁墨書)	森江野-15 43
建 818	個人住宅	森江野	森山	中ノ目	大正～昭和初期/昭和戦後	農家	①石蔵、②初蔵 ①昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹、②大正～昭和初期	森江野-15 44
建 819	個人住宅	森江野	森山	中ノ目	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、機械製材(横山型)、軒蛇腹	森江野-15 46
建 820	個人住宅	森江野	森山	中ノ目	昭和初期/昭和戦後	農家	①主屋、②土蔵、③納屋(1階石造・2階木造)、④木小屋、⑤初蔵 ①昭和43(1968)年(聞き取り)、②昭和8(1933)年(課税台帳)、石母田から移築(聞き取り)、③昭和30年(聞き取り)、ツルメ、胴蛇腹、施工:伊藤石材(聞き取り)、④昭和30年代、ツルメ、納屋建築の余った石で建てた(聞き取り)、⑤昭和43(1968)年(聞き取り)	森江野-15 48
建 821	個人住宅	森江野	森山	中ノ目	昭和戦後期	農家	①石蔵、②車庫(1階石造・2階木造) ①昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹、②昭和50年代、機械製材(横山型)	森江野-15 49
建 822	個人住宅	森江野	森山	中町	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(平)	森江野-15 50
建 823	個人住宅	森江野	森山	中上野	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、軒蛇腹	森江野-15 52
建 824	法人所有建造物	森江野	森山	中上野	昭和戦後	その他	教会、昭和30年代	森江野-15 54
建 825	個人住宅	森江野	森山	西国見	昭和戦後	農家	主屋(石造)、昭和50年代、RC臥梁、機械製材(平)	森江野-15 55
建 826	個人住宅	森江野	森山	西国見	明治/大正～昭和初期	農家	①土蔵(腰石造)、②土蔵、③納屋 ①大正～昭和初期、機械製材(平)、②大正～昭和初期、③明治14(1881)年(墨書)	森江野-15 56
建 827	個人住宅	森江野	森山	西国見	昭和戦後	農家	主屋、昭和30年代	森江野-15 57
建 828	個人住宅	森江野	森山	西国見	昭和戦後	農家	石蔵、昭和30年代、機械製材(横鋸目)、胴・軒蛇腹	森江野-15 58
建 829	個人住宅	森江野	森山	西国見	明治/昭和戦後	農家	①主屋(石造)、②石蔵、③納屋(元茅葺) ①昭和50年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、②昭和50年代、RC柱・臥梁、機械製材(平)、③明治30(1897)年(課税台帳)	森江野-15 59
建 830	個人住宅	森江野	森山	西新田	大正	養蚕農家	主屋(養蚕農家、元茅葺、あづま造)、大正時代(聞き取り)	森江野-15 60
建 831	個人住宅	森江野	森山	西新田	大正～昭和初期	農家	①主屋(元茅葺、下手切筋・改変)、②外便所 ①大正6(1917)年(課税台帳)、②大正～昭和初期	森江野-15 61
建 832	個人住宅	森江野	森山	西新田	大正～昭和初期	農家	石蔵、大正～昭和初期、ツルメ、胴・軒蛇腹	森江野-15 63
建 833	個人住宅	森江野	森山	西新田	大正～昭和初期	農家	石蔵、大正～昭和初期、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	森江野-15 64
建 834	個人住宅	森江野	森山	西元木	明治/大正～昭和初期	農家	①土蔵(1階石造・2階木造)、②土蔵、③石蔵、④納屋、⑤初蔵、⑥小屋 ①③④⑤⑥大正～昭和初期、②明治時代、①ツルメ、胴蛇腹、③④ツルメ	森江野-15 66
建 835	個人住宅	森江野	森山	西上野	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(平)、胴・軒蛇腹	森江野-15 68
建 836	法人所有建造物	森江野	森山	西上野	昭和戦後	町家	①主屋(石造)、②石蔵 ①昭和50年代、RC柱・臥梁、機械製材(横山型)、②昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	森江野-15 69
建 837	個人住宅	森江野	森山	西上野	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①②昭和40年代、②RC臥梁、機械製材(平)、胴蛇腹	森江野-15 70
建 838	個人住宅	森江野	森山	東国見	昭和戦後	農家	①主屋(石造)、②石蔵 ①昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、②昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)	森江野-15 72
建 839	個人住宅	森江野	森山	東国見	昭和戦後	農家	①主屋(石造)、②車庫(石造) ①②昭和50年代、RC臥梁、機械製材(平)	森江野-15 73

整理番号	名称	所在地			時代	分類	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字				
建 840	個人住宅	森江野	森山	東国見	昭和戦後	農家	①主屋、②便所(腰石造) ①昭和31(1956)年(課税台帳)、②昭和30年代、ツルメ、腰蛇腹	森江野-15 75
建 841	個人住宅	森江野	森山	東国見	昭和初期/昭和戦後	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、気抜き)、②石蔵、③納屋(腰石造) ①昭和4(1929)年(課税台帳)、②昭和32(1957)年(聞き取り)、ツルメ、胴・軒蛇腹、③昭和30年代、ツルメ	森江野-15 76
建 842	法人所有建造物	森江野	森山	東国見	昭和戦後	農家	①主屋(石造)、②石蔵、③作業所 ①昭和37(1962)年(課税台帳)、RC臥梁、機械製材(横鋸目)、②昭和40年代(聞き取り)、RC臥梁、機械製材(横山型)、③昭和40年代(聞き取り)、機械製材(横山型)、鉄骨洋小屋組	森江野-15 78
建 843	個人住宅	森江野	森山	東新田	昭和戦後	農家	①石蔵、②納屋 ①昭和34(1959)年(聞き取り)、ツルメ、胴・軒蛇腹、②昭和36(1961)年(聞き取り)	森江野-15 79
建 844	個人住宅	森江野	森山	東新田	明治/昭和戦後	農家	①土蔵、②納屋 ①明治20(1887)年(課税台帳)、②昭和30年代	森江野-15 80
建 845	個人住宅	森江野	森山	東新田	明治	農家	①納屋、②粉蔵、①昭和40年代、②明治時代に近所から移築した(聞き取り)	森江野-15 83
建 846	個人住宅	森江野	森山	東元木	大正~昭和初期/昭和戦後	農家	①石蔵、②③納屋(腰石造)、④小屋 ①昭和30年代、機械製材(平)、軒蛇腹、②大正~昭和初期、ツルメ、③昭和40年代、機械製材(横山型)、④大正~昭和初期	森江野-15 85
建 847	個人住宅	森江野	森山	東上野	昭和戦後	農家	①主屋、②石蔵 ①昭和26(1951)年(課税台帳)、②昭和30年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹	森江野-15 87
建 848	個人住宅	森江野	森山	東上野	大正~昭和初期/昭和戦後	農家	①主屋、②納屋、③木小屋 ①昭和28(1953)年(課税台帳)、②大正~昭和初期、下屋粉蔵、③大正~昭和初期	森江野-15 88
建 849	法人所有建造物	森江野	森山	別当	昭和初期	農家	納屋、昭和14(1939)年(課税台帳)	森江野-15 89
建 850	個人住宅	森江野	森山	堀ノ内	昭和初期	農家	主屋、昭和8(1933)年(課税台帳)、元は気抜きがあった(聞き取り)	森江野-15 91
建 851	不明	森江野	森山	南上野	昭和戦後	農家	石蔵、昭和40年代、石材加工混用・転用材による建築か	森江野-15 94
建 852	個人住宅	森江野	森山	宮前	大正~昭和初期/昭和戦後	農家	①②石蔵、③納屋(1階石造・2階木造)、④納屋 ①昭和7(1932)年(聞き取り)、ツルメ、軒蛇腹、②昭和54(1979)年(土間コンクリート)、RC柱・臥梁、機械製材(横山型)、③昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横鋸目)、④大正~昭和初期	森江野-15 96
建 853	個人住宅	森江野	森山	宮前	明治/大正~昭和初期	農家	①納屋(外大壁)、②旧階家(旧茅葺)、③風呂・便所(腰石造) ①大正~昭和初期、②明治時代、③大正~昭和初期、ツルメ	森江野-15 98
建 854	個人住宅	森江野	森山	宮前	昭和戦後	農家	①納屋(1階石造・2階木造)、②干場 ①昭和45(1970)年(土間コンクリート)、RC臥梁、機械製材(横山型)、施工:菊地靖、②昭和55(1980)年(聞き取り)	森江野-15 99
建 855	個人住宅	森江野	森山	宮前	大正~昭和初期	農家	主屋、大正~昭和初期	森江野-15 101
建 856	個人住宅	森江野	森山	宮前	明治/大正~昭和初期/昭和戦後	養蚕農家	①主屋(養蚕農家、気抜き)、②納屋(1階石造・2階木造)、③納屋、④風呂・便所(腰石造)、⑤木小屋、⑥家畜小屋 ①明治20(1887)年(課税台帳)、②昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、③昭和27(1952)年(課税台帳)、④大正~昭和初期、ツルメ、腰蛇腹、⑤大正~昭和初期、⑥昭和16(1941)年(井戸銘)	森江野-15 102
建 857	個人住宅	森江野	森山	宮前	大正~昭和初期/昭和戦後	農家	①旧主屋(背面下屋石造)、②小屋(元茅葺) ①昭和40年代(聞き取り)、機械製材(横山型)、②大正~昭和初期	森江野-15 103
建 858	個人住宅	森江野	森山	宮前	昭和戦後	農家	①石蔵、②鶏舎 ①昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)、胴・軒蛇腹、②昭和40年代、機械製材(平)	森江野-15 104
建 859	個人住宅	森江野	森山	上野台	昭和戦後	農家	主屋(石造)、昭和40年代、RC臥梁、機械製材(横山型)	森江野-15 106
建 860	法人所有建造物	森江野	森山	上野台	昭和戦後	農家	①車庫・事務所、②事務所、③④⑤小屋 ①②③⑤昭和50年代、④昭和40年代、①RC柱・臥梁、機械製材(横山型)、②③⑤機械製材(平)、④機械製材(横山型)	森江野-15 107
建 861	個人住宅	森江野	森山	上野台	大正~昭和初期/昭和戦後	農家	①主屋、②土蔵 ①昭和30年代、機械製材(横山目)、②大正~昭和初期	森江野-15 108

【有形文化財／美術工芸品／絵画】

※国見町における歴史文化や出来事、国見町出身の画家に関する絵画について掲載。

整理番号	名称	所在地		時代	所有者	備考	調査台帳番号
		地区	大字				
絵 1	涅槃図	藤田	石母田	江戸	龍雲寺	仏画、100×150cm、文政10(1827)年、作者:栄次郎	絵-14
絵 2	観世音図	藤田	石母田	江戸	個人蔵	仏画、100×120cm、聖観音	絵-15
絵 3	山水図	藤田	石母田	江戸	個人蔵	掛幅画、150×80cm、作者:雲細	絵-16
絵 4	山水図	藤田	石母田		個人蔵	掛幅画、50×120cm	絵-17
絵 5	人物図	藤田	石母田		個人蔵	掛幅画、42×125cm、作者:土佐守光貞、石山寺と紫式部図	絵-18
絵 6	虎図	藤田	石母田	江戸	個人蔵	掛幅画、40×100cm、作者:源応挙	絵-19
絵 7	山水図	藤田	石母田	江戸	個人蔵	掛幅画、120×60cm、安政2(1855)年、作者:押突外史	絵-20
絵 8	龍の図	藤田	石母田	江戸	個人蔵	掛幅画、120×45cm、文久3(1863)年、作者:藤原聖純	絵-21
絵 9	鷹の図	藤田	石母田	江戸	個人蔵	掛幅画、30×90cm、作者:狩野伯聞	絵-22
絵 10	斎藤勘十郎図	藤田	石母田	江戸	個人蔵	肖像画、30×90cm、作者:佐州、斎雲の賛	絵-23

整理 番号	名称	所在地		時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字				
絵 11	山水図	藤田	石母田	江戸	個人蔵	水墨画、60×33cm、作者：東洋、滝と唐人	絵-24
絵 12	山水図	藤田	石母田	江戸	個人蔵	掛幅画、126×47cm、作者：徳山玉瀾	絵-25
絵 13	山水図	藤田	石母田	江戸	個人蔵	掛幅画、100×40cm、作者：谷文晁、明烏夕雁	絵-26
絵 14	済雲和尚の肖像画	藤田	石母田		龍雲寺	昭和初期、龍雲寺の再建にあたった、肖像画は西大枝金谷の画人・佐州の描いたものに彩雲和尚が賛をしたもの	絵-27
絵 15	観音菩薩像	藤田	藤田		個人蔵	仏画、124×41.5cm、作者：武山	絵-28
絵 16	俳句	藤田	藤田		個人蔵	仏画、54×10.5cm、作者：松窓己二、何とてこの日うれしき哉	絵-29
絵 17	人物と虎図	藤田	藤田		個人蔵	掛幅画、170×200cm、作者：法舟栄達、ほか1（武士童子図）	絵-30
絵 18	未詳	藤田	藤田		個人蔵	水墨画、135×85cm、作者：法眼永真	絵-31
絵 19	山水画	藤田	藤田		個人蔵	掛幅画、14×140cm、作者：白龍	絵-32
絵 20	山水画	藤田	藤田		個人蔵	掛幅画、40×66cm	絵-33
絵 21	猿の図	藤田	藤田	江戸	個人蔵	掛幅画、104×44cm、作者：祖仙	絵-34
絵 22	花の図	藤田	藤田	江戸	個人蔵	水墨画、104×42cm、作者：逸雲	絵-35
絵 23	雪景図	藤田	藤田		個人蔵	水墨画、110×30cm、作者：逸峰	絵-36
絵 24	山水図	藤田	藤田	江戸	個人蔵	掛幅画、125×67cm、作者：梅関	絵-37
絵 25	山水図	藤田	藤田		個人蔵	水墨画、143×64cm、作者：奥原清湖	絵-38
絵 26	釈迦の図	藤田	藤田	江戸	大千寺	仏画、237×67cm、天保8（1837）年	絵-39
絵 27	三十三観音曼荼羅	藤田	藤田	江戸	大千寺	仏画、124×64.5cm、天保6（1835）年、刺しゅう、西国三十三観音	絵-40
絵 28	秋窓聴雨	藤田	藤田	江戸	個人蔵	絵巻物、35×360cm、作者：坂本龍馬	絵-41
絵 29	未詳	藤田	藤田		個人蔵	掛幅画、128×29cm、椿と蝶、南部氏蔵とある	絵-42
絵 30	未詳	藤田	藤田		個人蔵	掛幅画、129×30cm、燕と野草、南部氏蔵とある	絵-43
絵 31	松梅亀図	藤田	藤田		個人蔵	掛幅画、99×29cm、作者：法橋光琳、3幅対、好意の極書あり	絵-44
絵 32	義経の腰掛松図	藤田	石母田	江戸	個人蔵	約200年前か、署名はなく余白に描かれた歌詠みの人源一成の名のみ、町内に同じものが3～4つあるという	絵-78
絵 33	牡丹図	藤田	山崎	江戸	個人蔵	掛幅画、120×35cm、弘化元（1844）年、作者：熊坂適山、天香富貴の賛あり 甲辰二月	絵-45
絵 34	人物画	小坂	泉田		個人蔵	掛幅画、81×34cm、作者：法橋華典、座像	絵-7
絵 35	不動明王掛軸	小坂	内谷	昭和	個人蔵	会田豊（玉邦）作、昭和	絵-8
絵 36	十三仏	小坂	小坂	江戸	松蔵寺	仏画、97×38cm、小坂大火（慶応3（1867）年）を免れる	絵-9
絵 37	富岳図	小坂	小坂	江戸	個人蔵	掛幅画、112×42cm、作者：葛飾北斎、絹本双幅	絵-10
絵 38	松梅図	小坂	小坂		個人蔵	作者：菅原白龍	絵-11
絵 39	野村家先祖橋柳亭 繁枝の肖像画	小坂	小坂			徳江の画家南文探	絵-12
絵 40	小坂松蔵寺本堂の 襖絵	小坂	小坂		松蔵寺	向かって右4枚がクジャク、左4枚が鶴、いずれも素晴らしい逸品で寺宝である	絵-13
絵 41	涅槃図	大木戸	貝田	江戸	最禅寺	仏画、237×130cm、嘉永5（1852）年、作者：宗次良	絵-1
絵 42	涅槃図	大木戸	光明寺	江戸	福聚寺	仏画、203×154cm、弘化元（1844）年、色彩華麗	絵-2
絵 43	猛虎図	大木戸	高城	江戸	安養寺	襖絵、177×77cm、下張りに天保15（1844）年とある	絵-3
絵 44	梅花図	大木戸	高城	江戸	安養寺	掛幅画、170×94cm、作者：丸帯、天保年間（1830-1844）	絵-4
絵 45	涅槃図	大木戸	高城	江戸	安養寺	仏画、210×118cm、作者：藤原隆寧、極彩色密画	絵-5
絵 46	天龍禪師像	大木戸	高城	江戸	安養寺	祖師像、87×31cm、文化年間（1804-1818）、作者：仏海天竜、極彩色肖像画	絵-6
絵 47	寿老人図	森江野	塚野目		個人蔵	掛幅画、100×27cm	絵-46
絵 48	楓に鷹	森江野	塚野目		個人蔵	水墨画、130×49cm、作者：一蝶	絵-47
絵 49	松竹梅に鶴	森江野	塚野目		個人蔵	掛幅画、168×84cm、作者：一蝶	絵-48
絵 50	地獄絵	森江野	徳江	江戸	観音寺	仏画、135×68.5cm、慶応4（1868）年、作者：竜斎	絵-49
絵 51	地獄絵	森江野	徳江	江戸	観音寺	仏画、135×69cm、慶応4（1868）年、作者：南文探	絵-50

整理番号	名称	所在地		時代	所有者	備考	調査台帳番号
		地区	大字				
絵 52	涅槃図	森江野	森山	江戸	長栄寺	仏画、195×120cm、文政11(1828)年、作者：一蝶、佐久間嘉右衛門宅に泊つて書く	絵-51
絵 53	十六羅漢	森江野	森山		長栄寺	仏画、131×57cm	絵-52
絵 54	山水画	森江野	森山		長栄寺	屏風絵、130×49cm、作者：羅漢山人、六曲一双	絵-53
絵 55	山水画	森江野	森山		個人蔵	掛幅画、123×60cm	絵-54
絵 56	蹄春駒の図	森江野	森山		個人蔵	掛幅画、120×41cm、作者：朱董	絵-55
絵 57	菊花図	森江野	森山		個人蔵	掛幅画、131×31cm、作者：月峯	絵-56
絵 58	人物図	森江野	森山		個人蔵	掛幅画、145×72cm、清正像	絵-57
絵 59	竹の図	森江野	森山		個人蔵	掛幅画、45×54cm、作者：■(火へんに業)華	絵-58
絵 60	鶴の図	森江野	森山		個人蔵	掛幅画、43×55cm、門人の寄書きか	絵-59
絵 61	円乗像	森江野	森山		個人蔵	掛幅画、98×37cm	絵-60
絵 62	山水画	森江野	森山		個人蔵	屏風絵、125×46cm、作者：雲嶽山人、六曲一双	絵-61
絵 63	徳江川岸			現代		石原晃雲作 福島児童美術協会会長、旺玄会会員、日本画翠光会会長	絵-63
絵 64	阿津賀志山之合戦			現代	個人蔵	水墨画3点、石原晃雲先生	絵-65
絵 65	義経の腰掛松			現代		石原晃雲作：日本美術会会員	絵-66
絵 66	芝居絵			江戸～明治	個人蔵	江戸末期～明治初期にかけての人気浮世絵師・月岡芳年の絵	絵-67
絵 67	祖父市川孫重郎の肖像画			明治	個人蔵		絵-70
絵 68	北アメリカ蒸気船の図			江戸	個人蔵	嘉永6(1853)年	絵-71
絵 69	小坂村役場水彩画			昭和	個人蔵		絵-73
絵 70	肖像画の掛け軸			江戸	個人蔵	文久3(1863)年の掛け軸、玉手家の先祖玉手忠兵衛夫妻の肖像	絵-77
絵 71	役者絵			江戸	個人蔵	角田庄蔵、後に国貞と称し、国貞初代を名乗る	絵-74,81
絵 72	役者絵			明治	個人蔵	岩橋政吉、梅蝶楼国貞と称する	絵-74,82
絵 73	錦絵 澎湖島之一島漁翁島古嶺図			明治	個人蔵	日清戦争の版画、作者：島田次郎(楊州周延の門人)	絵-83,85
絵 74	掛け軸 花鳥			江戸	個人蔵	藤田の素封家奥山正胤の娘	絵-84
絵 75	西根開鑿の古河善兵衛、佐藤新右衛門の肖像画掛軸				個人蔵		絵-86
絵 76	瀬戸茂工門翁肖像画						絵-87

【有形文化財／美術工芸品／彫刻】

※仏像彫刻を中心に彫刻を掲載。国見町に関わる彫刻家の彫刻についても掲載。

整理番号	名称	所在地		時代	所有者	備考	調査台帳番号
		地区	大字				
彫 1	木造釈迦尊坐像	藤田	石母田	江戸	龍雲寺	仏像、像高35cm、無銘、総金箔、江戸中期と推定	彫-49
彫 2	木造釈迦尊坐像	藤田	石母田	江戸	龍雲寺	仏像、像高26cm、無銘、金箔	彫-50
彫 3	木造大日如来坐像	藤田	石母田	江戸	龍雲寺	仏像、像高40cm 「天保三年川東・新田村由井工大信甫」記載あり、天保3(1832)年	彫-51
彫 4	木造観世音菩薩立像	藤田	石母田		龍雲寺	仏像、像高29cm、無銘、金箔	彫-52
彫 5	木造毘沙門天立像	藤田	石母田		龍雲寺	仏像、像高22cm 「山形十日町西工所星野吉兵衛」と記入してある	彫-53
彫 6	木造不動尊立像	藤田	石母田		龍雲寺	仏像、像高36cm	彫-54
彫 7	木造阿弥陀如来坐像	藤田	藤田		大千寺	仏像、像高61cm、額彫刻、阿弥陀三尊像の中尊	彫-59
彫 8	木造観世音菩薩立像	藤田	藤田		大千寺	仏像、像高50cm、金箔仕上げ、阿弥陀三尊像の脇侍像	彫-60
彫 9	木造勢至菩薩立像	藤田	藤田		大千寺	仏像、像高50cm、金箔仕上げ、阿弥陀三尊像の脇侍像	彫-61
彫 10	木造善導大師立像	藤田	藤田		大千寺	頂相、像高57cm、極彩色	彫-62
彫 11	木造円空大師立像	藤田	藤田	江戸	大千寺	頂相、像高55cm、元禄3(1690)年	彫-63
彫 12	木造地藏菩薩坐像	藤田	藤田		大千寺	仏像、像高30cm、彩色	彫-64

整理 番号	名称	所在地		時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字				
彫 13	木造大日如来坐像	藤田	藤田		大千寺	仏像、像高 30cm	彫-65
彫 14	木造子安地藏尊坐像 (2体)	藤田	藤田	江戸	大千寺	仏像、像高 17cm、安永 5 (1776) 年、2体組厨子入り	彫-66
彫 15	木造子安地藏尊立像 (13体)	藤田	藤田	江戸	大千寺	仏像、像高 65cm、弘化 3 (1846) 年	彫-67
彫 16	木造文殊菩薩立像	藤田	藤田		大千寺	仏像、像高 14cm、金箔、獅子に乗	彫-68
彫 17	木造阿弥陀如来立像	藤田	藤田		大千寺	仏像、像高 45cm、金箔	彫-69
彫 18	木造弁財天坐像	藤田	藤田	江戸	大千寺	仏像、像高 14cm、文政 7 (1824) 年、極彩色	彫-70
彫 19	木造秋葉山坐像	藤田	藤田		大千寺	仏像、像高 13cm、素彫り、異様な面にて狐に乗、本堂	彫-71
彫 20	石造不動明王立像	藤田	藤田		大千寺	仏像、像高 73cm	彫-76
彫 21	木造薬師如来立像	藤田	藤田	江戸	鹿島神社	仏像、像高 52cm、薬師三尊像の中等、正保年間 (1645-1648) 塩釜住人斎藤八郎、眼病平癒のため寄進と伝わる	彫-72
彫 22	木造月光菩薩立像	藤田	藤田	江戸	鹿島神社	仏像、像高 40cm、薬師三尊像の脇侍像、正保年間 (1645-1648) 塩釜住人斎藤八郎、眼病平癒のため寄進と伝わる	彫-73
彫 23	木造日光菩薩立像	藤田	藤田	江戸	鹿島神社	仏像、像高 40cm、薬師三尊像の脇侍像、正保年間 (1645-1648) 塩釜住人斎藤八郎、眼病平癒のため寄進と伝わる	彫-74
彫 24	木造十二神将立像 (12体)	藤田	藤田	江戸	鹿島神社	仏像、像高 42cm、正保年間 (1645-1648) 塩釜住人斎藤八郎、眼病平癒のため寄進と伝わる	彫-75
彫 25	木造釈迦牟尼仏坐像	藤田	山崎		長泉寺	仏像、像高 63cm。金箔	彫-77
彫 26	木造阿弥陀如来立像	藤田	山崎		長泉寺	仏像、像高 80cm	彫-78
彫 27	木造不動尊立像	藤田	山崎		長泉寺	仏像、像高 60cm、彩色	彫-79
彫 28	木造道元禅師坐像	藤田	山崎		長泉寺	頂相、像高 62cm	彫-80
彫 29	木造達磨大師坐像	藤田	山崎		長泉寺	頂相、像高 50cm	彫-81
彫 30	木造大源菩薩坐像	藤田	山崎		長泉寺	仏像、像高 55cm	彫-82
彫 31	唐金誕生仏立像	藤田	山崎		長泉寺	仏像、像高 14cm	彫-83
彫 32	木造聖観世音菩薩坐像	藤田	山崎		長泉寺	仏像、像高 38cm、金箔	彫-84
彫 33	木造地藏尊立像	藤田	山崎		長泉寺	仏像、像高 60cm	彫-85
彫 34	木造愛宕尊立像	藤田	山崎		長泉寺	仏像、像高 8cm	彫-86
彫 35	木造毘沙門天立像	藤田	山崎		長泉寺	仏像、像高 22cm	彫-87
彫 36	木造韋駄天立像	藤田	山崎		長泉寺	仏像、像高 35cm	彫-88
彫 37	木造大黒天立像	藤田	山崎		長泉寺	仏像、像高 21cm	彫-89
彫 38	木造地藏尊立像	藤田	山崎		長泉寺	仏像、像高 37cm、額彫刻	彫-90
彫 39	木造聖観音坐像	小坂	泉田		胸懸観世音堂	仏像、像高 25cm、元和年間 (1615-1624) との伝承も	彫-25
彫 40	木造釈迦如来立像	小坂	泉田		胸懸観世音堂	仏像、像高 42cm、元和年間 (1615-1624) との伝承も	彫-26
彫 41	木造釈迦如来坐像	小坂	泉田	江戸	泉秀寺	仏像、像高 36cm、明治 3 (1870) 年の火災を免れたとの記録あり	彫-27
彫 42	木造地藏尊坐像	小坂	泉田		泉秀寺	仏像、像高 25cm、明治 3 (1870) 年の火災を免れたとの記録あり	彫-28
彫 43	木造聖観音菩薩坐像	小坂	泉田		泉秀寺	仏像、像高 20cm	彫-29
彫 44	木造道元禅師坐像	小坂	泉田		泉秀寺	頂相、像高 48cm	彫-30
彫 45	木造瑩山禅師坐像	小坂	泉田		泉秀寺	頂相、像高 40cm	彫-31
彫 46	泉秀寺の山門とその彫刻	小坂	泉田		泉秀寺	元治元 (1864) 年 (八双金具銘)	彫-32
彫 47	不動尊木像	小坂	内谷		自在院	本尊	彫-34
彫 48	弘法大師像	小坂	内谷		自在院	木造	彫-35
彫 49	阿弥陀像	小坂	内谷		自在院	木造	彫-36
彫 50	木彫り欄間彫刻	小坂	内谷	昭和	自在院	会田豊 (玉邦) 作	彫-39
彫 51	木造聖観音立像	小坂	小坂	江戸	松蔵寺	仏像、像高 45cm、伝台座に享保元 (1716) 年の銘あり、昭和 33 (1958) 年、曹洞宗管長より寄贈	彫-40
彫 52	木造釈迦牟尼仏坐像	小坂	小坂		松蔵寺	仏像、像高 25cm	彫-41
彫 53	木造毘沙門天立像	小坂	小坂		松蔵寺	仏像、像高 33cm、彩色あり	彫-42

整理 番号	名称	所在地		時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字				
彫	54 木造地藏菩薩坐像	小坂	小坂	江戸	個人蔵	仏像、像高 65cm、安政 3 (1856) 年	彫-43
彫	55 木造文殊菩薩坐像	小坂	鳥取	江戸	福源寺	仏像、像高 27cm、文政 3 (1820) 年の制作か、光背に「文政三年辰吉日」と墨書あり	彫-46
彫	56 木造馬頭観音坐像	小坂	鳥取	江戸	福源寺	仏像、像高 25cm、天明 7 (1787) 年の制作か、台座に「天明七未八月」の墨書あり、10cm程度の胎内仏 (金仏)	彫-47
彫	57 木造地藏尊立像	小坂	鳥取		福源寺	仏像、像高 60cm、彩色	彫-48
彫	58 木造釈迦牟尼仏坐像	大木戸	貝田		最禪寺	仏像、像高 80cm	彫-9
彫	59 木造観世音菩薩	大木戸	貝田		最禪寺	仏像、像高 47cm	彫-10
彫	60 木造開山呂釣和尚坐像	大木戸	光明寺	江戸	福聚寺	頂相、像高 45cm	彫-12
彫	61 木造虚空蔵菩薩坐像	大木戸	光明寺	南北朝	福聚寺	町指定有形文化財「福聚寺木造虚空蔵菩薩坐像」寄木造、玉眼嵌入、錆漆地、14 世紀後半の製作 繊細な表情に、衣文の彫出は浅くなっているが、胸部にはなおうねるような衣文表現が見られる	彫-13
彫	62 木造阿彌陀如来立像	大木戸	光明寺	室町	三常院	町指定有形文化財「三常院木造阿彌陀三尊仏立像」、像高 130cm、三尊立像の中等、一木造り、焼痕あり、16 世紀の制作、胎内より修復の木札あり	彫-14,23
彫	63 木造観世音菩薩立像	大木戸	光明寺	室町	三常院	町指定有形文化財「三常院木造阿彌陀三尊仏立像」、像高 91.5cm、三尊立像の脇侍像、一木造り、焼痕あり、16 世紀の制作	彫-14,23
彫	64 木造勢至菩薩立像	大木戸	光明寺	室町	三常院	町指定有形文化財「三常院木造阿彌陀三尊仏立像」、像高 92cm、三尊立像の脇侍像、白木一木造り、焼痕あり、16 世紀の制作	彫-14,23
彫	65 石造薬師如来坐像	大木戸	光明寺		薬師堂	年代不明、凝灰岩製、貝田集落出身者が寄進したとも	
彫	66 木造薬師如来坐像	大木戸	高城	南北朝～室町初期	安養寺	町指定有形文化財「安養寺一木造薬師如来坐像」 像高 53cm、宝永 7 (1710) 年に東大窪・西大窪村の住民により修繕の記録	彫-16,17,22
彫	67 木造日光菩薩坐像	大木戸	高城		安養寺	像高 34cm、戦国期に存在していた大正寺より移設との伝承あり	彫-16,17,22
彫	68 木造月光菩薩坐像	大木戸	高城		安養寺	像高 34cm、戦国期に存在していた大正寺より移設との伝承あり	彫-16,17,22
彫	69 石造薬師如来	大木戸	高城		安養寺	仏像、像高 30cm、明治初期に山居地内から安養寺へ移転と伝わる	彫-18
彫	70 木造十二神将立像	大木戸	高城		安養寺	仏像、像高 17cm、明治初期に山居地内から安養寺へ移転と伝わる	彫-19
彫	71 木造観世音菩薩坐像	大木戸	高城		安養寺	仏像、像高 30cm	彫-20
彫	72 木造観世音菩薩坐像	大木戸	高城		安養寺	仏像、像高 27cm	彫-21,24
彫	73 木造観世音菩薩立像	西大枝	川内		仲興寺	仏像、像高 92cm	彫-1
彫	74 木造観世音菩薩坐像	西大枝	川内		仲興寺	仏像、像高 23cm	彫-2
彫	75 木造地藏菩薩坐像	西大枝	川内		仲興寺	仏像、像高 82cm、片ひざを立てている	彫-3
彫	76 木造釈迦牟尼如来坐像	西大枝	西大枝	江戸	西松寺	仏像、像高 26cm、慶長 6 (1601) 年の伝承あり	彫-5
彫	77 木造聖観世音菩薩坐像	西大枝	西大枝		西松寺	仏像、像高 39cm	彫-6
彫	78 青銅造釈迦牟尼如来坐像	西大枝	西大枝		西松寺	仏像、像高 29cm、琢斎の銘	彫-7
彫	79 木造大日如来坐像	森江野	塚野目		正法寺	仏像、像高 27cm	彫-92
彫	80 青銅造毘沙門立像	森江野	塚野目		正法寺	仏像、像高 10cm	彫-93
彫	81 木造不明	森江野	塚野目		正法寺	仏像、像高 30cm、※ 2 軀あり	彫-94
彫	82 木造不明	森江野	塚野目		正法寺	仏像、像高 30cm、※ 2 軀あり	彫-95
彫	83 木造不明	森江野	塚野目		正法寺	仏像、像高 27cm	彫-96
彫	84 木造観音立像	森江野	塚野目	江戸	正法寺	仏像、像高 37cm、寛保 3 (1743) 年	彫-97
彫	85 木造観音立像	森江野	塚野目		正法寺	仏像、像高 13cm	彫-98
彫	86 木造三十三観音立像	森江野	塚野目		正法寺	仏像、像高 25cm	彫-99
彫	87 木造大日如来坐像	森江野	徳江		観音寺	仏像、像高 82cm	彫-100
彫	88 木造興教大師坐像	森江野	徳江		観音寺	頂相、像高 52cm、極彩色 ※ 2 軀あり	彫-101
彫	89 木造興教大師坐像	森江野	徳江		観音寺	頂相、像高 52cm、極彩色 ※ 2 軀あり	彫-102
彫	90 木造不動明王立像	森江野	徳江		観音寺	仏像、像高 67.5cm	彫-103
彫	91 不明坐像	森江野	徳江		観音寺	頂相、像高 15cm	彫-104
彫	92 木造地藏尊立像	森江野	徳江		観音寺	仏像、像高 61.5cm	彫-105
彫	93 木造地藏尊立像	森江野	徳江		観音寺	仏像、像高 36.5cm	彫-106

整理番号	名称	所在地		時代	所有者	備考	調査台帳番号
		地区	大字				
彫 94	木造大日如来坐像	森江野	徳江		観音寺	仏像、像高 12cm	彫-107
彫 95	木造観音菩薩坐像	森江野	徳江	江戸	観音寺	仏像、像高 30cm、寄木造、厨子に延宝 2 (1674) 年 3 月の墨書あり	彫-108,109
彫 96	木造不動明王立像	森江野	徳江		観音寺	観像高 60.5cm、寄木造	
彫 97	木造毘沙門天立像	森江野	徳江		観音寺	像高 68cm、寄木造	
彫 98	木造釈迦牟尼仏坐像	森江野	森山		長栄寺	仏像、像高 27cm、金箔	彫-110
彫 99	木造箭岳怒道大和尚坐像	森江野	森山		長栄寺	頂相、像高 49cm、長栄寺世代、梁川興国寺 2 世、極彩色	彫-111
彫 100	上野三業師 三業師その 1	森江野	森山			長栄寺の裏手から入った上野台山中の山林中にある石造の座像、いつの時代に何人が建てたかは不明	彫-112

【有形文化財／美術工芸品／工芸品】

※国見町の歴史文化と関係性を持つ工芸品を掲載。

整理番号	名称	所在地		時代	所有者	備考	調査台帳番号
		地区	大字				
工 1	鯿口	大木戸	大木戸	江戸	聖徳太子堂	寸法：20 × 20cm	工-4
工 2	銅鏡	大木戸	大木戸		個人蔵	寸法：15cm、天下一勝山政蔵	工-5
工 3	三常院の鉦	大木戸	光明寺		三常院	三尊像とともに古いとされる	彫-15
工 4	銅鏡	大木戸	高城		個人蔵	寸法：18cm、薩摩守家重	工-6
工 5	刀	大木戸	高城		個人蔵	寸法：53.4cm、丹波守時原照門	工-7
工 6	銅鏡	大木戸	高城		安養寺	寸法：15cm、藤原重義作	工-8
工 7	銅鏡	大木戸	高城		安養寺	寸法：17cm、藤原光政	工-9
工 8	銅鏡	大木戸	高城		個人蔵	寸法：17cm、藤原金益	工-10
工 9	燭台	大木戸	高城		個人蔵	寸法：26cm、在銘	工-11
工 10	花台	大木戸	高城		個人蔵	寸法：13cm、在銘	工-12
工 11	灯籠	西大枝	西大枝	江戸	深山神社	万延 2 (1861) 年、寸法：50cm、信徒の寄進	工-1
工 12	灯籠	西大枝	西大枝	江戸	西松寺	安政 5 (1858) 年、寸法：90cm、信徒の寄進	工-2
工 13	銅像	西大枝	西大枝		西松寺	寸法：15cm、信徒の寄進	工-3
工 14	平和の鐘（釣鐘）	森江野	森山	昭和	神明神社	天照神明宮境内、愛宕神社、昭和 48 (1973) 年	工-13
工 15	手鏡				個人蔵	年代不詳、ガラスのない時代の手鏡。天下津田薩摩守藤原重家と銘あり	工-17
工 16	飯櫃			江戸	個人蔵		工-20
工 17	薄端（うすばた）			明治	個人蔵	明治初期に中国から製法が伝わったむらし銅と呼ばれる銅製花器	工-21
工 18	壺			明治	個人蔵	むらし銅の製品	工-22
工 19	仕込み杖			明治	個人蔵	祖父から引き継がれる。登録証には濃州・関住兼氏、脇差、1 尺 8 寸 2 分 5 厘、反り 3 分 0 厘、目釘穴 1 とある	工-23
工 20	馬上杯				個人蔵	九谷、出陣の時、門前の馬上で祝盃をあげるのに使用した盃	工-25
工 21	合わせ鏡				個人蔵	藤原光長、藤原光永の銘あり	工-27
工 22	女性用薙刀				個人蔵	水戸藩のものとする	歴-140

【有形文化財／美術工芸品／書跡】

※書家による書自体に価値のある資料（石碑・額などを含む）で、国見町に関わる書家や作品について掲載。

整理番号	名称	所在地		時代	所有者	備考	調査台帳番号
		地区	大字				
書 1	御冷泉院御製	藤田	石母田	江戸	個人蔵	100 × 45cm、作者：百親水	書-13
書 2	和歌	藤田	石母田	江戸	個人蔵	120 × 45cm、作者：早田弘道	書-14
書 3	千字文	藤田	石母田	江戸	個人蔵	120 × 44cm、天明 8 (1788) 年、作者：関其寧、六曲一隻	書-15
書 4	湯殿山の版木	藤田	石母田	江戸		仙台瑞鳳寺の古梁招帳書	書-16
書 5	拓本、二十三夜石塔	藤田	石母田	江戸	龍雲寺	菅山月書、龍雲寺境内、文久 4 (1864) 年	書-17
書 6	未詳	藤田	藤田	江戸	個人蔵	44 × 30cm、文化 5 (1808) 年、作者：千蔭	書-18

整理 番号	名称	所在地		時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字				
書 7	未詳	藤田	藤田		個人蔵	30 × 98cm、作者：磐溪	書 -19
書 8	未詳	藤田	藤田	江戸	個人蔵	56.5 × 25cm、文政年間（1818-1830）、作者：一茶、苦の婆	書 -20
書 9	未詳	藤田	藤田		個人蔵	135 × 46cm、作者：勝海舟	書 -21
書 10	未詳	藤田	藤田		個人蔵	115 × 58cm、作者：山岡鉄舟	書 -22
書 11	書簡	藤田	藤田		個人蔵	54 × 21cm、作者：尾張大納、上杉弾正大弼宛	書 -24
書 12	林崎神流居合目録	藤田	藤田	江戸	個人蔵	作者：中川文右工門、居合皆伝書	書 -25
書 13	奉額「鹿島神社」	藤田	藤田	明治	鹿島神社	明治 13（1880）年、有栖川宮熾仁親王筆	書 -28 有民⑥-83
書 14	奉額「医薬神社」	藤田	藤田	明治	鹿島神社	有栖川宮熾仁親王筆	書 -29
書 15	湯殿山	藤田	藤田	江戸	大千寺	菅山月碑文、大千寺境内、文久 2（1862）年	書 -30
書 16	二十三夜	藤田	藤田	江戸	大千寺	菅山月碑文、大千寺境内、天保 9（1838）年	書 -31
書 17	菅山月翁筆塚	藤田	藤田		鹿島神社	菅山月碑文、鹿島神社境内、大正 15（1926）年	書 -32
書 18	金剛山	藤田	藤田		大千寺	菅山月碑文、大千寺境内、天保（1830-1844）と推定	書 -33
書 19	掛物	藤田	藤田		個人蔵	菅山月書	書 -34
書 20	木版彫刻文書	藤田	藤田		個人蔵	菅山月書	書 -35
書 21	のぼり	藤田	藤田		金毘羅神社	菅山月書	書 -36
書 22	鶴亀文書	藤田	藤田		金毘羅神社	菅山月書	書 -37
書 23	屏風	藤田	藤田		佐藤家住宅 (親月台公園)	菅山月書	書 -38
書 24	屏風	藤田	藤田		個人蔵	菅山月書	書 -39
書 25	雅印	藤田	藤田		個人蔵	菅山月書	書 -40
書 26	句碑	藤田	藤田		鹿島神社	鹿島神社境内、菅山月書	書 -41
書 27	掛け軸	藤田	山崎		個人蔵	菅山月書	書 -42
書 28	書簡	小坂	泉田		個人蔵	書跡、35 × 20cm、作者：今出川実種、阿武隈川埋木献立の答礼文	書 -9
書 29	和歌	小坂	泉田		個人蔵	書跡、129 × 29cm、作者：菅胤長	書 -10
書 30	書簡	小坂	泉田		個人蔵	書跡、32 × 45cm、作者：桑折代官、黒田義茂の家に泊った時の礼文	書 -11
書 31	菅山月揮毫碑「湯殿山」	小坂	泉田	江戸		安政 6（1859）年	書 -12
書 32	未詳	小坂	小坂		個人蔵	書跡、140 × 20cm、作者：大槻磐溪、十四字、紙本	書 -5
書 33	七言絶句	小坂	小坂			書跡、129 × 31cm、作者：佐久間象山、七言絶句、紙本	書 -6
書 34	未詳	小坂	小坂			書跡、141 × 52cm、作者：島津公、十四字、紙本、銘（島津公書）	書 -7
書 35	未詳	小坂	小坂		個人蔵	掛幅画、140 × 60cm、作者：菅山月	書 -8
書 36	屏風	大木戸	大木戸		個人蔵	菅山月書	書 -1
書 37	神龍	大木戸	高城	江戸	安養寺	127 × 27cm、延宝年間（1673-1681）、作者：仏国高泉、支那福清の人、山城 仏国寺創建	書 -2
書 38	詩文	大木戸	高城		安養寺	39 × 150cm、作者：洞山、中国より移入	書 -3
書 39	火伏の籠	大木戸	高城	江戸	安養寺	100 × 28.5cm、文化年間（1804-1818）、作者：仏海天竜、加賀大乗寺の住職	書 -4
書 40	湯殿山	森江野	徳江	江戸	沼田神社	菅山月碑文、沼田神社境内、文久 4（1864）年	書 -43
書 41	金華山	森江野	徳江	江戸	沼田神社	菅山月碑文、沼田神社境内	書 -44
書 42	未詳	森江野	徳江		個人蔵	133 × 51cm、作者：山岡鉄舟、襖よりはがす	書 -47
書 43	金華山	森江野	森山		小牛田神社	菅山月碑文、嘉永 5（1852）年	書 -45
書 44	石碑	森江野	森山	大正		森山字弁天前 67 番地にある、武田正義書	書 -46
書 45	鷺鳳巢	森江野	森山		長栄寺	56 × 28.5cm、作者：佐久間東海	書 -49
書 46	未詳	森江野	森山		個人蔵	88 × 28cm、作者：頼山陽	書 -50
書 47	兵法除術口伝書	森江野	森山	江戸	個人蔵	文化年間（1804-1818）、起請盟文前書ほか	書 -51

整理 番号	名称	所在地		時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字				
書 48	古文書				個人蔵	菅山月書	書-52
書 49	掛け軸				個人蔵	菅山月書	書-53
書 50	半田山乎読留				個人蔵	内池氏の曾祖父が書いた掛け軸	書-55
書 51	掛け軸			昭和	個人蔵	半田山長歌、国学者だった先祖・内池永年が半田銀山を詠んだ書を表装したもの	書-56
書 52	掛軸、書			大正	個人蔵	先祖が新井石禅に頼んで書いてもらったもの	書-58
書 53	書額「街西館」			明治	森江野小学校	明治天皇東北巡幸の際、随行の菅原修長卿の揮毫	書-62
書 54	菅山月揮毫額「翰墨林」				個人蔵	菅山月書	書-63
書 55	菅山月書「烟霞路」				個人蔵	菅山月書	書-64
書 56	菅山月書「唐詩篆書六曲屏風」				個人蔵	菅山月書	書-66
書 57	菅山月書「短冊」				個人蔵	菅山月書	書-67
書 58	菅山月書掛け軸「三界唯一心矣」				個人蔵	菅山月書	書-68
書 59	菅山月書「唐詩掛軸四幅一組」				個人蔵	菅山月書	書-69
書 60	菅山月書掛軸				個人蔵	菅山月書	書-70
書 61	掛軸				個人蔵	厚樫山人書、竹葉山人絵	書-71
書 62	木製柱掛「数貼梅花天地心」			昭和	個人蔵	厚樫山人書、竹葉山人絵	書-72
書 63	掛軸三幅				個人蔵	厚樫山人書	書-73
書 64	欄間額「猛省奮起」				個人蔵	厚樫山人書	書-74
書 65	欄間額「倭鎮」				個人蔵	緑海書	書-75
書 66	欄間大額写真「正観世音」				個人蔵	緑海書	書-76
書 67	縦額				個人蔵	東雲：徳江出身、本名八巻亀寿、平成9（1997）年没（89歳）	書-77
書 68	縦額				個人蔵	東雲書	書-78
書 69	横額「萬福多幸」				個人蔵	藤山：本名関口道孝、元山崎長泉寺住職、国見町長	書-79
書 70	唐詩六曲屏風				個人蔵	菅山月書	書-80
書 71	掛軸、石井安義氏書				個人蔵	郷土の書家石井照溪（安義）、慶応元（1865）年生まれ、昭和37（1962）年没、89歳	書-82
書 72	掛軸、拓本、正気歌				個人蔵	藤田東湖書正気歌碑の拓本	書-83
書 73	奥山照子、奥山正胤短冊三点			明治	個人蔵		書-84
書 74	奥山照子短冊2点ほか			明治	個人蔵		書-85
書 75	半田銀山祝作歌一首併短歌				個人蔵	奥山正胤の短歌	書-86
書 76	和歌			明治		作者：新井石禅	民芸-67

【有形文化財／美術工芸品／典籍】

※国見町固有となる典籍を掲載。

整理 番号	名称	所在地		時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字				
典 1	「埋火」（句集）	藤田	藤田	昭和		藤垣吟社の句集、昭和15（1940）年、大野他空による	古-646 有民⑦-3
典 2	東海林一郎「嫩芽劇談」	藤田	藤田	昭和		昭和12（1937）年11月、東海林一郎「嫩芽劇談」を書く	古-647
典 3	「つち音」創刊号	藤田	藤田	昭和	個人蔵	国見町農村青年建設班	有民⑦-12
典 4	「むつみ」藤田町の青年団誌	藤田	藤田	昭和	個人蔵		有民⑦-13
典 5	入山沿革史	森江野		昭和		森江野村の武田正義が小原村地内「入山沿革史」を藤田町外三か村入山組合から出版	有民⑦-7
典 6	森江野村青年団誌	森江野	森山	昭和	個人蔵	昭和11（1936）年、創立25年記念誌	有民⑦-8
典 7	三体書法教典三部（楷書、行書、草書）				個人蔵	菅野家に伝えられてきたもの	書-65

【有形文化財／美術工芸品／古文書】

※各古文書群名ごとに整理し、名称は『国見町史』等の既往資料に準拠した。特徴的な史料がある場合は古文書群名の下段に明朝体で特記した。

整理番号	名称	所在地		時代	所有者	備考	調査台帳番号
		地区	大字				
古 1	石母田区有文書	藤田	石母田	江戸／明治／昭和	石母田区	区有文書 点 (近代文書 ※町史掲載資料数)	古-465
	万治二年石母田村御蔵給人定納帳			江戸前期		万治2 (1659) 年	
古 2	佐藤五兵衛家文書	藤田	石母田	江戸／明治	個人蔵	江戸時代の石母田村名主を務めた佐藤家の文書 1740 点 (近世文書 1084 点、近代文書 656 点) 江戸時代の廻米、半田銀山の置米、戊辰戦争に関わる資料、明治期の行政・学校関係文書が残されている	古-484
	慶応元年 桑折代官支配伊達信夫両郡村々年貢物成津出の為、沼ノ上出役御用留帳			江戸後期		慶応元 (1865) 年 舟運、阿武隈川の河岸 年貢輸送 津出し (船で輸送、出す) のようすなど	古-454
	慶応二年 桑折代官支配伊達信夫両郡村々年貢物江戸御廻米書上			江戸後期		慶応2 (1866) 年 廻米と舟運、阿武隈川河口の荒浜湊より江戸の出荷されたことが記されている	古-458
	慶応四年御台場絵図			江戸後期 (幕末)		慶応4 (1868) 年 12 御台場のあった山 (硯石山)	古-462
	慶応四年石母田村農兵書上			江戸後期 (幕末)		慶応4 (1868) 年	古-463
古 3	国分午吉家文書	藤田	石母田	江戸後期	個人蔵	個人所蔵文書 2 点 (近世文書 ※町史等掲載資料数) 江戸時代の村役人に関わる資料	古-442,444
古 4	菊池利雄家文書	藤田	石母田	明治	個人蔵	個人所蔵文書 1 点 (近代文書 ※町史掲載資料) 明治期の養蚕業に関わる資料	古-485,568
古 5	斎藤勘十郎家文書	藤田	石母田	明治	個人蔵	個人所蔵文書 1 点 (近代文書 ※町史掲載資料) 明治初期の石母田城の様子を知ることができる資料	古-461
	旧石母田城跡絵図			明治		明治7 (1874) 年作成の丈量関係の図	
古 6	斎藤実家文書	藤田	石母田	昭和	個人蔵	個人所蔵文書 1 点 (現代文書 ※町史掲載資料) 農協に関わる文書	古-487
古 7	佐藤徳一郎文書	藤田	石母田	昭和	個人蔵	個人所蔵文書 2 点 (現代文書 ※町史掲載資料) 養鶏貯蓄組合に関わる文書	古-488
古 8	藤田区有文書	藤田	藤田	江戸／明治／昭和	藤田区	区有文書 810 点 (近世文書 498 点 近代文書 312 点) 旧藤田村・藤田区の名主文書で、村政・村況・税金・法令などの多様な資料	古-509
	明和五年 藤田村卯年より子年迄十九年蚕飼繭書上帳			江戸中期		明和5 (1768) 年 養蚕業、藤田村の繭の生産高とその内分け	
	藤田村絵図			江戸		天保年間 (1831 ~ 1845)	
	嘉永五年六月 藤田村旅籠屋召抱飯盛女奉公人に付差出一札			江戸後期		嘉永5 (1852) 年 藤田宿の飯盛女に関しての村と旅籠のやり取り	
	慶応二年藤田村安米渡し日記帳			江戸後期 (幕末)		慶応2 (1866) 年、信達大騒動の後、米価の安定を図るために安値段で米を買い入れて農民に配給した	
明治三十年四月藤田停車場設置に関する住民会議			明治	明治34 (1901) 年 交通、鉄道、藤田停車場設置	古-613		
古 9	旧藤田小学校文書	藤田	藤田	明治	国見町	旧小学校所有文書 1 点 (近代文書 ※町史掲載件数) 明治天皇行幸に関する資料	古-635,657
	明治九年 明治天皇東北巡幸藤田村宿割			明治		明治9 (1876) 年 白黒の写真図版	
古 10	二文字屋文書	藤田	藤田	江戸／明治	個人蔵	藤田宿で太物を扱っていた商家の文書 707 点 (近世文書 678 点、近代文書 29 点) 半田銀山・代官所・藤田宿・経営に関わる、江戸時代を中心とする資料群	
古 11	武田文治家文書	藤田	藤田	明治／大正／昭和	個人蔵	個人所蔵文書 46 点 (近代文書 38 点 現代文書 8 点 ※町史掲載資料) 旧藤田町の商業・金融に関する資料	古-650
	明治六年 藤田村絵図			明治		明治6 (1873) 年	
古 12	奥山忠雄家文書	藤田	藤田	明治／大正／昭和	個人蔵	個人所蔵文書 13 点 (近代文書 12 点 現代文書 1 点 ※町史掲載資料) ※このほか近世・近現代文書多数所蔵 旧藤田宿で呉服業を営んだ豪商。藤田の近代化を支えた奥山忠左衛門家	古-651
古 13	秦和夫家文書	藤田	藤田	明治	個人蔵	個人所蔵文書 8 点 (近代文書 ※町史掲載資料) 明治時代の戸長を務め、関連する資料群	古-652
古 14	秦勝喜家文書	藤田	藤田	明治	個人蔵	個人所蔵文書 5 点 (近代文書 ※町史掲載資料) 明治時代の戸長や郵便局長を務め、関連する資料群	古-653
古 15	武田太蔵家文書	藤田	藤田	明治	個人蔵	個人所蔵文書 1 点 (近代文書 ※町史掲載資料) 藤田宿の旅籠に関する資料	古-612
	明治三年藤田宿公用旅行者宿賃受取覚			明治		明治3 (1870) 年の藤田宿に往来した公用旅行者に対する費用を書き上げ、役所に届け出たもの	
古 16	東海林一郎家文書	藤田	藤田	明治	個人蔵	個人所蔵文書 2 点 (近代文書 ※町史掲載資料) 近代の文化資料としての演劇活動の資料 ※典籍資料としても整理	古-655
古 17	鈴木志都賀家文書	藤田	藤田	明治	個人蔵	個人所蔵文書 6 点 (現代文書 ※町史掲載資料) 社会教育・婦人会に関わる資料	古-667
古 18	佐藤吉郎家文書	藤田	藤田	明治	個人蔵	個人所蔵文書 1 点 (現代文書 ※町史掲載資料) 農業会に関わる資料	古-668
古 19	紺野友恭家文書	藤田	藤田	昭和	個人蔵	個人所蔵文書 2 点 (現代文書 ※町史掲載資料) つくだや運送にかかわる資料	古-669
古 20	渡辺良子家文書	藤田	藤田	昭和	個人蔵	個人所蔵文書 1 点 (現代文書 ※町史掲載資料) 福島消費組合にかかわる資料	古-670
古 21	熊田一怡家文書	藤田	藤田	昭和	個人蔵	個人所蔵文書 1 点 (現代文書 ※町史掲載資料) あつかし俳句会関係資料	古-672
古 22	旧藤田劇場文書	藤田	藤田	昭和	個人蔵	個人所蔵文書 1 点 (現代文書 ※町史掲載資料) 藤田劇場に関わる資料	古-682

整理 番号	名称	所在地		時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字				
古 23	国分次男家文書	藤田	藤田	江戸	個人蔵	個人蔵1点(近世文書 ※町史掲載件数) 江戸時代の宝暦11(1761)年、御巡見使案内控	古-923
古 24	山崎区有文書	藤田	山崎	江戸/明治/昭和	山崎区	区有文書564点(近世文書54点 近代文書510点) 旧山崎村・山崎区の名主文書・戸長役場文書で、村政・村況・税金・法令などの多様な資料	
	天保三年幕領桑折代官支配石母田村高及び改出新田取調書上帳		江戸後期	天保3(1832)年に、桑折代官所へ石母田村役人が提出した村高 ※石母田村に関する資料 延宝期の国領半兵衛による総検地以降の、福島藩・幕府領桑折代官・桑折藩の各検地について記述		古-441	
	山崎城絵図		江戸			古-683	
古 25	高橋外記家文書	藤田	山崎	江戸/明治/昭和	個人蔵	個人蔵文書13点(近世文書8点 近代文書5点) 江戸時代の村役人文書および近代の資料	古-722
古 26	中村政治家文書	藤田	山崎	昭和	個人蔵	個人蔵1点(現代文書 ※町史掲載資料数) 行政文書	古-724
古 27	山崎小館町内会文書	藤田	山崎	明治	団体蔵	団体蔵1(近代文書) 御福年講に関する資料	
	御福年講中台帳小館熊野前屋敷		明治～	古くから御福年講を継続実施してきた 講中台帳は明治23(1890)年から現代まで残されている		古-725	
古 28	国見町役場文書(藤田関係)	藤田		明治/大正/昭和	国見町	藤田に関わる行政文書等56点(近代文書 ※町史掲載資料数)	古-649
	郷土誌(藤田村)		明治	福島県訓令34号(明治44(1911)年)により当時の小学校及び役場が編集したもの		古-430	
古 29	ボーイスカウト福島第五三団文書	藤田		昭和	ボーイスカウト福島第五三団	団体所有文書1点(現代文書 ※町史掲載件数)	古-671
古 30	秦卓二家文書	藤田		明治	個人蔵	個人蔵1点(近代文書 ※町史掲載件数) 明治天皇巡幸の際の委嘱状	古-884
古 31	剣友会文書	藤田		昭和	剣友会	団体蔵2点(現代文書 ※町史掲載資料数) 剣道の活動団体に関する資料	
古 32	泉田区有文書	小坂	泉田	江戸/明治/大正/昭和	泉田区	区有文書239点(近世文書38、近代文書201) 旧泉田村・泉田区に関わる、村況・年貢(税)・山林・鉱山に関する資料	古-249,256
古 33	黒田武夫家文書	小坂	泉田	江戸	個人蔵	個人所蔵文書5点(近世文書) 江戸時代の交流や義経の腰掛松・政治に関する資料	古-247,248
古 34	愛宕堂文書	小坂	泉田	江戸		寺院所蔵文書2点(近世文書) 安政6(1859)年、愛宕堂再建に関する資料	古-688
古 35	菅野喜一家文書	小坂	内谷	江戸	個人蔵	個人蔵1点(近世文書1点) 江戸時代の内谷村・山崎村の農業水利(用水・溜井・用水に関する資料)	古-688
古 36	小坂区有文書	小坂	小坂	江戸/明治/大正/昭和	小坂区	区有文書783点(近世文書481、近代文書302) 旧小坂村に関わる、村況・年貢(税)・村絵図・宗門人別帳に関する資料、近代の政治・土地・鉱業に関する資料 万治2(1659)年、御蔵給人定納帳	
	延宝八年 福島藩主本田忠国領分小坂村年貢割付状		江戸前期	延宝8(1680)年 小坂村年貢割付状		古-266	
	寛延元年 幕領佐渡奉行支配小坂村年貢割付状		江戸中期	寛延元(1748)年 小坂村年貢割付状		古-268	
	寛延四年小坂村小物成古来より書上		江戸中期	寛延4(1751)年		古-303	
	宝暦二年より5か年定免請書		江戸中期	宝暦2(1752)年		古-302	
	天保十一年小坂村年貢皆済目録		江戸後期	天保11(1840)年		古-305	
	天保十四年小坂村高反別小前帳		江戸後期	天保14(1843)年		古-301	
	元治元年非常駆付働人数書上帳		江戸後期(幕末)	元治元(1864)年		古-307	
	慶応三年諸運上取調高書上		江戸後期(幕末)	慶応3(1867)年		古-304	
	明治十年十一月小坂村・泉田村崩山開坑不服申立		明治	明治10(1877)年 鉱業、半田銀山に関する初期の資料		古-242	
古 37	旧小坂小学校所蔵文書	小坂	小坂	江戸中期	国見町	旧小坂小学校所蔵文書1点(近世文書) 天明5(1785)年の旧小坂村絵図面	
	天明五年小坂番所絵図		江戸中期	天明5(1785)年		古-306	
古 38	佐藤善右衛門家文書	小坂	小坂	江戸/明治/大正/昭和	個人蔵	江戸時代の旧小坂村名主家、近代の地主・事業家であった佐藤善右衛門家所蔵文書30点(近世文書13、近代文書17 ※町史掲載点数) 江戸時代の名主資料、近代の小作・農業・養蚕経営、佐藤合名会社(金融)に関する資料	古-385
古 39	高原庄一家文書	小坂	小坂	江戸/明治	個人蔵	江戸時代の旧小坂村名主家であった高原庄一家所蔵文書425点(近世文書266、近代文書159) 江戸時代後期の名主文書、幕末期の村の様子が見える資料、近代の金融・養蚕に関する資料	
古 40	野村隆一家文書	小坂	小坂	大正	個人蔵	明治・大正期に藤田町にできた多くの会社経営に携わる野村家の文書6点(近代文書 ※町史掲載資料数) 伊達新炭株式会社に関する資料等	古-654

整理番号	名称	所在地		時代	所有者	備考	調査台帳番号
		地区	大字				
古 41	富塚家文書	小坂	小坂	戦国/安土桃山	個人蔵	町指定有形文化財「伊達晴宗判物、伊達政宗書状」 中世伊達氏の重臣であった富塚家所蔵文書2点(中世文書) 伊達晴宗による所領の安堵に関わる資料及び伊達政宗が伊達成実にあてた書状	
	伊達晴宗判物			戦国		32×34cm、天文18(1549)年4月21日、伊達晴宗が小梁川大炊に宛てた所領に関わる判物 伊達晴宗が、富塚仲綱の遺領を黒田二郎右衛門に給し、小梁川大炊助の二郎右衛門よりの買地を安堵した宛行状	古-408
	伊達政宗書状			安土桃山		34×40cm、天正15(1587)年9月29日、伊達政宗が伊達成実(五郎)へ宛てた書状 伊達政宗が、大内備前の音信について記した書状	古-408
古 42	鳥取区有文書	小坂	鳥取	江戸/明治/大正/昭和	鳥取区	区有文書232点(近世文書8点、近代文書215点) 旧鳥取村、鳥取区の土地・村政などに関わる資料群	
古 43	高野伊勢男家文書	小坂	鳥取	江戸/昭和	個人蔵	個人所蔵文書10点(近世文書2点、近代文書8点 ※町史掲載資料数)、江戸時代の村絵図、村況に関わる資料と、戦前・戦中の農業・行政に関わる資料	古-423
	鳥取村絵図			江戸		延享4(1747)年作成の村絵図	古-425
古 44	国見町役場文書(小坂関係資料)	小坂		江戸/明治/昭和	国見町	小坂に関わる文書58点(近世文書19点、近代文書35点、現代文書4点 ※町史・郷土誌掲載資料数) 江戸時代の村絵図・書状、小坂村会議事録・農政・公衆衛生・災害復旧等に関する資料等	
	小坂村御立林並村林絵図：貞享4(1687)年			江戸		小坂村の惣百姓と間屋源二郎の間で山の境を確認して示した図	古-407
	小坂村図：元禄8(1695)年			江戸		元禄8年4月、小坂村名主惣右工門、組頭助左工門、清兵工の書き込み有郷土誌に掲載	古-387
	泉田村地図：元禄元(1688)年			江戸		北半田村との村境の争いの判決文が裏書にある郷土誌に掲載	古-388
	鳥取村地図：延享4(1747)年			江戸		余白に名主市郎左衛門の書き込み有郷土誌に掲載	
	明治九年泉田村ノ図			明治		明治9(1876)年郷土誌に掲載	古-390
	明治三十四年小坂村半田山崩壊被害者救済の件			明治		明治34(1901)年災害	古-366
	明治四十三年八月半田村半田銀山崩壊地図			明治		明治43(1910)年	古-391
郷土誌(小坂村)	明治	福島県訓令34号(明治44(1911)年)により当時の小学校及び役場が編集したもの	古-432				
古 45	大木戸区有文書	大木戸	大木戸	明治/昭和	大木戸区	区有文書800点(近世文書410点、近代文書390点) 旧西大窪村・旧大木戸村に関わる、延宝2(1674)年から昭和にかけての土地・年貢(税)・政治等に関する文書	
	明治十五年大木戸村物産表			明治		経済・生産物調	古-111
古 46	旧大木戸小学校文書	大木戸	大木戸	明治	国見町(旧大木戸小学校)	旧大木戸小学校所蔵文書2点(近代文書、※町史掲載資料数) 明治末の産業に関わる文書	
古 47	旧国見農協大木戸支所文書	大木戸	大木戸	昭和	旧国見農協大木戸支所	旧国見農協大木戸支所所蔵文書7点(現代文書、※町史掲載資料数) 戦中・戦後の農業統制・農業生産・貯蓄等に関する資料	
古 48	半澤重夫家文書	大木戸	大木戸	江戸/明治/大正/昭和	国見町/個人蔵	明治期に地主・事業家として大成する半澤家文書12点(近世文書4点、近代文書8点、※町史掲載資料数) 江戸期の政治に関わる文書、明治期の小作経営・塩釜海岸埋立事業・大規模果樹園経営に関する資料	古-142
	寛延四年 東大窪村新料・古料惣百姓の合村願			江戸中期		寛延4(1751)年村が二分、三分されたために農民の生活は厳しくなり合村の願いが出された	古-109
	大正三年九月半沢農園の歴史			大正		大正3(1914)年半沢家の農業経営	古-121
	大正十五年半沢果樹園の桜桃出荷状況(抄)			大正		大正15(1926)年半沢家の農業経営	古-122
古 49	阿部強家文書	大木戸	大木戸	大正/昭和	個人蔵	近代の中堅層に属する農家である阿部家文書11点(近代文書 ※町史掲載資料数) 大正9(1920)年から昭和30年代までの農業経営に関する資料 ※阿部喜作家文書とも	古-1271
古 50	阿部武夫家文書	大木戸	大木戸	明治	個人蔵	阿部家文書2点(近代文書 ※町史掲載資料数) 明治初期の旧東大窪小学校に関わる資料	古-143
古 51	貝田区有文書	大木戸	貝田	明治/大正/昭和	貝田区	区有文書3点(近代文書 ※町史掲載資料数) 大正期の農業組合に関する文書、昭和期の藤田商業報国会結成に関する資料	
古 52	大沼慶一家文書	大木戸	貝田	昭和	個人蔵	個人所蔵文書1点(現代文書) 貝田駅設置要望に関する鉄道資料	古-175
古 53	大沼ハルヨ家文書	大木戸	貝田	江戸/明治/大正/昭和	個人蔵	個人所蔵文書484点(近世文書143点、近現代文書341点) 延宝6(1678)年から昭和にかけての、旧貝田村・区に関わる資料、江戸時代の年貢・森林管理、近代の戸長役場・農業・生糸(扶桑社)に関する資料	
古 54	三常院保管文書	大木戸	光明寺	江戸	三常院	三常院阿弥陀三尊像に関わる文書1点(近世文書)	
	御再興略録記			江戸		三常院阿弥陀如来立像が平成17(2005)年修理時、胎内書札(桐板)発見 元文2(1732)年の松平氏により改修された際、記された縁起	古-681
古 55	渋谷一穂家文書	大木戸	光明寺	江戸	個人蔵	個人蔵1点(現代文書 ※町史掲載資料数) 寛政12(1800)年の村名主に関わる文書	古-940
古 56	光明寺区有文書	大木戸	高城	江戸/明治	光明寺区	区有文書94点(近世文書6点、近代文書87点、現代1) 江戸時代の旧光明寺村・近代の光明寺区に関する資料	
	光明寺村絵図			江戸		文久元(1861)年、現在と同じく3つの水路が描かれており、江戸時代にはおおむねかんがい施設が整えられた	古-187

整理 番号	名称	所在地		時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字				
古 57	高城区有文書	大木戸	高城	江戸／明治	高城区	区有文書 19 点 (近世文書 18、近代文書 1 ※町史等掲載資料数) 江戸時代の旧東大窪村に関わる、年貢・村況に関する資料	
古 58	安養寺保有文書	大木戸	高城	江戸	安養寺	安養寺所蔵文書 6 点 (近世文書 ※町史掲載資料数)、江戸時代の旧東大窪村 に関わる、村況、廻米、凶作・生活困窮者対策に関する資料	
	明和六年 御年貢江戸廻米納入 覚			江戸中期		明和 6 (1769) 年 廻米と舟運	古-191
古 59	八島健家文書	大木戸	高城	江戸／明治	高城区	個人所蔵文書 14 点 (近世文書 3、近代文書 11 ※町史等掲載資料数)、旧東大 窪村・高城区に関わる、幕末から明治にかけての農業・村政に関する資料	古-199
	明治二十一年十二月 大木戸・ 光明寺・貝田四か村合併に伴う 約定書			明治		明治 22 (1889) 年の合併に向けて 4 か村が取り交わした約定書 『明治四年六月諸願届并御請書等万扣帳』より	古-1098
古 60	八島栄一家文書	大木戸	高城	江戸	個人蔵	個人所蔵文書 2 点 (近世文書 ※町史等掲載資料数) 江戸時代の旧東大窪村に関わる、村況・水利に関する資料	古- 190,221
古 61	国見町役場文書 (大木戸関係資料)	大木戸		明治／昭和	国見町	大木戸に関わる行政文書等 4 点 (近代文書 ※町史掲載資料数) 大木戸会議事録・統制・学校教育に関する資料等	
	郷土誌 (大木戸村)			明治		福島県訓令 34 号 (明治 44 (1911) 年) により当時の小学校及び役場が編纂 したもの	古-431
古 62	岩代国伊達郡川内 村文書	西大枝	川内	江戸／明治	明治大学刑事 博物館	川内村文書 520 点 (近世文書 487 点、近代文書 33 点)、延宝 6 (1678) 年～明 治 6 (1873) 年の年貢割付状・皆済目録がほぼ毎年揃う	古-59
古 63	後藤佐平治家文書	西大枝	川内	明治／大正	個人蔵	周旋業 (口入屋) を行っていた後藤佐平治による文書 5 点 (近代文書) 明治から大正期の養蚕業に必要な労働力を確保するため斡旋を行った周旋 業に関する資料	古- 858-860
古 64	川内区有文書	西大枝	川内	江戸／明治/ 大正／昭和	川内区	川内区有文書 26 点 (近世文書 1 点、近代文書 25 点) 土地・政治・山林等に関わる地域の文書	
古 65	西大枝区有文書	西大枝	西大枝	江戸／明治/ 大正／昭和	西大枝区	西大枝区所有文書 1038 点 (近世文書 695 点、近代文書 343 点)、延宝 2 (1674) 年から昭和にかけての土地・年貢 (税)・政治・利水等に関する文書	
	延宝七年福島藩主本田忠国領分 西大枝村年貢割付状			江戸前期		延宝 7 (1679) 年	古-64
	享保十八年西大枝村古切支丹類 族出生に付請状			江戸中期		享保 18 (1733) 年、古切支丹の一族は子孫 6 代にわたって出生、死亡、縁組 等を村役人から役所に届けることになっていた	古-906
	宝暦七年百姓持林についての帳 面			近世		宝暦 7 (1757) 年	古-90
	安永五年仙台領小原山野手請取 帳			江戸中期		安永 5 (1776) 年	古-87
	天保十二年西大枝村絵図			江戸後期		天保 12 (1841) 年	古-86
	嘉永元年上堰についての小前帳			江戸後期 (幕 末)		嘉永元 (1848) 年	古-88
	慶応元年糸釜書上帳			江戸後期		慶応元 (1865) 年	古-84
	慶応四年 西大枝村御台場絵図			江戸後期 (幕 末)		慶応 4 (1868) 年 戊辰戦争時、西大枝字築館地内に仙台藩が構築した砲台場の絵図面	古-93
	明治六年堰人足割合帳			明治		明治 6 (1873) 年	古-89
古 66	国見町役場文書 (大枝関係資料)	西大枝		明治／大正/ 昭和	国見町	大枝に関わる行政文書等 8 点 (近代文書 ※町史掲載資料数) 大枝村会議事録・大枝消防組・昭和 29 (1954) 年合併に関する資料等	
	昭和二十九年三月 国見町の 新設及び東大枝区域の梁川町編入 に伴う境界変更			昭和		明治 29 (1896) 年 町村合併と東大枝の分村に伴う境界変更	古-97
	郷土誌 (大枝村)			明治～昭和		福島県訓令 34 号 (明治 44 (1911) 年) により当時の小学校及び役場が編纂 したもの	古-434
古 67	大枝小学校文書	西大枝		明治／大正/ 昭和	旧大枝小学校 (伊達市梁川 町東大枝)	旧大枝小学校所蔵文書 129 点 (近現代文書、※町史掲載資料数) 明治～大正期の郡役所などへの書類、戦後の連合国軍による民主化政策に関わ る文書、主に校長であった大槻惣兵衛が残した資料群	古- 52,54,98
古 68	塚野目区有文書	森江野	塚野目	江戸／明治/ 大正／昭和	塚野目区	区有文書 72 点 (近世文書 13 点、近代文書 59 点)、旧山崎村・山崎区の名主文 書・戸長役場文書で、村政・村況・税金・法令などの多様な資料	
	延宝二年塚野目検地帳 3部			江戸前期		延宝 2 (1674) 年	古-744
古 69	佐久間直次家文書	森江野	塚野目	昭和	個人蔵	個人蔵文書 4 点 (近代文書 4 点 ※町史掲載資料数) 森江野村の戦中の防空・統制に関する資料、戦後の農業に関する資料	古-746
古 70	佐久間勝家文書	森江野	塚野目	昭和	個人蔵	個人所蔵文書 1 点 (近代文書 ※町史掲載資料数) 昭和初期の農村の経済再生に関わる森江野村の行政文書	古-1245
古 71	吉田光夫家文書	森江野	塚野目	昭和	個人蔵	個人所蔵文書 4 点 (近世文書 3、近代文書 1 ※町史掲載資料数) 江戸時代の生活や村方文書に関する資料	
古 72	徳江区有文書	森江野	徳江	江戸／明治/ 大正／昭和	徳江区	区有文書 256 点 (近世文書 28 点、近代文書 228 点)	
	明治十八年十二月 国見山古戦 場碑建設			明治		明治 18 (1885) 年 碑建設のための人夫依頼	古-758
	明治二十年 徳江村地内阿武隈 川筋古今治草誌			明治		明治 20 (1887) 年 阿武隈川筋の沿革	古-751
古 73	観音寺文書	森江野	徳江		観音寺	寺院所有文書 6 点 (近世文書 ※町史掲載資料数)	古-764
古 74	佐藤新七家文書	森江野	徳江	昭和	個人蔵	個人所蔵文書 93 点 (近世文書 55、近代文書 38 ※町史掲載資料数)	古- 415,760
古 75	斎藤勘吉家文書	森江野	徳江	昭和	個人蔵	個人所蔵文書 1 点 (近代文書 ※町史掲載資料数)	古- 761,1235
古 76	蓬田勝家文書	森江野	徳江	昭和	個人蔵	個人所蔵文書 2 点 (現代文書 ※町史掲載資料数) 戦後の農地改革に関わる旧地主に関する資料	古-763

整理 番号	名称	所在地		時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字				
古 77	森山区有文書	森江野	森山	江戸/明治/ 大正/昭和	森山区	区有文書 568 点 (近世文書 355 点 近代文書 213 点)	
	寛文十一年森山村年貢割付状			江戸前期		寛文 11 (1671) 年	古-805
古 78	武田正大家文書	森江野	森山	大正	個人蔵	個人所蔵文書 1 点 (近代文書 ※町史掲載資料) 藤田民衆倶楽部に関する資料	古-644
古 79	武田新右衛門家文書	森江野	森山	江戸	個人蔵	個人所蔵文書 12 点 (近世文書 ※町史掲載資料数)	
古 80	佐久間成章家文書	森江野	森山	江戸/明治/ 大正/昭和	個人蔵	個人所蔵文書 19 点 (近世文書 7 点、近代文書 12 ※町史掲載資料数)	古-820,826
古 81	広居米之助家文書	森江野	森山	大正/昭和	個人蔵	個人所蔵文書 83 点 (近代文書 ※町史掲載件数)、大正～戦後にかけての森江野村に関わる村政・農業・戦中の統制等に関する資料	古-821,825
古 82	国見町役場文書 (森江野関係)	森江野		昭和	国見町	森江野に関わる行政文書等 4 点 (近代文書 1 現代文書 3 ※町史掲載資料数)	
	郷土誌 (森江野村)			明治		福島県訓令 34 号 (明治 44 (1911) 年) により当時の小学校及び役場が編纂したもの	古-433
古 83	国見町役場文書			明治/大正/ 昭和	国見町	国見町全域あるいは複数の地区にまたがる行政文書等 102 点 (近代文書 14、現代文書 88 ※町史掲載資料数) 明治から昭和初期の旧町村、戦後の国見町に関わる行政全般の資料	
古 84	国見町商工会文書			昭和	国見町商工会	団体所蔵 14 点 (現代文書 ※町史掲載件数) 国見町内の商工業 (商店・メリヤスなど) に関する資料	古-1322
古 85	国見町郷土史研究会 所蔵文書			昭和	国見町郷土史 研究会	団体所蔵 2 点 (現代文書 ※町史掲載件数) 昭和 46 (1971) 年設立以降、国見町の郷土史研究に関わる活動の資料	古-1326
古 86	あつかし俳句会 所蔵資料			昭和	あつかし俳句 会	団体所蔵 1 点 (現代文書 ※町史掲載件数) 国見町の俳句に関わる活動の資料	古-1315
古 87	佐久間欣一家文書					日記、大正の初めから昭和の初期まで書かれている。内容は毎日の出来事と、農業経営を記している。他の金銭出納簿もある	古-1427
古 88	丈量帳				国見町	明治 7 (1874) 年、御地租改正事業と別に揃えられていたもの 明治 22 (1889) 年の町村制施行により合併した市町村に引き継がれ現在も各役場に公図として保管されている	古-1434
古 89	藤田通運文書	桑折町		昭和	藤田通運(株)	団体蔵 4 点 (現代文書 ※町史掲載資料数) 運輸事業に関する会社資料	
古 90	早田伝之助家文書	桑折町		明治	個人蔵	近世・近代の有力豪農家であった早田伝之助家文書 (近代 3 点 ※町史掲載資料のみ) 近世の北半田村 (桑折町) 名主家、半田銀山の経営も行った豪農、国見町の村役人も兼ね、近代においても地域で重要な役割を果たす	
古 91	西根塚土地改良区 文書	桑折町			西根塚土地改 良区	西根塚および土地改良事業における国見町に関わる文書 (点数不明)	古-1430
古 92	福島県庁文書	福島市		江戸/明治	福島県	県庁文書 71 点 (近世文書 1、近代文書 70 ※町史掲載資料) 江戸時代から現代にいたるまでの県庁に所蔵されている国見町関連文書	古-1270
	貝田村絵図			江戸		元禄 11 (1698) 年 牛沢川をはさみ「町内四丁」と記された貝田の宿場町が描かれている	古-179
	明治九年六月 高城村・大木戸 村村名改称の県達			明治		明治 9 (1876) 年 町村制の変遷	古-202
	明治二十一年二月藤田村飲料水 引水に関する上申書、計画書			明治		明治 21 (1888) 年 土木	古-623
	明治二十三年十月小坂村水車新 設願			明治		明治 23 (1890) 年 工業	古-351
	明治三十一年十二月 各村統計 書			明治		明治 31 (1898) 年 各村統計	
	明治三十一年七月 大木戸村役 場位置変更申請書			明治		明治 31 (1898) 年 町村制の変遷	古-137
	明治四十年大木戸村農蚕家生活 状態取調			明治		明治 40 (1907) 年 農業経営 (貧富等級・平均) (貧富等級二等) (貧富等級九等) の 3 種	古-118-120
明治四十一年四月大木戸村火災 状況報告			明治		明治 41 (1908) 年 災害	古-138	
古 93	福島県立図書館所 蔵文書	福島市		江戸/明治	福島県	県立図書館所蔵文書 19 点 (近世文書 1、近代文書 18 ※町史掲載資料) 江戸時代から現代にいたるまでの県立図書館に所蔵されている国見町関連文書	
	阿武隈川水路図			江戸初期		河村瑞賢作成	古-874
	明治六年十一月 藤田村小学校 開設願			明治		明治 6 (1873) 年 学校教育、小学校創設関係資料	古-637
	明治六年十二月 藤田小学校開 設届			明治		明治 6 (1873) 年 学校教育、小学校創設関係資料	古-638
	脇往還仙台松前道 近世末奥州 貝田宿駅図			明治		明治 10 (1877) 年頃作成	古-80
	高橋由一の「大木戸村国見峠下 新道ノ図」			明治		県令三島通庸が「会津三方道路」の開鑿を計画し河野広中らの反対を押し切って建設を強行し、明治 17 (1884) ~ 18 (1885) 年に旧国道を建設したこの図は現在の県北中学校北側の国道 4 号と旧国道の交差点付近から写生したもの	古-147
古 94	宮城県図書館所蔵 文書	宮城県 仙台市		中世/江戸	宮城県図書館	県図書館所蔵文書 4 点 (中世文書 2、近世文書 2 ※町史掲載資料) 中世から近世にいたるまでの県図書館に所蔵されている国見町関連文書	
	元禄十四年仙台藩との境の絵図			江戸前期			古-992

【有形文化財／美術工芸品／考古資料】

※遺跡ごとに出土物をまとめて掲載（複数時代にまたがる遺跡は時代ごとでも分けて掲載している）。

整理番号	名称	出土地			時代	所有者 (所在地)	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
考 1	館ノ内遺跡出土遺物	藤田	石母田	館ノ内	縄文	個人蔵	縄文土器、土製品 縄文時代後晩期	考-82
考 2	正玄堂遺跡出土瓦	藤田	石母田	台	古代	三吉神社 (石母田)	軒平瓦	考-84
考 3	樋口遺跡出土遺物	藤田	石母田	樋口	縄文	個人蔵	土偶、石斧	考-85
考 4	観月台遺跡出土土師器	藤田	藤田	観月台	古墳～ 13世紀頃	町教育委員会	土師器	考-86
考 5	堰下遺跡出土土器	小坂	泉田	堰下	弥生	町教育委員会	弥生土器	考-66
考 6	堰下遺跡出土石斧	小坂	泉田	堰下	弥生	個人蔵	蛤刃石斧	考-67
考 7	堰下古墳出土古墳時代遺物	小坂	泉田	堰下	古墳	町教育委員会	円筒埴輪、石製模造品、古墳時代中期 昭和46(1971)年・平成10(1998)年調査等出土遺物	考-68
考 8	神武山遺跡出土須恵器	小坂	泉田	神武山	古墳～ 13世紀頃	個人蔵 町教育委員会	須恵器(長頸壺)	考-72
考 9	堰下古墳経塚出土洲浜双鳥鏡	小坂	泉田	堰下	12世紀後半	町教育委員会	径9.6cmの小型円鏡、藤原鏡の特徴を持つ、12世紀後半のもの 堰下古墳の封土上から発見された	考-73
考 10	小門先出土小仏像	小坂	内谷		鎌倉～室町	個人蔵	火災にかかった4体の金銅仏、隣接地からは観音銅仏 昭和初期出土、密教系寺院の跡か	彫-33,38
考 11	内谷道場跡出土仏像	小坂	内谷	桐目木 矢木沢		個人蔵	金銅製聖観音立像 高さ75mm、幅16mmの大きさ 大正11(1922)年、畑から発見	彫-37
考 12	川原遺跡出土縄文時代遺物	小坂	小坂	川原	縄文	県教育委員会	鉢、壺、注口土器、縄文時代後期 昭和48(1973)年調査出土遺物	考-74~81
考 13	赤坂地区出土壺	大木戸	大木戸	赤土	古代	個人蔵	須恵器(壺)、字赤土出土 大木戸窯跡関連か	考-31
考 14	大木戸1号墳出土遺物	大木戸	大木戸	馬捨	古墳	町教育委員会	銀環、金環、鉄鏃、古墳時代終末期 昭和47(1972)年調査出土遺物	考-32
考 15	大木戸古墳群出土須恵器	大木戸	大木戸	遠光 原山	古墳	個人蔵	須恵器(長頸壺)	考-33
考 16	大木戸6号墳出土蕨手刀	大木戸	大木戸	遠光 原山	古墳	町教育委員会	蕨手刀	考-34
考 17	大木戸窯跡出土須恵器	大木戸	大木戸	中野窪	8世紀	町教育委員会	杯、壺、蓋、盤、高台付杯、甕、8世紀 昭和47(1972)年調査出土遺物	考-35,36
考 18	高橋遺跡出土遺物	大木戸	大木戸	高橋	縄文	個人蔵	石鏃・その他	考-37
考 19	車遺跡出土遺物	大木戸	貝田	車	縄文	個人蔵	縄文土器、縄文時代後期	考-38
考 20	山田遺跡出土縄文時代遺物	大木戸	光明寺	山田	縄文	町教育委員会	深鉢、鉢、石鏃、石器類、石棒、土偶、土製品、縄文時代中期・後期・ 晩期、昭和46(1971)年調査出土遺物	考-39~45
考 21	山田遺跡出土石包丁	大木戸	光明寺	山田	弥生	丹野家資料	石包丁	考-46
考 22	山居遺跡出土管玉	大木戸	高城	山居	弥生	個人蔵	碧玉製管玉	考-48
考 23	山居遺跡出土瓦	大木戸	高城	山居	古代	安養寺(高城)	軒丸瓦	考-49
考 24	山居遺跡出土瓦	大木戸	高城	山居	古代	町教育委員会	平瓦	考-50
考 25	岩淵遺跡出土縄文時代遺物	大木戸	高城	岩淵	縄文	町教育委員会	深鉢、鉢、石器類、土偶、土製品ほか、縄文時代中期・後期、昭和48 (1973)年調査出土遺物	考-51
考 26	大型石器	大木戸	高城	岩淵 山居	弥生	個人蔵	山居遺跡・岩淵遺跡出土、農耕に用いられた可能性	考-52
考 27	中山遺跡出土石鏃	大木戸	高城	中山	弥生	個人蔵	アメリカ式石鏃	考-54
考 28	中山遺跡出土石器	大木戸	高城	中山	旧石器/縄文	個人蔵	削器、刃器、局部磨製石器、石匙、石鏃、石錘、石篋、磨製石器、打 製石器	考-55~58
考 29	山居遺跡出土製鉄関連遺物	大木戸	高城	山居	10世紀	町教育委員会	羽口・鉄滓・土師器(坏) 昭和48(1973)年調査出土遺物	考-59,60
考 30	石田遺跡出土遺物	大木戸	高城	石田	縄文	町教育委員会	縄文土器・石鏃、縄文時代後晩期	考-61
考 31	中島遺跡出土遺物	大木戸	高城	中島	縄文	個人蔵	縄文土器・石鏃・磨製石器、磨製石斧・打製石斧 縄文時代後晩期	考-62,63
考 32	竹ノ内遺跡出土縄文時代遺物	西大枝	西大枝	竹ノ内	縄文	町教育委員会	浅鉢、深鉢、注口土器、小型土器、石鏃、石斧、土偶、土製品ほか、 縄文時代後晩期、昭和47(1972)年調査出土遺物	考-1~15
考 33	竹ノ内遺跡出土縄文時代遺物	西大枝	西大枝	竹ノ内	縄文	丹野家資料	注口土器・深鉢・浅鉢・きのこ状土製品・土製耳飾り・石鏃・球状耳飾り・ 小玉ほか、縄文時代後晩期	考-16~28
考 34	青木遺跡出土石棒	西大枝	西大枝	青木	縄文	個人蔵	長さ57cm	考-29
考 35	青木遺跡出土石鏃	西大枝	西大枝	青木	弥生	丹野家資料	アメリカ式石鏃	考-47,54
考 36	金谷館跡出土小仏像	西大枝	西大枝	下金谷	室町	個人蔵	弁財天像	彫-4
考 37	塚野目11号墳出土石製模造品	森江野	塚野目	福田	古墳	町教育委員会	石製模造品 採集資料、古墳時代中期	考-69,70
考 38	南寺田遺跡出土土師器	森江野	塚野目	南寺田	古墳	町教育委員会	土師器(高坏、壺、杯、ほか)	考-89,90
考 39	南寺田遺跡出土土師器	森江野	塚野目	南寺田	古墳	丹野家資料	土師器(杯)	考-91
考 40	三本木遺跡出土土師器	森江野	塚野目	三本木	古墳	個人蔵	土師器(甕)	考-92

整理番号	名称	出土地			時代	所有者 (所在地)	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
考 41	塚野目1号墳出土埴輪	森江野	塚野目	畑前林	古墳	町教育委員会	円筒埴輪、朝顔形埴輪、古墳時代中期昭和50(1975)年調査等出土遺物	考-93~95
考 42	反畑遺跡出土古墳時代遺物	森江野	徳江	反畑	5世紀後半	町教育委員会	石製模造品、土師器、古墳時代中期昭和46(1971)年調査出土遺物	考-96
考 43	徳江廃寺跡出土遺物	森江野	徳江	沼田	古代	町教育委員会	軒丸瓦、軒平瓦、瓦類・土師器・須恵器・鉄釘・青磁片、古代、昭和46(1971)年調査出土遺物	考-99~105
考 44	森山古墳群出土打製石斧	森江野	森山	上野薬師	弥生	町教育委員会	森山1号墳出土	考-53
考 45	太田川遺跡出土土師器	森江野	森山	太田川	古墳	町教育委員会	土師器	考-98
考 46	上野台遺跡出土遺物	森江野	森山	上野台	旧石器	個人蔵 町教育委員会	尖頭器、球状耳飾、石匙・石鏃・石錘・石篋、縄文土器	考-106~108
考 47	森山4号墳出土遺物	森江野	森山	上野薬師	古墳	個人蔵 町教育委員会	銀環・直刀	考-109,110
考 48	森山1号墳出土土師器	森江野	森山	上野薬師	古墳	町教育委員会	土師器	考-111
考 49	西新田遺跡出土土師器	森江野	森山	西新田	古墳~13世紀頃	個人蔵	土師器	考-112
考 50	出土地不明骨角器				縄文	個人蔵	骨角器(釣針・鏃・燕尾型銚先)、縄文時代	考-30
考 51	出土地不明磨製石斧				縄文	三吉神社(石母田)		考-64
考 52	出土地不明土師器				古代	三吉神社(石母田)	土師器	考-83
考 53	出土地不明石器				弥生	三吉神社(石母田)	片刃局部磨製石器・蛤刃石斧・石包丁字荒戸沢出土と伝承	考-65,87
考 54	出土地不明土師器				古墳	三吉神社(石母田)	古式土師器(器片)	考-97
考 55	石皿				縄文	個人蔵	穀物、木の実などをすり潰すために使用	考-113
考 56	石器				縄文	個人蔵	縄文時代のナイフ	考-114
考 57	元館遺跡出土石鏃	伊達市	梁川町東大枝	元館	弥生	個人蔵	アメリカ式石鏃	考-54
考 58	塚野目6号墳出土古墳時代遺物	桑折町	伊達崎	錦木塚	古墳	個人蔵	耳環、管玉、切子玉、小玉、古墳時代	考-88

【有形文化財／美術工芸品／歴史資料】

※筆塚・個人の顕彰碑・竣工記念碑などの石碑、刊行物に掲載されるなどの古写真、高札・棟札などの古文書以外の資料を掲載。

整理番号	名称	所在地			時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
歴 1	小坂村青年団早起会	藤田	藤田		昭和	個人蔵	写真、昭和8(1933)年	歴-36
歴 2	小坂小学校高等科勤労奉仕	藤田	藤田		昭和	個人蔵	写真、昭和13(1938)年	歴-37
歴 3	国見神社の「永」の額	藤田	石母田	国見	江戸	国見神社	文化7(1807)年、堀田正敦が松前蝦夷巡視から帰った際、大島正勝の扁額を奉納したものとされる	歴-48
歴 4	義経腰掛の松の碑	藤田	石母田	笠松	江戸		寛政12(1800)年10月建立、樹下に義経神社、奥州街道の名所、江戸の文人随古堂茶寮が建立	歴-49
歴 5	太政官布告	藤田	石母田		江戸末期	石母田区	慶応4(1868)年	歴-50
歴 6	石母田地区有山記念碑	藤田	石母田		大正		大正5(1916)年、石母田農協支所脇に立つ、松浦亀蔵撰、斎藤松雲書	歴-52
歴 7	八弁花紋の仏像台座石	藤田	石母田				佐藤喜藤次家土台石、文政5(1822)年(棟札)に建てられた土蔵修理の際に発見、満福寺のもの可能性が指摘される	史③-34
歴 8	鹿島神社の画碑(熊坂道山の画碑)	藤田	藤田	町尻	江戸	鹿島神社	熊沢道山は南画家、梁川松前藩のお抱絵師、上に十数名の漢詩和歌俳句の讃があり奥山照子も詠んでいる	歴-54
歴 9	藤田小学校校舎	藤田	藤田	町尻	明治	藤田小学校	写真資料、明治12(1879)年新築	歴-55
歴 10	第七銀行藤田支店	藤田	藤田		大正	個人蔵	写真資料、大正12(1923)年	歴-57
歴 11	藤田郵便局	藤田	藤田		大正	藤田郵便局	写真、大正9(1920)年	歴-59
歴 12	武田文蔵雑貨店	藤田	藤田		昭和	個人蔵	写真、昭和初期	歴-60
歴 13	自転車競走記念(親月台公園にて)	藤田	藤田		大正	個人蔵	写真、大正末期	歴-61
歴 14	奥山亀治醤油店	藤田	藤田		昭和	個人蔵	写真、昭和3(1928)年	歴-62
歴 15	鹿島神社梵鐘供出	藤田	藤田		昭和	個人蔵	写真、昭和18(1943)年	歴-63
歴 16	鹿島神社例大祭風景	藤田	藤田		昭和	個人蔵	写真、昭和初期	歴-65
歴 17	藤田村外十一ヶ村村戸長役場	藤田	藤田		明治	個人蔵	写真、明治16(1883)年	歴-66
歴 18	藤田町食糧増産勤労奉仕隊	藤田	藤田		昭和	個人蔵	写真、昭和17(1942)年	歴-67
歴 19	山階宮下飛行場(藤田小学校)	藤田	藤田		昭和	個人蔵	写真、昭和2(1927)年	歴-68
歴 20	藤田町の真綿かけ講習会	藤田	藤田		昭和	個人蔵	写真、昭和16(1941)年	歴-69

整理 番号	名称	所在地			時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
歴	21 藤田村の家並	藤田	藤田		明治	個人蔵	写真、明治末期、町並みは現存するものがない	歴-71
歴	22 昭和29年までの藤田町役場	藤田	藤田		昭和	町有	写真	歴-72
歴	23 遠藤佐七氏の石碑	藤田	藤田	観月台	昭和		正調の音曲、祭囃子、謡曲などの教師を偲び、昭和9(1934)年に門人たちが建立。観月台の忠魂碑脇に建てられ、後に蔵島神社脇へ移転	歴-73
歴	24 早田弘道碑	藤田	藤田	観月台	江戸		文久3(1863)年建立、観月台の富士神社そばにある。大きな台石の上に高さ116cm、幅107cm、厚さ44cmの碑面に碑文20行が刻まれる	歴-74
歴	25 思い出の学校防空壕造り	藤田	藤田		昭和	個人蔵	藤田小学校での防空壕造りの写真、昭和20(1945)年完成	歴-75
歴	26 藤田小学校関係資料	藤田	藤田		昭和	藤田小学校	写真、棟札ほか	歴-76
歴	27 観月台ため池改修記念碑	藤田	藤田	観月台	昭和		観月台公園、昭和5(1930)年	歴-77
歴	28 藤田小学校百周年記念碑	藤田	藤田		昭和		昭和48(1973)年	歴-78
歴	29 拓本、あつかし俳句会句碑	藤田	藤田	町尻	昭和		鹿島神社、昭和62(1987)年	歴-79
歴	30 拓本、公園観月台正門の碑	藤田	藤田	観月台	大正		大正12(1923)年	歴-80
歴	31 拓本、観月台碑	藤田	藤田	観月台	大正		大正4(1915)年	歴-81
歴	32 高低几号標	藤田	藤田	堤下	明治	大千寺	明治政府が明治8(1875)～9(1876)年にかけて行った東京-塩釜間の水準測量の水準点、昭和27(1894)年頃建立	歴-83
歴	33 鹿島神社棟札	藤田	藤田	町尻		鹿島神社		歴-84
歴	34 早田伝之助頌徳碑	藤田	藤田	観月台	江戸		明治19(1886)年、観月台公園	歴-102
歴	35 大野朝臣東人の碑	藤田	藤田	町尻	昭和		奈良時代の武将、碑は鹿島神社隣に昭和63(1988)年建立 施主：大野資	歴-109
歴	36 藤田町「嫩芽会」誌	藤田	藤田		昭和	個人蔵	昭和12(1937)年	歴-70
歴	37 太政官布告	藤田	藤田		明治	鹿島神社	30×60cm	書-23
歴	38 御宿割表板	藤田	藤田		明治	藤田小学校	明治天皇東北巡幸の際、随行の宿割	歴-135
歴	39 藤田小学校高等科軍事訓練	藤田	山崎		大正	個人蔵	写真、大正末期	歴-58
歴	40 ため池改修かんがい水路道路改良工事竣工記念碑	藤田	山崎		昭和		昭和51(1976)年4月、福島県知事木村守江書、吉田忠吉謹撰弁書	歴-85
歴	41 藩札	藤田	山崎			個人蔵	年代未詳、奥州伊達桑折の記	歴-105
歴	42 軍恩記念碑	藤田	山崎	宮前			水雲神社	史⑦-19
歴	43 半田銀山水害の状況	小坂	泉田		明治	個人蔵	写真、明治13(1880)年	歴-27
歴	44 雨沼の記念碑	小坂	泉田	雨沼	昭和		文化2(1805)年ため池築堤、大正15(1926)年改修、昭和2(1927)年破壊、同年に再築完了、記念碑建立	歴-28
歴	45 泉田簡易水道組合記念碑	小坂	泉田		昭和			歴-29
歴	46 奉行高札	小坂	泉田		江戸	個人蔵		歴-30
歴	47 早田神石碑	小坂	泉田	神武山	江戸		半田村の名主・早田伝之助は街道を自費で改修、泉田村の新田開墾、天保・安政の凶作の際には金300両を代官に貢している、ほかに報恩碑がある	歴-34
歴	48 内谷沼改修記念碑	小坂	内谷	東脇	大正		大正14(1925)年の大改修の際に建立、土手の上に立つ、撰文は県耕地課長穂坂中彦、伊達部長佐瀬剛の書、篆額は県知事香坂昌康	歴-31
歴	49 水源開鑿記念碑	小坂	内谷	大窪	昭和		昭和5(1930)年8月、正八位佐藤義美撰、宮内省囑託梅園良正書并篆額	歴-32
歴	50 内谷東愛山組合記念碑	小坂	内谷		昭和		昭和36(1961)年建立 昭和21(1946)年、信夫郡平野村(現：福島市)の細野繁衛門氏が所有していた山林28町余を東館生産組合が譲り受け、誓約書を作成しこれを共有財産として管理運営することとした	歴-33
歴	51 菅野喜三郎翁頌徳碑	小坂	内谷	西堂	昭和		政治家、県会議員、頌徳碑は昭和24(1949)年、小坂JA前に建立	歴-46,134
歴	52 小坂村国防婦人会発会式	小坂	小坂		昭和	個人蔵	写真、昭和11(1936)年	歴-35
歴	53 小坂村勤労奉仕隊	小坂	小坂		昭和	個人蔵	写真、昭和18(1943)年	歴-38
歴	54 小坂峠道開削碑	小坂	小坂		江戸		慶応2(1866)年、旧小坂峠入口、碑文「小坂今道新墾記」江戸・高橋豊珪書	歴-39 史⑦-8
歴	55 北山組合植林記念碑	小坂	小坂		昭和		昭和32(1957)年7月	歴-40
歴	56 小坂小学校関係資料	小坂	小坂		昭和	小坂小学校	写真、教科書ほか	歴-41
歴	57 小坂青年訓練所御大典記念写真帳	小坂	小坂		昭和		大正15(1926)年、昭和3(1928)年に公布、16～20歳までの青年を対象に全国各市町村に設置、昭和10(1935)年に青年学校令が公布され改められた	歴-42

整理 番号	名称	所在地			時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
歴 58	昭和初期小坂村の 風俗写真	小坂	小坂			個人蔵	写真	歴-43
歴 59	拓本、橋柳亭繁枝の 句碑	小坂	小坂		昭和			歴-44
歴 60	観月台の風景写真	小坂	小坂			個人蔵	写真	歴-45
歴 61	藤田・森江野・大木 戸三か村組合立高 等小学校	小坂	小坂		明治	個人蔵	写真、明治 35 (1902) 年新築	歴-56
歴 62	藤田町の家並	小坂	小坂		昭和	個人蔵	写真、昭和 10 年代	歴-64
歴 63	石灯笼	小坂	小坂				元禄 6 (1693) 年寄進、小屋敷	口伝-147
歴 64	石碑	小坂	小坂				明治 44 (1911) 年建立、小屋敷	口伝-148
歴 65	小坂今道壟記	小坂	小坂		江戸		慶応 2 (1866) 年頃	古-411
歴 66	小坂峠中ノ茶屋石 碑群	小坂	鳥取		江戸			史⑦-7
歴 67	筆塚	大木戸	大木戸	長坂	江戸		嘉永 3 年 (1850) 建立、高さ 150cm、幅 128cm、半沢経山 (半沢殿保の曾祖父) をたたえる筆塚、文及び書は梁川明倫館の教官・源寛	歴-9
歴 68	知道軒戸賀崎翁碑	大木戸	大木戸	長坂	江戸		高さ 176cm、幅 128cm、厚さ 40cm、台石地上高 28cm、横長さ 185cm、剣道の達人・戸賀崎翁の遺徳を偲んで弟子たちが建てたもの	歴-10
歴 69	故戦将士の碑	大木戸	大木戸	経ヶ岡	明治		明治 18 (1885) 年建立、文治 5 (1189) 年の戦いを記念し顕彰する碑、高さ 145cm、幅 115cm、最大厚さ 50cm の丸森石に刻まれている、信夫郡長柴山景綱の文、高橋逐堂の書	歴-11
歴 70	芭蕉記念碑	大木戸	大木戸	長坂	昭和		旧奥州街道脇にある、昭和 42 (1967) 年建立	歴-12,103
歴 71	記念碑	大木戸	大木戸		大正		大正 9 (1920) 年、赤坂のメガネ橋をかけた時に記念碑を立てた	歴-14
歴 72	大木戸小学校関係 資料	大木戸	大木戸		昭和	大木戸小学校	写真、棟札ほか	歴-15
歴 73	追憶之碑	大木戸	大木戸		平成		平成元 (1989) 年	歴-16
歴 74	半沢家由来の碑	大木戸	大木戸		昭和		昭和 54 (1979) 年	歴-17,108
歴 75	半沢殿保頌徳碑	大木戸	大木戸		昭和		昭和 18 (1943) 年建碑、高さ 235cm、幅 80cm 石川健治の撰、松浦市三郎の書 初代町長・半沢殿保は若くして家を継ぎ半沢農園を経営、農村振興にあたり特に和牛改良に尽力	歴-19
歴 76	奥州合戦 800 年記 念碑	大木戸	大木戸	阿津加 志山三	平成		町内の浄財により建立	歴-110
歴 77	領内巡検宿札	大木戸	大木戸			個人蔵		有民④-2
歴 78	宿札	大木戸	大木戸			個人蔵		有民④-3
歴 79	関流和算家岡田盛 正翁碑	大木戸	貝田	大師	昭和		昭和 41 (1966) 年、貝田字大師の旧国道合脇に門人が建てた	歴-20
歴 80	太田ため池改修の 碑	大木戸	貝田	宮ノ腰	大正		大正 10 (1921) 年の改修記念碑、貝田水雲神社境内に建つ	歴-21
歴 81	林野記念の碑	大木戸	貝田		昭和		林野記念の碑、その経緯	歴-22
歴 82	貝田部落全景写真	大木戸	貝田		昭和	個人蔵	写真、昭和 32 (1957) 年	歴-23
歴 83	水利権譲渡西根堰 加入記念碑	大木戸	貝田		昭和			歴-24
歴 84	拓本、貝田簡易水道 水源地記念碑	大木戸	貝田		昭和			歴-25
歴 85	伊達朝宗夫人位牌	大木戸	光明寺	沼		福聚寺		歴-26
歴 86	半沢果樹園桜桃荷 造場	大木戸	高城		大正	個人蔵	写真、大正末期	歴-106
歴 87	川内記念碑	西大枝	川内		昭和		昭和 49 (1974) 年、滝川、阿武隈川堤防改修を記念して建てられたもの	歴-2
歴 88	普蔵川改修記念碑	西大枝	川内		昭和		昭和 46 (1971) 年	歴-3
歴 89	滝川河川改修記念 碑	西大枝	川内		昭和		昭和 46 (1971) 年	歴-4
歴 90	四国八十八か所巡 礼資料 (旗、認印、 記録帳二冊など)	西大枝	川内	新割	江戸	個人蔵	百姓源左衛門が行者仏源を名乗り、同行者辰巳とともに木彫りの弘法大師像を背負って西国八十八か所を巡礼した時の証	歴-51 古-148
歴 91	版木	西大枝	川内		江戸	個人蔵	嘉永年間 (1848-1854)	歴-104
歴 92	軍需真綿加工記念 写真	西大枝	川内	柳原	昭和	仲興寺		歴-145
歴 93	瀬戸両翁功績碑	西大枝	西大枝		昭和	個人蔵	昭和 62 (1987) 年	歴-5

整理 番号	名称	所在地			時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
歴 94	筆子塚	西大枝	西大枝		江戸		江戸時代後期、全国に寺子屋とよばれる教育施設ができ、その一つが西大枝字築館にあった師匠の死後、弟子達が金を出し合い筆子塚を建てたものが、西大枝、西松寺内、松浦家墓地などに現存	歴-6
歴 95	大東亜戦争 満州 国皇帝陛下御来訪 召艦	西大枝	西大枝		昭和	個人蔵	写真アルバム、昭和天皇御来艦記念御召艦艦比叡 (220 m、32,000 t)	歴-7
歴 96	塚野目城跡の碑	森江野	塚野目	館前	昭和		昭和13(1928)年12月	歴-86
歴 97	塚野目集会所顕彰 碑	森江野	塚野目	金屋	昭和		建設のことが書かれている	歴-87
歴 98	普蔵川改修記念碑 (塚野目八幡宮)	森江野	塚野目	前畑	昭和		昭和46(1971)年、国見町長関口道孝書、塚野目区長佐久間直次撰	歴-88
歴 99	徳江村山入札	森江野	徳江		江戸末期	徳江区	文久3(1863)年、2種	歴-89
歴 100	沼田神社神殿棟札、 拝殿棟札	森江野	徳江	沼田	明治	沼田神社	明治9(1876)年、明治29(1896)年、明治43(1910)年	歴-90~92
歴 101	森江野信用販売購 買組合金庫	森江野	徳江	中谷 地田	昭和	国見町農協森 江野支所	写真、昭和10(1935)年	歴-107
歴 102	辻南塘陂記念碑	森江野	森山	辻南	昭和		享保(1716-1736)頃に作られたため池、以来、この地域の田を潤した、昭和56(1981)年埋立	歴-93
歴 103	県北中学校関係資 料	森江野	森山	西上野	昭和	県北中学校	写真、棟札ほか	歴-94
歴 104	森江野小学校関係 資料	森江野	森山	太田川	昭和	森江野小学校	写真、教科書ほか	歴-95
歴 105	旧校舎屋根瓦	森江野	森山	西上野	昭和	県北中学校	県北中学校のもの6枚	歴-96
歴 106	明治百年平和祈念 碑	森江野	森山	上野台	昭和	県北中学校	神明神社、昭和44(1969)年	歴-97
歴 107	分団旗調整記念の 碑	森江野	森山		昭和			歴-98
歴 108	「令旨」碑	森江野	森山				森山弁天前	歴-99
歴 109	福島文知摺観音堂 の肖像額				江戸		五十沢の愚耕園一茂、半田の弓田舎真富夫など	歴-53
歴 110	拓本、紺野雲センの 句碑5点							歴-82
歴 111	就学旗				明治	各小学校	福島県が就学奨励のため交付	歴-101
歴 112	記念写真4枚				大正 昭和	個人蔵		歴-111
歴 113	掛け軸				昭和	個人蔵	昭和天皇御即位の礼に使用された御座の軸	歴-112
歴 114	日露戦争記念はが き				明治	個人蔵		歴-113
歴 115	写真絵葉書					個人蔵	年代不詳、宮城県小原温泉、京都の舞妓・大原女	歴-114
歴 116	掛け軸三点				江戸	個人蔵	天明年間(1781-1789)	歴-115
歴 117	掛け軸及び裏面貼 り付け新聞記事				大正	個人蔵	昭和天皇の台覧の捺印	歴-116
歴 118	戦友玉砕の記録				昭和	個人蔵		歴-117
歴 119	奉行高札				江戸	個人蔵		歴-118
歴 120	大枝第一土地改良 事業記念碑						昭和49(1974)年建立	歴-119
歴 121	記念碑						昭和60(1985)年竣工ほ場整備事業	歴-120
歴 122	半田銀山記念碑						半田銀山	歴-121
歴 123	大枝方部なつかし の写真4点				大正	個人蔵	大枝村尋常小学校建設工事委員(大正15(1926)年落成)ほか	歴-122
歴 124	満州事変写真全集 (輯)				昭和	個人蔵	昭和7(1932)年アサヒグラフ	歴-123
歴 125	支那事変写真全集				昭和	個人蔵		歴-124
歴 126	大木戸村役場写真				昭和	個人蔵		歴-125
歴 127	火縄銃の鉛弾作り 器					個人蔵		歴-126
歴 128	写真類				明治~昭和		一括	歴-127
歴 129	夫婦神楽					個人蔵	古物商より購入	歴-128
歴 130	マッコウクジラの 歯2本				昭和	個人蔵		歴-129
歴 131	マッコウクジラの 歯の彫刻品				昭和	個人蔵	昭和53(1978)~54(1979)年	歴-130
歴 132	野村栄之助氏関係				昭和	個人蔵	ハガキ等	歴-131

整理番号	名称	所在地			時代	所有者	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字				
歴 133	写真類						軍事関係、学校関係等	歴-132
歴 134	日本の文様					個人蔵		歴-133
歴 135	小坂村青年訓練所記念写真帖				昭和	個人蔵	昭和3(1928)年	歴-136
歴 136	火縄銃					個人蔵		歴-138
歴 137	燧石銃					個人蔵		歴-142
歴 138	福島県内の各首長				昭和	個人蔵	昭和33(1958)年	歴-143
歴 139	鯨ヒゲ				昭和	個人蔵		歴-142
歴 140	元日本水産捕鯨船一般配置図				昭和	個人蔵		歴-143
歴 141	菅山月関係写真類					個人蔵		歴-144
歴 142	歴史写真綴2冊				昭和	個人蔵	昭和9(1934)年	歴-146
歴 143	拓本、国勢調査記念石柱				大正		大正9(1920)年	歴-147
歴 144	拓本、小坂小学校創立百周年記念碑				昭和		昭和48(1973)年	歴-148
歴 145	拓本、藤田小学校百周年記念碑				昭和		昭和48(1973)年	歴-149
歴 146	拓本、大木戸小学校百周年記念碑				昭和		昭和48(1973)年	歴-150
歴 147	拓本、森江野小学校百周年記念碑				昭和		昭和48(1973)年	歴-151
歴 148	拓本、観世流遠藤佐七翁之碑				昭和		昭和9(1934)年	歴-152
歴 149	瀬戸茂工門・紋平兄弟の顕彰碑							歴-153
歴 150	菅山月翁碑						菅山月は維新後、鹿島神社の神主として藤田に赴任した	歴-154
歴 151	公営住宅規格平面図				昭和		昭和24(1949)年に藤田町が引揚者住宅を建築、その後国見町内で公営住宅の建設が続いた	歴-155
歴 152	勤労報国隊				昭和		昭和19(1944)年11月、石炭増産のため、いわき炭鉱に入り40日後に故郷に帰る間際の写真	歴-156
歴 153	勤労報国隊警備隊				昭和			歴-157
歴 154	観世音縁起の碑				昭和		昭和39(1964)年4月28日建立、大勝信謹書	歴-158
歴 155	岩淵遺跡指導標				昭和		郷土誌研究会員有志が建てた道しるべ	有民③-29
歴 156	掛軸、教育勅語				明治	個人蔵	明治23(1890)年	書-57
歴 157	掛け軸				明治	個人蔵	日露戦争の宣戦詔勅	書-61
歴 158	拓本、北山組合山林所有権取得記念碑				昭和			歴-100
歴 159	川内地区水害状況	伊達市梁川町	東大枝		昭和	大枝小学校	写真、昭和16(1941)年 ※大枝小学校は伊達市梁川町東大枝に所在	歴-1
歴 160	大枝小学校関係資料	伊達市梁川町	東大枝		昭和	大枝小学校	写真、表札ほか ※大枝小学校は伊達市梁川町東大枝に所在	歴-8
歴 161	大槻源治安信碑	白石市	越河		明治		書道の先生として活躍し、明治29(1896)年、門弟一同により建立、場所は県境を越えていったところ	歴-13

※国見町で使用された衣食住に関わる資料を対象とし、名称・形状・用途の違いによって分類して掲載。ただし、まったく同一の資料に対し多数の名称あるいは近似する名称がつけられている物件については統合。

【民俗文化財／有形の民俗文化財／衣食住】

整理番号	名称	所在地(情報元)		時代	所有者	備考	調査台帳番号
		地区	大字				
有民①-1	板戸	藤田	藤田	江戸～昭和		板戸は建具の一種で、板で作られた戸、扉	有民①-35
有民①-2	長火鉢	藤田	藤田	大正～昭和		木炭を燃料とする暖房具の一種で、長方形の木製指物、箱火鉢	有民①-36
有民①-3	手動ミシン	藤田	藤田	大正		手回して動かすミシン	有民①-37
有民①-4	自在鉤(竹製・木板製)	藤田	藤田	大正		民家などの囲炉裏で、鍋や釜をつるすために用いられたもの	有民①-38 風慣-102
有民①-5	柳行李	藤田	藤田	大正		衣装入れ	有民①-39
有民①-6	てあぶり火鉢	藤田	山崎	昭和		冬に炭を入れてあたる	有民①-41
有民①-7	どんざん、どんぶく、はんきり	小坂	泉田	明治～昭和		普段着	有民①-20
有民①-8	はんでん	小坂	泉田	明治～昭和		女性の仕事着	有民①-21
有民①-9	石臼	小坂	泉田			豆などを粉にする	有民①-23

整理 番号	名称	所在地(情報元)		時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字				
有民①-10	火熨斗(ひのし)	小坂	泉田 鳥取	昭和		底のなめらかな金属製のひしゃくのような形をした器具。中に炭火を入れ、その熱気を利用し、底を布に押しあててしわをのばすもの	有民①-24
有民①-11	もんぺ	小坂	内谷 小坂	明治～昭和		女性の仕事着、大正中頃に養蚕業の全盛期を迎え、山形地方からの製糸工女の流入が行われるに至って「もんぺ」の着用が始まったとされる	有民①-26 風慣-112
有民①-12	ざるまた	小坂	小坂	明治～昭和		男の下着	有民①-27
有民①-13	越中、もっこ、六尺	小坂	小坂	明治～昭和		男の下着、ふんどし ふんどしの長さはなにごとない普通に普通七尺であった	有民①-28
有民①-14	きりしね	小坂	小坂	明治～昭和		織はじめをおりつけといい、織しまいをおりおとしという このおりおとしをつないで「きりしね」として布団皮などに使った	有民①-29
有民①-15	手甲	小坂	小坂	明治～昭和		手甲は職人などが山仕事をするときなどに用いる	有民①-30
有民①-16	手さし	小坂	小坂	明治～昭和		手甲と違い、甲がなく旅行用に用いた	有民①-31
有民①-17	おそふき	小坂	小坂	明治～昭和		山仕事にはいていく	有民①-32
有民①-18	足なか	小坂	小坂	明治～昭和		田畑に通うには普通の草履では長すぎるので、少し雨でも降るとしっぽねが上 がってよごれるため、足なかをはいた	有民①-33
有民①-19	ほかい(ほけい)	小坂	鳥取	昭和	個人蔵	木製容器、お祝い、不幸、災難があったとき、親戚、友人らが手伝いとして炊 き出しを持っていくときに用いる	有民①-34
有民①-20	イロリ	小坂	小坂			囲炉裏の名称	風慣-101
有民①-21	ムジリ、ジユパン、 ヤマジユパン、テッ ポージユパン、ジバ ン、ウワツパリ	小坂	小坂	明治	個人蔵	仕事着(上体)	有民①-86 風慣- 109,111
有民①-22	カマド	小坂	小坂			かまどの名称	風慣-105
有民①-23	ヒラゼン、カクゼ ン、マルゼン、ヒラ オゼン	小坂	小坂			膳の種類(平常)	風慣-107
有民①-24	モモヒギ、モモヒ キ、モンシギ	小坂	小坂			男の仕事着(下体)	風慣-110
有民①-25	よだれかけ、よたか け	大木戸	大木戸	明治～昭和		赤子の首にまいて、よだれのよごれを防ぐ	有民①-15
有民①-26	あわせねんねこ、わ たいりねんねこ	大木戸	大木戸	明治～昭和		赤子を背負うときかける 春秋は「あわせねんねこ」、冬は「わたいりねんねこ」	有民①-16
有民①-27	もりこおび	大木戸	大木戸	明治～昭和		子どもを背負う帯	有民①-17
有民①-28	こしまき、おこし	大木戸	大木戸	明治～昭和		女の下着	有民①-18
有民①-29	洗濯板	大木戸	光明寺	昭和		波形の板で、洗濯物をこすって使う 昭和30年頃、電気洗濯が入り使わなくなった	有民①-19
有民①-30	各家庭の水場	大木戸	光明寺			水路から引込再び戻す各家庭の水場は、農器具や野菜の洗い場として利用す る。生活用水全般を水場から確保していた	有民⑤-55
有民①-31	用筆筒	西大枝	川内	明治～昭和		村の規約、古い時代の地図、その他の書類は、用筆筒に入れて部落長が保管し、 交替時にはそれを引き継いでいく	有民①-1
有民①-32	味噌たる	西大枝	川内				有民①-2
有民①-33	こうり(衣籠)	西大枝	川内			衣装入れ	有民①-4
有民①-34	木タライ	西大枝	川内				有民①-5
有民①-35	上ぞくかざ	西大枝	川内				有民①-7
有民①-36	菅笠	西大枝	西大枝	明治～昭和		被り物、田植えや草刈り雨降りなど	有民①-9
有民①-37	ケット、かぶりずき ん	西大枝	西大枝	明治～昭和		寒い時の被り物	有民①-10
有民①-38	てのげ、てのこい	西大枝	西大枝	明治～昭和		手ぬぐいの呼び方	有民①-11
有民①-39	井戸輪	西大枝	西大枝	昭和	個人蔵		有民①-12
有民①-40	かま場	西大枝	西大枝	昭和	個人蔵		有民①-13
有民①-41	裁縫ひな型並びに 手芸品一式	森江野	塚野目	昭和	個人蔵	所有者が生家から嫁入りした際に持参したもの	有民①-42
有民①-42	とかし櫛、すき櫛、 毛すじ	森江野	森山	明治～昭和		髪結い道具	有民①-43
有民①-43	ねぎし、かんざし	森江野	森山	明治～昭和		髪飾り	有民①-44
有民①-44	編笠	森江野	森山	明治～昭和		被り物、桑切りや芦刈りなどに用いた	有民①-46
有民①-45	まんじゅう笠	森江野	森山	明治～昭和		被り物、旅行用	有民①-47
有民①-46	麦藁帽子	森江野	森山	明治～昭和		明治末期にはやってきた	有民①-48
有民①-47	はばき	森江野	森山	明治～昭和		男性の仕事着、田畑の耕耘作業にはひざ下に楮あるいは藤の皮などを割いて編 んだ「ハバキ」をつけた	有民①-52
有民①-48	脚絆	森江野	森山	明治～昭和		脚絆は布で作ったもので主として旅行用にした 紺木綿につめをかけたもの	有民①-53

整理 番号	名称	所在地 (情報元)		時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字				
有民① 49	つまご	森江野	森山	明治～昭和		山形のほうの人たちがよくつくった履物	有民①-54
有民① 50	長持	森江野	森山				有民①-55
有民① 51	くら	森江野	森山				有民①-56
有民① 52	タンス	森江野	森山				有民①-57
有民① 53	折りたたみの腰掛け	森江野	森山				有民①-58
有民① 54	古い塗りの茶碗	森江野	森山				有民①-59
有民① 55	みの	藤田 小坂 森江野	藤田 泉田 小坂 森山	明治～昭和		雨具の代わりに物と、荷物を背負う時に使うものがある	有民①- 22,25,40, 49~51,76 風慣-114
有民① 56	おかる	藤田 西大枝	山崎 川内			炭を入れて湯をわかす、暖を取る	有民①-3
有民① 57	火ばち	藤田 西大枝	藤田 川内	明治・大正		材質は陶器及び金属製	有民①-6
有民① 58	火消しつぼ	藤田 西大枝	藤田 川内	明治・大正		炭火を消すための容器	有民①-8
有民① 59	にぞ	西大枝 森江野	西大枝 森山	明治～昭和		被り物、農家にはなくてはならないもので特に冬はよい、後ろのほうにしころがついていて、背負いものにも農作業用にも山用にも大変便利なものである	有民①-60
有民① 60	シッポと股引					男性の仕事着、男子の作業着は様相が普及するまでは、木綿の二本縞が三本縞の「シッポ」に「股引」姿がふつうである	有民①-61
有民① 61	メンパ、メツパ					弁当入れ、曲げ物で大人が山仕事をするときなどにもっていった	有民①-62
有民① 62	宿場の町家造り					国見町には旧藤田村と小坂村、貝田村に宿駅があった 貝田は数次の火災によって昔の面影を知ることはできない	有民①-63
有民① 63	あづま造り (かぶと造り)			明治～昭和		居室の一部を利用して蚕を飼うため、寄棟造の両側の妻の部分を半ばで切りおとしたあづま型屋根とし、天井裏の利用を図った	有民①-64 風慣-97
有民① 64	便所と風呂					全て母屋と別棟	有民①-65
有民① 65	ひぼ			明治～昭和		着物につけている帯 ふつうは7～8歳ころまでつけていた	有民①-67
有民① 66	三尺：帯			明治～昭和		男、少年時代	有民①-68
有民① 67	へこおび、角帯			明治～昭和		男、青年期になるとした	有民①-69
有民① 68	おび、ひとえおび、 あわせおび、なごや おび、ふくろおび			明治～昭和		女のおび	有民①-70
有民① 69	したみざる			明治～昭和		ミノたまりを取るのに用いた	有民①-72
有民① 70	へら、しゃくし			明治～昭和		茂庭の方の木工品	有民①-73
有民① 71	石彫り物 3点			大正	個人蔵	三匹のカエル (未完)、亀と灯籠、父が鎌一丁で彫った	有民①-75
有民① 72	灯油ランプ				個人蔵	年代不詳	有民①-77
有民① 73	トーチランプ				個人蔵	年代不詳	有民①-78
有民① 74	額			昭和	個人蔵	満州国皇帝の第2第3王子が手書きされたウチワの絵	有民①-79
有民① 75	足袋			昭和	個人蔵		有民①-80
有民① 76	一つ身の着物			昭和	個人蔵	外出着	有民①-81
有民① 77	生活用器			江戸	個人蔵	名主の旧家に保存されていたもの、食器類か	有民①-82
有民① 78	燭台			江戸～大正	個人蔵	大小各 1	有民①-83
有民① 79	炭火あんか					当時のいわゆる簡易こたつ、自由に移動できて便利	有民①-84
有民① 80	酒燗器			昭和	個人蔵		有民①-85
有民① 81	戦前の羽織			昭和	個人蔵		有民①-87
有民① 82	ねんねこ			昭和	個人蔵		有民①-88
有民① 83	アンカ				個人蔵	年代不詳	有民①-89
有民① 84	張付着			明治	個人蔵	祖母からのゆずりもの	有民①-90
有民① 85	袴袴			江戸	個人蔵		有民①-91
有民① 86	装飾用電灯笠			昭和	個人蔵	商店や盛り場、人寄せの会場等で、電灯の装飾用笠として使われたものと思われる	有民①-92
有民① 87	道中笠			江戸	個人蔵		有民①-93

整理 番号	名称	所在地 (情報元)		時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字				
有民① 88	小学校時代の着物 と袴二組			大正～昭和	個人蔵	小学校時代は、旗日（祝祭日）には、着物に袴を着けて登校して式典に参加した	有民①-94
有民① 89	二部式夏物和服				個人蔵	生地は150年前の絹の羽織をほどいて、二部式夏物和服に仕立てた物、下着は戦後配給になった落下傘の布で仕立てた物	有民①-95
有民① 90	女物羽織			明治	個人蔵		有民①-96
有民① 91	はんでん			大正	個人蔵		有民①-97
有民① 92	モンヒキ				個人蔵	昔の農作業用のズボン	有民①-98
有民① 93	かんじき			明治～大正	個人蔵	雪の上を歩く時に藁靴の下につけて足が雪中に入らないようにする深雪対策の道具	有民①-99
有民① 94	木製角火鉢			明治	個人蔵	昔の暖房器具、主に来客用手あぶりとして用いた、鉄瓶を乗せて湯を沸かし室内の乾燥を防ぐ	有民①-100
有民① 95	裁縫用具			大正	個人蔵	コテ、焼きゴテ、爪ペラ、ルレット等	有民①-101
有民① 96	机			江戸	個人蔵	寺子屋で使用した机	有民①-102
有民① 97	折りたたみ燭台			江戸	個人蔵	携帯用燭台	有民①-103
有民① 98	灯火器類			明治	個人蔵	灯火に必要な品物一式が入っている	有民①-104
有民① 99	石油ランプ			明治	個人蔵		有民①-105
有民① 100	香炉及び香炉台			江戸	個人蔵		有民①-106
有民① 101	櫛簪五個			大正	個人蔵	丸髻、銀杏髻、銀杏くずしに用いた	有民①-107
有民① 102	髻結飾り具			明治	個人蔵	女性の髪結い及びその飾りに用いたもの	有民①-108
有民① 103	駕籠火鉢			江戸	個人蔵	駕籠の中で手を温めるために用いた	有民①-109
有民① 104	蚊帳			昭和	個人蔵	夜間、蚊から身を守る品物	有民①-110
有民① 105	伊藤家より拝領の 丸帯				個人蔵		有民①-111
有民① 106	灯火台				個人蔵		有民①-112
有民① 107	紋付羽織袴			昭和	個人蔵	昭和45（1970）年	有民①-113
有民① 108	インパネス			大正	個人蔵	2点、身ごろにケープが付いた袖なし外套、とんび又は二重回しともいう	有民①-114
有民① 109	むじり半天			明治	個人蔵	手前織の羽織を半天にしたたもの	有民①-115
有民① 110	被衣（かつぎ）			江戸	個人蔵	女性が頭からかぶる着物的一种	有民①-116
有民① 111	袷			明治	個人蔵	祖母より伝えられた外出着	有民①-117
有民① 112	綿入れネンネコ			昭和	個人蔵	幼児をおんぶした時、背中の幼児ごと羽織る防寒具	有民①-118
有民① 113	乳児用綿入れ晴れ 着			昭和	個人蔵	結婚後買った着物で仕立て直したものの	有民①-119
有民① 114	五升炊きの釜				個人蔵		有民①-120
有民① 115	わたし			昭和	個人蔵	囲炉裏で物を焼くときに使用した	有民①-121
有民① 116	なつかしの小箱 マッチ			昭和	個人蔵	青年時代に趣味で集めたもの一部	有民①-122
有民① 117	たらい				個人蔵	赤子の産湯、真綿の引き伸ばし加工などに使ったもの	有民①-123
有民① 118	柳行李			明治	個人蔵	衣類の保管に使用したもの	有民①-124
有民① 119	茶箱			昭和	個人蔵	衣類の保管などに使用したもの	有民①-125
有民① 120	番傘3本			昭和	個人蔵	通称：からかさ	有民①-126
有民① 121	水筒			昭和	個人蔵	小学生当時遠足などに使用	有民①-127
有民① 122	道中行李又は小物 入れ			明治	個人蔵	小物を射れたり、道中用に使用した行李	有民①-128
有民① 123	印籠（四段入れ）				個人蔵	年代不詳	有民①-129
有民① 124	ソバ用の弁当箱			明治	個人蔵	観劇の時の夜食用に持って行った	有民①-130
有民① 125	竹皮ゾウリ、アシナ カ、アシダカ、アシ ナカゾウリ、アシダ カゾウリ				個人蔵	ぞうり（種類、名称）	有民①-131 風價-113
有民① 126	竹製矢立				個人蔵	年代不詳	有民①-132
有民① 127	蠅取り器			昭和	個人蔵		有民①-133

整理 番号	名称	所在地 (情報元)		時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字				
有民 ①	128 襦袢帯 (ぼろおび)			昭和	個人蔵	木綿糸を縦糸にして、ぼろきれを細かくさいて織った帯、農家の娘が田畑仕事を する時、かすりのちゃんちゃんこの上に締め、帯の上にモンペの紐を結んだ	有民①-134
有民 ①	129 かつぎ			明治	個人蔵	夫人が外出の時、顔を見られないように被ったもの	有民①-135
有民 ①	130 ベロリ帽子			大正	個人蔵	雪の日に眼だけ出して使用した帽子	有民①-136
有民 ①	131 ボックリ			昭和	個人蔵		有民①-137
有民 ①	132 アルミ製台所用品			昭和	個人蔵	戦争期に鉄の代わりに使用	有民①- 138~141
有民 ①	133 やり桶			大正	個人蔵	他の器に移しやすいよう移し口がついている	有民①-142
有民 ①	134 二合徳利			明治	個人蔵		有民①-143
有民 ①	135 蓋つき吸い物椀			大正	個人蔵		有民①- 144,162
有民 ①	136 蓋つき茶碗				個人蔵		有民①-145
有民 ①	137 扇風機			昭和	個人蔵		有民①-146
有民 ①	138 合わせ鏡			昭和	個人蔵		有民①-147
有民 ①	139 矢立 (12種)				個人蔵	日本独特の携帯用筆記用具	有民①-148
有民 ①	140 からかぬ火鉢				個人蔵		有民①-149
有民 ①	141 真綿				個人蔵		有民①-150
有民 ①	142 頭巾 (2点)			明治	個人蔵		有民①-151
有民 ①	143 おてもと集 (箸袋)			昭和	個人蔵		有民①-152
有民 ①	144 燭台				個人蔵		有民①-153
有民 ①	145 龕灯提灯				個人蔵	昔の懐中電灯	有民①-154
有民 ①	146 商人用矢立				個人蔵	携帯用筆記用具	有民①-155
有民 ①	147 絵皿				個人蔵		有民①-156
有民 ①	148 羽織			昭和	個人蔵		有民①-157
有民 ①	149 絹の太織り半幅帯			明治	個人蔵	総祖母が養蚕から糸を紡ぎ黒色に染め上げて、一半幅の帯に仕立てたもの	有民①-158
有民 ①	150 女兒の着物			明治	個人蔵	姑が息子の嫁に、養蚕から糸を紡ぎ、チリメン織に織り染め上げ江戸襦に仕立 てたもの	有民①-159
有民 ①	151 子ども紋付着物			明治	個人蔵		有民①-160
有民 ①	152 大徳利 (6本)			大正、昭和	町教育委員会	旧佐藤家住宅に収蔵	有民①-163
有民 ①	153 石臼				町教育委員会	穀類を粉に挽く道具、旧佐藤家住宅に収蔵	有民①-164
有民 ①	154 ソバ鉢				町教育委員会	そば粉等を練るのに使用する、旧佐藤家住宅に収蔵	有民①-165
有民 ①	155 わっぱ (5点)				町教育委員会	昔の弁当箱、旧佐藤家住宅に収蔵	有民①-166
有民 ①	156 小型木製炭火鉢				町教育委員会	旧佐藤家住宅に収蔵	有民①-167
有民 ①	157 国見石の加工品 (カマド、囲炉裏、 火鉢、井戸囲、塀)					糸取り鍋用竈 (かまど)、囲炉裏、井戸囲、石塀 国見石は熱に強い、蚕繭室の暖房用としても使われた	有民①- 168,169 有民⑤-14
有民 ①	158 火打ち道具一式			明治以降		発火の道具	有民①-170
有民 ①	159 ひで鉢			明治以降	個人蔵	薪の明かり	有民①-171
有民 ①	160 松灯蓋 (2基)			明治以降		薪の明かり	有民①-172
有民 ①	161 吊鍋			明治以降		薪の明かり	有民①-173
有民 ①	162 灯台 (2基)			幕末以降		油の明かり	有民①-174
有民 ①	163 たんころ・ひょうそ く各種			江戸以降		油の明かり	有民①-175
有民 ①	164 鉄製灯台			幕末以降		油の明かり	有民①-176
有民 ①	165 瓦灯				個人蔵	江戸時代の模倣 油の明かり	有民①-177
有民 ①	166 織部灯台			幕末以降		油の明かり	有民①-178
有民 ①	167 吊り灯台 (3種)			幕末以降		油の明かり	有民①-179

整理 番号	名称	所在地(情報元)		時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字				
有民① 168	竹行灯			江戸以降		油の明かり	有民①-180
有民① 169	角行灯			幕末以降		油の明かり	有民①-181
有民① 170	有明行灯(2基)			幕末、明治		油の明かり	有民①-182
有民① 171	鉄製行灯			幕末以降		油の明かり	有民①-183
有民① 172	隼形鉄製行灯			幕末以降	個人蔵	油の明かり	有民①-184
有民① 173	鉄製吊り灯籠			明治以降		油の明かり	有民①-185
有民① 174	カンテラ(2種)			明治以降		油の明かり	有民①-186
有民① 175	木製燭台			幕末以降		ろうそくの明かり	有民①-187
有民① 176	木製自在燭台			明治以降		ろうそくの明かり	有民①-188
有民① 177	菊型台座燭台			幕末以降		ろうそくの明かり	有民①-189
有民① 178	鉄製自在燭台			江戸以降	個人蔵	ろうそくの明かり	有民①-190
有民① 179	鉄製三脚燭台			幕末以降		ろうそくの明かり	有民①-191
有民① 180	鉄製燭台			幕末以降		ろうそくの明かり	有民①-192
有民① 181	銅製燭台			幕末以降		ろうそくの明かり	有民①-193
有民① 182	黄銅製三脚燭台			幕末以降		ろうそくの明かり	有民①-194
有民① 183	木製掛け燭台(2基)			幕末以降	個人蔵	ろうそくの明かり	有民①-195
有民① 184	鉄製かけ燭台			幕末以降		ろうそくの明かり	有民①-196
有民① 185	折り畳み懐中燭台			幕末以降		ろうそくの明かり	有民①-197
有民① 186	雀燭台			幕末以降		ろうそくの明かり	有民①-198
有民① 187	鑄銅製燭台			幕末以降		ろうそくの明かり	有民①-199
有民① 188	三連燭台			江戸		ろうそくの明かり 万延元(1860)年	有民①-200
有民① 189	鉄製三連燭台			江戸	個人蔵	ろうそくの明かり	有民①-201
有民① 190	手燭(3種)			幕末～明治		ろうそくの明かり	有民①-202
有民① 191	芯切り壺付燭台			明治以降	西松寺	ろうそくの明かり	有民①-203
有民① 192	芯切り壺各種			江戸～明治	西松寺ほか	ろうそくの明かり	有民①-204
有民① 193	給仕箱(2種)			幕末～明治		ろうそくの明かり	有民①-205
有民① 194	雪洞燭台			江戸	個人蔵	ろうそくの明かり	有民①-206
有民① 195	雪洞手燭(2種)			明治以降		ろうそくの明かり	有民①-207
有民① 196	柄付き手提げ提灯			幕末以降	個人蔵	ろうそくの明かり	有民①-208
有民① 197	蔵提灯			幕末以降	個人蔵	ろうそくの明かり	有民①-209
有民① 198	龕灯			明治以降	国見町公民館	ろうそくの明かり	有民①-210
有民① 199	小田原提灯			明治以降		ろうそくの明かり	有民①-211
有民① 200	弓張提灯			明治以降	個人蔵	ろうそくの明かり	有民①-212
有民① 201	箱提灯			明治以降		ろうそくの明かり	有民①-213
有民① 202	組み立て提灯			明治以降		ろうそくの明かり	有民①-214
有民① 203	ランプ燭台			明治以降	個人蔵	ろうそくの明かり	有民①-215
有民① 204	ランタン			明治以降		ろうそくの明かり	有民①-216
有民① 205	鑄鉄台ランプ			明治以降	個人蔵	石油の明かり	有民①-217
有民① 206	伸縮台ランプ			明治以降		石油の明かり	有民①-218
有民① 207	紙笠吊りランプ			明治以降	個人蔵	石油の明かり	有民①-219
有民① 208	吊りランプ			明治以降		石油の明かり	有民①-220

整理 番号	名称	所在地 (情報元)		時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字				
有民① 209	卓上ランプ (笠付)			明治以降	個人蔵	石油の明かり	有民①-221
有民① 210	卓上ランプ (箱台付、2種)			明治以降		石油の明かり	有民①-222
有民① 211	掛けランプ			戦前		石油の明かり	有民①-223
有民① 212	豆ランプ2種			戦前		石油の明かり	有民①-224
有民① 213	真鍮製豆ランプ			戦前		石油の明かり	有民①-225
有民① 214	手提げランプ			明治以降		石油の明かり	有民①-226
有民① 215	アセチレン灯 (カンテラ) 2種			戦後	個人蔵	石油の明かり	有民①-227
有民① 216	エジソン電球 (倣製)					電気の明かり	有民①-228
有民① 217	灯火管制用電球			戦前	個人蔵	電気の明かり	有民①-229
有民① 218	二股・三股ソケット			昭和	個人蔵	電気の明かり	有民①-230
有民① 219	太陽電池込LEDスタンド			現代		電気の明かり	有民①-231
有民① 220	檜こたつ及び行火			昭和	個人蔵	暖房の歴史	有民①-232
有民① 221	てあぶり			明治以降		暖房の歴史	有民①-233
有民① 222	足あぶり			戦前		暖房の歴史	有民①-234
有民① 223	廃式カイロ			戦後		暖房の歴史	有民①-235
有民① 224	ハクキンカイロ			昭和		暖房の歴史	有民①-236
有民① 225	湯たんぼ			現代		暖房の歴史	有民①-237
有民① 226	豆炭アンカ			戦後		暖房の歴史	有民①-238
有民① 227	電気こたつ			戦後		暖房の歴史	有民①-239
有民① 228	付木			明治～昭和		昔は茂庭のほうから短い附木を売りに来た、大笹生付木は一把15枚で6束一連・五重にして売りに来た、佐須の付木はながくて5寸に3寸位もあった	有民②-38

※国見町で使用された生産・生業に関する資料を対象とし、名称・形状・用途の違いによって分類して掲載。ただし、まったく同一の資料に対し多数の名称あるいは近似する名称がつけられている物件については統合。

【民俗文化財／有形の民俗文化財／生産・生業】

整理 番号	名称	所在地 (情報元)		時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字				
有民② 1	機織り機	藤田	石母田	昭和	個人蔵	はおり	有民②-21
有民② 2	足踏み縄ない機	藤田	石母田	昭和	個人蔵	縄をなう	有民②-22
有民② 3	足踏み稲こぎ	藤田	石母田	昭和	個人蔵	稲	有民②-23
有民② 4	箕 (2種)	藤田	石母田	昭和	個人蔵	穀物をふるって、殻やごみをふり分けるための農具	有民②-24
有民② 5	千歯こぎ	藤田	藤田	明治	個人蔵	水稻などの脱穀	有民②-25
有民② 6	鎌、カブ鎌、平鎌、スキクワ、ズックイ、ツクシ (掘棒)	藤田	藤田	大正	個人蔵	田、畑耕起	有民②-27~29 風慣-117
有民② 7	犁 (スキ 1段、2段)	藤田	藤田	昭和	個人蔵	牛耕用、1段田用、2段田畑兼用	有民②-30
有民② 8	糸返し機	藤田	藤田	大正	個人蔵	製糸用具一式	有民②-31
有民② 9	ひ	藤田	藤田	大正	個人蔵	筵織用具一式	有民②-32
有民② 10	さお	藤田	藤田	大正	個人蔵	筵織用具一式	有民②-33
有民② 11	足踏み脱穀機	小坂	小坂			穀物の実を取る	有民②-9
有民② 12	マンガ	小坂	内谷	昭和		田圃の代かき用具	有民②-11,43
有民② 13	中耕機	小坂	内谷			タバコや農作物に土寄する	有民②-12
有民② 14	糸繰り機	小坂	小坂	昭和	町教育委員会	製糸用具一式、撚りをかけながら紡ぐ	有民②-14
有民② 15	土ずるす (最新型)	小坂	小坂	昭和	町教育委員会		有民②-15
有民② 16	初通し	小坂	小坂	昭和	町教育委員会	アヲでたたいた初を更に選別する道具	有民②-16
有民② 17	あお	小坂	小坂	昭和	町教育委員会	ノゲや藁のついた初を広げ、たたいて初ノゲや藁等を除去する	有民②-17

整理 番号	名称	所在地(情報元)		時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字				
有民 ②	18 屋根葺き用具一式	小坂	小坂	昭和	町教育委員会 個人蔵	鉢、かぎなど、父の代まで使った屋根ふきの七つ道具	有民②-18
有民 ②	19 竹ざる	西大枝	川内		個人蔵	リンゴ、桃を背負い汽車にて販売してあるいた物	有民②-1
有民 ②	20 うどんぶちきかい	西大枝	川内		個人蔵	ぶちうどんを作る	有民②-2
有民 ②	21 (名称なし)	西大枝	川内	昭和	個人蔵	麦の種を播く道具	有民②-4
有民 ②	22 挙式中刈桑園(冬)	西大枝	西大枝	昭和			有民②-5
有民 ②	23 田車	森江野	塚野目	昭和		田植えの後の除草	有民②-34
有民 ②	24 稲作用の道具(名称 不明、写真4点)	森江野	塚野目	昭和		稲作用の道具	有民②-35
有民 ②	25 脱穀機	森江野	徳江			麦、大豆等の脱穀	有民②-36
有民 ②	26 養蚕道具	藤田 小坂 西大枝	藤田 山崎 泉田 小坂 川内	明治~昭和	町教育委員会 個人蔵	はこご(はげご)、めかご、すいのう、わらだ、わらだかご、マブシ、桑取機、 蚕つむぎ器、蚕用族(まぶす)編み機、火箸、等	有民②-10
有民 ②	27 座繰用糸とり器	藤田 小坂	藤田 小坂	昭和	個人蔵 町教育委員会	製糸用具一式	有民②-13
有民 ②	28 万石どおし	藤田 小坂	藤田 小坂	明治~昭和	個人蔵 町教育委員会	初の選別	有民②- 19,26
有民 ②	29 唐箕(とうみ)	藤田 小坂 大木戸 森江野	石母田 藤田 泉田 大木戸 徳江 森山	明治~昭和	個人蔵	白などで粉殻をはずしたあと、風力を起して穀物を粉殻・玄米・塵などに選別するための農具	有民②-7
有民 ②	30 筵(むしろ)おり機	藤田 西大枝	藤田 西大枝	昭和	個人蔵	木の枠でできたハタ織り機、昭和20年代から40年代まで、農家はあずきや豆などにむしろを使用していた、畳のかわりに家の中に敷いていた家も数多く、少し良い所ではゴザ、生活が豊かな所では畳が敷かれていた	有民②-6
有民 ②	31 蚕種製造人印	小坂 大木戸	小坂 高城	江戸	個人蔵		有民②-8
有民 ②	32 馬耕き	小坂 西大枝	内谷 川内	昭和	個人蔵	田の代かき機	有民②-3
有民 ②	33 廻米旗			江戸	福島県文化センター		有民②-37
有民 ②	34 鋤柄			明治~昭和		佐須のほうから鋤柄を売りに来たおもにミズナラの木を用いた	有民②-39
有民 ②	35 麦の土入鋤				個人蔵	年代不詳	有民②-40
有民 ②	36 木挽きのこぎり				個人蔵	年代不詳	有民②-41
有民 ②	37 三本こ、四本こ				個人蔵	畑や田んぼを人力で耕す器具	有民②-42
有民 ②	38 熊手(ガンツメ)				個人蔵	田の草取り用具	有民②-44
有民 ②	39 チョウナ				個人蔵	田の畔に農作物を植える小型の穴掘り道具	有民②-45
有民 ②	40 稲刈り鎌				個人蔵		有民②-46
有民 ②	41 稲こき機(カラハン)				個人蔵	稲穂から籾を掻き落とす道具	有民②-47
有民 ②	42 ツツボ				個人蔵	藁束をこれでよくたたいて柔らかくして縄やむしろを編んだ	有民②-48
有民 ②	43 馬牛の代掻き用クラ				個人蔵		有民②-49
有民 ②	44 わらじ製作台				個人蔵		有民②-50
有民 ②	45 祖父手製の大工道具			大正	個人蔵		有民②-51
有民 ②	46 ドジョウのどう			昭和	個人蔵	川に沈めてドジョウを捕る漁具	有民②-52
有民 ②	47 染物の型紙 20枚			江戸	個人蔵	分家した先祖の渋谷伝八という染物屋の小紋の染物型紙	有民②-53
有民 ②	48 昭和初期の印伴天(東海林商会)			昭和	個人蔵		有民②-54
有民 ②	49 石工道具			大正~	個人蔵	ホッキリツル、矢、サシバ、ツルメ、メッポ	有民②-55

民俗文化財／有形の民俗文化財／交通・運輸

※国見町で使用された交通・運輸に関わる資料を対象とし、名称・形状・用途の違いによって分類して掲載。ただし、まったく同一の資料に対し多数の名称あるいは近似する名称がつけられている物件については統合。

整理 番号	名称	所在地(情報元)		時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字				
有民 ③	1 大八車	藤田	山崎	昭和	個人蔵	荷物をのせて引く	有民③-5

整理 番号	名称	所在地 (情報元)		時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字				
有民 ③	2 やせうま	小坂	泉田 小坂	昭和	町教育委員会 個人蔵	背負い梯子の名称 木材を鳥居のように組み、背中にあたる所に縄を張り、緩衝の役割を持たせ、 重く大きな物を背負う時に使う 昭和の中期頃までは、稲や焚木などを背負うのに使っていた	有民③-3
有民 ③	3 背みの	小坂	内谷	昭和	個人蔵	荷を背負うとき使う	有民③-4
有民 ③	4 荷物送り札	小坂	小坂	近世	個人蔵	4種	有民③-21
有民 ③	5 荷ない棒、天秤棒、 テンピン、フリオケ	小坂	小坂	明治～昭和		肩に担ぐ棒、運搬具、一人や二人がある	有民③-23
有民 ③	6 背負いかご	西大枝	川内		個人蔵	リンゴ、桃を背負い汽車にて販売してあるいた	有民③-1
有民 ③	7 タコミノ	西大枝	川内		個人蔵	物を背負う時に使用	有民③-2
有民 ③	8 ニナ、ニナワ、レン ジャク					背負う運搬具、荷縄の名称 麦、ジャガイモ等	有民③-7
有民 ③	9 にんぼり					背負う運搬具 稲、粟、大豆、そばなどかさばるもの	有民③-8
有民 ③	10 草刈りかご			明治～昭和		毎朝の刈草、干草を入れて運ぶ	有民③-9
有民 ③	11 すかり、しよいこ、 しよいふご、しよい かご			明治～昭和		いずれも背負う運搬具	有民③- 10,11
有民 ③	12 タンガラ、ワラクチ			明治～昭和		背負い籠、背負い袋の名称 藁なわで編んだものと竹で作ったものがある。収穫物を入れて運ぶ	有民③-12
有民 ③	13 ぼて					担ぐ運搬具 棒の両側に桶屋かごなどを下げる	有民③-13
有民 ③	14 もっこ					担ぐ運搬具 棒の中央に下げて両端を一人ずつ担ぐ	有民③-14
有民 ③	15 荷車					車のある運搬具	有民③-15
有民 ③	16 馬車					車のある運搬具	有民③-16
有民 ③	17 人力車					車のある運搬具	有民③-17
有民 ③	18 リヤカー					車のある運搬具	有民③-18
有民 ③	19 そり					車のないもの	有民③-19
有民 ③	20 きんま (木馬)					牛馬に引かせるもの	有民③-20
有民 ③	21 にんぼう			明治～昭和		かさばる荷物を背負ったままで休憩するときを使う。	有民③-22
有民 ③	22 すかり					運搬具と物入れ	有民③-24
有民 ③	23 旧国鉄の通証 (キャ リヤ)			昭和	個人蔵	列車の通行手形のようなもの	有民③-25
有民 ③	24 飛行機プロペラ			大正	個人蔵	日本楽器会社製	有民③-26
有民 ③	25 船舶用信号灯紅灯 (石油使用)			戦後	個人蔵	電気の明かり	有民③-27
有民 ③	26 船舶用右舷灯 (緑 灯)			戦後	個人蔵	電気の明かり	有民③-28
有民 ③	27 手桶、たんか			明治～昭和		手に下げて運ぶもの	有民①-71

【民俗文化財／有形の民俗文化財／交易】

※交易に用いた道具 (看板や秤など) を対象

整理 番号	名称	所在地 (情報元)		時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字				
有民 ④	1 業種商の看板	藤田	藤田	大正	個人蔵		有民④-5
有民 ④	2 藤田信託株式会社の 営業案内	藤田		大正		大正2 (1913) 年	有民④-6
有民 ④	3 藤田町商店案内板	藤田	藤田	昭和	個人蔵	昭和26 (1951) 年	有民④-7
有民 ④	4 質屋看板ほか	藤田	藤田		個人蔵	全13点	有民④-8
有民 ④	5 てんびんばかり	藤田	石母田	昭和		124.5cm、米など計るとき4人くらいで計るもので80疋まで計れる	有民④-9
有民 ④	6 藤田信託株式会社 株券	藤田	藤田	大正	個人蔵	大正2 (1913) 年、株券	古-658
有民 ④	7 半沢果樹園出荷札 原版	大木戸	大木戸	大正～昭和初 期	個人蔵	出荷札原版	有民④-4 有民②-20
有民 ④	8 古銭	西大枝	西大枝		個人蔵	様々なお金	有民④-1
有民 ④	9 竿ばかり			大正	個人蔵	農産物の取引に使用	有民④-10
有民 ④	10 計算機			昭和	個人蔵	そろばんのできない人にとって至極便利な機械、計算事務には不可欠の機械	有民④-11

整理 番号	名称	所在地(情報元)		時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字				
有民④ 11	戦前、戦中の国際債券			昭和	個人蔵	志那事変国債、大東亜戦争割引国債、戦時報国債、貯蓄債券、等 昭和 17 (1942) 年・昭和 18 (1943) 年発行	有民④-12
有民④ 12	通行手形			江戸	個人蔵	文久 3 (1863) 年	有民④-13
有民④ 13	株券			大正	個人蔵	五拾円二枚、株式会社社長岡製絲場壹株券	有民④-14
有民④ 14	地券			明治	個人蔵	明治 10 (1877) 年・明治 11 (1878) 年、山林、田圃の地券	有民④-15
有民④ 15	携帯竿秤			大正	個人蔵	藪買い等に用いた竿秤	有民④-16
有民④ 16	六貫匁秤			大正	個人蔵		有民④-17
有民④ 17	穀類の計量枡(2点)				個人蔵	二合半、五合、一升枡の米や穀類を計量する枡	有民④-18
有民④ 18	一斗枡と斗かき棒				個人蔵	穀物等を計量する際、枡の上面を平にならず丸棒	有民④-19
有民④ 19	徳江河岸口留め番所札			江戸	個人蔵		有民④-20
有民④ 20	質鑑札				個人蔵		有民④-21
有民④ 21	六分儀			昭和	個人蔵	セクスタントともいう、二点間の角度を測る携帯用の測定器具	有民④-22
有民④ 22	記念切手集			昭和	個人蔵		有民④-23
有民④ 23	手より縄束ねの道具			明治	個人蔵	手で燃った縄を長さを計りながら束ねる道具	有民④-24
有民④ 24	5玉のそろばん			大正	個人蔵		有民④-25
有民④ 25	木彫りのオカメ面			明治	個人蔵	蚕種屋の商標としてつくられたもの	有民④-26
有民④ 26	糸秤			明治	個人蔵	明治 30 年購入の裏書、藪等の目方を計った	有民④-27
有民④ 27	一心堂薬局旧看板(2枚)			明治	個人蔵	明治 35 (1902) 年・40 (1907) 年、二文字屋より分家した初代泰喜平治が明治 35 (1902) 年に二文字屋薬局を開業し、5 年後に一心堂薬店と改称	有民④-28
有民④ 28	奥山呉服店看板			大正	個人蔵	大正 9 (1920) 年頃開店	有民④-29

※社会生活全般に関する資料を対象とし、学校・消防団や現代の生活用品等についても、国見町郷土史研究会によって報告された情報等を用いて掲載。
※同種のもの所有者が異なってもまとめています。

【民俗文化財／有形の民俗文化財／社会生活】

整理 番号	名称	所在地(情報元)		時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字				
有民⑤ 1	石母田信用購買組合金庫	藤田	石母田	大正	国見町農協石母田支所	写真、大正 14 (1925) 年	有民⑤-7
有民⑤ 2	通知表	藤田	石母田	明治～昭和	個人蔵		有民⑤-20
有民⑤ 3	卒業証書	藤田	藤田	明治	個人蔵	明治 33 (1900) 年、修業証	有民⑤-1
有民⑤ 4	軍隊手帳	藤田	藤田	昭和	個人蔵		有民⑤-12
有民⑤ 5	藤田小学校生徒木札	藤田	藤田	明治	個人蔵		有民⑤-1
有民⑤ 6	板木(ばんぎ)	小坂	内谷	昭和	内谷西町内会 個人蔵	叩いて集落の集会等を知らせる 昭和 10 (1935) 年頃、小坂村青年団では、午前 5 時に村内各方面で打ち鳴らして団員の早起きを奨励し、農産物の朝市振興を図った	有民⑤-6,26
有民⑤ 7	軍事郵便	小坂	泉田 小坂	明治～昭和	個人蔵		古-255,409,1400
有民⑤ 8	大木戸村警防団旗及び表彰旗	大木戸		昭和	国見町消防団第 5 分団		有民⑤-2
有民⑤ 9	屯所木札	大木戸	大木戸	明治	個人蔵		有民⑤-10
有民⑤ 10	奉公袋	大木戸	高城	昭和	個人蔵		有民⑤-13
有民⑤ 11	大木戸小学校卒業文集	大木戸		昭和			有民⑤-30
有民⑤ 12	召集令状	森江野	塚野目	昭和	個人蔵		古-737
有民⑤ 13	従軍日の丸	藤田 小坂 西大枝	石母田 小坂 西大枝	昭和	個人蔵	日章旗、太平洋戦争当時の寄せ書き日の丸	有民⑤-1,5,11
有民⑤ 14	翼賛壮年団旗	小坂 森江野	小坂 塚野目	昭和	個人蔵		有民⑤-3,4,9
有民⑤ 15	煙草用具	大枝 森江野	西大枝 森山	明治～昭和	個人蔵	たばこ用パイプ、印伝の煙草入れ、革製煙草入れ、松・つつじ製煙草入れ、キセル、さし、煙草盆、等	有民⑤-23 有民①-14,45,74
有民⑤ 16	労働証明書				個人蔵	ロシア政府発行	有民⑤-15

整理 番号	名称	所在地 (情報元)			時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
有民 ⑤	17 蓄音機				明治～昭和	個人蔵	エジソンA型蓄音機、ゼンマイ式ポータブル蓄音機、ゼンマイ式卓上型蓄音機、電気式蓄音機、真空管式電気蓄音機、等	有民⑤ - 17,28, 37~41,46
有民 ⑤	18 戦後の配給切符				昭和	個人蔵	衣料と塩の配給切符	有民⑤ -20
有民 ⑤	19 戦争中の思い出の品				昭和	個人蔵	7点	有民⑤ -21
有民 ⑤	20 徴用マーク				昭和	個人蔵	戦時中、国家が共生的に軍事工場等に動員し、作業に従事させた時の識別マーク	有民⑤ -22
有民 ⑤	21 写真引き延ばし機一式				明治	個人蔵		有民⑤ -24
有民 ⑤	22 遠眼鏡					個人蔵	ドイツ製	有民⑤ -25
有民 ⑤	23 共同作業所看板				昭和	内谷西町内会	昭和9(1934)年、東北地方の冷害で三井三菱財閥の義援金が交付され建造された作業所の看板、1階が農作業用、2階は集会用だった	有民⑤ -27
有民 ⑤	24 アメリカ製蛇腹式カメラ				大正	個人蔵		有民⑤ - 29,30
有民 ⑤	25 双眼鏡				明治	個人蔵		有民⑤ -31
有民 ⑤	26 小学校関係の物品				大正～昭和		一括 11点	有民⑤ -32
有民 ⑤	27 昔のラジオ				大正～昭和	個人蔵	五球スーパーラジオ、等	有民⑤ -33
有民 ⑤	28 17式防空用防毒面2点				昭和	町教育委員会	旧佐藤家住宅に收藏、飛行機から毒ガスを散布されたときに使用する	有民⑤ -36
有民 ⑤	29 オープンリールテープレコーダー					個人蔵		有民⑤ - 42,43
有民 ⑤	30 レコード・ソノシート					個人蔵		有民⑤ - 44,49
有民 ⑤	31 超小型レコードプレーヤーとアンプ					個人蔵		有民⑤ -45
有民 ⑤	32 ラジオ付きカセットプレーヤー					個人蔵		有民⑤ -47
有民 ⑤	33 CDラジカセ					個人蔵		有民⑤ -48
有民 ⑤	34 小型DVDプレーヤー					個人蔵		有民⑤ -50
有民 ⑤	35 ワープロとプリンター					個人蔵		有民⑤ -51
有民 ⑤	36 謄写版と関連する物品					個人蔵		有民⑤ -52
有民 ⑤	37 英文タイプライター					個人蔵		有民⑤ -53
有民 ⑤	38 邦文タイプライター					個人蔵		有民⑤ -54
有民 ⑤	39 戦地のアルバム				昭和	個人蔵		有民⑤ -8
有民 ⑤	40 軍服・軍靴・記章など				明治～昭和	町教育委員会 個人蔵	従軍兵士の使用した水筒、海軍飛行予科練習生軍服、陸軍少年航空兵軍服上下・戦闘帽・階級章、旧帝国海軍士官軍帽と中尉肩章、日本陸軍騎馬兵礼装用軍服、従軍記章及び同記章之證、満州の藁靴、等	有民⑤ -35 有民⑤ - 4,9,14,18, 23,28,31
有民 ⑤	41 祖父の関係書類				昭和	個人蔵	旧大木戸村書記、のちに助役として活躍した人物の関係書類	有民⑤ -13
有民 ⑤	42 表彰状・感謝状					個人蔵	小学校賞状、等	有民⑤ - 12,19,24,27
有民 ⑤	43 安孫子氏系譜				大正			有民⑤ -26
有民 ⑤	44 小学校試験答案(4枚)				明治	個人蔵		有民⑤ -32
有民 ⑤	45 船員手帳(5冊)				昭和	個人蔵		有民⑤ -33
有民 ⑤	46 海技免状(2種)				昭和	個人蔵		有民⑤ -34
有民 ⑤	47 祖父の勲記				明治	個人蔵		有民⑤ -15

【民俗文化財／有形の民俗文化財／信仰】

※地域の信仰に用いられた道具類、祭礼の山車・神輿、奉納された絵馬、石碑等を対象として掲載。信仰の対象として作られたことに価値を有する「庚申」「画像碑」などの石碑も対象としている。

整理 番号	名称	所在地 (情報元)			時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
有民 ⑥	1 観音像を拜む図(絵馬)	藤田	石母田	芹沢	明治	龍雲寺	龍雲寺絵馬、観音堂内、明治初期か	有民⑥ -56
有民 ⑥	2 観音講中(絵馬)	藤田	石母田	芹沢		龍雲寺	龍雲寺の絵馬	有民⑥ -57
有民 ⑥	3 石造地藏菩薩	藤田	石母田	芹沢	江戸末期	龍雲寺	湯野村石によるもので銘に山崎村吉田利七とある	彫-55
有民 ⑥	4 天狗の面絵(絵馬)	藤田	石母田	大清水	明治	三吉神社	三吉神社の絵馬、明治21(1888)年2月、瀬上村・金子志ほ	有民⑥ -58
有民 ⑥	5 鳥居図(絵馬)	藤田	石母田	大清水		三吉神社	三吉神社の絵馬	有民⑥ -59

整理 番号	名称	所在地 (情報元)			時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
有民⑥-6	6 神信仰図 (絵馬)	藤田	石母田	大清水		三吉神社	三吉神社の絵馬	有民⑥-60
有民⑥-7	7 獅子図 (絵馬)	藤田	石母田	大清水		三吉神社	三吉神社の絵馬、石原晃雲	有民⑥-61
有民⑥-8	8 参詣の図 (絵馬)	藤田	石母田	大清水		三吉神社	三吉神社の絵馬	有民⑥-65
有民⑥-9	9 神に祈る (絵馬)	藤田	石母田	大清水	明治	三吉神社	三吉神社の絵馬 明治45 (1912) 年3月、信夫村笹木野・角田耕栄	有民⑥-66
有民⑥-10	10 富士に龍 (絵馬)	藤田	石母田	大清水		三吉神社	三吉神社の絵馬、星野庄太郎、内海秀吉	有民⑥-67
有民⑥-11	11 一文銭鳥居の絵 (絵馬)	藤田	石母田	大清水	明治	三吉神社	三吉神社の絵馬 明治36 (1903) 年12月15日、信夫村笹木野・武田栄七	有民⑥-68
有民⑥-12	12 自作の小絵馬 (三十数枚)	藤田	石母田	大清水		三吉神社	三吉神社の絵馬	有民⑥-69
有民⑥-13	13 永字奉額	藤田	石母田	盗人返	江戸	国見神社	国見神社の絵馬、文化4 (1807) 年10月、西根郷惣鎮守御宝前大島正勝	有民⑥-62
有民⑥-14	14 弘法大師座像	藤田	石母田			個人蔵	木彫、阿津賀志山三十三観音・八十八大師画像碑群と関係	彫-56
有民⑥-15	15 穀屋針子図 (絵馬)	藤田	藤田	町尻	明治	鹿島神社	鹿島神社の絵馬、明治5 (1872) 年、絵師一法斎富国	有民⑥-72
有民⑥-16	16 佐藤門下の針子図 (絵馬)	藤田	藤田	町尻	明治	鹿島神社	鹿島神社の絵馬、明治16 (1883) 年、有隣義方の落款	有民⑥-73
有民⑥-17	17 刺繍絵馬	藤田	藤田	町尻	明治	鹿島神社	鹿島神社の絵馬	有民⑥-74
有民⑥-18	18 例大祭の山車	藤田	藤田	町尻		鹿島神社	社元、本町、大町、錦町の4つの若連が運行する	有民⑥-75
有民⑥-19	19 切支丹禁制の布令 (絵馬)	藤田	藤田	町尻	江戸	鹿島神社	鹿島神社の絵馬、慶応4 (1868) 年、太政官	有民⑥-76
有民⑥-20	20 鶴亀山水図 (絵馬)	藤田	藤田	町尻		鹿島神社		有民⑥-77
有民⑥-21	21 小作米一等賞状 (絵馬)	藤田	藤田	町尻		鹿島神社		有民⑥-78
有民⑥-22	22 天狗面奉額	藤田	藤田	町尻		鹿島神社		有民⑥-79
有民⑥-23	23 医薬神社奉額	藤田	藤田	町尻	明治	鹿島神社	鹿島神社所蔵、明治13 (1880) 年、有栖川親王の揮毫	有民⑥-80
有民⑥-24	24 武者二人戦いの刺繍絵 (絵馬)	藤田	藤田	町尻	明治	鹿島神社	鹿島神社の絵馬、明治17 (1884) 年12月、願主：佐久間惣治、本田佐吉	有民⑥-84,95
有民⑥-25	25 征露記念奉納俳句集額	藤田	藤田	町尻	明治	鹿島神社	鹿島神社の絵馬、主宰藤田吟社、補助 同社中	有民⑥-85
有民⑥-26	26 親月台ため池修繕水路 石橋、石垣畔道普請一同 (絵馬)	藤田	藤田	町尻	明治	鹿島神社	鹿島神社の絵馬 明治44 (1911) 年11月奉納 絵師董洞	有民⑥-86
有民⑥-27	27 鹿島神社御利益俳句奉納	藤田	藤田	町尻	対処	鹿島神社	鹿島神社の絵馬、大正元 (1912) 年、世話人伊里、紐閑 (管山月の子)	有民⑥-87書-27
有民⑥-28	28 松に大蛇の絵 (絵馬)	藤田	藤田	町尻		鹿島神社	鹿島神社の絵馬、奉納者：紺野ナホ	有民⑥-88
有民⑥-29	29 孝子順系額	藤田	藤田	町尻	昭和	鹿島神社	鹿島神社の絵馬、社掌：菅野惣治、奉納者：五十嵐今朝蔵	有民⑥-89
有民⑥-30	30 馬の絵病気回復祈願 (絵馬)	藤田	藤田	町尻		鹿島神社	鹿島神社の絵馬、黒分惣寿、いちの、絵師：石黒晃雲	有民⑥-90
有民⑥-31	31 天狗面額	藤田	藤田	鶉町		金比羅神社	金比羅神社の絵馬	有民⑥-91
有民⑥-32	32 鉾二本額	藤田	藤田	鶉町	明治	金比羅神社	金比羅神社の絵馬、明治19 (1886) 年3月、宮城県志田郡森山村・佐藤久吉寄進	有民⑥-92
有民⑥-33	33 地藏菩薩画像碑	藤田	藤田	堤下	昭和	大千寺	昭和27 (1952) 年	有民⑥-81
有民⑥-34	34 御霊神社の碑	藤田	藤田	滑沢	江戸	雷神社 (御霊神社)	弘化2 (1845) 年	有民⑥-82
有民⑥-35	35 厩の絵 (絵馬)	藤田	藤田	滑沢		雷神社 (御霊神社)	御霊神社の絵馬、翠園絵、中村文八	有民⑥-152
有民⑥-36	36 明の薬師	藤田	藤田	町尻			石塔、高さ：52cm、明薬師略縁起では正歴5 (994) 年	史⑦-15
有民⑥-37	37 蚕神様 (おしらすま)	藤田	山崎		昭和	個人蔵		有民⑥-96
有民⑥-38	38 婦人像 (絵馬)	藤田	山崎	荒戸沢	明治	三吉神社	三吉神社の絵馬、明治21 (1888) 年、富田村・喜知女奉納	有民⑥-97
有民⑥-39	39 子どもの成長祈願 (絵馬)	藤田	山崎	荒戸沢	明治	三吉神社	三吉神社の絵馬、明治23 (1890) 年6月30日、藤田・穂刈千工、ケン奉納	有民⑥-98
有民⑥-40	40 騎馬武者弓を射る図 (絵馬)	藤田	山崎	荒戸沢	明治	三吉神社	三吉神社の絵馬、長野県士族・湯川彦三郎 35歳	有民⑥-99
有民⑥-41	41 女人の祈り (絵馬)	藤田	山崎	荒戸沢	明治	三吉神社	三吉神社の絵馬、明治27 (1894) 年3月15日、藤田村・佐久間なか	有民⑥-100
有民⑥-42	42 鉾額	藤田	山崎	荒戸沢	明治	三吉神社	三吉神社の絵馬、明治10 (1877) 年11月1日、藤田・大勝藤吉	有民⑥-106
有民⑥-43	43 鉾額	藤田	山崎	荒戸沢	明治	三吉神社	三吉神社の絵馬、明治20 (1887) 年9月1日、泉田村・高橋源兵工	有民⑥-107
有民⑥-44	44 主人の祈り (絵馬)	藤田	山崎	荒戸沢	明治	三吉神社	三吉神社の絵馬、明治24 (1891) 年9月29日	有民⑥-108
有民⑥-45	45 鉾額	藤田	山崎	荒戸沢	明治	三吉神社	三吉神社の絵馬、明治26 (1893) 年2月、藤田・榊樓内、青山ワカ	有民⑥-109

整理 番号	名称	所在地 (情報元)			時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
有民 ⑥	46 三宝に餅 (絵馬)	藤田	山崎	荒戸沢		三吉神社	三吉神社の絵馬、藤田・渡辺ワヨ	有民⑥-110
有民 ⑥	47 婦人祈願 (絵馬)	藤田	山崎	荒戸沢		三吉神社	三吉神社の絵馬、福島県藤田駅・榊楼、佐藤婦方	有民⑥-111
有民 ⑥	48 ボタンの花 (絵馬)	藤田	山崎	荒戸沢		三吉神社	三吉神社の絵馬	有民⑥-112
有民 ⑥	49 龍彫刻額	藤田	山崎	荒戸沢		三吉神社	三吉神社の絵馬	有民⑥-113
有民 ⑥	50 鳥居額	藤田	山崎	荒戸沢		三吉神社	三吉神社の絵馬、桂沢村・野田	有民⑥-114
有民 ⑥	51 敬神 (絵馬)	藤田	山崎	荒戸沢	大正	三吉神社	三吉神社の絵馬、俳句奉納、大正6 (1917) 年8月、角田・小野寺茂吉	有民⑥-115
有民 ⑥	52 馬三頭の絵 (絵馬)	藤田	山崎	宮前		水雲神社	水雲神社の絵馬、安全祈願、塩釜町北浜町・尾形せき奉納	有民⑥-101
有民 ⑥	53 鍋の絵 (7枚) (絵馬)	藤田	山崎	宮前	昭和	水雲神社	水雲神社の絵馬、いずれも昭和に入ってから奉納	有民⑥-102
有民 ⑥	54 姉妹の祈願 (絵馬)	藤田	山崎	寺前	明治	長泉寺	長泉寺の絵馬、明治14 (1881) 年3月15日、松浦紹、願主：吉田弥七、娘・い志、きや、せん、たき	有民⑥-103
有民 ⑥	55 山水と人物の絵 (絵馬)	藤田	山崎	寺前	明治	長泉寺	長泉寺の絵馬、明治23 (1890) 年夏、三木常次郎画	有民⑥-104
有民 ⑥	56 石造六地藏菩薩像	藤田	山崎	寺前	江戸末期	長泉寺	湯野村 (現：福島市湯野) の石材製。その供養の意を刻んだ石に吉田利七とある	彫-91
有民 ⑥	57 夫婦の祈願 (篠葉沢稲荷神社)	藤田	山崎	上川前	明治	篠葉澤稲荷神社	篠葉澤稲荷神社の絵馬、明治39 (1906) 年1月1日、八島伝次郎	有民⑥-105
有民 ⑥	58 だるま	藤田	山崎			個人蔵	だるま市で購入、毎年増える	有民⑥-116
有民 ⑥	59 うそかえ鳥	藤田	山崎			個人蔵	1年の災いをウソにかえてくれるもの	有民⑥-117
有民 ⑥	60 婦女祈願 (絵馬)	小坂	泉田	足洗	明治	貴船神社	貴船神社の絵馬、願主黒田キヨ	有民⑥-35
有民 ⑥	61 京都貴船神社参拝記念 (絵馬)	小坂	泉田	足洗	昭和	貴船神社	貴船神社の絵馬、昭和14 (1939) 年	有民⑥-36
有民 ⑥	62 歩兵四連隊攻撃図 (日露戦争) (絵馬)	小坂	泉田	足洗	明治	貴船神社	貴船神社の絵馬、明治38 (1905) 年	有民⑥-37
有民 ⑥	63 旅順203高地記念碑 (絵馬)	小坂	泉田	足洗	明治	貴船神社	貴船神社の絵馬、記念碑の絵馬か?	有民⑥-38
有民 ⑥	64 宝船の絵 (絵馬)	小坂	泉田	足洗		貴船神社	貴船神社の絵馬、墨絵	有民⑥-39
有民 ⑥	65 蚕婦立図 (絵馬)	小坂	内谷	館脇	江戸～明治	春日神社	春日神社の絵馬、明治19 (1886) 年9月19日	有民⑥-40
有民 ⑥	66 神鹿図 (絵馬)	小坂	内谷	館脇	江戸	春日神社	春日神社の絵馬、慶応3 (1867) 年4月、玖萬坂富次郎	有民⑥-41
有民 ⑥	67 再建ノ際の奉納額	小坂	内谷	館脇	江戸	愛宕神社	愛宕神社の尊像は行基和正の彫立なり、安政6 (1859) 年	有民⑥-42
有民 ⑥	68 山水図 (絵馬)	小坂	内谷	館脇	明治	春日神社	春日神社の絵馬、明治19 (1886) 年	有民⑥-43
有民 ⑥	69 夫婦心願の図 (絵馬)	小坂	内谷	館脇	明治	春日神社	春日神社の絵馬、明治21 (1888) 年9月19日、熊坂文太郎奉納	有民⑥-44
有民 ⑥	70 騎馬武者の図 (絵馬)	小坂	内谷	館脇	昭和	春日神社	春日神社の絵馬、諸願成就のため昭和10 (1877) 年9月19日、菅野喜三郎奉納、県議選御礼のため	有民⑥-45
有民 ⑥	71 母子神詣り (絵馬)	小坂	内谷	館脇	明治	春日神社	春日神社の絵馬、当時の春日神社を描く	有民⑥-46
有民 ⑥	72 宇治川先陣の絵 (絵馬)	小坂	内谷	館脇	昭和	春日神社	春日神社の絵馬、諸願成就のため 菅野喜三郎福島県議選5回当選御礼	有民⑥-47
有民 ⑥	73 念三夜	小坂	内谷	岩下	江戸	薬師堂 (西堂薬師)	天明2 (1782) 年寅9月吉日 西堂薬師堂の境内の石碑	有民⑥-48
有民 ⑥	74 雷神様	小坂	小坂	北畠	江戸		石碑	有民⑥-49
有民 ⑥	75 野仏 (2体)	小坂	小坂		江戸		旧小坂峠入口の石仏	彫-44
有民 ⑥	76 虫歯地藏	小坂	小坂				地藏を石塔に彫ったもの、虫歯に病むものに効くという	口伝③-151
有民 ⑥	77 馬頭観世音菩薩の奉納額	小坂	鳥取		明治		明治39 (1906) 年奉納、願主は友月庵竹甫 (藤田の人)	有民⑥-50
有民 ⑥	78 観音来迎の図 (絵馬)	小坂	鳥取			鳥取公民館	鳥取公民館の絵馬	有民⑥-51
有民 ⑥	79 阿津賀志山三十三観音・八十八大師画像群碑群	大木戸	大木戸	阿津加志山	江戸		町指定有形民俗文化財「阿津賀志山三十三観音・八十八大師画像群碑群」 弘化3 (1846) 年に伊達郡二之袋村 (現：伊達市梁川町) の源右衛門の発願で設けられたもの、地元産の自然石に大師像と観音像が線刻され、四国八十八箇所と西国三十三箇所などをあらし、地域の篤い信仰を示している	有民⑥-10
有民 ⑥	80 海上の月と鶴の絵額 (絵馬)	大木戸	大木戸	岩塚		国見神社	国見神社の絵馬	有民⑥-14
有民 ⑥	81 国見神社宝案俳諧奉納額	大木戸	大木戸	岩塚	江戸	国見神社	町指定有形民俗文化財「国見神社宝案俳諧奉納額」 元文5 (1740) 年、高木斎藤善次郎奉納、安政6 (1859) 年、安養寺住職奉納の2面あり、前者が町指定有形民俗文化財	有民⑥-28,71
有民 ⑥	82 国見神社奉納算額	大木戸	大木戸	岩塚	江戸	国見神社	町指定有形民俗文化財「国見神社奉納算額」 修験良寛院秀眼に教えを受けた弟子11人が文久2 (1862) 年に掲額	有民⑥-11,29
有民 ⑥	83 国見町神社改装祝 (絵馬)	大木戸	大木戸	岩塚	昭和	国見神社	国見神社の絵馬、昭和27 (1952) 年の開創を記念して昭和31 (1956) 年奉納	有民⑥-12,30

整理 番号	名称	所在地 (情報元)			時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
有民⑥-84	明治憲法発布 (明治百年記念) (絵馬)	大木戸	大木戸	岩塚	昭和	国見神社	国見神社の絵馬、明治百年を記念して昭和42 (1967) 年、大木戸の高橋市郎奉納	有民⑥-13,31
有民⑥-85	山根の石仏	大木戸	大木戸		江戸		観世音菩薩坐像線刻、天保6 (1835) 年、造立者：村上佐兵衛	彫-8
有民⑥-86	岡田盛正と水雲神社の算額	大木戸	貝田	宮ノ腰	明治	水雲神社	和算を治め、帰郷して家業の傍ら観世流の謡を子供たちに教えた明治時代、村社水雲神社へ算額を奉納する	有民⑥-15
有民⑥-87	立石大神奉祀記念碑 (絵馬)	大木戸	貝田		昭和		貝田の奇岩を描く絵馬	有民⑥-18
有民⑥-88	木造弘法大師坐像	大木戸	貝田		江戸	個人蔵	嘉永2 (1849) 年、向川原村菅野儀助作との墨書	
有民⑥-89	大黒天の碑	大木戸	貝田				最禪寺の山門前から約100m、「山形屋」が庚申請で自分の土地に建てたものを移設したもの	有民⑥-16
有民⑥-90	鷲ノ宮	大木戸	貝田		江戸		岩の上の石造りのお宮、約200年前に相馬の人が建てたという	史③-6
有民⑥-91	水天宮	大木戸	貝田		明治		牛沢川上流から取水して町に流れる水路へ流す起点にある、明治10 (1877) 年建立	史③-7
有民⑥-92	馬頭観世音	大木戸	貝田				貝田林道の入り口近くにある	史③-8
有民⑥-93	養蚕図 (絵馬)	大木戸	光明寺	滝沢	江戸	御瀧神社	御瀧神社の絵馬、文久3 (1863) 年、渋谷栄之助の妻・於利が奉納、画は東雲の落款	有民⑥-19
有民⑥-94	水神の石祠	大木戸	光明寺	滝沢		御瀧神社	御瀧神社の社殿とは別に祠が建てられ、祭礼の際にたてるボンテンが建てられている	有民⑥-20
有民⑥-95	白蛇絵馬	大木戸	光明寺	滝沢		御瀧神社	年代不明、蚕の大敵のネズミ除けを願ったもの	有民⑥-21
有民⑥-96	松と大蛇図 (絵馬)	大木戸	光明寺	滝沢		御瀧神社	御瀧神社の絵馬、鈴木吉太郎	有民⑥-23
有民⑥-97	鼠除大蛇図 (絵馬)	大木戸	光明寺	滝沢	明治	御瀧神社	御瀧神社の絵馬、明治43 (1910) 年7月13日、奉納者：宮城県伊具郡紺野谷津	有民⑥-24
有民⑥-98	母の祈り (絵馬)	大木戸	光明寺	滝沢	明治	御瀧神社	御瀧神社の絵馬、明治14 (1881) 年1月、奉納者：松浦トヨ	有民⑥-25
有民⑥-99	鐘馗様の鬼退治 (絵馬)	大木戸	光明寺	滝沢	大正	御瀧神社	御瀧神社の絵馬 大正4 (1915) 年8月、佐藤画生	有民⑥-26
有民⑥-100	六角地藏	大木戸	光明寺				路傍にある石塔、高さ：40cm、時代不明	史⑦-4
有民⑥-101	オシメサマ	大木戸	高城		昭和	個人蔵	盲目の巫女が拝み屋を行う際、オシメサマをオロシ申すときに使用したもののフランス CNRS 国立中央学術センターが昭和51 (1976) 年より1年間、学術資料として展示・研究のため借用していた	有民⑥-27
有民⑥-102	馬図絵馬	大木戸	高城	前		東大窪八幡神社	東大窪八幡神社の絵馬	有民⑥-32
有民⑥-103	源頼政ヌイ胎児図絵馬	大木戸	高城	前		東大窪八幡神社	東大窪八幡神社の絵馬	有民⑥-33
有民⑥-104	安養寺前の百庚申	大木戸	高城	北			石碑	有民⑥-34
有民⑥-105	弁天様と龍の図 (絵馬)	西大枝	川内	柳原	明治	厳島神社	厳島神社 (川内) の絵馬 明治10 (1877) 年3月 佐久間鉄五郎外16人 絵師翠溪	有民⑥-1
有民⑥-106	山車	西大枝	川内	柳原	平成		戦後途絶えていた山車を、平成元 (1989) 年に「あつかし太鼓保存会」として結成、平成4 (1992) 年には1台の山車を作り厳島神社例大祭に巡行させた	有民⑥-2
有民⑥-107	弘法大師座像	西大枝	川内			個人蔵	阿津賀志山三十三観音八十八大師画像碑群とともに存在していた大師堂に安置、御堂焼失のため移設	彫-115
有民⑥-108	西大枝深山神社の廻米絵馬	西大枝	西大枝	宮ノ内	江戸	深山神社	町指定有形民俗文化財「西大枝深山神社の廻米絵馬」幕末期、西大枝村名主・佐藤浅次郎が廻米船の安全を祈願し、画家・佐州 (佐藤名平) に描かせたもの、荒浜港 (現：宮城県亘理町) で年貢米を積み替えている作業情景を描く	有民⑥-3
有民⑥-109	始皇帝と武人図 (絵馬)	西大枝	西大枝	宮ノ内	大正	深山神社	深山神社の絵馬、大正元 (1912) 年旧9月9日、小林直次奉納、絵師北向堂老人	有民⑥-4
有民⑥-110	鐘馗と鬼の図 (絵馬)	西大枝	西大枝	宮ノ内	大正	深山神社	深山神社の絵馬、大正6 (1917) 年4月、諸願成就奉納、紫泉、絵師佐藤名平次による	有民⑥-5
有民⑥-111	深山神社奉額	西大枝	西大枝	宮ノ内		深山神社		有民⑥-8
有民⑥-112	繁馬 (絵馬)	西大枝	西大枝	宮ノ内		深山神社	深山神社の絵馬、当村 小林深之助	有民⑥-9
有民⑥-113	観音菩薩を拜む図 (絵馬)	西大枝	西大枝	古館		西松寺	西松寺の絵馬、西松寺境内にある聖観音像を祀るお堂、平成10年修復	有民⑥-6
有民⑥-114	讃馬奉納額	森江野	塚野目	金屋	江戸	五郎市神社	五郎市神社の絵馬、杉材、墨書、作者名：並樹歌垣万富、奉納者：海金光有増、安政3 (1856) 年8月奉納	有民⑥-118
有民⑥-115	奉納俳句額	森江野	塚野目	金屋	江戸	五郎市神社	五郎市神社の絵馬、櫻材、作者名：広旗堂旧友ほか、奉納者：笹屋清七、文久元 (1861) 年奉納	有民⑥-119,123
有民⑥-116	野馬図 (絵馬)	森江野	塚野目	金屋	明治	五郎市神社	五郎市神社の絵馬、明治15 (1882) 年、絵師：五郎市神社神宮・西山正躬雲洞	有民⑥-120
有民⑥-117	五郎市神社 (絵馬)	森江野	塚野目	金屋		五郎市神社		有民⑥-121
有民⑥-118	馬絵 (絵馬)	森江野	塚野目	金屋	昭和	五郎市神社	五郎市神社の絵馬、昭和21 (1946) 年10月12日、若月善助奉納	有民⑥-124
有民⑥-119	塚野目地藏観音権現尊画像碑	森江野	塚野目					有民⑥-122
有民⑥-120	馬絵 (絵馬)	森江野	塚野目	前畑	明治	八幡神社	八幡神社の絵馬、明治33 (1900) 年旧3月15日、藤田山崎・吉田庄六、吉田きよ	有民⑥-125
有民⑥-121	「八幡堂」額	森江野	塚野目	前畑	明治	八幡神社	八幡神社の絵馬、明治39 (1906) 年5月7日、願主：舟山初子	有民⑥-126

整理 番号	名称	所在地 (情報元)			時代	所有者	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字				
有民⑥ 122	兵士の絵 (絵馬)	森江野	塚野目	前畑	明治	八幡神社	八幡神社の絵馬、明治 42 (1909) 年、武運長久祈願、納人: 森江野村・大波ぬへ	有民⑥-127
有民⑥ 123	桜下跳馬図 (絵馬)	森江野	徳江	団扇	江戸	観音寺	観音寺・観音堂の絵馬、杉材、彩色、奉納者: 当村斎藤氏、文化 4 (1807) 年	有民⑥-129
有民⑥ 124	つなぎ馬 (絵馬)	森江野	徳江	団扇	江戸	観音寺	観音寺・観音堂の絵馬、杉材	有民⑥-130
有民⑥ 125	溪祖が書を与える 図 (絵馬)	森江野	徳江	中ノ内 団扇	江戸	観音寺	観音寺・観音堂の絵馬、嘉永 9 年 (※情報源誤植)	有民⑥-131
有民⑥ 126	絵馬	森江野	徳江	中ノ内 団扇	江戸	観音寺	観音寺・観音堂の絵馬、文化年間 (1804-1818)	有民⑥-132
有民⑥ 127	牡丹に唐獅子図 (絵 馬)	森江野	徳江	中ノ内 団扇	江戸	観音寺	観音寺・観音堂の絵馬、徳江観音寺観音堂 作者は滝川斎文永	有民⑥- 133,147
有民⑥ 128	馬図 (絵馬)	森江野	徳江	中ノ内 団扇	江戸	観音寺	観音寺・観音堂の絵馬、嘉永 3 (1850) 年、願主: 文香引地氏	有民⑥-134
有民⑥ 129	常盤御前図 (絵馬)	森江野	徳江	中ノ内 団扇	江戸	観音寺	観音寺・観音堂の絵馬、南文探作	有民⑥-135
有民⑥ 130	圪上之図 (絵馬)	森江野	徳江	中ノ内 団扇	江戸	観音寺	観音寺・観音堂の絵馬、嘉永年間 (1848-1855)	有民⑥-136
有民⑥ 131	観音寺観音堂汽車 絵馬	森江野	徳江	中ノ内 団扇	明治	観音寺	町指定有形民俗文化財「観音寺観音堂汽車絵馬」 観音寺・観音堂の絵馬、明治 25 (1892) 年、徳江タケが奉納した汽 車の図柄の刺繍絵馬	有民⑥-137
有民⑥ 132	母親祈願図 (絵馬)	森江野	徳江	中ノ内 団扇		観音寺	観音寺・観音堂の絵馬	有民⑥-143
有民⑥ 133	婦人裁縫教室図 (絵 馬)	森江野	徳江	中ノ内 団扇	明治	観音寺	観音寺・観音堂の絵馬、明治 29 (1896) 年 4 月、縫子佐久間さや、 ほか 15 人の縫子を描く、世話人: 斎藤いの	有民⑥- 144,149
有民⑥ 134	俳句額	森江野	徳江	中ノ内 団扇	明治	観音寺	観音寺・観音堂の絵馬	有民⑥-145
有民⑥ 135	驛馬二頭 (絵馬)	森江野	徳江	中ノ内 団扇	江戸	観音寺	観音寺・観音堂の絵馬、文化 4 (1807) 年 3 月、絵師不詳	有民⑥-146
有民⑥ 136	戦勝祈願	森江野	徳江	中ノ内 団扇	明治	観音寺	観音寺・観音堂の絵馬 明治 28 (1895) 年 4 月、発起人: 本田慶蔵	有民⑥-148
有民⑥ 137	沼田神社再建遷宮 祝俳諧歌奉額	森江野	徳江	沼田	明治	沼田神社	町指定有形民俗文化財「沼田神社再建遷宮祝俳諧歌奉額」 慶応 3 (1867) 年、沼田神社再建の折に奉額すべく俳諧を募り、明治 31 (1898) 年に奉納、主催者: 南藤堂武俊、選者: 浅緑庵武村、六歌仙: 玉桃亭金俊ほか	有民⑥- 7,128,138
有民⑥ 138	沼田神社南藤堂武 俊七十齡賀寿俳諧 歌奉額	森江野	徳江	沼田	明治	沼田神社	町指定有形民俗文化財「沼田神社南藤堂武俊七十齡賀寿俳諧歌奉額」 沼田神社の絵馬、明治 19 (1886) 年奉納	有民⑥-139
有民⑥ 139	沼田神社 (絵馬)	森江野	徳江	沼田		沼田神社		有民⑥-140
有民⑥ 140	雪路の親子 (絵馬)	森江野	徳江	沼田		沼田神社	観音寺観音堂の絵馬、常盤御前とその子 3 名追っ手を逃れてさ迷い歩 く図、奉納者: 斎藤留蔵、絵師: 徳江出身・南文探	有民⑥-141
有民⑥ 141	馬上武士図 (絵馬)	森江野	徳江	沼田	江戸	沼田神社	観音寺観音堂の絵馬、嘉永年間 (1848-1854)	有民⑥-142
有民⑥ 142	道祖神	森江野	森山	唐杉	江戸		石祠、寛政 11 (1799) 年 10 月 29 日の銘、ほかに二十三夜塔と古い 石碑が 3 基ある	有民⑥-150 有民③-6
有民⑥ 143	古峯神社碑	森江野	森山	上野台	明治	神明神社	天照神明宮、明治 38 (1905) 年	有民⑥-151
有民⑥ 144	一族参詣の図 (絵 馬)	森江野	森山	東新田	明治	小牛田山神社	小牛田山神社の絵馬、明治 22 (1889) 年 2 月、奉納者: 武田新右衛 門	有民⑥-153
有民⑥ 145	ころり薬師様	森江野	森山	上野 薬師			上野薬師所在の石造仏、年代不明。大正の末に嫁いできた 3 人の女性 が四季折々戸の祠にお参りして、元気で長生きして天寿を全うした話 から、この祠を「ころり薬師様」と呼ぶようになった、耳病平癒として 信仰	史③-45 彫-112
有民⑥ 146	ウチガミ、イナリ						ウプスナ神とも呼ばれる各家々にある石の小祠、様々な神を祀った家 の守り神、多くは稲荷様で農業の神、戌亥 (北西) の方角に置く 昔は 9 月 9 日に「オフクラ」(木の骨組みに新ワラで屋根をかけたもの) をかけ赤飯をお供えした	有民⑥-157
有民⑥ 147	カマド神と水神						どの家にもある、カマドと井戸や川辺に祀る神	有民⑥-158
有民⑥ 148	庚申塔						民間信仰、石造供養塔、63 基	有民⑥-159
有民⑥ 149	二十三夜塔						民間信仰、石造供養塔、42 基	有民⑥-160
有民⑥ 150	二十日塔						民間信仰、石造供養塔、9 基	有民⑥-161
有民⑥ 151	十七夜塔						民間信仰、石造供養塔、2 基	有民⑥-162
有民⑥ 152	二十六夜塔						民間信仰、石造供養塔、1 基	有民⑥-163
有民⑥ 153	二十二夜塔						民間信仰、石造供養塔、1 基	有民⑥-164
有民⑥ 154	勢至塔						民間信仰、石造供養塔、1 基	有民⑥-165
有民⑥ 155	蚕供養塔						民間信仰、石造供養塔、1 基	有民⑥-166
有民⑥ 156	月待塔						民間信仰、石造供養塔、1 基	有民⑥-167
有民⑥ 157	巳待塔						民間信仰、石造供養塔、4 基	有民⑥-168

整理番号	名称	所在地(情報元)			時代	所有者	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字				
有民⑥-158	山神塔						民間信仰、石造供養塔、2基	有民⑥-169
有民⑥-159	馬頭観音塔						民間信仰、石造供養塔、5基	有民⑥-170
有民⑥-160	観音塔						民間信仰、石造供養塔、1基	有民⑥-171
有民⑥-161	大黒天塔						民間信仰、石造供養塔、4基	有民⑥-172
有民⑥-162	雷神塔						民間信仰、石造供養塔、8基	有民⑥-173
有民⑥-163	妙見塔						民間信仰、石造供養塔、1基	有民⑥-174
有民⑥-164	毘沙門塔						民間信仰、石造供養塔、1基	有民⑥-175
有民⑥-165	弁才天塔						民間信仰、石造供養塔、1基	有民⑥-176
有民⑥-166	湯殿山塔						民間信仰、石造供養塔、3基	有民⑥-177
有民⑥-167	金毘羅大権現塔						民間信仰、石造供養塔、1基	有民⑥-178
有民⑥-168	金剛塔						民間信仰、石造供養塔、1基	有民⑥-179
有民⑥-169	百万遍供養塔						民間信仰、石造供養塔、2基	有民⑥-180
有民⑥-170	大乘妙典供養塔						民間信仰、石造供養塔、2基	有民⑥-181
有民⑥-171	六字名号塔						民間信仰、石造供養塔、1基	有民⑥-182
有民⑥-172	光明真言塔						民間信仰、石造供養塔、1基	有民⑥-183
有民⑥-173	木彫り不動尊				大正	個人蔵	大正10(1921)年頃、梁川町の伯父が彫った	有民⑥-185
有民⑥-174	木彫り(2体)					個人蔵	大正10(1921)年頃、梁川町の伯父が彫った、布袋様、恵比須様	有民⑥-186
有民⑥-175	神棚				昭和			有民⑥-187

【民俗文化財／有形の民俗文化財／民俗知識】

※記録目的だけではなく、当時の人々の知恵や知識向上に関する資料(教科書、家相図など)を対象として掲載。

整理番号	名称	所在地(情報元)		時代	所有者	備考	調査台帳番号
		地区	大字				
有民⑦-1	教科書「国史略」	藤田	藤田	明治			有民⑦-4
有民⑦-2	教科書「商工農士」	藤田	藤田	明治			有民⑦-5
有民⑦-3	旧我が家の家相図	藤田	山崎	大正	個人蔵	150年間住んだ家(現存しない)の家相図	有民⑦-6
有民⑦-4	佐藤善次郎家相図	小坂	小坂	江戸	個人蔵	嘉永年間(1848-1854)	有民⑦-16
有民⑦-5	大木戸小学校の日時計	大木戸	大木戸	昭和		明治45(1912)年度入学の人々が、1979年頃の大木戸小学校新校舎建設の折に送ったもの	有民⑦-2
有民⑦-6	明治の教科書			明治	個人蔵	祖父と弟妹たちが使用した	有民⑦-17
有民⑦-7	新制中学校の教科書			昭和	個人蔵		有民⑦-25
有民⑦-8	徳江観音寺古文書解説			昭和	個人蔵		有民⑦-26
有民⑦-9	磁石			明治	個人蔵	丸木をくりぬいて磁針をセットしてある	有民⑦-30
有民⑦-10	野村家住宅地平面図2点			江戸	個人蔵	弘化3(1846)年、製図者・佐久間純重	有民⑦-31
有民⑦-11	古新聞(大正、昭和)			大正～昭和	個人蔵		有民⑦-32
有民⑦-12	高橋家家相図			明治	個人蔵	祖父作成	有民⑦-33
有民⑦-13	終戦直後の旧制中学校教科書			昭和	個人蔵	昭和22(1947)年	有民⑦-34
有民⑦-14	新制高校教科書			昭和	個人蔵	昭和24(1949)年	有民⑦-35
有民⑦-15	高等小学国史			昭和	個人蔵	昭和14(1939)年	有民⑦-36
有民⑦-16	小学校唱歌第三編			明治	個人蔵	明治18(1885)年	有民⑦-37
有民⑦-17	祖父の覚書帳			明治	個人蔵	祖父の生活での特異事項や農産物の状況などの記録	有民⑦-7

【民俗文化財／有形の民俗文化財／民俗芸能】

※民俗芸能「内谷春日神社太々神楽」に関わる資料などを対象とした。合わせて、昭和初期までの娯楽・遊戯に関わる道具も対象としている。

整理番号	名称	所在地(情報元)		時代	所有者	備考	調査台帳番号
		地区	大字				
有民⑧-1	神楽面(内谷春日神社太々神楽)	小坂	内谷	明治	春日神社	明治15(1882)年以来使用、ひょっとこ、日本武尊、大国主命、八幡大神、天手力雄命、天鋳女、白狐、猿田彦、春日神、言代、素戔嗚尊、翁	有民⑧-1
有民⑧-2	神楽坐割(内谷春日神社太々神楽)	小坂	内谷	明治	春日神社	現代のプログラム、明治38(1905)年以降のものが残されている	古-260
有民⑧-3	太々連判帳(内谷春日神社太々神楽)	小坂	内谷	明治	春日神社	神楽を奉納するときの規則や役職をまとめたもの 明治29(1896)年、拜殿に残されている	古-261
有民⑧-4	ブリキ製玩具			大正	個人蔵		有民⑧-2
有民⑧-5	伊達名勝いろはがるた					昭和26(1893)年、作詞：蓬田英助、補作：平林有尚、後藤万七	有民⑧-3
有民⑧-6	コマ			昭和	個人蔵	オモチャ用	有民⑧-4
有民⑧-7	ケンダマ			明治	個人蔵		有民⑧-5
有民⑧-8	オハジキ				個人蔵	昔の女の子どもには欠かせない一般的遊び道具	有民⑧-6
有民⑧-9	昔のスキーとストック				個人蔵	スキーはカンダマー付き、ストックは竹製	有民⑧-7
有民⑧-10	小物の乃木大将人形			大正	個人蔵		有民⑧-8

【民俗文化財／有形の民俗文化財／人の一生】

※冠婚葬祭に関わる道具・衣装等を対象として掲載。

整理番号	名称	所在地(情報元)		時代	所有者	備考	調査台帳番号
		地区	大字				
有民⑨-5	七重祝杯			江戸	個人蔵	天明年間(1781-1789)	有民⑨-5
有民⑨-6,16-17,22	婚礼衣装					打掛、丸帯、等	有民⑨-6,16-17,22
有民⑨-10	結納樽			江戸	個人蔵	天明3(1783)年	有民⑨-10
有民⑨-11,25	祝産着、掛衣装(冬物、夏物)			明治	個人蔵	子どもが生まれた時宮参りや里帰りの時に用いた	有民⑨-11,25
有民⑨-21	祝着			昭和	個人蔵		有民⑨-21
有民⑨-29	れいしゅ					結婚式の式次第のこと	有民⑨-29
有民⑨-369	腹帯			明治～昭和		通過儀礼	風慣-369

【民俗文化財／有形の民俗文化財／年中行事】

※節句などに関わる道具類を対象として掲載。

整理番号	名称	所在地(情報元)		時代	所有者	備考	調査台帳番号
		地区	大字				
有民⑩-2	端午の節句内飾り	藤田	藤田	昭和	個人蔵	孫の誕生を祝って購入したもの	有民⑩-2
有民⑩-1歴-137	雛人形	西大枝	西大枝	江戸～明治	個人蔵		有民⑩-1歴-137
有民⑩-3	木臼・杵	藤田 森江野	藤田 山崎 塚野目	大正～昭和	個人蔵	正月などに餅をつく、穀類の粉碎などにも用いる	有民⑩-3
有民⑩-4	花見用御馳走入れ						有民⑩-4
有民⑩-4	盆用具						

【民俗文化財／無形の民俗文化財／風俗慣習】

※生活文化、年中行事、祭礼、信仰、生産、生業に関わる行事や催事・組織などの無形の歴史文化資源を対象とし、ハレの食などの食に関わる資料も対象として掲載。

整理番号	名称	伝承地		時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字			
風慣-158	青麻神社祭礼	藤田	石母田		日時：旧3月17日、内容：献饗、所在地：青麻神社	風慣-158
風慣-159	愛宕神社祭礼	藤田	石母田		日時：旧3月24日、内容：献饗、所在地：愛宕神社	風慣-159
風慣-160	国見神社祭礼	藤田	石母田		日時：4月3日、11月23日、内容：神輿渡御、献饗、所在地：国見神社、1月：元旦祭、氏子の厄難消除等祈願、4月：新年度の豊作を祈願する神事、11月：収穫を感謝する神事	風慣-160
風慣-161	三吉神社例祭	藤田	石母田		日時：4月29日、11月3日、内容：献饗、神楽、所在地：三吉神社	風慣-161
風慣-162,164	瀧口神社祭礼	藤田	石母田		日時：9月9日。内容：献饗、(雨乞い)、所在地：瀧口神社	風慣-162,164
風慣-165	春祈禱	藤田	石母田	明治～昭和	民間信仰	風慣-165
風慣-166	有限責任石母田購買組合	藤田	石母田		大正14(1925)年設立	風慣-166
風慣-167	農業市	藤田	藤田		日時：5月5日、内容：市、所在地：観月台公園、昭和35(1960)年から本町商工会主催で続く、江戸時代に福島山の山王社で行われていた「農市」が各地に広まったとされる	風慣-167

整理 番号	名称	伝承地		時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字			
風慣 9	奉納花火大会	藤田	藤田		日時：8月2日、内容：花火、(燈籠流し)	風慣-168
風慣 10	鹿島神社例大祭	藤田	藤田		町指定無形民俗文化財「鹿島神社例大祭」 毎年10月の第4金曜と土曜の2日間、露店がひしめく中を神輿や山車が練り歩く 起源は明確ではないが、弘治4(1558)年「梁川八幡宮祭礼規式」に「御長袴ノ祭り」の記 述があり、中世に長袴や旗幟の風流行列が出る祭礼があったことがわかる	風慣-169, 171,183, 184,198
風慣 11	暮市(だるま市)	藤田	藤田		日時：12月29日、内容：市(だるま、飾り物)、所在地：国見町商店街 藤田宿沿道で開かれ、正月飾りや福鳥だるまが売られる、起源は六斎市	風慣-170
風慣 12	六斎市	藤田	藤田	江戸～大正	毎月1と6の日に市が立っていた、江戸から明治にかけて発展、大正期は生糸と真綿の売買 が中心の定期市だったが、自家製糸の衰退とともに市場も衰退した	風慣-172, 173,185
風慣 13	藤田宿の遊郭	藤田	藤田	江戸	文化年間(1804-1818)には藤田宿の旅籠・揚屋に飯盛り女を抱えるところが多かった、明 治頃に女郎屋は3軒あった	風慣- 174,344
風慣 14	藤田の花市	藤田	藤田	明治～昭和	7月12日頃	風慣-175
風慣 15	消防組(藤田)	藤田	藤田	江戸～	江戸時代、藤田には火消となえる約50名の組織があった、明治14(1881)年、天皇行幸 の際には藤田・石母田の消防組織、合併後の23(1890)年に全村の消防組が結成	風慣-177
風慣 16	有限責任藤田信用 組合	藤田	藤田	昭和	昭和2(1927)年設立	風慣-179
風慣 17	藤田町農会	藤田	藤田	大正	大正12(1923)年、農業の改善を図るため設立、農業者の自治的機関	風慣-180
風慣 18	大千寺念仏講	藤田	藤田		起源は不明であるが戦前から続いている、秋と春の彼岸に行われている、現在は平成8(1996) 年に結成された大仙寺感動会婦人部が行っている	風慣-181
風慣 19	沼供養	藤田	藤田		平成5(1993)年まで観月台ため池で念仏講が行われていた、念仏を唱えながら池を一周し て沼で亡くなった方々を弔う	風慣-182
風慣 20	竹駒稲荷神社祭礼	藤田	藤田		4月、鹿島神社境内	風慣-186
風慣 21	藤田不動講	藤田	藤田		4月、大町、不動様の札を配布し各家ではお札を神棚等に置く、家によっては火気のある ところには場合もある	風慣-187
風慣 22	太子堂・富士神社・ 古峰神社祭礼	藤田	藤田		5月、観月台公園	風慣-188
風慣 23	医薬神社祭礼	藤田	藤田		8月、鹿島神社境内	風慣-189
風慣 24	御霊神社祭礼	藤田	藤田		10月、滑沢	風慣-190
風慣 25	琴平神社祭礼	藤田	藤田		10月、鶉町	風慣-191
風慣 26	菖蒲湯	藤田	藤田			風慣-195
風慣 27	富士神社例大祭	藤田	藤田		4月30日：旗上げ、草刈り、清掃、5月1日：浅間神社御分霊、祭神「花木開耶毘売命」、5 月2日：旗下げ	風慣-197
風慣 28	団子さし、稲穂飾り	藤田	藤田		期間：旧暦1月14～20日、姿のよい木を準備し、米の粉でだんごを小さく作ってさし、せ んべいや大判・小判・鯛・鯉の形のものを用意し、家中に小枝を飾り、20日におろして保存 食にする、大黒柱には一番大きい木を飾る、神棚や床の間には十六だんごといい、大きく 丸めたものをさし、豊作を祈願した	風慣- 298,299
風慣 29	篠葉沢稲荷神社例 祭	藤田	山崎		日時：4月1日、内容：献饗、所在地：篠葉沢稲荷神社	風慣-199
風慣 30	三吉神社例祭	藤田	山崎		日時：4月20日、内容：献饗、所在地：深山神社	風慣-200
風慣 31	水雲神社例祭	藤田	山崎		日時：10月20日、内容：献饗、所在地：水雲神社	風慣- 201,202
風慣 32	奥の御山、古峯原 様、お伊勢参り	藤田	山崎	明治～昭和	民間信仰、精進潔斎して参詣する	風慣-204
風慣 33	防災訓練	藤田	山崎		9月10日、災害時の行動を確認する	風慣-210
風慣 34	あたごさまおまつ り	藤田	山崎		4月24日、愛宕神社神殿、神職様により礼祭の催行	風慣-212
風慣 35	新しいくつの使い そめ	藤田	山崎		新しい靴をおろすときには午前中にはく、午後になってしまうときはスミなどをつける	風慣-214
風慣 36	土用の丑の日	藤田	山崎		家族が集まり、うなぎを食べる	風慣-220
風慣 37	結婚式	藤田	山崎			風慣- 221,455
風慣 38	仕事納め	藤田	山崎		12月28日	風慣-222
風慣 39	仕事始め	藤田	山崎		1月4日	風慣-223
風慣 40	八幡神社例祭	藤田	山崎		日時：4月15日、内容：献饗、所在地：八幡神社	風慣-224
風慣 41	三日とろろ	藤田	山崎		1月3日、三日とろろを食べないうちは、ごはんの上に何もかけてはいけない、三日とろろ をしない家でも、正月三日間はごはんの上には何もかけなかった	風慣-295
風慣 42	節分	藤田	山崎		2月3日、ヒイラギとイワシの頭を(豆の枝にさして)玄関に供える、豆まきをして恵方巻 きを食べる(食べている間は一言も話してはいけない)	風慣- 302,634
風慣 43	餅つき	藤田	山崎	昭和	前年28日に正月用の餅つきをする、餅飾りと正月の食用、来客用、ほかカキモチなど 30日に行う家もあるが、29日は避ける(苦餅はつかない)	風慣-318
風慣 44	節米搗き	藤田	山崎		12月17日、年越しや正月に食べる新米を精米する、昔は節米つきの前に新米を食べるこ とはできなかった	風慣-631
風慣 45	彼岸	藤田	石母田 山崎		3月：春彼岸、9月：秋彼岸、神棚、仏壇にぼたもち(ずんだのぼたもちもある、春はぼたもち、 秋はおぼぎになる)をあげ、墓参して墓前にも供える、彼岸の入り・送りにかわりごはん(味 ごはん、油揚げごはん、しそごはんなど)をつくる家が多い	風慣-307
風慣 46	貴船神社例祭	小坂	泉田		日時：4月19日、内容：神輿渡御、献饗、所在地：貴船神社	風慣-66,67

整理 番号	名称	伝承地		時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字			
風慣 47	二十六夜様	小坂	泉田	明治～昭和	民間信仰、染屋の神様	風慣 -273
風慣 48	小正月	小坂	泉田		小正月の飾りつけ、かせどり等	風慣 -292
風慣 49	かてめし(麦めし、粟めし、きみ飯、等)	小坂	内谷	明治～昭和	麦を飯に混ぜた麦飯のほか「かて」として、粟、きみ(たかきび?)、もちこし、そば、大根などを入れる、飯に対して三分の一以上入れば入ったもの名をつけて呼んだ	風慣 -72
風慣 50	煮かえし	小坂	内谷	明治～昭和	熱湯の中にご飯を入れてやや長い時間煮立てるもので、おかゆよりは米粒の形をとどめている(病人用としての食事)	風慣 -73
風慣 51	春日神社祭礼	小坂	内谷	昭和	4年に1度地区の若い衆が春日神社を起点として神輿渡御を行い、子どもたちと山車とともに内谷東と西地区を練り歩く昭和30(1955)年頃までは11月に行われていたが、その後農繁期を避けて春の4月最終土曜日に変わった	風慣 -71,74,80~82,94
風慣 52	大しめ縄作り	小坂	内谷		神社に奉納する大しめ縄作り、種まき・田植え・稲刈り・しめ縄・コモ編み・わら打ち等一連の作業を協働で行っている	風慣 -92
風慣 53	稲荷神社例祭	小坂	小坂		日時:4月19日、内容:献饗、所在地:稲荷神社	風慣 -95,140
風慣 54	カッテ	小坂	小坂		台所の名称	風慣 -98
風慣 55	カッテ、カッテモト	小坂	小坂		居間の名称	風慣 -99
風慣 56	ナンド	小坂	小坂		寝室の名称	風慣 -100,126
風慣 57	ヨコザ	小坂	小坂		いろりの座名(主人)	風慣 -103
風慣 58	キジリ、キジリコ、キンジリ	小坂	小坂		いろりの座名(下座)	風慣 -104
風慣 59	マユダンゴ、マユカキダンゴ、ハナクソダンゴ	小坂	小坂		だんご(種類、名称)、2月16日	風慣 -106
風慣 60	小屋(コビル、コビルハン、コビリ、コジュウハン)	小坂	小坂		小屋飯の名称、食事は原則として1日3回、午後は昼から太陽が沈むまで働きその中間にコジュウハンといわれる小屋が出る	風慣 -108,338
風慣 61	初市	小坂	小坂		市の種類	風慣 -120
風慣 62	マケ、マキ、マケウチ	小坂	小坂		同族集団の名称	風慣 -122
風慣 63	シntax、シンヤ	小坂	小坂		分家の名称	風慣 -124
風慣 64	餅をついて水神様へ供える	小坂	小坂		川渡りツイタチの行事	風慣 -129
風慣 65	お大師様	小坂	小坂	明治～昭和	民間信仰、お大師様は1日、4日、8日、14日、18日、23日、24日と7大師ある	風慣 -130
風慣 66	小坂の延命地藏尊の祭	小坂	小坂	明治～昭和	民間信仰、子育て地藏様、虫歯の神様 日時:旧9月15日、9月16日、内容:地藏尊の行列、所在地:小坂の延命地藏尊	風慣 -131
風慣 67	メをはった神棚	小坂	小坂	昭和	無形民俗を伝える古写真	風慣 -132
風慣 68	正月を迎えた仏壇	小坂	小坂	昭和	無形民俗を伝える古写真	風慣 -133
風慣 69	箕の神様	小坂	小坂	昭和	無形民俗を伝える古写真	風慣 -134
風慣 70	学齢児童保護会	小坂	小坂	明治	明治38(1905)年より、学校長を会長に卒業生を会員に、融資の寄附等や収益事業も行い貧民児童の救済を行った	風慣 -137
風慣 71	通俗講話会	小坂	小坂	明治	明治45(1912)年、第1回開催	風慣 -139
風慣 72	雷神講	小坂	小坂	大正	大正10(1921)年頃まで継続していた、この講にいつも鶴様という爺様がやってきて大飯を食べた話が残されている	風慣 -275
風慣 73	針供養	小坂	小坂	明治～昭和	2月18日、12月8日の行事、豆腐に針を刺して神棚に上げたりする	風慣 -304
風慣 74	虫供養	小坂	小坂		米作、10月10日は東北地方では虫供養と呼ぶ、農作のために殺した虫の霊を慰めるための供養	風慣 -316
風慣 75	若水くみ	小坂	小坂	明治～昭和	年中行事、旧暦12月31～1月3日、大晦日の夜、焚火を炉に埋めて残り、元旦の種火とした、一部は火消壺に入れて消し、元旦に小銭を入れ子どもたちに取り出させ小遣いにした、正月3日間は、早朝に注連縄をつけた手桶で、戸主又は相続人が「何汲む 黄金汲む」と唱えて水を汲んだ	風慣 -319
風慣 76	鳥取の観音様	小坂	鳥取	明治～昭和	民間信仰、信仰すると壺があたるといわれる、観音講が組織され、現在は「観音様を守る会」として存続する	風慣 -75,77,141
風慣 77	お茶場	小坂	鳥取		「観音様を守る会」の人たちが、巡礼者の人たち(団体)に対して観音堂に隣接する公民館(かつてはお茶場と呼んでいた)で御朱印の押印とおもてなしを行っている	風慣 -76
風慣 78	深山神社例祭	小坂	鳥取		日時:4月19日、内容:献饗、所在地:深山神社	風慣 -142,144,146
風慣 79	深山神社 藤まつり	小坂	鳥取		5月第2日曜、深山神社町指定天然記念物である、大藤の見頃時期に開催	風慣 -150
風慣 80	福源寺 念仏講	小坂	鳥取		1月第3日曜、福源寺昔の土葬時代の穴掘り当番者にてなんばんみそでのもてなしを行う	風慣 -143
風慣 81	鳥取の観音様のお祭り	小坂	鳥取		初酉、2月18日、今はやる人がなくなっている	風慣 -145,147
風慣 82	愛宕神社礼大祭	小坂	鳥取		6月第3日曜、愛宕神社火の守り神として高台にまつられており、年1回安全祈願の祈禱を行う	風慣 -148
風慣 83	福源寺合同供養	小坂	鳥取		8月16日、福源寺檀徒、信徒の97戸での合同供養	風慣 -149

整理 番号	名称	伝承地		時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字			
風慣 84	かせどり	小坂	泉田 内谷 小坂	江戸～	旧1月14日の夜、歳祝のある家を回り餅や団子をもらい歩く、その後、会館、食堂、旅館に親戚、友人を招いて盛大にした、今は粗品を配って終わる	風慣 -293
風慣 85	元服式	小坂		江戸	男子が15歳になると、吉日に一門が集まって祝う、近代以降は廃れた	風慣 -151
風慣 86	暁参、あかつきかゆ	小坂		江戸	祝節、正月15日朝早く松飾りを解いて、小豆粥を炊いて神に捧げ、神社の前で焼く	風慣 - 152,420
風慣 87	菊の節供	小坂		江戸	祝節、9月9日、餅をついて酒を飲んで祝う	風慣 -153
風慣 88	庭はらひ	小坂		江戸	祝節、稲刈りの後収穫行事が終わると、家々では餅をついて祝う	風慣 -154
風慣 89	かっぱらいの朔日	小坂		江戸	祝節、12月1日をこいひ、農家はみな休む	風慣 -155
風慣 90	萬歳講	小坂		江戸	拝み講、馬つくらい講、春秋二回会合をする、講中で糯米を持ち寄り餅をついて親睦を深める	風慣 -156
風慣 91	二月初午	小坂		江戸～	祝節、二月初の午の日に「初午祝」があった、消防のはしで乗りなど、昔は児童の入学もこの日であった	風慣 -303
風慣 92	蚕の祝、繭だんご	小坂		明治～昭和	旧2月15又は16日、早朝から米粉で団子を作って食べる、食べるときはお椀に持ち箸を使わず手でつまんで食べる、黒砂糖は使用せず白砂糖やきな粉のみで食べた	風慣 - 305,432
風慣 93	七夕	小坂		江戸～	祝節、7月7日五色の短冊に和歌などを書いて笹竹に結び付けて飾る、これを大根畑に納めるとその大根を害虫から守ってくれるという	風慣 -311
風慣 94	弘法様の祭り	大木戸	大木戸		日時：旧3月21日	風慣 -33
風慣 95	結納の帯	大木戸	大木戸	明治～昭和	結納の時「帯」を男から女に贈る	風慣 -34
風慣 96	てぬぐいのかぶり方	大木戸	大木戸	明治～昭和	男性の手ぬぐいのかぶり方：ほうかぶり、ねずはちまき、女性の手ぬぐいのかぶり方：ひよつとこかぶり、ねじりはちまき、はちまき、おぼこかぶり、ねえさんかぶり、ほっかぶり	風慣 -35,36
風慣 97	権現講	大木戸	大木戸			風慣 -37
風慣 98	丸南不動明王例祭	大木戸	貝田		日時：4月28日、10月28日、丸南不動明王で籠りを行う	風慣 -39
風慣 99	最禅寺の観音講	大木戸	貝田		最禅寺の本堂には観音堂が安置され伊達秩父三十四観音の第31番札所として信仰を集めており、貝田の人々によって観音講が組織されている	風慣 -44
風慣 100	祭文語り	大木戸	貝田	昭和	関本祭文と呼んでいた、阿武隈川の東の方の関本村から訪ねてくると、村の女性たちが3、4人集まってこの人に一席うなってもらう	風慣 -45
風慣 101	あわしま様	大木戸	貝田	昭和	白い袴をはいた行者風の人が時々通って行った、母が「あわしま様」だといっていた	風慣 -50
風慣 102	養蚕期の天気予報	大木戸	貝田	昭和	養蚕の時期、福島測候所の天気予報の電報を役場で取り次いでもらい、毎日貝田のポンプ小屋に黒板に書きうつした予報を掲示していた	風慣 -51
風慣 103	こっそりぼたもち	大木戸	貝田		隣近所に餅をつく音が聞こえないように、ぼたもちを作って食べる、正月などの「ハレの日」には堂々と餅をついたが、それ以外の時は隣近所に知られないように、つかずに食べられる餅として、ぼたもちを作った、来客などの時もこっそりぼたもちだった	風慣 -52
風慣 104	秋葉神社例大祭	大木戸	貝田		毎年春（4月）に実施、水雲神社例大祭とあわせて、神社と貝田地区の住民が「宿制」という制度で祭礼を守ってきた	風慣 -53
風慣 105	水雲神社例大祭	大木戸	貝田		毎年秋（9月）に実施、秋葉神社例大祭とあわせて、神社と貝田地区の住民が「宿制」という制度で祭礼を守ってきた	風慣 -40,54
風慣 106	宿制	大木戸	貝田		「大宿」の家に祭礼の前日に祭神（御神体）を家に移し、神職とともに一晩泊め、当日には御神体を背負い、幟を持つ宿の人々と一緒に渡御を行った 現在は神社により指名された住民がお札配りや直会を行う形になり、宿という言葉のみが残る	風慣 -55
風慣 107	小豆粥	大木戸	貝田		1月8日、一般的には15日に食べられることが多い、貝田地区では7日に七草粥で松送りをする家もあれば、8日に小豆粥で送る家もあった	風慣 -297
風慣 108	すすはき、すすはらい	大木戸	貝田		12月13日、大掃除、昔は消毒（家庭消毒か？）で歩いてきたのでやらなくてはならなかった（貝田）	風慣 -630
風慣 109	五目ぶかし	大木戸	貝田		山野草祭りには五目ぶかし、ばあちゃんの命日に五目ぶかしという家もあった。	風慣 -638
風慣 110	御瀧神社例大祭	大木戸	光明寺		御瀧神社の水を祀る祭礼、日時：4月16日、4月17日、内容：籠り、水垢離、献饗、梵天奉納、(山車)、所在地：御瀧神社	風慣 -56
風慣 111	滝普請	大木戸	光明寺		御瀧神社例の祭礼前に行う、日時：新暦4月16日、4月17日、大滝・小滝の水を抜き清めることから始まり、一日かけて清掃が終了すると、翌日神官が神事を行ない、塩・清水・神酒を供え、真新しい「梵天」を大滝・小滝の真ん中に立て、下手の水田への用水路を清掃、最後に簡単な直会を行う	風慣 -57
風慣 112	御前の祭り	大木戸	光明寺	室町	熊野（熊野社）	風慣 -58
風慣 113	三常院のお祭り	大木戸	光明寺		4月、御瀧神社内	風慣 -59
風慣 114	光明寺愛宕神社祭礼	大木戸	光明寺		4月	風慣 -60
風慣 115	凍み餅	大木戸	光明寺	明治～昭和	小屋敷には凍み餅が主に用いられた、水につけて柔らかくしてその水を絞ってあぶって食べる	風慣 -62
風慣 116	国見神社例祭	大木戸	高城		日時：4月3日、11月3日、内容：神輿渡御、献饗、屋台、所在地：国見神社	風慣 -63,64
風慣 117	御子の祭り	大木戸	高城	室町	東大窪八幡神社	風慣 -38
風慣 118	馬つくらい、おそうぜん講（おそうぜん講）	大木戸	高城	明治～昭和	馬匹改良法ができてから馬を去勢した、これを馬つくらいといい、後で行う慰労会をおそうぜん講といった	風慣 -361
風慣 119	赤飯、小豆飯、にぶかし	大木戸			ハレの日の食事、赤飯は改まったお祝いの日に炊き、小豆飯や「にぶかし」は赤飯よりははやや略式の祝いに炊いて神様に供えた	風慣 - 331,462

整理 番号	名称	伝承地		時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字			
風慣 120	秋葉講	大木戸			地区・時期は不明	
風慣 121	村夫役制	西大枝	川内	明治～昭和	村の義務人足として春と秋の年2回、各戸一名一日ずつ道普請があった、欠席の場合は男子一日分を金納した、今は年1回男女を問わないので欠席者もない	風慣 -5
風慣 122	共有山林	西大枝	川内	明治～昭和	集落共有の山が東大枝村にあったがゴルフ場へ売った、北山は草刈りに利用、7月1日が山の口開けでこの日以降は各人が雑草を刈ってよい、茅も11月1日が口開け	風慣 -6
風慣 123	葬儀	西大枝	川内	明治～昭和	葬儀は念仏講がこれにあたった、葬式に関する道具一切はお寺から借りてきた	風慣 -7
風慣 124	蚕の神様	西大枝	川内	明治～昭和	民間信仰	風慣 -9
風慣 125	水番	西大枝	川内	明治～昭和	西根堰のかんがいを一定の秩序で行うため、かんがい面積に応じ上流から一定の時間水を入れ、順次下流に送った、それ以外の時間はかんがいを控えた水を引くときには夜8時から翌日11時まで水番（見張り）が立った、9日ごとに各村から2名水番を出した	風慣 -10
風慣 126	味ごはん	西大枝	川内		厳島神社例大祭の直会でたたきごぼう（川内ごぼう）の入った煮物、ゆかりご飯と豆腐ごはんのおにぎり、地区に伝わる伝統食・郷土食等が振舞われる	風慣 -11, 14,15,755, 888~893, 895~898, 901,903
風慣 127	厳島神社例大祭	西大枝	川内		4月、水害厄除豊饒祈願の祭り	風慣 -12
風慣 128	たたきごぼう（川内ごぼう）	西大枝	川内		厳島神社例大祭の直会でたたきごぼう（川内ごぼう）の入った煮物、ゆかりご飯と豆腐ごはんのおにぎり、地区に伝わる伝統食・郷土食等が振舞われる	風慣 -13
風慣 129	長にんじん	西大枝	川内		川内地区で栽培される長ごぼう・長にんじんは、昭和40（1965）年代以前、生産者が籠に背負い列車で仙台圏へ出荷、「川内ごぼう・川内にんじん」としてその名が定着していた、いかに人参や煮物などの郷土料理に好んで使われる	風慣 -17
風慣 130	長ごぼう	西大枝	川内		川内地区で栽培される長ごぼう・長にんじんは、昭和40（1965）年代以前、生産者が籠に背負い列車で仙台圏へ出荷、「川内ごぼう・川内にんじん」としてその名が定着していた、いかに人参や煮物などの郷土料理に好んで使われる	風慣 -18
風慣 131	古峯原講	西大枝	川内	明治～昭和	無尽講で交互に参詣する	風慣 -267
風慣 132	太子講	西大枝	川内	明治～昭和	年中行事、10月や11月と一定してない	風慣 -269
風慣 133	区長	西大枝	西大枝	明治～昭和	集落の代表者、任期は1年で毎年選挙で選出された	風慣 -1
風慣 134	氏子総代（三名）	西大枝	西大枝	明治～昭和	旧村社厳島神社の祭典や修繕等の時の世話役で任期は決まっていない、欠員が出ると部落内で推薦をして補充する	風慣 -2
風慣 135	御子座祭り	西大枝	西大枝	室町	新山権現（現：深山神社）	風慣 -20
風慣 136	西大枝の運男様	西大枝	西大枝	明治～昭和	民間信仰	風慣 -21
風慣 137	梅花講	西大枝	西大枝		「三仏忌」と「盂蘭盆会」「施食会」の際に婦人部・梅花講の人が集まり、観音様の御詠歌「梅花流詠賀歌」を唱え供養を行う、宗派（曹洞宗）としては昭和27（1952）年頃から、西松寺では昭和56（1981）年頃から行っている、昔は境内に店が出て、寺では甘茶や団子を配った	風慣 -23,68
風慣 138	観音様ご縁日	西大枝	西大枝		西松寺のそばにある観音様の縁日（3月彼岸、8月お盆）に大きな旗を上げおろしする	風慣 -24,29
風慣 139	熊野神社おまつり	西大枝	西大枝		5月3日、熊野神社にてご祈禱してもらうため近所の人が集まる	風慣 -25
風慣 140	おがみ講	西大枝			北部町内会	
風慣 141	雨乞い	森江野	塚野目		半田沼（桑折町）の赤ベコに嫁入りしたなどの伝説がある塚野目村の娘「おしのさん」の伝承に関わり、おしのさんに雨乞いをする祈願するもの八幡神社でのおこもりの翌日に、五郎市神社・摺上山碑などを巡りながら半田沼に向かう道中「おしのさんやーい」などの掛け声をあげることも特徴	風慣 -176
風慣 142	五郎市神社例祭	森江野	塚野目		日時：10月19日、内容：籠り、献饌、所在地：五郎市神社	風慣 -225
風慣 143	七大師様	森江野	塚野目		期間：旧暦11月4～24日、昭和35（1960）年頃まで継続したが以後廃絶 4、8、10、14、15、21、24日に白米御飯を供え、箸は萩の木で3本各々長さの違ったものを供えた、最後の24日は豆御飯を炊いて供えた	風慣 -226
風慣 144	安産祈願の神様	森江野	塚野目		安産の信仰、個人蔵	風慣 -227
風慣 145	御子の祭り	森江野	塚野目	室町	現：八幡神社	風慣 -228
風慣 146	観音堂御開帳	森江野	徳江		日時：4月17日、8月10日、内容：籠り、潔斎、所在地：観音堂	風慣 -236
風慣 147	沼田神社祭礼	森江野	徳江		日時：4月3日、11月3日、内容：献饌、所在地：沼田神社 夜風除け、ネズミ除けとして養蚕上族の頃、本殿の御幣束と拳大の玉石を拝借し、上族室に置けばネズミが近づかないという信仰があったが、現在は廃れた	風慣 - 237,238
風慣 148	おっしやかみさま	森江野	徳江		徳江、大枝にある、掛け軸もある	風慣 -239
風慣 149	徳江観音寺 観音講	森江野	徳江		毎月1回、徳江観音寺 地域の安全、家族の安心を如来様に御詠歌をお供える	風慣 -242
風慣 150	農協婦人部の夏祭り	森江野	森山		8月の後半も藤田農協会館で、会員同士の親睦をはかるため実施、各町内会ごと仮装、歌、踊り等で順位を競い合う	風慣 -261

整理 番号	名称	伝承地		時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字			
風慣 151	小牛田山神社例祭	森江野	森山		日時：4月3日、11月3日、内容：献饗、所在地：小牛田山神社 安産の神、お産が近い婦人が神社に奉納されている枕を拝借し、お産がすめば倍にして返す、男子が欲しい人は白、女子が欲しい人は赤を借りる	風慣 -244
風慣 152	神明神社例祭	森江野	森山		日時：4月3日、11月3日、内容：神輿渡御、献饗、所在地：神明神社	風慣 -245,247
風慣 153	山の神様	森江野	森山		年中行事、8月8日、安産の信仰	風慣 -246
風慣 154	桃割れ、銀杏まげ、 銀杏かえし	森江野	森山	明治～昭和	女性の髪形、娘時代	風慣 -248
風慣 155	丸鬘、高島田、天神 からわ	森江野	森山	明治～昭和	嫁になると結う女性の髪形	風慣 -249
風慣 156	から島田	森江野	森山	明治～昭和	不幸があったとき結う髪型	風慣 -250
風慣 157	けし坊主	森江野	森山	明治～昭和	男の子の髪形、子どもの頃	風慣 -251
風慣 158	くり坊主	森江野	森山	明治～昭和	小学校に入学するときにした一般的な髪型	風慣 -252
風慣 159	職人がり、角刈り	森江野	森山	明治～昭和	大人の男の髪形	風慣 -253
風慣 160	文久銭から作った 指輪	森江野	森山	明治～昭和	若いころ、神社お寺などのお賽銭をあげて文久銭と取り換えてもらい、飾りやに頼んで指輪 を作ってもらった、これをはめると中気にならないといって一時はやった	風慣 -254
風慣 161	行屋	森江野	森山	明治～昭和	この村には中島地区や別当地区に行屋があった	風慣 -255
風慣 162	三山参り	森江野	森山	明治～昭和	有志の青年たちが脚絆白股引をはいて三山参りに出かけた、案内は地方の修験者がした	風慣 -256
風慣 163	権現様（御霊様）	森江野	森山	江戸	養蚕信仰	風慣 -257
風慣 164	蚕神と鼠除け	森江野	森山	明治～昭和	蚕の掃きかたで近くなるとれひき太夫が蚕の神様のお札をひいて歩いた、蚕神様のお札は稚 蚕用蚕室に貼っていた、毎日朝ご飯をあげた	風慣 -358
風慣 165	えびす講	藤田 小坂	藤田 泉田 小坂	明治～昭和	年中行事、1月20日、神棚などに恵比寿様の掛軸を掛けて生魚（鯉、鮒等）、野菜、金品、 家宝等を供える	風慣 -271
風慣 166	お日待、日待祭	藤田 小坂	藤田 内谷	明治～昭和	年中行事、正月、1月8日、農作業が事故なく済むように宮司を呼び住民全員がお払いを受 ける行事	風慣 -79,192,416
風慣 167	十五夜（豆名月、 十三夜（芋名月）	藤田 小坂	藤田 小坂	江戸～	月の行事、必ず2回行い、一方だけだと片月見でよくないとされている 十五夜は豆名月といい、新大豆を名月に擲けて食べて祝う、翌晩から夜業を始める 十三夜は芋名月といい供えもの（大根、丸い果物ほか）と一緒に枝豆、里芋等をあげる	風慣 -313-315
風慣 168	少年消防隊	藤田 森江野	藤田	昭和	昭和5（1930）年、児童を対象とする少年防火団が組織され、火災防止の宣伝、衛生施設の木禅、 橋や道路の改善等の活動を行った	風慣 -178,263
風慣 169	念仏講	藤田 小坂 大木戸 西大枝	山崎 泉田 内谷 大木戸 光明寺 西大枝	江戸～	念仏を唱える講中、葬儀の際や村の行事など、多くの民俗行事と関係している ・春秋の彼岸に念仏を唱えて茶菓で饗宴する ・毎年虫供養（10月初めの土日など）とお釈迦様の日（2月15日）に檀家が寺に集まり行 う ・通夜の前に念仏を唱えながら数珠を皆で回す、大きい玉がまわってきたら額にくっつけ るしぐさをする	風慣 -68, 219,270
風慣 170	ドンド焼き	藤田 小坂 大木戸 森江野	山崎 内谷 高城 光明寺 徳江	明治～昭和	1月7日、8日、家中の松飾りを全て降ろして神社で燃やす、火にあたった者は体が丈夫になり、 風をひかないといわれている	風慣 -290
風慣 171	端午の節句	藤田 小坂	山崎 小坂		5月5日、男子の祝い、数日前より鯉幟を立て、4日夕方、菖蒲とヨモギを軒先にさし、 菖蒲湯に入浴する、菖蒲を髪にさし、腰に結んで頭痛、腰痛にかからないよう祈る	風慣 -309
風慣 172	お福田講	藤田 小坂 大木戸 西大枝	山崎 大木戸 貝田 川内	江戸～	旧暦1月24・25日、男性のみ参加、当番宿で行われた、現在も一部地域で形態を変えつつ 継続される 24日：宿に食材持参で集まり、夕食に醤油味飯、野菜豆腐汁を作り、漬物とともに食べてこ る寝、25日：早朝に代表1名が水ごり、カマドに火を焚き、餅搗きの準備、他者も入浴後、 水ごり、火口を塩で清め炊事、茶・たばこ・大小便を禁止し、食事のあとカマドの火を川に流す、 夕食は精進料理とする	風慣 -268
風慣 173	桃の節句	藤田 小坂	山崎	江戸～	3月3日、桃の節句、赤飯、ひしもち、甘酒等のお膳をあげた、みずぎだんごを揚げてあら れにした、雛飾りは早く出すのはいいが片付けが遅くなると嫁ぐのが遅くなるともいわれる	風慣 -306
風慣 174	元朝まいり・松送り	藤田 西大枝	山崎 川内		1月1日、1月7日、午前中に神社にお参りする	風慣 -288
風慣 175	二十三日講	小坂 西大枝	泉田 小坂 川内	明治～昭和	旧暦23日の月待行事、「二十三日様」「三夜様」と呼んだ、養蚕やお産の神様として勢至菩薩 を祀る、女性だけが集まり宴を行う、昔は二十三日の月を拝むため、朝方までやっていたが 現在は昼に2時間程度開催、親睦の意味合いが強い	風慣 -265
風慣 176	おはぎ（ずんだ・粒 あん）、牡丹餅	藤田 大木戸			盆、彼岸、二十三日様などについてお供えする	風慣 -332
風慣 177	若者組、青年会	小坂 大木戸 西大枝	内谷 小坂 貝田 川内	明治～昭和	地域の若者の交流を目的とした集まり 貝田では青年団員が旧10月17日の山の神講で朝仕事を終えてから団長宅で会合し、朝食夜 食の夕食を競争したり余興をして楽しむ催しもあった 川内ではじんた組（巡邏組）と呼ばれる若者組の組織があり、集落の若者で入らないものが いないほどの強固な組織であったとされる	風慣 -8,41, 87,90,121 138,321
風慣 178	松送り	小坂 西大枝 森江野	小坂 鳥取 塚野目	明治～昭和	年中行事、正月十五日、小正月の行事 正月に飾った松飾り、昨年度のお札等を納めて燃やす	風慣 -300

整理 番号	名称	伝承地		時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字			
風慣 179	庚申請	小坂 西大枝 森江野	川内	江戸～	庚申請は道教に基づく民間信仰であり、体内に住む三尸の虫が庚申の日の夜、寝ている間に天に登って天帝に悪事を報告することを防ぐため徹夜でお籠りをする行事、いつしか養蚕の神として信仰されるようになった、毎年初庚申の日の晩に宿自宅に集まり、神棚を拝み会食を行う、徹夜はせず、午後8時半頃には終了する	風慣 -264
風慣 180	山の神講	小坂 森江野		江戸～	拝み講、一緒に山に入って仕事をする人たちが作る、山の神を拝んで饗宴を開く、女人禁制	風慣 -272
風慣 181	拝み講	大木戸 西大枝	大木戸 貝田 川内	明治～昭和	古峰ヶ原講のお参りが終わると皆で拝み講をする	風慣 -285
風慣 182	羽山講	大木戸 森江野	貝田 森山	明治～昭和	羽山講の時、その年に入り婿したものに對しての風習があった	風慣 -274
風慣 183	魂呼び	西大枝 森江野	西大枝 森山		人が死んだときに耳元で大きな声で死者の名を呼ぶと一度離れた魂が戻り生き返るという風習、つい最近までやっていたという	風慣 -446
風慣 184	お花見				4月中旬、町内会の親睦を図るため、恒例として行う	風慣 -308
風慣 185	盆行事			明治～昭和	8月、13日に迎え火、16日に送り火を焚く、盆棚を設け、蓮や里芋の葉の上に料理を並べ、柳や桃の枝の箸を供え、ぼたもち、混ぜご飯、そうめん等を食べる(家庭によって様々)	風慣 -312
風慣 186	町内会総会、親睦会				年に1回(集落によっては数回)町内会で集まり、年次行事の審議、収支・決算報告、町内会員同士の親睦会等が行われる	風慣 -4, 83,208, 211,215, 232,260
風慣 187	正月				期間：旧暦1月1日～3日、元旦朝に主人が井戸水で体を清め、紅白の水引きをかけた桶に水を汲み、氏神を参拝し神仏に飯を供えた、旧暦12月30日に餅を搗く臼を土間に伏せ、中に米5合と切餅2枚を入れ、4日朝には起こしてしめ縄をかけかえ、7日に再び伏せ、11日稼ぎ始めに起こして、米と餅を取り出した、正月3日間朝飯前に種豆選別を行った	風慣 -286
風慣 188	鳥追い				1月15日、田畑を鳥の被害から守ることを祈念する、地域によってやり方は異なるが、主に子どもが主役で木や藁・正月に使われた注連縄などで小屋をつくり、その小屋を小正月の夜に燃やしたり、子どもたちが鳥追いの歌を歌いながら村の中を回ったり、村境まで行くものなどがある	風慣 -294
風慣 189	江はらい				水田に水を引く前(3月松～4月初旬)に用水路、排水路の泥上げ(清掃)を協働で行う	風慣 -26,28
風慣 190	新年会				1月、地域住民が集い、新年を祝い一年の無事を祈念し御神酒をいただく	風慣 -289
風慣 191	いも煮会				10～12月頃、芋煮を食べながら会食し、集落の親睦を図る	風慣 - 16,317
風慣 192	屋号、屋号紋、家印				各家々には独自の家紋・家印があり、家財などに自分の家の紋を焼き印で焼き付けたりした	風慣 - 19,22,42, 43,61,65, 69,70,193, 196,206, 213,218, 230,231, 234,235, 240,241, 262,364
風慣 193	早苗振り、まんが洗い			江戸～	5月初旬、田植え終了の祝い、最後の苗を神棚に供える、7月1日を大早苗振りと呼んで餅を搗く	風慣 -310
風慣 194	寄合、老人会				地域の高齢者が定期的に集会所等に集う、近年は月1回程度、「いきいきサロン」の名称で、高齢者の健康維持や親睦を目的として実施される	風慣 - 85,86,89, 216,217, 233,243
風慣 195	味付けみそ				副食物：味噌に様々な食材を加えて味付けを行った味噌	風慣 - 334~335, 673 748~753, 912,917, 995,1004
風慣 196	農の始め			明治～昭和	旧暦1月11日、鎌・鎌・切り餅2枚と松飾り等を持参し、田圃の中央に松を立てて藁を添え、餅を鎌で削り供えて豊作を祈願する また、農家の稼ぎ始めとして、早朝から藁打ちをし、荷なわ2、3本を仕上げて寒の水に浸し、農作を祈った	風慣 -291
風慣 197	檀徒総代			明治～昭和	自在院(内容)では3月に檀家による総会を開く 曹洞宗仲興寺(川内)では責任役員3名、会計1名、この檀家には護持会があって世話人が10名いる、そこから役員と会計を選び総会で承認を得る	風慣 -3,91
風慣 198	婦人会				地域の女性の交流を目的とした集まり 地域によって内容は様々で、健康維持や環境保全等が実施される	風慣 - 88,229,258
風慣 199	同窓会			明治～	旧正月の農閑期を利用して同窓会が行われる、老いも若きも相集い一日楽しむ	風慣 -301
風慣 200	観音講			明治～昭和	観世音菩薩を信仰し、参詣するために組織された団体、檀家の女性たちが行っている、昔は料理なども作ったが、今は簡素化されている	風慣 -266
風慣 201	小牛田山の神講					風慣 -276
風慣 202	水神講					風慣 -277
風慣 203	伊勢講					風慣 -278
風慣 204	三山講					風慣 -279
風慣 205	熊野講					風慣 -280

整理 番号	名称	伝承地		時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字			
風慣 206	経済講					風慣 -281
風慣 207	結い講					風慣 -282
風慣 208	大師講					風慣 -283
風慣 209	薬師講					風慣 -284
風慣 210	七草粥			明治～昭和	年中行事、1月7日、今は七草をスーパーで買う人も増えた	風慣 - 296,415
風慣 211	十三夜、いも名月			明治～昭和	年中行事、9月13日	風慣 -314
風慣 212	麦と米の「煮干法」 の炊き方				麦を米と一緒に煮込むと、栄養分を全く捨てることなく、炊いたご飯がおいしいというので煮干法はたちまちのうちに普及した、戦前までの一般家庭の常食	風慣 -324
風慣 213	「いっそめし」「白い まんま」				白米だけのご飯を「いっそめし」「白いまんま」といい、これを食べるのは正月三が日、よそへお客に行った時、病気の時ぐらいだった	風慣 -325
風慣 214	餅				白餅は最高のごちそう、雑穀が用いられた粟餅、モロコシ餅が普通で、このほかにもち草、ヤマゴボウの葉の入ったシミ餅、粳米とか粟を主体にしてこれに胡麻、山芋、砂糖その他いろいろなものを加えて搗き、よく乾燥させた豆餅（干し餅）等があった	風慣 - 326~329
風慣 215	米カボイ食				そばと小麦が用いられた、小麦は粉にして手打ちうどんにした、だんごは米粉で作るものと、小麦粉を用いたものがあった、一日三食のうち一食は代用食が充てられた	風慣 -330
風慣 216	漬物				副食物（白菜漬け、たくあん漬け、みそ漬け、一夜漬け等）	風慣 -333
風慣 217	かまや				民家では、炊事の煙が母屋に流れないように、母屋から側方に3mないし4mを下屋式におろして作った土間で米を炊く	風慣 -337
風慣 218	苗代にヨシを立て る				稲荷様が中国から稲の種を持ってくるときに追われた際、ヨシの中に種を隠した、稲荷様がヨシの中に隠れた、種を土中に埋めて目印にヨシを立てた等といわれる故事があり、苗代には必ずヨシを立てるものと伝承されている	風慣 -339
風慣 219	水口祭			明治～昭和	水口にスギの枝や季節の花（桃やヤマブキ等）を挿す、焼き米をまく、神社の水ごうを挿す、という風習がある、地域によってやり方は様々である	風慣 - 340,357
風慣 220	刈上げ節供、びっき の餅			明治～昭和	9月9日、菊の節句、9の付く日は3回あり「初九日」「中の九日」「末の九日」といい、末の九日は大抵稲刈りが終わり「刈上げ」「刈りっ切り」ともいう、この日は餅をつけて食べる、これを「ゲールコ餅」「ビッキ餅」といい、一年中田の神の使いとして田を守ってくれた蛙殿にお礼として餅をあけて拜む	風慣 - 342,437
風慣 221	町の子の遊び				まりつき、ちゃっくとり、お裁縫、穴一、紋付、正月の遊びは紙釣り、三笠づけ、すごろく等	風慣 -345
風慣 222	無尽制				地域における互助制度 屋根葺の茅材確保は順番、屋根葺は共同作業であった、火事は発見次第消火にあたるが、後片付けは集まった人が皆で手伝う、家の再建には組内の人が労力を奉仕する、病気をした人の農作業の手伝いなどを班や組織などで手伝う	風慣 - 347~350
風慣 223	結び帯、おたいこ、 ふくらずずめ、貝の 口、駒下駄結び			明治～昭和	女の帯の結び方	風慣 -351
風慣 224	やきこめ			明治～昭和	苗代に撒いた粉の余りは、鍋に入れていって乾かし、石臼で挽いて粉にして、粉皮を除いて食用や間食用にした	風慣 -352
風慣 225	木もらいの式			明治～昭和	木の伐採は、切る木の前に洗米をあげ、お神酒をそそいで、一同これを礼拝してから始める、その木が山一番の木であれば必ず後で木を植えてお返し申すことを山の神に約束する、今では神社寺院の木を切るときのみこの形が残っている。	風慣 -354
風慣 226	地祭りとおつき			明治～昭和	家を建てる土地では「地祭り」を行う、地ならしができたところで家の中心となるべきところに笹竹を4本立ててしめ縄を張り法印様に拝んでもらう、地祭りが終わるとおつきをしてもよい、おつきは近所の人たちに手伝ってもらい「たご」を使って行う、おつき歌を歌った	風慣 -356
風慣 227	馬			明治～昭和	馬は農家の宝で、国見町の大方は馬を一頭持っていた	風慣 -360
風慣 228	茶屋			明治～昭和	荷物を置いて休むところを茶屋という	風慣 -362
風慣 229	市神			明治～昭和	市の取引の無事や幸福を与えると信じられている市の守護神、今でも農業祭の時などに臨時に市神などを作って祀ることがある	風慣 -363
風慣 230	棟上げ			明治～昭和	土つきが済んだ後に家を建てていく、ある程度大工仕事が進むと棟上げが行われる、吉日を選んで行われる、土地によって異なるが、餅、大根、お金等が撒かれる	風慣 -365
風慣 231	普請				家の新築・改築には組の人々が必ず手伝いに出る	風慣 -366
風慣 232	結い			明治～昭和	相互に同量の労力を出し合って仕事をする相互扶助、田植え、麦打ちの時など家の近い人同士で比較的多く行われている	風慣 -367
風慣 233	名づけ			明治～昭和	通過儀礼 産・育	風慣 -368
風慣 234	産火と別火			明治～昭和	通過儀礼 産・育	風慣 -127, 370,371
風慣 235	へそなと胎盤の処 理			明治～昭和	通過儀礼 産・育	風慣 - 373,374
風慣 236	(赤ん坊)の髪の毛 とチンケ、ピンコの 毛			明治～昭和	通過儀礼 産・育	風慣 - 375~377
風慣 237	産湯			明治～昭和	通過儀礼 産・育	風慣 -378
風慣 238	魔除け			明治～昭和	通過儀礼 産・育	風慣 -379

整理 番号	名称	伝承地		時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字			
風慣 239	産見舞			明治～昭和	通過儀礼 産・育	風慣 -380
風慣 240	お食い初め			明治～昭和	通過儀礼 産・育、尾頭付きの魚や小石などを膳に盛って家族で祝う、食べるまね(口に付ける)をして子どもが食べ物に困らないように祈る、一番上の者がやる	風慣 -381
風慣 241	宮参り			明治～昭和	通過儀礼 産・育	風慣 -382
風慣 242	おびあき			明治～昭和	通過儀礼 産・育	風慣 -383
風慣 243	誕生日			明治～昭和	通過儀礼 産・育	風慣 -384
風慣 244	転ばし餅			明治～昭和	通過儀礼 産・育	風慣 -385
風慣 245	六月歯			明治～昭和	通過儀礼 産・育	風慣 -386
風慣 246	初節句			明治～昭和	通過儀礼 産・育	風慣 -387
風慣 247	仮祝言			明治～昭和	通過儀礼 婚姻	風慣 -388
風慣 248	見参、見参式			明治～昭和	通過儀礼 婚姻	風慣 -389~390
風慣 249	かねの親			明治～昭和	通過儀礼 婚姻	風慣 -391
風慣 250	待女房			明治～昭和	通過儀礼 婚姻	風慣 -392
風慣 251	嫁出発			明治～昭和	通過儀礼 婚姻	風慣 -393
風慣 252	嫁迎え、受取渡し			明治～昭和	通過儀礼 婚姻	風慣 -394
風慣 253	入家式			明治～昭和	通過儀礼 婚姻	風慣 -395
風慣 254	三々九度、床入り			明治～昭和	通過儀礼 婚姻	風慣 -396
風慣 255	柿の木問答			明治～昭和	通過儀礼 婚姻	風慣 -397
風慣 256	面番、年番			明治～昭和	通過儀礼 婚姻、婚姻の際の料理人の呼称	風慣 -398
風慣 257	表見参、外見参			明治～昭和	通過儀礼 婚姻	風慣 -399
風慣 258	茶ぶるまい、朝ぶるまいと落着餅			明治～昭和	通過儀礼 婚姻	風慣 -400~401
風慣 259	三つ目			明治～昭和	通過儀礼 婚姻	風慣 -402
風慣 260	村入り			明治～昭和	通過儀礼 婚姻	風慣 -403
風慣 261	花籠			明治～昭和	通過儀礼、葬制	風慣 -404
風慣 262	墓じるし			明治～昭和	通過儀礼、葬制	風慣 -405
風慣 263	縁の綱			明治～昭和	通過儀礼、葬制	風慣 -407
風慣 264	かっぱいりもち、かっぱのついたちもち			明治～昭和	年中行事、暮れの行事	風慣 -408
風慣 265	年夜の火			明治～昭和	年中行事、暮れの行事	風慣 -409
風慣 266	おみたんがさま(おみたますさま)、おみたまのめし			明治～昭和	年中行事、暮れの行事、正月の年神さまに新しい箕にご飯などを入れて供える、この箕は様々な言い方があり、また地区によってやり方も異なる	風慣 -410~451
風慣 267	初夢・船枕			明治～昭和	年中行事、正月、1月2日	風慣 -411
風慣 268	棚さがし(棚あざき)			明治～昭和	年中行事、正月、1月4日	風慣 -412
風慣 269	嫁呼び			明治～昭和	年中行事、正月、1月5日	風慣 -413
風慣 270	爪の切りそめ			明治～昭和	年中行事、正月、1月6日	風慣 -414
風慣 271	若木迎え			明治～昭和	年中行事、正月、1月11日	風慣 -417
風慣 272	十六だんご			明治～昭和	年中行事、正月14日	風慣 -418
風慣 273	いなぼつけ			明治～昭和	年中行事、正月14日	風慣 -419
風慣 274	火伏			明治～昭和	年中行事、正月18日	風慣 -421
風慣 275	成木責め			明治～昭和	年中行事、正月14日	風慣 -422
風慣 276	年直し			明治～昭和		風慣 -423
風慣 277	大斎日			明治～昭和	年中行事、正月16日	風慣 -424

整理 番号	名称	伝承地		時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字			
風慣 278	団子下し			明治～昭和	年中行事、正月 18 日	風慣 -425
風慣 279	農具の手入れ			明治～昭和	年中行事、正月 19 日	風慣 -426
風慣 280	歯固め餅			明治～昭和	年中行事、正月 20 日	風慣 -427
風慣 281	正月二十三夜			明治～昭和	年中行事、正月二十三夜	風慣 -428
風慣 282	嫁、婿の膝直し、 三十日の年取り			明治～昭和	年中行事、正月 30 日	風慣 -429
風慣 283	次郎のついたち			明治～昭和	年中行事、2 月 1 日	風慣 -430
風慣 284	涅槃会、お釈迦様の なくなった日			明治～昭和	年中行事、2 月 15 日	風慣 -431
風慣 285	社日			明治～昭和	年中行事、3 月 18 日	風慣 -433
風慣 286	むけのついたち			明治～昭和	年中行事、6 月 1 日	風慣 -434
風慣 287	二百十日、あらし祝 い			明治～昭和	年中行事、二百十日 (9 月)	風慣 -435
風慣 288	中の節供			明治～昭和	年中行事、9 月 9 日	風慣 -436
風慣 289	油メの十五日			明治～昭和	年中行事、11 月 15 日、新婦の里帰り、一般子女の休日	風慣 -438
風慣 290	米作り				阿武隈川流域の肥沃な土壌をもとに昔から水田耕作が盛んであった、秋の収穫時の田園風景は見事	風慣 - 439,60,466
風慣 291	桃栽培				盆地特有の寒暖差の大きな気候が国見特産のおいしい桃を育てる	風慣 - 440,546, 835~872
風慣 292	サクランボ栽培				山形県から栽培方法を導入して以来サクランボの産地となった	風慣 - 441,561, 817~821
風慣 293	くにみの日				9 月 23 日はくにみの日として町全体が「義経まつり」等にぎわう	風慣 -442
風慣 294	おふくら講					風慣 -443
風慣 295	黒穂抜きとずい虫 取り			昭和	昔の村の小学校には農繁休業があった、休み中の行事として先生が先頭に立って村内の大麦の黒穂を抜き取る黒穂抜きと稲苗のずい虫の蛾と卵を取る奉仕作業が行われた	風慣 -444
風慣 296	七五三縄飾り			昭和	藁を 7 本、5 本、3 本の下がりとし、これを 7 か所とするしめ縄	風慣 -447
風慣 297	松飾り			昭和	松は山から迎える時に枝松三段に出たものを選んで神棚に五本、表門、稲荷様などに 1 本立てた	風慣 -448
風慣 298	おがん松			昭和	若松 1 本を犠牲にして枝松で 1 本心が立っているものをおがん松として白紙に紅白の水引を結ったもの	風慣 -449
風慣 299	飾り餅			昭和	神棚に二重に並べて五組五か所に糊入中折に飾る。仏壇とおかま様にも飾る。床の間に大鏡餅を並べその上のミカンを載せる。	風慣 -450
風慣 300	おみどじょう				大みそかの日に稲荷様に巻き付ける赤い布のこと、その風習	風慣 -452
風慣 301	猫の墓				土地によって違うが、国見では坊さんにお経をあげてもらい股木に字を書いてもらい猫を埋葬した墓の上に立てるといふ	風慣 -453
風慣 302	お産のはなし					風慣 -454
風慣 303	国見バーガー				国見町名産、東日本大震災後、国見町を元気にしたいと商工会青年部のメンバーが考案、ふくしまバーガーサミットで平成 26 (2014) 年より 2 年連続優勝し殿堂入り	風慣 -464
風慣 304	かき栽培				干柿、あんぼ柿に使用	風慣 -549, 882~884
風慣 305	冬至かぼちゃ				12 月 22 日、いとこ煮などもつくる	風慣 -632
風慣 306	納豆ねせ					風慣 -633
風慣 307	祭礼 (春・秋)				各地区の神社で行われる、お祭りにはおふかしをつくる、赤飯の家もある お祭りの日には必ず鮭のあら汁を食べた、ごぼう煎りを必ず作ったという家もあった、かつて、ごぼう煎りはごちそうだった、池で飼っていた鯉をさばいて料理した	風慣 - 635,636
風慣 308	獅子舞、大黒舞				昔は旧正月の頃に家に回ってきていた、このあたりの人ではなく、遠くから来ていた人ではなかったが、ご祝儀やお米をあげるが、料理などでもてなすことはなかった	風慣 -637
風慣 309	盆踊り				8 月 各地区	風慣 -639
風慣 310	日本酒「国見あつか しさん」				国見町産穀米「天のつぶ」100% で仕込んだ「純米大吟醸」と「初しぼり純米吟醸酒」、福島県オリジナル酒米「夢の香」で仕込んだ「極 純米大吟醸」がある 「純米大吟醸」はモンドセレクション 2016 金賞	風慣 -907
風慣 311	猿合の祭り		佐野 室町		中世の祭礼、三崎明神 (熊野、明治田)	風慣 -322
風慣 312	守子座祭り		舞田 室町		中世の祭礼、稲荷明神 (現在、稲荷神社)	風慣 -323

【民俗文化財／無形の民俗文化財／民俗芸能】

※神事芸能および民謡を主な対象として掲載。民謡は、盆踊り唄など複数地区で同一のものについてはまとめている。

整理 番号	名称	伝承地		時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字			
民芸 1	もみどり唄	藤田	石母田			民芸 -43
民芸 2	マガインソング	藤田	藤田	大正	大正 4 (1915) 年頃の歌謡、賛歌 藤田開けた、ホテルができた、有馬の温泉つづいて製板、ナンテマガインデショウ	民芸 -44
民芸 3	お手玉うた	藤田	藤田		遊び歌	民芸 -45
民芸 4	内谷春日神社太々神楽	小坂	内谷		町指定無形民俗文化財「内谷春日神社太々神楽」 明治 15 (1882) 年に田村郡より伝来、一時途絶えたが復活し、春日神社太々神楽保存会によって受け継がれている	民芸 -20
民芸 5	小坂青年団団歌	小坂	小坂	大正	小坂青年団団歌	民芸 -21
民芸 6	相馬節	小坂			俗謡	民芸 -22
民芸 7	わが恋	小坂			俗謡	民芸 -23
民芸 8	春雨	小坂			俗謡	民芸 -24
民芸 9	とこよつほとぶし	小坂			俗謡	民芸 -25
民芸 10	とことんぶし	小坂			俗謡	民芸 -26
民芸 11	都都逸	小坂			俗謡	民芸 -27
民芸 12	ほうかい	小坂			俗謡	民芸 -28
民芸 13	さのさぶし	小坂			俗謡	民芸 -29
民芸 14	らっぱぶし	小坂			俗謡	民芸 -30
民芸 15	とんとんぶし	小坂			俗謡	民芸 -31
民芸 16	ちよいとねぶし	小坂			俗謡	民芸 -32
民芸 17	軍港節	小坂			俗謡	民芸 -33
民芸 18	なっちよらん節	小坂			俗謡	民芸 -34
民芸 19	鶉緑江節	小坂			俗謡	民芸 -35
民芸 20	八木節 五郎正宗	小坂			俗謡	民芸 -36
民芸 21	安来節	小坂			俗謡	民芸 -37
民芸 22	関の五本松	小坂			俗謡	民芸 -38
民芸 23	ストトン節	小坂			俗謡	民芸 -39
民芸 24	おけさ節	小坂			俗謡	民芸 -40
民芸 25	大島節	小坂			俗謡	民芸 -41
民芸 26	追分節	小坂			俗謡	民芸 -42
民芸 27	神楽：伏黒神楽	大木戸	貝田		一行二人で芸をした	民芸 -16
民芸 28	子どもの遊び唄	大木戸	貝田		まりつき唄、羽根つき唄、なわとび唄、いずれも女の子の遊び唄	民芸 -17
民芸 29	草刈歌	大木戸			草刈りの時、また、刈った草を運び帰る時にうたう労作歌	民芸 -19
民芸 30	わらべうた	西大枝	西大枝		こどもが遊びながら歌う	民芸 -1~5
民芸 31	夜麦つき唄	西大枝			麦について精白するときに歌う仕事歌	民芸 -7
民芸 32	伊達郡青年団歌	西大枝				民芸 -8
民芸 33	女子青年団歌 (伊達郡)	西大枝				民芸 -9
民芸 34	新町節	森江野	塚野目		遊郭で歌われる	民芸 -46
民芸 35	飴売り唄	森江野	塚野目			民芸 -47
民芸 36	新築祝い唄	森江野	塚野目		新築の酒宴で歌われる祝い歌	民芸 -50
民芸 37	なべとぎ唄	森江野	徳江		祝儀において歌われる	民芸 -52
民芸 38	土突き唄、もんき搦き唄	森江野	徳江		新築の基礎固めの工程 (土突き作業、地固め作業) で歌う	民芸 -53,54

整理番号	名称	伝承地		時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字			
民芸 39	盆歌、盆踊り歌	小坂 大木戸 西大枝 森江野	森山		盆踊りに合わせて歌う	民芸 -18
民芸 40	馬方節	小坂 森江野	塚野目		馬引きの道中で歌われる	民芸 -48
民芸 41	大津絵	小坂 森江野	塚野目		酒宴で歌われる俗謡	民芸 -49
民芸 42	田植唄	小坂 大木戸 西大枝 森江野	塚野目		田植え作業を行いながら歌う	民芸 -51
民芸 43	子守うた	大木戸 西大枝	西大枝		子どもを寝かしつけたり、あやしたりするために歌われる歌	民芸 -6
民芸 44	まりつきうた	西大枝 森江野	西大枝 塚野目		手まりをつきながら歌った童歌、遊び歌の一種	民芸 -10~15
民芸 45	伊達さんざ				祝儀において歌われる	民芸 -56
民芸 46	ちゃっくとりうた				わらべうた	民芸 -57
民芸 47	国見小学校校歌			昭和		民芸 -58
民芸 48	県北中学校校歌			昭和		民芸 -59
民芸 49	旧藤田小学校校歌			昭和		民芸 -60
民芸 50	旧大木戸小学校校歌			昭和		民芸 -61
民芸 51	旧森江野小学校校歌			昭和		民芸 -62
民芸 52	森江野村の歌			大正		民芸 -63
民芸 53	国見町明治学級の歌					民芸 -64
民芸 54	国見町婦人学級の歌			昭和		民芸 -65
民芸 55	藤田小学校賛歌			昭和	草野心平作詞、古関裕而作曲	民芸 -66
民芸 56	民謡「半田銀山鑛夫節」					民芸 -68
民芸 57	新民謡「伊達小節」					民芸 -69
民芸 58	はねつきうた				羽根突きにうたう遊び歌	民芸 -70

【民俗文化財／無形の民俗文化財／民俗技術】

※農業・養蚕業に関わる民俗技術を中心に掲載。江戸時代の古文書から確認される技術（継承されていない技術）も対象とした。

整理番号	名称	伝承地		時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字			
民技 1	機織り	小坂	小坂 鳥取	明治～昭和	昔は雪が降ると機織りが始まった、種類は絹はた、木綿はたなど 昔は機織りができて一人前と認められた	民技 -4
民技 2	(蚕の) 掃きたて	小坂	泉田	明治～昭和	八十八夜たって何日かすると種屋が蚕種を育てて持ってきた	民技 -19
民技 3	稲架、稲積	小坂	小坂		稲の干し方 稲架：ハセ、ハセガケ、イネカケ、ポーカケ、カケバ、サテ、サデカケ、キカケ、レンジイ、ブツカケ 稲積：クイカケ、ミヨオ、ホンニ、ツクシ、ボツチ	風慣 -116
民技 4	鑄掛屋 (いかけや)	大木戸	貝田	昭和	道端でふいごを使って近所のお母さんたちが持ち寄った鍋や釜を修理する	風慣 -46
民技 5	天王桶	大木戸	貝田	昭和	伊達町天王様のお祭りに宮城の方から荷車に手桶をたくさん積んでくる桶屋から新しい桶を買っていた	風慣 -47
民技 6	香煎 (こうせん) 売り	大木戸	貝田	昭和	大麦を殻ごと煎って粉にしたもの、茶碗に入れてお湯と砂糖、塩を入れてよくかきまぜたものを箸などですくって食べた	風慣 -48
民技 7	蚕物師	大木戸	貝田	昭和	各家庭で繭の糸繰りなどでできた屑物を「こぼしり」と呼んでおり、それを買い集める商人を蚕物師とよんでいた	風慣 -49
民技 8	薪伐り	大木戸	大木戸	明治～昭和	冬になると薪伐りをした、村には村山・共同山・組山とあって組山を切って分けて運んだ秋の収穫・麦まき仕事が終わって雪が降り始めるとみんなで毎日山に通った	風慣 -359
民技 9	巫女・拝み屋	大木戸	高城		国見神社の下にあった旧宅で拝み屋 (神降ろし) を営む盲目の巫女、「ジュウニジ (=十二神将 (地名)) のミコ (ジュウニジ) 又は「ミヤシタ」と呼ばれた 白い羽織姿で幣束を振り、呪文のようなものを唱え、両手にオジンメサマを持って拝む	
民技 10	麻糸づくり	西大枝	西大枝	明治～昭和	麻は野生のものを少し手入れして育てる、土用前に刈り取り、彼岸頃に干して甘皮を取り、機械で糸にする、あるいは手で皮をむいて乾かしてから甘皮を取ってこれを糸に紡いだ	民技 -1
民技 11	炭焼き	西大枝	西大枝	明治～昭和	この辺では自分の家の木を炭に焼いた	民技 -21
民技 12	蚕糸業の本場名	森江野	徳江	江戸	幕府により伊達地方に与えられた称号 安永2 (1773) 年、信達地方の蚕種が「本場名」を獲得できた その中には徳江村と東大枝村が入っていた 伊達の代表的な産業として明治・大正まで発展していった	民技 -12
民技 13	コウツの皮はぎ	森江野	塚野目		紙漉きの材料としてこうぞの皮はぎを行う、大きい釜・桶を煮たて束のまま入れ、蓋はしないで下から蒸すと皮と身がはかれるので手でむく、季節は冬至過ぎ、3月半ばまで (冬仕事)	口伝 -311

整理番号	名称	伝承地		時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字			
民技 14	ワラ仕事	森江野	塚野目		冬はワラ細工(ワラ仕事)をした、蓑、わらじ、おそふき、めうぞう(帽子)、べこぞうり(うしのわらじ)、俵、縄などを作った つつぼ講(わら打ち)もやった、飾って、ご飯を上げて、拜んで、皆で酒飲んで、ご飯を食べ散らす	口伝-312
民技 15	石造技術(国見石)	藤田 大木戸	石母田 大木戸		中世以来の技術 石母田、大木戸から生産される石は加工しやすい	民技-14
民技 16	紙漉き舟役	藤田 森江野	石母田 塚野目 森山	江戸	元禄13(1700)年の森山村・石母田村、安永2(1773)年の塚野目村の記録には紙漉き舟役が課されている 天保14(1843)年では石母田村のみであり、ほかは原則的に行わなくなっている	民技-9
民技 17	糸取り(まゆ)	小坂 大木戸	鳥取 貝田	明治~昭和	明治25(1892)年頃は製糸場がなかったので大名家では親分から女を2~3人頼んで(蕭から)糸取りをさせた	民技-2
民技 18	養蚕業	大木戸 森江野	貝田 森山	明治~昭和	農家の副業として養蚕業が盛んに行われた、江戸時代には「本場」の称号を幕府から与えられ、伊達郡の代表的な産業となった	民技-22 風慣-343
民技 19	あんぼ柿	大木戸 森江野	貝田 森山	昭和	昭和初期より養蚕業の衰退に代わって柿製造が始まり、硫黄燻蒸の製造方法が確立して全国への出荷も始まった	民技-23
民技 20	綿役			江戸	小物成、商品生産 元禄13(1700)年、延享3(1746)年、延享4(1747)年、安永2(1773)年、天明6(1786)年	民技-3,6~8,13
民技 21	漆役			江戸	小物成、商品生産 元禄13(1700)年、延享3(1746)年、延享4(1747)年、安永2(1773)年、天明6(1786)年	民技-3,6~8,13
民技 22	紅花役			江戸	小物成、商品生産 元禄13(1700)年、延享3(1746)年	民技-3,8
民技 23	絹・絹糸役			江戸	小物成、商品生産 元禄13(1700)年、延享3(1746)年	民技-3,8
民技 24	糸釜役			江戸	小物成、商品生産 天明6(1786)年	民技-6
民技 25	水油絞り役			江戸	小物成、商品生産 天明6(1786)年	民技-6
民技 26	裁縫				若い娘たちは皆、針のうまい人の所に行き習った 地域外のお師匠さんにつく人も多くいた	民技-10
民技 27	竹林(竹の生産と竹製品)				国見には蚕用の道具に必要な竹林が多く伊達郡屈指であった 光明寺から貝田にかけては「貝田の障子」と呼ばれるほどであった また、藤田村には「御竹守」がいたことが記録にある	民技-11
民技 28	種もみと種池			明治~昭和	種もみを種池に浸す期間は2~3週間、又はそれ以上、種もみを長く浸しておく悪い粉が死んでよい粉だけが残り、昔は浸す時間が長かった	民技-15
民技 29	種まきと苗印			明治~昭和	種をまいた後には必ずといってよいほど、ヨシを×印に立てるのが一般的	民技-16
民技 30	田うない			明治~昭和	田おこし、しろかき	民技-17
民技 31	田植え			明治~昭和	初田植えは「苗開き」ともい、赤飯を炊くところもある 良い日を選んだり、火をたいたり、お神酒をあげてから始める また、重箱に赤飯を入れてその上に豆で育つようにと青はた豆を散らしたりする	民技-18 風慣-115,341
民技 32	藁			明治~昭和	昔は藁の乾燥室をてんでに持っていた、協働の乾燥場ができたのはずっと後のこと、昭和後期には生糸売買取であった	民技-20
民技 33	小石丸(蚕種)				蚕種、皇居でも育てている有名な品種であるが、今ではほとんど忘れられている	民技-24
民技 34	屋根ふき			明治~昭和	村中で屋根ふきの順番を決めて貰っていく互助組織 昔は入会山のカヤを刈って使った	風慣-346
民技 35	元山			明治~昭和	一般の家の建築は、設計に基づいて大工が必要な材料を見積し数と用途を決める、それを元山に頼んで山の木を見て必要な立木を決める、こういう元山はたいてい村に二・三人はいた	風慣-353
民技 36	山だし			明治~昭和	梁、棟木、大黒柱などの大物を山出しするときには、材木の頭に「カンフツ」をぶち込んで、木の下にコロを敷いて木ぞりの上に材料を載せて油をひき引綱で引く、道まで出すにはダイリンやヤマトという方法で大勢で担いだ	風慣-355
民技 37	ふれうり				商品を担いで、物の名を唱えながら売り歩くこと、また、その人、ふりうりともいう、金魚屋、納豆屋、豆腐屋、八百屋、飴売り、ところてんうり、等	有民①-66

【民俗文化財／無形の民俗文化財／口頭伝承】

※国見町が舞台あるいは関係のある民話、伝承、伝説、地名を対象としている。

整理番号	名称	伝承地		時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字			
口伝 1	鬼元治のはなし	藤田	石母田		石母田の山の谷に住む元治は、けんかが強く、ばくちを打ち、追いはぎは働く人間だった、正月朔日に狐に出ると、雪道の疲れて眠ってしまい、目を覚ますと全身火だるまになっていた、過去に犯した罪を懺悔するとやけどの痛みがなくなり、懺悔しないと痛みがこじてくるので、その前非を悔いながら死んでいった	口伝-200
口伝 2	おにばばさま(石母田の泥棒)	藤田	石母田		おにばばさまは悪逆非道だが、隣近所には非常に親切な善人だった、夜に泥棒稼業で歩かため、昼に田んぼに入ると普通の人はすぐに乾かないが、足がほてってすぐに乾いた	口伝-201
口伝 3	嫁いびり	藤田	石母田		石母田の造り酒屋が塚野目から嫁をとるが、家風にあわず「さんざえもん」の家の門口に縛ると蚊に食われて亡くなった、その祟りで石母田と塚野目の縁組はいつも不調に終わる	口伝-202
口伝 4	嫁の亡霊	藤田	石母田		病気で亡くなった嫁が、姑が指揮する台所に姿を現す、姑が「誰に対して恨みを持っているのか」と一喝した所、嫁は姿を消した、嫁は死んでも流しに立って一生懸命やろうとした	口伝-203
口伝 5	ごぼう虹	藤田	石母田		20年くらい前に大干ばつの年があった、うちに働きに来た人が霊山にまっすぐな「ごぼう虹」が立つと、大干ばつで75日は雨が降らないと言っていた、本当にその夏は雨が降らなかった	口伝-204
口伝 6	半田沼の大蛇たいじ	藤田	石母田		半田沼には魔物(おろち大蛇)がいて、屋根に白羽の矢を立てられた家は娘を人身御供に上げなければならず、上げないと風雨が荒れ狂うことになる、旅の侍が魔物を退治した	口伝-205
口伝 7	大入道	藤田	石母田		1人で街へ夜遊びに行った帰り、だんご坂を登った所で、目の前に上から大入道が下がられた、気味が悪くてそれから夜遊びしなくなった、きつねのしわざ	口伝-206
口伝 8	石母田の牛石	藤田	石母田		用明天皇が乗った牛車の牛が倒れて石になったといわれる	口伝-207,208

整理 番号	名称	伝承地		時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字			
口伝 9	石母田の囲い石	藤田	石母田		坂上田村麻呂が蝦夷征伐に下ってきた際、囲い石のもろの中に、蝦夷の棟梁・アケチ王が住んでいて坂上田村麻呂の軍勢を逃した、東畑にはアケチ王が腰かけた鬼石という地名が残る	口伝-209
口伝 10	盗人返（ぬすびとかえし）	藤田	石母田		石母田の北部の県境の大峰山中腹に新田というところがあり、その一人が泥棒稼業を始め、往復に一番近い道を歩いたため地名となった	口伝-211
口伝 11	石母田大火	藤田	石母田	明治	明治 36（1903）年の石母田大火は蒸気機関車の火が火元、焼けたのは5～6軒だが繰り返しでないよう、沿線の家は鉄道省に陳情してトタンを貰い、茅葺だった屋根にトタンをかけた	口伝-213
口伝 12	キヨさんのリヤカー	藤田	石母田	昭和	昭和 16（1941）年に応召になり、子どもが6人いて生活に困っていた、リヤカーを買い子どもたちを乗せて歩いて田畑に下って仕事をし、リヤカーにはうんと助けられた	口伝-214
口伝 13	猿と蛙	藤田	石母田		猿と蛙が民家から奪った餅の分配で揉める、賭けで蛙の物となるが、猿が半分くれといふので、餅を猿の顔にぶつけたら顔が赤くなり、後ろ向いた所にぶつけたので尻も赤くなった	口伝-215
口伝 14	蛙と蛇	藤田	石母田		蛇が歩くところをノロノロ、蛙が池に飛び込む音をタンポタンボといい、「ノロノロ タンポタンボ ノロノロ タンポタンボ」という話の題でよく聞かされた	口伝-216
口伝 15	狐と狸のはなし	藤田	石母田		狐と狸が村で悪事を行う、狐が狸に仕事をさせるが、川で魚を取るのに狐の尾を入れたと凍って村の人達に棒で殴られる、ぼっこり殴るとげんげん鳴くので「ぼっこりげんげん」という	口伝-217
口伝 16	生首のけけ物	藤田	石母田		淋しい森に「生首やっつおう」と言う化物が出た、度胸のある人が「生首よこすならよこせ」と言い生首を袋につめて帰ってきたら、大きな山鳥で馳走になった	口伝-218
口伝 17	水ぐものはなし	藤田	石母田		うまく魚が釣れたと喜んでいて、沼の真中に水ぐもが浮いて釣り人の親指に糸をかけてまた水にくぐった、糸を外して切株にひっつけた所、その根っこが沼の中に持って行かれた	口伝-219
口伝 18	母衣懸松	藤田	石母田		硯石の山下村道の東にあり、遠くから望むと母衣のように見える松の木	口伝-225
口伝 19	国見神社の伝説	藤田	石母田		治承4（1180）年、源義経が当神社の神威を仰いだという	口伝-228
口伝 20	宝帯関神社（下紐弁天）	藤田	石母田		用明天皇の母君の伝説、お妃が下紐を解いてお産をしたと伝わる	口伝-229
口伝 21	不幸者	藤田	石母田		石母田の西の部落に母を虐待するものがいたが、大天狗がこれを捕えて懲らしめたが国見明神がこれを救ってやったという話	口伝-233
口伝 22	榊田	藤田	石母田		硯石山の西方に字榊田というところがあるが、昔丹波が軍勢の数を図るために一定の人数を榊形の田んぼに入れて計ったという伝説がある	口伝-234
口伝 23	大清水	藤田	石母田		石母田に字大清水があり三吉神社を祀る、奥州街道筋の旧跡で清水が湧き出たのでそのような地名となった	口伝-235
口伝 24	柱立	藤田	石母田		大清水の北側にある字名、坂上田村麻呂が栗の大木を切って立てて本陣としたことがその名の由来という	口伝-236
口伝 25	今井戸前	藤田	石母田		大清水の水でかんがいされている水田の中の地名	口伝-237
口伝 26	土用田	藤田	石母田	中世以前	「延宝二年石母田村検地帳」にある、古代の水利慣行を示す地名、明治の地租改正で隣地の四斗蔭に合併されたが、現在でも土地の人でその地名土用田と呼ぶ人がいる	口伝-238
口伝 27	笛吹田	藤田	石母田	明治以前	明治地租改正以前の小学、笛吹田も猿楽田とおなじく祭祀田で、瀧口神社の祭祀に奉納される猿楽興業の費用に充てられたと思われる	口伝-239
口伝 28	重くなった地藏様	藤田	石母田		粟野の人が子どもの育ちが悪くお地藏様を借りた、徳江の渡しを渡ると地藏様が重くなり舟を降りると軽くなった、地藏様が粟野にも地藏様があり行きたくなくなったといった話	口伝-227
口伝 29	樋口	藤田	石母田		石母田城の堀に水を入れる樋の口があったという場所	口伝-435
口伝 30	的場	藤田	石母田		石母田城から出て、朝夕、弓の稽古をしたところではないかといわれる	口伝-438
口伝 31	狐にだまされた話	藤田	石母田		硯石の周辺で、土産や買い物を持ち帰る途中、狐に化かされて包みを取られる話	口伝-468
口伝 32	医業神社の伝説	藤田	藤田		弘法大師の伝説、眼病に効験ありといい、夜が明けたように快癒することから「アケヤクシ」といわれる、一時堂宇がなく石造だけが佇立した所から「ハダカ薬師」とも伝わる	口伝-227
口伝 33	鹿島神社の伝説	藤田	藤田		聖武天皇の時、鎮守府將軍大野隼人がこの地に館を築いたときに守護神に鹿島神を勧請したと伝えられる、その後源頼義・義家・頼朝が陣を張ったといわれ、源宗山と呼んでいる	口伝-242
口伝 34	太子堂の地名	藤田	藤田		太子信仰は浄土真宗と関係が深く寺院跡の可能性がある	口伝-246
口伝 35	池の主	藤田	藤田		観月台北の大きな沼に住む大蛇が美しい娘を捕えて沼に沈めた、父が剣を啜って潜り大蛇を退治して娘を取り返した、大蛇の頭と尾を別々に植えてスギを植えた、弁天堂の大杉という	口伝-247
口伝 36	大野東人の道草	藤田	藤田		蝦夷平定のため進軍した大野東人が北の多賀城まで進軍し城を築いた、その際に国見でも蝦夷の抵抗にあい館を築いて蝦夷と戦ったと想定できる	口伝-248
口伝 37	赤べこ金	藤田	藤田		頼朝の時代、半田山の峰の下は泥海で峰つたいを歩いた、金売吉次が赤べこにお金を積んで運んでいたが、横風にあって下の沼の軒げ落ちた、金銀が埋まっているのはそのため	口伝-249
口伝 38	月蝕のこと	藤田	藤田		お月様が欠けるのは人間の病気を引き受けてくれてお月様が病気になるからという話	口伝-250
口伝 39	家に入った火の玉	藤田	藤田		徳江のある家に大雨の日に火の玉が入ってきた、そのあとその家は幸せになったという話	口伝-251
口伝 40	坊主にされた人	藤田	藤田		半田でどぶ池に入って拝んでる人が居た、他人様の娘と孫を死なせてしまったので、坊主にして一生懸命念仏を唱えて拝んでいたつもりだったが、きつねに化かされていた	口伝-252
口伝 41	萬歳楽（まんざいろく）の話	藤田	藤田		半田の裏の方にある萬歳楽という岩は地の底まで続きびくとも動かないと伝わる、地震がくると萬歳楽のように揺れないよう「まんざいろく、まんざいろく」と唱えて念じる	口伝-253
口伝 42	蛇骨（じゃこつ）のはなし	藤田	藤田		半田山のかけに蓮華滝という滝があって不動様が立っている、不動様の脇に蛇の骨という鉱石みたいなものがたくさんあった、半田山にいた大蛇の骨だといふ	口伝-254
口伝 43	馬鹿むこのはなし	藤田	藤田		馬鹿むこが嫁の実家で賞えた「だんご」の言葉が家へ帰る道中でわからなくなる、嫁と言ひ合いになり、箒で嫁の頭を殴った所、コブができてだんごのことを思い出す	口伝-255
口伝 44	ころり薬師如来の話	藤田	藤田		鹿島神社の薬師さまは、よく拝むと丈夫で長生きし、お頼みすればコロリと死ねるといわれる、あけ薬師ともいわれ、目を患った人たちは薬師様の裏にある井戸清水で目を洗い治した	口伝-256
口伝 45	公園の杉の木の話	藤田	藤田		藤田村から隣村へ嫁ぐ娘が、観月台沼の側で行方不明になり探した所、娘のくしを抱いた沼の主（白蛇）が沼の底に居た、主は沼の東方にある小高い丘に頭を東方にして葬り、頭と尾の部分に2本の杉の木を植えた、弁天様が祀られている丘の上の大きな杉の木	口伝-257
口伝 46	公園の弁天様	藤田	藤田		清沢の内村先生の娘が帰らず、手分けして探した、観月台池の蛇が飲み込んだかと殺したら、池の端から端まで斜めに伸びて死んだ、頭は権現様に祀り、尾は弁天様を祀った	口伝-258
口伝 47	戸沢の天狗様	藤田	藤田	明治～大正	戸沢の天狗様という人は巻物か短刀かを白い風呂敷に包んで黒装束を着る、頭は1束に縛った出で立ち、昔からの修行でガマ仙人ともいう、学校に頼まれ火渡りを見せたこともあった	口伝-259
口伝 48	たねの話	藤田	藤田		柿の種は燃やすと、どう（ライ病）になり、柿の木が怒って実を付けなくなるといわれた、何の種でも燃やすものではない、種切れにならないようにという心遣いだったと思う	口伝-260

整理 番号	名称	伝承地		時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字			
口伝 49	ほら吹き	藤田	藤田		ほら吹きが大ほらをふいたら、もっと上手がいたという話	口伝-261
口伝 50	年頃の娘	藤田	藤田		親に内緒で付き合っている人をヌカの山に隠したが、ヌカの山が少しずつ崩れ娘は笑いが止まらなかった、年頃の娘はヌカが崩れてもおかしいということわざの元	口伝-262
口伝 51	こと、しゃみせん	藤田	藤田		江戸見物した人が、字がよく読めないために勘違いをしてしまった話、「ことしゃみせん」を「今年は見せん」と書いてあると勘違いする	口伝-263
口伝 52	冬の蝶	藤田	藤田	昭和	昭和35(1960)年、冬なのに生家に大きな蝶が飛んでいた、まもなくして福島から婆ちゃんが死んだと電話が入って、蝶は福島のお婆ちゃんの霊だったのかと家中で話した	口伝-264
口伝 53	お寺の知らせ	藤田	藤田		先生が大学時代に卒論を書くのにお寺にいた、夜中に戸が開いて本堂にまっすぐ入っていくのが見えた、お寺では知らせが来たとかわかる	口伝-265
口伝 54	夢枕に立った息子	藤田	藤田	昭和	息子が玄關に濡れた着物で立ち、話しかけても一言もしゃべらない夢を姑が見た、昔から死んだ人はしゃべらないというが、やはり千鳥で戦死していた	口伝-266
口伝 55	二文字屋	藤田	藤田	明治	藤田の奥山家から北の武文の所まで表通り70余間もある屋敷の大家、昔は造り酒屋で財をなした、明治初年藤田に郵便局が開設されたとき率先してこれを引き受けた	口伝-267
口伝 56	一町田(いっちょうだ)	藤田	藤田		条里制関連の地名、国見では藤田や山崎の小字名に残されている	口伝-268
口伝 57	昔の藤田宮町通り	藤田	藤田		戦前の藤田宮町通りの様子に関する雑記	口伝-486
口伝 58	天馬田	藤田	山崎		久万氏早馬を天馬とってこの地で天馬に食べさせる田があったのでその名があるという	口伝-273
口伝 59	山崎の耕谷	藤田	山崎		藤田小学校北側の耕谷団地、元は山崎条里の一野をなし奈良・平安期に遡るが、かんがい不足から次第に荒地と化した、西根上堀が整備され近世には新たに良田となり最近に至る	口伝-274
口伝 60	おふかさんののはなし	藤田	山崎	明治	工門の一人娘「ふか」の話、明治初期、讃岐の金毘羅まいりに行くと、大きな天狗の面を買って担いで歩いてきた	口伝-275
口伝 61	メッケ犬のはなし	藤田	山崎		メッケという名の犬の話、そば畑できつねに化かされている人が居た、犬がそば畑を駆け回るときつねが驚いて逃げ出してきた、それで降犬は大事にされた	口伝-276
口伝 62	内谷のひかりもの	藤田	山崎		鳥取から越えてきた人達が、木の枝から火の玉が下がっているのを見た、鬼夜叉のような顔で「通るやつは皆喰い殺してしまう」という、寺に拝んでもらったら通れるようになった	口伝-277
口伝 63	片目のふな	藤田	山崎		藤田城跡、水雲神社脇にあった金蔵院の沼に片目のふながいた、藤田城の攻防戦で互いに片目を失いながら逃げた敵を塚野目の五郎市神社に祀った、その時からふなが片目になったといわれている、昔は百日咳にかかるとその沼の水を子どもに飲ませた	口伝-278
口伝 64	淋しかった避病院	藤田	山崎	大正～昭和	伝染病が出ると山の避病院にきた、感染の理由がなく山で空気も良いが昼間でも淋しい、避病院にランプがつくと誰か居ると思ひ、退院していくと灯りが消えて淋しい暗い山になる	口伝-279
口伝 65	ばかむこの下の句	藤田	山崎		俳句の先生の一人娘が、上の句に対する下の句を上手についた人を婿にするという、上の句・下の句もわからない息子が合格してしまう話	口伝-280
口伝 66	ものぐさくらべ	藤田	山崎		背中に結わえた風呂敷をほどいておろすのが面倒な男と、風呂敷が緩くなって落ちそうになっているのをあごで止めて落ちないようにしている男が出会う話	口伝-281
口伝 67	耕野(谷)・新田	藤田	山崎		本来は開墾地を意味する農耕地(中世)、江戸時代は新田と呼ばれた	口伝-470
口伝 68	初量(しりょう)	小坂	泉田	明治	明治6(1873)年の地租改正で地籍調査(地籍図、地籍帳、丈量帳)で調査された最初の地がこの名の由来	口伝-134
口伝 69	閑居寺の和尚	小坂	泉田		ばくちの元金欲しさに泉田の閑居山の裾、閑居平にある閑居寺を襲った「なまず」(なまけもの)達が、和尚に諭され改心する話	口伝-135
口伝 70	赤ばこ、白ばこ	小坂	泉田		川で洗濯する婆さんに赤と白のこぼこ(小箱)が流れてきた、持ち帰った赤い小箱に入っていた犬が幸福を呼び、隣の爺さんには不幸を呼ぶ話(花咲かじじいの派生・変形)	口伝-136
口伝 71	おかあさんの幽霊	小坂	泉田		おかあさんのおかあさんが幽霊になって出た話、おかあさんから聞いた	口伝-137
口伝 72	赤ごの泣きまね	小坂	内谷		女の人がおたおたをしていたら隣の座敷で赤ん坊の泣き声をした、赤ん坊などいないのに気味が悪くなって本家の人と呼ばれた、本家の人と入れ違いできつねが逃げて行った	口伝-141
口伝 73	太子平(たいしひら)のはなし	小坂	内谷		内谷の山は下から見ると平らで宮城県境のあたりを太子平といった、板橋の森は太子平が山津波で流れてきた山だという、井戸を掘ってみると必ず大きな木が埋まっている	口伝-142
口伝 74	西堂(さやど)薬師堂の由来	小坂	内谷		西堂の薬師堂は、伊達政宗が戦をしていた時に背負われて一緒に歩いていたもの、伊達の足軽(古内家の先祖)が戦をやめて祀った	口伝-143
口伝 75	三尺三五平と田楽売のばあさん	小坂	内谷		居合の名人・三尺三五平(斎藤三五平)が小坂に帰ってきて、集落で田楽を売る昔なじみの婆さんと仕合をしたが、三五平が抜いた刀に田楽の味噌を付けるほど婆さんの方が強かった	口伝-144
口伝 76	万蔵さまのミイラ	小坂	内谷		万蔵様のたゆさま(神主様)が即身仏になった話、死後に万蔵様の稲荷神社の前の高い山のでつべんに埋め、3年後に掘ると立派なミイラになっていた、小学校の頃は行く度に見てきた	口伝-145
口伝 77	西堂薬師堂の由来	小坂	内谷		伊達政宗が戦をしていた時に背負われて一緒に歩いていた神様、戦をしたくないのでここに残るとして西堂薬師を祀ったとされる	口伝-481
口伝 78	蚕種八幡と蚕種石	小坂	小坂	明治以前	八幡宮境内に蚕種石という石があり、苔の色が掃きたての時期を覚えてくれるという	口伝-150
口伝 79	小坂子育て地蔵様のはなし	小坂	小坂		祭礼では新しい着物を着せ、木製の箱車に乗せて小坂地区を子どもたちにひかせる、祭礼が済むと、各地の家々に借りだされ子守をし次の祭礼までに戻す、様々な逸話が残る	口伝-152~160
口伝 80	かげ(疍)	小坂	小坂	明治～昭和	かげがおきた各々筆甫の斎川の孫太郎士の黒焼を飲ませるとなおる	口伝-164
口伝 81	狐御礼	小坂	小坂		桜田門外の変で襲撃した水戸浪士の一人が内谷の山中に逃げきて暮らしていたが、ある時、赤狐に親切にしてやったところ、その恩返しがあったという話	口伝-165
口伝 82	狼の毛皮	小坂	小坂		昔オオカミと死闘を演じた剣の達人の子孫の家にオオカミの毛皮が伝わっている	口伝-166
口伝 83	守子の森	小坂	小坂	明治	明治初期の屋号と地域が一致して通称「モリコ」(森子、守子)と呼ばれていた、明治初期には松が傘のようになっていて、一戸あった住宅の屋号が「盛弘」であったとされる	口伝-168,189
口伝 84	洗い地蔵の話	小坂	小坂		上戸沢で子どもたちが地蔵を土に埋めていた、父親が寺で洗ったところ夜中腹痛に襲われた、祈禱師に拜んで貰うと、子どもたちとの遊びを邪魔された地蔵様が不満だったという	口伝-169
口伝 85	松蔵寺の清水の話	小坂	小坂		曇英大師が悪水に悩む村人のため錫杖を立て祈禱をした所、清水が滾々と湧き出たという、小坂の人は蚕の糸とりの早朝にその水を汲んできて使ったという	口伝-170
口伝 86	泉田で見た人魂	小坂	小坂		40歳くらいの時、つみやす鉱山に通った頃、泉田の上に光もの(火の玉)が上がリ、しっ引いで内谷の方に来たのを見た、20歳前に見なければ見ないというは嘘だと思う	口伝-171
口伝 87	びかびか提灯	小坂	小坂	大正	大正14(1925)年の秋、8時頃にきつね火を見た、前田の田の中の街道を中半田の方から下って、せきとのじっちの所まで来た時に光った	口伝-172
口伝 88	友達姿	小坂	小坂	昭和	太平洋戦争の時、竹槍の稽古で午前2時頃に学校に集められた、友達姿が見えたが先に行ってしまう、学校に行くとその友達がまだ来てなかった、きつねに化かされたとかわかった	口伝-173

整理 番号	名称	伝承地		時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字			
口伝 89	泉田の松の木のはなし	小坂	小坂		小坂に大木が3本あった、1本は宗返山の入口にあったケヤキ、1本は大ソネ、1本は熊野様(泉田)の松の木、松の木は夕方になると小坂から山崎・藤田辺りまで日陰にしたという	口伝-175
口伝 90	大蛇になった女	小坂	小坂		7人の化身を持つ平将門を側女・ききょうの裏切りによって俵藤太秀郷が討った。俵藤太の「藤太」が「藤田」の元になったという、ききょうは蒲川の水鏡で角が生えているのを見て橋の上から身投げし、大蛇になって太田川を上り普沼の主になる、大蛇は白鳥がくわえてきたよもぎの矢で半田山「さくれ沢」で死んで、一面に大蛇の骨が散らばり「蛇骨沢」ともいった	口伝-179
口伝 91	三尺三五平(さんじゃくさごへい)	小坂	小坂		小坂の宿場時代に三尺三五平という体が三尺くらいの人が出て、五尺もある刀を裾に車を付けて引いて歩いていったという	口伝-180
口伝 92	雷神講と鶴さまと力持ち	小坂	小坂		前田前という所は、田が13町歩あるが水利が乏しく、雨に頼るほかないため、雷神様の堂を建てて信じた、毎月19日に拝み講を行っている、拝み講に来る鶴吉という人は、沢山食べる力もちで、熊坂道山の兄弟と賭けをして保原・センリン寺の石碑を持ち上げてもらい受けた、石碑は鹿島神社の東の道路のすぐ脇に立て、保原には台座だけ残っているという	口伝-181
口伝 93	小坂峠の人足	小坂	小坂		小坂峠は殿様がかごで上り下りするため人足が出ていく、持っている田の広さに応じて人数を出すので、歳を取ると田んぼを人にあげる人もいた	口伝-182
口伝 94	腹いたの妙薬	小坂	小坂		2人で山に薪取りに行くと1人が腹痛を起こした、もう1人が介抱をしたが治らなかったため、嘘の薬を作って飲ませた所、薬と信じて飲んだので腹痛が止まった	口伝-183
口伝 95	まご太郎虫	小坂	小坂		まご太郎虫(ヘビトンボの幼虫、黒焼きして粉末にしたものが子どもの疳の薬として知られた)がこらの川に居る、10匹くらいを串に刺して炙って売っていた	口伝-184
口伝 96	蛇・守り本尊のはなし	小坂	小坂		木にアオダイショウのぬけがらがあると、これを守り本尊のお姿として瓶に入れて、神棚にあげて供えておく	口伝-185
口伝 97	まま おつかあさま	小坂	小坂		自分の子には高い米のふとんを作って、継子には安い粗穀詰めて寝せたら、米のふとんは冷えて自分の子は凍え死に、継子は粗穀だったので暖かくて助かった	口伝-186
口伝 98	夜の豆にははづれんな	小坂	小坂		一人の小僧が鬼に追われてもぐり込んだ、皆で豆を食べていたのに、その小僧だけ食べなかった、鬼が来て臭いをかいで、1粒も食べなかった小僧を引っ張り抜いたという	口伝-187
口伝 99	ばかむすこと羊かん	小坂	小坂		お大尽のバカ息子が、もらった羊かんがあまりにうまいので、来年もうまい羊かんになって食べるようにと考えて路地に植えたという話	口伝-188
口伝 100	さむらい達の戦い	小坂	小坂		小高い山に狐がいて、そこを通る人をばかにしていた、老人がその狐と会った時に豪傑らしい侍と女と間違えような若い侍の戦いを見せた、狐は「術が駄目になるので念仏は申さないでくれ」というが、老人は「綺麗な侍が殺されては可愛そうなので、念仏でも申そう」として狐の術は解けてしまった	口伝-190
口伝 101	お金は木の葉っぱ	小坂	小坂		藤田の豆腐屋へ雪の降る晩に若い女が油揚げを買いに来た、油揚げを持たせ、金をもらってザルに入れ、店を片付けて勘定しようとザルを外すと、ザルには木の葉が入っていた	口伝-191
口伝 102	お寺の鐘をたたいて	小坂	小坂		お寺では、子どもが死ぬと玄關石の所を渡って、鐘をたたくと和尚さんが言っていた	口伝-192
口伝 103	明治のころの小坂宿の話	小坂	小坂		明治期の小坂宿の様子に関する雑記	口伝-474
口伝 104	鳥取観世音	小坂	鳥取		この観世音に祈念すれば豊蚕間違いなしとして毎月酉の日には参詣する者が絶えないという	口伝-193
口伝 105	宿の淀、大門	小坂	鳥取		江戸時代の羽州街道と小坂宿が整備される以前、宿場の機能を持ったことを示す地名、福源寺を通り小坂峠に向かう旧道に沿ってある	口伝-198
口伝 106	べこについて	小坂	鳥取		牧場で飼育をやる、汽車で来て桑折駅で降り、縄もつけずに峠を登って行っても落ちない、牛を追って、ちょうろ沼あたりにある牧場で飼育した	口伝-199
口伝 107	みそかの年取りの膝直し	小坂	板橋		みそか(三十日)に膝直しに行く、初めて嫁が来た正月には親類に招かれて歩いていく、座ってばかりなので、膝直しに実家に行って、向かいの山に野火がたくまで泊まってきて良い	口伝-241
口伝 108	深山さま	小坂	小坂 鳥取		小坂の深山神社は蛇の神様で、養蚕が盛んな頃、ねずみに繭を食われないように卵を供え、蛇が来て守ってくれた	口伝-176~178
口伝 109	こぶとりじいさん	大木戸	大木戸		老人が鬼に歌と踊りを気に入られ翌晩も来るようにと質草として類の瘤を取られる、それを聞いた隣の老人が真似をした所、下手な歌と踊りに鬼が怒り瘤を2つにされてしまう話	口伝-62
口伝 110	花咲かじい	大木戸	大木戸		心優しい老夫婦と欲深い隣人夫婦が、不思議な力を持った犬をきっかけに前者は幸福に後者は不幸になる話	口伝-63
口伝 111	蛇むこのはなし	大木戸	大木戸		娘の衣装に縫針と長い糸を付けた所、婿が蛇だったことに気づく話、五月の節句を待って、しょうぶとよもぎの湯に娘を目隠して2日入れたら、すっかり毒が下って元の元気な体になった	口伝-64
口伝 112	さるむこ	大木戸	大木戸		爺様が粟の草むしりの対価として猿に3人目の娘を嫁がせる、3月の節句で草餅を父に持って行く際、嫁の提案を聞いた猿が木から落ちて死んでしまう話	口伝-65
口伝 113	飯食わぬがが	大木戸	大木戸		「食わず女房」母親を飯食わずに死なせてしまったため、化物が仇討ちに来る話、化物が来るように5月5日はしょうぶとよもぎを鉢巻きにして飾る	口伝-66
口伝 114	旅人馬	大木戸	大木戸		老婆から馬になる葉汁を出され売られてしまう話、神様に拝むとはな(綱)が切れ人になる草を食って人に戻った、売られた金と馬で働いた金を婆から取り上げて無事家に帰った	口伝-67
口伝 115	びんぼう神のはなし	大木戸	大木戸		貧乏なのでわざわざ夜逃げをしようとした所、貧乏神もわざわざ追いかけてようと思っているというので、一足先に行けば後から追いかけると返して貧乏神を追いやった話	口伝-68
口伝 116	ふるやのひん	大木戸	大木戸		「ふるやのもり(古家の雨漏り) 爺様と婆様が「ふるやのひん」ほど怖いものはないと話していた所、馬を狙っていた狼と泥棒が互いを「ふるやのひん」と勘違いして驚き、尾の長い狼の居る穴へ逃げ込む、泥棒が狼の尾、狼が狼の手を掴んだため、尻尾が切れて短くなり、刀んだため顔が赤くなった	口伝-69
口伝 117	ひとつぶの豆のはなし	大木戸	大木戸		爺様と婆様が豆一粒ひろって、半分タネ、半分キナコにした、ふるいが無いので爺様のふんどしの端にきなこを入れてふるい始めたら、爺様が大きい尻をして、婆様の目に入った	口伝-70
口伝 118	りこうなハトの話	大木戸	大木戸		崖から落ちた子をハトが様々な方法で助ける話	口伝-71
口伝 119	前世のはなし	大木戸	大木戸		お参りに熱心な婆様とお参りしない婆様と一緒に参りに行く話、神様から前世の行いにより、後者には幸運が授けられ、前者にはお参りを続ければ幸せになれると告げられる	口伝-72
口伝 120	猫のしかえし	大木戸	大木戸		伊勢崎橋が舟越した時代、友人が飯と魚を盗んだ猫をはたいた、猫は恨みで喰い殺そうと、帰りの舟を追いかけたが流されて死んでしまう、以来、猫が飯に化けたたので供養した	口伝-73
口伝 121	俵の藤太のはなし	大木戸	大木戸		藤原の藤太という弓の名人の話、大きな沼の主に頼まれ、娘を毎晩さらいに来る大木かたでを退治した、お礼に減らない米俵をもらい、俵の藤太と言われるようになった	口伝-74
口伝 122	忠義なタカのはなし	大木戸	大木戸		鷹狩の際に家来とはぐれた殿様が、木の根っこからしたたる水を飲もうとするが、鷹が何回も邪魔をするので切り殺してしまう、水上では毒蛇が死んでいた、鷹は大切に葬られた	口伝-75
口伝 123	かっこ鳥のはなし	大木戸	大木戸		買ってもらった赤いかっこ(下駄)を外でなくしてしまった女の子が羽根があったらと思うのを見て、神様が女の子を鳥にする、今も「かっこうかっこう」と赤い下駄を探している	口伝-76
口伝 124	年とりの火だね占い	大木戸	大木戸		年取りの番の火は消さない、たくさんあぐ(灰)をかけずに翌朝掘ってみて、残っている火だねで金運などを占った	口伝-77

整理番号	名称	伝承地		時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字			
口伝 125	あつかし山に鉄道をひいた時のはなし	大木戸	大木戸	明治	鉄道を敷く時、あつかし山のどこに線路を敷くかで議論になった、低い所では貝田の峠が急になので、できるだけ山の上の方に敷いた方が良く、上の方は急で大きい石がある、そこで、鉄道会社で集落の人たちに酒を買ってあげて出してもらい、大きい石を転がしてもらって、どこまで石が転がるか調べ、石が止まる場所からずっと先に鉄道を敷いたという	口伝-78
口伝 126	ひこのはなし(ばかむこ)	大木戸	大木戸		駄賃を買ったら巾着に入れると言われると、買った馬を巾着に入れようとし、馬を買ったら縄を付けると言われると、鉄瓶に縄を付けて引っ張って持ち帰る馬鹿な婿の話	口伝-80
口伝 127	夜なべのはなし	大木戸	大木戸		縫物をする嫁が眠りかけると、糸紡ぎをする母は綿を取って投げた、わら細工をする息子は嫁を気にする母を見てわらじの「ち」(真ん中を小さくねじる)を付け忘れた、翌朝、嫁だけが縫物を仕上げている、他人のことは考えずに自分のことを考えて仕事をしなければならぬという教訓	口伝-81
口伝 128	法印様と狐	大木戸	大木戸	明治以前	ひなたぼっこをする狐の耳元でほら貝を大きく吹いて脅かした法印様に対して、狐が法印様に化ける所を村人に見せて、法印様が狐の化け物だと勘違いをさせてやり返す話	口伝-83
口伝 129	荷渡神社、おに渡し様	大木戸	大木戸		白髪頭のお爺さんの姿をした神様が夢枕に立って、居場所に迷っていきところがないので、置いて欲しいと願う話	口伝-448
口伝 130	阿部家の熊野様の話	大木戸	大木戸		巫女を通して先祖から熊野の信仰を祖末にしていると言われたことをきっかけに、親類がお祭りに集まるようになった	口伝-449
口伝 131	時鳥と兄弟	大木戸	大木戸		鳥の前生が人間であったことを主題にする鳥の由来譚の一つ、兄はホトトギスになり鳴き続け、弟はモズになり、兄のために蛙の子を木の枝に挿しておく	口伝-450
口伝 132	大蔵の客	大木戸	大木戸		嫁さんが火を切らしてしまい、門口に立ち提灯を持った人から火を頂く代わりに荷物を置く場所を負した、荷物を取りに来ないので、開けてみると金が一杯詰まっていた	口伝-454
口伝 133	鬼つ子小僧	大木戸	大木戸		粟の草むしりの対価として3人目の娘を鬼に嫁がせてしまい、半分鬼のような子どもが生まれる話	口伝-456
口伝 134	狐にばかされた話	大木戸	大木戸		ご祝儀に行った人が御馳走を狐にすっかり取られて「オー深け、オー深け」と歩いていた	口伝-462
口伝 135	もうれいの話	大木戸	大木戸		嫁に出て実家に帰りたいたいと思いが亡くなった娘が、初盆に実家へ来たのを見た話	口伝-463
口伝 136	開発以前のこと	大木戸	大木戸		昔は追いはぎが沢山いて、捕まえたこともあった、新平民(てんば張り)も多くいて、冬が近くなると作った箕などを売りに来た	口伝-464
口伝 137	朴の木の葉	大木戸	大木戸		朴の木の葉に豆腐を入れて、薬で十字に縛って下げて歩いた	口伝-465
口伝 138	だるま火	大木戸	大木戸	江戸～明治	明治維新の頃、賊軍が敗れて来た、銭を貯めていた婆様の家に入ってきて、婆様を殺して沼に投げた、以来、毎晩だるま火(火の玉)が見えたという	口伝-466
口伝 139	迷いごとの話	大木戸	大木戸		道や目的地等がいくら探してもみつからなくなる経験談	口伝-467
口伝 140	タンガラ山のヘソ松物語	大木戸	大木戸		阿津賀志山中腹にあったこじれた古い松の木があり「ヘソ松」と呼んだ	口伝-475
口伝 141	大木戸	大木戸	大木戸		藤原泰衡がこの地に関を設けたため、後世「伊達の大木戸」と呼ばれるようになったという言い伝えがある	出-4
口伝 142	わしの宮	大木戸	貝田		四つ穴の中段に巣を作った翼の内側に白く丸い輪印がある大鷲が、相馬の浜辺で遊んでいた子どもを襲ったため撃ち殺された、貝田の人々が籠に祠(わしの宮)を作って霊を弔った	口伝-90
口伝 143	送りおおかみ	大木戸	貝田		おはやしという裏山の麓に宇大和という集落があり、夕方や夜に遅く帰ると狼が家まで付いてくる、家に着くと戸の外で待っていて、駄賃や食いをもらうまで動かないという	口伝-91
口伝 144	四つ穴と地藏山	大木戸	貝田		四つ穴という岩山にウワバミ(大蛇)が住んでいた言い伝えがある、向かいの地藏山の岩の下には大木が埋まっていたので地藏様が鎮座している、上場の方には飛地地藏様が鎮座している	口伝-92
口伝 145	いたちの入道坊主	大木戸	貝田	昭和	終戦後間もない頃、田の草取りに行くとき小堀から赤いいたちが飛び出してきた、草取りを終え田を出ると、梁川・霊山に雲がかかり見えなくなった、いたちが化けたのではないか	口伝-93
口伝 146	ぞろうとと提灯	大木戸	貝田		国見は昔から戦場でお葉山という杉山がある、杉や松を切った後には小さな雑木が生えるが、夜中そこにぞろっと提灯のようなきつね火を見た	口伝-94
口伝 147	火事のしらせ	大木戸	貝田		きつね火を見たと貝田が火事になる、火事の知らせだという、お林の木を切れば火事になる、1m位の火柱も見ることがあり、そのあと火事になった	口伝-95
口伝 148	屋号「山形屋」	大木戸	貝田	江戸～明治	佐藤氏の家「山形屋」のやっていた寺子屋、江戸後期から明治初期まで	口伝-96
口伝 149	貝田	大木戸	貝田		貝は狭いという意味で、昔の狭い地を開墾して田を開いたことがその名の由来という	出-5
口伝 150	湯沢と光明寺	大木戸	光明寺		伊達正依(第4代)により伊達五山の光明寺が整備された際、集落名を湯沢から光明寺に変えられたと伝わる	口伝-100
口伝 151	薬師堂の言い伝え	大木戸	光明寺	江戸	薬師如来の石仏が安置され貝田の人々から寄進されたものと伝わる	口伝-101
口伝 152	忠蔵名主	大木戸	光明寺		光明寺の名主・初代忠蔵は、代官にどぶろくを飲ませ、租税から逃れるトンチを働かせた、明治時代まで粉を厚板で囲って3年間保存し、新米ができ次第、出して食べた(餓死阻い)	口伝-102
口伝 153	高城の大力	大木戸	光明寺		大力は高城の豪傑で馬もかなわなかった、梁川から来る間、にしん一把(100本)食べてしまったという、「やっしょうさま」といったか、稲背負うのにはしごをのせて背負ったらしい	口伝-103
口伝 154	行く来る行く来る火の玉	大木戸	光明寺	昭和	終戦当時、越河の安達屋にさつまいもを運んだ際、夜遅くに山の峰でたばこを飲んでいたら、越河の方を見たら、あかりが2つ3つ行き来していた、赤い松明をつけたような色だった	口伝-104
口伝 155	高寺のこと	大木戸	光明寺		家の裏を通る旧道の橋は、馬に乗って通ると人が振り落とされた、高寺が焼けた時におへいそくがとんで来た場所で、三条院へ阿弥陀様を納めて祀ったらしいことがなくなった	口伝-106
口伝 156	光明寺のとら石	大木戸	光明寺		福聚寺の坂を降りた所に岩石がある、伊達朝宗が「とら石」と名付けたもので、譲ってくれという人がいるが歴史のある石なので譲れない	口伝-107
口伝 157	お滝様	大木戸	光明寺		光明寺に智覚大師が杖で突いたら湧き出たといわれる泉がある、三条院阿弥陀如来堂の裏にある「すず」(清水)は吹出物につけると治るといわれている、茶を煎じて飲むと美人になる	口伝-108
口伝 158	お滝神社の絵馬	大木戸	光明寺		養蚕が盛んで市が開かれた頃、蚕が繭になると、鼠除けの蛇を守り神として借り、お札に絵馬を奉納した、「おさかぶ」と言って人が両手を広げた以上の広さがある、尾の方が短い蛇	口伝-109,110
口伝 159	光明寺	大木戸	光明寺		後深草天皇康元元年の頃に光明寺という寺があったのでその名を村名にとったという	出-11
口伝 160	やけど	大木戸	高城		やけどにつけるとよいもの(石油、じゃが芋をすったもの、米をかんだもの、卵のあぶら)	口伝-112
口伝 161	伊勢まいり	大木戸	高城		徳江の父は馬、高城の爺は徒歩70日で伊勢参りに行った、昔の人はコンニャク1丁で伊勢参りできると言った、帰宅時の着物はシラミだらけで、迎えの際に代わり持って取り替えた	口伝-113
口伝 162	「守り神」蛇のミイラ	大木戸	高城	昭和	57年4月、安養寺薬師様のお堂の屋根をほどいたら、大蛇がミイラになっていた、蛇は間にたけ込んで、後ろに戻れないので、コケラがつつかえて、頭が大きくなってミイラになった	口伝-114
口伝 163	ねこ明神様	大木戸	高城		沼田神社はねこ明神様といわれる、ねこが病気になるを持って行って納める、蚕の神様でもあり、オヘインクを借りて蚕が上がるのとたまご7個、10個くらい持ってお参りにきた	口伝-115

整理 番号	名称	伝承地		時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字			
口伝 164	デデポッポ	大木戸	高城		山鳩の鳴き声、テで止まったりボで止まったりする、ボで止まると雨になり、テで止まると天気になると聞いた	口伝-116
口伝 165	安養寺薬師堂の由来	大木戸	高城		目が宝石のお薬師様、悪い人が宝石を抜き取ると、風が吹き、稲が凶作、蚕が不作となり、子どもの風邪の治りが遅くなったので、宝石を買ってきて入れた所、ご利益が戻った	口伝-117
口伝 166	雷さまのはなし	大木戸	高城		徳江村の明神様（沼田神社）で休んでいた正左衛門という百姓が、雷様の弟子として雲の上につきずり上げられ信達・伊達などに水まきをやらされる話、雲の上から落ちて夢とわかる	口伝-118
口伝 167	つつこをとられた花嫁	大木戸	高城		大木戸と高城の間の牛沢を花嫁が通りかかった際、「狐に化かされたのではないか」と言われ、つつこ（俵）や魚を包んで通った所、つつこは空っぽになってみな喰われてしまった	口伝-121
口伝 168	軍服姿で門口に立った夫	大木戸	高城		朝起きて川で顔洗っていたら、硫黄島で玉砕した夫が軍服を着て立っていた、帰ってきたかと思ったが道路に出たら消えてしまった、戦死した当日だった	口伝-122
口伝 169	馬の魂が墓参りした話	大木戸	高城		馬が好きな婆ちゃんが亡くなり、葬式の翌日に皆で墓参りに行くと、墓のまわりに馬のひづめの跡がついていた、馬は馬屋に入っているの、魂が抜けて墓参りに来たと考えた	口伝-123
口伝 170	上古の湖水	大木戸	高城		昔、猿飛山が崩壊して阿武隈川を塞ぎ辺り一帯が大きな湖水となったという、そこには妖怪が棲んでいたが、日本武尊が東征の折に掘割を切り開いて水を減じ妖怪を退治してくれた、その後この地は肥沃な大地となったという	口伝-124,432
口伝 171	天狗松（天狗の御林）	大木戸	大木戸 貝田		石母田の若者（元次）が大きな松の木まで白い鳥を追いかけると、鳥が逃げて天狗がやって来た、人の嫌がることをしないこと、正月に松の木にぼんでんを立てて祝うことを約束する話（焼き殺される話もある）、おはやし山の松を天狗松といい、切ると貝田に火事が起きるといわれる、山形か米沢の人が持主になり切ってしまった	口伝-82,439-441
口伝 172	八百地（はつびやくち）	西大枝	川内	中世	地名、ほかに三百地、七百地（石母田）などがある、「伊達文書」によると中世の耕地の地頭がとる年貢は金納で、その八百文が徴収された一圃の地を指している	口伝-1
口伝 173	八龍神社	西大枝	川内		8つの頭と8つの尻尾があるオロチを祀る、お参りの土産にタマゴを持って行く、次の日に行くとなくなっていくという	口伝-2
口伝 174	おしぎり	西大枝	川内		中世における、川によって分断された飛地の呼び方	口伝-471
口伝 175	原鍛冶	西大枝	西大枝 室町		鍛冶屋がいた地名、かつて鍛冶職人が住み生産していたことをうかがわせる	口伝-3
口伝 176	上金谷	西大枝	西大枝 室町		鍛冶屋が住んでいた地名、「金神」がまつられている	口伝-4
口伝 177	伝説の松	西大枝	西大枝		西大枝道上の田の中にあった樹齢100年以上のアカマツ、王壇古墳のお姫様の墓じるといふ伝説がある、昭和46年桑折町福祉センター建設の際に移植した	口伝-8
口伝 178	雲南神社	西大枝	西大枝		お産の神様、枕を借りて寝間に飾っておき、安産の時は枕を2つにして返す、安産でなかった人はいなかったという。大正5（1916）年に深山神社に合併、深山神社遷宮のため、おへいそくを背中に背負って一丁ほど歩いたら急に大雨が降った、「神様が行きたくなくて雨を降らせたと語り継がれる	口伝-9
口伝 179	豊治のはなし	西大枝	西大枝		豊治が二十歳の頃、生梅を1升食べて腹痛で死にそうになった、好きだった砂糖を口に押し込んで、皆で名前を呼んだ所、目を開けて「南部の恐山まで行って来た。来るのまだ早いと言われ帰ってきた」と言った、豊治は80近くまで生きた	口伝-10
口伝 180	いりむこのはなし	西大枝	西大枝		東大枝（山金谷）から森山（堀切）へ婿入りした人の話、あまりにおとなしく家に戻されそうになったが、馬屋の飼料を欠かさぬよう頼んで出て行こうとした所、婿入りを認められた	口伝-11
口伝 181	御祝儀帰り	西大枝	西大枝		御祝儀を娘に化けた狐にとられた話	口伝-12
口伝 182	こぶがはらさま	西大枝	西大枝		長い物が大好きな「こぶがはら様」にお参りに行った際、宮司に荷作りした土産（長い物）を物置に忘れたと嘘をついた、村に帰ると男の家は焼けてなくなっていた	口伝-13
口伝 183	運のはなし	西大枝	西大枝		白石（宮城県）の人が運で儲けた話、掬った運は2代目まで、孫の代までは続くものではない	口伝-14
口伝 184	あかぼぎつね	西大枝	西大枝		寝ているあかぼぎつね（年とった狐）にいたずらをしたら、逆に狐に化かされたはなし	口伝-15
口伝 185	たんげえの橋	西大枝	西大枝		上金谷と根岸の間にあった橋、戦の際に系図が絶えてしまわないよう、侍大将とその子どもがこの橋でお互いに分かれたことから「たがいの橋」「たんげえの橋」というようになった	口伝-16
口伝 186	河童堀	西大枝	西大枝		北山に行く所にある堀、河童を助けたお礼に河童の宝物（キバ、龍の爪、巻物など口伝により様々）をもらう話	口伝-17,44
口伝 187	昔のよめさま	西大枝	西大枝		昔は食べるのに精一杯で、死に譲りも呆けても財布を渡さず小遣いもない生活だった、家ではお爺さんが財布を持っていて、自分の子どもの結婚式も自由にならなかった	口伝-19
口伝 188	蛇に入られたはなし	西大枝	西大枝		昔は様々な場面で蛇に入られた、川で鍋や釜を洗う時は鍋蓋をあてがって防いだ、子どもの口の中に蛇が入ったという話もある、鱗が逆立ちして引っ張っても取れない	口伝-20
口伝 189	たから船	西大枝	西大枝		正月二日の夜、紙で宝船を折って、そこに上の句から読んで、下の句から読んで同じ歌を書く	口伝-21
口伝 190	山へ行くとき麦粒もってく	西大枝	西大枝		山に行く時に麦粒を持って行った、山芋の莖があった所に麦粒を植えて目印とする、その麦が芽を出した時、そこを掘るとトロロ芋が育っている	口伝-22
口伝 191	蛇に会ったときの呪い	西大枝	西大枝		山の上に居る法印様の所に行く時、息をつかずに心の中で「この山には蛇や百足が居たらば、山鳥がわにとつてかせるぞ（食わせるぞ）」と3回言うと、山で蛇に咬まれないという	口伝-23
口伝 192	十二支のはなし	西大枝	西大枝		十二支の順番の話	口伝-27
口伝 193	蛇の食いもの	西大枝	西大枝		動物たちが神様に食物を決めてもらう話、遅れた蛇は蛙を見つけると呑んでしまうようになった話	口伝-28
口伝 194	つばめの食いもの	西大枝	西大枝		動物たちがお釈迦様が食物を決めてもらう話、遅れたツバメは、良いものが食えず虫などを食べたという話	口伝-29
口伝 195	蛙の餅つき	西大枝	西大枝		兎と蛙が餅をつく話、「白を転がして早く届いた方が勝ち」と競争して、兎は木の根に尻尾を引っ掛け、蛙は木の根にかかった餅をはがして食べた、兎の尾が短く、蛙の腹が大きい理由	口伝-30
口伝 196	雷神様のはなし	西大枝	西大枝		田の中の雷神を自分の背中から天に上げた、背中が真っ黒に焦って稲も焦ってしまったが、その後、米がいっぱい獲れるようになった	口伝-31
口伝 197	天の羽衣	西大枝	西大枝		羽衣伝説	口伝-32
口伝 198	鬼子とくるみのはなし	西大枝	西大枝		旅人が鬼子の住み家に泊まる話、老婆に渡されたくるみで鬼子を驚かす	口伝-33
口伝 199	カチカチ山	西大枝	西大枝		狸に殺された老婆の仇として、兎が狸に対して背負った芝に火を付けたり、火傷の薬の代りに唐辛子を渡したり、釣りに誘って泥舟で池に沈める話	口伝-34
口伝 200	うばすて	西大枝	西大枝		殿様からの難題を年寄りの知恵で解決し、褒美として年寄りを山に納める慣習を止めさせる話	口伝-35,455

整理 番号	名称	伝承地		時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字			
口伝 201	ざと(座頭)の坊	西大枝	西大枝		目の見えない座頭の坊がムズナ(むじな)に化かされそうになる話、目の見えない人は悟りが良いという教え	口伝-36
口伝 202	へつたれ嫁	西大枝	西大枝		尻ばかりする嫁を里に返す道中、梨の実を取った者に馬と米をくれるというので、嫁が尻で梨を落とした所、爺様は嫁を惜しくなって連れて帰る話	口伝-37,458
口伝 203	焼地藏	西大枝	西大枝		わらで編んで、真ん中に穴をあけて目玉の格好にしたものをお地藏様にあげて、目が治るようにお祈りする、お堂を何回建てても焼けてしまうので焼地藏という	口伝-38
口伝 204	ばかむこのお招ぱれ	西大枝	西大枝		馬鹿婿が姑の家普請に招かれ愚行により娘を取り返される話、父親に柱の傷には「掛物を掛ければ差し支えない」と誉めるよう言われたが、馬の尻にも「掛物を掛けると良い」という	口伝-39,459
口伝 205	和尚さまと小僧	西大枝	西大枝		お坊様が引き出しにしまったまんじゅうを、小僧が食べてしまい、唐金の地藏様の口のぐるわ(まわり)にアッコ付けて、地藏様が食べたことにする話、坊様が叩くと「クワンクワン」と音が鳴り、坊様が叩くと「クッタクッタ」といったという	口伝-40
口伝 206	蛸や金兵衛	西大枝	西大枝		相馬郡の蛸や村の蛸や金兵衛の話、金持ちから嫁をもらうと金を呼んで福しくなるという話	口伝-41
口伝 207	長い名前	西大枝	西大枝		長生きするよう長い名前をつけた子が井戸に入ってしまう、親が隣に梯子を借りに行くが、名前が仇となり子どもが死んでしまう話、長い名前はつけるものではない教え	口伝-42
口伝 208	田んぼのうない賃	西大枝	西大枝		田んぼのうない(耕し)を頼む話、頼む方は去年うない残しがあったので今年は金を払わないつもりだが、頼まれた方は去年のうない残しも今年やるので2年分貰うと言いつ返す	口伝-43
口伝 209	狐と女郎買	西大枝	西大枝		人間と人間に化けた狐で女郎屋に行く話、人間は良い塩梅で逃げて狐はひどい目にあう、狐を馬鹿にするあとで仇をとられる話	口伝-45
口伝 210	おぶさるきつね火	西大枝	西大枝		川内の勘左衛門様はよく今の堀の所からわにぶちの所まで狐火に送られてきた、途中で消えるが消した時におぶさる	口伝-46
口伝 211	軍靴の音	西大枝	西大枝		兄が兵隊に行って助賑になって久しく休んでいた、祭りの日に兵隊の軍靴で何回も家の前を歩いた音がして、次の日に兄が死んだ知らせが来た	口伝-47
口伝 212	子どもにだけ見え た光	西大枝	西大枝		木を伐っていた親戚(忠兵衛様、信蔵やま)が夜中の2時頃に亡くなった、知らせが来る前、息子が小便に起きた時に泣き始めた、何故泣いたのか聞いた所、小便桶が光ったという	口伝-48
口伝 213	鈴虫が鳴いて	西大枝	西大枝		麦がらで作ったねじりがごに鈴虫を入れて育てていた、さっぱり鳴かなかったが、初めて鳴いた時、鳴き声が身にしみて、実家の子どもの死んだ知らせが来た	口伝-49
口伝 214	幽霊の道案内	西大枝	西大枝		半田から川内へ嫁に入った人(おブク)が、難産により実家で亡くなった、川内の家に知らせに来る人に嫁の幽霊が道案内をした話	口伝-50
口伝 215	大蔵の客	西大枝	西大枝		爺様婆様が夜遅くの来客を質素ながらももてなしたところ、客が銭、小判を置いていった、隣の爺様婆様が真似をしたところ、石ころ等を置いて行かれた	口伝-452
口伝 216	疫病神に助けられ た話	西大枝	西大枝		辻に置かれた疫病おくり(幣束と供え物の小豆飯と銭)を家に持ち帰り拜んだ所、疫病神に金を授けられる話	口伝-453
口伝 217	石芋の話	西大枝	西大枝		じゃがいも掘をしている所に通った坊さんが2、3つ譲ってくれというので芋じゃなくて石だと嘘をついた、晩に芋に蓋をしようとして行ってみると、芋が全て石になっていたという話	口伝-457
口伝 218	金屋	森江野	塚野目		鍛冶屋がいた地名	口伝-284
口伝 219	化石(バケイシと呼 ばれる石碑)	森江野	塚野目		正法寺境内にある石碑、昔旅人を悩ませた化け物の石の話	口伝-291,444
口伝 220	井戸	森江野	塚野目		「井」は中世(鎌倉・室町時代)においては一般的にかんがい用水を指した、古代の用例では流水から用水をくみ取る所、井戸の意味	口伝-292
口伝 221	井土下	森江野	塚野目		ほ場整備前まで残されていた地名、中江堀(徳江堀)沿いの水懸り地	口伝-293
口伝 222	はげつべと蛇	森江野	塚野目		畑の草退治の合間に、蛇の大敵である煙草のノロ(ヤニ)を篠竹の先に付けて蛇に突き付けたら篠竹と腕の上を渡って抜けていった、ひっくり返って蛇のたたりで三日三晩寝込んだ	口伝-300
口伝 223	ちよっぺ森の蛇	森江野	塚野目		小坂に「ちよっぺ森」という山があった、草刈りに行った男2人が松の根で仮眠を取るが、いびきの主が大蛇とわかりあわてて逃げた、松の根と思っただけは蛇の胴体だった	口伝-301
口伝 224	大蛇をとつたはなし	森江野	塚野目		土用の時期、金有沢に草刈りに出かけた際、蛇(6尺余のナメラ)を直おんつぁまという人が鎌で切った、蛇をさけば祟られるというが、のど管に木を突き刺すと祟られないという	口伝-302
口伝 225	捨て子の風習	森江野	塚野目		こどもが弱いと捨て子し、拾ってもらって育てると丈夫になると言われた、御指南さまがいた、はんぎり(たらい)に入れて川に流し、橋をくぐってすぐ下で捨てる	口伝-303
口伝 226	おしのさん・錦桜・ 半田沼	森江野	塚野目		塚野目城が攻められた時、城主の一人娘「おしの」(桜姫)を米沢へ逃がした、城が燃え上がっているのを見たおしのは半田沼で入水した、以後、半田沼で雨乞いをするところと雨が降ると伝わる	口伝-294,296-299,305,306,447
口伝 227	照内の蛇	森江野	塚野目		梁の上に住む大蛇が「煮立て」をすすり、剣術使いだっただ目那様(佐久間左近助)が一刀のもの斬った、大蛇は「死霊権現」に祀った、大きな杉の木の根元にある小さな御宮を指す	口伝-307
口伝 228	半田沼の赤べこ	森江野	塚野目		金銀財宝をつけた金売吉次の赤べこが半田山の峯を通る際、足を滑らせて沼の主になった、主は塚野目の「おしの」(桜姫)を見染め待りに化けて通った、塚野目の「たんにえ」という沼が半田沼に通じていたという、おしのさんは主にさらわれ半田沼の底で主の嫁になった、「にしき桜」は花が咲かない、塚野目では「おしの」の名前を女の子につけない	口伝-295,303,308
口伝 229	力持ち亀岡長太郎	森江野	塚野目	明治	亀岡長太郎(明治初年生)の力持ちの逸話、鉄橋架橋に関する意見会へ長太郎が親を迎えに行った所、長太郎が4寸角を振り回したら恐ろしいということで、相談が落ち着いたという	口伝-309
口伝 230	無筆の日記	森江野	塚野目		学校のない時代、字を知らなくても絵で日記を書いた、戸も叩かず遊びに来た友達のせいで、牛蒡を芋のような形で描いた、他人の家では戸を叩くなり、声をかけないと間違えがある	口伝-313
口伝 231	火のたき方	森江野	塚野目		囲炉裏や風呂に上手く火をつけるのは、薪の細い所を折って焚きつける細かい仕事で男には難しい、火の焚き付けが上手だと早く婿様になれるという	口伝-314
口伝 232	イカケ屋トギ師	森江野	塚野目		こうぞ作りに使う大きな鍋などを修理するイカケ屋が板橋あたりにあった、農家を廻って主に鍋を直していた、少し穴を大きくして直す、歩いて回る人には砥ぎ師も居た	口伝-315
口伝 233	まんざいと越後獅子	森江野	塚野目	大正	大正初期には漫才・漫談を語る人や舞をやる人が来た、越後から来た三人獅子というものもあり子どもが逆立ちして歩いた、お金や米をあげる人がいた	口伝-316
口伝 234	モーのこと	森江野	塚野目		「モーが出る」という警告の言葉がある、夕方になっても子どもが外に出たがる時などに使った、輪をかけて「赤モー」とも言った	口伝-317
口伝 235	狐のお産に御祝い	森江野	塚野目		館が森というところに狐が居て、狐の子が生まれる頃に鳴きながらたくさん通る、狐はお産が軽いので狐を信心するとお産が軽くなるという話	口伝-318
口伝 236	風呂は肥だめ	森江野	塚野目		縄を売りに行った帰り、どんなに歩いてても塚野目に帰る気がせず、狐に化かされたようで、肥だめが風呂に見えてきて入ってしまった	口伝-319
口伝 237	にわかには暗くなる	森江野	塚野目	大正	大正10(1921)年頃の話、婆さんが山の畑に行くときにわかには暗くなった、狐に化かされたと思ひ桑の木の根っこに捕まった、迎えの提灯も狐の仕業と考えなかなか信じなかった	口伝-320
口伝 238	道まよい	森江野	塚野目		石母田へ年始に行った帰り、堀を飛び越えようとしたら何回もひっくり返り、跳び越えても家ではない方向に行ってしまう、いつまでたっても家に着かず狐に化かされたと思った	口伝-321

整理 番号	名称	伝承地		時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字			
口伝 239	道が川	森江野	塚野目		狸に川のない所に大川を見せられた、小石を投げたら「カァン」と弾む音だったので化かされた気がついた	口伝-322
口伝 240	狸に化かされた話	森江野	塚野目		終戦後の話、結婚式に呼ばれた帰り、祝儀のおつつみを背負って帰路についた、月が前にあるのに自分の影が前になっていたので、狸に化かされたと思い、慎重に家に戻った	口伝-323
口伝 241	きつね火川向こう	森江野	塚野目	大正	子どもの頃（大正末期頃）、阿武隈川の川の向かいにきつね火を見た、阿武隈川の向こうには船場があって、昔から狐やいたちが居て火を見せるといわれていた	口伝-324
口伝 242	錦木塚	森江野	塚野目		字錦塚の古墳（円墳）、古鏡が出土、蝦夷では男が女を呼ぶとき、1尺ばかりの木を斑に彩って女の家の門に立てた、女が会う場合はその錦木を取り入れたという	口伝-436
口伝 243	戦友が夢枕に立った話	森江野	塚野目		うたた寝をしていると、戦友が包帯に巻かれた姿で夢に出てきた、目が覚めると敵襲の伝令が入り難を逃れたという、戦友はその日・時刻に戦死したことがわかった	口伝-325
口伝 244	火の玉	森江野	塚野目	昭和	昭和戦前期、山家という冬間に若者が集まる所からの帰りに火の玉を見た、ちょうど爺様が息を引き取った時間だったという、火の玉は7才までに見ないと一生見ないという	口伝-326
口伝 245	つばめになった地蔵様	森江野	塚野目		戦地で燕が騒ぎ出すときは敵襲があるという、爺ちゃんが地蔵様の神おろし、仏おろしをやっている（地蔵様が燕になって告げている）と家で聞かされたという	口伝-327
口伝 246	徳江の長割地名	森江野	徳江	江戸	徳江村と川内村にあった長割の字名は割替の名残、割替とは村内の土地を一定の面積に分割し、3、5、10年などの一定の年限を決めて順次耕作者を変えていく江戸時代の土地制度	口伝-332
口伝 247	徳江観音寺の由来	森江野	徳江		かつて藤田・貝田が徳江を襲撃したため、徳江と藤田・貝田は縁組しないといわれている、塚野目から観音様へ弓矢を引いたので、塚野目とも縁組しない観音様が焼けた時、金の幣束が飛んできて銀杏の木にとまった場所に観音堂を建てた復旧の際、金一升で復旧を願った、元のように造れないので（仮堂で）小さくした	口伝-333, 334,335, 443,487
口伝 248	二階間々（まま）	森江野	徳江	江戸	徳江の渡船場付近の崖地の地名、江戸時代の阿武隈川舟運を利用した廻米において、荷物の積み下ろしや一時保管のための倉庫が並んでいた	口伝- 336,434
口伝 249	八景（はっけ、ばっけ）下	森江野	徳江		徳江の渡船場付近の崖地の地名	口伝-337
口伝 250	明治田、校正田	森江野	徳江	明治	地租改正時にできた小字名	口伝-338
口伝 251	徳江	森江野	徳江		玉川中流の水口（現：桑折町北半田）から堰上げられた中江堀（徳江堰）によって開発されたことが地名の由来	口伝-339
口伝 252	佐野	森江野	徳江		狭い地を意味する狭（さ）い野を指した地名とされる	口伝-340
口伝 253	ぼんどり	森江野	徳江		だんの腰のあたりに、ぼんどりという大きな鳥がいて、歩いている時は橋から落とされないようにと言われた、ぼんどりはむささびのこと、	口伝-341
口伝 254	きつねもろ	森江野	徳江		佐野川に「きつねもろ」といわれる狐の住処があった、夕方、阿武隈川の魚を捕りに狐がよだれを垂らして行列を作る、よだれが光る様が提灯（きつね火）を下げたように見えたという、演習に来た兵隊が野砲を向け、きつねは次々撃たれて、見る事がなくなった	口伝-342
口伝 255	こえだめ	森江野	徳江		きつねもろの中にあかんぼきつねを小突いてからかい、親ぎつねにはみのをぶつけた、後日、肥桶を担いで畑に来たが、何かのはずみで自分がならした肥だめの中に入ってしまった	口伝-343
口伝 256	おおふかい	森江野	徳江		土産を持って家を変える人が、狐に化かされて肥だめに落とされる話	口伝- 344,353
口伝 257	道まよい	森江野	徳江		西大枝のお寺に嫁に行った父の伯母に鮭を重箱に入れて持って帰らせた、帰り道、きつねに化かされ多くの道に迷わされたが「魚は放さないし、食わせない」と言う1本道になった	口伝-345
口伝 258	むかしの仕事	森江野	徳江	江戸～明治	昔は糞で蚕のかご作りをしていた、その前は明治4（1871）年まで殿様に使われる人足をやっていた、若い時は糞仕事、山仕事、一冬分の焚物取りがあって忙しかった	口伝-347
口伝 259	荷車の話	森江野	徳江		運搬用の荷車は村の内に5軒くらいしかない、ない人は借り賃（1回2～3銭）を払って借りる、人を運んだあとは米や焚物を運んだ	口伝-348
口伝 260	徳江観音様の刀	森江野	徳江		徳江観音に刀が奉納されていた、和尚様も貸したことはないが戦争が始まるとなくなり、戦争が終わると元に戻って来る、太平洋戦争にも行ったけれど、負けたから帰ってこなかった	口伝-349
口伝 261	十俵橋	森江野	徳江		伊達の殿様が視察に来ることになったが、橋が流出してなくなってしまったので、米十俵で橋を作ったという、十俵橋の土を子どもの枕の下に置くと、夜泣きが止まるという	口伝- 350,351
口伝 262	あかぼう狐	森江野	徳江		いっぱい森のあかぼう狐と福島の狐の化かし合い、本物の大名行列を福島の狐が化けたものと騙され、籠の前に来た時に出ていって「たいしたもんだ」と言い侍に捕まった	口伝-352
口伝 263	九十九橋	森江野	徳江		下谷地田と十俵橋の間にある田圃の中の小さな橋、近くの田の中に藤原泰衡の首を埋めたという首塚がある	口伝-433
口伝 264	ひばりの話	森江野	徳江		ひばりとお天道様の博打をしひばりが買って、てんとう金返せと高く上がっていく	口伝-451
口伝 265	雷様に連れていかれた話	森江野	徳江		雷様に連れていかれ、雨倉を明ける手伝いをさせられる夢を見た爺様の話	口伝-460
口伝 266	久兵衛さんと蛙	森江野	徳江		水番をしていた久兵衛が蛙を捕まえて土にたたきつけた所「キューパー」と言ったという	口伝-461
口伝 267	徳江道路	森江野	徳江		徳江道路で、夕方頃、小雨が降るような時は、よくきつね火が出る	口伝-493
口伝 268	壇ノ越	森江野	森山		一般的にこの地方では河岸段丘の道が切通し状に横断するところを壇ノ越と呼ぶ	口伝-358
口伝 269	熊野	森江野	森山		能楽の一つ熊野は「ゆや」と呼び中世では一般的であった、森山に熊野神社が「ゆや」とよばれたり、その近くの坂が「ゆや坂」という名があるのも能になむ	口伝-359
口伝 270	照内先生	森江野	森山		昔の百姓は休みに力比べや腕自慢をした、照内先生の所に来る人たちは皆上手で強く比べられないので、草履が濡れていた人を負け、濡れてない人を勝ちとした	口伝-361
口伝 271	百姓の剣術	森江野	森山		曾祖父は剣術の照内先生の門弟だった、田の草取りしてた所、通りがかりの侍に道を尋ねられた、一悶着あって斬りかかられそうになったが、曾祖父はくわで避けたという	口伝-362
口伝 272	伊達小僧	森江野	森山		斎藤藤助という剣術の達人、泥棒も達者で全国を荒らした、足も早く一晩で仙台まで行ったという、年をとって婆様と2人で生まれ故郷に帰り、村の人は小学校の小使として雇った	口伝-363
口伝 273	大学ほいど	森江野	森山		神明様の鐘つき堂に寝泊まりしていたほいど（乞食）、秋田の良家の息子だったが、大学に入って勉強のし過ぎでおかしくなったという	口伝-364
口伝 274	大喰いよもぎだ八太郎	森江野	森山		大喰いの八太郎の話、背が5尺2寸くらいで食事に20円かけていた、その頃、男27銭、女20銭が一日の手間だった	口伝-365
口伝 275	きつねたち	森江野	森山		滝川川下の一杯森に長次郎きつねと尾っちょきつねという夫婦きつねがいた、化かされた時はお経を読むと退散した、森山にいたのがたてのおさん、お山のごんぼは名高かった、昔はいたちも化け、一丈もあるような火柱を立てた、学校の辺りやだんの腰の橋のあたりに居た	口伝-366
口伝 276	密造酒のはなし	森江野	森山		昔はいたる所で酒造りをしており、様々な方法で隠した	口伝- 367~369

整理 番号	名称	伝承地		時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字			
口伝 277	くうんくうんと飛ぶ火の玉	森江野	森山		天王様という所で松山を見たらわだ位の光ものが出てきた、二回目は夜祭だから見た、弁天様の上から尾を引くのも見た、昔はよく光もを見たが、今は見たくもない	口伝-370
口伝 278	にぎやかに光る	森江野	森山		きつねのむさかりはにぎやかで、ぴかぴか光ってずっと消える、消えたとするとまたにぎやかに光る、きつねのよだれかもしれない	口伝-371
口伝 279	魚めずみ	森江野	森山		阿武隈川に行くと3尺以上の鯉を見つけて帰る、風呂に入ると取ってきた魚が1匹もいなくなっていた、目が覚めて、きつねに馬鹿にされたとわかり、着物を来て家に帰った	口伝-372
口伝 280	剣道の達人	森江野	森山		剣道・忍術の達人(先生)だった人の様々な逸話	口伝-375
口伝 281	むかしの灯	森江野	森山		夜は松明を焚いた、松のごぶになった所はヤニが多い、燃えてなくなるので、小さい頃は足して焚かせられた、足さないで暗くなるがいつべんに燃やすとなくなってしまう	口伝-376
口伝 282	井戸を掘った話	森江野	森山		たゆ様(神主様)に見てもらい井戸を掘った、10尺位で松ぼっくりが出て、15尺位で水が出てた、かなげ(水の上的赤い浮きもの)もない綺麗な水で、昔こは湖だつたという話	口伝-377
口伝 283	仁王様の力比べ	森江野	森山		仁王様が支那の「ガ」という力持ちに力比べに出かけた、力の差は歴然で観音様の助言で逃げ切った、このため、仁王様は今も観音様の門番をしている、「我が強い」とはこのことか	口伝-380
口伝 284	まんじゅうは毒	森江野	森山		和尚様のまんじゅうを食うと死ぬと言われたが、知恵のある小僧が金の茶釜を投げて壊し「大事にして茶釜を壊してしまったので死ぬのうと思つてまんじゅう皆で食べた」という話	口伝-381
口伝 285	めしたきおつね	森江野	森山		めしたきを頼んだが、朝げになっても起きてこない、部屋には針糸を通してポロにそれを通してそれを障子にさして置いてあった、家の旦那は頓智でこれを出掛けていると読んだ	口伝-382
口伝 286	いっぺえ森の長次郎狐と御山のごんぼ	森江野	森山		いっぺえ森の長次郎狐と福島の御山のごんぼが協力してばくろを化かして騙し、大小の塩引きを交換する話、交換したばくろの塩引きは翌日墓の塔婆になっていた	口伝-383
口伝 287	イタチが化けた話	森江野	森山		コンニャクばっぱが、赤坂あたりで月を拝んでいた兄弟3人の坊様に会う、坊様はイタチで驚かれて消えてしまった、ばっぱは怖くなりコンニャクの箱を叩いて行った	口伝-384
口伝 288	戦場に迎えに行く霊	森江野	森山	昭和	ガダルカナルに行って生き残った人から聞いた話、死ぬ時は、親類等が迎えに来たことを告げて倒れる、そういう時は亡くなった霊が迎えに来たといわれる	口伝-385
口伝 289	お骨	森江野	森山		戦争に行って、家に帰ってきたお骨はカタカタ動くと聞いた、頭のお骨は逆さになっていても、家に帰ると順序良くなっている	口伝-386
口伝 290	なさないはなし	森江野	森山		お爺さんは酒を、お婆さんは菜を買いに行つたがどちらもなかった、「なさない(菜酒)ない」はなし	口伝-483
口伝 291	番匠田(ばんしょうでん)	藤田森江野	石母田徳江		番匠は朝廷の木匠寮に勤め社寺や官人の家の建設修理にあたる大工のこと、徳江廃寺の匠の給田に由来すると考えられる地名だが、近年のは場整備で石母田の小学名は消滅した	口伝-282
口伝 292	ゆうれい話	藤田森江野	石母田森山		従妹の葬式の段取りの帰りに従妹のゆうれいを見た話	口伝-469
口伝 293	西宮(さいきゅう)和尚・死霊権現	藤田森江野	石母田森山		西宮和尚が墓が何かで名人を負かした帰りに聞かされて亡くなった、「せめて木の太刀1本でもあれば負けはしなかった」と言ったことから、死霊権現として祀り木の太刀を上げた	口伝-212,374,387,442
口伝 294	半田山の金のはなし	小坂桑折町	小坂半田		信達平野が湖の頃、半田山に熊坂長範という山賊がいた、ある豪商が金の延べ棒を馬に積み江戸へ行く時、山賊の話聞き金を下ろし「二本ブナ」に埋めたが、発掘されないまま	口伝-174,390,400
口伝 295	鳥取越	小坂大木戸	鳥取大木戸	平安	阿津賀志山の戦いで、頼朝の家臣が鳥取越えて山の背後から急襲した、これにより勝敗の行方が決定されたという	口伝-125,196,197
口伝 296	弘法の水	西大枝森江野	西大枝塚野目徳江		弘法様が杖をつく(杖をふった所を掘ると)水が湧く話	口伝-328,445,446
口伝 297	伊達騒動	西大枝森江野	西大枝塚野目徳江	江戸	慶応2(1866)年の伊達騒動に関する様々な逸話	口伝-18,310,346
口伝 298	初めて電気がついた時	大木戸西大枝森江野	大木戸西大枝森山	大正	半田沼の水力発電から給電、住民で出し合って電柱を立てた、どうやって消すのかわからず年寄りは一生涯命かけた	口伝-24,25,79,378
口伝 299	初めて飛行機を見た時	西大枝森江野	西大枝森山	大正	貝田と光明寺の間あたりを飛んだ、鉄道沿いに飛ぶという話で、年寄りは鉄道沿いに飛ぶなら鉄道行って待てというが、家に居ても見えるものだった	口伝-26,379
口伝 300	茂庭の大蛇伝説	飯坂町	茂庭		摺上川流域の住民を苦しめた大蛇を下野の斎藤実良が退治した、以来、茂庭公としてこの地を治めた、殺した大蛇を3つに分けて埋めた所に御嶽神社を建てた	口伝-388
口伝 301	即身仏のミイラの話と万蔵稲荷	白石市			小坂峠には、この地域の惨状を救おうとした即身仏のミイラの話が伝わっている、小坂峠の戸沢側(白石)には万蔵稲荷があり、以前はお参りする人が多かったという	口伝-389
口伝 302	五月五日			明治~昭和	5月5日は田に入ることを禁じているところが多い	口伝-403
口伝 303	蚕に関する俗信			明治~昭和	蚕室での尻の禁止、蚕が上手な人の特徴、養蚕に関する火の取扱い、養蚕における禁忌など	口伝-404
口伝 304	口笛			明治~昭和	夜に口笛を吹くと悪いことが起きる(内容は地域によって異なる)	口伝-405
口伝 305	風負い			明治~昭和	風が激しい時は鎌を竿の先に付けて立てる、大声で風を追うと静まる	口伝-406
口伝 306	火伏せ			明治~昭和	いろりの火を一か所に集めて火箸をX形に立てて火伏せとする、毎年正月に法印様が火伏せの祈禱にまわる、正月14日に団子を練った水を家のまわりに撒くなど	口伝-407
口伝 307	耳ふたぎ			明治~昭和	同じ年齢の者が死んだ時に耳をふさぐ風習、耳をふさぐ物は地域によって異なり、川に流す地域もある	口伝-408
口伝 308	さなぶりの笛			明治~昭和	さなぶりで供えた笛は、正月の餅をふかす際に火にくべる	口伝-409
口伝 309	雷様除け			明治~昭和	雷の鳴る時は正月の団子木を焚くと落ちない	口伝-410
口伝 310	火除けのまじない			明治~昭和	お札は千枚またるまでとっておく、俵に入れて天井に吊るすなどして、火事の際は風上に並べると火の粉をよけることができる、また、火事の時に女の腰巻を棟などに立てるとよい	口伝-411
口伝 311	虫歯			明治~昭和	虫歯に関する民間療法(新聞紙をあぶった油、赤芋をすったものを付ける)や様々な俗信(豆をいって針で刺し通し土に埋める、神棚にあける、観音様をつつき自分の歯を三回つつく等)	口伝-412
口伝 312	血止め			明治~昭和	血止めには三種の草の葉・汁をつける	口伝-413
口伝 313	疱瘡除け			明治~昭和	疱瘡除けには俵(棧俵ばち)に供え物(むすび、馬鈴薯、女のかもじ)をする	口伝-414

整理 番号	名称	伝承地		時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字			
口伝 314	田虫			明治～昭和	田虫が首を巻くと命を取られると恐れた、田虫に関する民間療法（上にどじょうを転ばせる、糠の油を塗る、那須の味噌漬を黒焼きにしてつける）、俗信（「鳴」と三回田虫の上に書くこと治る）	口伝-415
口伝 315	イボ（疣）			明治～昭和	疣に関する民間療法（茄子のへたでこする）、俗信（茄子を半分切ってこすり縁の下に埋め一週間過ぎて腐っていれば治る、疣取地藏の石を借りてこする、黒芋の葉の朝露をつける）	口伝-416
口伝 316	疫神おくり			明治～昭和	棧俵ぼちちに供え物（赤飯と銭、小豆飯と幣束）をして辻に置いてくる、家の門口にんにくを下げる、お守り袋の中にんにくを入れる	口伝-417
口伝 317	あせも、なまず、いしも			明治～昭和	あせもには桃の葉の湯に入れる、桃の葉の汁を入れて行水する、なまずにはそこにどじょうを転ばす、いしもができた時は小豆を食べてはいけない	口伝-418
口伝 318	のめ			明治～昭和	わらみこで1本ずつ3回3本を結び火にくべる、小豆でなで井戸で3粒落とす、小豆粒を落としながら「小豆落すとてのめ落した」と称える等	口伝-419
口伝 319	はやり目			明治～昭和	銭や手拭い等にめやにを付けて人の門口や道端に置いてくる、焼地藏様のおみたらしをつける、棧俵ぼちちに幣束を付けて辻に置いてくる、薦のわらで目を3度つつく等	口伝-420
口伝 320	蜂にさされたとき			明治～昭和	蜂にさされたときの民間療法（歯くそ、柿渋、黒芋の茎の汁、にらをもんだ汁を付ける）や俗信（目の前にあるものを裏返しにする）	口伝-421
口伝 321	うるしかぶれ			明治～昭和	うるしかぶれに対する民間療法（お盆のはしの葉を茹でてふかす）、俗信（うるしの木に酒をかけ、そこで酒を飲んで兄弟分の盃ごとを行う）	口伝-422
口伝 322	ちぼろし			明治～昭和	異性の末子に左縄をなつてもらい、つりを越えて投げてもらい、それで幹部をこすり、縄を火で焼く	口伝-423
口伝 323	さえで（そらで）			明治～昭和	（緑の綱、拝ん松の水引、かな系、さなぶりの苗を縄にして、麻ひも等で）手首をしぼる、異性（の末子）に鉤か鍋のつるを通して縛ると良い	口伝-424
口伝 324	歯が抜けたとき			明治～昭和	上の歯は緑の下、下の歯は屋根の上にあげる	口伝-425
口伝 325	犬にほえられた時			明治～昭和	「あぶらんけんそうらんけんそわか」と唱える	口伝-426
口伝 326	蛇と菖蒲湯			明治～昭和	蛇に腹に入られたら酒をうんと飲ませる、菖蒲湯に入ると蛇の子を孕んでも流れる、	口伝-427
口伝 327	百日咳			明治～昭和	金蔵院のおみたらしを飲ませると治るといって、見つからなかった	口伝-428
口伝 328	着物、履物の俗信			明治～昭和	午前中におろす、午後におろす時は鍋墨を付ける、2人で1枚の着物を裁たない、着物の背中を縫う時や襟付けは途中で立たない、袖も片袖でやめず待針でも良いのでつける等	口伝-429
口伝 329	櫛に関する俗信			明治～昭和	櫛は拾わない、拾うなら足で踏んでから拾う	口伝-430
口伝 330	箸に関する俗信			明治～昭和	山で飯を食った時の箸は折って捨てるか持って帰る（山男に小さく見られるため、山の神に拾って食われないよう）	口伝-431
口伝 331	バラゴエ				悪事を働いて捕われ、打首獄門となった者を、城外で曝した場所、昔は三叉路になっていた	口伝-437
口伝 332	国見という地名				国見という地名は、国見山、国見峠など現在の阿津賀志山周辺を指していた	口伝-472,479
口伝 333	信夫山の由来				伊達・信夫は昔は海で、鬼がここを埋めるため、吾妻山からタンガラで泥土を運んだ、その泥土が信夫山、途中タンガラから漏れた泥がいっぱい森という	口伝-480
口伝 334	蒔				伊達家文書などにある水田の丈量を示す単位、種もみの量によって「三斗蒔」「五斗蒔」など地名として今も残されている、その後は段（反）に代わっていく	口伝-482
口伝 335	レイセン寺のざる狐				狐が化けた美しい「ざる」を追いかけて行って、元に残したものを奪われた話	口伝-484
口伝 336	座頭の木				渡し守が大雷雨の後、流木を拾おうと舟を出すと、死んだ座頭坊が流れてきた、葬った場所から芽が生えて第僕となり、「座頭の木」と名付けた	口伝-488
口伝 337	嫁と姑の話				嫁が憎くて姑を殺すのに医者に相談した、医者か死ぬ薬を嫁にやって、誰かに気づかれたら大変なので姑に優しくするように諭した、死ぬ薬は実は栄養剤で心がけ一つで仲良くなった話	口伝-489
口伝 338	針をなくした時				針をなくした時は「清水の音羽の瀧のつるきとも失せやる針のいでんことなし」と三回心の中で唱える	口伝-490
口伝 339	お産のときの呪い				「かいこく にじゅうさんばの あなうでらか かる世に 生まれあう身の あなうかこおもわずたのめ ひことえ ひことえ」と紙に書いて枕の下に入れておく	口伝-491
口伝 340	大蛇の味噌漬け				大蛇を味噌漬けにして食べたら3代たたられたという話	口伝-492
口伝 341	車に乗ったゆうれい				阿武隈川にかかると橋（梁川橋）を運転すると、乗せて欲しいという女の人居たので、橋も暗いので、乗せてあげると、いつの間にかいなくなり、椅子が濡れていた	口伝-494

※集落・古墳の性格を持つ遺跡を対象として掲載。地中に埋蔵された埋蔵文化財包蔵地だけでなく、かつて使用されていた痕跡を残す遺構としての構造物（建造物・碑・塚など）も対象。
※性格の判明していない埋蔵文化財包蔵地は除外。

【記念物／遺跡／集落・古墳】

整理 番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字			
遺① 1	石母田条里遺構	藤田	石母田		奈良	奈良時代・8世紀につくられたもの、消滅遺構	史①-38
遺① 2	石母田古墳群	藤田	石母田		古墳か	詳細不明	史①-39
遺① 3	(伝) 蝦夷穴古墳群	藤田	石母田		古墳	硯石山山頂から南麓部にかけての横穴墓群と目されるものがあつたと伝えられている	史①-40
遺① 4	上野原横穴古墳群跡	藤田	石母田		古墳	消滅遺構	史①-42
遺① 5	割田遺跡	藤田	石母田	割田	弥生・奈良・平安	弥生時代から奈良・平安にかけての複合遺跡 蛤刃磨製石斧、土師器片、須恵器片が出土	史①-43
遺① 6	大清水遺跡	藤田	石母田	大清水	弥生	弥生土器片、石包丁、太形蛤刃石斧、扁平片刃石斧が出土	史③-32
遺① 7	藤田条里遺構	藤田	藤田		奈良・平安	消滅遺構	史①-44
遺① 8	山崎条里遺構	藤田	山崎		奈良・平安	国見においては条里制の遺構が存在していたが昭和50年代のほ場整備でほとんどが姿を消した	史①-45
遺① 9	山崎小館古墳	藤田	山崎	小館	古墳か	15×15mの方形マウンド	史①-46,64
遺① 10	源宗山古墳群跡	藤田	山崎		古墳か	消滅遺構	史①-47

整理 番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字			
遺① 11	神明沢古墳	小坂	泉田	神明沢	古墳か	古墳	史①-28
遺① 12	堰下古墳	小坂	泉田	堰下	古墳・弥生	町指定史跡「堰下古墳」、昭和46年発掘調査、東北最古の古墳とされる、標高90mほどの独立丘陵の頂上部にある直径約22m、高さ3mの墓石で葺かれた円墳、一部町営団地の道路建設で削平された、出土土器片から墳頂部には円筒埴輪の配列があったと推定、埴輪、弥生土器片、打製石鏃、土製紡錘車が出土	史①-29
遺① 13	堰下古墳経塚(和鏡の出土地)	小坂	泉田	堰下	平安末	洲浜双鳥鏡が出土した経塚、和鏡は経筒とともに埋蔵されることが多く、古墳の上に平安末期ごろから経塚が営まれたと推定できる	史①-30
遺① 14	神武山遺跡	小坂	泉田	泉田	奈良	高所に築かれた住居址、8世紀ころか須恵器出土	史①-31
遺① 15	桐目木遺跡	小坂	内谷	内谷	縄文	山間高所の遺跡	史①-34
遺① 16	小屋館遺跡	小坂	小坂	小坂	奈良	高所に築かれた住居址、8世紀ころか	史①-35
遺① 17	川原遺跡	小坂	小坂	小坂	縄文後期	昭和48(1973)年発掘調査 加曾利BⅡ式土器の大量出土、東北地方南部の標識土器とされる 朱漆塗土器片、注口土器のアスファルト状の補修のものがあり秋田県方面との交易を示す資料が出土	史①-36
遺① 18	善四郎森遺跡	小坂	小坂	善四郎森	縄文	山間高所の遺跡、標高730m、石斧などが出土	史①-37
遺① 19	大木戸古墳群	大木戸	大木戸	馬捨 遠光 原山	古墳	昭和47(1972)年発掘調査、かつては6基あったが今は1号墳のみ 円墳古墳群からは鉄手刀、長頸壺辺、勾玉とメノウ製小玉が表面採集され、横穴式石室から金環、銀環、直刀片などが発掘された	史①-12
遺① 20	涌水横穴墓群	大木戸	大木戸	涌水	古墳	丘陵、凝灰岩の崖に2基の横穴を確認	史①-14
遺① 21	長障子遺跡	大木戸	貝田	長障子	縄文	集落跡、縄文土器、石器、土杭、柱穴を確認	史①-16
遺① 22	山田遺跡	大木戸	光明寺	山田	縄文中期 弥生	昭和46年発掘調査 複式炉、縄文土器、土偶、石鏃、石匙、石斧、石棒、石包丁を発掘	史①-17
遺① 23	根岸遺跡	大木戸	光明寺	根岸	縄文後期		史①-18
遺① 24	車遺跡	大木戸	光明寺	車	縄文後期		史①-19
遺① 25	西遺跡	大木戸	光明寺	西	縄文後期		史①-20
遺① 26	志久遺跡	大木戸	光明寺	志久	弥生	柏山Ⅱ式か下高野式	史①-21
遺① 27	滝沢遺跡	大木戸	光明寺	滝沢	縄文	道路工事中のローム層から東山型ナイフが出土	史①-22
遺① 28	取場遺跡	大木戸	光明寺	取場	縄文	消滅遺構	史①-23
遺① 29	中山遺跡	大木戸	高城	中山	後期旧石器 縄文早期前期 弥生	後期旧石器の生活の痕跡、縄文早期・前期、弥生の遺跡 真岩製の刃器・削器などが発見、丸ノミ形に近い局部磨製石器が表面採集されている	史①-24
遺① 30	岩淵遺跡	大木戸	高城	岩淵	縄文中期	町指定史跡「岩淵遺跡」、昭和48年発掘調査、竪穴式住居1棟が復元 住居址、複式炉を確認、第1号住居址は例を見ない3本柱の設計で直径7.4mのほぼ円形の大規模なもの、縄文土器片、石鏃、打製石斧、磨製石斧、凹石、スクレーパー、土師器、須恵器が出土	史①-25
遺① 31	高城条里遺構	大木戸	高城		奈良・平安	消滅遺構	史①-27
遺① 32	西大枝石田遺跡	西大枝	西大枝	石田	縄文晩期 8世紀頃	土師器と須恵器も確認されている	史①-1
遺① 33	王壇古墳	西大枝	西大枝	王壇	古墳	町指定史跡「王壇古墳」、形の崩れた円墳のマウンドと周溝 円墳、鉄剣、埴輪、土師器が出土	史①-2
遺① 34	竹ノ内遺跡	西大枝	西大枝	竹ノ内	縄文後晩期	昭和47(1972)年発掘調査、縄文後期・晩期の土器類とともに馬蹄形の石囲い炉と埋納土器(甕棺の可能性)3点出土 炉跡、埋設土器、集石、縄文土器、弥生土器、石鏃、石斧、石匙、石錐、凹石、土俵、土錐が出土	史①-3
遺① 35	青木遺跡	西大枝	西大枝	青木	縄文	縄文遺跡、土器片、石棒(晩期)、アメリカ式石鏃が出土	史①-5
遺① 36	西大枝条里遺構	西大枝	西大枝		奈良・平安	消滅遺構	史①-8
遺① 37	下入ノ内遺跡	西大枝	西大枝	下入ノ内	古墳	集落跡、竪穴住居、土師器、須恵器、石製模造品が出土	史①-7,11
遺① 38	塚野目古墳群	森江野	塚野目	前畑 ほか	古墳	県指定史跡「塚野目第一号墳」(八幡塚古墳)、信達盆地最大の後期古墳群、48の塚がある、前方後円墳(長径78m)で、円筒埴輪が出土	史①-48
遺① 39	矢ノ目遺跡	森江野	塚野目	矢ノ目	古墳	昭和52年ほ場整備の際に発見、土師器や石製品が出土	史①-50
遺① 40	三本木遺跡	森江野	塚野目	三本木	古墳	消滅遺構	史①-51
遺① 41	反畑遺跡	森江野	徳江	反畑	古墳	古式土師器出土、塚野目古墳群との密接な関係性が指摘される	史①-52
遺① 42	仏供田遺跡	森江野	徳江	仏供田	弥生	昭和51(1976)年発掘調査、竪穴住居と在地系土器に加え北陸系土器も出土	史①-53
遺① 43	沢田古墳群	森江野	徳江	沢田	古墳か	双円形のマウンド	史①-54
遺① 44	徳江・塚野目条里制遺構	森江野	塚野目 徳江		奈良・平安	消滅遺構	史①-55
遺① 45	太田川遺跡	森江野	森山	太田川	古墳～奈良	土師器出土、条里制・塚野目古墳群との密接な関係性が指摘される	史①-56

整理番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字			
遺①-46	西新田遺跡	森江野	森山	西新田	奈良	土師器と須恵器採集 奈良時代・8世紀ころのもの	史①-57
遺①-47	上野台遺跡	森江野	森山	上野台	縄文前～中期	竪穴式住居、土杭、縄文土器（前期）、石鏃、石匙、石錐、石斧、スクレーパーを発掘	史①-58
遺①-48	森山古墳群・森山第4号墳	森江野	森山	上野薬師	古墳	町指定史跡「森山第4号墳」、昭和46（1971）年発掘調査 4基の古墳群、4号墳は横穴式石室、直刀などが出土し、見学可能な保存施設がある	史①-59
遺①-49	森山条里遺構	森江野	森山		奈良・平安	消滅遺構 本郷と称する地域に条里制の遺構があった	史①-61
遺①-50	破越清水遺跡	森江野	徳江森山	破越清水	奈良・平安	遺物包含層から多くの土師器、須恵器片が出土、昭和51（1976）年の発掘調査では住居跡も発見されている	史①-63
遺①-51	条里制遺構				奈良・平安	国見町の条里制遺構は東北地方最大級、塚野目・徳江・藤田・山崎・石母田・森山・東大窪・西大窪・西大枝に条里制遺構が見られた	史①-62
遺①-52	錦木塚古墳	桑折町	伊達崎	錦塚	古墳	塚野目古墳群の一部をなす前方後円墳、全長40m、口縁部径18m、高さ3.5m、横穴式石室、長頸瓶、銅碗、直刀、ガラス玉などの副葬品出土	史①-49

※政治・支配の性格を持つ遺跡を対象として掲載。地中に埋蔵された埋蔵文化財包蔵地だけでなく、かつて使用されていた痕跡を残す遺構としての建造物（建造物・碑・塚など）も対象。

※性格の判明していない埋蔵文化財包蔵地は除外。

【記念物／遺跡／政治・支配】

整理番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字			
遺②-1	大沢岩	藤田	石母田		平安末	岩跡、西沢川の上流部を大沢と呼称し、川の侵食谷向かいの山館に相対する形で立地（阿津賀志山合戦遺構群）	史②-20
遺②-2	下紐の関	藤田	石母田	弁天沢	奈良	古代の東山道は阿津賀志山を横断する蝦夷との境界に下紐の関が置かれていたという、その位置は石母田弁天沢の弁天神社、白石市越河の下紐の石、桑折町の半田山中腹押ノ池などが明瞭でない	史②-23 建-221 史③-31
遺②-3	石母田城跡	藤田	石母田	館ノ内	中世	町指定史跡「石母田城跡」 本郭、二の郭、三の郭からなる複郭式平城で、典型的な中世の城郭、城主は石母田氏、天正18（1590）年廃城 遺構・遺物：土塁、堀、平場、虎口	史②-49
遺②-4	陣場館跡	藤田	石母田	陣場山	中世	遺構・遺物：土塁？、平場？、堀跡？	史②-50
遺②-5	山館跡	藤田	石母田	山館	中世	長峰（大峰山）の中腹、西沢川上流の大沢川を隔てて相対している山城 遺構・遺物：土塁、堀跡、平場、枅形、帯郭	史②-51
遺②-6	石母田西館跡	藤田	石母田	西館	中世	半濠半郭式の平地館、東北自動車道の敷地となって埋没し南東隅の一部のみ見られる、中世末期の中津川大善の居館とされる、遺構・遺物：堀、平場	史②-52
遺②-7	囲石遺跡	藤田	石母田	囲石	中世	県境山稜をなす大峠山の南麓に位置する大きな集積遺構、未完成に終わった岩跡か	史②-53
遺②-8	硯石砲台場跡	藤田	石母田	硯石	明治	硯石山南西部の奥州街道を見下ろす高所にある、戊辰戦争の際に仙台藩によって築かれた、遺構・遺物：砲座跡2基、土塁、石垣	史②-54
遺②-9	横町・荒町	藤田	石母田		中世	石母田氏支配のころの地名・名前の名残	史②-55
遺②-10	石母田駒場山岩跡	藤田	石母田	駒場山	中世	土塁をめぐらした岩遺構、軍事上重要な岩遺構とされる	史②-56
遺②-11	東畠岩跡	藤田	石母田		中世	稜線の防衛線にある岩跡、堀切の整備や平場削平の度合いなどから戦国期のものとする説がある	史②-57
遺②-12	駒場山岩跡	藤田	石母田	駒場山		国見山周辺の遺構、文治5（1189）年奥州合戦との関連も	史②-82
遺②-13	藤田古館跡	藤田	山崎	観月台	中世	観月台の堤と沢に挟まれた舌状台地の突端部にある、築城は鎌倉時代に遡り伊達氏の一家・藤田氏が主、遺構・遺物：堀、平場	史②-58
遺②-14	山崎小館跡	藤田	山崎	小館	中世	藤田古館の北側にある略方形の平地館、中世及び江戸期からなる遺跡、観月台文化センター建設にともない発掘調査が行われた 遺構・遺物：土塁、堀、平場、井戸跡、陶磁器、石臼、硯、古銭、曲げ物、カワラケ、土師器、須恵器	史②-59
遺②-15	藤田城跡（源宗山）	藤田	山崎	南古館 北古館	中世	町指定史跡「藤田城跡」、阿津賀志山の戦いにおいて、鎌倉方の軍勢が藤田宿に到着した際に源頼朝が本陣を置いたと伝わる、南北朝期には南朝方の城となり貞和3（1346）年8月の北朝方の攻撃で落城した 遺構・遺物：土塁、堀、平場、虎口、古銭、土師器片、須恵器片	史②-60
遺②-16	山崎城跡	藤田	山崎	館	中世	略方形の複郭式平地館、山崎氏の居城、秀吉の奥州仕置きにより廃城となった 遺構・遺物：土塁、堀、平場	史②-64
遺②-17	山崎山岩跡群	藤田	山崎		中世	峰山と蔵王トンネルの間に位置する岩跡群	史②-65
遺②-18	馬場屋敷跡	小坂	泉田	馬場			史②-35
遺②-19	黒田屋敷跡	小坂	泉田	北ノ内		遺構・遺物：土塁、堀、平場	史②-36
遺②-20	泉田館跡（畔田屋敷か）	小坂	泉田	前		安積屋敷の南西400mに位置する、現在はほとんど東北自動車道の敷地となっているが、古い航空写真では方形館跡が検出される	史②-37
遺②-21	守山	小坂	内谷	守山		金有沢川上流右岸、標高270mに位置する、防御陣地として守山に築かれたもの	史②-38
遺②-22	花館跡	小坂	内谷	花館		中世内谷郷の地頭内谷氏の居館、守山と対をなす搦手口の岩	史②-39
遺②-23	内谷山館跡	小坂	内谷	館脇西	中世	館跡 遺構・遺物：堀、堀切、石場	史②-40
遺②-24	内谷館跡	小坂	内谷	館	中世	伊達氏庶流内谷氏の居館跡、館跡には春日神社がまつられている 遺構・遺物：土塁、堀、平場	史②-41
遺②-25	歌丸屋敷跡	小坂	小坂	北畠	中世	半濠半郭式の平地館、戦国期の歌丸帯刀の居館 遺構・遺物：土塁、堀、平場	史②-42
遺②-26	小屋館跡	小坂	小坂	小屋館	中世	玉川との合流部、滝川右岸の袖沢山にある複郭式山城の根小屋、伊達成宗が晩年隠居した居城の山館、遺構・遺物：平場、古銭	史②-43

整理 番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字			
遺② 27	北畠館跡	小坂	小坂				史②-44
遺② 28	袖沢山の山館	小坂	小坂		室町	小屋館に面した空堀を持つ、この館の詰めの郭	史②-45
遺② 29	安積屋敷跡 (前田館)	小坂	小坂		室町・戦国	安積金四郎の館跡、現在は東北道国見インターの敷地であり、県重文の佐藤家住宅もここにあった	史②-46
遺② 30	鳥取越周辺の砦跡群	小坂	鳥取			鳥取越周辺には砦状遺構が多く残る、成立した時代は明確でないが、吾妻鏡の鳥取越え奇襲の記述等から、いくつかの砦は文治5(1189)年の阿津賀志山の戦いでも使われたものと想定も	史②-47
遺② 31	鳥取高瀬屋敷跡	小坂	鳥取			江戸時代の鳥取絵図にある屋敷跡	史②-48
遺② 32	高橋館跡	大木戸	大木戸	高橋	中世	館跡 遺構・遺物：堀跡、土塁、平場	史②-14
遺② 33	西大窪館跡	大木戸	大木戸	館	中世	牛沢川西岸の西根台地上に立地する単濠単郭式平地館、大部分が耕地となっており残されているのは、南西部の出角・入角・東側の土塁や水濠の一部、室町初期の構築と見られる 遺構・遺物：土塁、堀、平場	史②-15
遺② 34	遠矢崎城跡	大木戸	大木戸	遠矢崎	中世	厚樫山東麓部の遠光原突端の舌状台地上の要害地形をなす位置にある複郭式の山城、二重障がこの城の外郭線をなしている、空堀等の保存状態は良好、築城時期は不明 遺構・遺物：土塁、堀、平場、虎口	史②-16
遺② 35	大窪城跡	大木戸	大木戸	遠矢崎	中世	北畠顕家家臣鬼庭為清が城主、観応2(1351)年落城、伝承地	史②-17
遺② 36	雑司屋敷	大木戸	大木戸		平安末	砦跡、陽あたりの良くほ地で、湧水もあることから、周辺砦群を指揮した武将の屋敷か(阿津賀志山合戦遺構群)	史②-22
遺② 37	越口土塁跡	大木戸	大木戸	鳩ノ峯		国見山周辺の遺構、文治5(1189)年奥州合戦との関連も	史②-81
遺② 38	貝田向山砦跡	大木戸	貝田		平安末	向山の山頂部にあり、空堀と土塁がめぐらされている	史②-24
遺② 39	大和砦跡	大木戸	貝田	大和		国見山周辺の遺構、文治5(1189)年奥州合戦との関連も	史②-85
遺② 40	沢中砦跡	大木戸	貝田	沢中		国見山周辺の遺構、文治5(1189)年奥州合戦との関連も	史②-86
遺② 41	竹ノ内砦石塁跡	大木戸	貝田	竹ノ内		国見山周辺の遺構、文治5(1189)年奥州合戦との関連も	史②-87
遺② 42	東越館跡	大木戸	光明寺	東越山 山館 北向	中世	福聚寺裏山の山頂部に位置する、築城の経緯の記録はないが文治5(1189)年奥州合戦の折に見張りのための東の砦として築かれたものと見られる 遺構・遺物：平場、虎口、切通、縦堀	史②-25,28 口伝-105
遺② 43	土井館跡	大木戸	光明寺	土井	中世	単濠単郭式の方形平地館、館の主は明確でない、濠跡が水田やため池として痕跡を残す、遺構・遺物：堀、平場	史②-27
遺② 44	湯沢城跡	大木戸	光明寺	土井		南北朝期の霊山城の砦、城主土井実晴として、城跡現存せず、伝承地	史②-29
遺② 45	東大窪館跡	大木戸	高城	前	中世	水濠とその内側に土塁をめぐらした単濠単郭式の平地館、伊達氏家臣大窪氏の館、 遺構・遺物：土塁、堀、平場	史②-30
遺② 46	大木戸石塁跡	大木戸	高城			元禄11(1698)年作成「奥州伊達郡貝田村絵図」の写し(明治32(1899)年)が残されており(福島県庁文書)、東大窪村(現：高城)には石塁が描かれ、一部が現存する	史②-31
遺② 47	高柳館(仮称)	大木戸	高城			高橋館か、伝承地	史②-32
遺② 48	正光寺館(仮称)	大木戸				伊達氏10代氏宗の菩提寺と伝わり、南の字館を居館としたことから付名か、伝承地	史②-33
遺② 49	大木戸	大木戸				国見山東麓部の地峡部を北上する鎌倉軍を阻止するために東山道に設置された柵、東山道を挟んで旧貝田と高城の村境に沿って築かれた石塁遺構と、光明寺村境には城内の地名や石塁らしきものも残されている	史②-34
遺② 50	金谷館跡	西大枝	西大枝	金谷	中世	略三角形の単郭式平城、国分太郎左衛門尉景広の居城であったが、天文の乱後に没収され西大枝氏の庶流の源三に下賜された 遺構・遺物：土塁、堀、平場、井戸跡、陶磁器、石臼、硯、古銭、曲げ物	史②-2
遺② 51	霞館跡	西大枝	西大枝	霞沢	中世	霞沢川右岸の河岸段丘上にある単濠・単郭式の平地館、館主は不明であるが鎌倉から室町の中世のものとも推測される	史②-3
遺② 52	築館跡	西大枝	西大枝	築館	中世	阿武隈川の氾濫原を見下ろす西根台地上にある平山城、東に牛沢川、南側に滝川が流れる、来歴は不明だが、西方に阿津賀志防壁が伸びており、その末端の砦として築かれたものと推測される 遺構・遺物：土塁跡、平場	史②-5
遺② 53	西大枝古館跡	西大枝	西大枝	古館	中世	二の郭を備えた複郭式の台館、伊達氏家臣・西大枝氏の居館と伝わる、牛沢川を挟んで築館と相対する、遺構・遺物：土塁跡、平場	史②-6
遺② 54	根岸館跡	西大枝	西大枝	根岸	中世	館跡 遺構・遺物：堀、土塁	史②-7
遺② 55	水口屋敷跡	西大枝	西大枝	水口	中世	単濠濠格式平地館、糸里水田遺構地(高城・西大枝糸里)の水利権を掌握する地に立地していた、遺構・遺物：土塁、堀、平場	史②-8 史①-6
遺② 56	下金谷在家跡	西大枝	西大枝		中世	旧名主佐藤正雄氏の旧宅地か、この地方に現存する数少ない中世農民の在家遺構 ※荘園制の時代、住居と園地と宅地を含めた収取単位を在家又は百姓在家といった	史②-9
遺② 57	築館周辺の砲台場	西大枝	西大枝	築館	明治	西大枝区有文書によれば、戊辰戦争時に築館周辺に砲台場が築かれたとされる	史②-10
遺② 58	原鍛冶館跡	西大枝	西大枝	原鍛冶	中世	館跡 遺構・遺物：土塁跡、平場	史②-4,11
遺② 59	中屋敷跡	西大枝	西大枝	中屋敷	中世	館跡 遺構・遺物：平場	史②-12

整理番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字			
遺② 60	瀬戸屋敷跡	西大枝	西大枝	上台	中世	館跡 遺構・遺物：平場	史②-13
遺② 61	正法寺館跡	森江野	塚野目	正法寺		伝説上の塚野目城主北島正則と正法が同説から生まれた説か	史②-66
遺② 62	塚野目城跡	森江野	塚野目	館前	中世	町指定史跡「塚野目城跡」 阿武隈川と普蔵川・矢ノ目川の間の舌状台地上に立地する略長方形の単層単郭式の平城跡、南北朝時代の城主は北島親房の子・正教であったと伝わる 遺構・遺物：堀跡、土塁、平場	史②-67
遺② 63	長館跡	森江野	徳江	長館	中世	複郭式台館、中世の館跡景観がよく残されている、築造時期や館の主などは不明、 遺構・遺物：平場、泥田沼	史②-68
遺② 64	徳江館跡	森江野	徳江	館	中世	伊達の家臣徳江一之進の館跡という 遺構・遺物：土塁、堀跡、平場、帯郭	史②-69
遺② 65	東原館跡	森江野	徳江	反畑	中世	館跡 遺構・遺物：土塁、堀跡、平場	史②-70
遺② 66	反畑館跡	森江野	徳江	反畑	中世	徳江字反畑にある中世の館跡、単郭式台館、普蔵川北側には土塁が残されている、 遺構・遺物：土塁、堀跡、平場	史②-71
遺② 67	佐野台館跡	森江野	徳江	佐野台東	中世	城館跡 遺構・遺物：土塁、堀跡、平場	史②-72
遺② 68	中島砦跡	森江野	森山	中島	平安末期	砦跡 遺構・遺物：段丘端部の堀跡（阿津賀志山合戦遺構群）	史②-73
遺② 69	森山館跡	森江野	森山	寺前	中世	上野丘陵南部の高所に位置する平山館、本郭跡は佐久間成章氏宅、文治5（1189）年奥州合戦の戦功として頼朝から下賜された地に富塚氏が築いた居館、北部水郷跡の堤は旧観をとどめ、中世の水利慣行を今に伝える、遺構・遺物：堀、土塁	史②-74
遺② 70	森山西館跡	森江野	森山	辻西	中世	一重の水濠と土塁を備えた平地方型館、鎌倉期の地頭屋敷、伊達政宗の家田・平田五郎の居城、遺構・遺物：堀跡、土塁、平場	史②-75
遺② 71	沖館（仮称）	森江野	森山			屋敷割りから豪族屋敷が推測される	史②-76
遺② 72	元木在家跡	森江野	森山	西元木		在家跡、遺構・遺物：堀跡、平場	史②-77
遺② 73	阿津賀志山防塁	藤田 大木戸 森江野 西大枝	石母田 大木戸 森山 西大枝		平安末期	国指定史跡「阿津賀志山防塁」、文治5（1189）年奥州合戦において、奥州藤原氏が事実上支配領域の南端と意識し、北上する源頼朝率いる鎌倉軍を迎え討つために築いた二重の堀と三重の土塁からなる要塞施設、奥州合戦の大勢を決した、平泉政権の終焉と鎌倉幕府による武士政権確立を示す重要な史跡、遺構・遺物：土塁、大溝	史②-78
遺② 74	国見大木戸遺跡	大木戸 森江野	大木戸 森山		中世	館跡・古道 遺構・遺物：土塁、堀跡	史②-79
遺② 75	牛沢川中下流の館跡					大窪館、西大窪館、霞館か	史②-1
遺② 76	古代の境界（北限）				古代	7世紀、大和朝廷の国造制の北限 8世紀は陸奥の国の再編で石背の国の北限	史②-80
遺② 77	虚空蔵館跡	白石市	越河	市野		国見山周辺の遺構、文治5（1189）年奥州合戦との関連も	史②-83
遺② 78	越河防塁跡	白石市	越河	御境		国見山周辺の遺構、文治5（1189）年奥州合戦との関連も	史②-84

※祭祀信仰の性格を持つ遺跡を対象として掲載。地中に埋蔵された埋蔵文化財包蔵地だけでなく、かつて使用されていた痕跡を残す遺構としての構造物（建造物・碑・塚など）も対象。
※性格の判明していない埋蔵文化財包蔵地は除外。

【記念物／遺跡／祭祀・信仰】

整理番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字			
遺③ 1	西宮院跡	藤田	石母田	樋口	中・近世	真言宗寺院跡、廃仏毀釈によって廃寺	史③-26
遺③ 2	地藏堂跡	藤田	石母田				史③-27
遺③ 3	満福寺跡	藤田	石母田	中ノ内		伊達氏家臣の有力武士層の帰依と庇護があったが、天分の乱で種宗側についたため晴宗から寺領を没収されて廃寺となった	史③-29
遺③ 4	義経神社	藤田	石母田	笠松		源義経を祭神とする、祭日は6月15日、義経腰掛の松の根元の小祠を祀っていたが、大正10（1921）年に神社帳名簿から外れるが、石祠は現在もある	史③-30
遺③ 5	蛭沢麻寺跡	藤田	石母田			石母田供養塔の付近にあったと伝わる寺院、明治初期頃までは薬師堂があったという、石塔の前には蛭沢の池があり地藏石仏が安置されていたといわれ礎石と称するものがある（満福寺跡の可能性）	史③-33
遺③ 6	安養寺跡	藤田	石母田			「仙台藩封内風土記」には福源寺と安養寺は石母田邑に開基した寺とある	史③-36
遺③ 7	常楽院跡	藤田	藤田	北	近世	寺院跡、廃仏毀釈によって廃寺	史③-37
遺③ 8	明ノ薬師跡	藤田	藤田	町尻		仏堂跡	史③-38
遺③ 9	西根寺	藤田	藤田	中沢	中世	廃寺後、慶長4（1599）年に僧応無が再興し大千寺とした、後に現在地へ移転、旧所財地は旧国道と新国道の間あたりとされる	史③-39
遺③ 10	金蔵院跡	藤田	山崎	宮前	近世	寺院跡、礎石	史③-40
遺③ 11	観音堂跡	小坂	泉田			泉秀寺別当、明治の大火で焼失	史③-15
遺③ 12	般若堂跡	小坂	泉田			泉秀寺別当、明治の大火で焼失	史③-16
遺③ 13	閑居寺跡	小坂	泉田			上川原から太田川を遡上すると西に笹倉の集落があり、その奥に閑居寺があった	史③-17
遺③ 14	羽山大権現	小坂	泉田			羽山様は大きな松が4、5本あり根元に石の祠がある	史③-18

整理 番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字			
遺③ 15	内谷道場跡	小坂	内谷	桐目木	中世	西内谷矢木沢川中流域の左岸には道場山、小門先ノ堤があり、古来このあたりには寺院があったという、天文の乱で伊達晴宗が白石弥平兵衛に与えた中に「内谷道場」の記録が見られ、仏教修行の場があったと伝えられている、金銅製小仏像が出土	史③-19
遺③ 16	松音寺跡	小坂	小坂	寺家	中世	伊達成宗の菩提寺、山号は五峰山、天文 17 (1584) 年、伊達種宗が丸岡城に隠居する際、同地に移され、慶長 7 (1602) 年、伊達政宗のとき仙台に移転、	史③-20、 21,22
遺③ 17	五光会寄進大鳥居	小坂	小坂			小坂集落より 500m ほど峠に登ったところ	史③-23
遺③ 18	火納坊跡 (石塔 2 基)	小坂	小坂		戦国	上杉と伊達の争いで伊達が松音寺を焼き払った際、僧兵 150 名余が「火納坊」で自刃したと伝わる、二基の石塔が立つ	史③-25
遺③ 19	花館遺跡	小坂	内谷	花館	近世	寺院跡 遺構・遺物：平場、帯郭、石臼	史①-33
遺③ 20	大光寺跡	大木戸	大木戸	大光寺	近世	安養寺の前にあったといわれる寺	史③-1
遺③ 21	正光寺跡	大木戸	大木戸	正光寺	近世	正光寺は伊達氏宗の号、現存の安養寺は大光寺と大正寺を合わせて創建されたという	史③-2
遺③ 22	丸南滝不動明王と 不動滝弁財天	大木戸	貝田			昭和 7 (1932) 年に寺島重工門夫妻が建立、不動滝下	史③-4
遺③ 23	経ヶ岡 (阿津賀志山)	大木戸	大木戸	経ヶ岡	平安末	国見山頂の経塚、「吾妻鏡」に経岡とある、阿津賀志山の戦で打ち取られた藤原軍の四将以下 18 人の首をここにさらしたという	史③-48 口伝-53
遺③ 24	高寺跡	大木戸	光明寺	高寺		三常院の裏山中腹、慈覚大師がしばらく滞在したとされる草庵跡とされる遺跡、野火で焼けた後に現在の三常院に移された	史③-9
遺③ 25	吉祥寺跡	大木戸	光明寺	高寺			史③-10
遺③ 26	光明寺跡	大木戸	光明寺	鹿野	中世	伊達五山の一つ、伊達氏の移封とともに仙台に移った	史③-11 史②-26
遺③ 27	御瀧神社参道	大木戸	光明寺	滝沢		参道の階段に梁川産の赤瀧石が用いられている	史③-12
遺③ 28	大正寺跡	大木戸	高城	大正寺	中世	天台宗寺院の跡、現在は業師堂がある	史③-13
遺③ 29	山居遺跡	大木戸	高城	山居	奈良～平安	八葉弁と六葉弁の蓮華文軒瓦が発見されている、徳江廃寺と同様で小規模の氏寺があったと推定される	史③-14
遺③ 30	正法寺跡	森江野	塚野目	正法寺	中世	寺院跡、伊達氏ゆかりの寺院か、現在は八幡塚古墳の近くに寺院がある、字名が残されている	史③-41
遺③ 31	矢ノ目遺跡	森江野	塚野目	矢ノ目	古墳	塚野目 1 号墳西方約 45 m に位置する、昭和 52 年の県営ほ場整備事業の工事中に発見された、甕・高杯・埴・坏などの土師器類や剣・勾玉・白玉類等滑石製の模造品が出土、5 世紀中ごろのものとされる祭祀遺跡	史③-42
遺③ 32	徳江廃寺跡	森江野	徳江	沼田 館 団扇	奈良・平安	阿武隈川の氾濫原を見下ろす河岸段丘上に位置する、蓮華文軒瓦瓦が出土、郡制以前から豪族によって建てられた後、郡衙に伴う郡寺の性格を持つようになっていったと想定されている 昭和 46 (1971) 年発掘調査	史③-43
遺③ 33	反畑遺跡	森江野	徳江	反畑	古墳	館の本郭と普蔵川との間の畑地から、剣・有孔円板などの石製模造品が出土した 5 世紀頃の祭祀遺跡、昭和 46 (1971) 年発掘調査	史③-44
遺③ 34	太子堂跡					真宗寺院跡か	史③-46
遺③ 35	観音堂跡				平安	平安後期「吾妻鏡」所載	史③-47

※教育・文化の性格を持つ遺跡を対象として掲載。地中に埋蔵された埋蔵文化財包蔵地だけでなく、かつて使用されていた痕跡を残す遺構としての構造物（建造物・碑・塚など）も対象。
※性格の判明していない埋蔵文化財包蔵地は除外。

【記念物／遺跡／教育・文化】

整理 番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字			
遺④ 1	石母田小学校 →藤田小学校	藤田	石母田		明治	明治 6 (1873) 年、泉田小学校から藤田小学校が分離、明治 8 (1875) 年、藤田小学校から石母田小学校が分離、明治 12 (1879) 年、石母田小学校が藤田小学校に統合、学区：石母田	史④-32,37
遺④ 2	一笑館	藤田	藤田		大正	大正 3 (1914) 年頃、芝居・映画の常舞台、大正 6 (1917) 年に火災で焼失	史④-33
遺④ 3	藤田民衆倶楽部	藤田	藤田		大正	大正 12 (1923) 年、鳥取の高野久三郎などが株を募って常舞台を錦町に設立、戦争中は一時封鎖された	史④-34
遺④ 4	藤田劇場	藤田	藤田	堤下	昭和	昭和 28 (1953) 年開業、昭和 39 (1964) 年まで営業、映画・芝居・歌謡ショーなど町民の娯楽の殿堂	史④-34
遺④ 5	組合立中学校	藤田	藤田		昭和	昭和 26 (1951) 年、藤田町、小坂村、森江野村によって設立	史④-35
遺④ 6	山崎小学校 →藤田小学校	藤田	山崎		明治	明治 14 (1881) 年、校舎を新築し藤田小学校より分離独立、明治 17 (1884) 年、藤田小学校に統合、学区：山崎	史④-36
遺④ 7	実業補習学校 藤田農業補習学校 藤田実業補習学校	藤田			明治～大正	明治 35 (1902) 年、文部省令により実業補習学校、明治 41 (1908) 年、藤田農業補習学校と改称、大正 5 (1916) 年、藤田実業補習学校と改称	史④-37
遺④ 8	青年訓練所 藤田町青年学校	藤田			大正～昭和初期	大正 15 (1926) 年、青年訓練所創設、昭和 10 (1935) 年には藤田町青年学校と改称	史④-38
遺④ 9	泉田小学校跡 →小坂小学校	小坂	泉田	立町	明治	町指定史跡「泉田小学校跡」 明治 6 (1873) 年 7 月、泉田の泉秀寺を仮校舎として国見最初の小学校が開設、14 か村を学区とした、その後、国見の各地に小学校が開設された	史④-26
遺④ 10	小坂小学校 →小坂尋常小学校	小坂	小坂		明治	明治 8 (1875) 年、泉田小学校から分離独立、松蔵寺内に設置された、学区：小坂（鳥取・内谷は藤田小学校に通学） 明治 22 (1889) 年、小坂尋常小学校開設、学区：小坂、鳥取、内谷	史④-27

整理 番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字			
遺④ 11	夜学校	小坂	小坂		明治	教員の篤志により、毎年冬農閑期の間青年子弟を集め明治38(1905)年まで学校等で夜学校を開いた	史④-28
遺④ 12	小坂農業補習学校 小坂農業公民学校	小坂	小坂		明治	明治38(1905)年、農業補習学校を公設、毎年12月から翌年2月まで、当初は男性のみ、明治40(1907)年から女子も受入れ、昭和4(1929)年、小坂農業公民学校に改名	史④-29,30
遺④ 13	農芸文庫	小坂	小坂		明治	明治42(1909)年、村内の安孫子リウ、梅崎キクがお金を出して農芸文庫を創設	史④-31
遺④ 14	寺子屋 (半沢善兵衛)	大木戸	大木戸	高橋	江戸～明治	寺子屋、開業と廃業の時期は不明確、明治10(1877)年頃にはほぼ姿を消したという(昭和7(1932)年各村郷土誌)	史④-10
遺④ 15	寺子屋 (半沢次郎左衛門)	大木戸	大木戸	宮原	江戸～明治	寺子屋、開業と廃業の時期は不明確、明治10(1877)年頃にはほぼ姿を消したという(昭和7(1932)年各村郷土誌)	史④-11
遺④ 16	大木戸小学校 大木戸尋常高等小学校	大木戸	大木戸	霞原	明治	明治22(1889)年、町村合併で大木戸尋常小学校と改称、大正11(1922)年、大木戸尋常高等小学校と改称、昭和2(1927)年、木造2階建校舎建築	史④-12 建-51
遺④ 17	青年訓練所	大木戸	大木戸		大正	大正15(1926)年、青年訓練所令に基づき実施	史④-15
遺④ 18	実業補習学校 農業補習学校	大木戸	大木戸		明治～昭和初期	明治35(1902)年の実業補習学校規程に基づき、明治38(1905)年、小学校に付設して実施、昭和10(1935)年、青年訓練所を併合し青年学校となる	史④-16
遺④ 19	厚樫尋常小学校	大木戸	大木戸		明治	明治21(1888)年、厚樫山麓に新校舎を建設し開校、厚樫尋常小学校と改称	史④-14
遺④ 20	寺子屋 (佐藤平作)	大木戸	貝田	山神前	江戸～明治	寺子屋、開業と廃業の時期は不明確、明治10(1877)年頃にはほぼ姿を消したという(昭和7(1932)年各村郷土誌)	史④-17
遺④ 21	寺子屋 (岡田春五郎)	大木戸	貝田	寺脇	江戸～明治	寺子屋、開業と廃業の時期は不明確、明治10(1877)年頃にはほぼ姿を消したという(昭和7(1932)年各村郷土誌)	史④-18
遺④ 22	貝田小学校	大木戸	貝田		明治	明治14(1881)年、小学校を開設 学区：貝田	史④-19
遺④ 23	寺子屋 (岡田左玄)	大木戸	光明寺	鹿部	江戸～明治	寺子屋、開業と廃業の時期は不明確、明治10(1877)年頃にはほぼ姿を消したという(昭和7(1932)年各村郷土誌)	史④-20
遺④ 24	寺子屋 (渋谷常次郎)	大木戸	光明寺	土井	江戸～明治	寺子屋、開業と廃業の時期は不明確、明治10(1877)年頃にはほぼ姿を消したという(昭和7(1932)年、各村郷土誌)	史④-21
遺④ 25	泉田第一支校 泉田小学校東大窪支校	大木戸	高城		明治	明治6(1873)年、泉田小学校の分校として安養寺を仮校舎に設置	史④-2,13
遺④ 26	寺子屋 (八島弥吉)	大木戸	高城	北	江戸～明治	寺子屋、開業と廃業の時期は不明確、明治10(1877)年頃にはほぼ姿を消したという(昭和7(1932)年各村郷土誌)	史④-22
遺④ 27	寺子屋 (高橋儀十郎)	大木戸	高城	前	江戸～明治	寺子屋、開業と廃業の時期は不明確、明治10(1877)年頃にはほぼ姿を消したという(昭和7(1932)年各村郷土誌)	史④-23
遺④ 28	高城小学校	大木戸	高城		明治	明治7(1874)年、東大窪村を高城村と改称するとともに泉田小学校から分離独立して高城小学校と改称、明治20(1887)年、小学校令により、尋常小学校として設置された 学区：大木戸、高城、貝田、光明寺	史④-24
遺④ 29	東大窪小学校	大木戸	高城		明治	明治6(1873)年、泉田小学校の支校として開設	史④-25
遺④ 30	西大枝小学校 →東大枝小学校	西大枝	西大枝		明治	明治10(1877)年、高城小学校より分離独立、明治20(1887)年、東大枝小学校に統合	史④-1
遺④ 31	大枝小学校	西大枝	西大枝			学校沿革	史④-9
遺④ 32	寺子屋 (菊池与左衛門)	西大枝			江戸～明治	寺子屋、開業と廃業の時期は不明確、明治10(1877)年頃にはほぼ姿を消したという(昭和7(1932)年各村郷土誌)	史④-3
遺④ 33	寺子屋 (酒井太吉)	西大枝			江戸～明治	寺子屋、開業と廃業の時期は不明確、明治10(1877)年頃にはほぼ姿を消したという(昭和7(1932)年各村郷土誌)	史④-4
遺④ 34	寺子屋 (大槻喜四郎)	西大枝			江戸～明治	寺子屋、開業と廃業の時期は不明確、明治10(1877)年頃にはほぼ姿を消したという(昭和7(1932)年各村郷土誌)	史④-5
遺④ 35	寺子屋 (阿部運雲)	西大枝			江戸～明治	寺子屋、開業と廃業の時期は不明確、明治10(1877)年頃にはほぼ姿を消したという(昭和7(1932)年各村郷土誌)	史④-6
遺④ 36	寺子屋 (都合義寛)	西大枝			江戸～明治	寺子屋、開業と廃業の時期は不明確、明治10(1877)年頃にはほぼ姿を消したという(昭和7(1932)年各村郷土誌)	史④-7
遺④ 37	大枝村の学校建設	西大枝			大正	場所をめぐって対立したが大正14(1925)年に解決を見ている	史④-8
遺④ 38	伊達崎小学校第二支校徳江校 →森江野尋常小学校	森江野	徳江		明治	明治6(1873)年、森山・徳江が伊達崎小学校から分離独立、明治19(1886)年、藤田小学校に統合、明治23(1890)年、統合して森江野尋常小学校となる、学区：徳江	史④-39
遺④ 39	森山小学校 →森江野尋常小学校	森江野	森山		明治	明治9(1876)年、徳江小学校より分離、明治19(1886)年、藤田小学校に統合、明治23(1890)年、統合して森江野尋常小学校となる 学区：森山	史④-42
遺④ 40	夜学校	森江野	森山		明治	明治30(1897)年開設、冬季3か月間、森山・森江野両校で開会、明治42(1909)年からは森江野校で開会	史④-43
遺④ 41	森江野農業補習学校 森江野実業補習学校	森江野	森山		大正	大正5(1916)年開設、大正9(1920)年、森江野実業補習学校と改称、大正12(1923)年、森江野農業補習学校と改称	史④-44
遺④ 42	農業補習学校				明治	明治37(1904)年、福島県は夜学会を季節若しくは夜間の実業補習学校に転換することを奨励した、国見地方では明治38(1905)年、小坂・大木戸、明治39(1906)年、大枝、明治41(1908)年、藤田、大正5(1916)年、森江野で農業補習学校が設置された	史④-48
遺④ 43	早田伝之助の石門 心学の「心学舎」	桑折町	半田		江戸	弘化年間(1844-1848)に早田伝之助が心学の結社を作った	史④-45
遺④ 44	伊達崎小学校	桑折町	伊達崎		明治	明治5(1872)年開設、伊達崎・谷地・上郡・下郡・塚野目を学区とした	史④-46
遺④ 45	下郡小学校	桑折町			明治	明治6(1873)年、伊達崎小学校から分離独立	史④-47

【記念物／遺跡／社会・生活】

※社会・生活の性格を持つ遺跡を対象として掲載。地中に埋蔵された埋蔵文化財包蔵地だけでなく、かつて使用されていた痕跡を残す遺構としての建造物（建造物・碑・塚など）も対象。
※性格の判明していない埋蔵文化財包蔵地は除外。

整理 番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字			
遺⑤ 1	石母田簡易水道	藤田	石母田		昭和	昭和 45 (1970) 年創設認可	史⑤-14
遺⑤ 2	藤田厚生病院	藤田	藤田	北	昭和	菊田医院跡に昭和 25 (1950) 年設立、厚生連主体の病院、昭和 27 (1952) 年に公立藤田病院に統合	史⑤-15
遺⑤ 3	藤田保育所	藤田	藤田		昭和	昭和 24 (1949) 年	史⑤-16
遺⑤ 4	剣道場	藤田	藤田			赤井畑氏の経営する剣道場	史⑤-17
遺⑤ 5	藤田駐在所	藤田	藤田		明治～	明治 21 (1888) 年設置、明治 40 (1907) 年新築し、大正 4 (1915) 年、藤田町駐在所と称す	史⑤-18
遺⑤ 6	藤田村役場・町役場	藤田	藤田	南	明治～昭和	明治 22 (1889) 年 4 月の藤田・山崎・石母田の 3 か村合併当初は藤田字藤田一の 6 にあったが、同年 12 月に宇南に位置する旧藤田村外 11 か村戸長役場庁舎に移転	史⑤-19
遺⑤ 7	藤田郵便局	藤田	藤田		明治～	明治 5 (1872) 年開局	史⑤-21
遺⑤ 8	隔離病舎	藤田	藤田 ほか		大正	藤田村に計画されたが、小坂から遠いため、藤田・小坂は独自に、大木戸、大枝、森江野は共同で建設した	史⑤-22
遺⑤ 9	区会所	藤田	藤田		明治	明治 4 (1871) 年、第 2 大区第小 2 区に属して区会所は藤田村にあり、その後、明治 8 (1875) 年、桑折、明治 12 (1879) 年、保原に移され伊達郡役所と称し、各村には用掛を置いた	史⑤-25
遺⑤ 10	戸長役場	藤田	藤田		明治	明治 12 (1879) 年より各村に戸長を設け、明治 16 (1883) 年、各村合併の戸長役場制度に基づき藤田村外 11 か村戸長役場を藤田村に置いた	史⑤-26 史②-62
遺⑤ 11	国見町庁舎	藤田	藤田	一丁田	昭和	昭和 33 (1958) 年	史⑤-27
遺⑤ 12	国見町福祉センター	藤田	藤田	観月台	昭和	昭和 45 (1970) 年 6 月、鉄筋二階建ての福祉センターとして完成した建物は実質公民館活動の拠点となった	史⑤-32
遺⑤ 13	山崎簡易水道	藤田	山崎		昭和	昭和 38 (1963) 年創設認可	史⑤-23
遺⑤ 14	山崎南古館の配水タンク	藤田	山崎	南古館		国見町簡易水道事業、源宗山の水道施設	史⑤-35
遺⑤ 15	泉田簡易水道	小坂	泉田		昭和	昭和 37 (1962) 年創設認可	史⑤-8
遺⑤ 16	泉田下簡易水道	小坂	泉田		昭和	昭和 40 (1965) 年創設認可	史⑤-9
遺⑤ 17	小坂簡易水道 小坂水道	小坂	小坂		大正	大正 5 (1916) 年、湧水を利用して自然流下により 6 か所の共同水栓を設置して利用、大正 10 (1921) 年に水道工事がなされ、福島県下初の水道として開通、昭和 38 (1963) 年創設認可、昭和 46 (1971) 年変更認可	史⑤-10 史⑥-68
遺⑤ 18	小坂村役場	小坂	小坂		明治	明治 22 (1889) 年 4 月から松蔵寺内に小坂村役場が開設、その後、小坂字台に移転	史⑤-11
遺⑤ 19	小坂駐在所	小坂	小坂		明治	桑折警察署の所管で小坂村と山崎、石母田村を一区画とする駐在所が設置された	史⑤-12
遺⑤ 20	岩代小坂郵便局	小坂	小坂		昭和	昭和 4 (1929) 年開局、昭和 11 (1936) 年電信電話業務取扱開始、昭和 51 (1976) 年に木造モルタル平屋建てを新築	史⑤-13
遺⑤ 21	貝田簡易水道	大木戸	貝田		昭和	昭和 47 (1972) 年創設認可	史⑤-5
遺⑤ 22	大木戸駐在所	大木戸	高城		明治～昭和初期	桑折警察署管内で、明治 22 (1889) 年に安養寺に駐在所を置くが、その後転々として昭和 2 (1927) 年に大木戸役場脇に移った	史⑤-6
遺⑤ 23	大木戸村役場	大木戸	貝田 大木戸		明治	明治 22 (1889) 年、町村制実施で高城・大木戸・貝田・光明寺の 4 村を合併して大木戸村となり、村役場を貝田字山ノ神前に設置、明治 31 (1898) 年、大木戸字霞原、明治 43 (1910) 年、大木戸字幡門場へ移転	史⑤-7
遺⑤ 24	川内地区防火井戸	西大枝	川内		昭和	工法：コンクリート円筒沈下、昭和 29 (1954) 年、区内 4 基設置	史⑤-1
遺⑤ 25	旧中部集会所	西大枝	西大枝		昭和～平成	昭和 12 (1937) 年落成、平成 14 (2002) 年解体、様々な共同作業などに使われた	史⑤-2
遺⑤ 26	阿武隈川堤防	西大枝			大正	大正 2 (1913) 年の大水害を受け、内務省直轄で大正 8 (1919) ～ 10 (1921) 年にかけて堤防改修工事が行われた	史⑤-4
遺⑤ 27	森江野村役場	森江野	徳江		明治～昭和	明治 22 (1889) 年、徳江字中ノ内の観音寺にて開庁、大正 14 (1925) 年、徳江字下谷地に新築移転、昭和 17 (1942) 年、中谷地に移転	史⑤-28
遺⑤ 28	森江野駐在所	森江野	徳江	中ノ内 拾俵橋	明治	明治 27 (1894) 年、観音寺内に置かれた、その後変遷を重ね明治 35 (1902) 年、字十俵橋に新駐在所が建設された	史④-40
遺⑤ 29	公立藤田総合病院	藤田 森江野	山崎 塚野目	北町田 三本木	昭和～	昭和 26 年 (1951) に藤田町外 1 町 6 か村による「公立藤田病院組合」が設立され、昭和 27 年 (1952) に山崎字北町田に建設、昭和 33 年 (1958) に「公立藤田総合病院」と改称、昭和 44 年 (1969) に塚野目字三本木の現在地に移設	史⑤-20
遺⑤ 30	やどかり公民館				昭和	昭和 21 (1946) 年「公民館設置運営について」の県達を受けて、学校の教室や役場の会議室を利用した公民館活動が行われた、これを「やどかり公民館」と呼んだ	史⑤-30
遺⑤ 31	青空公民館				昭和	昭和 29 (1954) 年の町村合併で誕生した国見町では、公民館の建設までに至らなかったが、人々は各地で工夫された活動を展開した	史⑤-31
遺⑤ 32	国見町簡易水道事業				昭和	昭和 32 (1957) 年第 1 期工事、昭和 33 (1958) 年第 2 期工事、昭和 33 (1958) 年竣工	史⑤-33
遺⑤ 33	大枝村役場	伊達市 梁川町	東大枝		明治	明治 22 (1889) 年、東大枝字北の民家を借用、同 25 (1892) 年、字住吉の民家を借用、萱屋根の平屋建	史⑤-3

※経済・生産の性格を持つ遺跡を対象として掲載。地中に埋蔵された埋蔵文化財包蔵地だけでなく、かつて使用されていた痕跡を残す遺構としての建造物（建造物・碑・塚など）も対象。
※性格の判明していない埋蔵文化財包蔵地は除外。

【記念物／遺跡／経済・生産】

整理番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字			
遺⑥ 1	正玄堂遺跡	藤田	石母田	上台	平安	窯跡、軒平瓦、平瓦出土	史③-28 史⑥-76
遺⑥ 2	天狗沢の金山	藤田	石母田		明治	明治16(1883)年の鳥取村瀬戸長治郎著「半田銀山附増役人伺書」に、石母田の天狗沢で鳥取村の庄右衛門と伊達崎村の源治郎が金山を稼業していたことが記される	史⑥-82
遺⑥ 3	駒場堰	藤田	石母田			かんがい利用	史⑥-84
遺⑥ 4	中江堀	藤田	石母田			かんがい利用	史⑥-85
遺⑥ 5	横堀	藤田	石母田			かんがい利用	史⑥-86
遺⑥ 6	柘田	藤田	石母田			かんがい利用	史⑥-87
遺⑥ 7	笛吹田	藤田	石母田			水田	史⑥-88
遺⑥ 8	五反田堰	藤田	石母田			かんがい利用	史⑥-89
遺⑥ 9	石母田共同作業場	藤田	石母田		昭和	昭和初期に建設	史⑥-90
遺⑥ 10	奥山合名会社 佐藤合名会社	藤田	藤田		大正	地域密着型の金融機関、もともとは個人貸付業から発展した	史⑥-95
遺⑥ 11	藤田信託株式会社	藤田	藤田		大正	大正2(1913)年、地元有力者を株主として設立、第一次大戦後の不況で大正13(1924)年に整理解散した	史⑥-96
遺⑥ 12	岩代銀行藤田支店	藤田	藤田		大正	大正3(1914)年開業、福島市が本店	史⑥-97
遺⑥ 13	藤田製糸工場	藤田	藤田		昭和初期	昭和4(1929)年、五十沢製糸場から経営が移管された、昭和2(1927)年度県統計書では従業員は233人	史⑥-98
遺⑥ 14	新町の遊郭街	藤田	藤田		明治	明治20(1887)年頃、藤田町の裏手に新町と呼ばれる遊郭街を作って3件の遊郭(東雲、丸三、新盛楼)が営業を開始、半田銀山の隆盛とともににぎわった	史⑥-99 史⑥-109
遺⑥ 15	料亭「観月」	藤田	藤田		大正	大正前半の頃に観月台公園にあった三階建ての料亭	史⑥-100
遺⑥ 16	山田・赤井畑の製材所	藤田	藤田		大正	大正期に操業	史⑥-101
遺⑥ 17	一里塚(藤田)	藤田	藤田	天王畑一 滝川四	江戸	藤田村地籍図に記され、天王畑一と滝川四に所在、現在は消滅	史⑥-103
遺⑥ 18	藤田高低几号標	藤田	藤田	堤下	明治	水準標、大千寺境内の石塔台座石に几号標を刻む	史⑥-104
遺⑥ 19	掘割り(水路)	藤田	藤田		江戸	藤田宿の町割りの名残	史⑥-106
遺⑥ 20	停車場通り	藤田	藤田		明治	明治35(1902)年の藤田駅開業に伴い、明治から大正にかけて藤田の市街地は停車場通り沿いに拡張していった	史⑥-107
遺⑥ 21	伊達駅	藤田	藤田		古代	古代の東山道の駅、藤田の可能性はある	史⑥-110
遺⑥ 22	藤田共同作業場	藤田	藤田		昭和	共同作業場は農林省の奨励方針に基づいて昭和9(1934)年度に福島県各地に設置された、藤田は字藤田1	史⑥-111
遺⑥ 23	藤田町道路元標	藤田	藤田		大正	藤田字南五番地にあったがあつかし歴史館に保管されている	史⑥-112
遺⑥ 24	藤田駅	藤田	山崎	北町田	明治	明治33(1900)年日本鉄道会社が貨物取扱駅として開業、昭和9(1934)年建築の木造平屋建の駅舎が使用されていたが、老朽化に伴い平成31(2019)年、新駅舎への建替えが行われた	史⑥-105
遺⑥ 25	国見町の木橋	藤田	山崎	中川前		国見町の木橋は山崎字中川前の滝川にかかる橋が最後、高速道路の関連工事で下流に永久橋が架設されて姿を消した	史⑥-114
遺⑥ 26	山崎共同作業場	藤田	山崎	深町	昭和	昭和初期に建設	史⑥-115
遺⑥ 27	山崎条里遺構	藤田	山崎		古代	条里制の遺構	史⑥-116
遺⑥ 28	小原道路の開設	藤田				藤田の産業発展のため、長年の懸案であった小原道路が完成	史⑥-117
遺⑥ 29	太陽館製糸工場	藤田			昭和	藤田の西側にある製糸工場、昭和3(1928)年、五十嵐儀八によって創業、昭和8(1933)年には134名の従業員数となっている	史⑥-118
遺⑥ 30	川前堰	小坂	泉田		奈良～平安	山崎西部条里は滝川から川前堰によりかんがいされる	史⑥-40
遺⑥ 31	泉田共同作業場	小坂	泉田	川北	昭和	昭和初期に建設	史⑥-41
遺⑥ 32	半田銀山二階平坑口跡	小坂	泉田	二階平	江戸	町指定史跡「半田銀山二階平坑口跡」、半田銀山二階平は嘉永7(1854)年の開坑とされる、現在、桑折町・国見町を通じ、半田銀山跡に開口している唯一の坑口	史⑥-42
遺⑥ 33	泉田仙台茶屋	小坂	泉田		江戸	羽州街道沿いの茶屋、普蔵川を渡った東側	史⑥-43
遺⑥ 34	矢筈山銀山	小坂	泉田		江戸	文政年間(1818-1830)に銀山師と助によって開発された	史⑥-44
遺⑥ 35	柳沢銀山	小坂	泉田		大正	二階平より山越えをした滝川上流にある、大正5(1916)年、松尾敏章によって開坑された新しい鉱山	史⑥-45
遺⑥ 36	雨沼ため池	小坂	泉田		昭和戦後	昭和32(1957)年、貯水量7万トン	史⑥-46
遺⑥ 37	内谷の金有ヶ沢川上流の試掘坑跡	小坂	泉田			砂金が産出してこう呼ばれたか、上流に試掘坑が見られる	史⑥-48
遺⑥ 38	内谷青年畑	小坂	泉田		大正	大正4(1915)年、内谷西部部落の大地主鴨田祐吉氏より青年会育成のため寄進された	史⑥-49
遺⑥ 39	内谷共同作業場	小坂	泉田	西脇東	昭和	昭和初期に建設	史⑥-50

整理 番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字			
遺⑥ 40	一里塚	小坂	小坂		江戸	羽州街道小坂宿入口、現存しない	史⑥-52
遺⑥ 41	小坂口留番所	小坂	小坂		江戸	国境の番所跡、寛永15(1640)年、上杉藩が原七右衛門を守役として設置、小坂宿出口に木戸が構えられた、その後、冨塚家が世襲した	史⑥-53
遺⑥ 42	羽州街道難所六丁	小坂	小坂			中の茶屋から峠に達する山坂	史⑥-54
遺⑥ 43	小坂峠茶屋	小坂	小坂		江戸	1800年初め頃に書かれた秋田藩御用達を務めた津田宗庵の『雪のふる道』に茶屋の存在が知られる 富田伊文が安永6(1769)年に奥州に旅してこの茶屋に立寄り、著書『巻懐食鏡』に記す、現在も萬才楽荘として受け継がれる	史⑥-57
遺⑥ 44	佐藤合名会社	小坂	小坂		明治	小坂村唯一の金融機関	史⑥-62
遺⑥ 45	用水ためか所	小坂	小坂		江戸	小坂地内:字寺家、字北島、内谷地内:字東脇、字桐目木、字大窪、泉田地内:字新田、字雨沼	史⑥-65
遺⑥ 46	小坂大分	小坂	小坂			徳江・塚野目へのかんがい堰、滝川よりの用水堰上げ口の「大分」は玉川へのかんがい用水を供給し下流部の奈良時代にさかのぼる広大な条里水田をかんがいしていた、現況はコンクリート化されている	史⑥-66
遺⑥ 47	七ヶ宿街道	小坂	小坂			小坂峠を越える出羽街道(羽州街道)の小坂宿から榎下宿までの7つの宿場(戸沢、下戸沢、渡瀬、関、滑津、峠田、湯原)は山中七ヶ宿街道と呼ばれていた	史⑥-67
遺⑥ 48	小坂共同作業場	小坂	小坂	川原	昭和	昭和初期に建設	史⑥-70
遺⑥ 49	小坂村道路元標	小坂	小坂			小坂字カニ坂68番地、現在は道路改良にともない小坂小学校玄関脇に移転	史⑥-72
遺⑥ 50	旧羽州街道小坂峠道跡	小坂	鳥取	峠下	江戸	町指定史跡「旧羽州街道小坂峠道跡」 出羽諸国の大名の参勤交代や御城米の重要なルート、お産の苦しみに辛いことから「産坂」の異名もある、旧道東側に慶応2(1866)年に開通した新道がある	史⑥-58 史⑥-59 口伝-149
遺⑥ 51	鳥取宿	小坂	鳥取		江戸	小坂宿に先行した中世の宿駅、小坂宿の創設に伴い鳥取宿の伝馬機能は吸収された	史⑥-75
遺⑥ 52	新田原ため井	大木戸	大木戸		昭和	享保6(1721)年に西大枝村が買い上げ、農地を長く潤してきたが、昭和40(1965)年の藤倉ダム完成と西根上堰の改修によりその役目を終えた、東北自動車道工事の廃土で埋め立てられ町営グラウンドとして利用される	史⑥-8
遺⑥ 53	伊達の大木戸	大木戸	大木戸		江戸	芭蕉『おくのほそ道』にうたわれている名所旧跡 「諸街道延絵図」によれば国見山麓の国見峠がその地とされる	史⑥-12
遺⑥ 54	大木戸窯跡	大木戸	大木戸	中野窪	奈良～平安	町指定史跡「大木戸窯跡」、昭和47(1972)年発掘調査 須恵器の生産が行われた遺跡、須恵器は焼物に適した粘土、豊富な燃料、段丘斜面を利用した窯が必要となるが、当該遺跡の立地条件は、これらの要件を満たしている	史⑥-13
遺⑥ 55	遠光原山窯跡	大木戸	大木戸	遠光原山	奈良	窯跡、須恵器片	史⑥-14
遺⑥ 56	旧奥州道中国見峠長坂跡	大木戸	大木戸	長坂	近世	町指定史跡「旧奥州道中国見峠長坂跡」、奥州街道の険阻な山坂として著名、古代には付近に下紐の関が置かれて蝦夷に備えたといわれる、軍事・交通上の要衝に位置し、近世には参勤交代に用いられた、芭蕉は『おくのほそ道』で「路縦横に踏んで、伊達の大木戸を越す」と旅の辛さを記している	史⑥-15
遺⑥ 57	長坂の茶屋跡	大木戸	大木戸	長坂	江戸～明治	国見峠長坂跡に明治10年代まで茶屋があったという、その後道路の開通などでなくなった	史⑥-16
遺⑥ 58	大木戸共同作業場	大木戸	大木戸	西原	昭和	昭和初期に建設	史⑥-17
遺⑥ 59	細藤ため池の統合	大木戸	大木戸	細藤		昭和3(1928)年の集中豪雨により決壊し復旧、その後、枯水対策のため1号から3号を統合して、ため池を拡張した	史⑥-137
遺⑥ 60	竹ノ花隧道新堰	大木戸	大木戸	竹ノ花	明治	西根上堰の漏水対策のため、明治34(1901)年に隧道を開削し、新たな堰として代替えが行われたもの	史⑥-139
遺⑥ 61	大木戸村道路元標	大木戸	貝田	山ノ神前	大正	当時のまま残されている	史⑥-19
遺⑥ 62	貝田口留番所	大木戸	貝田	寺脇	江戸	仙台藩領と接する奥州街道貝田宿に口留番所が置かれた、近世初期、上杉藩時代に設置されたというのが明確ではない、岡田家が代々番所役を務めていた	史⑥-20
遺⑥ 63	一里塚(貝田)	大木戸	貝田	村松	江戸	奥州街道の一里塚、国見町内に現存するものはないが、明治の地籍図などで所在の確認はできる	史⑥-21
遺⑥ 64	貝田三ツ石	大木戸	貝田		江戸	貝田宿では奥州街道と梁川道が分岐する、別れを惜しむ旅人がこの石の上に立って別れを惜しんだという	史⑥-24
遺⑥ 65	御札場	大木戸	貝田		江戸	宿場中央部にある高札場	史⑥-25
遺⑥ 66	北の町尻の曲がり(貝田宿)	大木戸	貝田		江戸	街道は宿場の北で鍵の手に曲がり口留番所と最禅寺に至る	史⑥-26
遺⑥ 67	御林	大木戸	貝田		江戸	幕府が直轄し桑折代官所が管理していた	史⑥-27
遺⑥ 68	水路と水場(貝田宿)	大木戸	貝田		江戸	宿場の名残、宿場にくまなく水を流している水路がある	史⑥-28
遺⑥ 69	貝田共同作業場	大木戸	貝田	立久根	昭和	昭和初期に建設	史⑥-29
遺⑥ 70	貝田四つ穴1号、2号ため池	大木戸	貝田		昭和	昭和37(1962)年の集中豪雨で1号ため池が土砂で埋没した、2号も土砂が入ったが復旧した	史⑥-159
遺⑥ 71	上江・中江・下江	大木戸	光明寺			御瀧神社を水源とする湧水の水路、大滝から南に分かれるものを上江、大滝の一部と小滝の水及び山田川の一部の水が加わるものを中江、中江の一部と山田川の水が流れるものを下江と呼ぶ	史⑥-34
遺⑥ 72	光明寺共同作業場	大木戸	光明寺	滝下	昭和	昭和初期に建設	史⑥-35
遺⑥ 73	山居製鉄遺跡	大木戸	高城	山居	平安	10世紀頃の古代製鉄遺跡、炉跡5基、鉄滓、羽口、土師器などが出土した	史①-26 史⑥-37

整理 番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字	小字			
遺⑥ 74	山居瓦窯跡	大木戸	高城	山居	平安	窯跡、軒丸瓦、平瓦などが出土した	史⑥-38
遺⑥ 75	高城共同作業場	大木戸	高城	北前	昭和	昭和初期に建設	史⑥-39
遺⑥ 76	梁川道（やながわみち）	大木戸				奥州街道貝田宿から分岐して東大枝を通り梁川に至る光明寺の集落を通る	史⑥-33
遺⑥ 77	川内共同作業場	西大枝	川内	柳原	昭和	昭和初期に建設	史⑥-1
遺⑥ 78	原町ため池（滑川）	西大枝	西大枝			西大枝西部の水系、下流は滝川	史⑥-2
遺⑥ 79	原鍛冶の製鉄遺跡	西大枝	西大枝		平安中期	平安中期、10世紀頃か	史⑥-3
遺⑥ 80	新田の製鉄遺跡	西大枝	西大枝		平安中期	平安中期、10世紀ころか	史⑥-4
遺⑥ 81	下金谷ため池	西大枝	西大枝	下金谷			史⑥-5
遺⑥ 82	青木ため池	西大枝	西大枝	青木	江戸	西大枝青木にあり、元和年間（1615-1624）に築かれた	史⑥-6
遺⑥ 83	青木下ため池	西大枝	西大枝	青木			史⑥-7
遺⑥ 84	雷神山遺跡	西大枝	西大枝	雷神山	不明	製鉄遺跡、鉄滓	史⑥-9
遺⑥ 85	上金釜ため池	西大枝	西大枝		昭和	昭和51（1976）年埋立、ほ場整備され町民運動場となる	史⑥-160
遺⑥ 86	上川原堰	森江野	徳江		奈良～平安	滝川から玉川に流す	史⑥-119
遺⑥ 87	徳江船場	森江野	徳江	二階間々	明治	字二階間々の渡船場、当時阿武隈川には橋がなく、渡舟に頼っていた、明治18（1885）年から開始か	史⑥-120
遺⑥ 88	徳江河岸	森江野	徳江		江戸～明治	幕府への年貢米（御城米）廻米のために必要な阿武隈川舟運の整備に伴い設置された河岸の1つ、明治時代の鉄道輸送開始とともにその使命を終えた	史⑥-121
遺⑥ 89	徳江小口留番所跡	森江野	徳江	佐野台	江戸	阿武隈川舟運の監視にあたるため設置された、創設時期は明確ではないが幕末期に及ぶ、番所役には実沢家が当たった	史⑥-123 史②-72
遺⑥ 90	拾俵橋	森江野	徳江	拾俵橋		徳江字拾俵橋、昔は徳江の中央路線に橋があった、戦後道路改修により、僅かにコンクリートの一片が残る	史⑥-124
遺⑥ 91	森江野共同作業場	森江野	徳江	下谷地田	昭和	昭和9（1934）年、森江野村が経済更生指定村になったことに伴う建設	史⑥-125
遺⑥ 92	森江野村道路元標	森江野	徳江		大正	徳江字谷地19番地、現在JAふくしま未来森江野支店に移転	史⑥-126
遺⑥ 93	辻南ため池	森江野	森山	辻南		西根堰に伴うため池だった、昭和51（1976）～52（1977）年に埋立、高齢者用ゲートボール場、森山防災センターとなる	
遺⑥ 94	国見二号ため池	森江野	森山	西国見		昭和32（1957）年改良	史⑥-136
遺⑥ 95	上野薬師第1号ため池	森江野	森山			平成7（1995）年埋立、上野台運動公園総合運動場建設の際の山土捨て場となった	史⑥-138
遺⑥ 96	塊坪（くれつぽ）庄	森江野	森山		平安	伝承によれば森山郷は、塊坪（くれつぽ）庄と呼ばれる荘園であったという	史⑥-141
遺⑥ 97	広域農道徳江一塚野目線	森江野				昭和51（1976）年度工事	史⑥-157
遺⑥ 98	西根堰	藤田 小坂 西大枝 森江野			江戸	寛永10（1633）年に完成した全長約28kmの農業用水路、標高差僅か50mという高い土木水準で設計され、福島市（飯坂）・桑折町・国見町を経て伊達市五十沢に至り、当時の29ヶ村水田900町歩を潤した、平成22（2010）年度土木学会選奨土木遺産に認定	史⑥-10 史⑥-63 史⑥-64
遺⑥ 99	質屋				大正	一般庶民が利用、旧町村に1戸以上存在した	史⑥-91
遺⑥ 100	条里制遺構				古代	水田に残る条里制の遺構、ただしほ場整備でその大部分が失われている	史⑥-143
遺⑥ 101	国道4号				明治～大正	三島通庸県令らにより福島県内の道路整備が進められた、明治6（1873）年、陸羽街道、明治18（1885）年、国道6号、大正9（1920）年、第4号国道と名称変更された、旧国道4号	史⑥-144 史⑥-153
遺⑥ 102	機械製糸工場の設立				大正	明治40（1907）年頃から器械製糸が盛んになり各地に工場（五十沢製糸会社、長岡製糸、梁川製糸、掛田製糸）が作られた、これまでの自家座繰りは急速に消滅していくが、大正期も地元や特殊な需要のため続けられた	史⑥-147
遺⑥ 103	東山道				古代	都に通じる古代の官道	史⑥-149
遺⑥ 104	国見石の採石場					主要な採石場は12か所、全て露天掘りで行われた、石は産地別の名称（小坂石、西堂石、山崎石、石母田石など）で呼ばれたが、昭和15（1940）年に国見石と総称するようになった、昭和40（1965）年頃まで手掘りで採石されていた	史⑥-152
遺⑥ 105	経塚山の畳石					阿津賀志山の下の方一帯にとれた畳一枚ほどもある石、ここはその名産地だった	史⑥-155
遺⑥ 106	篤借の駅					「延喜式」（延喜5〔927〕年）の記述、「和名抄」（承平年間〔931-937〕）にも「篤借郷」の記述がある	史⑥-156
遺⑥ 107	奥の大道				中世	東山道の後身	史⑥-158
遺⑥ 108	東大枝河岸	伊達市 梁川町	東大枝			河川交通、阿武隈川舟運船場	史⑥-145
遺⑥ 109	伊達崎橋	桑折町	伊達崎		大正	大正11（1922）年架橋	史⑥-146

【記念物／遺跡／墳墓・碑】

※墳墓・碑の性格を持つ遺跡を対象として掲載。地中に埋蔵された埋蔵文化財包蔵地だけでなく、かつて使用されていた痕跡を残す遺構としての構造物（建造物・碑・塚など）も対象。
※性格の判明していない埋蔵文化財包蔵地は除外。

整理番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字			
遺⑦-1	石母田供養石塔	藤田	石母田	中ノ内	中世	国指定史跡「石母田供養石塔」 徳治3（1308）年に僧智瑠が先祖の追善供養に建立した板碑、梵字と供養文が刻まれる。銘文は元の帰化僧一山一寧の筆跡、地元では俗に「蒙古の碑」と呼ばれ、周辺は鎌倉・室町時代にかけての伊達氏ゆかりの禪宗満福寺の古刹跡といわれている	史⑦-12 口伝-210
遺⑦-2	国分家の碑	藤田	石母田	芹沢	江戸	龍雲寺の石碑、高さ：80cm。文政10（1827）年・千葉六党一家の碑	史⑦-13
遺⑦-3	国見山上塚	藤田	石母田	国見山上	不明	塚、マウンド	史⑦-14
遺⑦-4	南無妙法蓮華經の碑	藤田	石母田		明治	明治43（1910）年建立	有民⑥-63
遺⑦-5	大野朝臣東人の墓碑	藤田	藤田	町尻	昭和	鹿島神社、昭和63（1988）年	史⑦-16
遺⑦-6	忠魂碑	藤田	藤田	観月台	大正	観月台の忠魂碑、乃木希典書、大正4（1915）年建立	史⑦-17
遺⑦-7	大千寺の無縁墓	藤田	藤田	堤下	江戸	文政8（1825）年と天保6（1835）年の刻	史⑦-26
遺⑦-8	吉田伝右工門の墓	藤田	山崎	小館脇	明治	明治元（1868）年4月27日に没した吉田伝右衛門の墓、国見町山崎字小館脇にあつて明治初期頃から通称「稲場の墓」といわれていた	史⑦-18
遺⑦-9	忠霊殿建設記念碑	藤田	山崎	小館	昭和	水雲神社	史⑦-20
遺⑦-10	龍峡岡部君墓碑	藤田			江戸	寛政8（1796）年建立、岡部竜峽（忠持）の顕彰碑	史⑦-27
遺⑦-11	伊達成宗墓	小坂	小坂	寺家	中世	伊達氏12代当主の墓、明応9（1500）年頃没、当初小屋館の北側窪地に葬られたが、元禄頃に滝川に架る大田橋の上流に移され、明治に子孫の伊達伯爵によって現在の墓石が建立された	史⑦-6 口伝-146
遺⑦-12	菅山月墓	小坂	小坂	北窪	明治	書家・菅山月の墓所、高さ1mの小碑、明治13（1880）年、弟子たちによって立てられた	史⑦-9
遺⑦-13	産坂登り口の供養塔	小坂	小坂		江戸		史⑦-10
遺⑦-14	松蔵寺供養塔	小坂	小坂	上泉川	戦国	松蔵寺修行の御坊であった立花山火納坊に建てられた供養塔を松蔵寺に移転させたもの、戦国時代、伊達と上杉の争いの際、上杉方であった松蔵寺の僧兵150名余が自刃して果てた供養塔と伝わる、伊達の咎めを恐れて文字は彫られていないという	史⑦-11
遺⑦-15	佐藤兵之助の墓	大木戸	貝田	寺脇	江戸	最禪寺境内にある佐藤夫妻の墓、筆第88人による、隣に筆第108人による養子平作夫妻の墓が並んで立てられている	史⑦-3
遺⑦-16	伊達朝宗夫人墓（光明寺五輪塔）	大木戸	光明寺	沼	中世	福聚寺境内、奥州合戦の功績により伊達郡を与えられた伊達氏初代当主朝宗の夫人墓、周辺は夫人の菩提寺として存在した光明寺（「伊達五山」）を中心に整備され伊達氏の庇護を受け栄えた	史⑦-5
遺⑦-17	三界萬霊（塔）	西大枝	川内	柳原	昭和	仲興寺、昭和43（1968）年、水害からの大改修事業の経過と共同墓地集約に伴う改葬供養	史⑦-1
遺⑦-18	慰霊碑	西大枝	西大枝	古館	昭和	西松寺、昭和60（1985）年建立、日清～太平洋戦争の戦没者慰霊	史⑦-2
遺⑦-19	八幡塚の板碑	森江野	塚野目	前畑	室町	阿弥陀如来を表彰するキリクが刻まれ、ほかに文字はない	史⑦-21~23
遺⑦-20	四十八塚和鎮靈碑	森江野	塚野目		昭和	八幡神社、昭和15（1940）年	史⑦-24
遺⑦-21	古塚	森江野	森山	上野薬師		森山字上野薬師にある塚、文治5（1189）年の戦いで亡くなった奥州勢の兵士の屍を埋めた塚という、半身の薬師像を彫った石が3基あった	史⑦-25

【記念物／遺跡／由緒地】

※由緒地（歴史・文化的な出来事や場所となった跡地）の性格を持つ遺跡を対象として掲載。地中に埋蔵された埋蔵文化財包蔵地だけでなく、かつて使用されていた痕跡を残す遺構としての構造物（建造物・石碑・塚・墓）なども対象。
※性格の判明していない埋蔵文化財包蔵地は除外。

整理番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字			
遺⑧-1	吾妻宝助道場	藤田	藤田	南	明治・大正	剣道の師範で藤田字南に道場をもっていた、宮城県沖地震の際に被害を受けて解体された	史⑧-2
遺⑧-2	藤田ホテル観月楼	藤田	藤田	観月台	大正	大正4（1915）年1月10日、町制施行の祝賀会が開かれたと思われる、現存しない	史⑧-3

【記念物／名勝地／公園・庭園】

※公園、庭園を対象とし、現代にいたるまで、多くの人々が憩いの場とした場所を対象とし、掲載した。

整理番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字			
名①-1	観月台公園	藤田	藤田	観月台		町中心部の公園でいくつもの碑や祠がある、沼と周囲の桜等が見られ、眺望がよい景勝地、青少年の競技や練習の場としても使われ、農業市や夏まつりも開催される	名①-3 名①-4 史②-61
名①-2	国見ニュータウンの歴史公園	小坂	泉田	堰下		堰下古墳を中心に歴史公園が整備される	名①-2

【記念物／名勝地／岩石・洞穴】

※歴史的背景や信仰・伝承などを持ち、あるいは芸術上・鑑賞上すぐれた景観を形成する岩石・洞窟を対象として掲載。

整理番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字			
名⑤ 1	石母田石	藤田	石母田	館内	戦国	転倒すると、村に変わりごとがあるという言い伝えの石 天正19(1591)年、石母田氏が石母田を離れ伊具郡に移った際、故郷を偲び城内にあった石を持って行った、石は7日7夜うめき声を発した、神おろしを行って聞いてみると、石が故郷を離れたのがつらくて泣いているという、哀れに思い石を元に移したことが石母田石の由来と伝わる	史⑧-1
名⑤ 2	相馬大作のかくれ岩	小坂	小坂		江戸	南部藩と津軽藩が争った檢山(相馬大作)事件で南部藩の相馬大作が津軽侯を狙って隠れたという大岩、事件は未遂に終わり大作は出奔した後に幕府にとらえられ獄門となった	名⑤-1
名⑤ 3	立石(たていし)	大木戸	貝田			長い岩をたてたような姿の奇岩	名⑤-1
名⑤ 4	ザラムキ	大木戸	貝田	四ツ穴山		荒い堆積岩が風化により丸みを帯びた岩肌となった岩山の地形が存在する、浸食により開口した洞穴(四ツ穴)とともに、大蛇伝説が伝わる景勝地である	名⑤-2
名⑤ 5	石大仏	大木戸	貝田		江戸	下紐の石、石大仏とも呼ばれていたが、現在地不明	有民⑥-17 口伝-220,221
名⑤ 6	飛地藏	大木戸	貝田			地藏山中にある大岩が風化して造形された地藏尊	史③-5
名⑤ 7	萬歳楽(まんざいろく)	宮城県 白石市	小原			国見町・桑折町有北山組合が一部を所有し、町内に登山口がある万歳楽山には、地の底まで続いていると言われる岩があり、地震があってもひくとも動かないと伝わる、地震がくると、万歳楽の岩のようにゆれませぬようにと急いで「まんざろく、まんざろく」と唱えるようになったという	名⑤-3

【記念物／名勝地／峡谷・瀑布】

※歴史的背景や信仰・伝承などを持ち、あるいは芸術上・鑑賞上すぐれた景観を形成する瀑布を対象として掲載。

整理番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字			
名⑥ 1	不動滝	大木戸	貝田			牛沢川上流にある高さ10m余の滝、不動明王や弁財天の霊場となっている	史⑧-1

【記念物／名勝地／湖沼・湿原】

※歴史的背景や信仰・伝承などを持ち、あるいは芸術上・鑑賞上すぐれた景観を形成する湖沼・湧水を対象として掲載。

整理番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字			
名⑦ 1	弁慶の硯石／踵清水	藤田	石母田	硯石		硯石山にある石・清水、「弁慶が足を強く踏んだら清水が湧き出た」「石に足跡(くぼみ)を付けて墨をすった」という言い伝えがある	名⑦-6 口伝-119, 222,226
名⑦ 2	観月台ため池	藤田	藤田	観月台		観月台ため池は天保年間(1830-1844)の絵図にも描かれており藤田宿及び周辺の農業用水の水源として機能していた、幾たびかの改修を経て、現在では水量調整用のため池という性格になっている、明治以降池周辺にはカフェや旅館も立ち住民憩いの場となった	史⑥-108
名⑦ 3	大清水池	藤田	石母田			国見地方の条里制の水系の特徴的な湧き水によるかんがい、村明細帳に水利慣行の記録がある	史⑥-80
名⑦ 4	内谷沼／錫湧水	小坂	内谷			山崎地域は滝川の用水でかんがいされる西部と、錫の湧水を水源とする東部とに分かれる 内谷沼はその利用が条里制までさかのぼれる 山崎地域の池沼かんがいは国見町内では数少ないもの	史⑥-47
名⑦ 5	番頭沼	森江野	徳江	番頭		徳江字番頭にある沼	史⑥-122
名⑦ 6	上野台沼(濁沼)	森江野	森山	上野台		森山字上野台にある沼	史⑥-128
名⑦ 7	内沼沢(堤)	森江野	森山	上野台		昭和57(1982)年、埋め立て	
名⑦ 8	下上野沼	森江野	森山	下上野		森山字下上野にある沼	史⑥-129
名⑦ 9	上沼	森江野	森山	西国見		森山字西国見にある沼	史⑥-130
名⑦ 10	下沼	森江野	森山	西国見		森山字西国見にある沼	史⑥-131
名⑦ 11	薬師沼	森江野	森山	上野薬師		森山字上野薬師にある沼	史⑥-132
名⑦ 12	上薬沼	森江野	森山			薬師沼の近くにある沼	史⑥-133
名⑦ 13	辻南沼	森江野	森山	辻南		森山字辻南にある沼	史⑥-134

【記念物／名勝地／山岳・丘陵】

※歴史的背景や信仰・伝承などを持ち、あるいは芸術上・鑑賞上すぐれた景観を形成する山岳・丘陵を対象として掲載。

整理番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字			
名⑩ 1	硯石山	藤田	石母田	硯石	中世 明治	源頼朝が平氏追討の軍をおこしたと聞いた義経が、急ぎ上国せんとしてここに至り、弁慶が山の頂上の硯の形に凹む石で墨をすり、馳せ集まる軍兵の名簿を記したと伝わる、江戸の文人たちの紀行文にも記される、明治元(1868)年、戊辰戦争のときには砲台が築かれた	名⑩-7 名⑪-3

整理番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字			
名⑩-2	長峰	藤田	石母田			標高 570 m、宮城県境にある	名⑩-8
名⑩-3	上野台地	藤田	石母田			地形配置に関しては古館台地に類似し上下4段の台地面が分布するが、面積的には若干広い	名⑩-28
名⑩-4	源宗山	藤田	藤田			阿津賀志山の戦いにおいて、鎌倉方の軍勢が藤田宿に到着した際に源頼朝が本陣を置いたと伝わる、「藤田城跡」の名称で町指定史跡	名⑩-19
名⑩-5	古館台地	藤田	山崎			藤田市街地背後の台地で源宗山住宅のある源宗山1面を最上位面とする、上下4段の台地面からなる	名⑩-27
名⑩-6	柱立山	藤田	石母田 山崎			標高 260 m	名⑩-11
名⑩-7	東畠山	藤田				標高 420 m、長峰と阿津賀志山の間にある	名⑩-18
名⑩-8	藤田下位台地	藤田				藤田面の広がりとはほぼ対応し国見町的生活基盤を支える水田地域の主要部と一致する	名⑩-30
名⑩-9	五峰山	小坂	小坂			国見町の北部、奥羽山系の山並みが小坂に降りてくる末端が五本の指のように五つの小峰に分かれているため五峰山という	名⑩-6
名⑩-10	小坂扇状地	小坂				滝川及び普蔵川水系の支流群が西部山地から運び出した砂礫を堆積して作った大小の扇状地が一部複合して連なっている	名⑩-33
名⑩-11	阿津賀志山／厚樫山	大木戸	大木戸	阿津加志山		標高 289 m、低地に向かって突出した位置と丸みを帯びた山頂、緩やかな山麓斜面と相まって際立った山容を呈する、丸山、タンガラ山、経塚山、経が岡、国見山などの別称を持つ、吾妻鏡に「伊達郡阿津賀志山国見駅」という記述があり、国見町名の由来となっている	名⑩-4 口伝-61
名⑩-12	四つ穴	大木戸	貝田	四ツ穴山		高平山のふもとに広がる小盆地	名⑩-5
名⑩-13	貝田台地	大木戸	貝田			この地域は段丘開析・台地形成の初期段階にあるものといえる	名⑩-26
名⑩-14	地藏山（蓮華山）	大木戸	貝田			山全体が霊域、丸南滝不動明王、不動滝弁財天、飛地藏、鷲宮、月山、湯殿山、羽黒山などの信仰地が存在	史③-3
名⑩-15	高寺山	大木戸	光明寺			三常院の裏山、標高 300 mの眺望の良い山で、中腹に慈覚大師が滞在した草庵跡といわれる場所がある	史③-9
名⑩-16	大木戸丘陵地	大木戸				遠矢崎面などの段丘面が分布する上野台地古館台地と異なり低地に囲まれることなく隣接山地との関係で起伏に富む丘陵地形が展開する	名⑩-29
名⑩-17	阿武隈川低地	西大枝				福島盆地の最低所を占める阿武隈川の氾濫原	名⑩-31
名⑩-18	物見山（弁天山）	西大枝				見晴らしよく、昔は養蚕安全祈願や行楽で登る人も多かった	名⑩-1
名⑩-19	牛沢川					貝田より発し古川に合流する、高城、西大枝を経て滝川に入る 車塚、石田塚、館塚	名⑩-3 史⑥-36
名⑩-20	西沢川					石母田のかんがい、下流は滝川に入る 猫町塚、出溜塚、土居陰塚、樋口塚、五反田塚	名⑩-9 ⑥-77
名⑩-21	蛭沢川					石母田のかんがい、下流は滝川に入る	名⑩-10 ⑥-78
名⑩-22	玉川					中江塚 塚野目・徳江のかんがい、下流は滝川に入る	名⑩-12 史⑥-142
名⑩-23	中沢川					太田川塚 藤田南部、下流は滝川に入る	名⑩-13 史⑥-92
名⑩-24	鹿野沢川					かんがい利用	名⑩-15
名⑩-25	滝ノ入沢川					かんがい利用	名⑩-16
名⑩-26	熊笹が入沢川					かんがい利用	名⑩-17
名⑩-27	矢野目川					源は南半田山、東流して佐野川（塚野目では佐久間川）に入る	名⑩-21
名⑩-28	佐久間川（赤水川）					半田山新沼より流れ下り関場で佐野川と合流して阿武隈川に入る	名⑩-22
名⑩-29	佐野川（佐久間川）					源を北半田山に発し、塚野目に入り東流し矢野目川を合わせ、佐久間川と合わせ、阿武隈川に合流する	名⑩-23
名⑩-30	久保田川（前川）					北半田地内の水を集め塚野目に入り徳江に流れる	名⑩-24
名⑩-31	滑川					藤田、石母田から大枝へ流れ、滝川に入る	名⑩-25
名⑩-32	滝川					本地域最大の河川、源は小坂村字中原川、藤田・森山と流れ、川内で阿武隈川に入る、一部太田川古川とも	名⑩-32
名⑩-33	阿武隈川					本町の全ての河川が注ぐ阿武隈川水系の本流、一級河川 町の南を流れ、江戸時代には舟運の河岸がつくられるなど物流の基幹ともなる、『吾妻鏡』には「逢隈河」と記載	名⑩-34 口伝-51
名⑩-34	藤田川					藤田条里のかんがい、滝川・川前塚、太田川塚・中沢川	史⑥-93

【記念物／名勝地／展望地点】

※鑑賞しすぐれた眺望点を掲載。

整理番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字			
名⑪-1	阿津賀志山展望台	大木戸	大木戸	阿津加志山		福島盆地が見わたせる、眼下の田園風景や桃をはじめ果樹の花の咲き乱れる風景が楽しめる	

【記念物／動物・植物・地質鉱物（天然記念物）／動物】

※町内に生息が確認される・かつてした希少種を掲載。

整理番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字			
動 1	獺（かわうそ）	西大枝				ニホンカワウソか、現在確認できず	動-1
動 2	カモシカ					国特別天然記念物、山岳部に生息	

【記念物／動物・植物・地質鉱物（天然記念物）／植物】

※名木、農業暦の基準となる植物（種まき桜）、希少な植物を掲載。

整理番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字			
植 1	義経の腰掛松	藤田	石母田	笠松		平治の乱（1159）の後、牛若丸（源義経）が、平泉の藤原秀衡をたよって東下りをした折、路傍の幼松に腰をかけて一休みした故事に由来する、江戸時代中期頃より、奥州街道の名所として知られるようになり、数々の紀行文等に取り上げられた	植-11
植 2	お寺のイチヨウ	藤田	石母田	芹沢		福島県緑の文化財、龍雲寺境内	
植 3	国見神社の森	藤田	石母田	国見		福島県緑の文化財	
植 4	観月台の大スギ	藤田	藤田	観月台		福島県緑の文化財	
植 5	水雲神社の松	藤田	山崎	宮前		昔から金蔵院（こんぞうえん）と呼んで境内には5、6本の太い松がそびえていた	植-16
植 6	深山神社の大樫大藤	小坂	鳥取	深山		町指定天然記念物「深山神社の大樫大藤」、福島県緑の文化財、藤田から小坂に向かう県道沿いの深山神社境内にある、深山神社は「藤権現」とも呼ばれる	植-10
植 7	とめすけ桜	大木戸	貝田			今は無人駅となったかつての貝田駅に勤めていた人物の父君が植えた桜、その名に因んで呼ばれた	植-5
植 8	中尊寺蓮	西大枝	西大枝	原前		藤原泰衡の首桶にあったハスの種をよみがえらせたものを、平成21（2009）年に岩手県の中尊寺より譲り受けた	植-17
植 9	種まき桜	藤田 小坂 大木戸 西大枝				農事暦として農作業開始の目安に用いられる、つぼみに色がつくると粉を撒いた藤田（石母田、藤田、山崎）、小坂（泉田、内谷、小坂）、大木戸（大木戸、貝田）、西大枝（西大枝）など各地に所在していた	植-1~4, 6,7,9,12, 14,15,18 口伝-392

【記念物／動物・植物・地質鉱物（天然記念物）／地質鉱物】

※主に地質学上の価値を有する、湧水・岩石・罅穴や自然災害を掲載。

整理番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字			
地 1	三吉神社境内の湧水	藤田	石母田	大清水		三吉神社境内の湧水地、大清水、今井戸前、向田、道下あたりをかながいしている	名⑦-5
地 2	大清水	藤田	石母田			石母田と山崎の境の柱立山裾の湧水	名⑦-7
地 3	石母田大清水	藤田	石母田			古代の街道筋の湧水	史⑥-79
地 4	清水内湧泉	藤田	石母田			西沢川の四斗時対岸の湧水	名⑦-8
地 5	西畑湧水	藤田	石母田			西沢川上流の湧水	名⑦-9
地 6	囲石湧水	藤田	石母田			西沢川上流の湧水	名⑦-10
地 7	沼田湧水	藤田	石母田			蛭沢川上流の湧水	名⑦-11
地 8	桜木立湧水	藤田	石母田			蛭沢川上流の湧水	名⑦-12
地 9	龍雲寺の清水	藤田	石母田	芹沢		龍雲寺裏に昔から清水が湧き出していたが、昭和46（1971）年、新幹線工事のため水脈が絶たれ枯れてしまった	名⑦-13
地 10	山崎錫清水	藤田	山崎			かながい利用	名⑥-113
地 11	大久保清水	小坂	鳥取			国見地方の条里制の水系の特徴的な湧き水によるかながい、村明細帳に水利慣行の記録がある	名⑥-73
地 12	運男清水	小坂	鳥取			国見地方の条里制の水系の特徴的な湧き水によるかながい、村明細帳に水利慣行の記録がある	名⑥-74
地 13	半田山の山津波跡	小坂				砂土でできている半田山が崩れて山津波となり、その土砂は銀山、泉田、前田から遠く板橋まで押し出している	地-4
地 14	大木戸の湧水	大木戸	大木戸			水は県北中学校北の湧水、ため池下手の水田近くから多数湧いて流れ、字国見、字石戸内、字中島などの水田を潤している	名⑦-2
地 15	長坂の古井戸	大木戸	大木戸			湧水	名⑦-3
地 16	梨の木	大木戸	貝田			四つ穴にある大量の水が湧出する不動滝の水源	名⑦-4
地 17	御瀧神社の湧水（わくみず）	大木戸	光明寺	滝沢		町指定天然記念物「御瀧神社の湧水」、ふくしまの水三十選 御瀧神社が所在する光明寺集落はこの湧水を中心に集落が形成され、南には牛沢川による扇状地が続き、古くから湧水を利用した水田地帯が広がる、湧水池と水路は住民の共同作業により日常的な維持・管理が行われ清潔に保たれている	地-1
地 18	阿弥陀垂水（あみだらすい）	大木戸	光明寺	鹿野		三常院阿弥陀堂の本尊下から湧き出る水で、眼病や皮膚病に効果があるという言い伝えがある	地-2
地 19	森山の湧水	森江野	森山	湧水		旧森山村と西大窪（大木戸）の村境にある湧水、古くからかながいに利用されてきた、江戸時代以降の資料にその水利慣行が記録されている、昭和46（1971）年の新幹線工事の掘削により枯渇した	名⑦-14 名⑥-135 名⑦-15

整理番号	名称	所在地			時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字	小字			
地 20	滝川甌穴群	藤田 森江野	藤田 森山			滝川の中流域（滝川橋付近）、小規模な渓谷の岩盤に水流と砂や円礫の作用によって円形の穴（甌穴）が創り出され、固有の渓谷景観となっている。	
地 21	国見石、あま石					火に強い凝灰岩、明治以前より盛んに掘られ、大正～昭和初期には建築材料として流通、町内にはその石蔵が現在も多く残されている	地-3 史⑥-140
地 22	化石					貝類の化石、阿武隈川にて発見	地-5
地 23	苦鉄質火山岩類の山並み					町北西部の標高 600～700 m の山並みは、安山岩玄武岩類（苦鉄火山岩類）によって構成されている	地-6
地 24	扇状地					山麓斜面からの傾斜地、分厚い堆積物で構成される	地-7
地 25	傾斜地					山麓斜面からの傾斜地、珧長質火山岩類が露出する	地-8
地 26	粘土層					平野部は阿武隈川とその水系の小河川により堆積岩類と低位段丘、自然堤防が形成されている、その堆積層の粘土は、古代には土器材料になり、現在も農業の支えとなっている	地-9
地 27	大清水、清水（すず）					東北地方では湧水を「すず」と呼ぶ、国見地方ではかんがい用湧水を使ったところが多い	名⑥-151
地 28	牛石湧水					古代の街道筋の湧水	名⑥-148

【文化的景観】

※地域の自然風土と人々の営み、その成り立ちと変化の歴史、時間の積み重ねによる地域らしさを表す景観を掲載。

整理番号	名称	所在地		時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字			
文景 1	石母田地区	藤田	石母田		町の北東部、北部山地を隔てて宮城県白石市に接する、南北に長い地域、西から北にかけての山裾に JR 東北本線、東北自動車道が並行し、東端を国道 4 号がかすめる、南部平地で水田、山地南面傾斜地で果樹栽培が行われる、集落は山裾の西から中央部にかけて多い	
文景 2	藤田地区	藤田	藤田		町の南部、南北に連なる大町、本町、宮町南が主要な商店街、町役場の所在地で行政の中心地となっている、かつて商店街を通っていたが昭和 35（1960）年、東側に移された旧国道から県道五十沢国見線が分岐・東進し、町役場東側で国道 4 号と交差する 藤田宿は『吾妻鏡』に源頼朝が阿津賀志山の戦いに本営を置いたとするのが初見である 近世には奥州街道の宿場としての整備が進められ、諸大名の参勤交代や商人・旅人でのぎわいを見せ、また、一と六の付く日には六斎市が立ち、周辺の農業・養蚕業の物産が集散する在郷町として発達した、町割り、水路、街道跡、寺社、歴史的建造物等を残す	史⑥-94
文景 3	山崎地区	藤田	山崎		町の中央部、藤田の北西部に位置する、北部山腹を東北自動車道が東西に走り、JR 東北本線蔵王トンネルの入口で立体交差している、中央部を南北に JR 東北本線が走り藤田駅が所在する、藤田駅周辺は山崎となるが、藤田地区と一体化した町並みを形成している 南東部にある源宗山は宅地化が進み、北部山裾に農家が見られる程度となる	
文景 4	泉田地区	小坂	泉田		町の西部、西・南は桑折町に接する、東西に細長い地域、東部に JR 東北本線、東北新幹線、東北自動車道が走る、北西部は山地で、比較的低い地域にモモ園が造成される、南東部は扇状地で棚状の水田がある、集落は畑の多い泉田上、水田と畑が半々の泉田中、水田の多い泉田下に分かれる、半田銀山との関わりも強い	
文景 5	内谷地区	小坂	内谷		町の北西部、北は宮城県白石市に接する、南北に長い地域、北部から南東部までが山地、南西部に扇状地がある、平地が少なく、山麓ではモモの栽培が盛ん、扇状地では野菜等の畑が行われる、南部に江戸後期に山崎村と水田用水池になったため沼がある	
文景 6	小坂地区	小坂	小坂		町の西部、北は宮城県白石市に接する、南北に長い地域で北西部は山地、南東部は扇状地で棚状の水田がある、南東部を JR 東北本線、東北新幹線がかすめて通る、集落の大部分は主要地方道白石国見線沿いにある 羽州街道の宿場・小坂宿は、行歩川によって形成された扇状地に位置する、羽州街道最初の宿場で、口留番所等の設置状況から上杉藩領時代（慶長年間（1596-1615））に宿場として整備されたものと推定される、宿場の水路を挟んだ両側に、荷物を取り扱う問屋、宿屋（丸屋、秋田屋、半田屋、米沢屋）、牛宿等が建並んだという、山々と近く、斜面地形に合わせた石積みや地割りを残し、農林業を生業とする人々の暮らしが認められる	文景-4
文景 7	鳥取地区	小坂	鳥取		町の北西部、北は宮城県白石市に接する、南北に長い地域だが北部山地が広く、山麓部ではモモの栽培が盛ん、南部は扇状地で、緩やかな傾斜の水田地帯となる、畑の一部は牧草地に利用され、肉牛の飼育が見られる、集落は山麓部に集中する	
文景 8	大木戸地区	大木戸	大木戸		町の東部、北部山麓を東北自動車道、JR 東北本線、国道 4 号が並行して走る、南北に細長い農業地域で、北部は山地、中部は丘陵地、南部は稲作地域である、集落は中部の旧国道 4 号沿いと、平地部の牛沢川沿い西側に散在、一部遠光原台地の裾野に見られる、果樹生産が多く養蚕は衰退している	
文景 9	貝田地区	大木戸	貝田		町の北東部、北は宮城県白石市に接する、大半が山地で北西部・南東部の山地の間に平地がある、北西部の山麓に東北自動車道、JR 東北本線、国道 4 号が並行して走る、旧国道から県道大枝貝田線が分岐して南東へ通じる、国道から南東にかけて棚状の裾野に見られる、果樹生産が行われる 奥州街道の宿場・貝田宿は、天正年間（1573～1591）伊達政宗によって開かれ、本格的な整備は参勤交代や伝馬制度の充実をみた上杉藩領の時代であったとされる、街道を挟んで両側に短冊形の屋敷割が行われ、町頭と町尻の比高差が大きく、屋敷地は石垣で階段状に区分される、現在も徳利屋、角屋、佐野家、銭湯屋、納豆屋など宿町時代の屋号を持つ家が多く残る、明治期の鉄道開通に伴う大火の困難を乗り越えるため防火を意識した建造物も残される	文景-2 史⑥-31
文景 10	光明寺地区	大木戸	光明寺		町の北東端、北は宮城県白石市、東は伊達市に接する、北西から南東へ県道大枝貝田線が通る、北部に山地を背負い、南部に僅かな平地に水田が広がる、集落はほぼ山裾に沿っているが、一部中世の館跡の周囲に見られる、また、豊富な水資源によって集落が形成され現在も水場や水路の維持・管理や水に伴う信仰・祭礼の活動が継承されている	文景-3 史⑥-60

整理番号	名称	所在地		時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字			
文景 11	高城地区	大木戸	高城		町の東部、北端を東北自動車道、JR 東北本線、国道 4 号が走る、南北に細長い農業地域、北部は山地、中央部は丘陵地、南部は広い水田地帯、中央部は果樹栽培が行われる、牛沢川が流れ阿武隈川に注ぐ、集落は牛沢川付近に散在する	
文景 12	川内地区	西大枝	川内		町の南東端、東・南は伊達市に接し、南を阿武隈川が流れる、沖積平野に広がる農業地域、特産物であるニンジン・ナガイモなどの蔬菜の栽培を行っている 江戸時代以前から阿武隈川の氾濫によって数年に一度水害に見舞われ、敷地を石垣等でかさ上げする事例も見られる、また、水害から身を守るため地区の人々の結束も強い、昭和 24 (1949) ~ 28 (1953) 年の堤防工事完成以来、人々の生活は安定し、住民による顕彰碑が建てられている、	文景 -1 建 -71 口伝 -89 史⑥ -22,23
文景 13	西大枝地区	西大枝	西大枝		町の南東部、東は伊達市 (梁川町東大枝) に接する、地内を東西に県道五十沢国見線が通る、集落は北から南まで各地に点在するが南北に多い、稲作を中心に果樹栽培などが営まれ、かつて盛んであった養蚕は衰退している	
文景 14	塚野目地区	森江野	塚野目		町の南端、西・南は桑折町に接する、西部を国道 4 号、中央を南北に主要地方道浪江国見線が走る、農業地帯で稲作のほかにも果樹栽培が行われ、かつては養蚕が盛んであった、集落は普蔵川両岸に集中している	
文景 15	徳江地区	森江野	徳江		町の南東部、南は伊達市・桑折町に接する、南東部を阿武隈川が流れる、東西に長い地域で西部は洪積台地、東部は沖積平野の農業地域、山地をもたない地域で水利に恵まれず、水田より畑が多い、町内で最も養蚕の盛んな地域で阿武隈川沿岸の沖積地では繭を 1 トン以上生産する養蚕農家があった、畑は養蚕用の桑園として利用されたものであるが、養蚕の衰退とともに桑園から果樹栽培への転換が進んだ、集落は洪積台地東部と南部にある	
文景 16	森山地区	森江野	森山		町の南東部、西は藤田に接し、北端を国道 4 号がかすめて通る、北部に上野台地があり、南部は平地で水田が広がる農業地域、澁川が南流し南部の平地を県道五十沢国見線が東西に貫通する、町内でも水田の多い地域、戦後上野台地の開発が進められ、果樹栽培が盛んになった、集落は台地の周辺に半数近くが占める	

【その他／人物】

※国見町の歴史に関わるまたは、政治・経済・文化に貢献した人物を対象として掲載。

整理番号	名称	所在地		時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字			
人 1	石母田光頼	藤田	石母田	室町	伊達植宗・晴宗に仕え、天文の乱 (1542 ~ 1548) では晴宗方に付き、その後陸奥国守護代に任じられる重臣として活躍	人 -18
人 2	石母田氏	藤田	石母田	中世	石母田光頼・影頼の時代に、伊達氏の重臣として活躍。光頼以前の詳細は不明だが、奥州仕置 (1590 年) まで石母田の一部の地頭として石母田城を拠点としていたと考えられる	人 -20
人 3	石母田景頼	藤田	石母田	室町	伊達政宗に仕え数々の戦功をあげる、奥州仕置 (1590 年) 後は、石母田を離れるが、後に桑折姓に変わり、宇和島 (うわじま) 藩伊達家の筆頭家老となる	人 -22
人 4	中津川大善	藤田	石母田	室町	天文の乱以前の石母田村の地頭、西館村付近を中心として西沢川の西の地域支配	人 -23
人 5	中津川弥五郎	藤田	石母田	室町	天文の乱以前の石母田村の地頭、樋口在家	人 -24
人 6	中津川治部丞	藤田	石母田	室町	天文の乱以前の石母田村の地頭、切田 730 刈、神田 100 刈、高田 400 地、宮の脇 700 地	人 -25
人 7	平幡源左衛門	藤田	石母田	室町	天文の乱以前の石母田村の地頭、上の在家	人 -26
人 8	大橋肥前	藤田	石母田	室町	天文の乱以前の石母田村の地頭、細内在家	人 -27
人 9	嶺与四郎	藤田	石母田	室町	天文の乱以前の石母田村の地頭、とうせん在家	人 -28
人 10	中津川氏	藤田	石母田	室町	中津川氏は出羽の国下長井庄中津川の地頭、はじめ横尾と称し姓は藤原又は関とされた、室町初期、伊達氏が中津川を侵した後、所領として与えられた中津川村に住んだことから地名を姓としたとされる、横尾氏は伊達初代朝宗の臣下として常陸の国から従ってきた	人 -29
人 11	山崎彦兵衛	藤田	石母田	戦国	天文の乱以降の石母田村の地頭	人 -31
人 12	穴戸太造	藤田	石母田	明治	地租改正時の測量者 各村で算用に明るいものを選んだ	人 -19
人 13	藤田某	藤田	藤田	室町	藤田の地頭	人 -32
人 14	集望	藤田	藤田	江戸	元禄の頃の藤田の俳人	人 -33
人 15	休意	藤田	藤田	江戸	元禄の頃の藤田の俳人	人 -33
人 16	萬谷	藤田	藤田	江戸	元禄の頃の藤田の俳人	人 -33
人 17	岡部松雨	藤田	藤田	江戸	藤田の俳人、岡部家は会津藩上杉氏に仕えた家柄、福島に住んでいたがその後、藤田に移住した、俳句をたしなみ「冬嶺軒」と号した、子孫は商家を営んだ、宝暦 4 (1754) 年没	人 -33,34
人 18	岡部伊里 (いんり)	藤田	藤田	江戸	松雨の子、岡部忠成、俳人、宝暦 11 (1761) 年没	人 -35
人 19	岡部忠保	藤田	藤田	江戸	松雨の孫、詩歌集「青葱編」を出版、「義経の腰掛松園」の版木を製作し、世に喧伝した	人 -39
人 20	松窓乙二	藤田	藤田	江戸	伊里の弟子麦羅の長男、奥羽俳諧四天王の一人、須賀川の多代女はその門人	人 -38
人 21	里竹	藤田	藤田	江戸	伊里の婿、俳人、天明の凶作では救済にあたった、寛政 2 (1790) 年没	人 -48
人 22	豹助	藤田	藤田	江戸	里竹の子、和漢の学を治める、武道にも秀でていた。文化 7 (1810) 年没	人 -36
人 23	乙二	藤田	藤田	江戸	豹助の末子	人 -37

整理 番号	名称	所在地		時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字			
人 24	英天和尚	藤田	藤田	江戸	藤田大千寺の和尚、俳人	人-41
人 25	抱村	藤田	藤田	江戸	俳人、塚野目神社に半田村の笹屋清吉が願主となって俳句額を奉納している	人-42
人 26	菅野紐関	藤田	藤田	幕末～明治	俳人、幕末・明治のころ藤田俳壇を指導した	人-43
人 27	東花亭多賀彦	藤田	藤田	江戸	藤田の俳諧歌人	人-46
人 28	素田亭千秋	藤田	藤田	江戸	藤田の俳諧歌人	人-46
人 29	欺玉堂如濁	藤田	藤田	江戸	元禄の頃の藤田の俳人	人-33
人 30	奥山正胤	藤田	藤田	幕末～明治	国学者、歌人	人-47
人 31	奥山照子	藤田	藤田	幕末～明治	国学者、歌人	人-47
人 32	豪商奥山家	藤田	藤田	江戸～	天保期、初代奥山忠左衛門は奥山呉服店を創業し、その後、2代、3代目と金融業などに業務を拡張し、隆盛を極めた。	人-50
人 33	奥山忠左衛門 (3代目忠左衛門)	藤田	藤田	明治	1859-1929、豪商、政治家この3代目で業務を拡大発展させ県下1,2の豪商となった、その間、県会議員や藤田町長を務め、敷地内には荘厳な洋館を建築している	人-51
人 34	伊藤柳太郎	藤田	藤田	明治	1877-1949、石工職人、石工職人の家に生まれ幼いころより職人修行をする、大谷(栃木県)で技術を学び国見町内の国見石を使用した石蔵を多く手掛け石蔵建築の先駆けとなった	人-52
人 35	大野資	藤田	藤田	明治～昭和	飛行家、明治34(1901)年1月19日生まれ、昭和34(1901)年9月21日没	人-53
人 36	山崎氏	藤田	山崎	中世	地頭	人-56
人 37	山崎彦七	藤田	山崎	室町	山崎の地頭	人-54
人 38	あき女	藤田	山崎	江戸	女流俳人	人-40
人 39	葉山亭深伎	藤田	山崎	江戸	山崎の俳諧歌人	人-55
人 40	竹園千史	藤田	山崎	江戸	山崎の俳諧歌人	人-55
人 41	松水亭元成	小坂	泉田	江戸	泉田の俳諧歌人	人-12
人 42	遠藤将監	小坂	内谷	室町	内谷の地頭	人-13
人 43	内谷民部少輔	小坂	内谷	室町	内谷の地頭	人-13
人 44	内谷彦四郎	小坂	内谷	室町	内谷の地頭	人-13
人 45	大畑亭豊住	小坂	内谷	江戸	内谷の俳諧歌人	人-14
人 46	伊達成宗	小坂	小坂	室町	伊達氏12代当主。晩年、梁川城から小坂小屋館に隠居するが、子の尚宗との家中争いであった伊達氏明応の乱が発生、その後、小坂には墓所が残る	人-15
人 47	菅山月	小坂	小坂	幕末～明治	書家、明治13(1880)年没、墓は小坂字北窪にある	人-16
人 48	菅野喜三郎	小坂	小坂	明治	1873～1958。政治家。小坂村会議員、村助役などを経て伊達郡会議員、県会議員を務めた。地元の養蚕業振興に尽力した。	人-17
人 49	佐藤善右衛門	小坂	小坂	明治	大地主として発展し、金融業にも進出している	人-75
人 50	一点廻奴土也	大木戸	大木戸	江戸	大木戸の俳諧歌人	人-6
人 51	松寿館宮住	大木戸	大木戸	江戸	大木戸の俳諧歌人	人-6
人 52	半沢平三郎	大木戸	大木戸	明治	大地主として明治以降発展し、ほかに例のない大桜湯園など大農園経営の傍ら資本家的な工業などの経営にも関わっていく	人-72~74
人 53	孫左衛門	大木戸	貝田	室町	貝田の地頭	人-8
人 54	福寿亭十数	大木戸	貝田	江戸	貝田の俳諧歌人	人-9
人 55	浅桑園	大木戸	貝田	江戸	貝田の俳諧歌人	人-9
人 56	景行	大木戸	貝田	江戸	貝田の俳諧歌人	人-9
人 57	西大窪某	大木戸	高城	室町	西大窪の地頭	人-10
人 58	国分太郎左衛門	西大枝	西大枝	室町	西大枝の地頭、金谷館	人-1
人 59	伊藤大蔵丞景政	西大枝	西大枝	室町	西大枝の地頭、伊達氏財用方奉行	人-1
人 60	西大枝氏	西大枝	西大枝	中世	地頭	人-3
人 61	大窪氏	西大枝	西大枝	中世	地頭	人-4
人 62	玉手忠左衛門	西大枝	西大枝	江戸	天保8(1837)年生まれ、村長を務める、明治35(1902)年没、65歳	人-5
人 63	玉手紀伯長	西大枝	西大枝	明治	地租改正時の測量者 各村で算用に明るいものを選んだ	人-2
人 64	北畠正教	森江野	塚野目	室町	南北朝期に塚野目城の城主として北朝と戦ったと伝わる伝説上の人物	人-57

整理 番号	名称	所在地		時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字			
人 65	徳江五郎兵衛	森江野	徳江	室町	徳江の地頭	人-58
人 66	平内二郎	森江野	徳江	室町	徳江の地頭	人-58
人 67	徳江三郎蔵人頼景	森江野	徳江	室町	徳江の地頭	人-58
人 68	南廻家文探	森江野	徳江	江戸	徳江の俳諧歌人	人-59
人 69	南藤堂武俊	森江野	徳江	江戸	徳江の俳諧歌人	人-59
人 70	佐野藤右衛門	森江野	徳江	室町	佐野の地頭	人-60
人 71	富塚宗綱	森江野	森山	室町	森山の地頭、富塚氏は伊達氏とともに伊達郡に入部した譜代の家臣で、重臣（宿老）家であった、天文の乱（1542～1548）に父仲綱が植宗方に付き戦死したため没落したが、宗綱の代にて再び宿老となる	人-61
人 72	萱場左馬之助	森江野	森山	室町	中目の地頭	人-62
人 73	安積金七郎		舞田	室町	舞田の地頭	人-64
人 74	歌丸帯刀		舞田	室町	舞田の地頭	人-64
人 75	中村徳水		半田	江戸	嘉永元（1848）年、早田伝之助宅で講義をした、出張講義なども行い、初入者1,195人、66か村からやってきた	人-63
人 76	大野東人			奈良	天平の頃、陸奥の国の蝦夷征伐の東征を行い、常陸鹿島神社を勧進して藤田宿に來た、阿津賀志山周辺の蝦夷に対して源宗山に館や策を築いて蝦夷征伐の本拠とした	人-67
人 77	藤原泰衡			平安末期	武將、藤原3代の秀衡の子、文治5（1189）年の奥州合戦で頼朝に滅ぼされる、この時、阿津賀志山防壁を築く	人-68
人 78	伊達朝宗			平安末期	文治5（1189）年の奥州合戦で武功を立てて、頼朝から伊達郡を賜り、これまでの姓を改めて伊達を名乗る、伊達氏初代当主	人-69
人 79	国分氏			室町・戦国	国分氏は信州の出、北条氏に従って戦いに敗れ奥州に下り伊達に仕えた、その後金谷館を居城としたが天文の乱で失脚し、西大枝源蔵に下賜された	人-71
人 80	国領半兵衛			江戸初期	伊奈氏の次に寛文10（1670）年に代わって伊達信夫両郡を支配した、寛文11（1671）年～延宝2（1674）年にかけて総検地を実施した	人-66
人 81	松尾芭蕉			江戸	元禄2（1689）年に弟子の曾良を伴い「おくのほそ道」の旅に出る、同年6月17日から19日にかけて国見に來ており、「氣力いささか取り直し、路縦横に踏んで伊達の大木戸を越す」と奥の細道に記す	人-70
人 82	厚樫山人			明治～昭和	本名：松浦市三郎、1894-1968、農業、農協組合長、理事	人-76
人 83	竹葉山人			明治～昭和	本名：高橋市郎、1894-1972、警察官、大木戸公民館長	人-77
人 84	緑海			明治～昭和	本名：大勝信、明治27（1912）年、森江野村生まれ、昭和49（1974）年没、中央で活躍した書道家、戦後日本書道院を創設した	人-78

【その他／出来事】

※国見町で起きた、歴史・文化・災害等に関する主要な出来事を対象として掲載。

整理 番号	名称	所在地		時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字			
出 1	石母田城の攻防	藤田	石母田	室町	天文13（1545）年、伊達植宗と時宗による天文の乱（天文11（1543）年～天文17（1548）年）における戦闘の一つ、植宗方の拠点となり落城	出-15
出 2	人力車の導入	藤田	貝田	明治	明治13（1880）年に貝田村佐藤半次郎によって人力車の営業が開始	出-16
出 3	真誠講加盟「佐竹や仙助」「樋口や宇造」	藤田	藤田	明治	陸運元会社、内国通運会社が結成したものの福島県は明治8（1877）年、福島町鈴木幸四郎が内国通運会社福島分社を設立した	出-17
出 4	電話の開通	藤田	藤田	大正	大正元（1912）年郵便局に電話が開通一般に開通するのは大正4（1915）年で、1番は奥山家であった	出-18
出 5	藤田信用組合	藤田	藤田	大正	一般庶民より中以上の農工商層が利用した	出-19
出 6	句社藤垣吟社	藤田	藤田	明治	岡部松雨、伊里、里竹の親子3代の流れをくむ藤田の俳諧明治に至って吟社の結成が見られる	出-20
出 7	藤田村	藤田	藤田	明治	明治22（1889）年、町村制実施で、藤田、石母田、山崎が合併	出-21
出 8	藤田町の誕生	藤田	藤田	大正	大正4（1915）年、町制施行により藤田村が藤田町となる、駅の設置以降交通の便を得て、銀行が支店を出すなど商業地として発達した	出-22
出 9	郵便制度	藤田	藤田	明治	福島県における郵便の開始（明治5（1872）年）に先立ち、藤田の秦林次郎が「郵便御用取扱」を命ぜられ、その後国見唯一の郵便局として充実していく藤田の郵便制度は明治6（1873）年開始	出-23
出 10	飛行機の下賜	藤田	藤田	昭和	昭和2（1927）年1月、大野氏に山階宮武彦王殿下より、アプロ式180馬力飛行機を下賜された、大野氏はこれを郷土の小学校に寄贈	出-24
出 11	飛行機格納庫	藤田	藤田	昭和	町では2月講堂兼体操場たるべき格納庫を建設し5月に竣工	出-25
出 12	大野資氏郷土訪問飛行	藤田	藤田	昭和	昭和3（1928）年6月9日に立川を飛び立ち、原ノ町の飛行場経由で、藤田町裏の鶉長の田んぼを整理して作られた仮飛行場に着陸したその後の離陸の後、エンジン不調で墜落してしまい機体は大破、幸い搭乗の二人は軽傷で済んだ	出-26
出 13	第2回目の郷土訪問飛行	藤田	藤田	昭和	昭和3（1928）年7月末、第2回目の訪問飛行が行われ、阿武隈川の河原に仮飛行場を設け大野氏が再び飛来し、成功に終わった	出-27
出 14	天保13（1842）年藤田村火事	藤田	藤田	江戸	藤田宿、藤田區文書に記述	出-28

整理番号	名称	所在地		時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字			
出 15	信達地方の百姓一揆	藤田	藤田	江戸	慶応2(1866)年の世直し一揆 幕藩体制に対して世直しを意図した激烈な農民の戦い、主因は蚕種の本場である当地方の養蚕業に対する幕府の介入統制、伊達郡岡、長倉村から始まり、藤田村、西大久保村(高城)にも及んでいる	出-29
出 16	藤田の国学・歌道	藤田	藤田	江戸	平田篤胤が小坂峠を越えて秋田と江戸を往還した際、神主たちに神道を説き、宿場の主たちに和歌の道を指導したことに始まる	出-30
出 17	藤田連と五十沢連	藤田	藤田	江戸	江戸後期から地方の文芸界は芸道に倣って連・連中という結社を作っていた、藤田連と五十沢連は俳諧の連 五十沢連：愚耕園一茂、海金光有増、山館徳往、波枝廻繁女、風月亭清村、新籍亭真富、森眺亭萬陰、愚劣堂一正等	人-44,45
出 18	藤田演劇協会	藤田	藤田	昭和	昭和10(1935)年頃発足 昭和11(1936)年に「嫩芽(わかめ)」と改称	出-41
出 19	藤田城の攻防	藤田	山崎	南北朝	貞和3(1347)年、南朝方の拠点であった藤田城にて、北朝方の吉良貞家の軍勢が取り囲み合戦の後、7月22日落城。北朝方であった伊達氏が籠城したと推測できる	
出 20	北山組合の設立	小坂	小坂	大正	大正6(1917)年、小坂村ほか4か町村有北山組合規約を制定し、入山組合を設立した(小坂村、半田村、藤田町、森江野村、伊達崎村)	出-13
出 21	小坂村	小坂	小坂	明治	明治22(1889)年、町村制実施で、小坂、泉田、鳥取、内谷の4村が合併	出-14
出 22	阿津賀志山防壁二重堀の標木	大木戸	大木戸	昭和	昭和8(1933)年、関係町村長及び学校長等の協議で堀跡の十数か所に標木を建てることを決議し、翌年整備した(20cm角、高さ約2m) 大木戸村では二重堀の起点に1本、鉄道を挟んで2本、鉄道から国道までの間に2本、国道を挟んで2本の計7本が建てられた	出-2
出 23	大木戸村	大木戸	大木戸	明治	明治22(1889)年、町村制実施で、高城、貝田、大木戸、光明寺の4村が合併	出-3
出 24	大木戸村の移民	大木戸	大木戸	明治~大正	明治から大正にかけて大木戸村から海外への移民があった、ハワイ、ペルー、アメリカ、フランス領(地名不明)、南米(国不明)、ニューカレドニア、など	出-5
出 25	鉄道開通	大木戸	貝田	明治	明治20(1887)年、宿場の家々に隣接して東北線が開通し、伝馬助郷などの宿場の制度も廃止されて宿場の役割は終わった	出-7
出 26	度重なる火災による宿場の変化	大木戸	貝田	明治	蒸気機関車の火による火災が度重なった結果、宿場は町並みの様相を変えて養蚕農家が立ち並ぶようになった 主屋は瓦屋根の総二階で防火のため軒裏まで壁が塗りこめられ、石蔵や土蔵が付属した	出-8
出 27	鉄道の移設	大木戸	貝田	大正	大正9(1920)年に鉄道が移設し火災のリスクは軽減された	出-9
出 28	大枝村	西大枝		明治	明治22(1889)年の町村合併で、西大枝、東大枝、川内の3村が合併	出-1
出 29	森江野村	森江野		明治	明治22(1889)年の町村制実施で、森山村、徳江村、塚野目村の3つが合併、村名一文字を取って森江野と称した	出-31
出 30	児童保護会	藤田 大木戸 西大枝		明治	大枝、藤田、大木戸に設置(明治30年代後半)	出-34
出 31	映画「石田巡査殺害事件」			大正	実際の事件を題材とした映画のロケが国見町で行われた	出-32
出 32	国見町の誕生			昭和	昭和29(1954)年、藤田町、小坂村、森江野村、大木戸村、大枝村の1町4村が合併、福島県の町村合併のモデル地区として扱われた	出-33
出 33	伊達氏、地頭職			鎌倉	阿津賀志山合戦に功のあった中村念西一族は伊達郡を与えられ、常陸国から移住し、伊達氏と称した、以後鎌倉時代を通じて国見は伊達領を構成した	出-35
出 34	伝馬、宿駅整備			江戸	奥州街道及び羽州街道では、上杉氏による伝馬宿駅の整備が行われ、その後江戸幕府により街道整備が行われていく	出-36
出 35	幕領への編入			江戸初期	寛文4(1664)年、上杉氏の削封に伴い(国見含む)伊達・信夫両郡は幕領となる	出-37
出 36	幻燈会			明治	「通俗教育」国民教化の手段として、明治22(1889)年頃から10年間が最も流行した	出-38
出 37	夜学会			明治	国民の教育レベルの向上のために行われた、軍事的要請もあった 国見での実施は明確ではない	出-39
出 38	特約養蚕組合方式			大正	良質な繭を確保するために長岡製糸会社が行った方式	出-40
出 39	伊達西部地区ほ場整備事業			昭和	昭和50(1975)~55(1980)年までの計画概要	出-42
出 40	小原山の入山				国見の各村は、小原山の入山(白石市)の契約をしていた、山はほかに石母田村山一か所、小坂村木落山一か所があった記録が残されている	出-43
出 41	中村(伊達)朝宗の地頭と支配			中世	文治5(1189)年、阿津賀志山の戦いで平泉方の武将佐藤庄司基浩を討った功により伊達郡の地頭職に就く、その後姓を中村から伊達に改めた、伊達氏は天正18(1590)年、秀吉による奥州仕置で仙台に移るまでの約400年間この地を支配した	出-44
出 42	阿津賀志山の合戦			平安末期	文治5(1189)年、源頼朝率いる鎌倉方の軍勢と奥州藤原氏の軍勢が、阿津賀志山防壁や大木戸・源宋山・鳥取越など町内で広く合戦を繰り広げ、藤原方が敗北	
出 43	奥州仕置			安土桃山	天正18(1590)年 豊臣秀吉による信夫・伊達地域は、伊達政宗の支配から蒲生氏郷へ領主が変わり、約400年間の伊達氏支配が終焉	

【その他】

※宿場の情報や概念的な地形、気候など、上記に分類できない資料を掲載。

整理番号	名称	所在地		時代	備考	調査台帳番号
		地区	大字			
他 1	藤田の旅館の種類	藤田	藤田	明治~昭和	人を泊める「宿屋」、旅人を泊める「はたごや」、商人を泊める「商人宿」、薪代だけで泊める「木賃宿」などがあり、そのほかに神楽屋、毒消売り、ごぜの坊などが毎年来て泊る「素人宿」もあった	他-7
他 2	藤田の宿屋	藤田	藤田	明治~昭和	大和屋、大野屋、中村屋、柳屋、東屋、野村屋、穴戸屋、中油屋、油屋、鹿島屋、常葉屋、穀屋、金沢屋、後藤屋、樋口屋、高橋屋、佐竹屋など	他-8

整理 番号	名称	所在地		時代	備考	調査台帳 番号
		地区	大字			
他 3	女郎屋	藤田	藤田	明治～昭和	藤田の女郎屋は大正になっても三軒あった	他 -9
他 4	藤田の店・屋号	藤田	藤田	明治～昭和	鍵屋（お菓子屋）、佃屋（酒屋）、奥山忠左衛門（穀屋）	他 -10
他 5	藤田の産物師	藤田	藤田	明治	農家から蕨を買い上げる業者、7～8軒あったという	他 -13
他 6	藤田の料理屋（明治）	藤田	藤田	明治～昭和	「すずきや」「こやまや」	他 -20
他 7	御役植物（桑、楮、柿、漆、紅花）			江戸初期	江戸初期の「邑鑑」に見る御役植物 「邑鑑」は上杉時代の慶長 10（1605）年代の作とされる 藤田（石母田、藤田、山崎）、小坂（内谷）、大木戸（大久保、光明寺）、大枝（西大枝）、森江野（塚野目、徳江、森山）	他 -1~6, 14~19
他 8	盆地地形				国見町は奥羽山脈と阿武隈山地に挟まれ、阿武隈川水系により形成された盆地の北縁部に位置する	他 -21
他 9	平野部				山麓斜面を含めた平地及び傾斜部が町面積のおよそ半分を占めその大半は標高 60～70m の台地状の平坦面である	他 -22
他 10	谷地形				阿武隈川に向かって小河川が山間から流れ小さな谷を刻んでいる	他 -23
他 11	気候				夏熱く冬寒い内陸性で降雪もやや多い しかし、年間降雨量は 900～1000mm で少ない	他 -24
他 12	町村変遷略年表				4 世紀から昭和 29（1954）年までの年表と各時代の略図（菊池利雄氏作成）	他 -25
他 13	考古展関係略年表			旧石器～平安	国見町史	他 -26
他 14	塚野目古墳群分布図				古墳時代、塚野目古墳群の分布図（菊池利雄氏作成）	他 -28
他 15	埋蔵文化財一覧表				全 118 遺跡	他 -29
他 16	石母田城跡関係図				石母田城跡に関わる研究成果（菊池利雄氏作成）	
他 17	菊池利雄氏研究資料				長年、国見町及び周辺市町史の郷土史に携わってきた菊池利雄氏の研究資料	



Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

平成 31 年度文化庁文化芸術振興費補助金
(地域文化財総合活用推進事業)

国見町歴史文化基本構想

令和 2 (2020) 年 3 月 31 日

編集・発行

福島県国見町

〒 969-1792 福島県伊達郡国見町大字藤田字一丁目二 1 番 7

TEL 024-585-2111 FAX 024-585-2181

